

(仮称) 太鼓山ウインドファーム
環境影響評価方法書

平成30年12月

株式会社市民風力発電

はじめに

本図書は、「京都府環境影響評価条例」（平成10年条例第17号）（以下「条例」という。）第9条の規定に基づき作成した「（仮称）太鼓山ウインドファーム 環境影響評価方法書」（以下「方法書」という。）である。

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（地名・公共施設）及び基盤地図情報及び電子地形図(タイル)を使用した。（承認番号 平30情使、第994号）

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。
（承認番号 平30情複、第977号）
なお、本書に掲載した複製品を第三者がさらに複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。

目 次

| | |
|--|-----|
| 第 1 章 事業計画の概要 | 1 |
| 1.1. 事業者の氏名及び住所 | 1 |
| 1.2. 対象事業の名称 | 1 |
| 1.3. 対象事業の目的及び内容 | 2 |
| 1.3.1 対象事業の目的 | 2 |
| 1.3.2 対象事業の内容 | 3 |
| 第 2 章 環境影響評価を実施しようとする地域及びその地域の概況 | 20 |
| 2.1 環境影響評価を実施しようとする地域 | 20 |
| 2.2 自然的状況 | 26 |
| 2.2.1 気象、大気質、騒音、振動その他の大気に係る環境の状況 | 26 |
| 2.2.2 水象、水質、水底の底質その他の水に係る環境の状況 | 35 |
| 2.2.3 土壌及び地盤の状況 | 44 |
| 2.2.4 地形及び地質の状況 | 46 |
| 2.2.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況 | 54 |
| 2.2.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況 | 119 |
| 2.3 社会的・文化的状況 | 130 |
| 2.3.1 人口及び産業の状況 | 130 |
| 2.3.2 行政区画の状況 | 132 |
| 2.3.3 土地利用の状況 | 134 |
| 2.3.4 河川、湖沼及び海域の利用並びに地下水の利用の状況 | 136 |
| 2.3.5 交通の状況 | 140 |
| 2.3.6 学校、病院その他の環境の保全についての配慮が特に必要な施設 の配置の状況及び住宅の配置の概況 | 142 |
| 2.3.7 下水道の整備の状況 | 148 |
| 2.3.8 都市計画法に基づく地域地区等の決定状況及びその他の 土地利用計画 | 148 |
| 2.3.9 環境の保全を目的とする法令、条例又は行政手続法第 36 条に規定 する行政指導その他の措置により指定された地域その他の対象及び 当該対象に係る規制の内容その他の状況 | 149 |
| 2.3.10 文化財及び埋蔵文化財包蔵地の状況 | 171 |
| 2.3.11 その他の事項 | 173 |

| | |
|---|-----|
| 第3章 計画段階環境配慮書の概要 | 179 |
| 3.1 計画段階環境配慮書における検討 | 179 |
| 3.2 調査、予測及び評価の結果 | 180 |
| 3.2.1 騒音及び超低周波音 | 180 |
| 3.2.2 動物 | 181 |
| 3.2.3 植物 | 182 |
| 3.2.4 景観 | 183 |
| 3.3 総合評価 | 184 |
| 第4章 計画段階環境配慮書についての意見及び事業者の見解 | 185 |
| 4.1 配慮書についての意見及び事業者の見解 | 185 |
| 4.1.1 公告 | 185 |
| 4.1.2 縦覧 | 185 |
| 4.1.3 意見書 | 186 |
| 4.2 配慮書についての知事の意見及び事業者の見解 | 187 |
| 第5章 環境影響評価項目の選定 | 190 |
| 5.1 環境影響要因の抽出 | 190 |
| 5.2 環境影響評価項目の選定 | 191 |
| 5.3 専門家等へのヒアリング | 199 |
| 5.3.1 既設風力発電所におけるバードストライクの発生状況について | 199 |
| 5.3.2 環境影響評価項目の選定方針について | 200 |
| 5.3.3 スイス村の利用状況等について | 205 |
| 第6章 環境影響評価の調査、予測及び評価の手法 | 207 |
| 6.1 騒音及び超低周波音 | 207 |
| 6.2 水の濁り | 213 |
| 6.3 風車の影 | 216 |
| 6.4 動物 | 218 |
| 6.5 植物 | 248 |
| 6.6 景観 | 256 |
| 6.7 人と自然との触れ合いの活動の場 | 259 |
| 6.8 廃棄物等 | 265 |
| 第7章 その他規則で定める事項 | 266 |
| 7.1 対象事業を実施するために必要な許認可等 | 266 |
| 7.2 方法書に関する業務の委託先の名称、代表者の氏名及び主たる事業所の所在地 | 266 |

第1章 事業計画の概要

1.1 事業者の氏名及び住所

| | |
|------------|---|
| 事業者の名称 | 株式会社市民風力発電 |
| 代表者の氏名 | 代表取締役 鈴木 亨 |
| 主たる事務所の所在地 | 札幌市中央区北5条西2丁目5番地 JRタワーオフィスプラザさっぽろ20階 |

1.2 対象事業の名称

(仮称) 太鼓山ウインドファーム

1.3 対象事業の目的及び内容

1.3.1 対象事業の目的

太鼓山風力発電所（与謝郡伊根町）は、「地球温暖化防止京都会議（COP3）」開催と「京都議定書」採択の地として京都府が全国に先駆けて設置した風力発電施設であり、再生可能エネルギーの活用と環境啓発の2つの側面から「環境先進地・京都」のシンボルとして機能してきた。

当該発電所は、山岳地の厳しい風の乱れや日本海特有の冬季雷などのトラブルに見舞われながらも、専門家会議による事故原因の究明や再発防止策の実施により、安全かつ安定的に運転を継続してきた。京都府が実施してきた落雷対策等の先導的な取組は、国のガイドラインに反映されているなど、我が国の風力発電技術の向上に大きく寄与している。さらに、当該発電所が位置する太鼓山地内は、環境省による「風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業」（以下「情報整備モデル事業」という。）における情報整備モデル地区として調査が実施されており、国内における風力発電等の早期導入にも大きく貢献している。

太鼓山での風力発電は、府内における多種多様な再生可能エネルギー電源の導入促進や丹後地域の活性化に繋げていく上で1つの大きな資源であるが、当該発電所は2021年に設計耐用年限を迎えるため、産学公協働により、今後の新たな展開について検討が行われてきた。

そのような中、地元自治体から風力発電の継続に対する要望がなされたこともあり、京都府の風力発電事業としては終了し、新たに風力発電を手がけられる民間事業者を誘致することとなり、弊社が事業実施予定者となった。誘致に係る企画提案条件としては、「風力発電施設の計画出力は、総出力6,000kW以上10,000kW未満」、「風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）報告書」を活用した環境保全計画とすること等が求められている。

弊社は北海道東北地方を中心に、全国18か所の風力発電所の事業開発、運転管理を行っており、風力発電事業に関する幅広い知見を蓄積してきた。これまで京都府が取り組んできた本事業の精神を引き継ぎながら、弊社が培ってきた知見を活かし事業推進に取り組む所存である。

1.3.2 対象事業の内容

(1) 対象事業の種類

風力発電所の設置の工事業

(2) 対象事業の規模

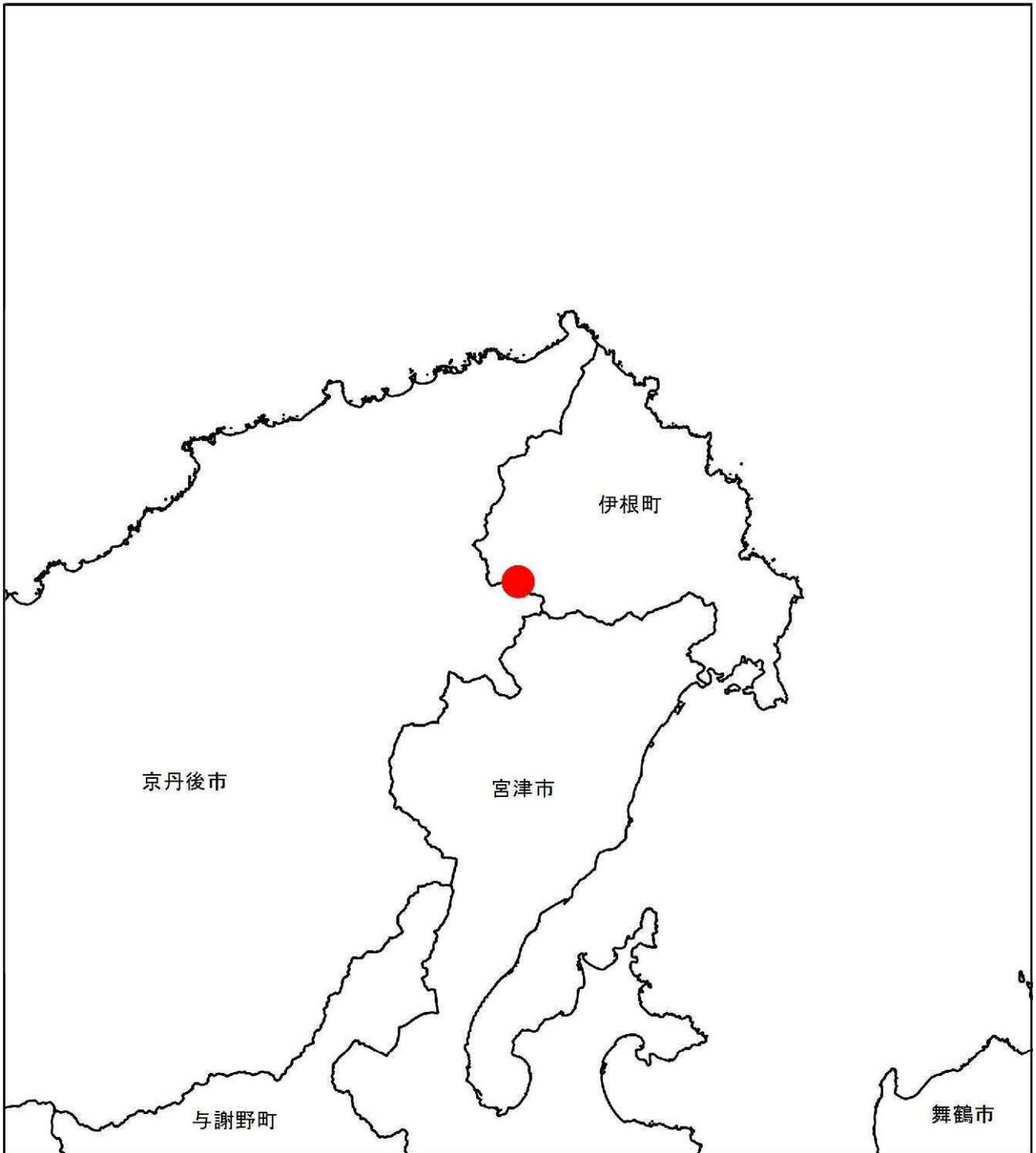
最大出力7,490kW（2,000kW～3,200kW風車を3～4基設置）

※ただし、各風車の合計出力が7,490kWを超える場合は、連系点で7,490kWを超えないよう出力制御を行う。

(3) 対象事業実施区域の位置

与謝郡伊根町字野村地内及び京丹後市弥栄町野中地内他とする。

対象事業実施区域の位置を図1.3.2-1から図1.3.2-5に示す。



凡例

市町村界

対象事業実施区域の位置

2.5 0 2.5 5 7.5 10 km

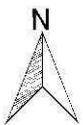
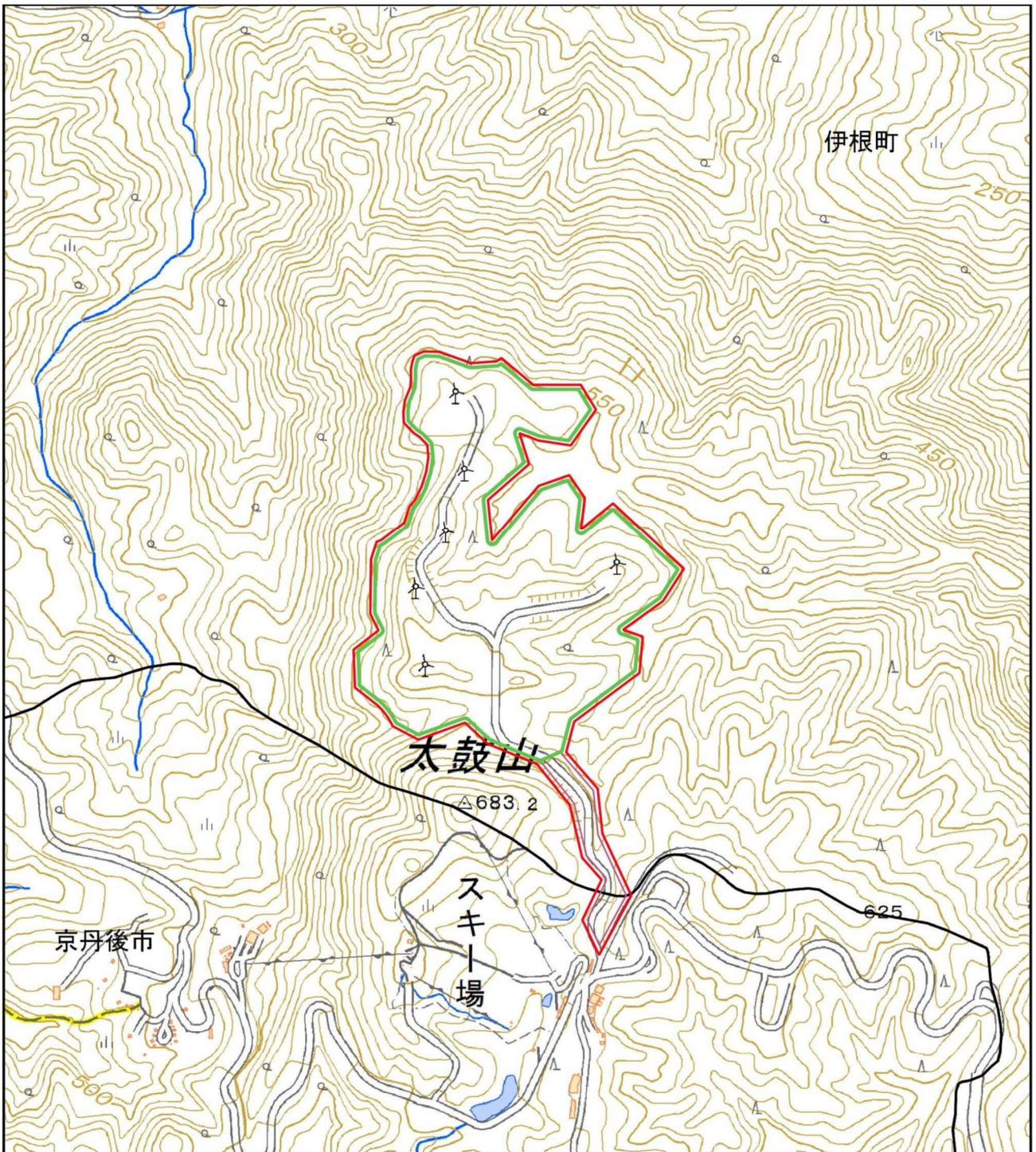


図 1.3.2-1 対象事業実施区域（広域図）



凡例

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 市町村界

100 0 100 200 300 400 500 m

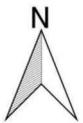
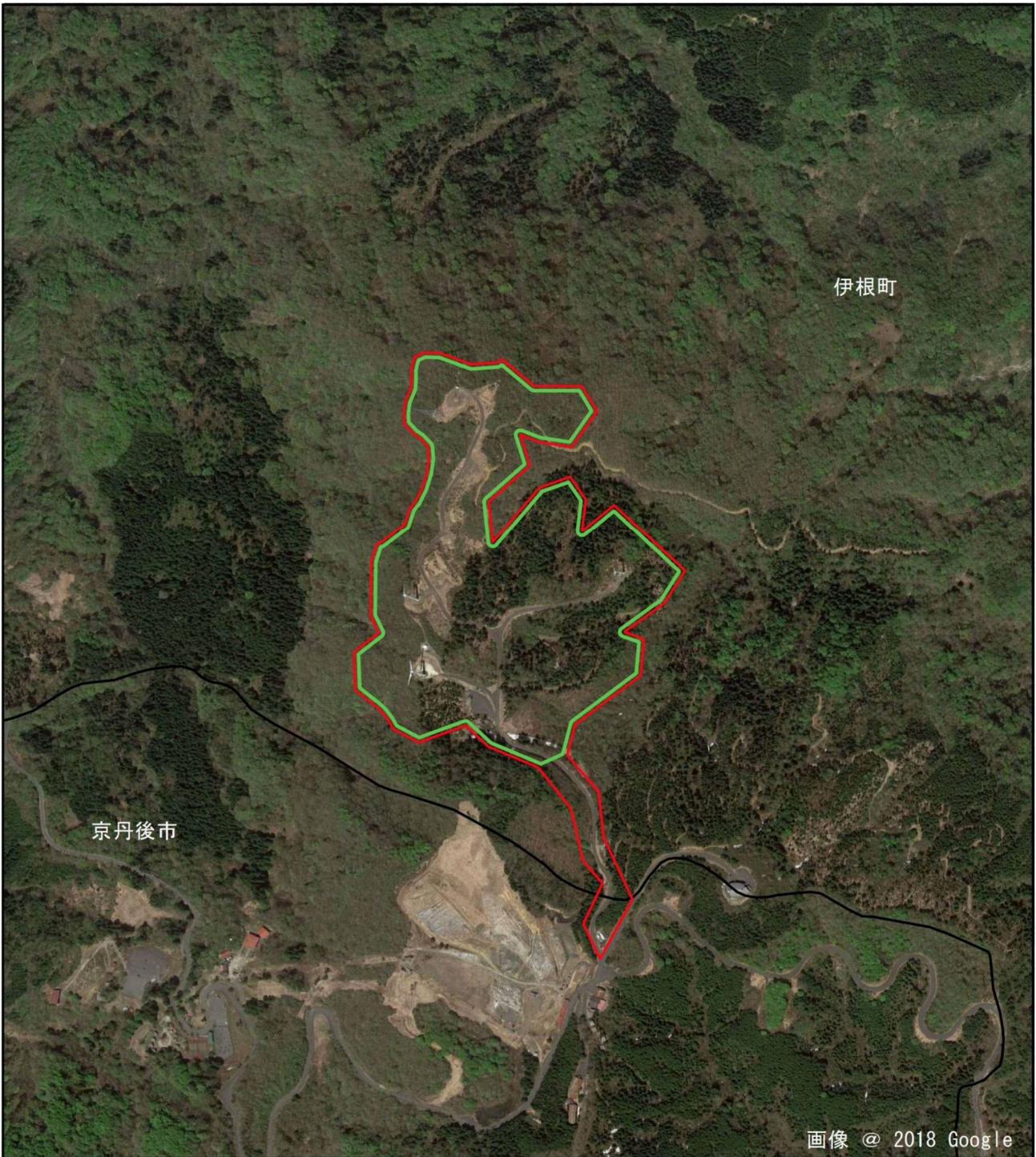


図 1.3.2-2 対象事業実施区域



凡例

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 市町村界

100 0 100 200 300 400 500 m

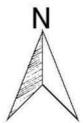
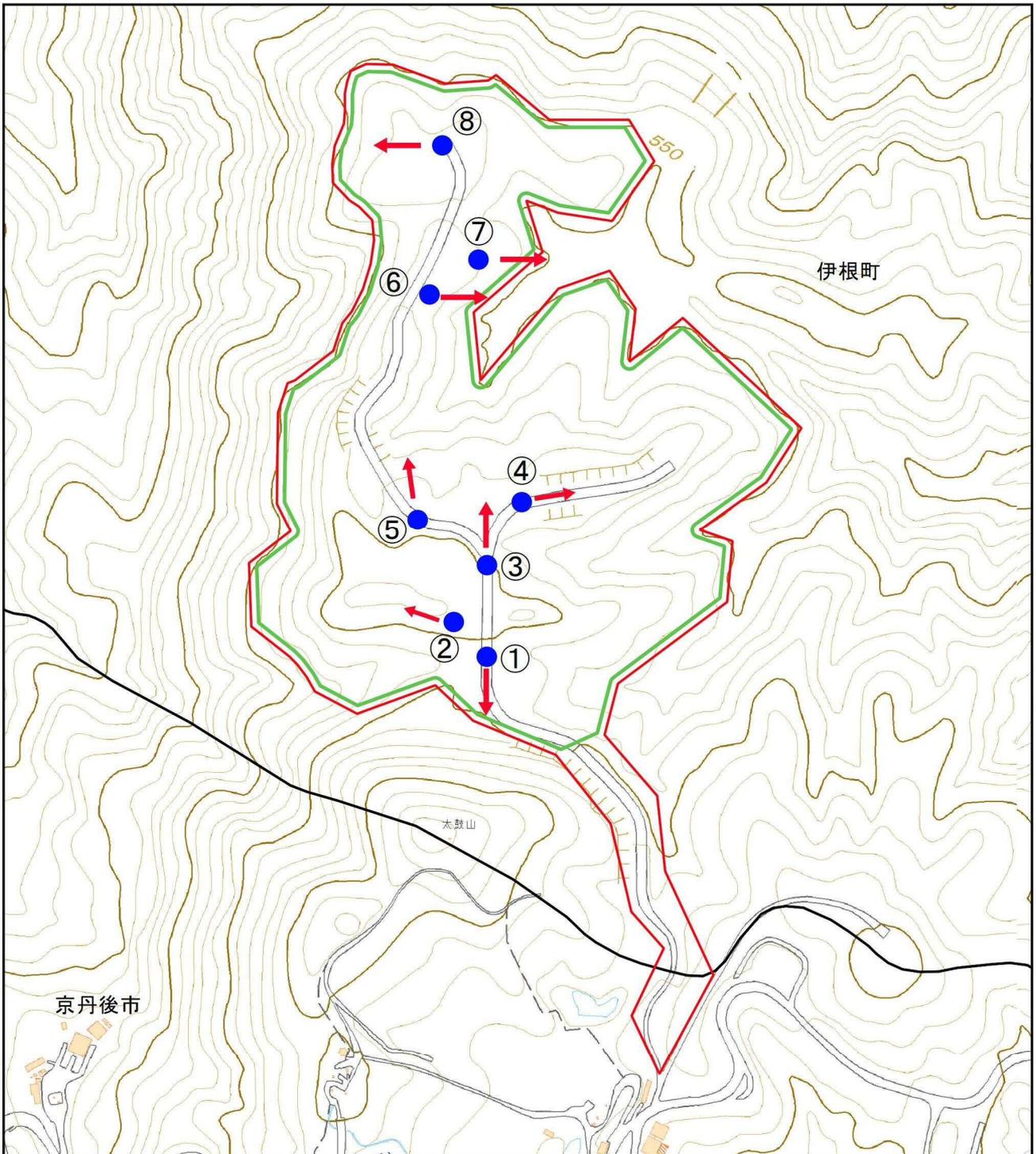


図 1.3.2-3 対象事業実施区域（航空写真）



凡例

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 市町村界
- 現地写真撮影地点
- ➔ 撮影方向

100 0 100 200 300 m

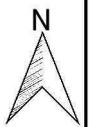


図 1.3.2-4 対象事業実施区域
(現地状況写真撮影箇所)



図 1.3.2-5 対象事業実施区域の状況

(4) 対象事業実施区域の位置等に係る単一案の策定に至った検討の状況

京都府は、「丹後地域（太鼓山周辺）における新たな風力発電事業の実現に向けた企画提案募集要領」（以下「募集要領」という。）にて、太鼓山風力発電所が設置されている事業用地及びその周辺（いずれも与謝郡伊根町の筒川財産区の所有地又は京丹後市の所有地）において新たに風力発電施設を設置し、再生可能エネルギーの固定価格買取制度により売電等を行う事業について、企画提案を募集した。

募集要領では、企画提案する事業計画の諸条件が定められていることから、本事業では、募集要領に定められた対象区域（以下「対象区域」という。）を参考に対象事業の位置を決定した。対象区域内は、既設の太鼓山風力発電所が長年稼働しており、年間を通じて安定的な好風況が得られることが分かっている。また、本事業では、対象区域内で事業を計画することが募集要領の条件となっており、対象事業が実施されるべき区域の位置を複数案設定できないことから、単一案のみの設定とした。

なお、事業の規模（発電所の出力）、工作物の構造（風力発電機の外形、構造）については現在検討中であることから、可能性のある範囲内で幅を持たせた仕様を設定している（詳細は「(6) 対象事業に係る主要な工作物の構造及び配置」に記載のとおりである。）。また、工作物の配置についても現在検討中であり、対象事業実施区域内で今後具体的な配置を決定する。

計画段階環境配慮書（以下「配慮書」という。）では、事業特性及び地域特性を踏まえ、重大な影響が及ぶおそれがある環境要素について、最も環境影響が大きくなる風力発電機の構造、基数及び配置条件下での予測、評価を実施した。

(5) 対象事業実施区域の位置等の決定に係る検討結果

本事業においては、条例に基づき平成30年8月1日に配慮書を提出し、同年11月8日に知事意見が送付された。知事意見及びそれに対する事業者の見解については「第4章 計画段階環境配慮書についての意見及び事業者の見解」に示すとおりである。

知事意見の全般的事項として、「本事業に係る環境影響評価を適切に実施できるよう、可能な限り方法書手続までに事業全体の規模に加えて、風力発電施設の配置等を決定する」こと、「方法書手続までに配置等が決定しない場合は、当該手続時点において検討されている中で最も環境影響が大きくなると想定される配置等を設定する等、適切に環境影響評価を行う」ことが求められている。

本項では、前述の知事意見を踏まえ、「第3章 計画段階環境配慮書の概要」における配慮書段階における予測及び評価の結果、「第2章 環境影響評価を実施しようとする地域及びその地域の概況 2.2.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況 (4) 情報整備モデル事業の調査結果」及び「第5章 環境影響評価項目の選定 5.3 専門家等へのヒアリング」に記載する専門家等へのヒアリング結果を勘案して、対象事業実施区域の位置等について以下のとおり検討を行った。

①騒音及び超低周波音

事業実施想定区域の周辺には社会福祉施設、医療施設及び教育施設等の環境保全対象施設は無い。また、安全側の基数及び配置条件で騒音の予測を行った結果、最寄りの住宅に及ぼす騒音及び超低周波音の影響はほとんど無いと評価している。

以上より、事業実施想定区域の位置等は、騒音及び超低周波音による重大な影響を回避、又は低減していると考えられる。

②動植物

主な生息環境及び生育環境が事業実施想定区域に存在する重要な動植物については、生息及び生育状況によっては、地形改変及び施設の存在、施設の稼働により影響を受ける可能性があるとして予測している。ただし、情報整備モデル事業における調査結果を踏まえた専門家等へのヒアリングにおいて、「既存の造成地を可能な限り有効利用する計画であることから、重要な動植物への影響は小さいと考えられる」との回答を得ている。

以上より、事業実施想定区域の位置は、動植物への重大な影響を回避、又は低減していると考えられる。

③景観（主要な眺望点及び主要な眺望景観）

調査地域における全ての主要な眺望点において、事業の実施による影響を受ける可能性があるが、眺望点は現在も既設太鼓山風力発電所が確認できる状況にあること、風力発電機が地域の見どころとして親しまれていることから、本事業が眺望景観に及ぼす負の影響は小さいと予測している。ただし、事業実施想定区域の南側の一部が自然公園に指定されていることから、優れた自然の風景地を改変しないため、当該区域への風力発電機の建設は行わない計画とする。また、本事業は伊根町景観条例に規定する届出対象の行為に該当することから、届出を行い、適正に事業を実施する。以上より、事業実施想定区域の位置等は、景観への重大な影響を回避、又は低減していると考えられる。

以上の検討を踏まえ、配慮書段階における事業実施想定区域は、重大な環境影響を回避、又は低減していると判断し、事業実施想定区域と同様の区域を対象事業実施区域とした。ただし、対象事業実施区域の南側の一部が自然公園に指定されていることから、当該区域への風力発電機の建設は行わないこととした。風力発電機の設置範囲は、図1.3.2-2の風力発電機設置範囲に示すとおりとした。また、事業計画の策定に当たっては、専門家等へのヒアリング結果を踏まえて、「(8) その他対象事業に関する事項 ②環境保全措置」に示す環境保全措置を実施する計画である。

方法書段階においては、具体的な工作物の配置及び構造等は決定していないが、環境影響評価準備書（以下「準備書」という。）段階では、事業の規模、工作物の構造及び配置等を可能な限り決定し、環境影響評価項目に係る予測及び評価を行う。ただし、準備書段階で事業計画が決定しない場合は、検討している中で最も環境影響が大きくなると想定される条件下での予測及び評価を行う。

(6) 対象事業に係る主要な工作物の構造及び配置

①風力発電機の構造の概要

設置する風力発電機の構造の概要（予定）を表1.3.2-1、図1.3.2-6に示す。

表 1.3.2-1 風力発電機の構造の概要（予定）

| 項目 | 仕様 | 備考 |
|--------|---------------|---|
| 型式 | 水平軸式プロペラ型 | |
| 発電機出力 | 2,000～3,200kW | 最大出力 7,490kW (2,000kW～3,200kW 風車を 3～4 基設置する。ただし、各風車の合計出力が 7,490kW を超える場合は、連系点で 7,490kW を超えないよう出力制御を行う。) |
| 基数 | 3 基～4 基 | |
| ブレード枚数 | 3 枚 | |
| ローター直径 | 80～103m | ブレードの回転直径 |
| ハブ高さ | 78～98.3m | ブレードの中心の高さ |
| 高さ | 118～149.8m | |

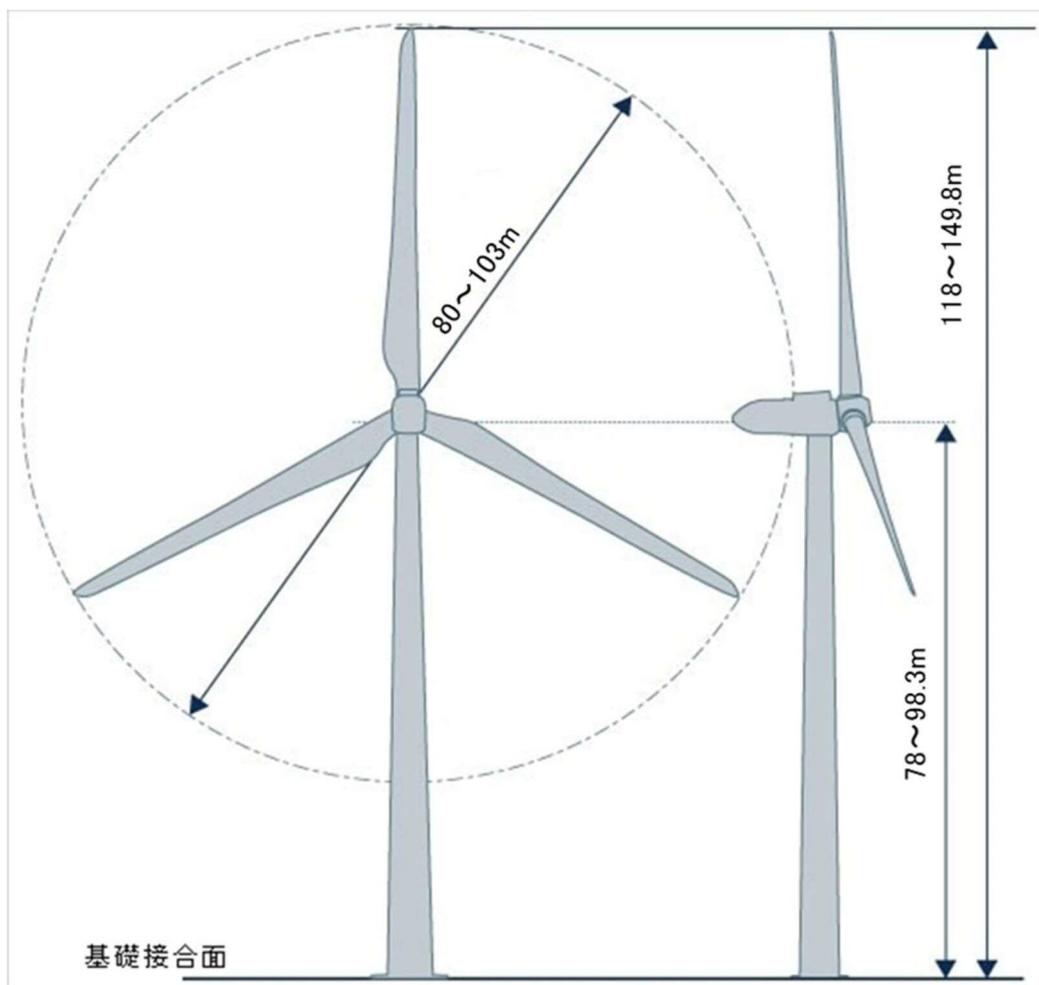


図 1.3.2-6 風力発電機概略図（予定）

②風力発電機の基礎の概要

風力発電機の基礎の概略図（予定）を図1.3.2-7に示す。

ただし、基礎形状については今後の設計により詳細を決定する。

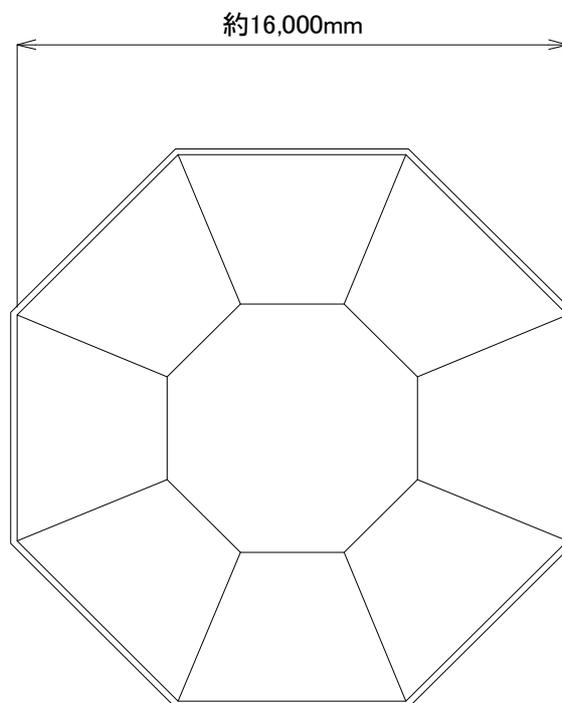


図 1.3.2-7 風力発電機基礎概略図（予定）

③対象事業により設置される主要な工作物の配置計画の概要

発電所の設備として、風力発電機、変電施設及び送電線を配置する予定である。風力発電機の配置については現在検討中であり、地形や地質、風況等を考慮して、適切な配置を決定する予定である。送電線の配置については、「(8) その他対象事業に関する事項 ①系統連系」に示すとおりである。また、変電施設については、既設太鼓山風力発電所の変電施設位置を想定している（図1.3.2-11参照）。

(7) 対象事業の工事計画の概要

①工事の概要

陸上の風力発電事業における主な工事内容を以下に示す。

- ・ 土木工事：造成、基礎工事
- ・ 電気工事：変電設備、送電線工事等、試験調整
- ・ 風力発電機建設：風力発電機輸送据付工事

②風力発電所の施工手順

風力発電所の施工手順を図 1.3.2-8 に示す。

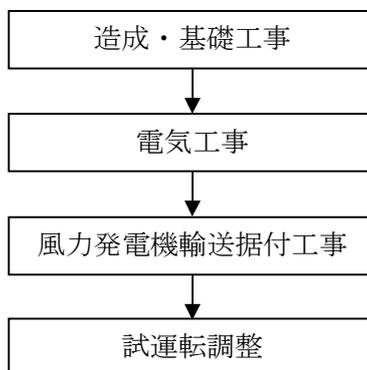


図 1.3.2-8 風力発電所の施工手順

③工事計画の概要

風力発電所建設に係る工程（案）を表 1.3.2-2 に示す。

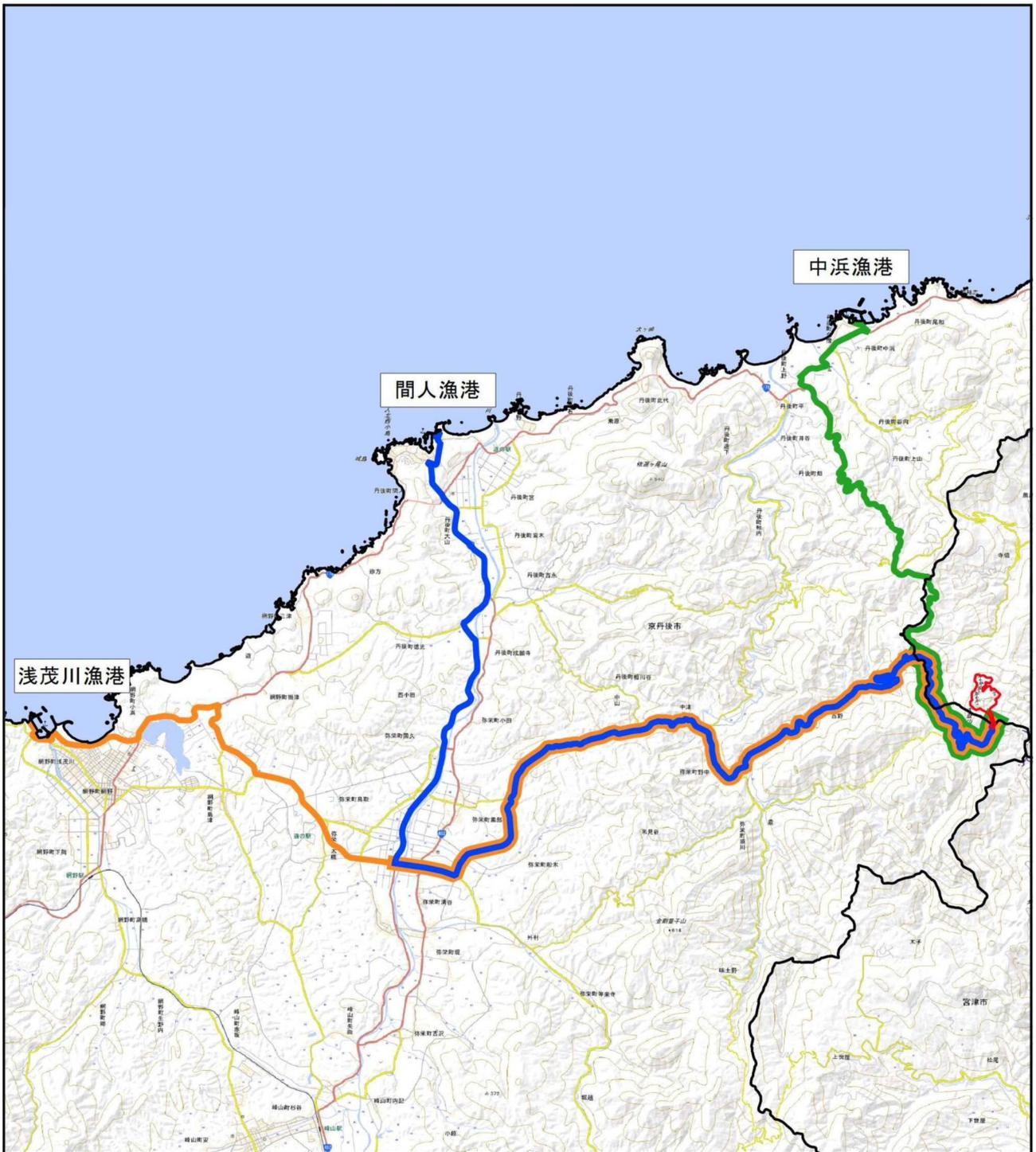
表 1.3.2-2 工事計画の概要

| 月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
|-------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|
| 造成・基礎工事 | | | | | | | | | | | | | | |
| 電気工事 | | | | | | | | | | | | | | |
| 風力発電機輸送据付工事 | | | | | | | | | | | | | | |
| 試運転調整 | | | | | | | | | | | | | | |

④主要な交通ルート

現在想定している風力発電機の輸送に係る主要な交通ルート案を図 1.3.2-9 に示す。風力発電機の輸送は風力発電機 1 基あたり 10 日程度で行われ、1 日当たり 1 台若しくは 2 台の特殊車両にて夜間に輸送を行う予定である。特殊車両の通行に当たっては道路管理者や警察から必要な許可を取得し、関係機関の指導に従い行う計画である。複数の主要な交通ルートについて現在検討中であり、今後の詳細な検討や調査結果により決定する。なお、風力発電機の輸送を行う際は、必要に応じて鉄板等の仮設養生等を実施する予定である。

また、現在想定しているミキサー車の交通ルートを図 1.3.2-10 に示す。ただし、ミキサー車については、コンクリートプラントが未定であることから、当該車両が集中し、確実に通行する区間のみを示している。工事期間中に関係車両の往来が最大となるのは、風力発電機の基礎工事におけるコンクリート打設時を想定している。風力発電機 1 基あたりのコンクリート打設は 1 日で行われ、150 台/日程度のミキサー車が往来する予定である。



凡例

主要な交通ルート

- 交通ルート案A
- 交通ルート案B
- 交通ルート案C

対象事業実施区域

市町村界

1 0 1 2 3 4 5 km

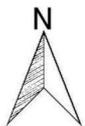
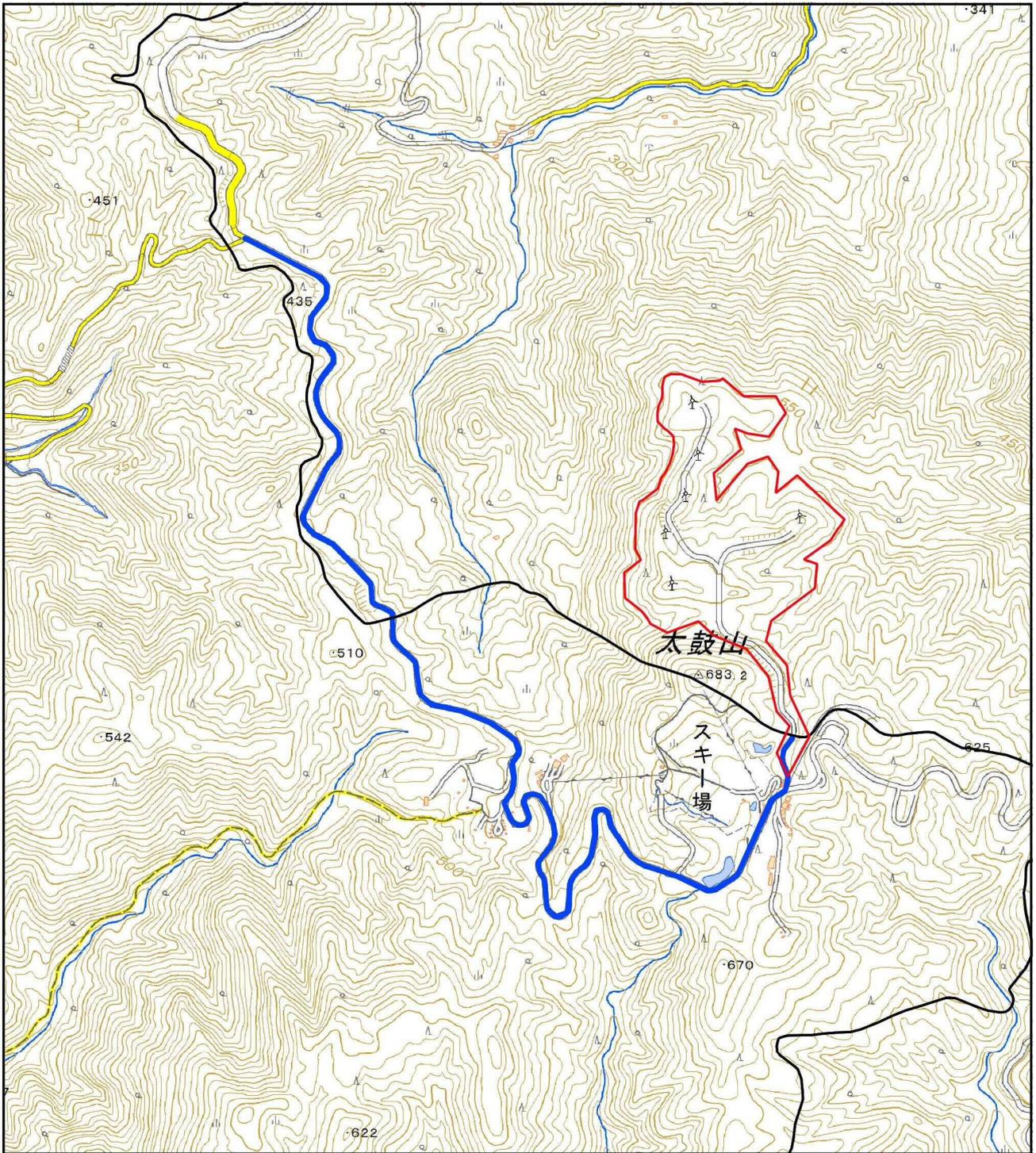
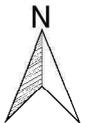


図 1.3.2-9 風力発電機の輸送に係る
主要な交通ルート



凡例
 — ミキサー車の交通ルート

対象事業実施区域
 市町村界



0 250 500 750 1000 m



図 1.3.2-10 ミキサー車の交通ルート

※当該車両が集中し、確実に通行する区間のみを示す。

(8) その他対象事業に関する事項

①系統連系

主に既設の管理用道路への地下埋設により、送電線を敷設する計画である。また、風力発電機内の変圧器、若しくは連系変電設備により 33kV に昇圧した上で関西電力株式会社の送電線に連系する計画である。

②環境保全措置

本事業においては、環境の保全の見地から、以下の環境保全措置を実施する。

ア. 生活環境

【工事中】

- ・本事業に当たっては、造成済みの土地を可能な限り有効利用し、新たな土地の改変は極力避ける計画とする。
- ・造成、基礎工事、風力発電機の据付に当たっては、可能な限り低騒音型、低振動型の建設機械を用いる計画とする。
- ・必要に応じて現場での散水や仮囲いを設置し、粉じんの飛散防止を図る。
- ・工事用車両の通行に当たっては、適正な走行速度の遵守、急発進及び急加速の禁止を徹底する。また、幅員が狭く、沿道に住居等が存在する地域については、関係自治体等と協議の上、必要に応じて、地域に対する事前周知、低速走行等を行う。

イ. 自然環境

【工事中】

- ・本事業に当たっては、造成済みの土地を可能な限り有効利用し、新たな土地の改変は極力避ける計画とする。ただし、必要最小限の改変を行う場合において、当該区域に生育する重要な植物の消失が避けられない場合は、専門家等の指導・助言及び必要な許認可を得て、類似環境への移植を検討する。
- ・工事に当たっては、必要に応じて土砂流出防止柵や仮設沈砂池等の土砂流出対策を適切に講じ、土砂や濁水の流出を最小限に抑える計画とする。
- ・盛土面及び改変部分については、種子吹付け等による緑化又は植栽を実施し、法面保護及び修景を図る。なお、植栽樹種や草本等は極力郷土種や現存植生に配慮して選定することとし、外来種による攪乱を極力防ぐものとする。
- ・上記の環境保全措置について、工事施工業者に周知徹底を行う。

【供用時】

- ・ 夜間照明（ライトアップ）は、特定の鳥類、昆虫類及びそれを餌とする鳥類等を誘引する原因となるため実施しないこととし、照明は航空障害灯等の必要最小限の設備とする。
- ・ 風力発電機については、伊根町景観計画（平成26年 伊根町）に基づき届出を行い、適正に事業を進める。また、同計画の景観形成基準に基づき、周辺の景観と調和が図られるような塗色等を検討する。

③対象事業実施区域における風力発電事業について

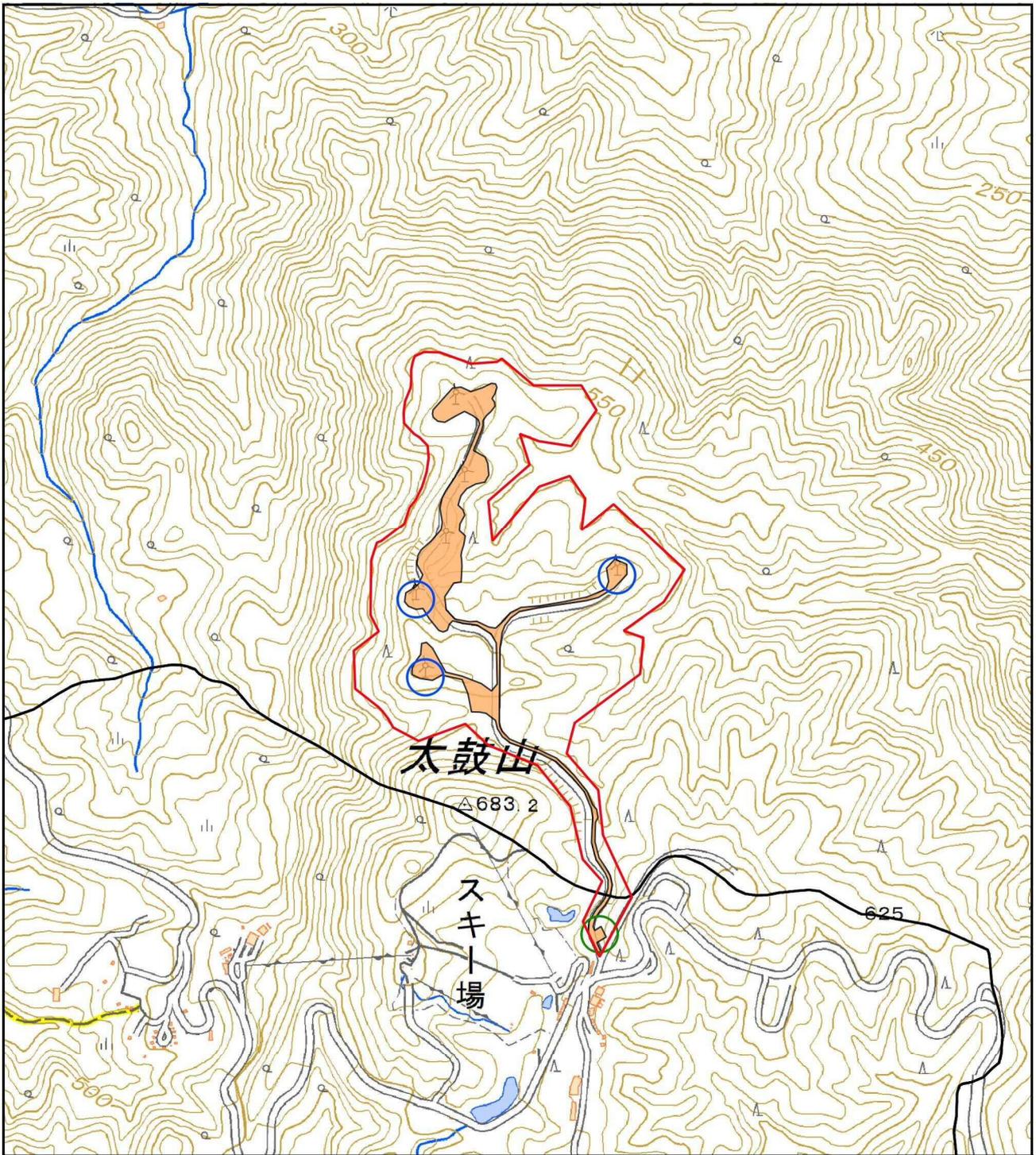
「1.3.1 対象事業の目的」に記載したとおり、対象事業実施区域内には、既設の太鼓山風力発電所が稼働している。発電所の諸元を表 1.3.2-3 に、位置を図 1.3.2-11 に示す。

当該発電所は平成 13 年より 6 基で運用を開始しており、現在は故障した 3 基を除く、3 基で運転を行っている。なお、当該発電所は平成 25 年 3 月の風車落下事故により発電を一時停止していたが、原因究明後、再発防止策をとった上で、平成 26 年 2 月から運転を再開している。

本事業においては、京都府により既設風力発電機が撤去された後、新たに風力発電機を新設するものとする。

表 1.3.2-3 対象事業実施区域における既設風力発電所

| 発電所名 | 設置者 | 基数 | 最大出力 (kW) | 運転開始 |
|----------|-----|----|-----------------|--------------|
| 太鼓山風力発電所 | 京都府 | 3 | 2,250 (750kW/基) | 平成 13 年 11 月 |



凡例

太鼓山風力発電所用地

既設風力発電機

既設変電施設

対象事業実施区域

市町村界

100 0 100 200 300 400 500 m

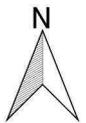


図 1.3.2-11 対象事業実施区域における風力発電事業

第2章 環境影響評価を実施しようとする地域及びその地域の概況

2.1 環境影響評価を実施しようとする地域

本事業による環境影響評価を実施しようとする地域（以下「調査地域」という。）は、後述の自然的状況及び社会的・文化的状況の基本的な調査対象範囲のうち、最も広域的に影響が生じると想定される景観の調査対象範囲である「対象事業実施区域及びその周囲9kmの範囲」（該当市町：伊根町、京丹後市及び宮津市）とした（図2.1-1参照）。

調査地域における、自然的状況及び社会的・文化的状況の基本的な調査対象範囲とその設定理由を以下に示す。

(1) 自然的状況の基本的な調査対象範囲

地域特性を把握する範囲は、「技術指針及び発電所の設置又は変更の工事の事業に係る計画段階配慮事項の選定並びに当該計画段階配慮事項に係る調査、予測及び評価の手法に関する指針、環境影響評価の項目並びに当該項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針並びに環境の保全のための措置に関する指針等を定める省令」（平成10年 通商産業省令第54号）（以下「主務省令」という。）第4条第2項第1号及び「発電所に係る環境影響評価の手引」（平成29年 経済産業省）（以下「手引」という。）を参考に、環境影響を受けるおそれがある地域として「対象事業実施区域及びその周囲1km」を基本とした。

ただし、「2.2.1 気象、大気質、騒音、振動その他の大気に係る環境の状況」のうち騒音・超低周波音、振動、「2.2.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況」のうち、人と自然との触れ合いの活動の場については、対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲と主要な交通ルートの沿線上を地域特性を把握する範囲とした。

また、「2.2.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況」のうち、景観については、「景観対策ガイドライン（案）」（1981年 UHV送電特別委員会環境部会立地分科会）において「景観的にほとんど気にならない」とされる視野角1°を上回る距離として、安全側の予測となるよう風力発電機の最大高さを149.8mとし、対象事業実施区域から9.0kmの範囲を地域特性を把握する範囲とした。

以上を踏まえ、地域特性の自然的状況を把握する範囲（以下「基本的な調査対象範囲」という。）を表2.1-1及び図2.1-2に示す。

表 2.1-1 自然的状況の基本的な調査対象範囲

| 調査項目 | 基本的な調査対象範囲 |
|----------------------------|------------------------------------|
| 気象、大気質、騒音、振動その他の大気に係る環境の状況 | |
| 気象の状況 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲 |
| 大気質の状況 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲 |
| 騒音・超低周波音の状況 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲及び主要な交通ルートの沿線上 |
| 振動の状況 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲及び主要な交通ルートの沿線上 |
| 水象、水質、水底の底質その他の水に係る環境の状況 | |
| 水象の状況 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲 |
| 水質の状況 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲 |
| 水底の底質の状況 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲 |
| 地下水 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲 |
| 土壌及び地盤の状況 | |
| 土壌の状況 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲 |
| 地盤の状況 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲 |
| 地形及び地質の状況 | |
| 地形の状況 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲 |
| 地質の状況 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲 |
| 重要な地形及び地質 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲 |
| 重要な自然現象 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲 |
| 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況 | |
| 動物の生息の状況 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲 |
| 植物の生育の状況 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲 |
| 生態系の状況 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲 |
| 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況 | |
| 景観の状況 | 対象事業実施区域及びその周囲9kmの範囲 |
| 人と自然との触れ合いの活動の場の状況 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲及び主要な交通ルートの沿線 |

(2) 社会的状況の基本的な調査対象範囲

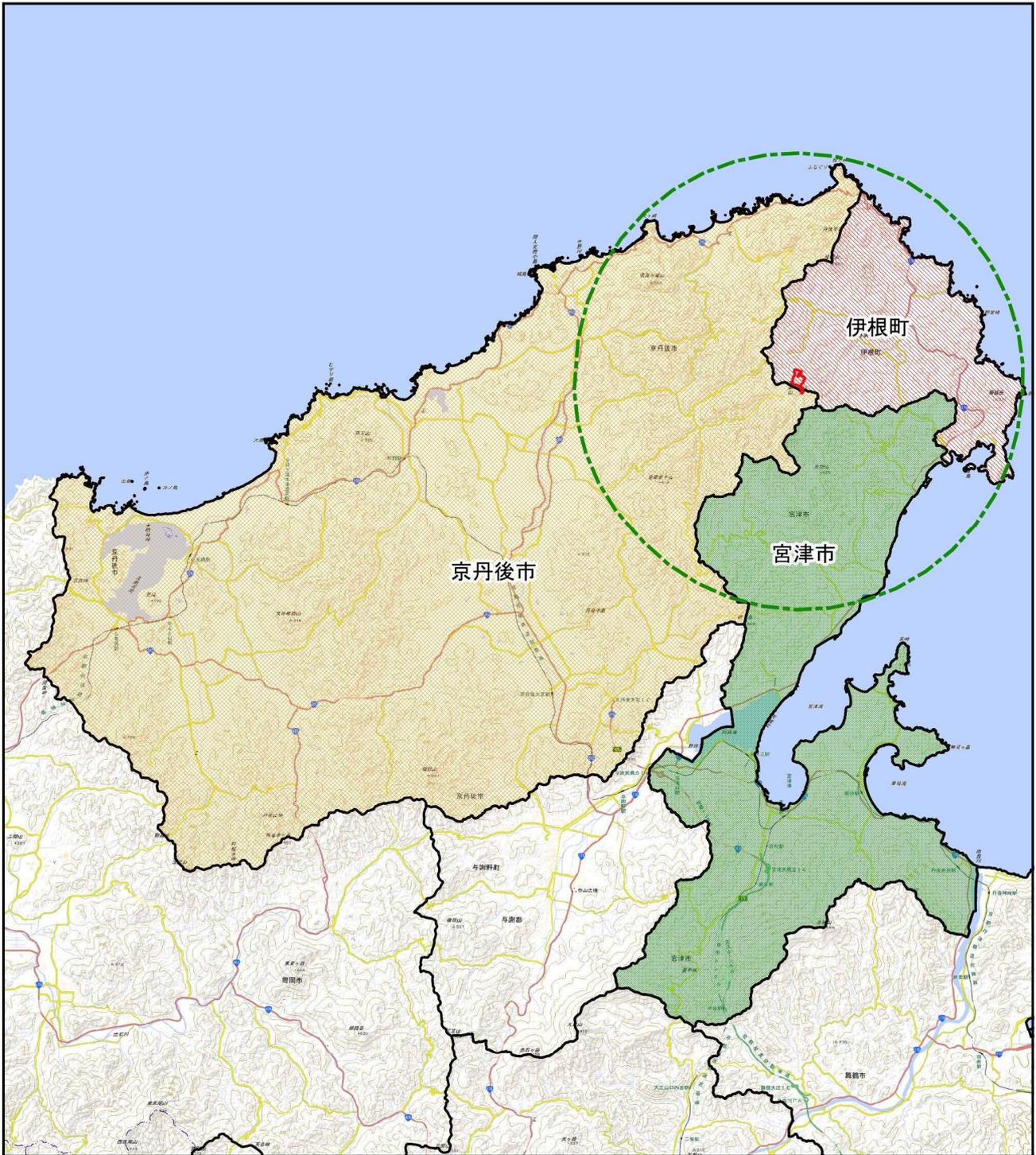
地域特性を把握する範囲は、「(1) 自然的状況の基本的な調査対象範囲」と同様に、「対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲」を基本とした。

ただし、人口及び産業の状況、下水道の設備の状況、都市計画法に基づく地域指定状況については、伊根町、京丹後市及び宮津市の全域を、地域特性を把握する範囲とした。同様に、交通の状況については、主要な交通ルートの沿線上を、環境の保全についての配慮が特に必要な施設等については、対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲と主要な交通ルートの沿線上を、地域特性を把握する範囲とした。また、公害関係法令等については、対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲と主要な交通ルートの沿線上を、自然関係法令等については、対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲を、地域特性を把握する範囲とした。廃棄物の状況については、手引を参考に「対象事業実施区域及びその周囲50kmの範囲」を、地域特性を把握する範囲とした。

以上を踏まえ、社会的・文化的状況の基本的な調査対象範囲を表2. 1-2及び図2. 1-3に示す。

表2. 1-2 社会的・文化的状況の基本的な調査対象範囲

| 調査項目 | 基本的な調査対象範囲 |
|--|-----------------------------------|
| 人口及び産業の状況 | |
| 人口及び人口動態 | 伊根町、京丹後市及び宮津市 |
| 産業の構造 | 伊根町、京丹後市及び宮津市 |
| 行政区画の状況 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲 |
| 土地利用の状況 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲 |
| 河川、湖沼及び海域の利用並びに地下水の利用の状況 | |
| 漁業権 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲 |
| 水源 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲 |
| 地下水の利用状況 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲 |
| 交通の状況 | 主要な交通ルートの沿線 |
| 学校、病院その他の環境の保全についての配慮が特に必要な施設の配置の状況及び住宅の配置の概要 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲及び主要な交通ルートの沿線 |
| 下水道の設備の状況 | 伊根町、京丹後市及び宮津市 |
| 都市計画法に基づく地域地区等の決定状況及びその他の土地利用計画 | 伊根町、京丹後市及び宮津市 |
| 環境の保全を目的とする法令、条例又は行政手続法第36条に規定する行政指導その他の措置により指定された地域その他の対象及び当該対象に係る規制の内容その他の状況 | |
| 公害関係法令等 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲及び主要な交通ルートの沿線 |
| 自然関係法令等 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲 |
| 文化財及び埋蔵文化財包蔵地の状況 | |
| 埋蔵文化財包蔵地 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲 |
| 指定文化財 | 対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲 |
| その他の事項 | |
| 廃棄物の状況 | 対象事業実施区域及びその周囲50kmの範囲 |



凡例



景観の基本的な調査対象範囲
(対象事業実施区域及びその周囲9kmの範囲)



対象事業実施区域

京都行政区域



伊根町



京丹後市



宮津市

5 0 5 10 km

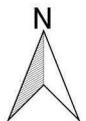
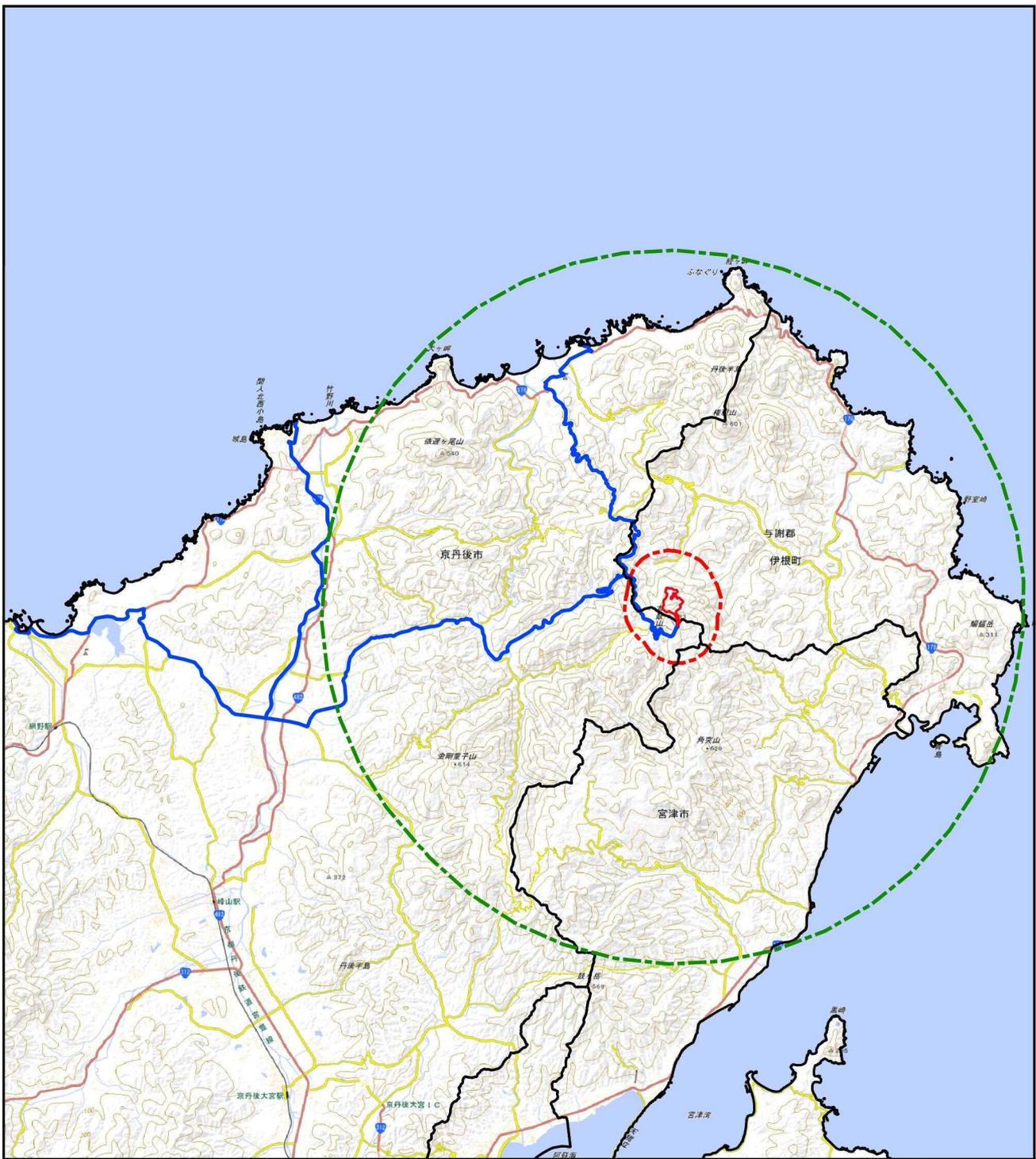


図 2.1-1 調査地域



凡例



基本的な調査対象範囲
(対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲)



景観の基本的な調査対象範囲
(対象事業実施区域及びその周囲9kmの範囲)



主要な交通ルート

対象事業実施区域

市町村界

2 0 2 4 6 8 km

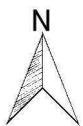
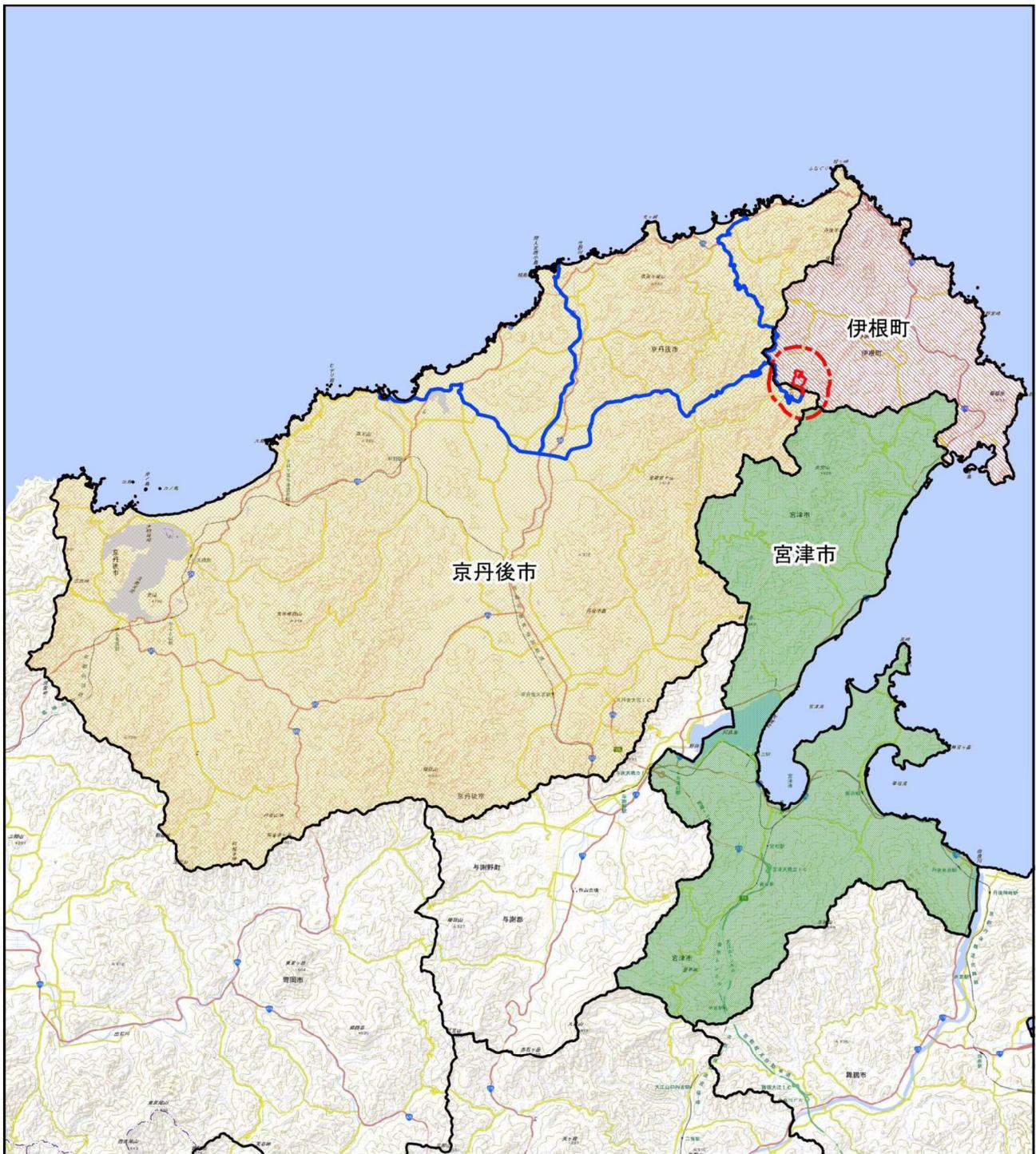


図 2.1-2 自然的状況の基本的な調査対象範囲



凡例



基本的な調査対象範囲

(対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲)



対象事業実施区域

京都行政区域



伊根町



京丹後市



宮津市



主要な交通ルート

5 0 5 10 km



図 2.1-3 社会的・文化的状況の
基本的な調査対象範囲

2.2 自然的状況

2.2.1 気象、大気質、騒音、振動その他の大気に係る環境の状況

(1) 気象の状況

① 平年値

「気象統計情報」（気象庁が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を用いて、各地域気象観測所の平年値を整理した。

基本的な調査対象範囲において気象観測所はなかったため、参考として、以下の最寄りの気象観測所の平年値を表2.2.1-1に、位置を図2.2.1-1に示す。

- ・ 間人地域気象観測所（以下「アメダス間人（たいざ）」という。）

位 置：対象事業実施区域の北西約10km

観測項目：降水量、気温、風速、風向、日照時間

- ・ 峰山地域気象観測所（以下「アメダス峰山」という。）

位 置：対象事業実施区域の南西約15km

観測項目：降水量、降雪の深さ、積雪の深さ

アメダス間人（たいざ）の平年値によると、年間平均気温は15.2℃、月別平均気温のうち、最高気温は26.6℃（8月）、最低気温が5.0℃（1月）であった。また、年間降水量は1,883.9mm、月別降水量のうち、最大は239.5mm（12月）、最小は99.7mm（4月）であった。年平均風速は2.8m/s、最大風速は4.0m/s（1月）であり、風向は主に南東から南南東であった。

アメダス峰山の平年値によると、最大積雪深は1～2月の38cmであった。

② 風況

「局所風況マップ」（NEDOが運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を用いて、基本的な調査地域における年間平均風速（地上高50m）を把握した。

基本的な調査対象範囲における風況マップ（地上高50m）を図2.2.1-2に示す。

基本的な調査対象範囲は、年間平均風速5.0～8.0m/sクラスの地域に属している。

表2.2.1-1 (1) アメダス間人（たいざ）における主要気象要素の平年値

| 要素 | 降水量 | 気温 | | | 風速 | 最多風向 | 日照時間 | 降雪の深さ | 積雪の深さ |
|------|--------|------|------|------|-------|------|--------|-------|-------|
| | (mm) | (°C) | | | (m/s) | (-) | (時間) | (cm) | (cm) |
| | 合計 | 平均 | 最高 | 最低 | 平均 | 風向 | 合計 | 合計 | 最大 |
| 資料年数 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 24 | - | - |
| 1月 | 223.5 | 5.0 | 7.6 | 2.5 | 4.0 | 南東 | 52.4 | - | - |
| 2月 | 131.2 | 5.1 | 7.9 | 2.5 | 3.9 | 南東 | 74.1 | - | - |
| 3月 | 125.2 | 7.8 | 11.3 | 4.8 | 3.4 | 南東 | 126.4 | - | - |
| 4月 | 99.7 | 13.0 | 17.1 | 9.4 | 2.6 | 南東 | 179.6 | - | - |
| 5月 | 132.2 | 17.3 | 21.3 | 13.8 | 2.1 | 南南東 | 197.9 | - | - |
| 6月 | 151.6 | 20.8 | 24.5 | 18.0 | 1.9 | 東北東 | 156.8 | - | - |
| 7月 | 178.6 | 24.8 | 28.3 | 22.3 | 1.7 | 南南東 | 172.4 | - | - |
| 8月 | 104.5 | 26.6 | 30.3 | 24.0 | 1.9 | 南南東 | 221.9 | - | - |
| 9月 | 185.9 | 22.9 | 26.0 | 20.4 | 2.5 | 南東 | 147.8 | - | - |
| 10月 | 132.0 | 17.7 | 20.7 | 15.0 | 2.9 | 南東 | 142.7 | - | - |
| 11月 | 162.9 | 12.7 | 15.7 | 9.9 | 3.3 | 南東 | 96.4 | - | - |
| 12月 | 239.5 | 7.9 | 10.7 | 5.2 | 3.7 | 南東 | 69.7 | - | - |
| 年 | 1883.9 | 15.2 | 18.5 | 12.3 | 2.8 | 南東 | 1645.4 | - | - |
| 最大 | 239.5 | 26.6 | 30.3 | 24.0 | 4.0 | | 221.9 | - | - |
| 発生日 | 12月 | 8月 | 8月 | 8月 | 1月 | | 8月 | - | - |
| 最小 | 99.7 | 5.0 | 7.6 | 2.5 | 1.7 | | 52.4 | - | - |
| 発生日 | 4月 | 1月 | 1月 | 1~2月 | 7月 | | 1月 | - | - |

注1：資料年数は昭和56年～平成22年の30年間（日照時間は昭和62年～平成22年までの24年間）とする。

注2：アメダス間人では、降雪及び積雪について観測をしていないため、「-」と表記した。

出典等：「気象統計情報」（気象庁が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

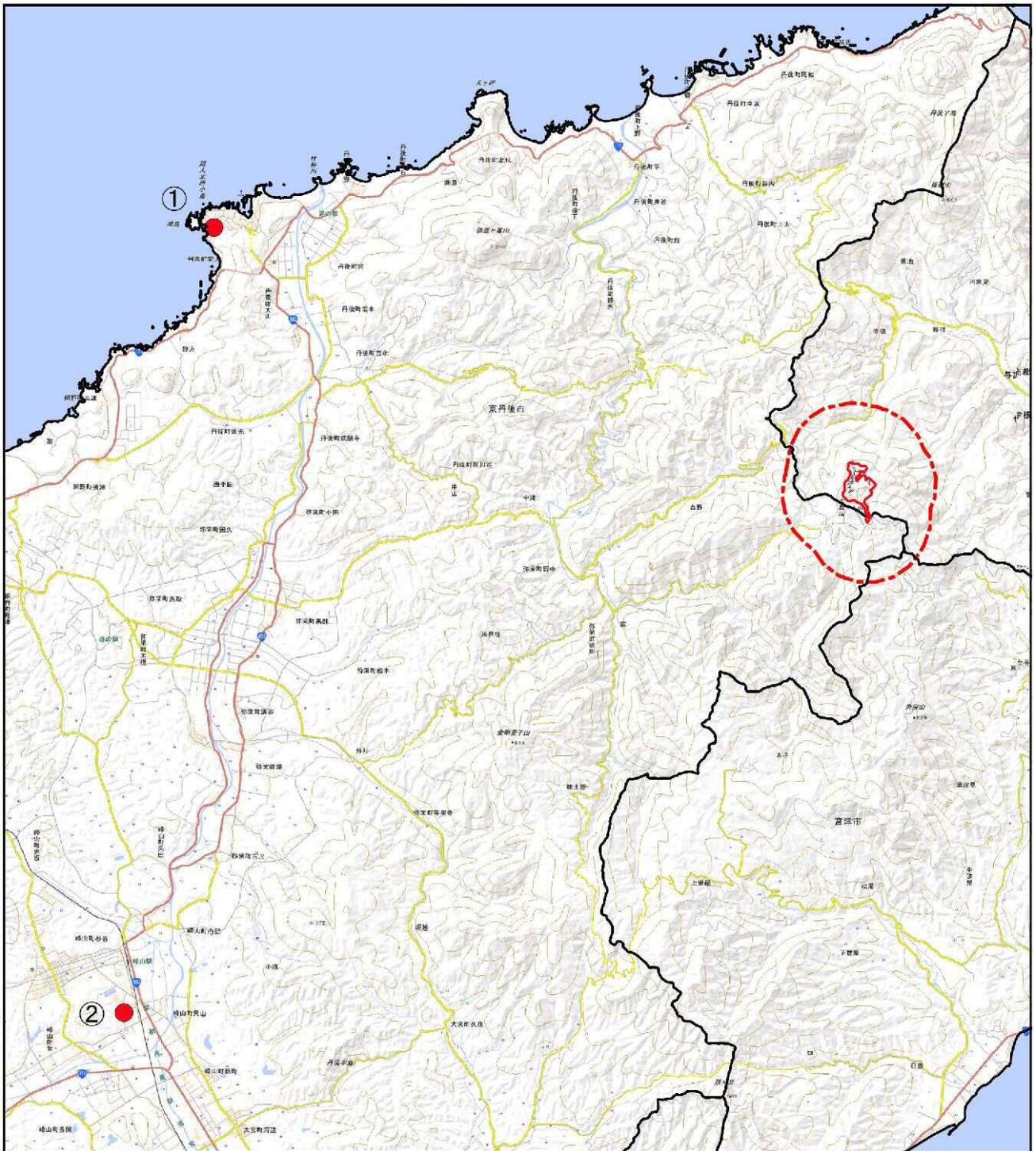
表2.2.1-1 (2) アメダス峰山における主要気象要素の平年値

| 要素 | 降水量 | 気温 | | | 風速 | 最多風向 | 日照時間 | 降雪の深さ | 積雪の深さ |
|------|--------|------|----|----|-------|------|------|-------|-------|
| | (mm) | (°C) | | | (m/s) | (-) | (時間) | (cm) | (cm) |
| | 合計 | 平均 | 最高 | 風向 | 平均 | 風向 | 合計 | 合計 | 最大 |
| 資料年数 | 30 | - | - | - | - | - | - | 29 | 29 |
| 1月 | 222.3 | - | - | - | - | - | - | 112.0 | 38.0 |
| 2月 | 157.6 | - | - | - | - | - | - | 101.0 | 38.0 |
| 3月 | 136.4 | - | - | - | - | - | - | 20.0 | 13.0 |
| 4月 | 100.5 | - | - | - | - | - | - | 1.0 | 0.0 |
| 5月 | 125.5 | - | - | - | - | - | - | 0.0 | 0.0 |
| 6月 | 147.9 | - | - | - | - | - | - | 0.0 | 0.0 |
| 7月 | 181.2 | - | - | - | - | - | - | 0.0 | 0.0 |
| 8月 | 113.9 | - | - | - | - | - | - | 0.0 | 0.0 |
| 9月 | 199.4 | - | - | - | - | - | - | 0.0 | 0.0 |
| 10月 | 143.4 | - | - | - | - | - | - | 0.0 | 0.0 |
| 11月 | 160.5 | - | - | - | - | - | - | 1.0 | 0.0 |
| 12月 | 205.9 | - | - | - | - | - | - | 43.0 | 19.0 |
| 年 | 1904.5 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 最大 | 222.3 | - | - | - | - | - | - | 112.0 | 38.0 |
| 発生日 | 1月 | - | - | - | - | - | - | 1月 | 1~2月 |
| 最小 | 100.5 | - | - | - | - | - | - | 0.0 | 0.0 |
| 発生日 | 4月 | - | - | - | - | - | - | 5~10月 | 4~11月 |

注1：資料年数は昭和56年～平成22年の30年間（積雪は昭和57年～平成22年までの29年間）とする。

注2：アメダス峰山では、気温、風速、日照時間について観測をしていないため、「-」と表記した。

出典等：「気象統計情報」（気象庁が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。



凡例

- 気象観測所
- ① アメダス間人
- ② アメダス峰山

- 対象事業実施区域
- 市町村界
- 基本的な調査対象範囲

2 0 2 4 km

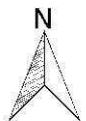
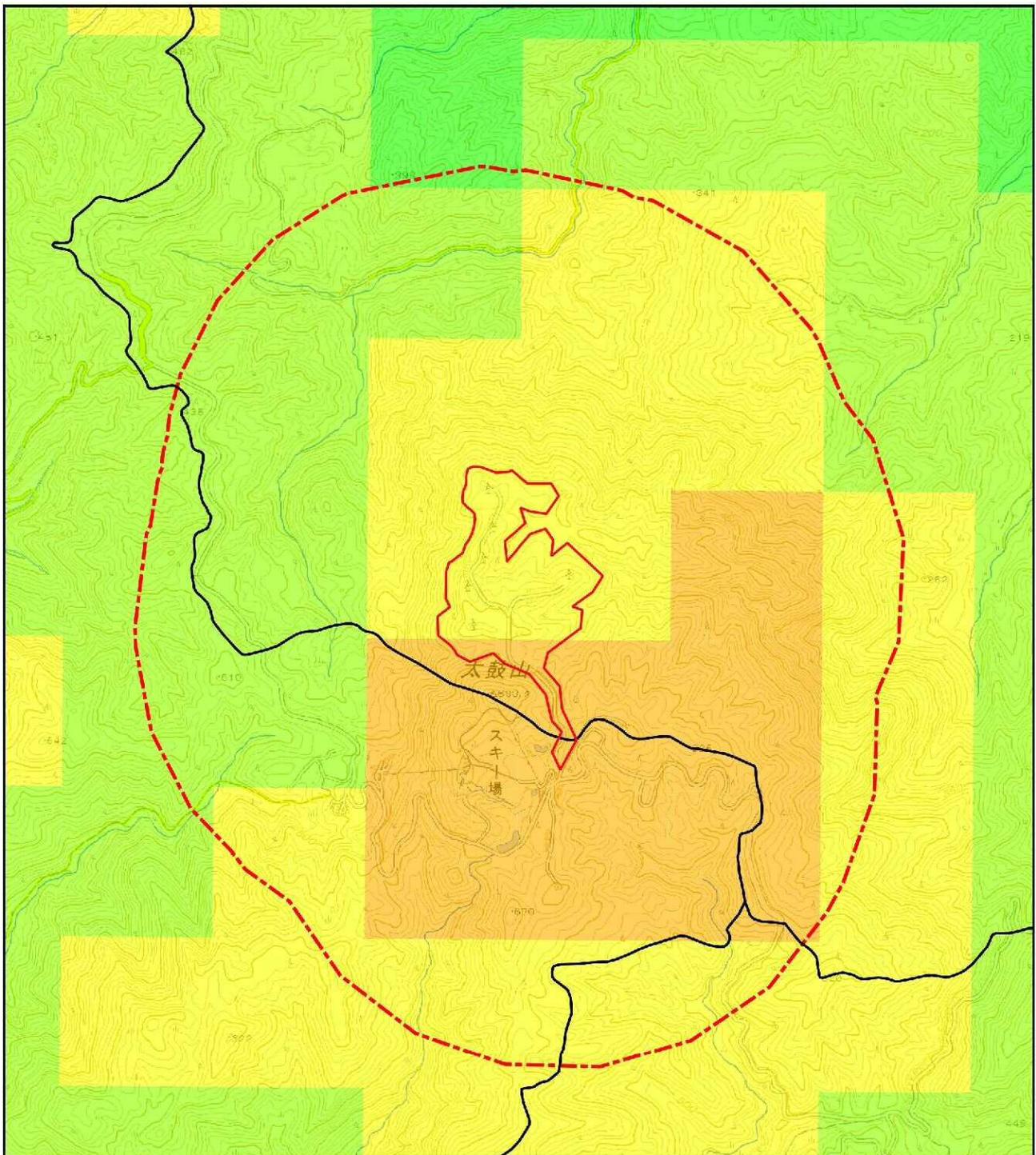


図 2.2.1-1 気象観測所位置図

出典等：「地域気象観測所一覧」（気象庁が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を使用して作成した。



凡例



風速 (m/s)

- 対象事業実施区域
- 市町村界
- 基本的な調査対象範囲

250 0 250 500 750 1000 m

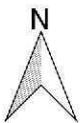


図 2.2.1-2 基本的な調査対象範囲における
年間平均風速(地上高 50m)

出典等：「局所風況マップ」(NEDOが運営するホームページ 最終
閲覧月：平成30年11月)を使用して作成した。

(2) 大気質の状況

「環境展望台 環境GIS 大気汚染状況の常時監視結果」(国立環境研究所が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月)を用いて測定結果を整理した。

基本的な調査対象範囲において大気測定局はなかったため、参考として最寄りの大気測定局である京丹後測定局(対象事業実施区域の南西約15kmに位置)の結果を表2.2.1-2に、位置を図2.2.1-3に示す。

当該測定局では、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、光化学オキシダント、微小粒子状物質(PM_{2.5})の4項目を対象に測定している。

平成23年度から27年度の年平均値の経年変化を見ると、二酸化窒素の1日平均値の年間98%値は、0.006～0.010ppmの間で推移している。また、すべての年度で環境基準に適合している。

平成23年度から27年度の年平均値の経年変化を見ると、浮遊粒子状物質の1日平均値の2%除外値は、0.043～0.061mg/m³の間で推移している。また、平成23年度及び平成26年度は環境基準に適合していない。

平成23年度から27年度の年平均値の経年変化を見ると、光化学オキシダントの昼間の1時間値の最高値は、0.098～0.112ppmの間で推移している。また、すべての年度で環境基準に適合していない。

平成24年度から27年度の年平均値の経年変化を見ると、微小粒子状物質(PM_{2.5})の1日平均値の98%値は、27.5～34.0μg/m³の間で推移している。また、平成24年度、平成25年度及び平成26年度は環境基準に適合していない。なお、京丹後測定局では平成23年10月から微小粒子状物質(PM_{2.5})の測定を行っているが、年間の総有効測定日数(250日)に満たないため平成23年度は欠測扱いとしている。

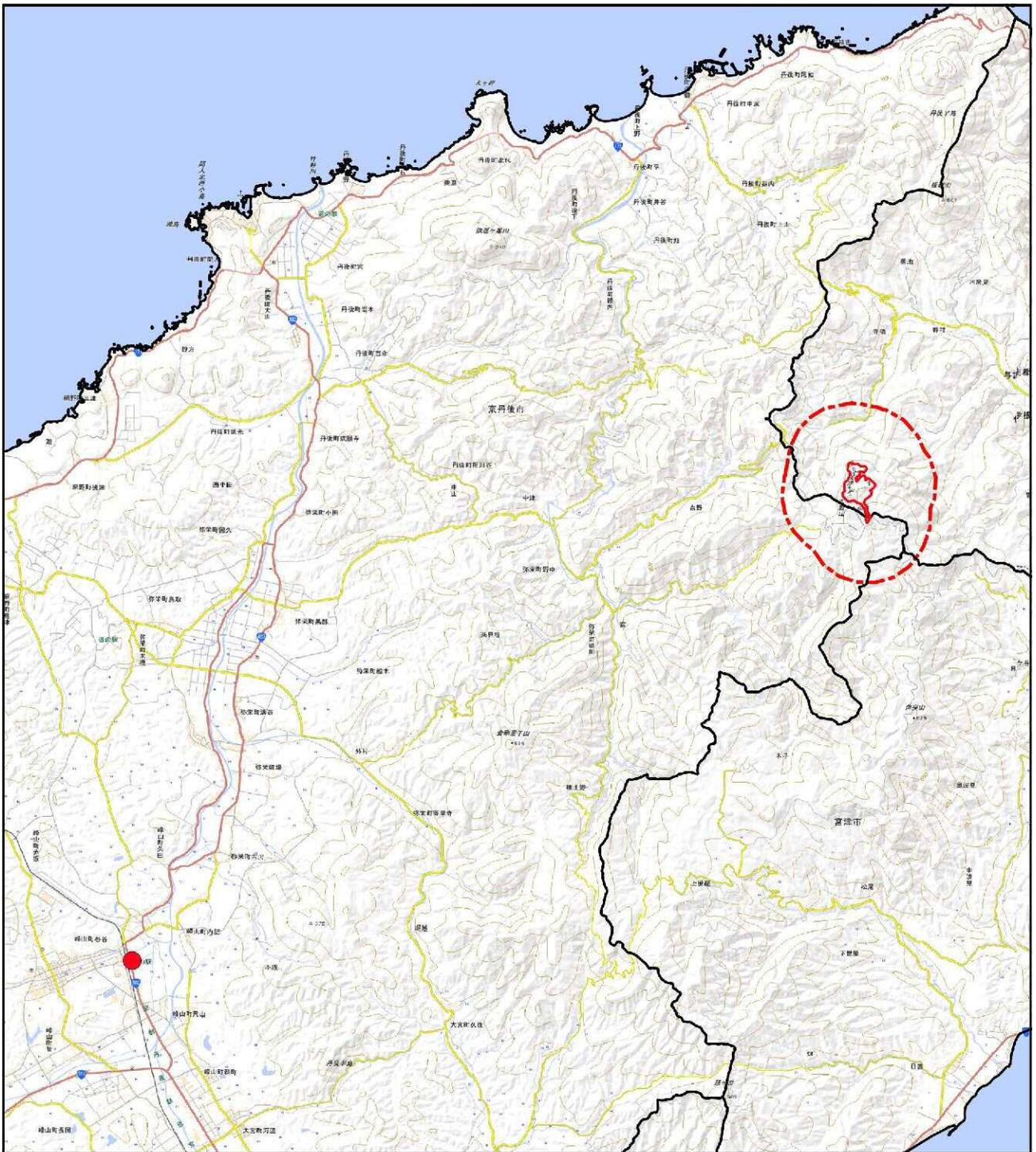
表2.2.1-2 大気質の測定結果

| 項目 年度 | 二酸化窒素 | | 浮遊粒子状物質 | | | | 光化学オキシダント | | | 微小粒子状物質 (PM2.5) | | |
|----------|---|-----------------------|--|---------------------------------------|------------|--------------------------------------|----------------------|-------------------------|-----------------------|--|-------------|------------------------------------|
| | ppm | | mg/m ³ | | | | ppm | | | μg/m ³ | | |
| | 日平均値の年間98%値 | 日平均値が0.06ppmを超えた日数(日) | 1時間値の最高値 | 1時間値が0.20mg/m ³ を超えた時間(時間) | 日平均値の2%除外値 | 日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数(日) | 昼間の1時間値の最高値 | 1時間値が0.06ppmを超えた時間数(時間) | 1時間値が0.06ppmを超えた日数(日) | 年平均値 | 日平均値の年間98%値 | 日平均値が35μg/m ³ を超えた日数(日) |
| 平成23年度 | 0.010 | 0 | 0.180 | 0 | 0.043 | 2 | 0.098 | 314 | 53 | — | — | — |
| 平成24年度 | 0.009 | 0 | 0.194 | 0 | 0.047 | 0 | 0.099 | 322 | 50 | 11.2 | 33.0 | 5 |
| 平成25年度 | 0.007 | 0 | 0.107 | 0 | 0.061 | 0 | 0.107 | 361 | 59 | 12.0 | 34.0 | 7 |
| 平成26年度 | 0.007 | 0 | 0.217 | 1 | 0.048 | 0 | 0.106 | 527 | 73 | 11.2 | 31.5 | 3 |
| 平成27年度 | 0.006 | 0 | 0.100 | 0 | 0.046 | 0 | 0.112 | 422 | 63 | 11.1 | 27.5 | 0 |
| 環境基準 | 1時間値の日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。 | | 1時間値の日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。 | | | | 1時間値が0.06ppm以下であること。 | | | 1年平均値が15μg/m ³ 以下であり、かつ、日平均値が35μg/m ³ 以下であること。 | | |

注：京丹後測定局では平成23年10月から微小粒子状物質 (PM2.5) の測定を行っているが、年間の総有効測定日数 (250日) に満たないため欠測扱いとし、「-」と表記した。

出典等：「環境展望台 環境 GIS 大気汚染状況の常時監視結果」(国立環境研究所が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月)を参考に作成した。

「平成29年度版 京都府環境白書」(平成30年 京都府)によると、伊根町、京丹後市及び宮津市における平成28年度の大気汚染に関する苦情受付件数は、伊根町0件、京丹後市1件、宮津市0件の計1件であった。



凡例

● 京丹後測定局

□ 対象事業実施区域

□ 市町村界

□ 基本的な調査対象範囲

2 0 2 4 km

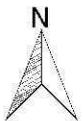


図 2.2.1-3 大気測定局位置図

出典等：「環境展望台 環境GIS 大気汚染状況の常時監視結果」
 (国立環境研究所が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月)を使用して作成した。

(3) 騒音・超低周波音の状況

「環境展望台 環境GIS 自動車騒音の常時測定監視結果」(国立環境研究所が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月)を用いて測定結果を整理した。

①騒音の状況

基本的な調査対象範囲において騒音測定地点はなかった。

なお、参考として主要な交通ルートに最も近い自動車騒音測定地点の結果を表2.2.1-3に、位置を図2.2.1-4に示す。

騒音測定地点では、すべての年度において、環境基準値を下回っていた。

表2.2.1-3 自動車騒音の測定結果

| 年度 | 項目 調査地点住所 | 路線名 | 対象事業実施区域までの距離 (km) | 等価騒音レベル (デシベル) | |
|--------|----------------|------------|--------------------|-------------------|------|
| | | | | 昼間 | 夜間 |
| 平成24年度 | 京丹後市峰山町丹波 | 一般国道 482 号 | 約 15km | 67 | 58 |
| 平成25年度 | 京丹後市網野町網野 | 一般国道 178 号 | 約 16km | 65 | 56 |
| 平成26年度 | 伊根町字本庄上 1206 | 一般国道 178 号 | 約 5km | 58 | 47 |
| 平成27年度 | 伊根町字本庄上 607 番地 | 府道弥栄本庄線 | 約 5km | 59 | 53 |
| 平成28年度 | 伊根町平田 | 府道伊根港線 | 約 8km | 64 | 49 |
| 環境基準値 | | | | 70以下 | 65以下 |

出典等：「環境展望台 環境 GIS 自動車騒音の常時測定監視結果」(国立環境研究所が運営するホームページ 最終閲覧月：平成 30 年 11 月)を参考に作成した。

「平成29年度版 京都府環境白書」(平成30年 京都府)によると、伊根町、京丹後市及び宮津市における平成28年度の騒音に関する苦情受付件数は、伊根町0件、京丹後市8、宮津市0件の計8件であった。

②超低周波音の状況

基本的な調査対象範囲において超低周波音の調査地点はなかった。

「平成29年度版 京都府環境白書」(平成30年 京都府)によると伊根町、京丹後市及び宮津市における平成28年度の超低周波音に関する苦情の集計はされていない。

(4) 振動の状況

基本的な調査対象範囲において振動の測定地点はなかった。

「平成29年度版 京都府環境白書」(平成30年 京都府)によると、伊根町、京丹後市及び宮津市における平成28年度の振動に関する苦情受付件数は0件であった。



凡例

自動車騒音測定位置

- 平成24年
- 平成25年
- 平成26年
- 平成27年
- 平成28年

- 対象事業実施区域
- 市町村界
- 基本的な調査対象範囲
- 主要な交通ルート

2 0 2 4 6 8 km

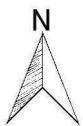


図 2.2.1-4 自動車騒音測定地点位置図

出典等：「環境展望台 環境GIS 自動車騒音の常時監視結果」
 (国立環境研究所が運営するホームページ 最終閲覧
 月：平成30年11月)を使用して作成した。

2.2.2 水象、水質、水底の底質その他の水に係る環境の状況

(1) 水象の状況

「国土数値情報 河川及び流域メッシュ」（国土交通省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）及び「京都府丹後土木事務所管内図」（京都府丹後広域振興局が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を用いて、水象の状況を整理した。

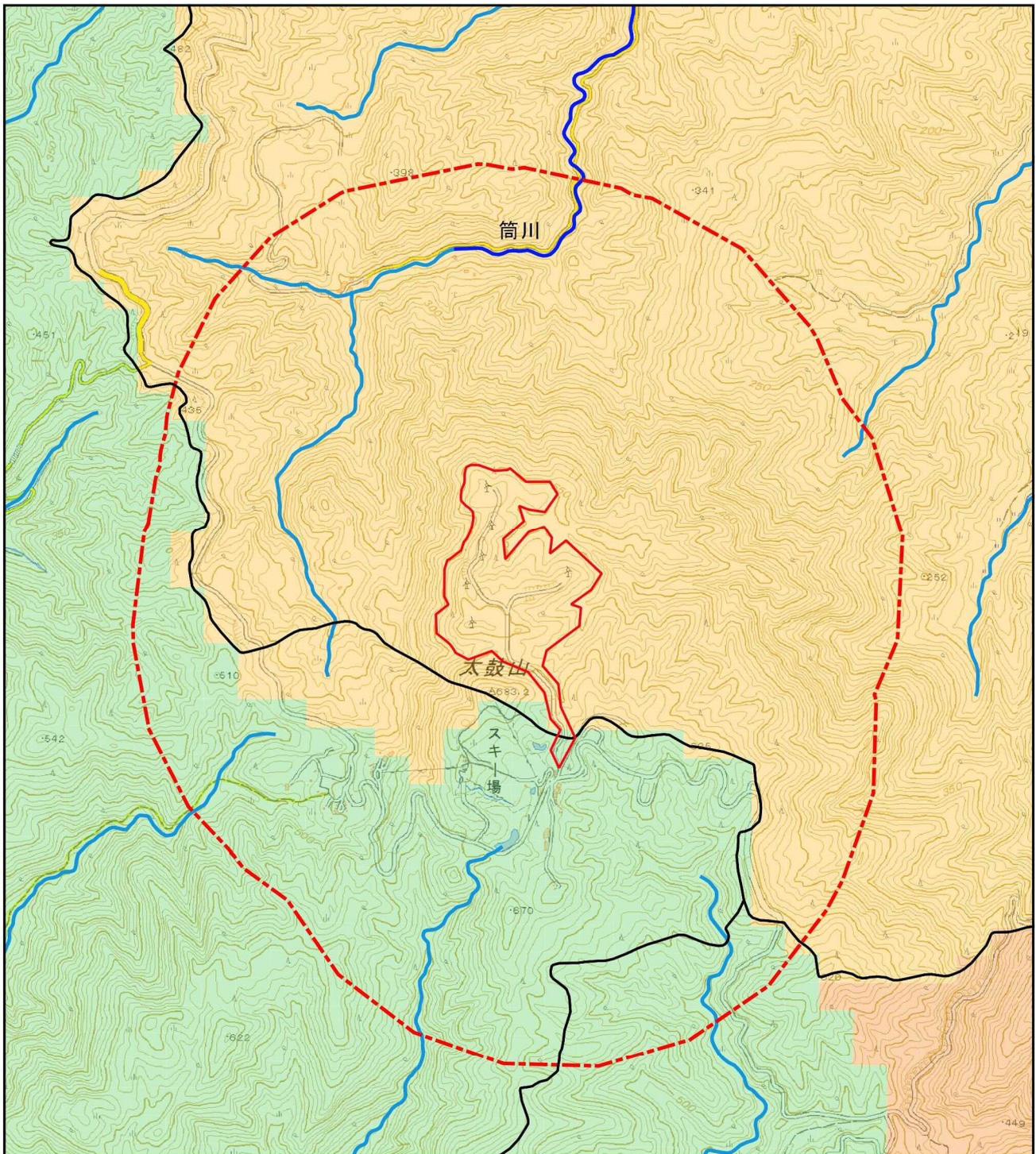
基本的な調査対象範囲における河川水系を表2.2.2-1に、水象の状況を図2.2.2-1に示す。

基本的な調査対象範囲には二級河川の筒川及びその支流、宇川水系の支流が存在する。なお、対象事業実施区域は、主に筒川の流域内に位置しており、南端の一部が宇川の流域に位置している。

表2.2.2-1 基本的な調査対象範囲における河川水系表

| 水系名 | 河川名 | 備考 |
|------|-----|------|
| 筒川水系 | 筒川 | 2級河川 |

出典等：「国土数値情報 河川」（国土交通省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）及び「京都府丹後土木事務所管内図」（京都府丹後広域振興局が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。



凡例

- 2級河川
- 2級河川の主な支流

流域

- 筒川
- 宇川
- 犀川

- 対象事業実施区域
- 市町村界
- 基本的な調査対象範囲

250 0 250 500 750 1000 m

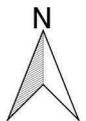


図 2.2.2-1 水象の状況

出典等：「国土数値情報 河川及び流域メッシュ」（国土交通省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）及び「京都府丹後土木事務所管内図」（京都府丹後広域振興局が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考にして作成した。

(2) 水質の状況

「平成24年度～28年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を用いて測定結果を整理した。

基本的な調査対象範囲及び対象事業実施区域が主に位置する筒川の下流域において、水質の測定は行われていない。

なお、参考として対象事業実施区域の北西約6.0kmに位置する最も近い水質測定地点の結果を表2.2.2-2及び表2.2.2-3に、位置を図2.2.2-2に示す。

平成24年度から平成28年度における経年変化を見ると、pHの測定結果は、6.2～8.3の間で推移している。また、概ね全ての測定日で環境基準に適合している。

平成24年度から平成28年度における経年変化を見ると、BODの測定結果は、 $<0.5\sim 0.8\text{mg/L}$ の間で推移している。また、全ての年度で環境基準に適合している。

平成24年度から平成28年度における経年変化を見ると、D0の測定結果は、 $7.0\sim 14\text{mg/L}$ の間で推移している。また、全ての測定日で環境基準に適合している。

平成24年度から平成28年度における経年変化を見ると、SSの測定結果は、 $<1\sim 9\text{mg/L}$ の間で推移している。また、全ての測定日で環境基準に適合している。

平成24年度から平成28年度における経年変化を見ると、大腸菌群数の測定結果は、 $230\sim 790,000\text{MNP}/100\text{ml}$ の間で推移している。また、ほぼ全ての測定日で環境基準に適合していない。

表 2. 2. 2-2 水質の測定日（河川）

| 調査日 年度 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----------|--------|------|------|-----|------|------|-------|------|------|------|-----|-----|
| | 平成24年度 | 4/18 | 5/9 | 6/6 | 7/11 | 8/8 | 9/5 | 10/3 | 11/7 | 12/5 | 1/9 | 2/6 |
| 平成25年度 | 4/17 | 5/8 | 6/5 | 7/3 | 8/7 | 10/2 | 10/30 | 11/6 | 12/4 | 1/15 | 2/5 | 3/5 |
| 平成26年度 | 4/16 | 5/14 | 6/11 | 7/2 | 8/6 | 9/3 | 10/1 | 11/5 | 12/3 | 1/14 | 2/4 | 3/4 |
| 平成27年度 | 4/15 | 5/20 | 6/10 | 7/8 | 8/5 | 9/15 | 10/14 | 11/4 | 12/2 | 1/13 | 2/3 | 3/2 |
| 平成28年度 | 4/13 | 5/18 | 6/1 | 7/6 | 8/3 | 9/7 | 10/12 | 11/9 | 12/7 | 1/18 | 2/1 | 3/1 |

注：測定期間は4月から翌年3月までとする。

出典等：「平成24年度～28年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

表 2. 2. 2-3 水質の測定結果（河川）

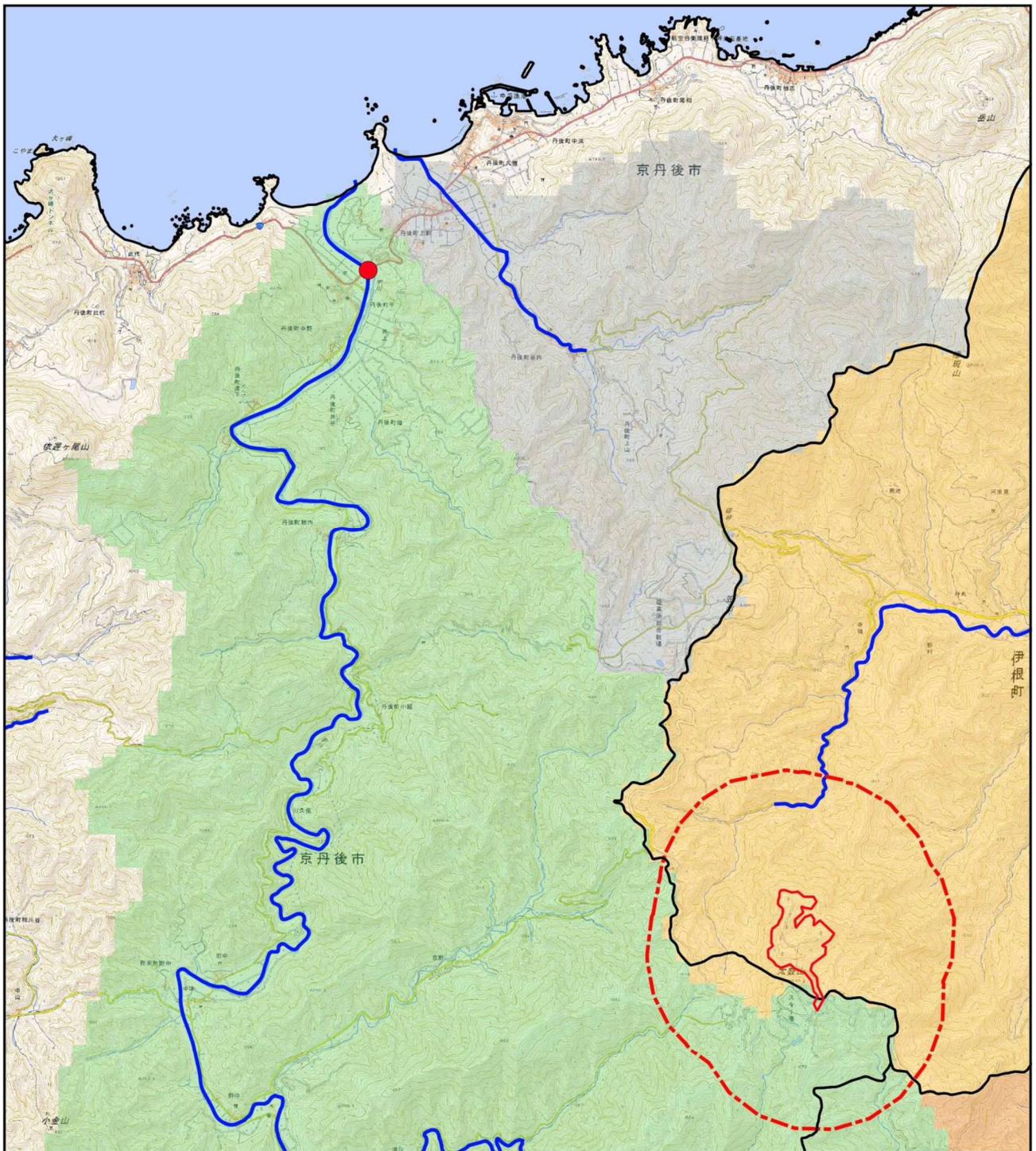
| 項目 年度 | 調査地点 | pH（-） | | | BOD（mg/L） | | | | |
|------------|-------------|------------|-----|------|---------------|------|------|------|---------|
| | | 最小値 | 最大値 | m/n | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 75%値 | 環境基準の適合 |
| 平成24年度 | 宇川 (宇川橋) | 6.4 | 7.8 | 1/12 | <0.5 | 0.5 | 0.5 | <0.5 | ○ |
| 平成25年度 | | 6.6 | 8.0 | 0/12 | <0.5 | 0.8 | 0.5 | <0.5 | ○ |
| 平成26年度 | | 6.2 | 7.1 | 1/12 | <0.5 | 0.7 | 0.5 | <0.5 | ○ |
| 平成27年度 | | 6.4 | 7.5 | 1/12 | <0.5 | <0.5 | <0.5 | <0.5 | ○ |
| 平成28年度 | | 6.9 | 8.3 | 0/12 | <0.5 | 0.7 | 0.5 | <0.5 | ○ |
| 宇川 環境基準A類型 | | 6.5以上8.5以下 | | | 年間の75%値が2.0以下 | | | | |

| 項目 年度 | 調査地点 | DO（mg/L） | | | SS（mg/L） | | | 大腸菌群数（MNP/100ml） | | |
|------------|-------------|----------|-----|------|----------|-----|------|------------------|---------|-------|
| | | 最小値 | 最大値 | m/n | 最小値 | 最大値 | m/n | 最小値 | 最大値 | m/n |
| 平成24年度 | 宇川 (宇川橋) | 7.6 | 12 | 0/12 | <1 | 3 | 0/12 | 330 | 13,000 | 8/12 |
| 平成25年度 | | 7.0 | 14 | 0/12 | <1 | 3 | 0/12 | 330 | 790,000 | 9/12 |
| 平成26年度 | | 8.0 | 12 | 0/12 | <1 | 9 | 0/12 | 230 | 33,000 | 8/12 |
| 平成27年度 | | 8.9 | 13 | 0/12 | <1 | 4 | 0/12 | 330 | 23,000 | 10/12 |
| 平成28年度 | | 7.9 | 13 | 0/12 | <1 | 5 | 0/12 | 230 | 49,000 | 9/12 |
| 宇川 環境基準A類型 | | 7.5以上 | | | 25以下 | | | 1,000以下 | | |

注1：m・・・環境基準に適合しない検体数、n・・・総検体数

注2：「75%値」は、y個の日間平均値を数値の低いものから順に並べ替えて0.75×y番目となる数値を示す。

出典等：「平成24年度～28年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。



凡例

● 水質調査地点

— 2級河川

流域

宇川

吉野川

犀川

筒川

対象事業実施区域

市町村界

基本的な調査対象範囲

1 0 1 2 km



図 2.2.2-2 水質の調査地点位置図

出典等：「平成28年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）及び「国土数値情報 河川」（国土交通省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考にして作成した。

(3) 水底の底質の状況

基本的な調査対象範囲において水底の底質のダイオキシン類測定地点はなかった。

なお、参考として対象事業実施区域の北西約6.0kmに位置する最も近い水底の底質のダイオキシン類測定地点の結果を表2.2.2-4に示す。なお、調査地点は図2.2.2-2に示すとおりである。

近年では、平成29年度に調査が実施されており、環境基準に適合していた。

表2.2.2-4 水底の底質の測定結果

| 年度 | 項目 | 調査地点 | ダイオキシン類 (pg-TEQ/g) |
|--------|------|----------|-----------------------|
| 平成24年度 | | 宇川 (宇川橋) | 0.17 |
| | 環境基準 | | 150 |

出典等：「平成29年度ダイオキシン類測定結果」(京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月)を参考に作成した。

「平成29年度版 京都府環境白書」(平成30年 京都府)によると、伊根町、京丹後市及び宮津市における平成28年度の水質汚濁に関する苦情受付件数は、伊根町0件、京丹後市5件、宮津市1件の計6件であった。

(4) 地下水に係る環境の状況

「平成28年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を用いて測定結果を整理した。

基本的な調査対象範囲には、地下水に係る水質測定地点はなかった。

なお、参考として、対象事業実施区域に最も近い調査地点における地下水水質測定結果を表2.2.2-5に、位置（メッシュ）を図2.2.2-3に示す。全ての項目において環境基準に適合していた。

表2.2.2-5 (1) 地下水の水質測定結果

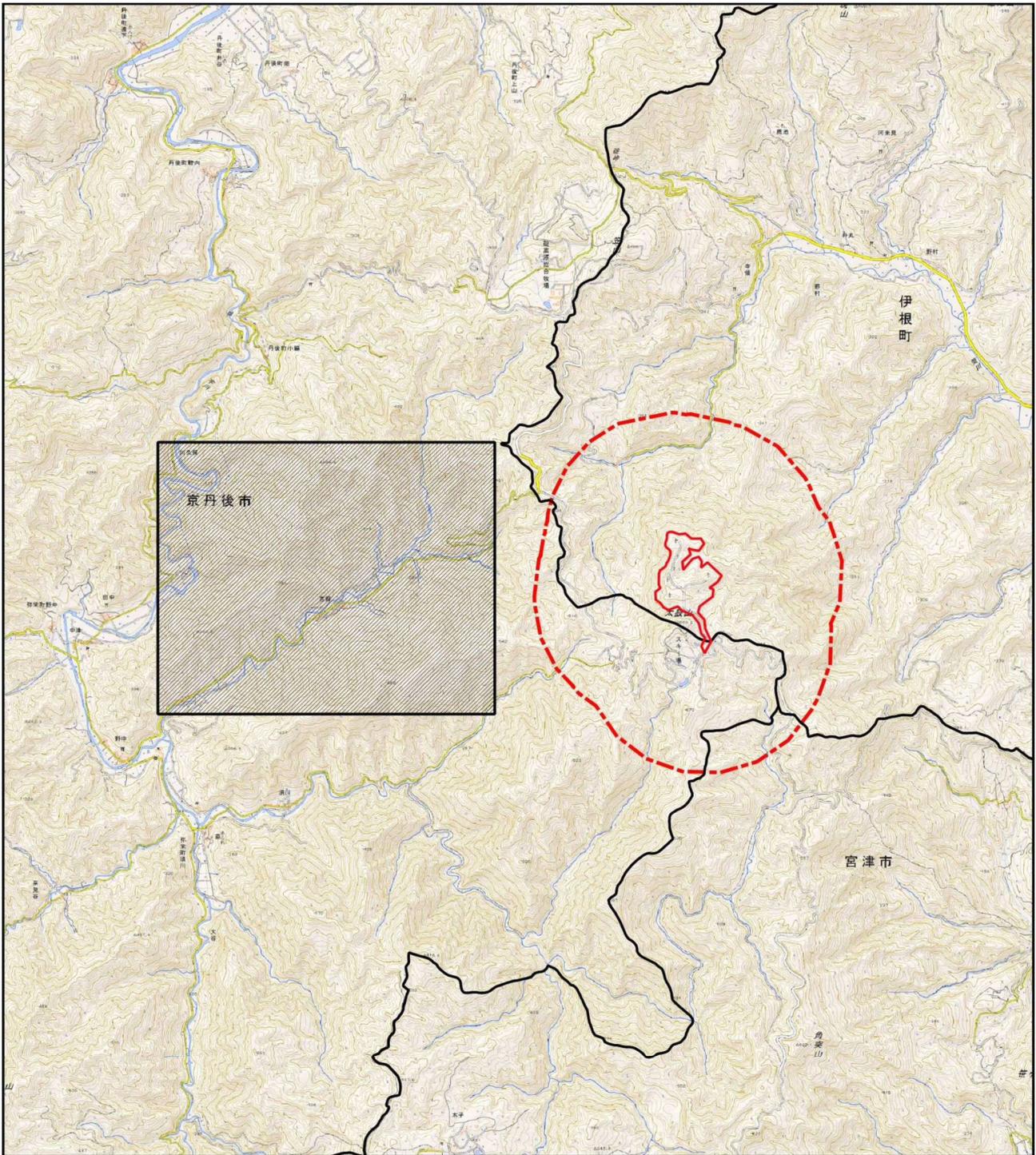
| 項目 | 測定地点：京丹後市 | |
|----------------|-----------|--------------|
| | メッシュ番号 | |
| | 0511 | |
| 項目 | 測定値 | 環境基準 |
| カドミウム | <0.0003 | 0.003mg/L以下 |
| 全シアン | <0.1 | 検出されないこと。 |
| 鉛 | <0.005 | 0.01mg/L以下 |
| 六価クロム | <0.02 | 0.05mg/L以下 |
| 砒素 | <0.005 | 0.01mg/L以下 |
| 総水銀 | <0.0005 | 0.0005mg/L以下 |
| アルキル水銀 | - | 検出されないこと。 |
| PCB | - | 検出されないこと。 |
| ジクロロメタン | <0.002 | 0.02mg/L以下 |
| 四塩化炭素 | <0.0002 | 0.002mg/L以下 |
| クロロエチレン | <0.0002 | 0.002mg/L以下 |
| 1,2-ジクロロエタン | <0.0004 | 0.004mg/L以下 |
| 1,1-ジクロロエチレン | <0.01 | 0.1mg/L以下 |
| 1,2-ジクロロエチレン | <0.004 | 0.04mg/L以下 |
| 1,1,1-トリクロロエタン | <0.1 | 1mg/L以下 |
| 1,1,2-トリクロロエタン | <0.0006 | 0.006mg/L以下 |
| トリクロロエチレン | <0.001 | 0.01mg/L以下 |
| テトラクロロエチレン | <0.001 | 0.01mg/L以下 |
| 1,3-ジクロロプロペン | <0.0002 | 0.002mg/L以下 |

出典等：「平成28年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

表2.2.2-5 (2) 地下水の水質測定結果

| 項目 | 測定地点：京丹後市 | 環境基準 |
|---------------|-----------|-------------|
| | メッシュ番号 | |
| | 0511 | |
| チウラム | <0.0006 | 0.006mg/L以下 |
| シマジン | <0.0003 | 0.003mg/L以下 |
| チオベンカルブ | <0.002 | 0.02mg/L以下 |
| ベンゼン | <0.001 | 0.01mg/L以下 |
| セレン | <0.002 | 0.01mg/L以下 |
| 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 | 0.24 | 10mg/L以下 |
| ふっ素 | <0.08 | 0.8mg/L以下 |
| ほう素 | <0.1 | 1mg/L以下 |
| 1,4-ジオキサン | <0.005 | 0.05mg/L以下 |

出典等：「平成 28 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成 30 年 11 月）を参考に作成した。



凡例

地下水調査地点(メッシュ)

対象事業実施区域

市町村界

基本的な調査対象範囲

1 0 1 2 km

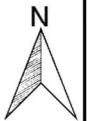


図 2.2.2-3 地下水の調査メッシュ位置図

出典等：「公共用水域及び地下水の水質測定結果」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考にして作成した。

2.2.3 土壌及び地盤の状況

(1) 土壌の状況

①土壌の分布

基本的な調査対象範囲における土壌図を図2.2.3-1に示す。

基本的な調査対象範囲の大部分は乾性褐色森林土壌であり、北側には褐色森林土壌及び細粒灰色低地土壌が、南西側には褐色森林土壌が分布している。

対象事業実施区域の大部分は、乾性褐色森林土壌が分布している。

②土壌汚染

「土壌汚染対策法について」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）によると、基本的な調査対象範囲では、土壌汚染対策法（平成14年法律第53号）に規定する「要措置区域等」及び農用地土壌の汚染防止等に関する法律に規定する「農用地土壌汚染対策地域」に指定されている地域はなかった。

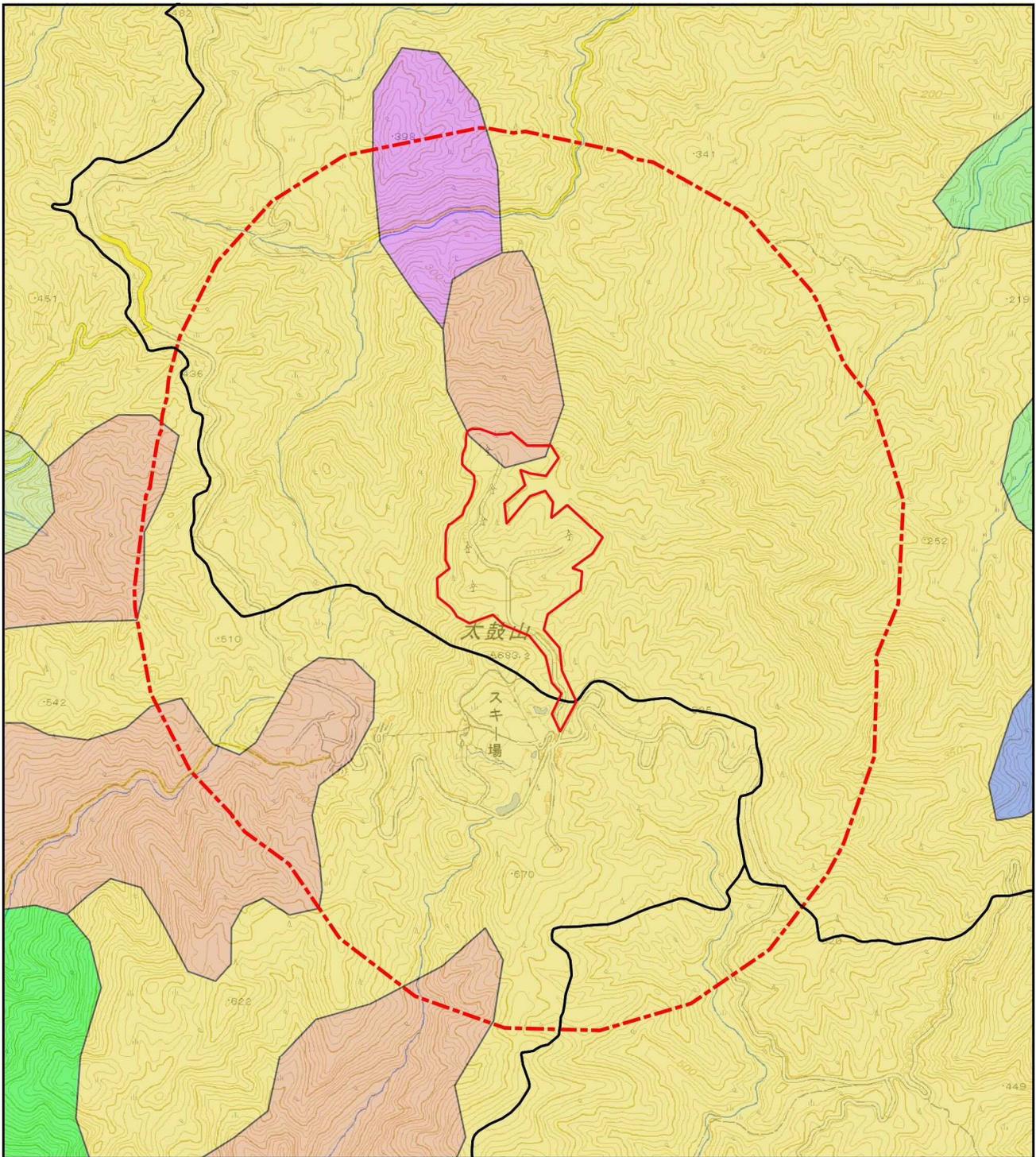
なお、平成30年5月11日時点において、京都府内では土壌汚染対策法に規定する要措置区域はなく、形質変更時要届出区域は5箇所が指定されている。

また、「平成29年度版 京都府環境白書」（平成30年 京都府）によると、伊根町、京丹後市及び宮津市における平成28年度の土壌汚染に関する苦情受付件数は、0件であった。

(2) 地盤の状況

基本的な調査対象範囲において、地盤沈下に関する情報は得られなかった。

「平成29年度版 京都府環境白書」（平成30年 京都府）によると、伊根町、京丹後市及び宮津市における平成28年度の地盤沈下に関する苦情受付件数は、0件であった。



凡例

- 灰色低地土壌
- 褐色森林土壌
- 乾性褐色森林土壌
- 岩石地
- 細粒グライ土壌
- 細粒灰色低地土壌
- 粗粒灰色低地土壌

- 対象事業実施区域
- 市町村界
- 基本的な調査対象範囲

250 0 250 500 750 1000 m

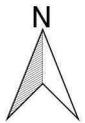


図 2. 2. 3-1 土壌図

出典等：「20万分の1土地分類基本調査 土壌分類」（国土交通省国土政策局国土情報課）により作成した。

2.2.4 地形及び地質の状況

(1) 地形の状況

①地形区分の状況

「20万分の1土地分類基本調査 地形区分」（国土交通省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）及び「日本の典型地形」（平成11年（財）日本地図センター）を用いて、地形の状況を整理した。

基本的な調査対象範囲における地形分類区分を表2.2.4-1に、地形分類図及び典型地形の分布状況を図2.2.4-1に示す。

基本的な調査対象範囲においては、小起伏山地及び中起伏山地がそれぞれ調査対象範囲の概ね半分を占めている。対象事業実施区域内では、南西側が中起伏山地、北東側が小起伏山地となっている。

なお、基本的な調査対象範囲には典型地形は存在しなかった。

表2.2.4-1 基本的な調査対象範囲における地形区分

| 地形分類区分 | |
|--------|-------|
| 山地 | 小起伏山地 |
| 山地 | 中起伏山地 |

出典等：「20万分の1土地分類基本調査 地形区分」（国土交通省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）のGISデータを参考に作成した。

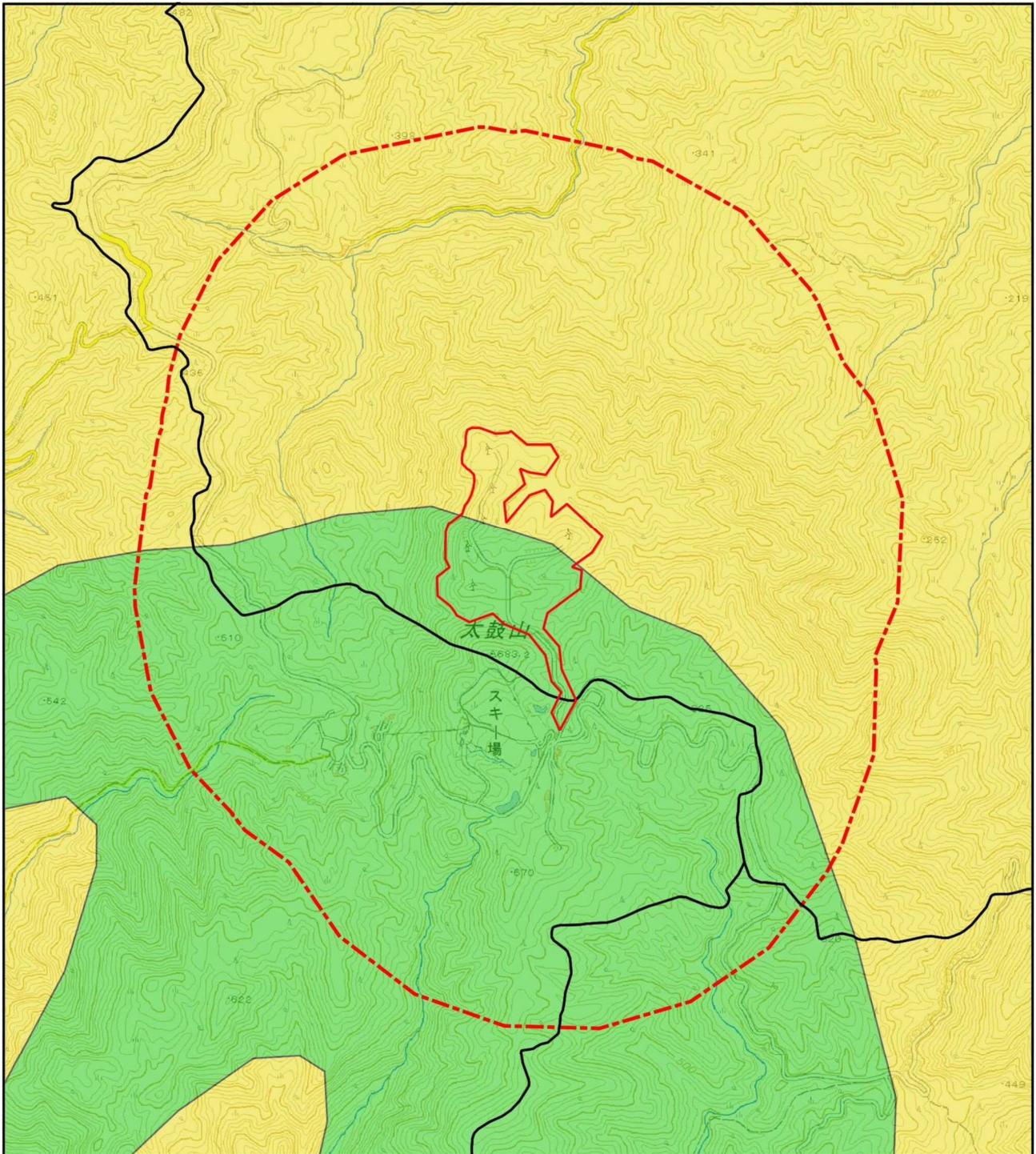
②傾斜の状況

「国土数値情報 標高・傾斜度5次メッシュデータ」（国土数値情報ダウンロードサービス 最終閲覧月：平成30年11月）を用いて傾斜の状況を整理した。

基本的な調査対象範囲における傾斜メッシュ図を図2.2.4-2に示す。

基本的な調査対象範囲においては、平均傾斜角度 5° ～ 35° のメッシュが分布している。また、対象事業実施区域内においては、平均傾斜角度は 10° ～ 30° のメッシュが分布している。対象事業実施区域の大部分は平均傾斜角度 10° ～ 15° と緩傾斜であるが、西側の平均傾斜角度は 25° ～ 30° と大きくなっている。

なお、平均傾斜角度は、10mメッシュ標高をリサンプリングした50mメッシュ標高から算出する傾斜角度の平均値（ $^{\circ}$ ）である。



凡例

- 小起伏山地
- 中起伏山地

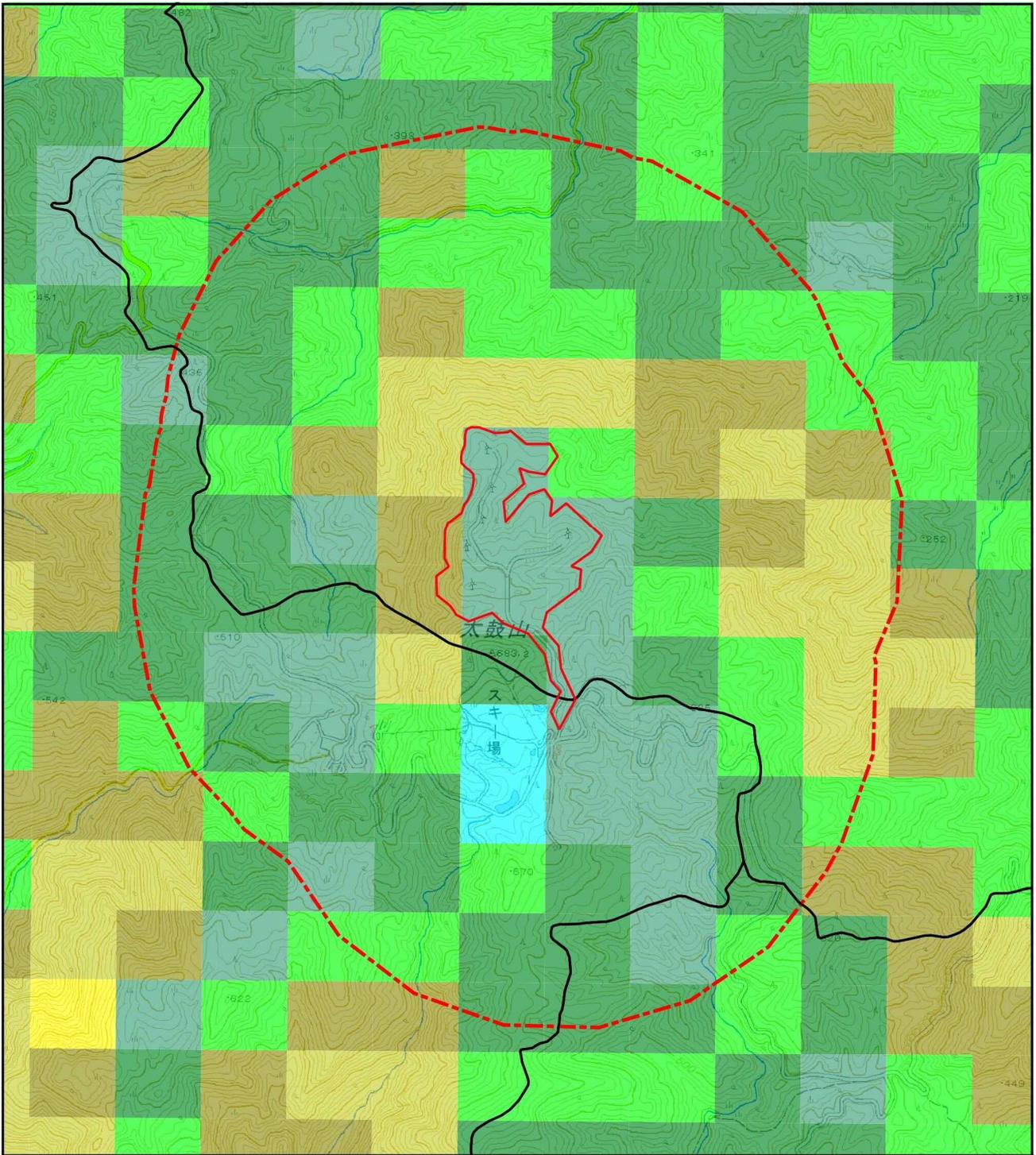
- 対象事業実施区域
- 市町村界
- 基本的な調査対象範囲

250 0 250 500 750 1000 m



図 2.2.4-1 地形分類図

出典等：「20万分の1土地分類基本調査 地形区分」(国土交通省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月)のGISデータを参考にして作成した。



凡例

- 5.0° ~ 10.0°
- 10.0° ~ 15.0°
- 15.0° ~ 20.0°
- 20.0° ~ 25.0°
- 25.0° ~ 30.0°
- 30.0° ~ 35.0°
- 35.0° ~ 40.0°

- 対象事業実施区域
- 市町村界
- 基本的な調査対象範囲

250 0 250 500 750 1000 m

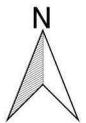


図 2.2.4-2 傾斜メッシュ図

出典等：「国土数値情報 標高・傾斜度5次メッシュデータ」（国土数値情報ダウンロードサービス 最終閲覧月：平成30年11月）のGISデータを参考にして作成した。

(2) 地質の状況

「20万分の1土地分類基本調査 表層地質」(国土交通省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月)を用いて、地質の状況を整理した。

基本的な調査対象範囲における表層地質区分を表2.2.4-2に、表層地質図を図2.2.4-3に示す。

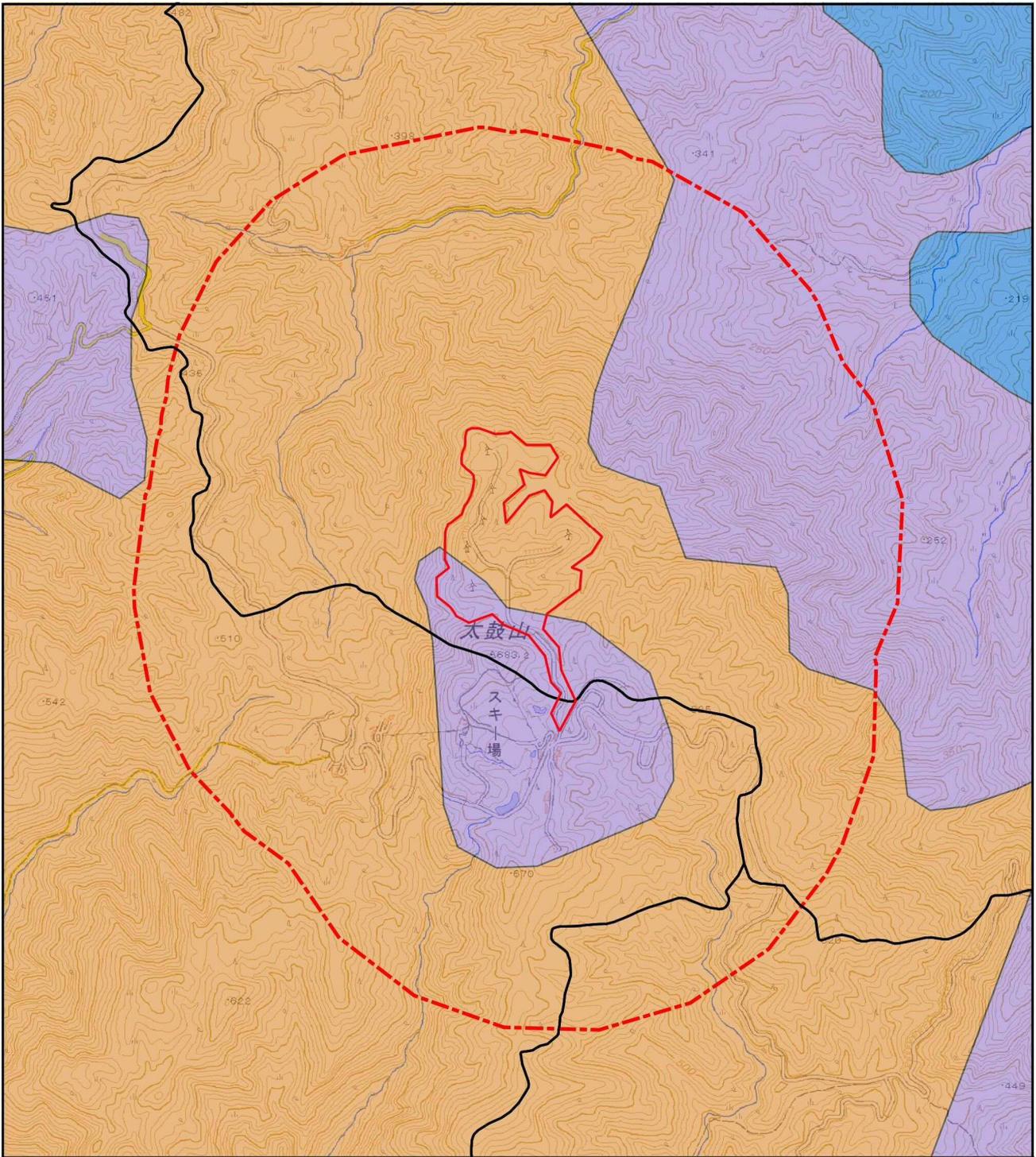
基本的な調査対象範囲においては主に安山岩質岩石がみられ、中央部及び東部に礫岩・砂岩・泥岩互層(新第三系)が分布している。

対象事業実施区域における表層地質は主に安山岩質岩石であるが、南西部には礫岩・砂岩・泥岩互層(新第三系)が分布している。

表2.2.4-2 基本的な調査対象範囲における表層地質区分

| 表層地質区分 | |
|--------|------------------|
| 火山性 | 安山岩質岩石 |
| 固結堆 | 礫岩・砂岩・泥岩互層(新第三系) |
| 火山性 | 流紋岩質岩石(TnRy) |

出典等：「20万分の1土地分類基本調査 表層地質」(国土交通省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月)



凡例

- 安山岩質岩石
- 流紋岩質岩石 (TnRy) 33京都
- 礫岩・砂岩・泥岩互層 (新第三系) 33京都

- 対象事業実施区域
- 市町村界
- 基本的な調査対象範囲

250 0 250 500 750 1000 m

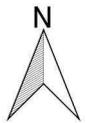


図 2.2.4-3 表層地質図

出典等：「20万分の1土地分類基本調査 表層地質」（国土交通省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）のGISデータを参考にして作成した。

(3) 重要な地形及び地質

表2.2.4-3に示す選定根拠によって、基本的な調査範囲における重要な地形及び地質を抽出した。

表2.2.4-3 重要な地形及び地質の資料及び選定根拠

| 選定根拠番号 | 資料及び選定根拠 | 発行等 |
|--------|--|---------------|
| 1 | 文化財保護法において以下に指定されているもの | 平成25年 法律第214号 |
| | 天然記念物【天】・・・学術上価値の高い地質鉱物として文化財保護法に基づき保護・保存を指定されているもの 特別天然記念物【特天】・・・天然記念物のうち特に重要なもの | |
| | 「京都府文化財保護条例」において以下に指定されているもの | 昭和56年 条例第27号 |
| | 天然記念物【府天】・・・京都府教育委員会が県内に存する学術上価値の高い地質鉱物として京都府文化財保護条例に基づき保護・保存を指定したもの | |
| | 「伊根町文化財保護条例」において以下に指定されているもの | 昭和60年 条例第14号 |
| | 天然記念物【町天】・・・伊根町教育委員会が町内に存する学術上価値の高い地質鉱物として伊根町文化財保護条例に基づき保護・保存を指定したもの | |
| | 「京丹後市文化財保護条例」において以下に指定されているもの | 平成16年 条例第121号 |
| | 天然記念物【京市天】・・・京丹後市教育委員会が市内に存する学術上価値の高い地質鉱物として京丹後市文化財保護条例に基づき保護・保存を指定したもの | |
| 2 | 「宮津市文化財保護条例」において以下に指定されているもの | 昭和58年 条例第35号 |
| | 天然記念物【宮市天】・・・宮津市教育委員会が市内に存する記念物のうち、市にとって重要なものとして宮津市文化財保護条例に基づき指定したもの | |
| 3 | 日本の地形レッドデータブック 第1集 新装版 -危機にある地形- で以下に該当するもの | 平成12年 (株)古今書院 |
| | ① 日本の地形を代表する典型的かつ希少、貴重な地形【希少】 ② ①に準じ、地形学の教育上重要な地形もしくは地形学の研究の進展に伴って新たに注目した方が良いと考えられる地形【準希】 ③ 多数存在するが、なかでも典型的な形態を示し、保存することが望ましい地形【特典】 ④ 動物や植物の生息・生育地として重要な地形【動植】 | |
| 4 | 日本の地形レッドデータブック 第2集 -保存すべき地形- で以下に該当するもの | 平成14年 (株)古今書院 |
| | ① 日本の地形を代表する典型的かつ希少、貴重な地形【希少】 ② ①に準じ、地形学の教育上重要な地形もしくは地形学の研究の進展に伴って新たに注目した方が良いと考えられる地形【準希】 ③ 多数存在するが、なかでも典型的な形態を示し、保存することが望ましい地形【特典】 ④ 動物や植物の生息・生育地として重要な地形【動植】 | |
| 4 | 京都府レッドデータブック2015 -地形・地質・自然現象- で以下に区分されるもの | 平成27年 京都府 |
| | 地形 【消滅】・・・京都府内の学術上高い価値を有する地形のうち、既に破壊され、現存しない地形。 【消滅危惧】・・・京都府内の学術上高い価値を有する地形のうち、現在著しく破壊されつつある地形、または大規模開発などによって破壊が危惧され、緊急に保護を必要とする地形。 【要注意】・・・京都府内の学術上高い価値を有する地形のうち、現時点で軽度の破壊を受けており、今後も破壊が続けば消滅が危惧される地形。 【要継続保護】・・・京都府内の学術上高い価値を有する地形のうち、現時点では保存が良好であり、今後も保護を続けるべき地形。 地質 【消滅】・・・京都府内の学術上高い価値を有する地質のうち、既に破壊や掘削され現存しない地質。 【消滅寸前】・・・京都府内の学術上高い価値を有する地質のうち、著しく破壊されつつある地質。または対象露頭はなくなったが、地下に対象物の延長はある地質。 【消滅危惧】・・・京都府内の学術上高い価値を有する地質のうち、破壊が継続されれば、消滅が危惧される地質。または対象露頭は埋め立てられたが、そこに存在することが明らかなもの。 【要注意】・・・京都府内の学術上高い価値を有する地質のうち、学術的にはすべての地点に該当するが、ここでは特に期待される研究指針が指摘される地質。 | |

注) 【】は、本書における図中での略称を示す。

基本的な調査対象範囲において重要な地形及び地質は存在しなかった。

参考として、対象事業実施区域に最も近い重要な地形及び地質を表2.2.4-4に、位置を図2.2.4-4に示す。

対象事業実施区域から北東約4kmに位置する布引滝は、「京都府レッドデータブック2015 -地形・地質・自然現象-」（以下「京都府レッドデータブック2015」という。）において、今後も保護を続けるべき地形として選定されている。

表2.2.4-4 重要な地形及び地質の抽出結果

| 名称 | 地形項目 | 選定根拠1 | 選定根拠2 | 選定根拠3 | 選定根拠4 | 備考 |
|-----|------|-------|-------|-------|-------|----|
| 布引滝 | 滝 | | | | 要継続保護 | |

上記の選定根拠は以下を示す。

選定根拠1：「文化財保護法」（昭和25年 法律第214号）、「京都府文化財保護条例」（昭和56年 条例第27号）、「伊根町文化財保護条例」（昭和60年 条例第14号）、「京丹後市文化財保護条例」（平成16年 条例第121号）、「宮津市文化財保護条例」（昭和58年 条例第35号）

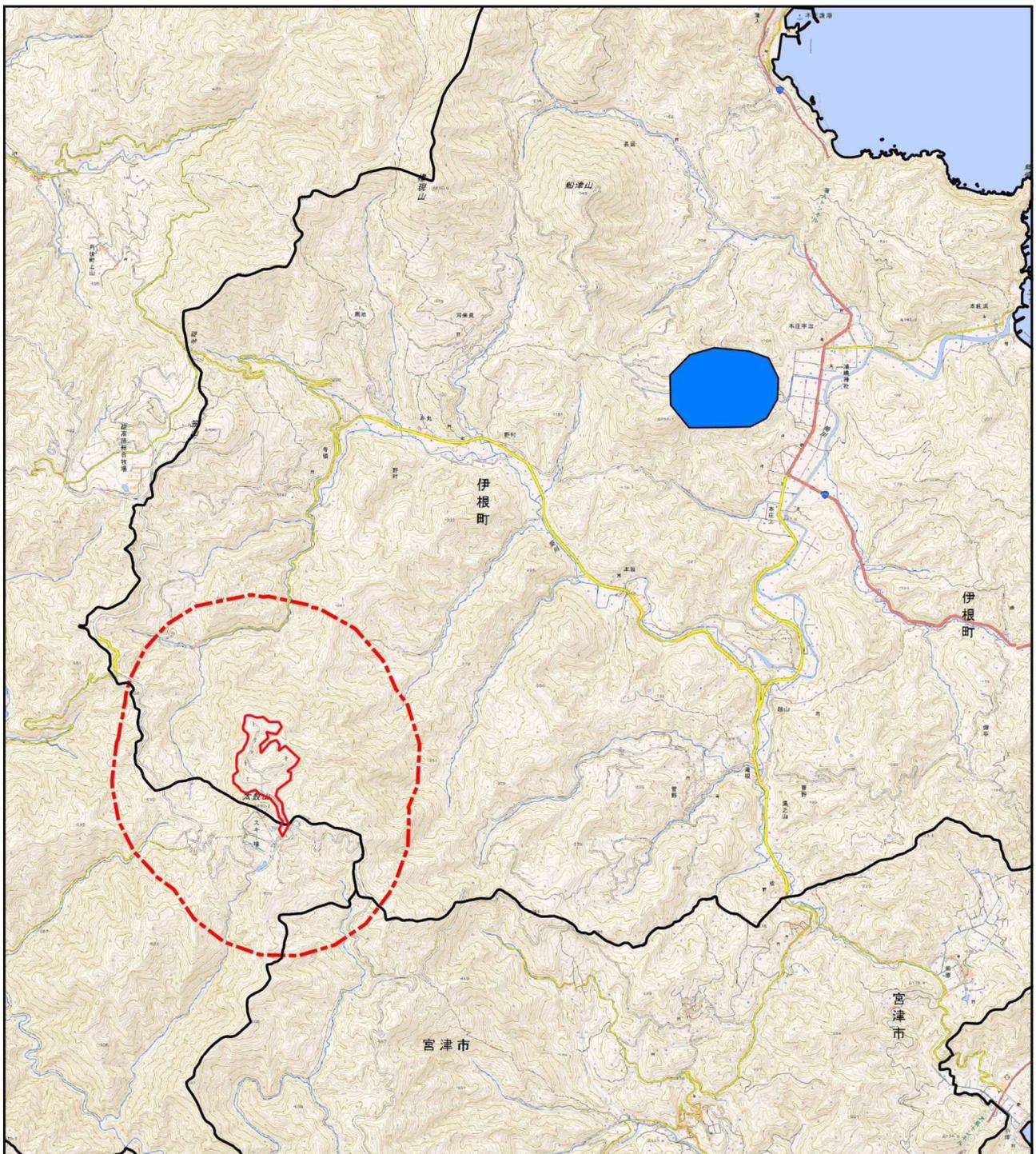
選定根拠2：「日本の地形レッドデータブック 第1集 新装版 -危機にある地形-」（平成12年 （株）古今書院）

選定根拠3：「日本の地形レッドデータブック 第2集 -保存すべき地形-」（平成14年 （株）古今書院）

選定根拠4：「京都府レッドデータブック2015 -地形・地質・自然現象-」

(4) 重要な自然現象

京都府レッドデータブック2015によると、基本的な調査対象範囲において重要な自然現象はない。



凡例

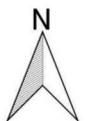
 布引滝

 対象事業実施区域

 市町村界

 基本的な調査対象範囲

1 0 1 2 km



出典等：「文化遺産オンライン」（文化庁が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）、「日本の地形レッドデータブック 第1集」（平成12年（株）古今書院）、「日本の地形レッドデータブック 第2集」（平成14年（株）古今書院）及び「京都府レッドデータブック 2015 地形・地質・自然生態系編」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

図 2.2.4-4 重要な地形及び地質位置図

2.2.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

(1) 動物の生息状況

①動物相の状況

ア. 調査方法

基本的な調査対象範囲において、動物相の状況の把握に使用した資料を表 2.2.5-1に、動物の抽出範囲を図2.2.5-1に示す。

調査に使用した資料は、可能な限り最新の知見で動物の分布情報が整理されており、専門家等で構成される検討会を経て作成されたものを使用した。

また、分布情報の精度を把握できるように、調査に使用した資料については、表 2.2.5-2のとおり分類した。

表 2.2.5-1 (1) 動物相の状況の把握に使用した資料

| 資料等 番号 | 文献等の名称 | 発行等 | 動物の 地域概況調査範囲 | 調査対象 分類群 |
|-----------|---|-----------|-----------------------------|-------------|
| 1 | 第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 哺乳類 | 平成14年 環境省 | 対象事業実施区域 が該当する二次メ ッシュ | 哺乳類 |
| 2 | 第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 両生類・爬虫類 | 平成13年 環境省 | 対象事業実施区域 が該当する二次メ ッシュ | 爬虫類 両生類 |
| 3 | 第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 昆虫(トンボ)類 | 平成14年 環境省 | 対象事業実施区域 が該当する二次メ ッシュ | 昆虫類 |
| 4 | 第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 昆虫(チョウ)類 | 平成14年 環境省 | 対象事業実施区域 が該当する二次メ ッシュ | 昆虫類 |
| 5 | 第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 昆虫(ガ)類 | 平成14年 環境省 | 対象事業実施区域 が該当する二次メ ッシュ | 昆虫類 |
| 6 | 第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 昆虫(甲虫)類 | 平成14年 環境省 | 対象事業実施区域 が該当する二次メ ッシュ | 昆虫類 |
| 7 | 第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 昆虫(セミ・水生半翅)類 | 平成14年 環境省 | 対象事業実施区域 が該当する二次メ ッシュ | 昆虫類 |
| 8 | 第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 淡水魚類 | 平成14年 環境省 | 対象事業実施区域 が該当する二次メ ッシュ | 魚類 |
| 9 | 第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 陸産淡水産貝類 | 平成14年 環境省 | 対象事業実施区域 が該当する二次メ ッシュ | 底生動物 |
| 10 | 第6回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査 鳥類繁殖分布調査報告書 | 平成16年 環境省 | 対象事業実施区域 が該当する二次メ ッシュ | 鳥類 |
| 11 | 「環境アセスメントデータベース センシティブティマップ」(環境省) (https://www2.env.go.jp/eiadb/ebidbs/) | 平成16年 環境省 | 対象事業実施区域 が該当する二次メ ッシュ | 鳥類 |

注：「二次メッシュ」とは、昭48行政管理局告示第143号統計に用いる標準地域メッシュ及び標準地域メッシュ・コードに規定する「標準地域メッシュ」のうち、国土地理院発行の2万5千分の1地形図の図郭(約10km×10km)に相当する範囲をいう。

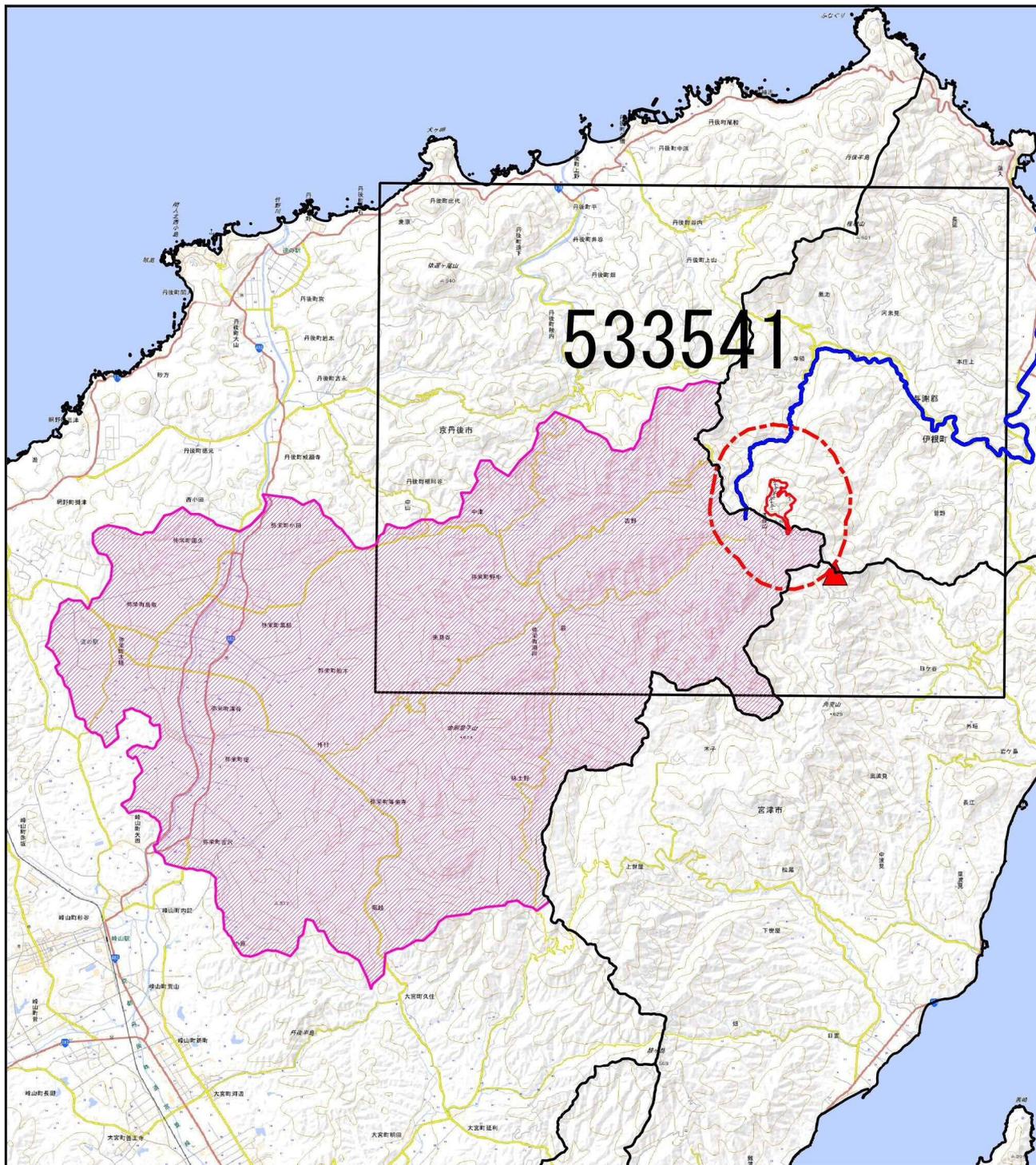
表 2.2.5-1 (2) 動物相の状況の把握に使用した資料

| 資料等 番号 | 文献等の名称 | 発行等 | 動物の 地域概況調査範囲 | 調査対象 分類群 |
|-----------|-------------------------------|-------------------------|-----------------|--|
| 12 | 筒川河川企画調査業務委託業務報告書 | 平成 10 年 京都府 宮津土木事務所 | 筒川 | 哺乳類 鳥類 爬虫類 両生類 昆虫類 魚類 底生動物 |
| 13 | ふるさと弥栄の自然 弥栄町自然環境調査報告書 | 平成 7 年 京都府弥 栄町 | 旧弥栄町 | 哺乳類 鳥類 爬虫類 両生類 昆虫類 魚類 底生動物 |
| 14 | 一寸法師山・市民風車設置に関する環境 影響調査報告書 | 平成 21 年 自然エ ネルギー市民の会 | 一寸法師山 | 哺乳類 鳥類 爬虫類 両生類 昆虫類 魚類 底生動物 |

注：「二次メッシュ」とは、昭 48 行政管理局告示第 143 号統計に用いる標準地域メッシュ及び標準地域メッシュ・コードに規定する「標準地域メッシュ」のうち、国土地理院発行の 2 万 5 千分の 1 地形図の図郭(約 10km×10km)に相当する範囲をいう。

表 2.2.5-2 調査範囲の区分

| 区分 | 調査範囲 | 該当する資料番号 |
|----|---------------------------|------------|
| A | 筒川及び一寸法師山周辺 | 資料 12、14 |
| B | 旧弥栄町及び基本的な調査対象範囲を含む二次メッシュ | 資料 1～11、13 |



凡例

□ 対象事業実施区域が該当する2次メッシュ

▨ 弥栄町

▲ 一寸法師山

— 筒川

□ 対象事業実施区域

□ 市町村界

□ 基本的な調査対象範囲

2 0 2 4 km



図 2.2.5-1 動物の抽出範囲

イ. 調査結果

文献その他の資料により抽出された主な動物を表2.2.5-3に示す。

なお、確認された種については資料編にリストを添付する。

表 2.2.5-3 文献その他の資料により抽出された主な動物

| 分類群 | 抽出種数 | 主な抽出種 |
|------|----------|--|
| 哺乳類 | 12科19種 | ヒミズ、コウベモグラ、ユビナガコウモリ、ノウサギ、ニホンリス、シマリス、スミスネズミ、アカネズミ、カヤネズミ、ヌートリア、ツキノワグマ、タヌキ、キツネ、テン、イタチ、アナグマ、ネコ、イノシシ、ホンドジカ |
| 鳥類 | 44科131種 | ヤマドリ、オシドリ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、ホトトギス、ヨタカ、タゲリ、ユリカモメ、ミサゴ、トビ、オオタカ、フクロウ、カワセミ、ハヤブサ、モズ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ等 |
| 爬虫類 | 5科9種 | ニホンイシガメ、クサガメ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ジムグリ、ヤマカガシ、ニホンマムシ |
| 両生類 | 6科15種 | アベサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、アカハライモリ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、タゴガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、トノサマガエル、ウシガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル、カジカガエル |
| 昆虫類 | 192科757種 | ホソミオツネトンボ、アオモンイトトンボ、ハグロトンボ、オニヤンマ、アキアカネ、ハラビロカマキリ、ササキリ、ケラ、エンマコオロギ、トノサマバッタ、クマゼミ、シロヘリカメムシ、ヤマトシリアゲ、チャバネセセリ、オオムラサキ、スジグロシロチョウ、イエバエ、マイマイカブリ、ハンミョウ、タマムシ、ゲンジボタル、ゴマダラカミキリ、オトシブミ、クロヤマアリ、ニホンミツバチ等 |
| 魚類 | 15科37種 | スナヤツメ、コイ、ギンブナ、オイカワ、ドジョウ、ナマズ、アカザ、アユ、ヤマメ、メダカ科の一種、カジカ、ドンコ、ウキゴリ、シマヨシノボリ、ヌマチチブ等 |
| 底生動物 | 60科128種 | ナミウズムシ、シマイシビル、ミズムシ、ヌマエビ、サワガニ、エルモンヒラタカゲロウ、チラカゲロウ、モンカゲロウ、ヨシノマダラカゲロウ、カミムラカワゲラ、ナベブタムシ、ヘビトンボ、ウルマーシマトビケラ、ヒゲナガカワトビケラ、ニンギョウトビケラ、シジミガムシ、ツヤドロムシ属の一種、ヒラタドロムシ等 |

②重要な種及び注目すべき生息地

ア. 重要な種

a. 重要な種の選定根拠

重要な動物の選定根拠を表 2.2.5-4 に示す。

また、重要種の分布情報の精度を把握できるよう、表 2.2.5-2 に示す確認区分で分類することとした。

表 2.2.5-4 (1) 重要な動物の選定根拠

| 選定根拠番号 | 選定根拠 | 発行等 |
|--|---|--|
| 1 | 「文化財保護法」において以下に指定されている種 | 昭和25年 法律第214号 |
| | 天然記念物【天】…学術上価値の高い動物（生息地、繁殖地、渡来地を含む）、として文化財保護法に基づき保護・保存を指定されたもの 特別天然記念物【特天】…天然記念物のうち特に重要なもの | |
| | 「京都府文化財保護条例」において以下に指定されているもの | 昭和56年 条例第27号 |
| | 天然記念物【府天】…京都府教育委員会が府内に存する学術上価値の高い動物（生息地、繁殖地、渡来地を含む）として京都府文化財保護条例に基づき保護・保存を指定したもの | |
| | 「伊根町文化財保護条例」において以下に指定されているもの | 昭和60年 条例第14号 |
| | 天然記念物【町天】…伊根町教育委員会が町内に存する学術上価値の高い動物（生息地、繁殖地、渡来地を含む）として伊根町文化財保護条例に基づき保護・保存を指定したもの | |
| | 「京丹後市文化財保護条例」において以下に指定されているもの | 平成16年 条例第121号 |
| | 天然記念物【京市天】…京丹後市教育委員会が市内に存する学術上価値の高い動物（生息地、繁殖地、渡来地を含む）として京丹後市文化財保護条例に基づき保護・保存を指定したもの | |
| | 「宮津市文化財保護条例」において以下に指定されているもの | 昭和58年 条例第35号 |
| 天然記念物【宮市天】…宮津市教育委員会が市内に存する記念物のうち、市にとって重要なものとして宮津市文化財保護条例に基づき指定したもの | | |
| 2 | 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において以下に指定されている種 | 平成4年 法律第75号 |
| | 国際希少野生動植物【際】…国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動植物の種であって政令で定めるもの 国内希少野生動植物【内】…個体が国内に生息し又は生育する絶滅のおそれのある野生動植物の種であって、政令で定めるもの 緊急指定種【緊】…国内希少野生動植物種及び国際希少野生動植物種以外の野生動植物の種で、保存を特に緊急に図る必要があると認められるもの。 | |
| | | |
| 3 | 「京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例」において以下に指定されている種 | 平成19年 京都府条例第51号 |
| | 指定希少野生生物【指希】…絶滅のおそれのある野生生物のうち、特に保全を図る必要があるものとして知事が指定するもの。 | |
| 4 | 「環境省レッドリスト2018」で以下に該当する種及び地域個体群 | 平成30年（哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、その他の無脊椎動物） |
| | 絶滅【EX】…我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 野生絶滅【EW】…飼育・栽培下でのみ存続している種 絶滅危惧Ⅰ類【CR+EN】…絶滅の危機に瀕している種 絶滅危惧ⅠA類【CR】…ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種 絶滅危惧ⅠB類【EN】…ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種 絶滅危惧Ⅱ類【VU】…絶滅の危険が増大している種 準絶滅危惧【NT】…現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 情報不足【DD】…評価するだけの情報が不足している種 付属資料 絶滅のおそれのある地域個体群【LP】…地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの | |

表 2.2.5-4 (2) 重要な動物の選定根拠

| 選定根拠番号 | 選定根拠 | 発行等 |
|--------|--|-----------------|
| 5 | 「京都府レッドデータブック 2015」京都府版レッドデータブックで以下に該当する種 | 平成 27 年 4 月 京都府 |
| | 絶滅種【絶滅】…府内ではすでに絶滅したと考えられる種 絶滅寸前種【絶滅寸前】…府内において絶滅の危機に瀕している種 絶滅危惧種【危惧】…府内において絶滅の危機が増大している種 準絶滅危惧種【準絶】…府内において存続基盤が脆弱な種 要注目種【要注目】…府内の生息状況について、今後の動向を注目すべき種および情報が不足している種 | |
| 6 | 「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック（水産庁編）」で以下に該当する種（環境省カテゴリーに準ずる） | 平成 10 年 3 月 水産庁 |
| | 希少種【希少】…存続基盤が脆弱な種・亜種 危急種【危急】…絶滅の危険が増大している種・亜種 絶滅危惧種【絶滅危惧】…絶滅の危機に瀕している種・亜種 | |

注：【】は、本書における図表中での略称を示す。

b. 哺乳類の重要な種

重要な哺乳類は表 2.2.5-5 に示すとおり、3 種が抽出された。

このうち、分布情報の精度が区分 A であるものは、ツキノワグマの 1 種であった。

c. 鳥類の重要な種

重要な鳥類は、表 2.2.5-6 に示すとおり、42 種が抽出された。

このうち、分布情報の精度が区分 A であるものは、ミサゴ、クマタカ、フクロウ、アカショウビン等を含む 39 種であった。

d. 爬虫類の重要な種

重要な爬虫類は、表 2.2.5-7 に示すとおり、7 種が抽出された。

このうち、分布情報の精度が区分 A であるものは、ニホンイシガメ、ニホントカゲ、アオダイショウ、ジムグリ、ヤマカガシ、ニホンマムシの 6 種であった。

e. 両生類の重要な種

重要な両生類は、表 2.2.5-8 に示すとおり、11 種が抽出された。

このうち、分布情報の精度が区分 A であるものは、ヒダサンショウウオ、ニホンアカガエル、トノサマガエル、カジカガエルの 4 種であった。

f. 昆虫類の重要な種

重要な昆虫類は、表 2.2.5-9 に示すとおり、34 種が抽出された。

このうち、分布情報の精度が区分 A であるものは、ハッチョウトンボ、ゲンジボタル、ヘイケボタルの 3 種であった。

g. 魚類の重要な種

重要な魚類は、表 2.2.5-10 に示すとおり、10 種が抽出された。

このうち、分布情報の精度が区分 A であるものは、ニホンウナギ、ゲンゴロウブナ、ドジョウ、サケ、サツキマス、カマキリ（アユカケ）、ゴクラクハゼの 7 種であった。

h. 底生動物の重要な種

重要な底生動物は、表 2.2.5-11 に示すとおり、3 種が抽出された。

このうち、分布情報の精度が区分 A であるものは、マシジミ、ヌマエビ、モクズガニの 3 種であった。

表 2.2.5-5 哺乳類の重要な種

| No. | 科名 | 種名 | 選定根拠 | | | | | | 出典 | 分布情報の精度 | |
|-----|--------|----------|------|---|---|---|------|---|-------------|---------|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | A | B |
| 1 | ヒナコウモリ | ユビナガコウモリ | | | | | 絶滅寸前 | | 資料13 | | ○ |
| 2 | ネズミ | スミスネズミ | | | | | 準絶 | | 資料13 | | ○ |
| 3 | クマ | ツキノワグマ | | | | | 絶滅寸前 | | 資料1, 13, 14 | ○ | ○ |
| 計 | 3科 | 3種 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | | 1 | 3 |

注1: 上記の選定根拠は以下を示す。

- 1: 「文化財保護法」 (昭和25年 法律第214号 文化庁)
- 2: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成4年 法律第75号 文化庁)
- 3: 「京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例」 (平成19年 条例第51号 京都府)
- 4: 「環境省レッドリスト2018」 (平成30年環境省)
- 5: 「京都府レッドデータブック2015」 (平成27年 京都府)
- 6: 「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック (水産庁編)」 (平成10年 水産庁)

注2: 上記の出典は以下を示す。

- 資料 1: 「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 哺乳類」 (平成14年 環境省)
- 資料13: 「ふるさと弥栄の自然 弥栄町自然環境調査報告書」 (平成7年 京都府弥栄町)
- 資料14: 「一寸法師山・市民風車設置に関する環境影響調査報告書」 (平成21年 自然エネルギー市民の会)

注3: 上記の分布情報の精度は以下を示す。

- 区分A: 筒川及び一寸法師山周辺
- 区分B: 旧弥栄町及び基本的な調査対象範囲を含む二次メッシュ

注4: 科、種名の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省が運営するホームページ)に準拠した。

表 2.2.5-6 鳥類の重要な種

| No. | 科名 | 種名 | 選定根拠 | | | | | | 出典 | 分布情報の精度 | |
|-----|---------|---------|-------|---|----|----|------|------|--------------|----------|----|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | A | B |
| 1 | キジ | ウズラ | | | | | VU | 絶滅寸前 | 資料14 | ○ | |
| 2 | | ヤマドリ | | | | | | 準絶 | 資料13, 14 | ○ | ○ |
| 3 | カモ | オシドリ | | | | | DD | 準絶 | 資料12, 13 | ○ | ○ |
| 4 | | ホオジロガモ | | | | | | 準絶 | 資料14 | ○ | |
| 5 | カイツブリ | カイツブリ | | | | | | 準絶 | 資料13, 14 | ○ | ○ |
| 6 | ハト | アオバト | | | | | | 準絶 | 資料13, 14 | ○ | ○ |
| 7 | ウ | ヒメウ | | | | | EN | 準絶 | 資料12 | ○ | |
| 8 | クイナ | ヒクイナ | | | | | NT | 危惧 | 資料14 | ○ | |
| 9 | | オオバン | | | | | | 準絶 | 資料14 | ○ | |
| 10 | カッコウ | ジュウイチ | | | | | | 準絶 | 資料13, 14 | ○ | ○ |
| 11 | | ツツドリ | | | | | | 準絶 | 資料10, 13, 14 | ○ | ○ |
| 12 | | カッコウ | | | | | | 準絶 | 資料10, 13, 14 | ○ | ○ |
| 13 | ヨタカ | ヨタカ | | | | | NT | 危惧 | 資料13, 14 | ○ | ○ |
| 14 | チドリ | タゲリ | | | | | | 準絶 | 資料13 | | ○ |
| 15 | シギ | イソシギ | | | | | | 準絶 | 資料12, 14 | ○ | |
| 16 | カモメ | ウミネコ | | | | | | 要注目 | 資料12, 14 | ○ | |
| 17 | ミサゴ | ミサゴ | | | | | NT | 危惧 | 資料12, 14 | ○ | |
| 18 | タカ | ハチクマ | | | | | NT | 危惧 | 資料14 | ○ | |
| 19 | | ハイタカ | | | | | NT | 準絶 | 資料13, 14 | ○ | ○ |
| 20 | | オオタカ | | | | 指希 | NT | 危惧 | 資料14 | ○ | |
| 21 | | サシバ | | | | | VU | 危惧 | 資料10, 13, 14 | ○ | ○ |
| 22 | | ノスリ | | | | | | 準絶 | 資料12, 13 | ○ | ○ |
| 23 | | クマタカ | | 内 | | | EN | 危惧 | 資料11, 13, 14 | ○ | ○ |
| 24 | | フクロウ | コノハズク | | | | | | 絶滅寸前 | 資料13, 14 | ○ |
| 25 | フクロウ | | | | | | | 準絶 | 資料10, 14 | ○ | ○ |
| 26 | アオバズク | | | | | | | 準絶 | 資料14 | ○ | |
| 27 | カワセミ | アカショウビン | | | | | | 危惧 | 資料10, 14 | ○ | ○ |
| 28 | | ヤマセミ | | | | | | 危惧 | 資料13, 14 | ○ | ○ |
| 29 | ブッポウソウ | ブッポウソウ | | | 指希 | EN | 絶滅寸前 | 資料13 | | ○ | |
| 30 | キツツキ | アカゲラ | | | | | | 準絶 | 資料10, 13, 14 | ○ | ○ |
| 31 | ハヤブサ | ハヤブサ | | 内 | | | VU | 危惧 | 資料13, 14 | ○ | ○ |
| 32 | サンショウクイ | サンショウクイ | | | | | VU | 危惧 | 資料10, 13, 14 | ○ | ○ |
| 33 | カササギヒタキ | サンコウチョウ | | | | | | 準絶 | 資料10, 13, 14 | ○ | ○ |
| 34 | モズ | アカモズ | | | | | EN | | 資料13 | | ○ |
| 35 | ゴジュウカラ | ゴジュウカラ | | | | | | 準絶 | 資料13, 14 | ○ | ○ |
| 36 | ムクドリ | コムクドリ | | | | | | 危惧 | 資料12 | ○ | |
| 37 | ヒタキ | マミジロ | | | | | | 危惧 | 資料10, 14 | ○ | ○ |
| 38 | | トラツグミ | | | | | | 準絶 | 資料13, 14 | ○ | ○ |
| 39 | | クロツグミ | | | | | | 準絶 | 資料10, 13, 14 | ○ | ○ |
| 40 | | コルリ | | | | | | 準絶 | 資料13, 14 | ○ | ○ |
| 41 | | コサメビタキ | | | | | | 危惧 | 資料13, 14 | ○ | ○ |
| 42 | ホオジロ | クロジ | | | | | | 危惧 | 資料14 | ○ | ○ |
| 計 | 25科 | 42種 | 0 | 2 | 2 | 15 | 41 | 0 | | 39 | 30 |

注1：上記の選定根拠は以下を示す。

- 1：「文化財保護法」（昭和25年 法律第214号 文化庁）
- 2：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年 法律第75号 文化庁）
- 3：「京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例」（平成19年 条例第51号 京都府）
- 4：「環境省レッドリスト2018」（平成30年環境省）
- 5：「京都府レッドデータブック2015」（平成27年 京都府）
- 6：「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック（水産庁編）」（平成10年 水産庁）

注2：上記の出典は以下を示す。

- 資料10：「第6回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査 鳥類繁殖分布調査報告書」（平成16年 環境省）
 資料11：「環境アセスメントデータベース センシティブティマップ」（環境省）（<https://www2.env.go.jp/eiadb/ebidbs/>）
 資料12：「筒川河川企画調査業務委託業務報告書」（平成10年 京都府宮津土木事務所）
 資料13：「ふるさと弥栄の自然 弥栄町自然環境調査報告書」（平成7年 京都府弥栄町）
 資料14：「一寸法師山・市民風車設置に関する環境影響調査報告書」（平成21年 自然エネルギー市民の会）

注3：上記の分布情報の精度は以下を示す。

- 区分A：筒川及び一寸法師山周辺
 区分B：旧弥栄町及び基本的な調査対象範囲を含む二次メッシュ

注4：科、種名の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省）に準拠した。

表 2.2.5-7 爬虫類の重要な種

| No. | 科名 | 種名 | 選定根拠 | | | | | | 出典 | 分布情報の精度 | |
|-----|-------|---------|------|---|---|----|-----|-----|--------------|---------|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | A | B |
| 1 | イシガメ | ニホンイシガメ | | | | NT | 要注目 | | 資料12 | ○ | |
| 2 | | クサガメ | | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ |
| 3 | トカゲ | ニホントカゲ | | | | | | 要注目 | 資料2, 12, 13 | ○ | ○ |
| 4 | ナミヘビ | アオダイショウ | | | | | | 要注目 | 資料12, 13 | ○ | ○ |
| 5 | | ジムグリ | | | | | | 要注目 | 資料14 | ○ | |
| 6 | | ヤマカガシ | | | | | | 準絶 | 資料13, 14 | ○ | ○ |
| 7 | クサリヘビ | ニホンマムシ | | | | | | 要注目 | 資料12, 13, 14 | ○ | ○ |
| 計 | 4科 | 7種 | 0 | 0 | 0 | 1 | 7 | 0 | | 6 | 5 |

注1：上記の選定根拠は以下を示す。

- 1：「文化財保護法」（昭和25年 法律第214号 文化庁）
- 2：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年 法律第75号 文化庁）
- 3：「京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例」（平成19年 条例第51号 京都府）
- 4：「環境省レッドリスト2018」（平成30年環境省）
- 5：「京都府レッドデータブック2015」（平成27年 京都府）
- 6：「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック（水産庁編）」（平成10年 水産庁）

注2：上記の出典は以下を示す。

- 資料 2：「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 両生類・爬虫類」（平成13年 環境省）
 資料12：「簡川河川企画調査業務委託業務報告書」（平成10年 京都府宮津土木事務所）
 資料13：「ふるさと弥栄の自然 弥栄町自然環境調査報告書」（平成7年 京都府弥栄町）
 資料14：「一寸法師山・市民風車設置に関する環境影響調査報告書」（平成21年 自然エネルギー市民の会）

注3：上記の分布情報の精度は以下を示す。

- 区分A：簡川及び一寸法師山周辺
 区分B：旧弥栄町及び基本的な調査対象範囲を含む二次メッシュ

注4：科、種名の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省）に準拠した。

表 2.2.5-8 両生類の重要な種

| No. | 科名 | 種名 | 選定根拠 | | | | | | 出典 | 分布情報の精度 | |
|-----|---------|-------------|------|---|----|----|------|-------------|--------------|---------|----|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | A | B |
| 1 | サンショウウオ | アベサンショウウオ | 府天 | 内 | 指希 | CR | 絶滅寸前 | 絶滅危機 | 資料13 | | ○ |
| 2 | | ヒダサンショウウオ | | | | NT | 準絶 | | 資料2, 13, 14 | ○ | ○ |
| 3 | | ハコネサンショウウオ | | | | | | 絶滅寸前 | 資料13 | | ○ |
| 4 | イモリ | アカハライモリ | | | | NT | 要注目 | 資料13 | | ○ | |
| 5 | ヒキガエル | アズマヒキガエル | | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ |
| 6 | アカガエル | ニホンアカガエル | | | | | | 要注目 | 資料12, 13, 14 | ○ | ○ |
| 7 | | ヤマアカガエル | | | | | | 要注目 | 資料2, 13 | | ○ |
| 8 | | トノサマガエル | | | | NT | 要注目 | 資料2, 12, 13 | ○ | ○ | |
| 9 | | ツチガエル | | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ |
| 10 | アオガエル | シュレーゲルアオガエル | | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ |
| 11 | | カジカガエル | | | | | | 要注目 | 資料12, 13, 14 | ○ | ○ |
| 計 | 5科 | 11種 | 1 | 1 | 1 | 4 | 11 | 1 | | 4 | 11 |

注1：上記の選定根拠は以下を示す。

- 1：「文化財保護法」（昭和25年 法律第214号 文化庁）
- 2：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年 法律第75号 文化庁）
- 3：「京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例」（平成19年 条例第51号 京都府）
- 4：「環境省レッドリスト2018」（平成30年環境省）
- 5：「京都府レッドデータブック2015」（平成27年 京都府）
- 6：「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック（水産庁編）」（平成10年 水産庁）

注2：上記の出典は以下を示す。

- 資料 2：「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 両生類・爬虫類」（平成13年 環境省）
 資料12：「簡川河川企画調査業務委託業務報告書」（平成10年 京都府宮津土木事務所）
 資料13：「ふるさと弥栄の自然 弥栄町自然環境調査報告書」（平成7年 京都府弥栄町）
 資料14：「一寸法師山・市民風車設置に関する環境影響調査報告書」（平成21年 自然エネルギー市民の会）

注3：上記の分布情報の精度は以下を示す。

- 区分A：簡川及び一寸法師山周辺
 区分B：旧弥栄町及び基本的な調査対象範囲を含む二次メッシュ

注4：科、種名の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省）に準拠した。

表 2.2.5-9 昆虫類の重要な種

| No. | 科名 | 種名 | 選定根拠 | | | | | | 出典 | 分布情報の精度 | |
|-----|---------|--------------|------|---|---|----|-----|----------|------|---------|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | A | B |
| 1 | イトトンボ | セスジイトトンボ | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ | |
| 2 | | オオイトトンボ | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ | |
| 3 | ヤンマ | カトリヤンマ | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ | |
| 4 | サナエトンボ | ミヤマサナエ | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ | |
| 5 | | キイロサナエ | | | | NT | 準絶 | 資料13 | | ○ | |
| 6 | | ヒラサナエ | | | | | 要注目 | 資料3 | | ○ | |
| 7 | | ヒメサナエ | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ | |
| 8 | ムカシヤンマ | ムカシヤンマ | | | | | 準絶 | 資料3 | | ○ | |
| 9 | トンボ | ハッチョウトンボ | 府天 | | | | 準絶 | 資料12, 13 | ○ | ○ | |
| 10 | | ミヤマアカネ | | | | | 準絶 | 資料13 | | ○ | |
| 11 | ツユムシ | ヘリグロツユムシ | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ | |
| 12 | ケラ | ケラ | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ | |
| 13 | イトアメンボ | イトアメンボ | | | | | VU | 危惧 | 資料13 | ○ | |
| 14 | タテハチョウ | ウラギンスジヒョウモン | | | | | VU | 危惧 | 資料13 | ○ | |
| 15 | | オオムラサキ | | | | | NT | 準絶 | 資料13 | ○ | |
| 16 | ジャノメチョウ | ヒメキマダラヒカゲ | | | | | 準絶 | 資料4, 13 | | ○ | |
| 17 | ヤマユガ | オナガミズアオ | | | | | NT | 資料13 | | ○ | |
| 18 | ガガンボ | ミカドガガンボ | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ | |
| 19 | ムシヒキアブ | オオイシアブ | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ | |
| 20 | オサムシ | オグラヒラタゴミムシ | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ | |
| 21 | ゲンゴロウ | クロゲンゴロウ | | | | | NT | 危惧 | 資料13 | ○ | |
| 22 | | ゲンゴロウ | | | | | VU | | 資料13 | ○ | |
| 23 | | シマゲンゴロウ | | | | | NT | | 資料13 | ○ | |
| 24 | | マダラシマゲンゴロウ | | | | | CR | 絶滅寸前 | 資料13 | ○ | |
| 25 | | ケシゲンゴロウ | | | | | NT | | 資料13 | ○ | |
| 26 | ミズスマシ | ミズスマシ | | | | | VU | 危惧 | 資料13 | ○ | |
| 27 | ガムシ | ガムシ | | | | | NT | 要注目 | 資料13 | ○ | |
| 28 | ホタル | ゲンジボタル | | | | | 要注目 | 資料12, 13 | ○ | ○ | |
| 29 | | ヘイケボタル | | | | | 要注目 | 資料12, 13 | ○ | ○ | |
| 30 | ゴミムシダマシ | シワナガキマワリ | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ | |
| 31 | カミキリムシ | ホソツツリンゴカミキリ | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ | |
| 32 | アリ | トゲアリ | | | | | VU | 資料13 | | ○ | |
| 33 | ミツバチ | トラマルハナバチ本土亜種 | | | | | 準絶 | 資料13 | | ○ | |
| 34 | | クロマルハナバチ | | | | | NT | 危惧 | 資料13 | | ○ |
| 計 | 22科 | 34種 | 1 | 0 | 0 | 14 | 29 | 0 | 3 | 34 | |

注1：上記の選定根拠は以下を示す。

- 1：「文化財保護法」（昭和25年 法律第214号 文化庁）
- 2：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年 法律第75号 文化庁）
- 3：「京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例」（平成19年 条例第51号 京都府）
- 4：「環境省レッドリスト2018」（平成30年環境省）
- 5：「京都府レッドデータブック2015」（平成27年 京都府）
- 6：「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック（水産庁編）」（平成10年 水産庁）

注2：上記の出典は以下を示す。

- 資料 3：「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 昆虫（トンボ）類」（平成14年 環境省）
 資料 4：「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 昆虫（チョウ）類」（平成14年 環境省）
 資料12：「筒川河川企画調査業務委託業務報告書」（平成10年 京都府宮津土木事務所）
 資料13：「ふるさと弥栄の自然 弥栄町自然環境調査報告書」（平成7年 京都府弥栄町）

注3：上記の分布情報の精度は以下を示す。

区分A：筒川及び一寸法師山周辺

区分B：旧弥栄町及び基本的な調査対象範囲を含む二次メッシュ

注4：科、種名の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省）に準拠した。

表 2.2.5-10 魚類の重要な種

| No. | 科名 | 種名 | 選定根拠 | | | | | | 出典 | 分布情報の精度 | |
|-----|--------|-------------|------|---|----|----|-----|------|----------|---------|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | A | B |
| 1 | ヤツメウナギ | スナヤツメ | | | | VU | | 希少 | 資料13 | | ○ |
| 2 | ウナギ | ニホンウナギ | | | EN | | | | 資料12, 13 | ○ | ○ |
| 3 | コイ | ゲンゴロウブナ | | | EN | | | | 資料12 | ○ | |
| 4 | ドジョウ | ドジョウ | | | | NT | | | 資料12, 13 | ○ | ○ |
| 5 | アカザ | アカザ | | | | VU | 危惧 | | 資料13 | | ○ |
| 6 | サケ | サケ | | | | | 要注目 | | 資料12 | ○ | |
| 7 | | サツキマス | | | | NT | | 絶滅危惧 | 資料12 | ○ | |
| 8 | メダカ | メダカ科の一種 | | | | VU | 危惧 | | 資料13 | | ○ |
| 9 | カジカ | カマキリ (アユカケ) | 府天 | | | VU | 危惧 | | 資料12 | ○ | |
| 10 | ハゼ | ゴクラクハゼ | | | | | 危惧 | | 資料12 | ○ | |
| 計 | 9科 | 10種 | 1 | 0 | 2 | 6 | 5 | 2 | | 7 | 5 |

注1：上記の選定根拠は以下を示す。

- 1：「文化財保護法」（昭和25年 法律第214号 文化庁）
- 2：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年 法律第75号 文化庁）
- 3：「京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例」（平成19年 条例第51号 京都府）
- 4：「環境省レッドリスト2018」（平成30年環境省）
- 5：「京都府レッドデータブック2015」（平成27年 京都府）
- 6：「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック（水産庁編）」（平成10年 水産庁）

注2：上記の出典は以下を示す。

- 資料12：「筒川河川企画調査業務委託業務報告書」（平成10年 京都府官津土木事務所）
 資料13：「ふるさと弥栄の自然 弥栄町自然環境調査報告書」（平成7年 京都府弥栄町）

注3：上記の分布情報の精度は以下を示す。

- 区分A：筒川及び一寸法師山周辺
 区分B：旧弥栄町及び基本的な調査対象範囲を含む二次メッシュ

注4：科、種名の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省）に準拠した。

表 2.2.5-11 底生動物の重要な種

| No. | 科名 | 種名 | 選定根拠 | | | | | | 出典 | 分布情報の精度 | |
|-----|-------|-------|------|---|---|----|------|---|------|---------|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | A | B |
| 1 | シジミ | マシジミ | | | | VU | 絶滅危惧 | | 資料12 | ○ | |
| 2 | ヌマエビ | ヌマエビ | | | | | 絶滅危惧 | | 資料12 | ○ | |
| 3 | モクズガニ | モクズガニ | | | | | 要注目 | | 資料12 | ○ | |
| 計 | 3科 | 3種 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 0 | | 3 | 0 |

注1：上記の選定根拠は以下を示す。

- 1：「文化財保護法」（昭和25年 法律第214号 文化庁）
- 2：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年 法律第75号 文化庁）
- 3：「京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例」（平成19年 条例第51号 京都府）
- 4：「環境省レッドリスト2018」（平成30年環境省）
- 5：「京都府レッドデータブック2015」（平成27年 京都府）
- 6：「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック（水産庁編）」（平成10年 水産庁）

注2：上記の出典は以下を示す。

- 資料12：「筒川河川企画調査業務委託業務報告書」（平成10年 京都府官津土木事務所）

注3：上記の分布情報の精度は以下を示す。

- 区分A：筒川及び一寸法師山周辺
 区分B：旧弥栄町及び基本的な調査対象範囲を含む二次メッシュ

注4：科、種名の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省）に準拠した。

イ. 注目すべき生息地

a. 調査方法

表 2.2.5-12 に示す選定根拠により、注目すべき生息地を抽出した。

表2.2.5-12 (1) 注目すべき生息地の選定根拠

| 選定根拠番号 | 選定根拠 | 発行等 |
|--------|--|--------------------------------------|
| 1 | 「文化財保護法」において以下に指定されている種 | 昭和25年 法律第214号 |
| | 天然記念物【天】…学術上価値の高い動物（生息地、繁殖地、渡来地を含む）、として文化財保護法に基づき保護・保存を指定されたもの 特別天然記念物【特天】…天然記念物のうち特に重要なもの | |
| | 「京都府文化財保護条例」において以下に指定されているもの | 昭和56年 条例第27号 |
| | 天然記念物【府天】…京都府教育委員会が府内に存する学術上価値の高い動物（生息地、繁殖地、渡来地を含む）として京都府文化財保護条例に基づき保護・保存を指定したもの | |
| | 「伊根町文化財保護条例」において以下に指定されているもの | 昭和60年 条例第14号 |
| | 天然記念物【町天】…伊根町教育委員会が町内に存する学術上価値の高い動物（生息地、繁殖地、渡来地を含む）として伊根町文化財保護条例に基づき保護・保存を指定したもの | |
| | 「京丹後市文化財保護条例」において以下に指定されているもの | 平成16年 条例第121号 |
| | 天然記念物【京市天】…京丹後市教育委員会が市内に存する学術上価値の高い動物（生息地、繁殖地、渡来地を含む）として京丹後市文化財保護条例に基づき保護・保存を指定したもの | |
| | 「宮津市文化財保護条例」において以下に指定されているもの | 昭和58年 条例第35号 |
| | 天然記念物【宮市天】…宮津市教育委員会が市内に存する記念物のうち、市にとって重要なものとして宮津市文化財保護条例に基づき指定したもの | |
| 2 | 「ラムサール条約（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約）」で定められた下記の基準によって指定された湿地 | 1975年 発効 |
| | 【基準1】 特定の生物地理区を代表するタイプの湿地、又は希少なタイプの湿地 | |
| | 【基準2】 絶滅のおそれのある種や群集を支えている湿地 | |
| | 【基準3】 生物地理区における生物多様性の維持に重要な動植物を支えている湿地 | |
| | 【基準4】 動植物のライフサイクルの重要な段階を支えている湿地。または悪条件の期間中に動植物の避難場所となる湿地 | |
| | 【基準5】 定期的に2万羽以上の水鳥を支える湿地 | |
| | 【基準6】 水鳥の1種または1亜種の個体群で、個体数の1%以上を定期的に支えている湿地 | |
| | 【基準7】 固有な魚類の亜種、種、科の相当な割合を支えている湿地。また湿地というものの価値を代表するような、魚類の生活史の諸段階や、種間相互作用、個体群を支え、それによって世界の生物多様性に貢献するような湿地 | |
| | 【基準8】 魚類の食物源、産卵場、稚魚の生息場として重要な湿地。あるいは湿地内外における漁業資源の重要な回遊経路となっている湿地 | |
| | 【基準9】 湿地に依存する鳥類に分類されない動物の種及び亜種の個体群で、その個体群の1パーセントを定期的に支えている湿地 | |
| 3 | 「日本の重要湿地500」 環境省が生物多様性保全の観点から、以下の基準で選定した重要湿地 | 環境省 |
| | 【基準1】 湿原・塩性湿地、河川・湖沼、干潟・マングローブ林、藻場、サンゴ礁のうち、生物の生育・生息地として典型的または相当の規模の面積を有している場合 | |
| | 【基準2】 希少種、固有種等が生育・生息している場合 | |
| | 【基準3】 多様な生物相を有している場合 | |
| | 【基準4】 特定の種の個体群のうち、相当数の割合の個体数が生息する場合 【基準5】 生物の生活史の中で不可欠な地域（採餌場、産卵場等）である場合 | |
| 4 | 「重要野鳥生息地（IBA）」 BirdLife InterNationalが以下の基準で選定した重要野鳥生息地 | BirdLife InterNational (財) 日本野鳥の会 |
| | 【基準1】 …世界的に絶滅の危機にある種が生息している。 | |
| | 【基準2】 …限定された地域に生息する種、または固有種が生息している。 | |
| | 【基準3】 …あるバイオームに特徴的な種の相当種が生息している。 | |
| | 【基準4】 …多くの渡り鳥が利用／生息している。 | |

注：【 】は、本書における図中での略称を示す。

表2.2.5-12 (2) 注目すべき生息地の選定根拠

| 選定根拠番号 | 選定根拠 | 発行等 |
|--------|--|----------------------------|
| 5 | 「Key Biodiversity Area (KBA、生物多様性の保全の鍵になる重要な地域)」 | CONSERVATION INTERNATIONAL |
| | CONSERVATION INTERNATIONAL JAPANが以下の基準で選定した地域 | JAPAN |
| | 【危機性】…国際自然保護連合 (IUCN) が作成しているIUCNレッドリストにおいて「深刻な危機 (CR)、危機 (EN)」に該当する種が1個体でも存在するサイト、または「危急 (VU)」に該当する種が30個体、あるいは10ペア以上存在するサイト | |
| | 【非代替性 a】…世界で50,000km ² 以下の限られた範囲にしか分布しない種の個体数の5%が集中して分布するサイト | |
| | 【非代替性 b】…世界的個体数の1%がある特定の季節(時期)に集まるサイト | |
| | 【非代替性 c】…世界的個体数の1%がある特定の季節(時期)に集まるサイト | |
| | 【非代替性 d】…他の個体群への個体の供給数が、全世界の個体数の1%以上を占める個体群がいるサイト | |

注：【 】は、本書における図中での略称を示す。

b. 調査結果

対象事業実施区域が位置する丹後半島全域は、国際自然保護連合 (IUCN) レッドリストにおいて「深刻な危機 (CR)、危機 (EN)」に該当する種が1個体でも存在するサイトとして、KBA (危機性) に選定されている (表 2.2.5-13)。

この他、基本的な調査対象範囲において注目すべき生息地は確認されなかった。

参考として、対象事業実施区域の南約 5km に位置する注目すべき生息地を表 2.2.5-13 に併記する。

表 2.2.5-13 注目すべき生息地

| 名称 | 選定根拠 | | | | | 備考 |
|-------|------|---|-----|---|-----|-------------------------------------|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | |
| 丹後半島 | | | | | 危機性 | IUCNレッドリストの地域絶滅危惧種に分類された種が1個体でも存在する |
| 大フケ湿原 | 宮市天 | | 基準2 | | | ハッチョウトンボ、オオコオイムシなどが生息 |

上記の選定根拠は、以下を示す。

- 1: 「文化財保護法」 (昭和25年 法律第214号)、「京都府文化財保護条例」 (昭和56年 条例第27号)、「伊根町文化財保護条例」 (昭和60年 条例第14号)、「京丹后市文化財保護条例」 (平成16年 条例第121号)、「宮津市文化財保護条例」 (昭和58年 条例第35号)
- 2: ラムサール条約 (特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約) (1975年発効)
- 3: 「日本の重要湿地500」 (環境省が運営するホームページ 最終閲覧月: 平成30年11月)
- 4: 「重要野鳥生息地 (IBA)」 (BirdLife InterNational、(公財) 日本野鳥の会が運営するホームページ 最終閲覧月: 平成30年11月)
- 5: 「Key Biodiversity Area (KBA、生物多様性の保全の鍵になる重要な地域)」 (コンサベーション・インターナショナル・ジャパンが運営するホームページ 最終閲覧月: 平成30年11月)

(2) 植物の生育状況

①植物相の状況

ア. 調査方法

基本的な調査対象範囲において、植物相の状況の把握に使用した資料を表 2.2.5-14に、植物の抽出範囲を図2.2.5-2に示す。

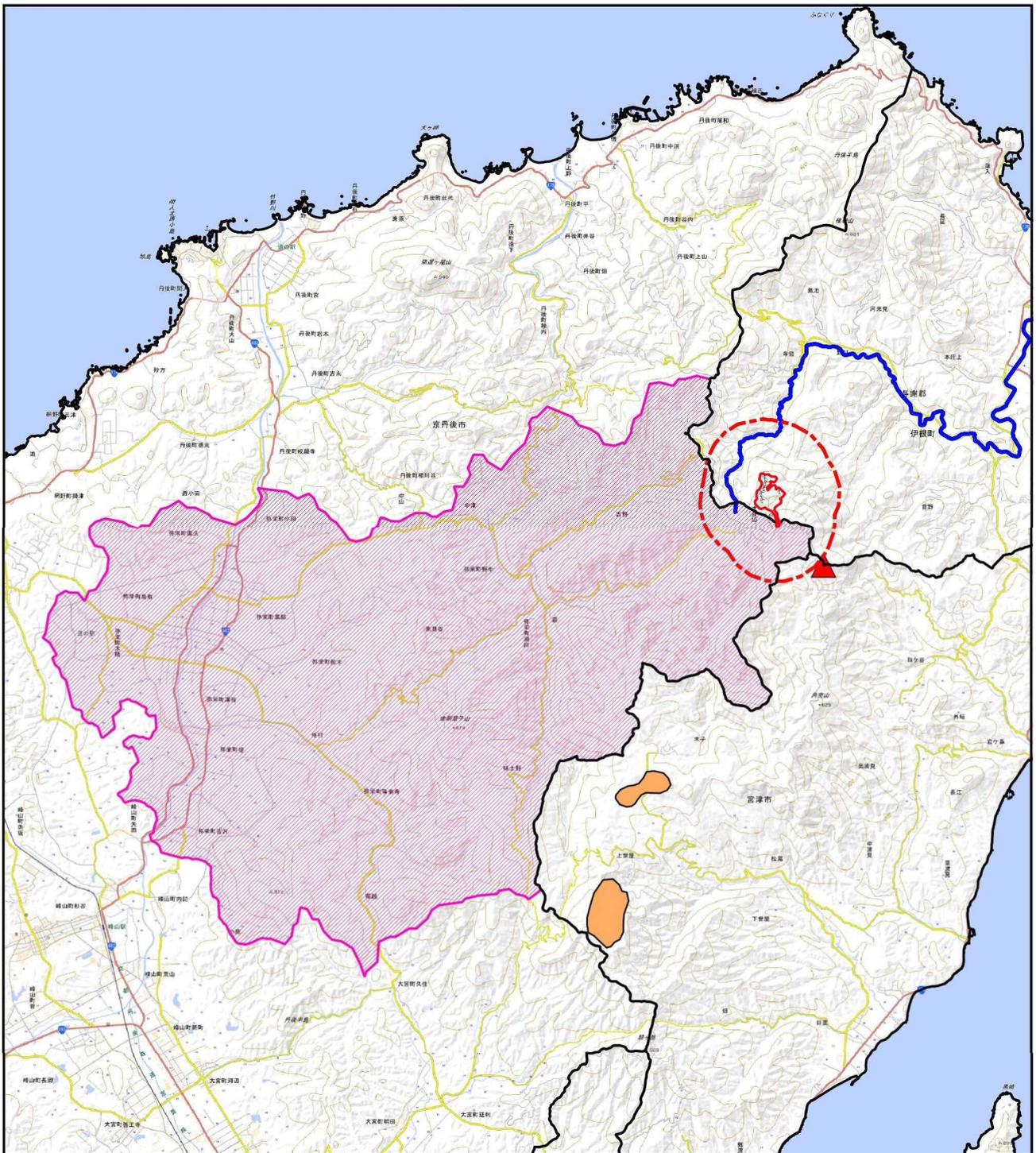
また、分布情報の精度を把握できるよう、調査に使用した資料については、表 2.2.5-15に示す抽出区分で分類することとした。

表 2.2.5-14 植物相の状況の把握に使用した資料

| 資料等 番号 | 文献等の名称 | 発行等 | 植物の 地域概況調査範囲 |
|-----------|--------------------------------------|---------------------|------------------|
| 12 | 筒川河川企画調査業務委託業務報告書 | 平成 10 年 京都府宮津土木事務所 | 筒川 |
| 13 | ふるさと弥栄の自然 弥栄町自然環境調査報告書 | 平成 7 年 京都府弥栄町 | 弥栄町 |
| 14 | 一寸法師山・市民風車設置に関する 環境影響調査報告書 | 平成 21 年 自然エネルギー市民の会 | 一寸法師山 |
| 15 | 上世屋 緑へのいざない 世屋高原 自然環境保全事業・植物調査報告書 | 平成 7 年 京都府 | 世屋高原自然環境保 全地域 |

表 2.2.5-15 調査範囲の区分

| 区分 | 調査範囲 | 該当する資料番号 |
|----|-------------|----------|
| A | 筒川及び一寸法師山周辺 | 資料 12、14 |
| B | 旧弥栄町及び世屋高原 | 資料 13、15 |



凡例

- 彌栄町
- 一寸法師山
- 筒川
- 世屋高原

- 対象事業実施区域
- 市町村界
- 基本的な調査対象範囲

2 0 2 4 km

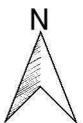


図 2.2.5-2 植物の抽出範囲

イ. 調査結果

文献その他の資料により、151科950種の植物が抽出された。

このうち、区分Aの資料の中では、農耕地、伐採跡地、樹林地などにみられる植物が205種確認されている。

なお、確認された種については資料編にリストを添付する。

②植生の状況

ア. 調査方法

基本的な調査対象範囲における現存植生及び植生自然度を、表2.2.5-16に示す資料によって把握した。

表2.2.5-16 植生等の抽出に使用した資料

| 資料番号 | 資料の名称 | 発行等 | 調査対象範囲 |
|------|----------------------------------|----------------------------------|--------------------------|
| 1 | 第6～7回自然環境保全基礎調査 (植生調査) GISデータ | 環境省生物多様性センター (最終閲覧月：平成30年11月) | 対象事業実施区域及び その周囲1kmの範囲 |

イ. 調査結果

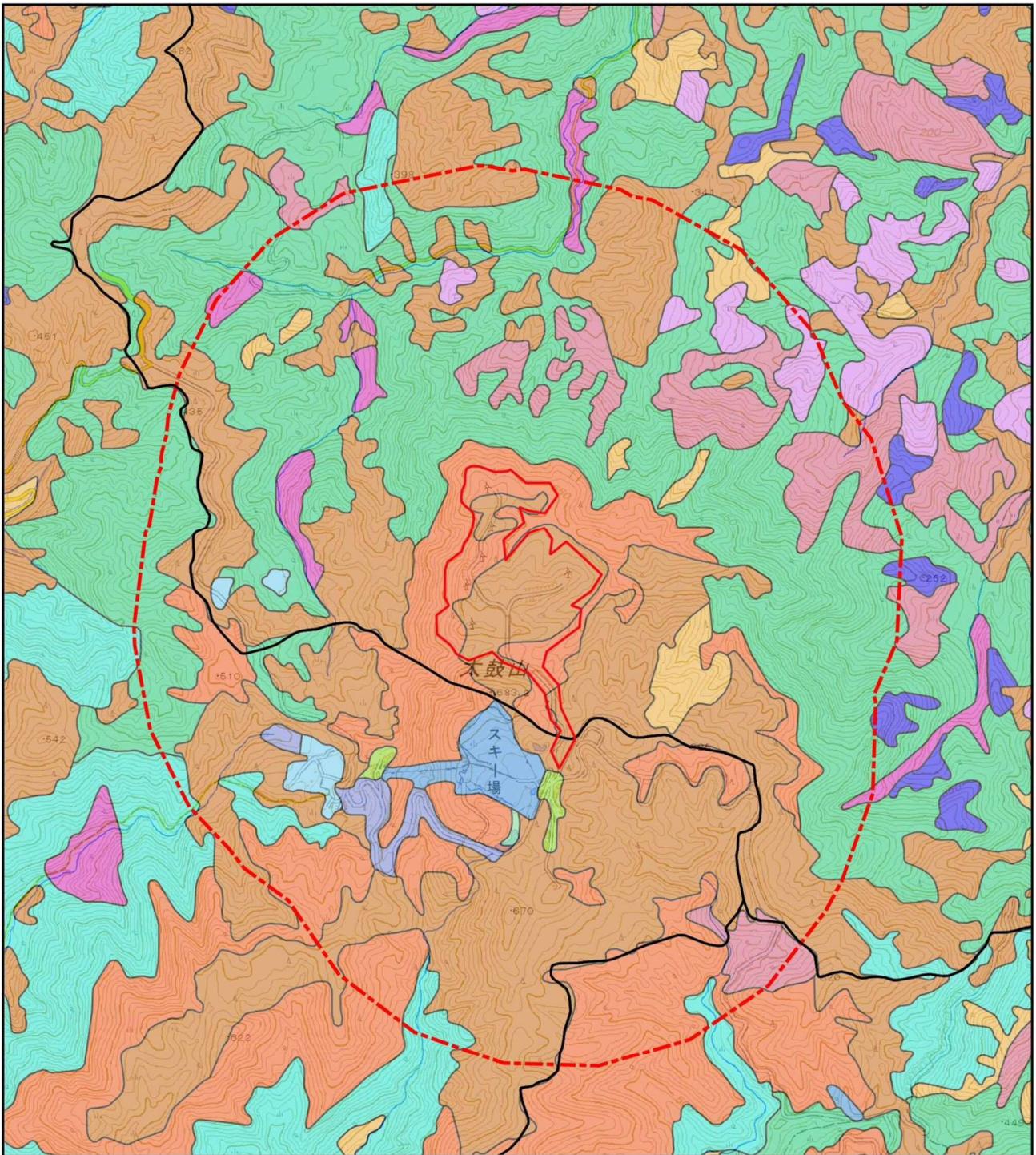
基本的な調査対象範囲における植生区分及び植生自然度等を表2.2.5-17に、現存植生図を図2.2.5-3に整理した。

対象事業実施区域は標高約500～600m前後に位置し、ヤブツバキクラス域に属している。対象事業実施区域内は主にスギ・ヒノキ・サワラ植林及びクリーミズナラ群集が分布している。

表2.2.5-17 基本的な調査対象範囲における植生自然度及びその内訳

| 群落 | 植生自然度 | 区分内容 |
|---|-------|-------------------------|
| ヒルムシロクラス | 10 | 自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区 |
| チャボガヤケヤキ群集 | 9 | 自然植生のうち多層の植物社会を形成する地区 |
| ユキグニミズバツツジーコナラ群集、 クリーミズナラ群集、ユキグニミツバ ツツジーアカマツ群集、アカシデーイ スシデ群落、竹林 | 7 | 一般には二次林と呼ばれる代償植生地区 |
| スギ・ヒノキ・サワラ植林 | 6 | 常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地 |
| ススキ群団 (VII)、ススキ群団 (V) | 5 | ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原 |
| 路傍・空地雑草群落、伐採跡地群落 (VII) | 4 | シバ群落等の背丈の低い草原 |
| — | 3 | 果樹園、桑園、茶畑、苗圃等の樹園地 |
| 牧草地 | 2 | 畑地、水田等の耕作地、緑の多い住宅地 |
| 市街地 | 1 | 市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区 |

出典等：自然環境保全基礎調査 植生調査情報提供（環境省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。



凡例

- アカシデーイヌシデ群落 (V)
- クリーミズナラ群集
- スギ・ヒノキ・サワラ植林
- ススキ群団 (V)
- ススキ群団 (V I I)
- チャボガヤケヤキ群集
- ヒルムシロクラス
- ユキグニミツバツツジーアカマツ群集
- ユキグニミツバツツジーコナラ群集
- 市街地

- 竹林
- 伐採跡地群落 (V I I)
- 牧草地
- 路傍・空地雑草群落

- 対象事業実施区域
- 市町村界
- 基本的な調査対象範囲

250 0 250 500 750 1000 m

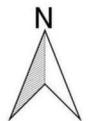


図 2.2.5-3 現存植生図

出典等：「第6～7回自然環境保全基礎調査（植生調査）」（環境省生物多様性センターが運営するホームページ）のGISデータを参考して作成した。

③重要な種及び重要な群落

ア. 重要な植物

a. 重要な種の選定根拠

重要な植物の選定根拠を表 2.2.5-18 に示す。

また、重要種の分布情報の精度を把握できるよう、表 2.2.5-15 に示すとおり分類した。

表 2.2.5-18 (1) 重要な植物の選定根拠

| 選定根拠番号 | 選定根拠 | 発行等 |
|--------|---|-------------------|
| 1 | 「文化財保護法」において以下に指定されている種 | 昭和 25 年 法律第 214 号 |
| | 天然記念物【天】…学術上価値の高い動物（生息地、繁殖地、渡来地を含む）、として文化財保護法に基づき保護・保存を指定されたもの 特別天然記念物【特天】…天然記念物のうち特に重要なもの | |
| | 「京都府文化財保護条例」において以下に指定されているもの | 昭和56年 条例第27号 |
| | 天然記念物【府天】…京都府教育委員会が府内に存する学術上価値の高い動物（生息地、繁殖地、渡来地を含む）として京都府文化財保護条例に基づき保護・保存を指定したもの | |
| | 「伊根町文化財保護条例」において以下に指定されているもの | 昭和60年 条例第14号 |
| | 天然記念物【町天】…伊根町教育委員会が町内に存する学術上価値の高い動物（生息地、繁殖地、渡来地を含む）として伊根町文化財保護条例に基づき保護・保存を指定したもの | |
| | 「京丹後市文化財保護条例」において以下に指定されているもの | 平成16年 条例第121号 |
| | 天然記念物【京市天】…京丹後市教育委員会が市内に存する学術上価値の高い動物（生息地、繁殖地、渡来地を含む）として京丹後市文化財保護条例に基づき保護・保存を指定したもの | |
| | 「宮津市文化財保護条例」において以下に指定されているもの | 昭和58年 条例第35号 |
| | 天然記念物【宮市天】…宮津市教育委員会が市内に存する記念物のうち、市にとって重要なものとして宮津市文化財保護条例に基づき指定したもの | |
| 2 | 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において以下に指定されている種 | 平成 4 年 法律第 75 号 |
| | 国際希少野生動植物【際】…国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動植物の種であって政令で定めるもの 国内希少野生動植物【内】…個体が国内に生息し又は生育する絶滅のおそれのある野生動植物の種であって、政令で定めるもの 緊急指定種【緊】…国内希少野生動植物種及び国際希少野生動植物種以外の野生動植物の種で、保存を特に緊急に図る必要があると認められるもの。 | |
| | | |
| 3 | 「京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例」において以下に指定されている種 | 平成19年 京都府条例第51号 |
| | 指定希少野生生物【指希】…絶滅のおそれのある野生生物のうち、特に保全を図る必要があるものとして知事が指定するもの。 | |
| 4 | 「環境省レッドリスト 2018」で以下に該当する種及び地域個体群 | 平成 30 年（維管束植物） |
| | 絶滅【EX】…我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 野生絶滅【EW】…飼育・栽培下でのみ存続している種 絶滅危惧Ⅰ類【CR+EN】…絶滅の危機に瀕している種 絶滅危惧ⅠA類【CR】…ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種 絶滅危惧ⅠB類【EN】…ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種 絶滅危惧Ⅱ類【VU】…絶滅の危険が増大している種 準絶滅危惧【NT】…現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 情報不足【DD】…評価するだけの情報が不足している種 付属資料 絶滅のおそれのある地域個体群【LP】…地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

表 2.2.5-18 (2) 重要な植物の選定根拠

| 選定根拠番号 | 選定根拠 | 発行等 |
|--------|--|-----------------|
| 5 | 「京都府レッドデータブック 2015」京都府版レッドデータブックで以下に該当する種 | 平成 27 年 4 月 京都府 |
| | 絶滅種【絶滅】…府内ではすでに絶滅したと考えられる種 絶滅寸前種【絶滅寸前】…府内において絶滅の危機に瀕している種 絶滅危惧種【危惧】…府内において絶滅の危機が増大している種 準絶滅危惧種【準絶】…府内において存続基盤が脆弱な種 要注目種【要注目】…府内の生息状況について、今後の動向を注目すべき種および情報が不足している種 | |
| 6 | 「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック（水産庁編）」で以下に該当する種（環境省カテゴリーに準ずる） | 平成 10 年 3 月 水産庁 |
| | 希少種【希少】…存続基盤が脆弱な種・亜種 危急種【危急】…絶滅の危険が増大している種・亜種 絶滅危惧種【絶滅危惧】…絶滅の危機に瀕している種・亜種 | |

注：【】は、本書における図表中での略称を示す。

b. 重要な種

重要な植物は表 2.2.5-19 に示すとおり、106 種が抽出された。

このうち、分布情報の精度が区分 A であるものは、キヌヤナギ、ミズタガラシ、ヤマブドウ、ジャコウソウ、クルマバハグマ、ナツエビネの 6 種であった。

表 2.2.5-19 (1) 植物の重要な種

| No. | 科名 | 種名 | 選定根拠 | | | | | | 出典 | 分布情報の精度 | |
|-----|---------|-------------|------|---|----|----|------|----------|----|---------|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | A | B |
| 1 | ゼンマイ | ヤマドリゼンマイ | | | | | 要注目 | 資料15 | | ○ | |
| 2 | オシダ | コバノカナワラビ | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ | |
| 3 | メシダ | ハコネシケチンダ | | | | | 絶滅寸前 | 資料15 | | ○ | |
| 4 | | イワデンダ | | | | | 危惧 | 資料13 | | ○ | |
| 5 | ウラボシ | ミヤマノキシノブ | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ | |
| 6 | ヤナギ | キヌヤナギ | | | | | 危惧 | 資料12 | ○ | | |
| 7 | カバノキ | ミズメ | | | | | 準絶 | 資料13, 15 | | ○ | |
| 8 | ヤドリギ | ヤドリギ | | | | | 危惧 | 資料13 | | ○ | |
| 9 | タデ | ナガバノウナギツカミ | | | | NT | 危惧 | 資料15 | | ○ | |
| 10 | | サデクサ | | | | | 準絶 | 資料13 | | ○ | |
| 11 | | ネバリタデ | | | | | 危惧 | 資料13 | | ○ | |
| 12 | | オオイタドリ | | | | | 準絶 | 資料15 | | ○ | |
| 13 | | ノダイオウ | | | | VU | | 資料13 | | ○ | |
| 14 | マツブサ | マツブサ | | | | | 準絶 | 資料13, 15 | | ○ | |
| 15 | キンボウゲ | フクジュソウ | | | 指希 | | 絶滅寸前 | 資料13, 15 | | ○ | |
| 16 | | ミスミソウ | | | | NT | 危惧 | 資料13 | | ○ | |
| 17 | | イヌショウマ | | | | | 準絶 | 資料13, 15 | | ○ | |
| 18 | | サラシナショウマ | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ | |
| 19 | | クサボタン | | | | | 準絶 | 資料13, 15 | | ○ | |
| 20 | | トリガタハンショウヅル | | | | | 準絶 | 資料15 | | ○ | |
| 21 | | サンインシロカネソウ | | | | | 絶滅寸前 | 資料13, 15 | | ○ | |
| 22 | メギ | ルイヨウボタン | | | | | 準絶 | 資料15 | | ○ | |
| 23 | ウマノスズクサ | ウマノスズクサ | | | | | 準絶 | 資料13 | | ○ | |
| 24 | オトギリソウ | ミズオトギリ | | | | | 準絶 | 資料13 | | ○ | |
| 25 | ケシ | キケマン | | | | | 準絶 | 資料13 | | ○ | |
| 26 | アブラナ | ミズタガラシ | | | | | 準絶 | 資料12, 13 | ○ | ○ | |
| 27 | ベンケイソウ | アポイミセバヤ | | | | DD | | 資料13 | | ○ | |
| 28 | ユキノシタ | チシマネコノメ | | | | | 準絶 | 資料13 | | ○ | |
| 29 | | マルバウツギ | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ | |
| 30 | | ウメバチソウ | | | | | 危惧 | 資料15 | | ○ | |
| 31 | | ジンジソウ | | | | | 準絶 | 資料13 | | ○ | |
| 32 | | ハルユキノシタ | | | | | 準絶 | 資料13 | | ○ | |
| 33 | バラ | ヤマブキショウマ | | | | | 準絶 | 資料13, 15 | | ○ | |
| 34 | | オオウラジロノキ | | | | | 準絶 | 資料15 | | ○ | |
| 35 | マメ | ヤマフジ | | | | | 準絶 | 資料13 | | ○ | |
| 36 | カエデ | メグスリノキ | | | | | 危惧 | 資料13 | | ○ | |
| 37 | ニシキギ | ムラサキマユミ | | | | | 危惧 | 資料13, 15 | | ○ | |
| 38 | クロウメモドキ | クロウメモドキ | | | | | 準絶 | 資料13, 15 | | ○ | |
| 39 | ブドウ | ヤマブドウ | | | | | 要注目 | 資料12, 13 | ○ | ○ | |
| 40 | ジンチョウゲ | コショウノキ | | | | | 準絶 | 資料15 | | ○ | |
| 41 | | カラスシキミ | | | | | 準絶 | 資料13 | | ○ | |
| 42 | スミレ | エイザンスミレ | | | | | 絶滅寸前 | 資料13 | | ○ | |
| 43 | | ヒゴスミレ | | | | | 準絶 | 資料13, 15 | | ○ | |
| 44 | セリ | ドクゼリ | | | | | 準絶 | 資料13, 15 | | ○ | |
| 45 | | ヌマゼリ | | | | VU | 絶滅 | 資料15 | | ○ | |
| 46 | | ヒカゲミツバ | | | | | 準絶 | 資料13 | | ○ | |
| 47 | イチヤクソウ | ウメガサソウ | | | | | 危惧 | 資料13 | | ○ | |
| 48 | ツツジ | レンゲツツジ | | | | | 準絶 | 資料13, 15 | | ○ | |
| 49 | エゴノキ | ハクウンボク | | | | | 要注目 | 資料13, 15 | | ○ | |
| 50 | ハイノキ | クロミノニシゴリ | | | | | 絶滅寸前 | 資料13 | | ○ | |
| 51 | リンドウ | リンドウ | | | | | 要注目 | 資料13, 15 | | ○ | |
| 52 | | ハルリンドウ | | | | | 絶滅寸前 | 資料13 | | ○ | |
| 53 | | フデリンドウ | | | | | 危惧 | 資料13 | | ○ | |
| 54 | | センブリ | | | | | 要注目 | 資料13, 15 | | ○ | |
| 55 | ミツガシワ | ミツガシワ | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ | |

表 2.2.5-19 (2) 植物の重要な種

| No. | 科名 | 種名 | 選定根拠 | | | | | | 出典 | 分布情報の精度 | |
|-----|--------|-------------|------|---|---|----|------|--------------|----|---------|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | A | B |
| 56 | ガガイモ | スズサイコ | | | | NT | 危惧 | 資料13 | | ○ | |
| 57 | | コバノカモメヅル | | | | | 危惧 | 資料15 | | ○ | |
| 58 | ムラサキ | ムラサキ | | | | EN | 絶滅寸前 | 資料13 | | ○ | |
| 59 | シソ | ジャコウソウ | | | | | 準絶 | 資料13, 14, 15 | ○ | ○ | |
| 60 | | デンニンソウ | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ | |
| 61 | | ハッカ | | | | | 準絶 | 資料13 | | ○ | |
| 62 | | タジマタムラソウ | | | | VU | 準絶 | 資料13, 15 | | ○ | |
| 63 | ゴマノハグサ | シオガマギク | | | | | 絶滅寸前 | 資料15 | | ○ | |
| 64 | ハマウツボ | ナンバンギセル | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ | |
| 65 | オミナエシ | オミナエシ | | | | | 準絶 | 資料13 | | ○ | |
| 66 | キキョウ | ソバナ | | | | | 準絶 | 資料13, 15 | | ○ | |
| 67 | | ヤマホタルブクロ | | | | | 危惧 | 資料13 | | ○ | |
| 68 | | バアソブ | | | | VU | | 資料13, 15 | | ○ | |
| 69 | | キキョウ | | | | VU | 絶滅寸前 | 資料13 | | ○ | |
| 70 | キク | オクモミジハグマ | | | | | 要注目 | 資料15 | | ○ | |
| 71 | | カワラハハコ | | | | | 絶滅寸前 | 資料15 | | ○ | |
| 72 | | オオヨモギ | | | | | 要注目 | 資料15 | | ○ | |
| 73 | | オオモミジガサ | | | | | 危惧 | 資料15 | | ○ | |
| 74 | | クルマバハグマ | | | | | 準絶 | 資料14 | ○ | | |
| 75 | | ハバヤマボクチ | | | | | 絶滅寸前 | 資料13 | | ○ | |
| 76 | オモダカ | ヘラオモダカ | | | | | 準絶 | 資料13, 15 | | ○ | |
| 77 | | アギナシ | | | | NT | 危惧 | 資料13 | | ○ | |
| 78 | トチカガミ | ヤナギスブタ | | | | | 危惧 | 資料13 | | ○ | |
| 79 | ユリ | アサツキ | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ | |
| 80 | | シライトソウ | | | | | 準絶 | 資料13, 15 | | ○ | |
| 81 | | ノカンゾウ | | | | | 危惧 | 資料13 | | ○ | |
| 82 | | ツクバネソウ | | | | | 準絶 | 資料13, 15 | | ○ | |
| 83 | | ユキザサ | | | | | 準絶 | 資料13 | | ○ | |
| 84 | | タマガワホトトギス | | | | | 要注目 | 資料15 | | ○ | |
| 85 | アヤメ | カキツバタ | | | | NT | 準絶 | 資料15 | | ○ | |
| 86 | イグサ | ハリコウガイゼキショウ | | | | | 準絶 | 資料15 | | ○ | |
| 87 | イネ | ヤマアワ | | | | | 危惧 | 資料13 | | ○ | |
| 88 | | シバ | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ | |
| 89 | サトイモ | ヒロハテンナンショウ | | | | | 危惧 | 資料15 | | ○ | |
| 90 | ミクリ | ミクリ | | | | NT | 危惧 | 資料13 | | ○ | |
| 91 | カヤツリグサ | マツバスゲ | | | | | 要注目 | 資料15 | | ○ | |
| 92 | | アオバスゲ | | | | | 準絶 | 資料13 | | ○ | |
| 93 | | ミカヅキグサ | | | | | 危惧 | 資料15 | | ○ | |
| 94 | | コマツカサススキ | | | | | 危惧 | 資料13 | | ○ | |
| 95 | | サンカクイ | | | | | 要注目 | 資料13, 15 | | ○ | |
| 96 | ラン | エビネ | | | | NT | 要注目 | 資料13 | | ○ | |
| 97 | | ナツエビネ | | | | VU | 危惧 | 資料14, 15 | ○ | ○ | |
| 98 | | キンラン | | | | VU | 危惧 | 資料13 | | ○ | |
| 99 | | カキラン | | | | | 準絶 | 資料15 | | ○ | |
| 100 | | アケボノシユスラン | | | | | 準絶 | 資料13, 15 | | ○ | |
| 101 | | ミズトンボ | | | | VU | 危惧 | 資料15 | | ○ | |
| 102 | | ジガバチソウ | | | | | 危惧 | 資料15 | | ○ | |
| 103 | | コ克蘭 | | | | | 要注目 | 資料13 | | ○ | |
| 104 | | コケイラン | | | | | 危惧 | 資料13, 15 | | ○ | |
| 105 | | ミズチドリ | | | | | 絶滅寸前 | 資料15 | | ○ | |
| 106 | | トキソウ | | | | NT | 危惧 | 資料15 | | ○ | |
| 計 | 50科 | 106種 | 0 | 0 | 1 | 18 | 103 | 0 | 6 | 104 | |

注1: 上記の選定根拠は以下を示す。

- 1: 「文化財保護法」 (昭和25年 法律第214号 文化庁)
- 2: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成4年 法律第75号 文化庁)
- 3: 「京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例」 (平成19年 条例第51号 京都府)
- 4: 「環境省レッドリスト2018」 (平成30年環境省)
- 5: 「京都府レッドデータブック2015」 (平成27年 京都府)
- 6: 「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック (水産庁編)」 (平成10年 水産庁)

注2: 上記の抽出区分及び資料は以下のとおりである。

- 資料12: 「筒川河川企画調査業務委託業務報告書」 (平成10年 京都府宮津土木事務所)
- 資料13: 「ふるさと弥栄の自然 弥栄町自然環境調査報告書」 (平成7年 京都府弥栄町)
- 資料14: 「一寸法師山・市民風車設置に関する環境影響調査報告書」 (平成21年 自然エネルギー市民の会)
- 資料15: 「上世屋 緑へのいざない 世屋高原自然環境保全事業・植物調査報告書」 (平成7年 京都府)

注3: 上記の分布情報の精度は以下を示す。

- 区分A: 筒川及び一寸法師山周辺
- 区分B: 旧弥栄町及び世屋高原

注4: 科、種名の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。

イ. 重要な群落等

a. 重要な群落等の選定根拠

重要な群落等の選定根拠を表 2.2.5-20 に示す。

表 2.2.5-20 重要な群落等の選定根拠

| 選定根拠番号 | 選定根拠 | 発行等 |
|--|--|-------------------|
| 1 | 「文化財保護法」において以下に指定されている種 | 昭和 25 年 法律第 214 号 |
| | 天然記念物【天】・・・学術上価値の高い植物（自生地を含む）として文化財保護法に基づき保護・保存を指定されたもの 特別天然記念物【特天】・・・天然記念物のうち特に重要なもの | |
| | 「京都府文化財保護条例」において以下に指定されているもの | 昭和56年 条例第27号 |
| | 天然記念物【府天】・・・京都府教育委員会が府内に存する学術上価値の高い植物（自生地を含む）として 京都府文化財保護条例に基づき保護・保存を指定したもの | |
| | 「伊根町文化財保護条例」において以下に指定されているもの | 昭和60年 条例第14号 |
| | 天然記念物【町天】・・・伊根町教育委員会が町内に存する学術上価値の高い植物（自生地を含む）として 伊根町文化財保護条例に基づき保護・保存を指定したもの | |
| | 「京丹後市文化財保護条例」において以下に指定されているもの | 平成16年 条例第121号 |
| | 天然記念物【京市天】・・・京丹後市教育委員会が市内に存する学術上価値の高い植物（自生地を含む）として 京丹後市文化財保護条例に基づき保護・保存を指定したもの | |
| | 「宮津市文化財保護条例」において以下に指定されているもの | 昭和58年 条例第35号 |
| 天然記念物【宮市天】・・・宮津市教育委員会が市内に存する記念物のうち、市にとって重要なものとして 宮津市文化財保護条例に基づき指定したもの | | |
| 2 | 「自然環境保全基礎調査」（環境省）において、以下の「特定植物群落選定基準」に該当する植物群落または個体群 | 環境省 |
| | 【A】原生林もしくはそれに近い自然林 【B】国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群 【C】比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群 【D】砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの 【E】郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの 【F】過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの 【G】乱獲その他の人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群 【H】その他、学術上重要な植物群落または個体群 | |
| | 「自然環境保全基礎調査」（環境省）において、以下の基準に該当する単木、樹林、並木 | 環境省 |
| | ・原則として地上から 1.3m の高さでの幹周りが 3m 以上の木 | |
| | 「自然環境保全基礎調査」（環境省）において、以下に該当する自然植生 | 環境省 |
| | ・植生自然度 10・・・自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区 ・植生自然度 9・・・自然植生のうち多層の植物社会を形成する地区 | |
| | 林野庁が指定する下記の「保護林」 | 林野庁 |
| | 林野庁が原生的な天然林などを保護・管理することにより、森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護、森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に資することを目的としている国有林野 【生態系】・・・森林生態系保護地域 【生物群集】・・・生物群集保護林 【希少生物】・・・希少個体群保護林 | |

注：【 】は、本書における図表中での略称を示す。

b. 重要な群落等

重要な群落等の選定状況を表 2.2.5-21 に示す。

基本的な調査対象範囲では、植生自然度 9 以上の植生及び巨樹・巨木林（1 箇所）が確認された。特定植物群落等、その他の重要な群落等は確認されなかった。

また、対象事業実施区域においては、重要な群落等は確認されなかった。

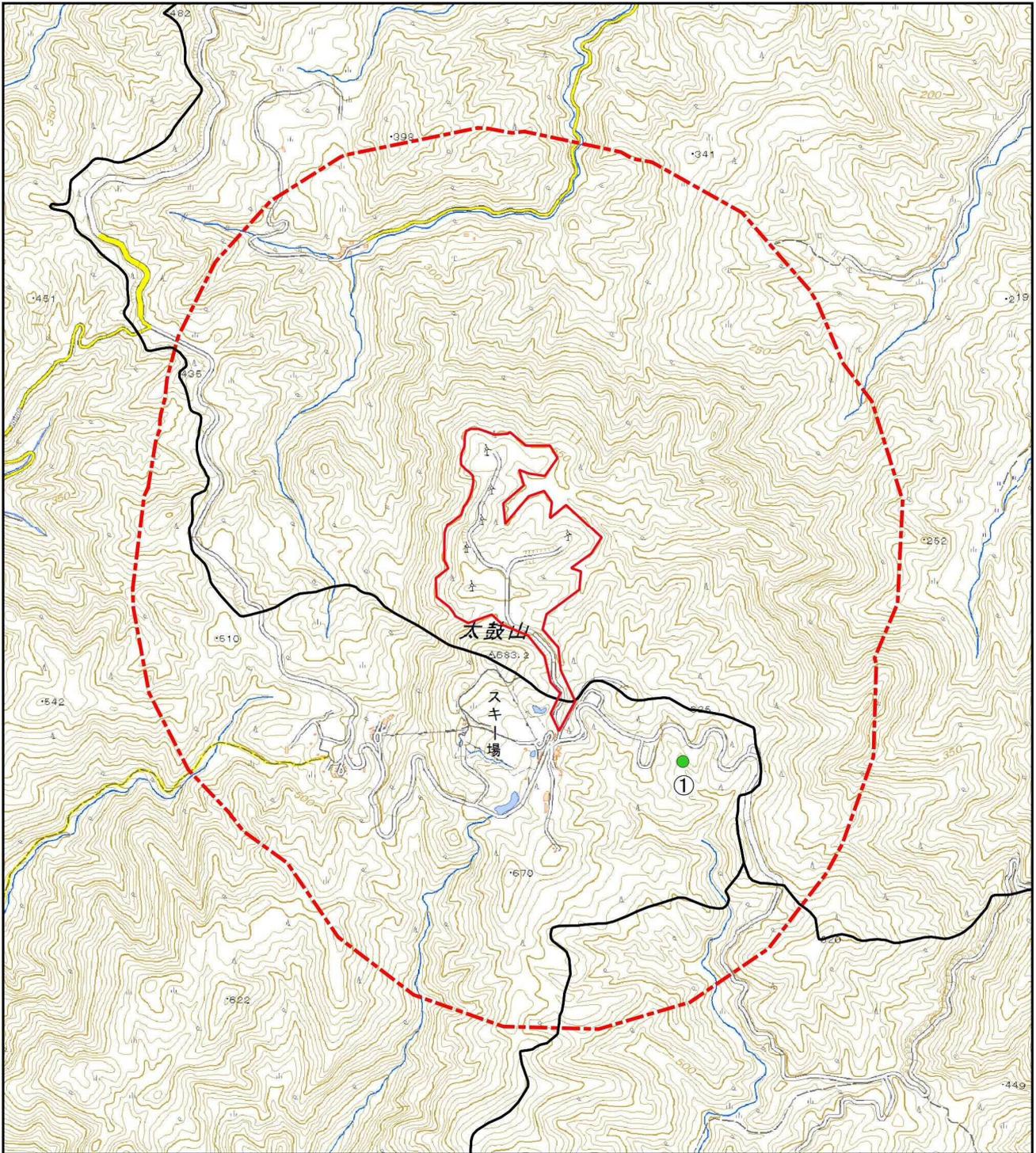
基本的な調査対象範囲で確認された重要な植物群落等（特定植物群落、巨樹・巨木林）を図 2.2.5-4 に、植生自然度 9 以上の植生分布を図 2.2.5-5 に示す。

表 2.2.5-21 重要な群落等

| 名称等 | 選定根拠 | | | | | 備考 |
|-------------|------|---|---|---|---|---------------|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | |
| スギ | | | ○ | | | 幹周310cm、樹高34m |
| ヒルムシロクラス | | | | ○ | | 植生自然度10 |
| チャボガヤークヤキ群集 | | | | ○ | | 植生自然度9 |

上記の選定根拠は、以下を示す。

- 1：「文化財保護法」（昭和25年 法律第214号）、「京都府文化財保護条例」（昭和56年 条例第27号）、「伊根町文化財保護条例」（昭和60年 条例第14号）、「京丹後市文化財保護条例」（平成16年 条例第121号）、「宮津市文化財保護条例」（昭和58年 条例第35号）
- 2：「自然環境保全基礎調査」における特定植物群落（環境省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）
- 3：「自然環境保全基礎調査」における巨樹・巨木林（環境省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）
- 4：「自然環境保全基礎調査」における植生自然度9以上の植生（環境省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）
- 5：「保護林」（林野庁が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）



凡例

- 巨樹・巨木林
- ①スギ

- 対象事業実施区域
- 市町村界
- 基本的な調査対象範囲

250 0 250 500 750 1000 m

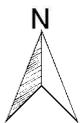
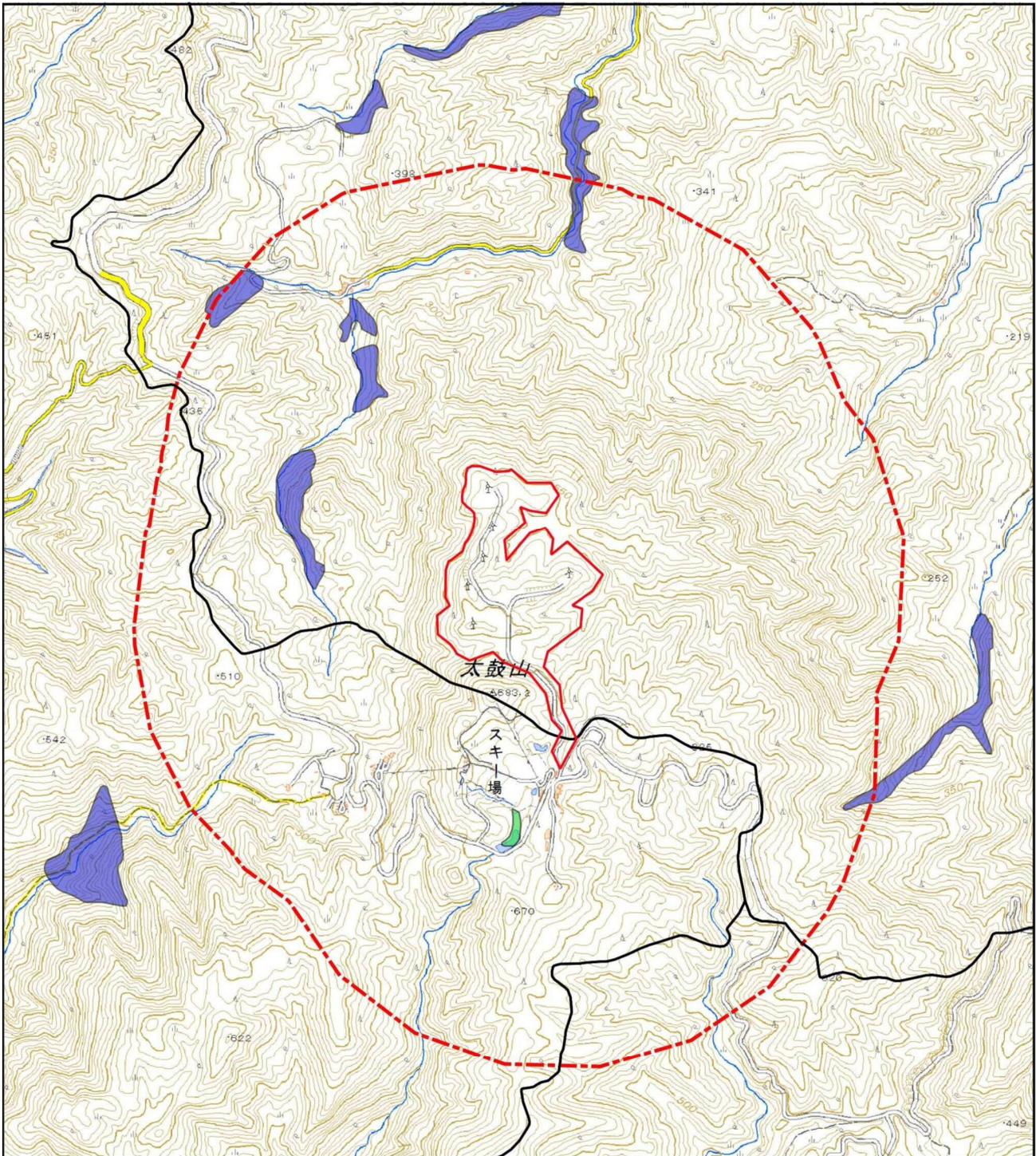


図 2.2.5-4 (1) 重要な群落等位置図

出典等：「第6回自然環境保全基礎調査（巨樹・巨木調査）」（環境省生物多様性センターが運営するホームページ）のGISデータを参考して作成した。



凡例

- ヒルムシロクラス (植生自然度: 10)
- チャボガヤケヤキ群集 (植生自然度: 9)

- 対象事業実施区域
- 市町村界
- 基本的な調査対象範囲

250 0 250 500 750 1000 m

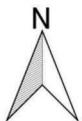


図 2.2.5-5 (2) 重要な群落等位置図

出典等: 「第6~7回自然環境保全基礎調査 (植生調査)」 (環境省生物多様性センターが運営するホームページ) のGISデータを参考して作成した。

(3) 生態系の状況

①環境類型区分

環境類型区分は、基本的な調査対象範囲における現存植生（図2.2.5-3）及び植生自然度（表2.2.5-17）のほか、水象の状況（図2.2.2-1）等に基づき区分した。

基本的な調査対象範囲における環境類型区分を表2.2.5-22及び図2.2.5-6に示す。

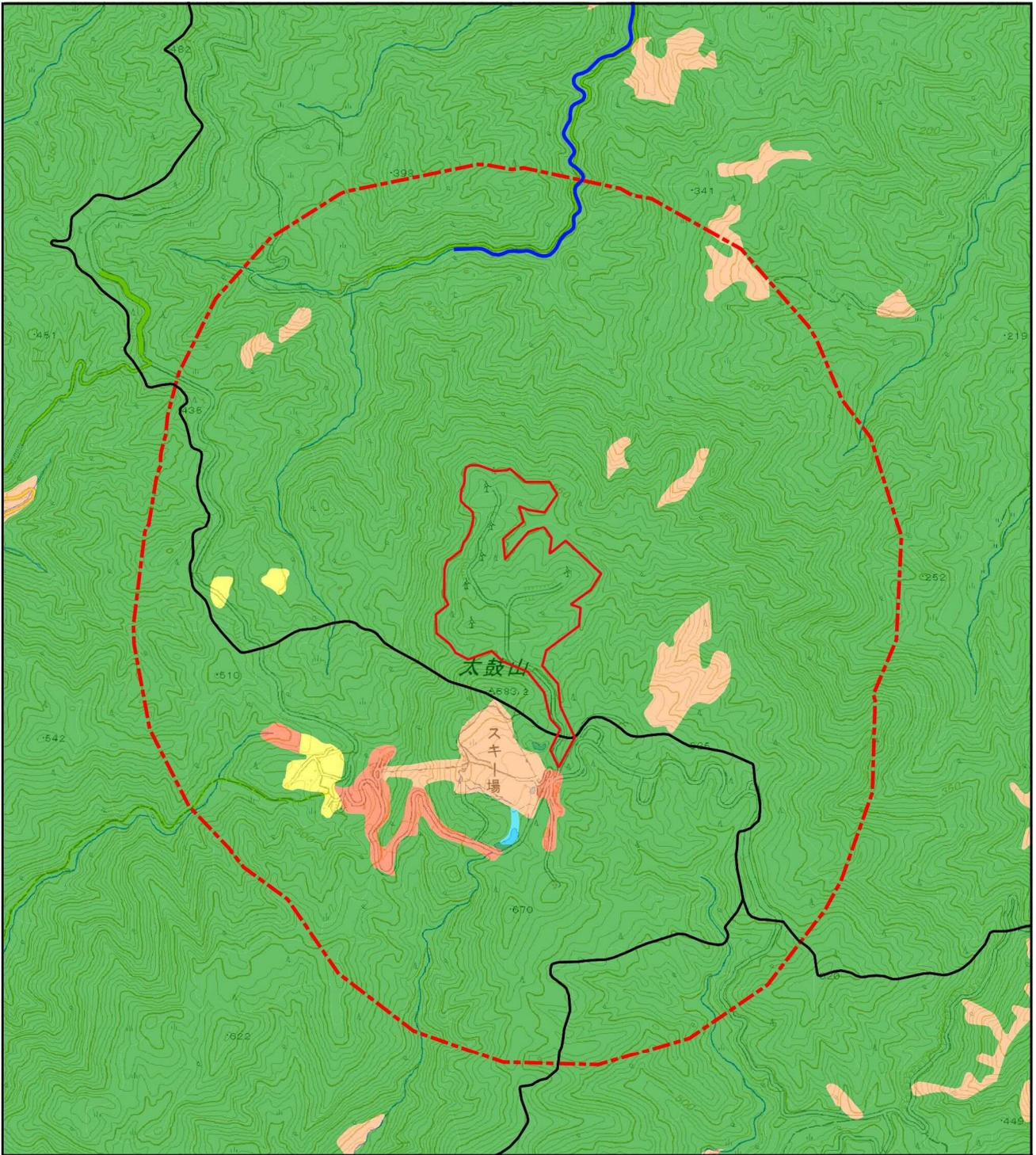
環境類型区分の大部分を占める樹林地には、ヤブツバキクラス域の自然植生（チャボガヤーケヤキ群集）や代償植生（ユキグニミツバツツジーコナラ群集等）である落葉広葉樹林、スギ・ヒノキ・サワラ植林が含まれる。

対象事業実施区域は、全区域が樹林地に分類される。対象事業実施区域内の中央部はヒノキ・サワラ植林であり、北側から西側の斜面は概ねクリーミズナラ群集となっている。

また、基本的な調査対象範囲内に散在する草原は、皆伐後に成立したと思われるススキ群団やスキー場が含まれる。

表2.2.5-22 基本的な調査対象範囲における環境類型区分

| 環境類型区分 | 植物群落 | 植生自然度 |
|----------|---|-------|
| 樹林地 | チャボガヤーケヤキ群集 | 9 |
| | ユキグニミズバツツジーコナラ群集、クリーミズナラ群集、ユキグニミツバツツジーアカマツ群集、アカシデアイヌシデ群落、竹林 | 7 |
| | スギ・ヒノキ・サワラ植林 | 6 |
| | 伐採跡地群落（VII） | 4 |
| 草原 | ススキ群団（VII）、ススキ群団（V）、 | 5 |
| | 路傍・空地雑草群落 | 4 |
| 農地 | 牧草地 | 2 |
| 市街地、造成地等 | 市街地 | 2 |
| ため池等 | ヒルムシロクラス | 10 |
| 河川 | — | — |



凡例

類型区分

- 樹林地
- 草原
- 市街地、造成地等
- 農地
- ため池等
- 河川
- 2級河川

- 対象事業実施区域
- 市町村界
- 基本的な調査対象範囲

250 0 250 500 750 1000 m

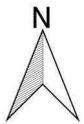


図 2.2.5-6 環境類型区分図

出典等：「第6～7回自然環境保全基礎調査（植生調査）」
 （環境省生物多様性センターが運営するホームページ）のGISデータを参考して作成した。

②生態系の概要

環境類型区分ごとに、生息及び生育の可能性がある代表的な重要な種を表2.2.5-23に整理した。

基本的な調査対象範囲は、対象事業実施区域境界に位置する太鼓山（標高683m）を最高峰とする山地であり、北側を流下する筒川（2河川）、南側を流下する須川の支流が谷を刻んでいる。また、前述のとおり、大部分が落葉広葉樹林及び植林地を占めている。そのため、山地・樹林性を中心とした生物群集による生態系が形成されていると考えられる。

樹林地には、主に落葉広葉樹林に生息するツキノワグマ、アカゲラ、オオムラサキ等、溪畔林にみられるアカショウビン、アケボノシュスラン等、伐採跡地で採餌するヨタカ等が生息及び生育する可能性があると考えられる。

また、筒川の源流域に位置することから、湧水由来の湿地などが分布する可能性もあり、このような場所ではアベサンショウウオ等が生息する可能性があると考えられる。河川には溪流性のヒダサンショウウオ、カジカガエル、アカザ等が生息する可能性があると考えられる。

これらの生物群集の上位には、図2.2.5-7に示す山地性のクマタカや里地に近い場所ではオオタカ等の森林性猛禽類が生息する可能性があると考えられる。

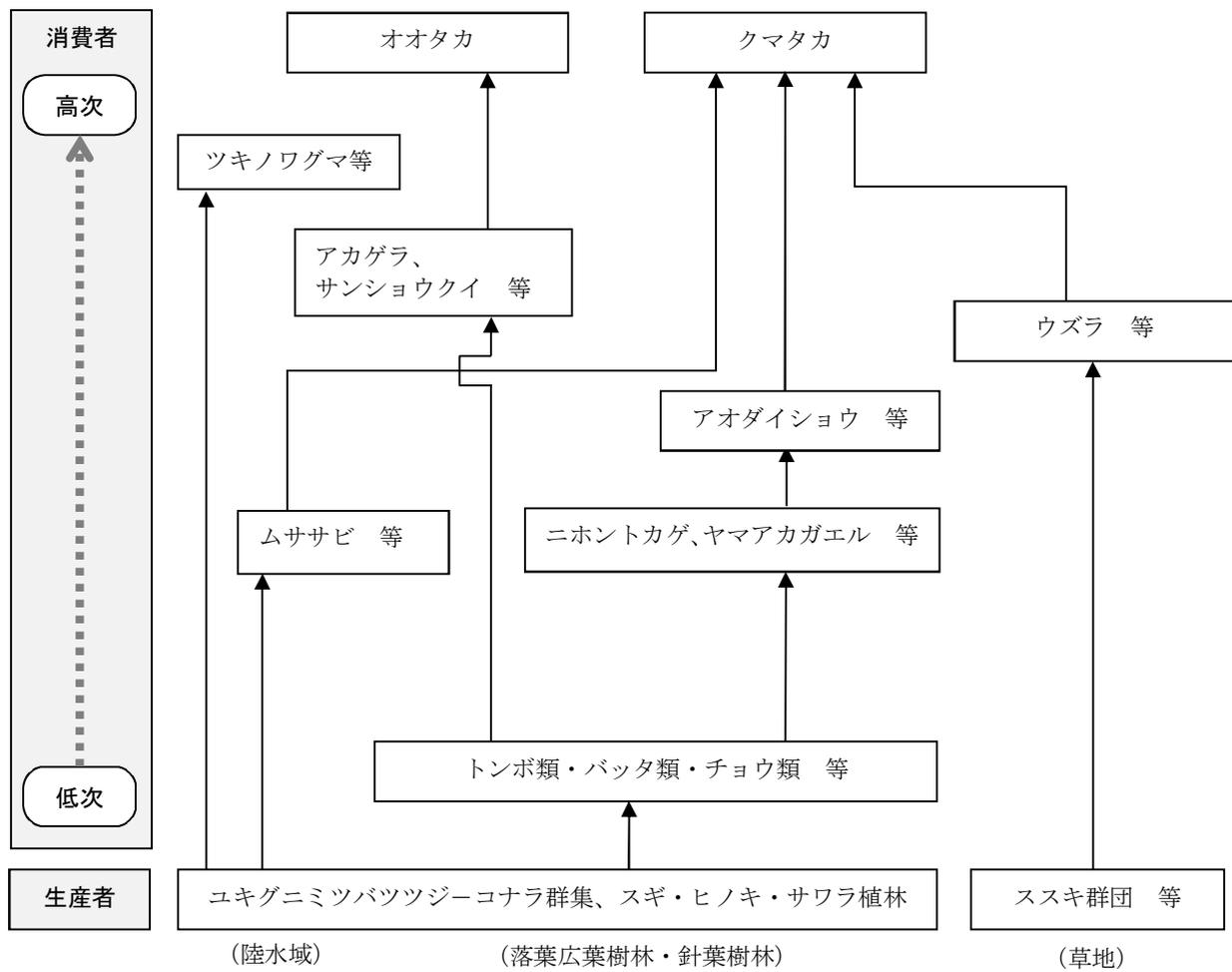


図 2.2.5-7 生態系の概要 (食物連鎖図)

表2.2.5-23 環境類型区分における代表的な重要な動植物の生息・生育状況

| | 環境類型区分 | | | | |
|------|--|---|---|---|---|
| | 樹林地 | 草地 | 農地（水田・畑） | ため池など | 河川 |
| 哺乳類 | スミスネズミ、ツキノワグマ | | | | |
| 鳥類 | アオバト、ヨタカ、ハチクマ、オオタカ、サシバ、クマタカ、フクロウ、アカショウビン、アカゲラ、サンショウクイ、サンコウチョウ | ウズラ | ウズラ、ノスリ | オシドリ、カイツブリ、ミサゴ | ミサゴ、ヤマセミ、カイツブリ |
| 爬虫類 | ジムグリ、アオダイショウ、ニホンマムシ | ニホントカゲ | ニホンイシガメ、クサガメ、アオダイショウ、ニホンマムシ | ニホンイシガメ、クサガメ | |
| 両生類 | アベサンショウウオ、ヤマアカガエル | | アカハライモリ、ヤマアカガエル、トノサマガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル | アカハライモリ、ヤマアカガエル | ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、カジカガエル、ツチガエル |
| 淡水魚類 | | | ドジョウ | | スナヤツメ、アカザ |
| 昆虫類 | オオムラサキ、トラマルハナバチ、ヘリグロツユムシ、シワナガキマワリ、オオイシアブ | ウラギンスジヒョウモン | ハッチョウトンボ、カトリヤンマ、ヒラサナエ、ケラ、オグラヒラタゴミムシ、ガムシ | ゲンゴロウ、マダラシマゲンゴロウ、イトアメンボ、ミズスマシ、クロゲンゴロウ、ミヤマアカネ、ハッチョウトンボ、セスジイトンボ、オオイトンボ、カトリヤンマ、オグラヒラタゴミムシ、ガムシ、ヘイケボタル | ミズスマシ、キイロサナエ、オオイトンボ、ミヤマサナエ、ヒメサナエ、ゲンジボタル、ミカドガガンボ |
| 植物 | イワデンダ、ミズメ、ヤドリギ、マツブサ、ルイヨウボタン、ハルユキノシタ、ムラサキマユミ、コショウノキ、カラスシキミ、ウメガサソウ、ハクウンボク、ジャコウソウ、シライトソウ、ツクバネソウ、ユキザサ、ナツエビネ、キンラン、アケボノシユスラン、コケイラン | ネバリタデ、オオイタドリ、クサボタン、ヒゴスミレ、リンドウ、フデリンドウ、センブリ、ソバナ、オミナエシ | ヘラオモダカ、コマツカサススキ、オミナエシ | ミズオトギリ、ミツガシワ、ヘラオモダカ、コマツカサススキ、アギナシ | ヘラオモダカ、カワラハハコ |

注：環境類型区分への重要な動植物の振分けは、「京都府レッドデータブック2015」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考とした。

(4) 情報整備モデル事業における動植物調査結果

対象事業実施区域及びその周囲では、質の高い環境影響評価を効率的に実施できる条件整備を行うための情報整備モデル事業が実施されている。情報整備モデル事業は、環境影響評価に活用できる環境基礎情報（貴重な動植物の生息・生育状況等の情報）のデータベース化及びその提供を通じて、質が高く効率的な環境影響評価の実施を促進することを目的としている。情報整備モデル事業では、風力発電等について適正な環境配慮を確保した健全な立地を円滑に進めていくための「情報整備モデル地区」を設定し、現地調査により貴重な動植物の生息・生育状況等を整理している。

本項では、情報整備モデル事業における調査方法の概要及び重要種の生息・生育状況を記載することとする。ただし、詳細な調査方法、調査地点等については「第6章 環境影響評価の調査、予測及び評価の手法」に記載する。なお、野生生物保護の観点から、重要な種の種名及び確認位置は秘匿とした。

①調査方法の概要

ア. 哺乳類

哺乳類の調査方法を表2.2.5-24に示す。

表2.2.5-24 哺乳類の調査方法

| 時期 | 調査実施日 | 天候 | 調査内容 |
|----|------------|----|--|
| 春季 | 平成27年5月27日 | 晴 | フィールドサイン、トラップ調査（設置） |
| | 28日 | 曇 | フィールドサイン、無人撮影（設置）、バットディテクター |
| | 29日 | 晴 | フィールドサイン、トラップ調査（回収）、無人撮影（カメラ回収） |
| 夏季 | 平成27年7月15日 | 晴 | フィールドサイン、無人撮影（設置）、トラップ調査（設置）、バットディテクター |
| | 16日 | 曇 | フィールドサイン、無人撮影（回収） |
| | 17日 | 雨 | トラップ調査（回収） |
| 秋季 | 平成27年9月14日 | 晴 | フィールドサイン、無人撮影（設置）、トラップ調査（設置）、バットディテクター |
| | 15日 | 晴 | フィールドサイン |
| | 16日 | 曇 | フィールドサイン、無人撮影（回収）、トラップ調査（回収） |
| | 17日 | 晴 | フィールドサイン |
| 冬季 | 平成27年12月2日 | 曇 | フィールドサイン、無人撮影（設置）、トラップ調査（設置） |
| | 3日 | 曇 | フィールドサイン、無人撮影（回収） |
| | 4日 | 雨 | フィールドサイン、トラップ調査（回収） |

出典等：「平成27年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成28年 株式会社東洋設計）を参考に作成した。

イ. 鳥類

鳥類の調査方法を表2. 2. 5-25に示す。

表2. 2. 5-25 鳥類の調査方法

| 時期 | 調査実施日 | 天候 | 調査内容 |
|-----|------------------|----|------------------------------|
| 春季 | 平成 27 年 5 月 8 日 | 晴 | 任意調査（夜間調査を含む） |
| | 9 日 | 晴 | 任意調査（夜間調査を含む） |
| | 10 日 | 曇 | ラインセンサス、定点センサス |
| 繁殖期 | 平成 27 年 6 月 4 日 | 晴 | 任意調査（夜間調査を含む） |
| | 5 日 | 曇 | ラインセンサス、任意調査（夜間調査を含む）、定点センサス |
| | 7 日 | 曇 | ラインセンサス |
| 夏季 | 平成 27 年 7 月 1 日 | 晴 | 任意調査（夜間調査を含む） |
| | 2 日 | 晴 | ラインセンサス、定点センサス |
| | 3 日 | 曇 | ラインセンサス、任意調査（夜間調査を含む） |
| 秋季 | 平成 27 年 9 月 14 日 | 晴 | 定点センサス、任意調査（夜間調査を含む） |
| | 15 日 | 曇 | ラインセンサス |
| | 16 日 | 曇 | ラインセンサス |
| 冬季 | 平成 27 年 12 月 3 日 | 曇 | ラインセンサス、定点センサス、任意調査 |

出典等：「平成 27 年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成 28 年 株式会社東洋設計）を参考に作成した。

ウ. 希少猛禽類

希少猛禽類の調査方法を表2. 2. 5-26に示す。

また、希少猛禽類調査時に重要な鳥類が確認された場合は、確認位置及び出現状況（飛翔状況）を記録した。

表2. 2. 5-26 希少猛禽類の調査方法

| 時期 | 調査方法 | 調査実施日 | 時期 | 調査方法 | 調査実施日 |
|-----|------|-----------------|-----|------|------------------|
| 繁殖期 | 定点法 | 平成 27 年 5 月 7 日 | 繁殖期 | 定点法 | 平成 27 年 9 月 14 日 |
| | | 8 日 | | | 15 日 |
| | | 9 日 | | | 16 日 |
| | | 6 月 4 日 | | | 平成 28 年 2 月 14 日 |
| | | 5 日 | | | 15 日 |
| | | 6 日 | | | 16 日 |
| | | 7 月 1 日 | | | 3 月 5 日 |
| | | 2 日 | | | 6 日 |
| | | 3 日 | | | 7 日 |
| | | 8 月 24 日 | | | |
| | | 25 日 | | | |
| | | 26 日 | | | |

出典等：「平成 27 年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成 28 年 株式会社東洋設計）を参考に作成した。

エ. 爬虫類・両生類

爬虫類・両生類の調査方法を表2.2.5-27に示す。

表2.2.5-27 爬虫類・両生類の調査方法

| 時期 | 調査実施日 | 天候 | 調査内容 |
|----|------------------|----|------|
| 春季 | 平成 27 年 5 月 27 日 | 晴 | 直接観察 |
| | 28 日 | 曇 | 直接観察 |
| | 29 日 | 晴 | 直接観察 |
| 夏季 | 平成 27 年 7 月 15 日 | 晴 | 直接観察 |
| | 16 日 | 曇 | 直接観察 |
| | 17 日 | 雨 | 直接観察 |
| 秋季 | 平成 27 年 9 月 14 日 | 晴 | 直接観察 |
| | 15 日 | 晴 | 直接観察 |
| | 16 日 | 曇 | 直接観察 |
| | 17 日 | 晴 | 直接観察 |

出典等：「平成 27 年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成 28 年 株式会社東洋設計）を参考に作成した。

オ. 魚類

魚類の調査方法を表2.2.5-28に示す。

表 2.2.5-28 魚類の調査方法

| 時期 | 調査実施日 | 天候 | 調査内容 |
|----|------------------|----|-----------|
| 春季 | 平成 27 年 5 月 27 日 | 晴 | 捕獲調査 |
| | 28 日 | 曇 | 捕獲調査、任意採集 |
| 夏季 | 平成 27 年 7 月 15 日 | 晴 | 捕獲調査、任意採集 |
| | 16 日 | 曇 | 捕獲調査、任意採集 |
| 秋季 | 平成 27 年 9 月 15 日 | 晴 | 捕獲調査 |
| | 16 日 | 曇 | 捕獲調査、任意採集 |

出典等：「平成 27 年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成 28 年 株式会社東洋設計）を参考に作成した。

カ. 昆虫類

昆虫類の調査方法を表2.2.5-29に示す。

表2.2.5-29 昆虫類の調査方法

| 時期 | 調査実施日 | 天候 | 調査内容 |
|----|------------|----|------------------------------|
| 春季 | 平成27年5月27日 | 晴 | 任意採集、ライトトラップ(設置)、ベイトトラップ(設置) |
| | 28日 | 曇 | 任意採集、ライトトラップ(回収)、ベイトトラップ(回収) |
| | 29日 | 晴 | 任意採集 |
| 夏季 | 平成27年7月15日 | 晴 | 任意採集、ライトトラップ(設置)、ベイトトラップ(設置) |
| | 16日 | 曇 | 任意採集、ライトトラップ(回収)、ベイトトラップ(回収) |
| | 17日 | 雨 | 任意採集 |
| 秋季 | 平成27年9月15日 | 晴 | 任意採集 |
| | 16日 | 曇 | 任意採集、ライトトラップ(設置)、ベイトトラップ(設置) |
| | 17日 | 晴 | 任意採集、ライトトラップ(回収)、ベイトトラップ(回収) |

出典等：「平成27年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成28年 株式会社東洋設計）を参考に作成した。

キ. 植物：植物相

植物相の調査方法を表2.2.5-30に示す。

表2.2.5-30 植物相の調査方法

| 時期 | 調査実施日 | 天候 | 調査内容 |
|-----|------------|----|------|
| 早春季 | 平成27年4月23日 | 晴 | 任意踏査 |
| | 24日 | 晴 | 任意踏査 |
| 春季 | 平成27年5月27日 | 晴 | 任意踏査 |
| | 28日 | 曇 | 任意踏査 |
| | 29日 | 晴 | 任意踏査 |
| 夏季 | 平成27年7月15日 | 晴 | 任意踏査 |
| | 16日 | 曇 | 任意踏査 |
| | 17日 | 雨 | 任意踏査 |
| 秋季 | 平成27年9月14日 | 晴 | 任意踏査 |
| | 15日 | 晴 | 任意踏査 |
| | 16日 | 曇 | 任意踏査 |
| | 17日 | 晴 | 任意踏査 |

出典等：「平成27年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成28年 株式会社東洋設計）を参考に作成した。

ク. 植物：植生

植生の調査方法を表2.2.5-31に示す。

表2.2.5-31に加え、既存資料、空中写真を参考に、植生や土地利用の状況によって現存植生図を作成した。

表 2.2.5-31 植生の調査方法

| 時期 | 調査実施日 | 天候 | 調査内容 |
|----|------------------|----|---------|
| 初秋 | 平成 27 年 9 月 14 日 | 晴 | コドラート調査 |
| | 15 日 | 晴 | コドラート調査 |
| | 16 日 | 曇 | コドラート調査 |

出典等：「平成 27 年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成 28 年 株式会社東洋設計）を参考に作成した。

ケ. 生態系：地域を特徴づける生態系

地域を特徴づける生態系の調査方法を表2.2.5-32に示す。

現地踏査ルートは、情報整備モデル地区における風力発電機の立地を考慮し、尾根地形を中心とし、かつ、さまざまな環境類型区分が含まれるように設定し、微地形や水系、土地利用等の目視確認を行った。

表 2.2.5-32 地域を特徴づける生態系の調査方法

| 時期 | 調査実施日 | 天候 | 調査内容 |
|-----|------------------|----|------|
| 早春季 | 平成 27 年 4 月 23 日 | 晴 | 現地踏査 |
| | 24 日 | 晴 | 現地踏査 |

出典等：「平成 27 年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成 28 年 株式会社東洋設計）を参考に作成した。

②調査結果の概要

ア. 哺乳類

情報整備モデル事業による調査の結果、「京都府レッドデータブック2015」に記載されている5種の重要種が確認された。重要種の確認結果を表2.2.5-33、確認位置を図2.2.5-8に示す。

対象事業実施区域及びその周囲において、重要な哺乳類が確認されている。

表 2.2.5-33 情報整備モデル事業において確認された哺乳類の重要な種

| No. | 種名 | 学名 | 重要種の選定根拠 | | | | | | 確認時期 | 備考 |
|-------|----|----|----------|---|---|---|---|---|------|----|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | |
| 1 | | | | | | | | | | — |
| 2 | | | | | | | | | | — |
| 3 | | | | | | | | | | — |
| 4 | | | | | | | | | | — |
| 5 | | | | | | | | | | — |
| 計 5 種 | | | | | | | | | | |

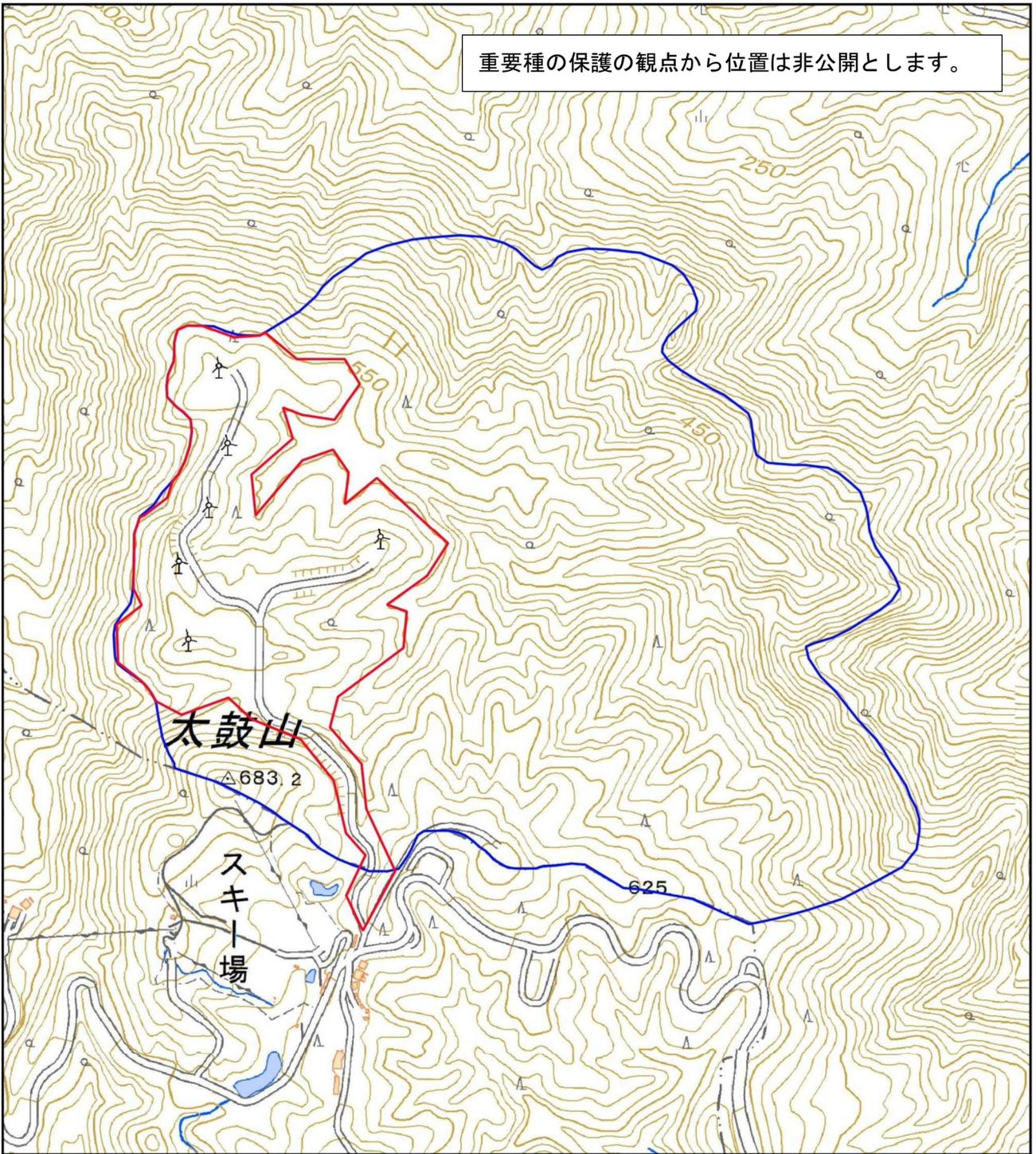
注1：上記の選定根拠は以下を示す。

- 1：「文化財保護法」（昭和25年 法律第214号 文化庁）
- 2：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年 法律第75号 文化庁）
- 3：「京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例」（平成19年 条例第51号 京都府）
- 4：「環境省レッドリスト2018」（平成30年環境省）
- 5：「京都府レッドデータブック2015」（平成27年 京都府）
- 6：「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック（水産庁編）」（平成10年 水産庁）

注2：科、種名の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省）に準拠した。

注3：表中のNo. は、図中の番号と対応する。

重要種の保護の観点から位置は非公開とします。



凡例

● 重要な哺乳類の確認位置

□ 対象事業実施区域

□ 風力発電機設置範囲

□ 情報整備モデル地区

100 0 100 200 300 400 500 m



図 2.2.5-8 重要な哺乳類の確認位置

出典等：「平成27年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成28年株式会社東洋設計）を参考に作成した。

イ. 鳥類

情報整備モデル事業による調査の結果、「環境省レッドリスト」及び「京都府レッドデータブック2015」に記載されている14種の重要種が確認された。重要種の確認結果を表2.2.5-34、重要種の確認位置を図2.2.5-9に示す。

対象事業実施区域及びその周囲において、重要な鳥類が確認されている。ただし、重要種が主に確認された位置は対象事業実施区域外であり（対象事業実施区域内：4種、対象事業実施区域外：14種）、当該区域の東～南東側の樹林地帯である。

対象事業実施区域及びその周囲における重要な鳥類の繁殖の可能性を、「種の多様性調査 鳥類繁殖分布調査報告書」（平成16年 環境省自然環境局生物多様性センター）に示される繁殖可能性のランクにより把握した。

対象事業実施区域内で確認された4種のうち、ランクB（繁殖の可能性はある）と判定された種は、・・・・、・・・及び・・・・であった。ただし、これらの種は対象事業実施区域外においても確認されており、繁殖可能性も同ランクである。また、・・・・については、対象事業実施区域内での繁殖可能性ランクはC（繁殖の可能性は、何ともいえない）であったが、対象事業実施区域外ではランクBとなっており、繁殖の可能性が示唆される。なお、本種については、対象事業実施区域外において巣立ち後の幼鳥を確認しているが、当該個体の巣を確認できなかったことから繁殖可能性ランクをBとしている[※]。なお、・・・・は越冬のために日本に飛来する冬鳥であるが、繁殖期である6月にも確認されている。ただし、いずれも地鳴きでの確認であったことから繁殖の可能性は不明である。

※「種の多様性調査 鳥類繁殖分布調査報告書」では、ヒナについては、巣からほとんど移動していないと思われる巣立ちヒナを見た場合に、ランクをA（繁殖を確認した）としている。

表 2.2.5-34 情報整備モデル事業において確認された鳥類の重要な種

| No. | 種名 | 学名 | 重要種の選定根拠 | | | | | | 確認時期 | 渡り | 繁殖可能性 | |
|--------|----|----|----------|---|---|---|---|---|------|----|-------|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | 内 | 外 |
| 1 | | | | | | | | | | — | C | |
| 2 | | | | | | | | | | — | C | |
| 3 | | | | | | | | | | — | B | |
| 4 | | | | | | | | | | B | B | |
| 5 | | | | | | | | | | B | B | |
| 6 | | | | | | | | | | — | B | |
| 7 | | | | | | | | | | — | C | |
| 8 | | | | | | | | | | C | B | |
| 9 | | | | | | | | | | — | B | |
| 10 | | | | | | | | | | — | B | |
| 11 | | | | | | | | | | B | B | |
| 12 | | | | | | | | | | — | B | |
| 13 | | | | | | | | | | — | C | |
| 14 | | | | | | | | | | — | C | |
| 計 14 種 | | | | | | | | | | | | |

注1：上記の選定根拠は以下を示す。

- 1：「文化財保護法」（昭和25年 法律第214号 文化庁）
- 2：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年 法律第75号 文化庁）
- 3：「京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例」（平成19年 条例第51号 京都府）
- 4：「環境省レッドリスト2018」（平成30年環境省）
- 5：「京都府レッドデータブック2015」（平成27年 京都府）
- 6：「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック（水産庁編）」（平成10年 水産庁）

注2：渡りの区分については、「京都府産鳥類リスト」（京都府 平成5年）を参考とし、京都府内での次の渡り区分を記載した。

- 留…府内において周年生息し繁殖する鳥
- 夏…春、府内に渡来し繁殖、秋に渡去する鳥
- 冬…秋、府内に渡来し越冬、春に渡去する鳥

注3：科、種名の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省）に準拠した。

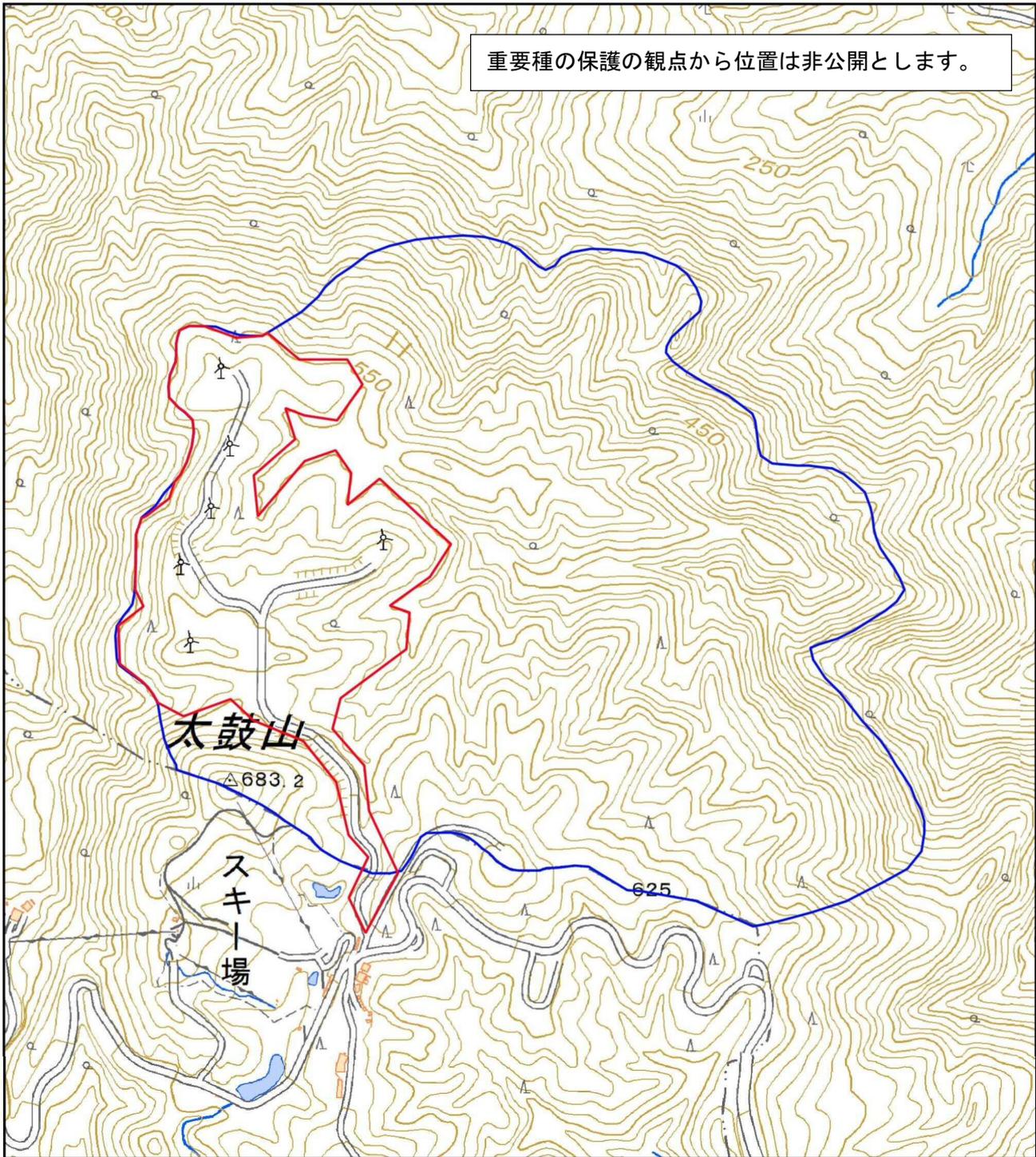
注4：繁殖可能性は、「種の多様性調査 鳥類繁殖分布調査報告書」（平成16年 環境省自然環境局生物多様性センター）に示される以下の繁殖可能性のランクを参考とした。

- A：繁殖を確認した。
- B：繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性はある。
- C：生息を確認したが、繁殖の可能性は、何ともいえない。
- D：姿・声を確認したが、繁殖の可能性は、おそらくない。
- E：生息は確認できなかったが、環境から推測して、繁殖期における生息が考えられる。
- F：繁殖期における生息を確認できず、繁殖については何ともいえない（上記のランク以外のものに相当）。

注5：繁殖可能性の「内／外」は、それぞれ「対象事業実施区域内／対象事業実施区域外」を示す。また、「—」は、当該区域で確認されなかったことを示す。

注6：表中のNo. は、図中の番号と対応する。

重要種の保護の観点から位置は非公開とします。



凡例

● 重要な鳥類の確認位置

□ 対象事業実施区域

□ 風力発電機設置範囲

□ 情報整備モデル地区

100 0 100 200 300 400 500 m

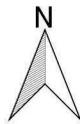


図 2.2.5-9 重要な鳥類の確認位置

出典等：「平成27年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成28年株式会社東洋設計）を参考に作成した。

ウ. 希少猛禽類

a. 確認種の状況

情報整備モデル事業による調査の結果、表2.2.5-35に示す3科9種の希少猛禽類が確認された。本図書においては、情報整備モデル地区及びその近傍の上空での飛翔が確認された……、……、……及び……の出現状況を、図2.2.5-10から図2.2.5-13に示す。

全調査時期を通して情報整備モデル地区の上空で主に見られた種は……であり、その他の希少猛禽類の飛翔は数例であった。……は情報整備モデル地区上空で主に飛翔が確認されたが、情報整備モデル地区及びその周囲において、営巣地は確認されていない。なお、本種については幼鳥が確認されているが、情報整備モデル地区から南西約3kmの位置であった。

表 2.2.5-35 情報整備モデル事業において確認された希少猛禽類

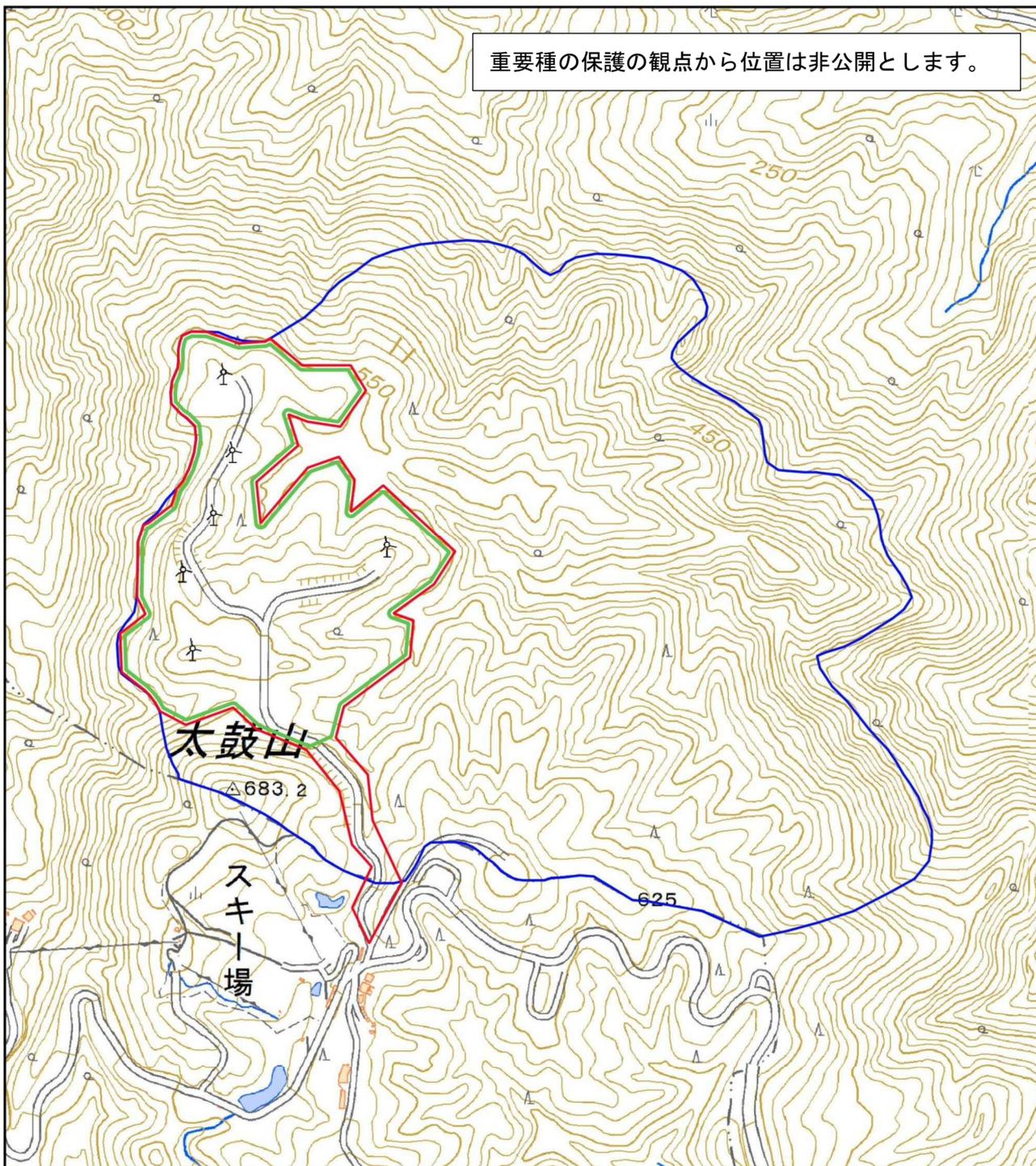
| 種名 | 学名 | 希少猛禽類の選定根拠 | | | | | | 確認時期 | 備考 |
|-------|----|------------|---|---|---|---|---|------|----|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 計 9 種 | | | | | | | | | |

注1：上記の選定根拠は以下を示す。

- 1：「文化財保護法」（昭和25年 法律第214号 文化庁）
- 2：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年 法律第75号 文化庁）
- 3：「京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例」（平成19年 条例第51号 京都府）
- 4：「環境省レッドリスト2018」（平成30年環境省）
- 5：「京都府レッドデータブック2015」（平成27年 京都府）
- 6：「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック（水産庁編）」（平成10年 水産庁）

注2：科、種名の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省）に準拠した。

重要種の保護の観点から位置は非公開とします。



凡例

確認状況

— 春季 (3月、5月)

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 情報整備モデル地区

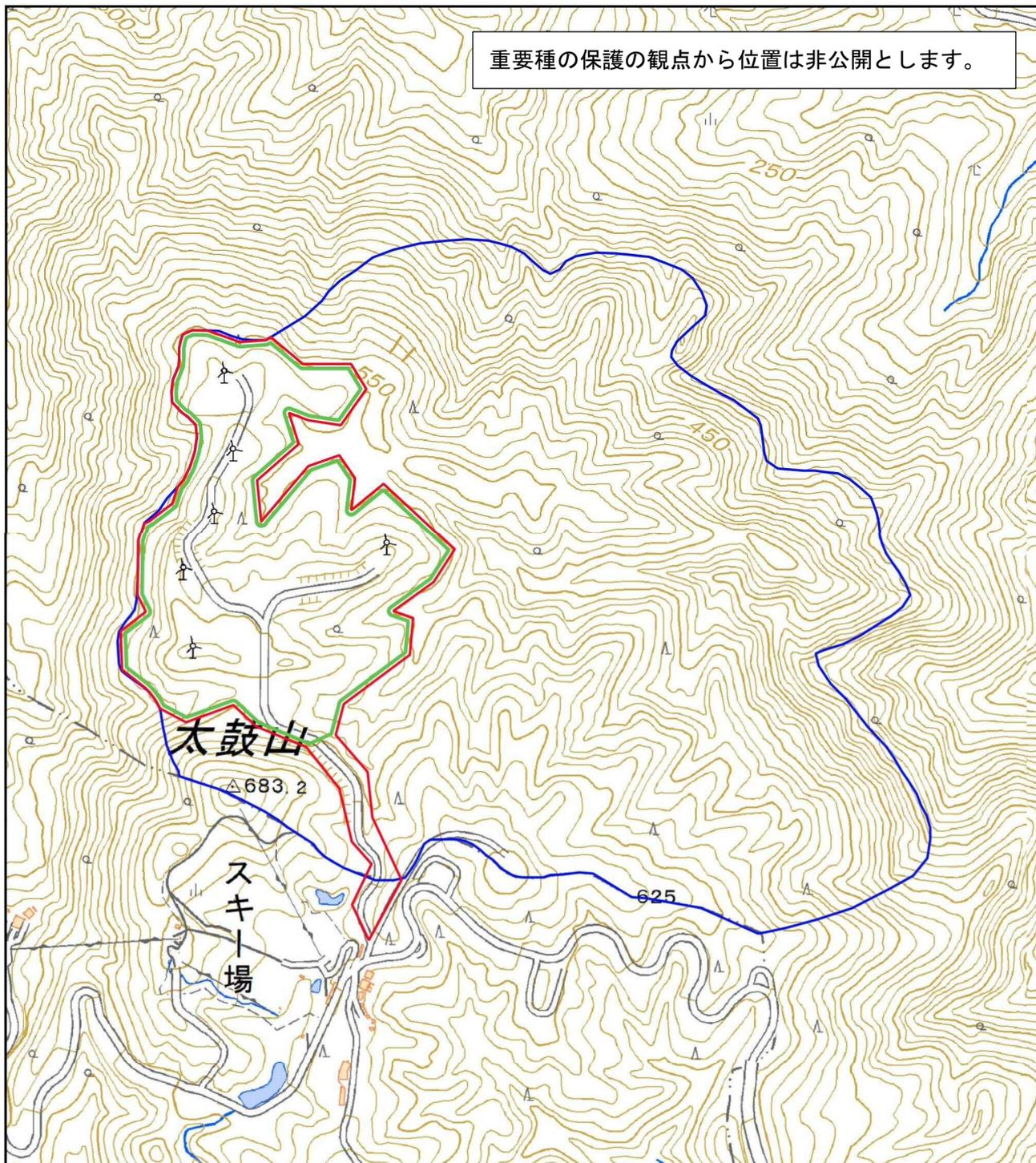
100 0 100 200 300 400 500 m



図 2.2.5-10 (1) 希少猛禽類の確認位置
(.....: 春季)

出典等: 「平成27年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業 (京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業) 委託業務報告書」(平成28年株式会社東洋設計) を参考に作成した。

重要種の保護の観点から位置は非公開とします。



凡例

確認状況

— 夏季（6月、7月、8月）

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 情報整備モデル地区

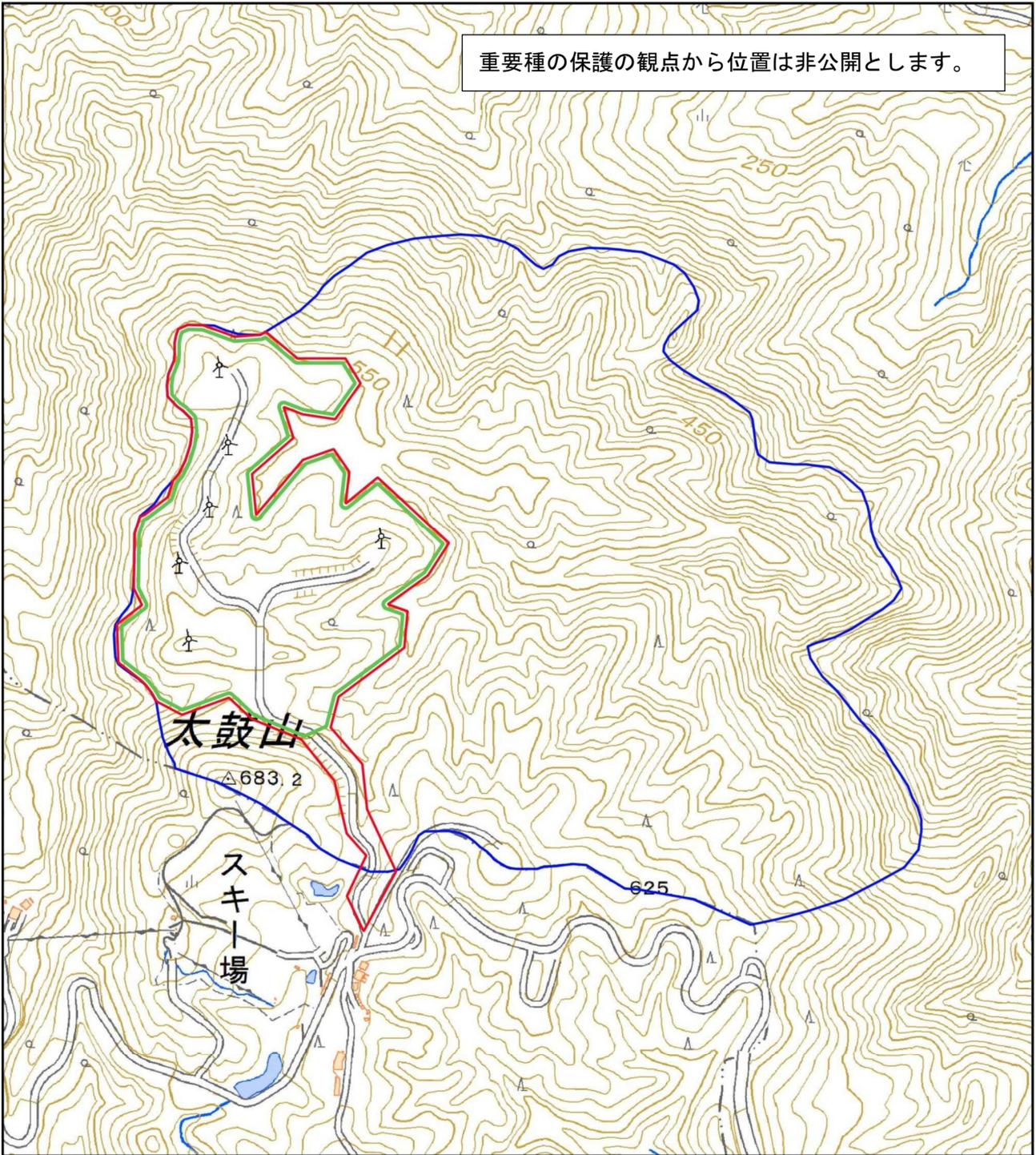
100 0 100 200 300 400 500 m



図 2.2.5-10 (2) 希少猛禽類の確認位置
(.....: 夏季)

出典等：「平成27年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成28年株式会社東洋設計）を参考に作成した。

重要種の保護の観点から位置は非公開とします。



凡例

確認状況

— 秋季（9月）

□ 対象事業実施区域

□ 風力発電機設置範囲

□ 情報整備モデル地区

100 0 100 200 300 400 500 m

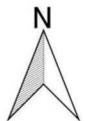
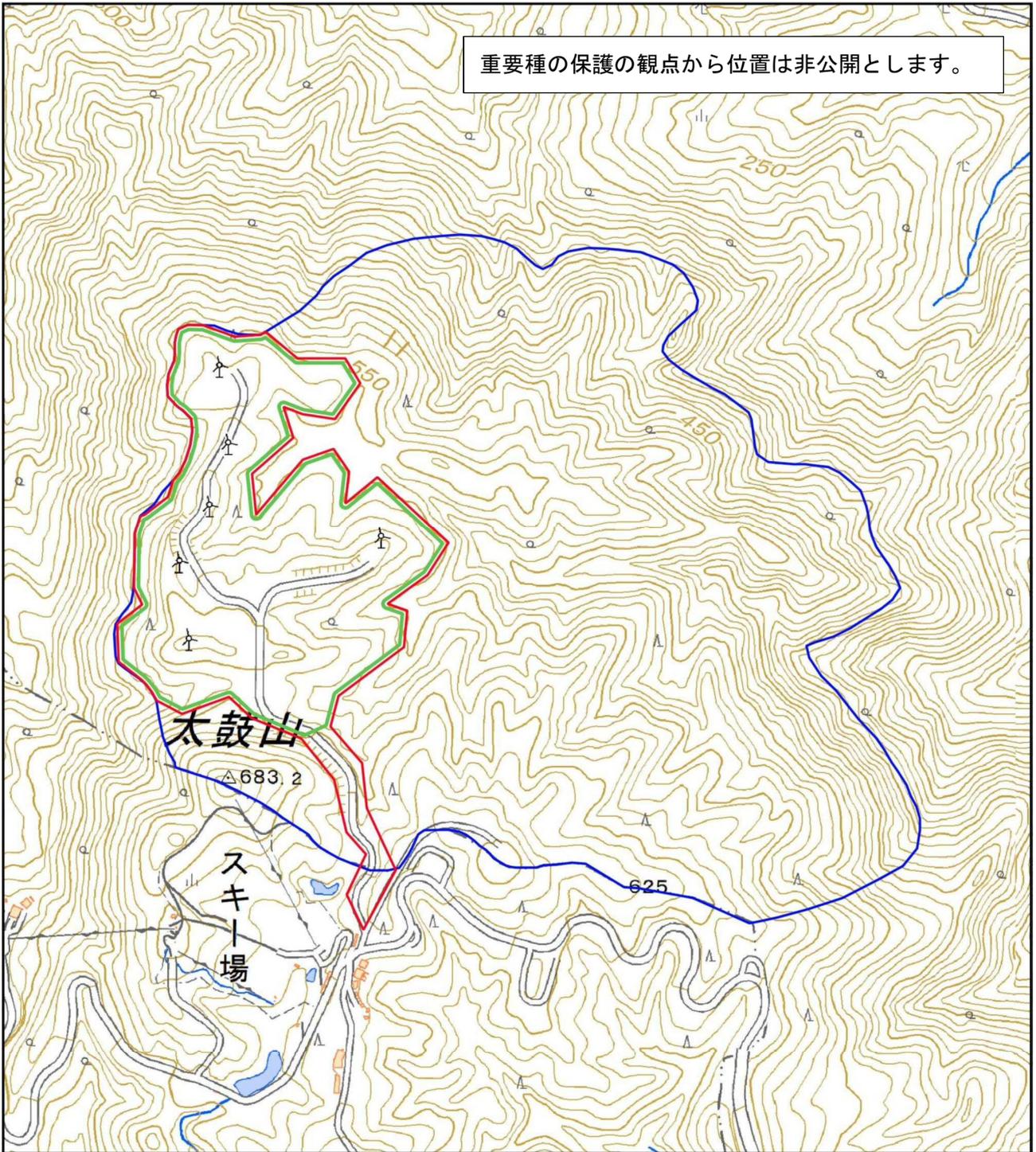


図 2.2.5-10 (3) 希少猛禽類の確認位置

(.....: 秋季)

出典等: 「平成27年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業 (京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業) 委託業務報告書」(平成28年株式会社東洋設計) を参考に作成した。

重要種の保護の観点から位置は非公開とします。



凡例

確認状況

— 夏季 (6月、7月、8月)

□ 対象事業実施区域

□ 風力発電機設置範囲

□ 情報整備モデル地区

100 0 100 200 300 400 500 m

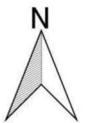
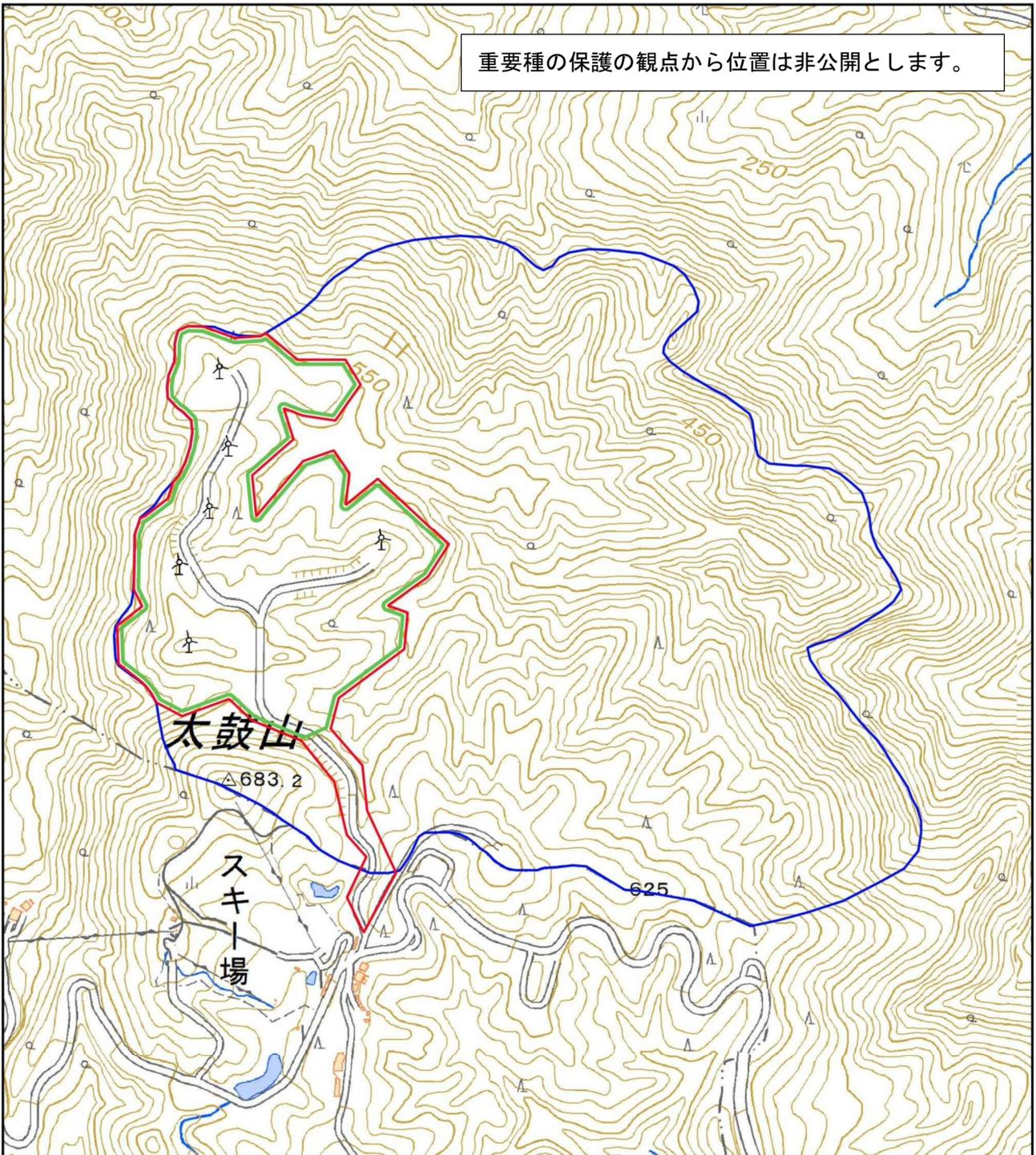


図 2.2.5-11 希少猛禽類の確認位置

(. . . : 夏季)

出典等：「平成27年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成28年株式会社東洋設計）を参考に作成した。

重要種の保護の観点から位置は非公開とします。



凡例

確認状況

— 春季（3月、5月）

□ 対象事業実施区域

□ 風力発電機設置範囲

□ 情報整備モデル地区

100 0 100 200 300 400 500 m

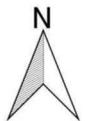
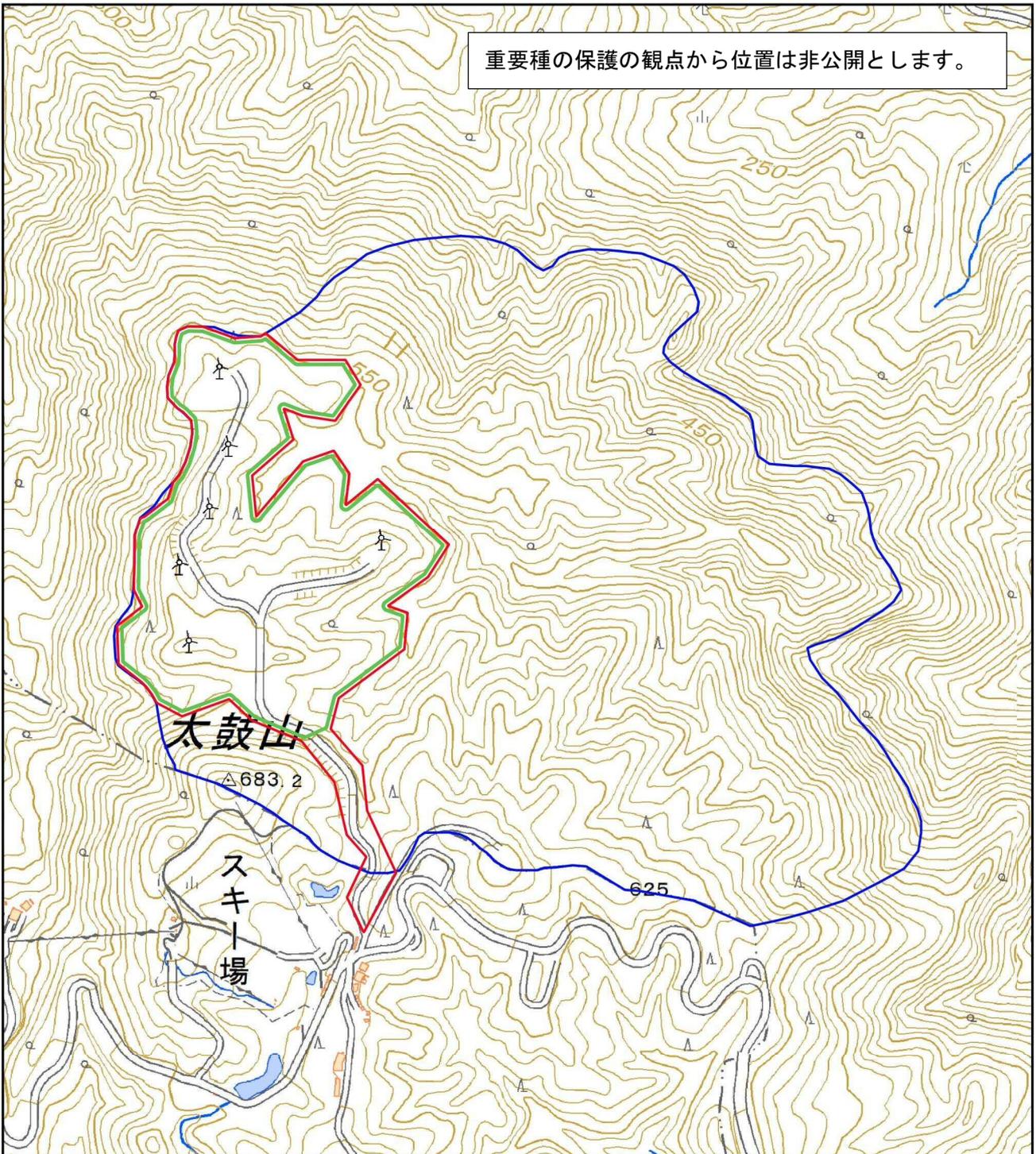


図 2.2.5-12 希少猛禽類の確認位置

(..... : 春季)

出典等：「平成27年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成28年株式会社東洋設計）を参考に作成した。

重要種の保護の観点から位置は非公開とします。



凡例

確認状況

— 夏季（6月、7月、8月）

□ 対象事業実施区域

□ 風力発電機設置範囲

□ 情報整備モデル地区

100 0 100 200 300 400 500 m

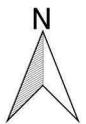


図 2.2.5-13 希少猛禽類の確認位置

（・・・：夏季）

出典等：「平成27年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成28年株式会社東洋設計）を参考に作成した。

b. 希少猛禽類等の飛翔高度

本図書においては、調査期間において最も多くの飛翔を確認した（59例）……の飛翔高度を図 2.2.5-14 に示す。

……は、主に標高 350m 前後を飛翔しており、飛翔標高は 300m 以上の確認例数が全体の 9 割を占め、平均飛翔標高は約 430m、最低飛翔標高は約 170m、最高飛翔標高は約 1,250m であった。

また、情報整備モデル地区におけるブレード回転域*に相当する標高を飛翔したのは 11 例であった。

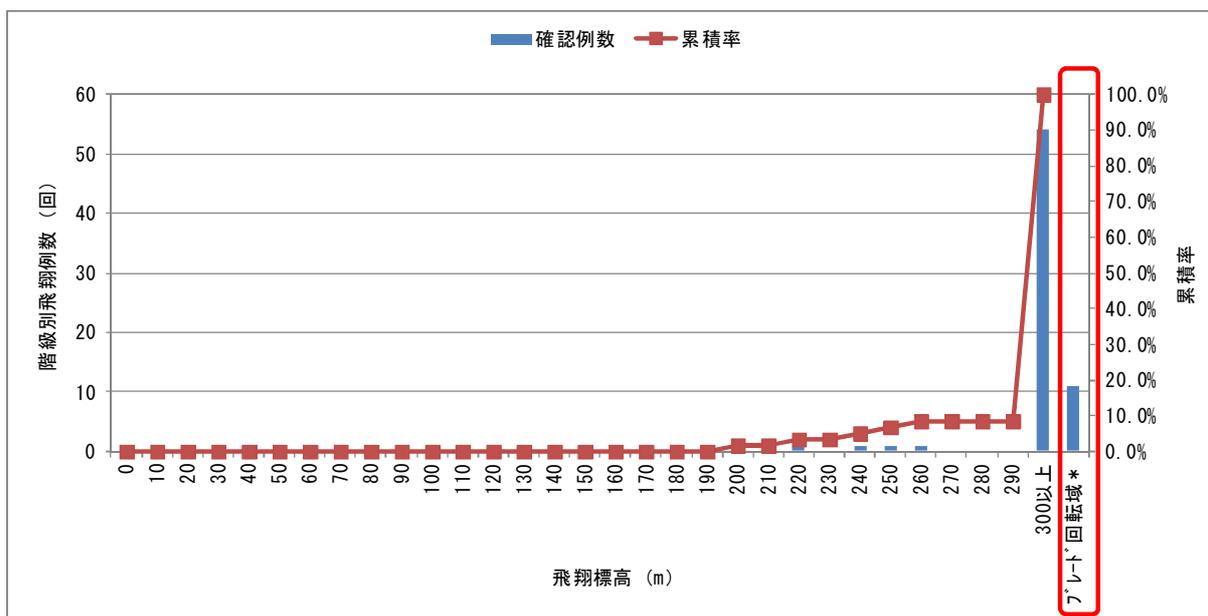


図 2.2.5-14 ……の飛翔標高

注：ブレード回転域は、以下のとおり仮定した。

情報整備モデル地区（標高 500～600m）において、地上高 120m、ハブ高さ 75m、ブレード直径 90m 程度の風車を建設した場合のブレード回転域（標高 530～720m）

出典等：「平成 27 年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成 28 年 株式会社東洋設計）を参考に作成した。

エ. 爬虫類・両生類

情報整備モデル事業による調査の結果、爬虫類については「京都府レッドデータブック 2015」に記載されている 4 種の重要種が確認された。また、両生類については、「環境省レッドリスト」及び「京都府レッドデータブック 2015」等に記載されている 8 種の重要種が確認された。重要種の確認結果を表 2.2.5-36、重要種の確認位置を図 2.2.5-15 に示す。

対象事業実施区域及びその周囲において、重要な爬虫類・両生類が確認されている。ただし、重要種が主に確認された位置は対象事業実施区域外であり、当該区域の東側及び南側の湿地環境である。

表 2.2.5-36 情報整備モデル事業において確認された爬虫類・両生類の重要な種

| No. | 種名 | 学名 | 重要種の選定根拠 | | | | | | 確認時期 | 備考 |
|--------|----|----|----------|---|---|---|---|---|------|----|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | |
| 1 | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | | |
| 計 12 種 | | | | | | | | | | |

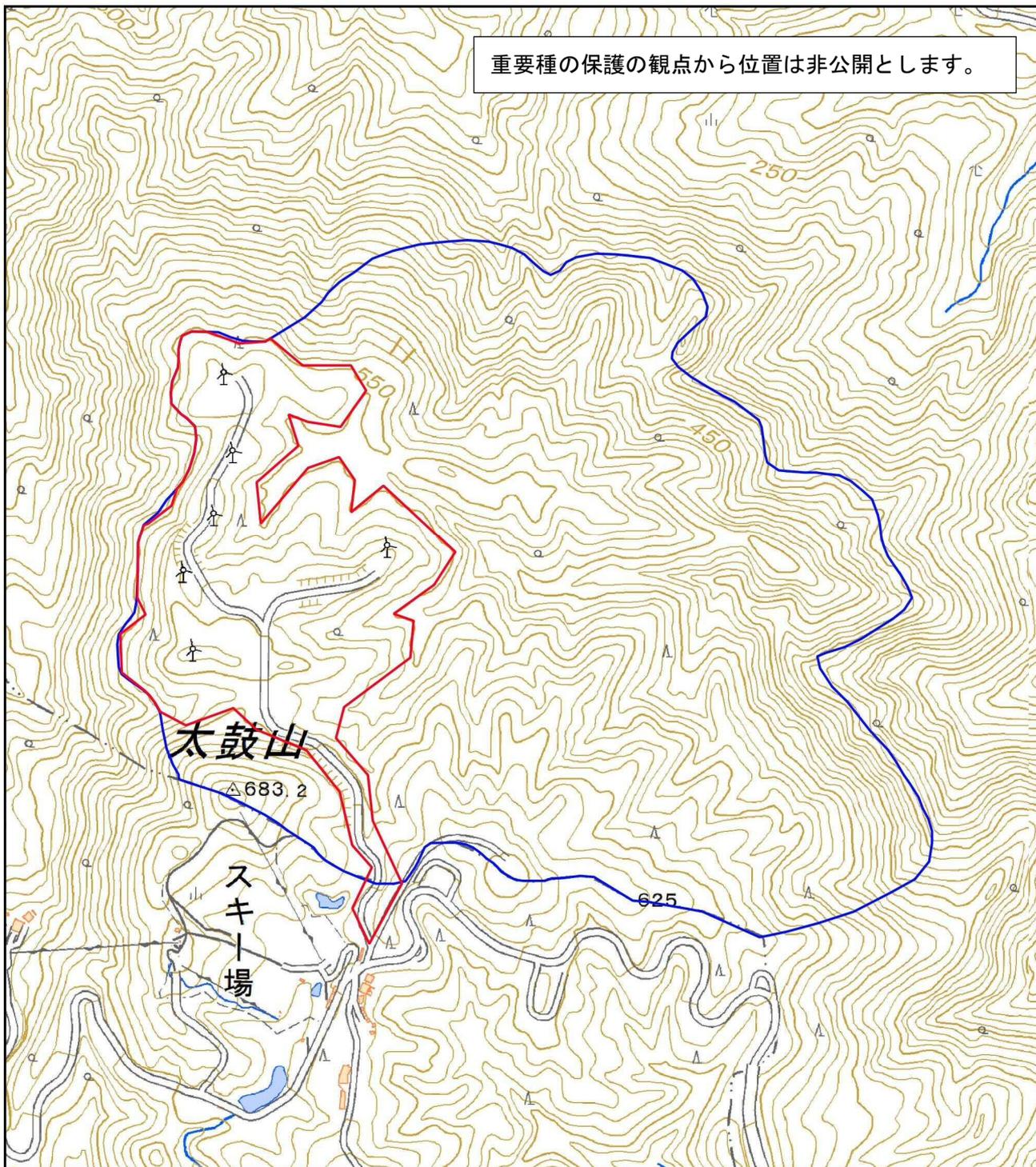
注1：上記の選定根拠は以下を示す。

- 1：「文化財保護法」（昭和25年 法律第214号 文化庁）
- 2：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年 法律第75号 文化庁）
- 3：「京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例」（平成19年 条例第51号 京都府）
- 4：「環境省レッドリスト2018」（平成30年環境省）
- 5：「京都府レッドデータブック2015」（平成27年 京都府）
- 6：「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック（水産庁編）」（平成10年 水産庁）

注2：科、種名の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省）に準拠した。

注3：表中のNo. は、図中の番号と対応する。

重要種の保護の観点から位置は非公開とします。



凡例

● 重要な爬虫類・両生類の確認位置

□ 対象事業実施区域

□ 風力発電機設置範囲

□ 情報整備モデル地区

100 0 100 200 300 400 500 m

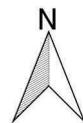


図 2.2.5-15 重要な爬虫類・両生類の確認位置

出典等：「平成27年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成28年株式会社東洋設計）を参考に作成した。

オ. 魚類

情報整備モデル事業による調査の結果、魚類については「環境省レッドリスト」に記載されている2種の重要種が確認された。重要種の確認結果を表2.2.5-37に、確認地点を図2.2.5-16に示す。

表2.2.5-37 情報整備モデル事業において確認された魚類の重要な種

| No. | 種名 | 学名 | 重要種の選定根拠 | | | | | | 確認時期 | 備考 |
|------|----|----|----------|---|---|---|---|---|------|----|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | |
| 1 | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | |
| 計 2種 | | | | | | | | | | |

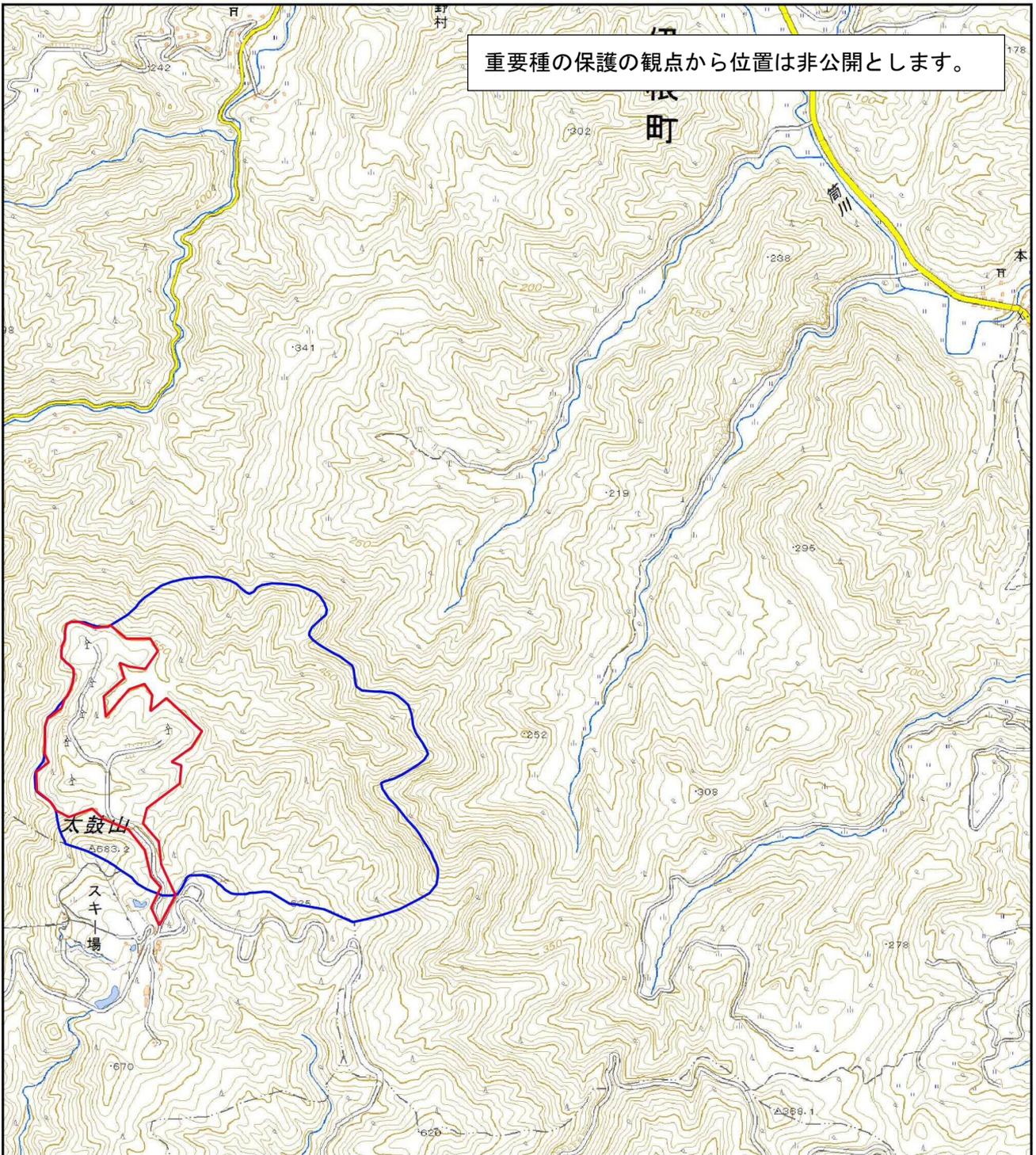
注1：上記の選定根拠は以下を示す。

- 1：「文化財保護法」（昭和25年 法律第214号 文化庁）
- 2：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年 法律第75号 文化庁）
- 3：「京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例」（平成19年 条例第51号 京都府）
- 4：「環境省レッドリスト2018」（平成30年環境省）
- 5：「京都府レッドデータブック2015」（平成27年 京都府）
- 6：「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック（水産庁編）」（平成10年 水産庁）

注2：科、種名の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省）に準拠した。

注3：表中のNo. は、図中の番号と対応する。

重要種の保護の観点から位置は非公開とします。



凡例

● 重要な魚類の確認位置

□ 対象事業実施区域

□ 風力発電機設置範囲

□ 情報整備モデル地区

0.2 0 0.2 0.4 0.6 0.8 1 km

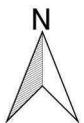


図 2.2.5-16 重要な魚類の確認位置

出典等：「平成27年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成28年株式会社東洋設計）を参考に作成した。

カ. 昆虫類

情報整備モデル事業による調査の結果、「環境省レッドリスト」及び「京都府レッドデータブック 2015」に記載されている 14 種の重要種が確認された。重要種の確認結果を表 2.2.5-38、重要種の確認位置を図 2.2.5-17 に示す。

対象事業実施区域及びその周囲において、重要な昆虫類が確認されている。ただし、主に確認された位置は対象事業実施区域南のスキー場周辺であり、対象事業実施区域内での確認は少ない傾向にある。

表 2.2.5-38 情報整備モデル事業において確認された爬虫類・両生類の重要な種

| No. | 種名 | 学名 | 重要種の選定根拠 | | | | | | 確認時期 | 備考 |
|--------|----|----|----------|---|---|---|---|---|------|----|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | |
| 1 | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | | |
| 13 | | | | | | | | | | |
| 14 | | | | | | | | | | |
| 計 14 種 | | | | | | | | | | |

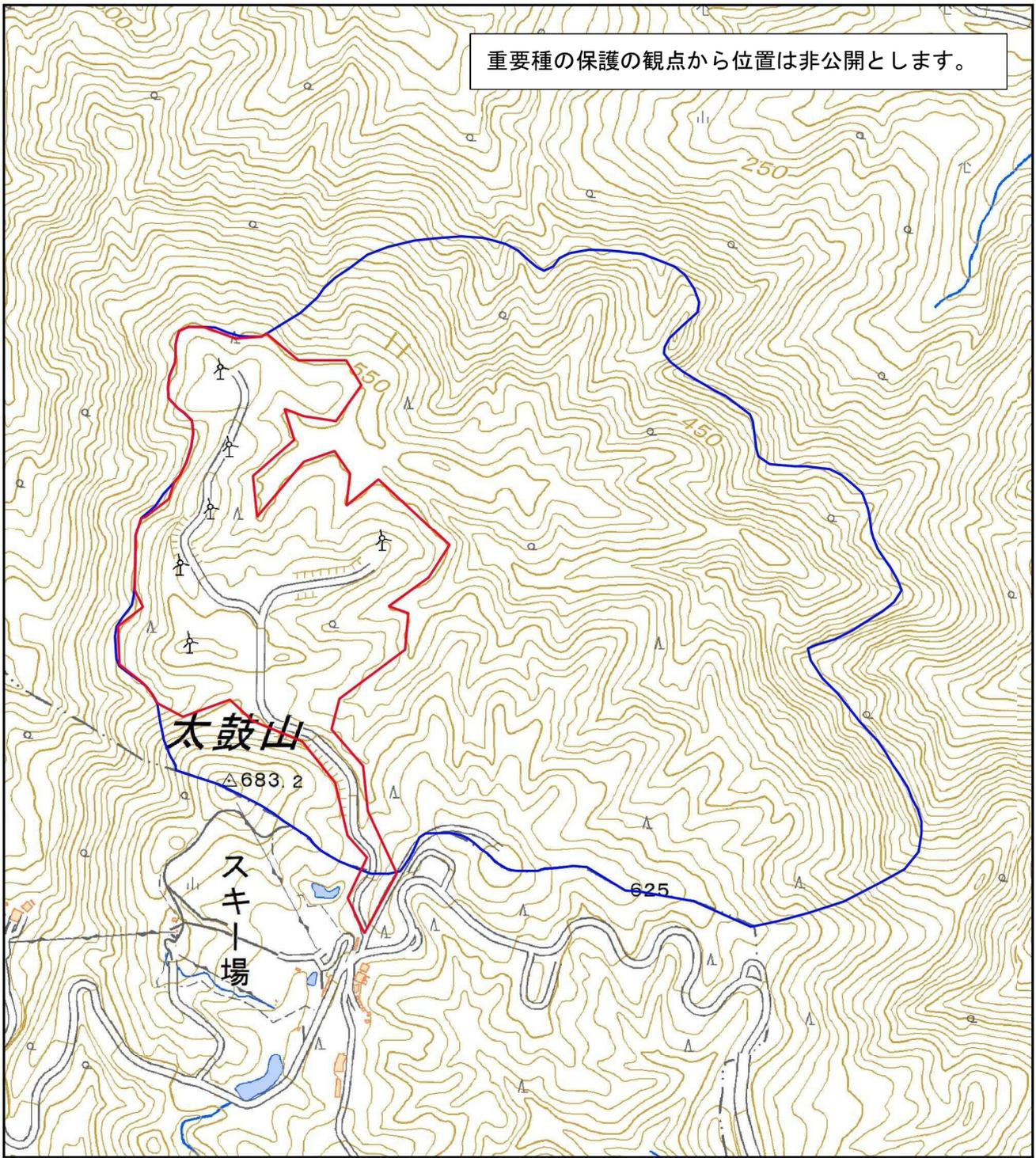
注1：上記の選定根拠は以下を示す。

- 1：「文化財保護法」（昭和25年 法律第214号 文化庁）
- 2：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年 法律第75号 文化庁）
- 3：「京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例」（平成19年 条例第51号 京都府）
- 4：「環境省レッドリスト2018」（平成30年環境省）
- 5：「京都府レッドデータブック2015」（平成27年 京都府）
- 6：「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック（水産庁編）」（平成10年 水産庁）

注2：科、種名の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省）に準拠した。

注3：表中のNo. は、図中の番号と対応する。

重要種の保護の観点から位置は非公開とします。



凡例

● 重要な昆虫類の確認位置

□ 対象事業実施区域

□ 風力発電機設置範囲

□ 情報整備モデル地区

100 0 100 200 300 400 500 m

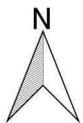


図 2.2.5-17 重要な昆虫類の確認位置

出典等：「平成27年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成28年株式会社東洋設計）を参考に作成した。

キ. 植物：植物相

情報整備モデル事業による調査の結果、「環境省レッドリスト」及び「京都府レッドデータブック 2015」に記載されている 54 種の重要種が確認された。重要種の確認結果を表 2.2.5-39、重要種の確認位置を図 2.2.5-18 に示す。

対象事業実施区域及びその周囲において、重要な植物が確認されている。主に確認された位置は、対象事業実施区域の東側にある湿地環境と南側のスキー場周辺であるが、既設の太鼓山風力発電所用地の周辺でも確認されている。

表 2.2.5-39 (1) 情報整備モデル事業において確認された植物の重要な種

| No. | 種名 | 学名 | 重要種の選定根拠 | | | | | | 確認時期 | 備考 |
|-----|----|----|----------|---|---|---|---|---|------|----|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | |
| 1 | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | | |
| 13 | | | | | | | | | | |
| 14 | | | | | | | | | | |
| 15 | | | | | | | | | | |
| 16 | | | | | | | | | | |
| 17 | | | | | | | | | | |
| 18 | | | | | | | | | | |
| 19 | | | | | | | | | | |
| 20 | | | | | | | | | | |
| 21 | | | | | | | | | | |
| 22 | | | | | | | | | | |
| 23 | | | | | | | | | | |
| 24 | | | | | | | | | | |
| 25 | | | | | | | | | | |
| 26 | | | | | | | | | | |
| 27 | | | | | | | | | | |
| 28 | | | | | | | | | | |

表 2.2.5-39 (2) 情報整備モデル事業において確認された植物の重要な種

| No. | 種名 | 学名 | 重要種の選定根拠 | | | | | | 確認 時期 | 備考 |
|--------|----|----|----------|---|---|---|---|---|----------|----|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | |
| 29 | | | | | | | | | | |
| 30 | | | | | | | | | | |
| 31 | | | | | | | | | | |
| 32 | | | | | | | | | | |
| 33 | | | | | | | | | | |
| 34 | | | | | | | | | | |
| 35 | | | | | | | | | | |
| 36 | | | | | | | | | | |
| 37 | | | | | | | | | | |
| 38 | | | | | | | | | | |
| 39 | | | | | | | | | | |
| 40 | | | | | | | | | | |
| 41 | | | | | | | | | | |
| 42 | | | | | | | | | | |
| 43 | | | | | | | | | | |
| 44 | | | | | | | | | | |
| 45 | | | | | | | | | | |
| 46 | | | | | | | | | | |
| 47 | | | | | | | | | | |
| 48 | | | | | | | | | | |
| 49 | | | | | | | | | | |
| 50 | | | | | | | | | | |
| 51 | | | | | | | | | | |
| 52 | | | | | | | | | | |
| 53 | | | | | | | | | | |
| 54 | | | | | | | | | | |
| 計 54 種 | | | | | | | | | | |

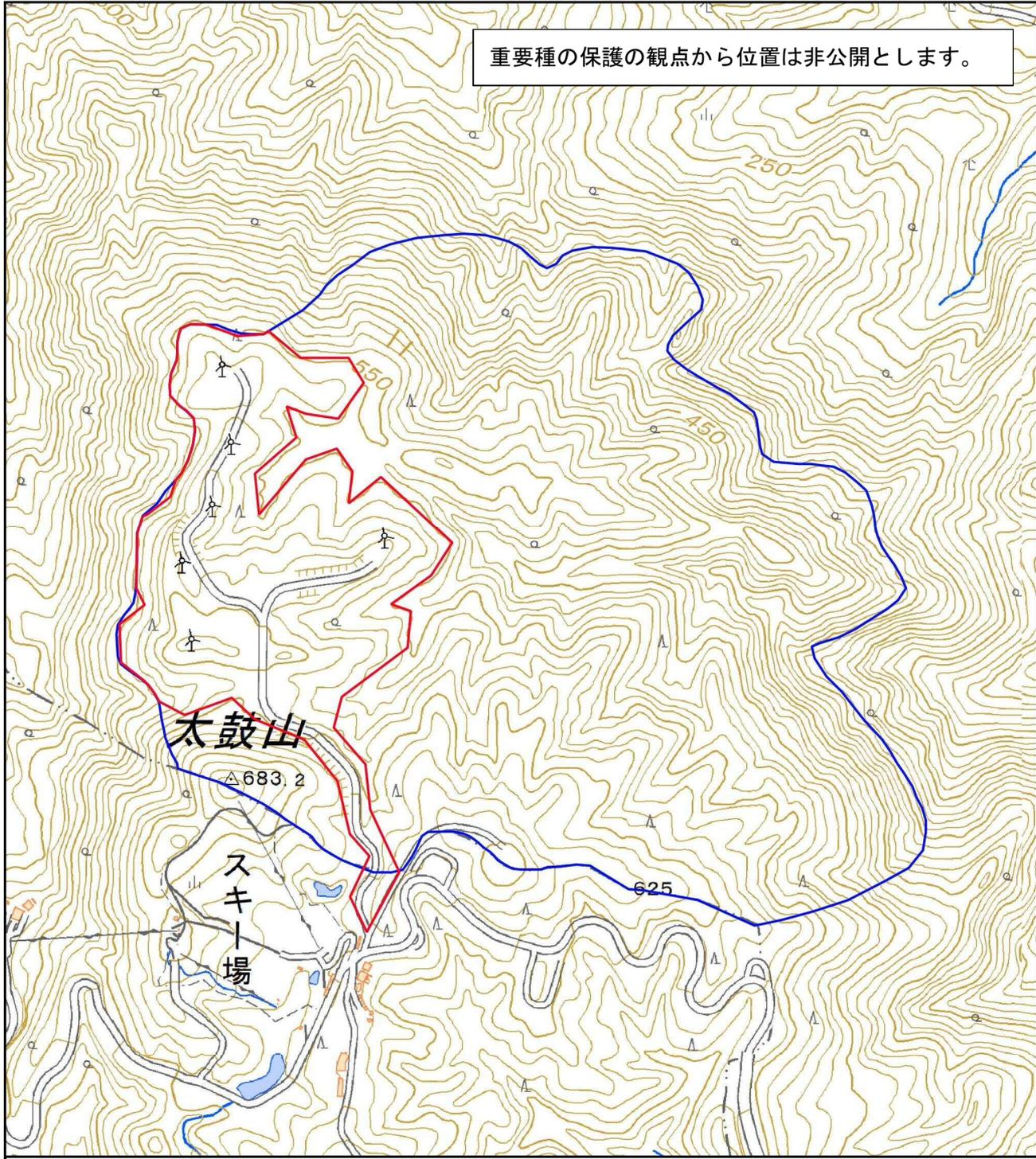
注1：上記の選定根拠は以下を示す。

- 1：「文化財保護法」（昭和25年 法律第214号 文化庁）
- 2：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年 法律第75号 文化庁）
- 3：「京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例」（平成19年 条例第51号 京都府）
- 4：「環境省レッドリスト2018」（平成30年環境省）
- 5：「京都府レッドデータブック2015」（平成27年 京都府）
- 6：「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック（水産庁編）」（平成10年 水産庁）

注2：科、種名の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省）に準拠した。

注3：表中のNo. は、図中の番号と対応する。

重要種の保護の観点から位置は非公開とします。



凡例

● 重要な植物の確認位置

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 情報整備モデル地区

100 0 100 200 300 400 500 m

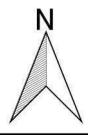


図 2.2.5-18 重要な植物の確認位置

出典等：「平成27年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成28年株式会社東洋設計）を参考に作成した。

ク. 植物：植生

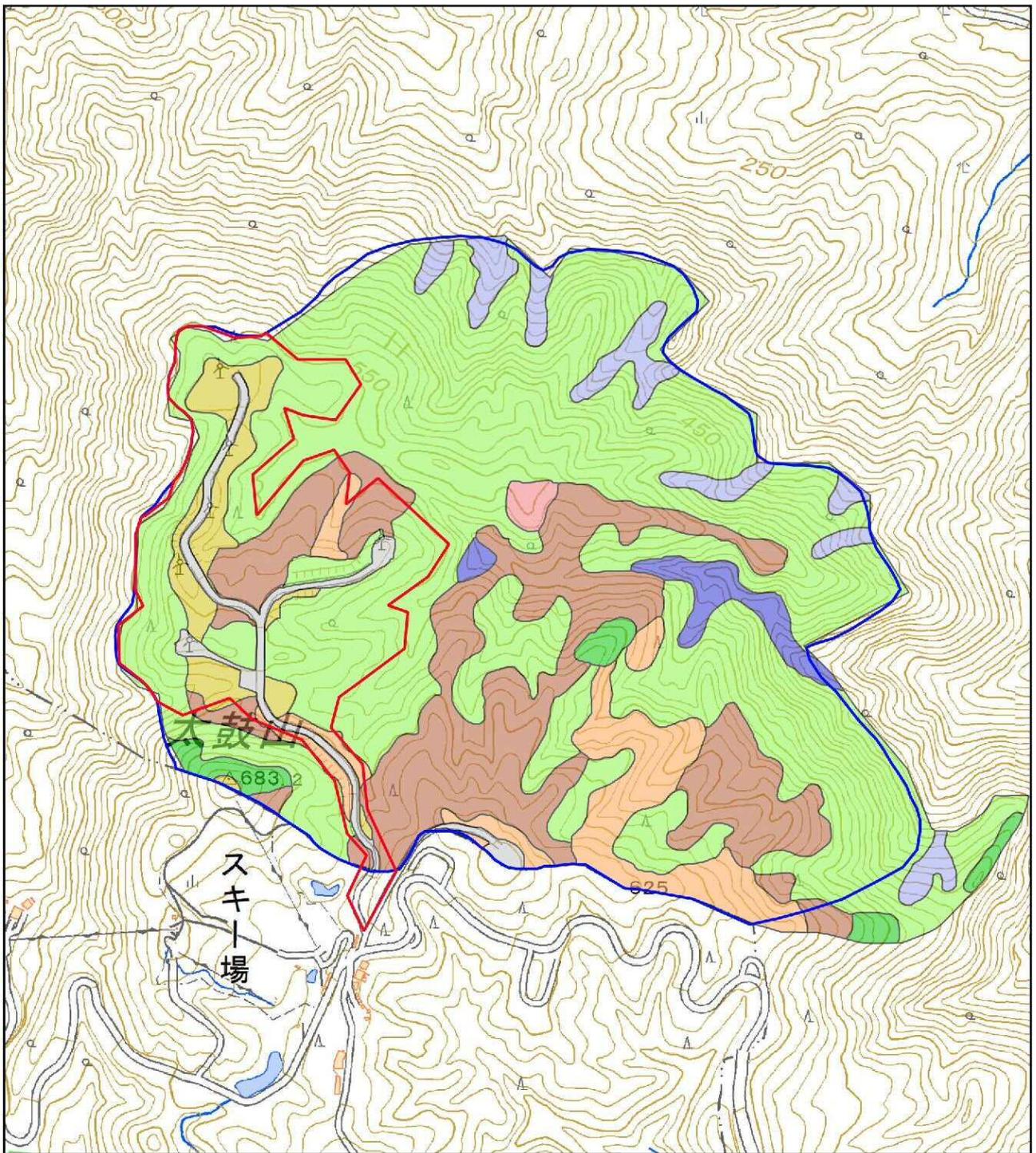
植物群落区分及び群落の概要を表 2. 2. 5-40 に、空中写真判読により作成した現存植生図を図 2. 2. 5-19 に示す。なお、一部のコードラート調査地点を情報整備モデル地区外に設定したため、現存植生図の一部には、情報整備モデル地区外が含まれている。

表 2. 2. 5-40 植物群落区分の概況

| 区分 | 群落名 | 群落概要 | 面積 (ha) |
|------------|------------------|--|---------|
| 落葉広葉樹林 | ブナ群落 | 主に尾根筋や太鼓山北側斜面に成立し、高木層にブナ、草本層にチシマザサ等が優占する群落 | 0.7 |
| 溪畔林 | ジュウモンジシダーサワグルミ群集 | 情報整備モデル地区内の谷（溪流）に成立し、高木層にサワグルミ、草本層にチマキザサなどが優占する。 | 2.2 |
| なだれ地自然低木群落 | タニウツギ群落 | 情報整備モデル地区内北側の急傾斜地（谷部）に成立するタニウツギ等がみられる低木林 | 3.2 |
| 落葉広葉樹二次林 | ユキグニミツバツツジーコナラ群集 | 情報整備モデル地区内の大部分を占め、斜面などに成立する落葉広葉樹林であり、高木層にコナラ、草本層にチマキザサなどが優占する。 | 57.4 |
| | ヌルデーアカメガシワ群落 | 林縁部に成立する低木林であり、ヌルデーやアカメガシワが優占する。 | 6.8 |
| 常緑針葉樹二次林 | アカマツ群落 | 主に尾根に成立し、高木層にアカマツが優占する。 | 0.6 |
| 植林地 | スギーヒノキ植林 | 情報整備モデル地区内の斜面を利用したスギ、ヒノキ植林であり、低木層にクロモジ、草本層にミヤマカンスゲなどが優占する。 | 21.0 |
| 二次草原 | ススキ群落 | 主に太鼓山風力発電所敷地に成立するススキが優占する群落 | 3.9 |
| 市街地等 | 人工裸地 | 主に太鼓山風力発電所の構内の舗装道路 | 2.5 |
| 合計 | | | 100.0 |

注：区分及び配列は、自然環境保全基礎調査植生調査の統一凡例を参考とした。

出典等：「平成 27 年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成 28 年 株式会社東洋設計）を参考に作成した。



凡例

現存植生

- アカマツ群落
- ブナ群落
- ユキグニミツバツツジコナラ群集
- ジュウモンジシダーサワグルミ群集
- スギーヒノキ植林
- ヌルデーアカメガシワ群落
- タニウツギ群落
- ススキ群落
- 人工裸地

- 対象事業実施区域
- 情報整備モデル地区

100 0 100 200 300 400 500 m

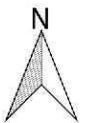


図 2.2.5-19 現地調査による現存植生図

出典等：「平成27年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成28年株式会社東洋設計）を参考に作成した。

ケ. 生態系：地域を特徴づける生態系

a. 基盤環境の状況

情報整備モデル地区は、丹後半島北東部の孤峰である太鼓山に位置する。標高は山頂（683.0m）を含む500～600m程度であり、ヤブツバキクラス域からブナクラス域の植生となっている。

情報整備モデル地区における基盤環境の状況を図2.2.5-20に示す。

情報整備モデル地区内の西側は尾根が南北に縦走しており、太鼓山風力発電所の風力発電機（1～6号機、現在は3基）が設置されている。また、この尾根の北端及び南端からそれぞれ東側に尾根が伸び、その間には一部に溪流を含む谷地形となっている。また、モデル地区内北側及び北東側は、平均傾斜角が25～40度の急傾斜地となっている。

なお、既設風力発電機の4号機東側には、小規模な湿地がある。

b. 地域を特徴づける生態系の状況

地域を特徴づける生態系の状況を把握するため、情報整備モデル地区における環境類型区分を行った。環境類型区分は、地形分類図、土地利用現況図、植生図等を重ね合わせ、類型区分単位の抽出を行った。環境類型区分の区分状況を表2.2.5-41に、環境類型区分図2.2.5-21に示す。

情報整備モデル地区における生態系は、主に森林の生態系を示すが、溪流や小規模な湿地といった陸水環境、乾性草地を含むことが特徴であると整理された。

表 2.2.5-41 環境類型区分

| 環境類型区分 | 植物群落 | 植生自然度 | 地形 | 土地利用 | 面積 (ha) |
|----------|------------------|-------|-------|-----------|---------|
| 落葉広葉樹林 | ブナ群落 | 9 | 尾根、斜面 | 森林地域 | 1.3 |
| | ユキグニミツバツツジーコナラ群集 | 7 | 尾根、斜面 | 森林地域 | 64.4 |
| 針葉樹林 | アカマツ群落 | 9 | 尾根 | 森林地域 | 0.6 |
| | スギーヒノキ植林 | 6 | 斜面 | 森林地域（植林地） | 21.3 |
| 溪畔林 | ジュウモンジシダーサワグルミ群集 | 9 | 谷 | 森林地域 | 2.2 |
| 急傾斜地低木群落 | タニウツギ群落 | 9 | 谷 | 森林地域 | 3.7 |
| 伐採跡地低木群落 | ヌルデーアカメガシワ群落 | 5 | 斜面 | 森林地域 | 7.0 |
| 乾性草地 | ススキ群落 | 5 | 尾根 | 風力発電所敷地 | 3.9 |
| 造成地 | 人工裸地 | 1 | 尾根 | 管理道路等 | 2.5 |



凡例

- 尾根線
- 沢筋
- 湿地

- 対象事業実施区域
- 情報整備モデル地区

100 0 100 200 300 400 500 m

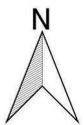
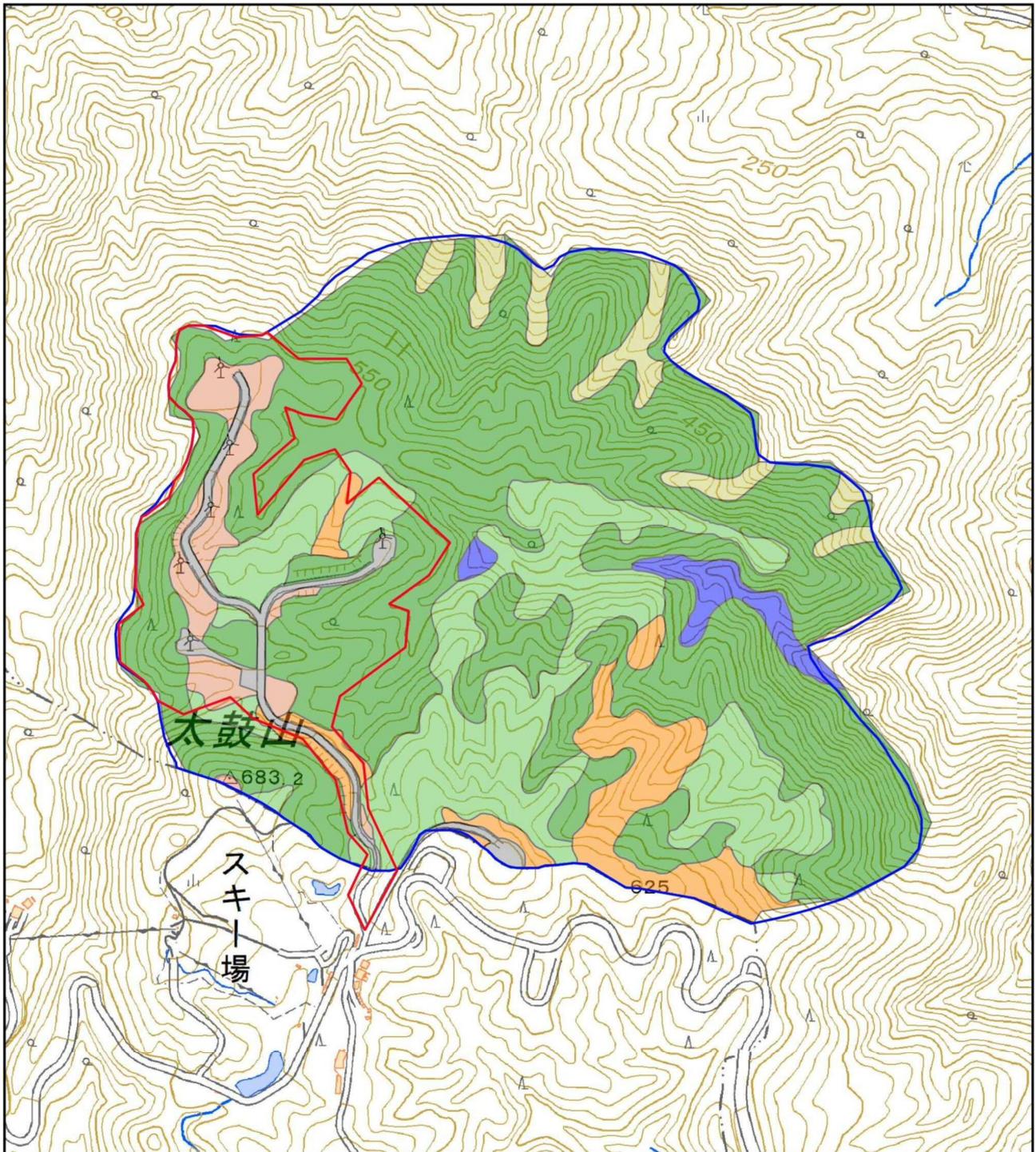


図 2.2.5-20 基盤環境の状況

出典等：「平成27年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成28年 株式会社東洋設計）を参考に作成した。



凡例

自然環境類型

- 乾性草地
- 急傾斜地低木群落
- 溪畔林
- 針葉樹林
- 造成地
- 伐採跡地低木群落
- 落葉広葉樹林

- 対象事業実施区域
- 情報整備モデル地区

100 0 100 200 300 400 500 m

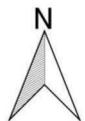


図 2.2.5-21 自然環境類型区分図

出典等：「平成27年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（京都府伊根町情報整備モデル地区における地域固有環境情報調査事業）委託業務報告書」（平成28年 株式会社東洋設計）を参考に作成した。

c. 環境類型区分ごとの主な構成種

環境類型区分ごとの主な構成種を表2. 2. 5-42に示す。

表 2. 2. 5-42 環境類型区分ごとの主な構成種

| 環境類型区分 | 主な構成種 |
|--------------|--|
| 落葉広葉樹林 | <p>【哺乳類】・・・・・・、ニホンリス、・・・・・・、ヒメネズミ、・・・・・・、テン、ホンドジカ、イノシシ 等</p> <p>【鳥 類】・・・・・・、コゲラ、・・・・・・、・・・・・・、キビタキ、イカル 等</p> <p>【両生類】・・・・・・、・・・・・・、モリアオガエル 等</p> <p>【昆虫類】 マヤサンオサムシ、スジクワガタ、コムラサキ、ミドリヒョウモン、コムスジ 等</p> <p>【植 物】 ブナ、コナラ、アズキナシ、エゾユズリハ、チマキザサ 等</p> |
| 針葉樹林 | <p>【哺乳類】・・・・・・、ニホンリス、タヌキ、・・・・・・、テン、イノシシ、ホンドジカ 等</p> <p>【鳥 類】 コゲラ、・・・・・・、コガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メボソムシクイ 等</p> <p>【昆虫類】 マヤサンオサムシ、スジアオゴミムシ、ネアカマルクビハネカクシ、センチコガネ 等</p> <p>【植 物】 アカマツ、スギ、コハウチワカエデ、タンナサワフタギ 等</p> |
| 溪畔林 | <p>【鳥 類】・・・・・・、ミソサザイ、キセキレイ 等</p> <p>【両生類】・・・・・・、タゴガエル 等</p> <p>【植 物】 サワグルミ、トチノキ、ツリバナ、ツルアジサイ、チマキザサ 等</p> |
| 急傾斜地 低木群落 | <p>【鳥 類】・・・・・・、モズ、ウグイス、カシラダカ 等</p> <p>【爬虫類】・・・・・・、ニホンカナヘビ 等</p> <p>【植 物】 クサギ、タニウツギ、フジ、ボタンヅル、ウツギ、イタドリ、クマイチゴ 等</p> |
| 伐採跡地 低木群落 | <p>【哺乳類】 モグラ属、イタチ属、イノシシ、ホンドジカ 等</p> <p>【鳥 類】・・・・・・、モズ、ウグイス、カシラダカ 等</p> <p>【爬虫類】・・・・・・、ニホンカナヘビ 等</p> <p>【植 物】 スルデ、アカメガシワ、タラノキ、ススキ、チマキザサ、ゼンマイ、イワガラミ 等</p> |
| 乾性草地 | <p>【哺乳類】・・・・・・、ノウサギ、アカネズミ、タヌキ、イタチ、イノシシ、ホンドジカ 等</p> <p>【鳥 類】 モズ、ヒバリ、ホオジロ、カシラダカ 等</p> <p>【爬虫類】・・・・・・、ニホンカナヘビ、・・・・・・ 等</p> <p>【昆虫類】 エンマコオロギ、シバズ、ハラヒシバッタ、・・・・・・、アサギマダラ 等</p> <p>【植 物】 ススキ、オトギリソウ、ヒメスイバ、ノブドウ 等</p> |
| 造成地 | <p>【哺乳類】・・・・・・、・・・・・・、テン、ホンドジカ 等</p> <p>【鳥 類】 ハクセキレイ 等</p> <p>【爬虫類】・・・・・・、ニホンカナヘビ、・・・・・・ 等</p> |

d. 生態系の模式断面

情報整備モデル地区における生態系の模式断面を図2. 2. 5-22に示す。

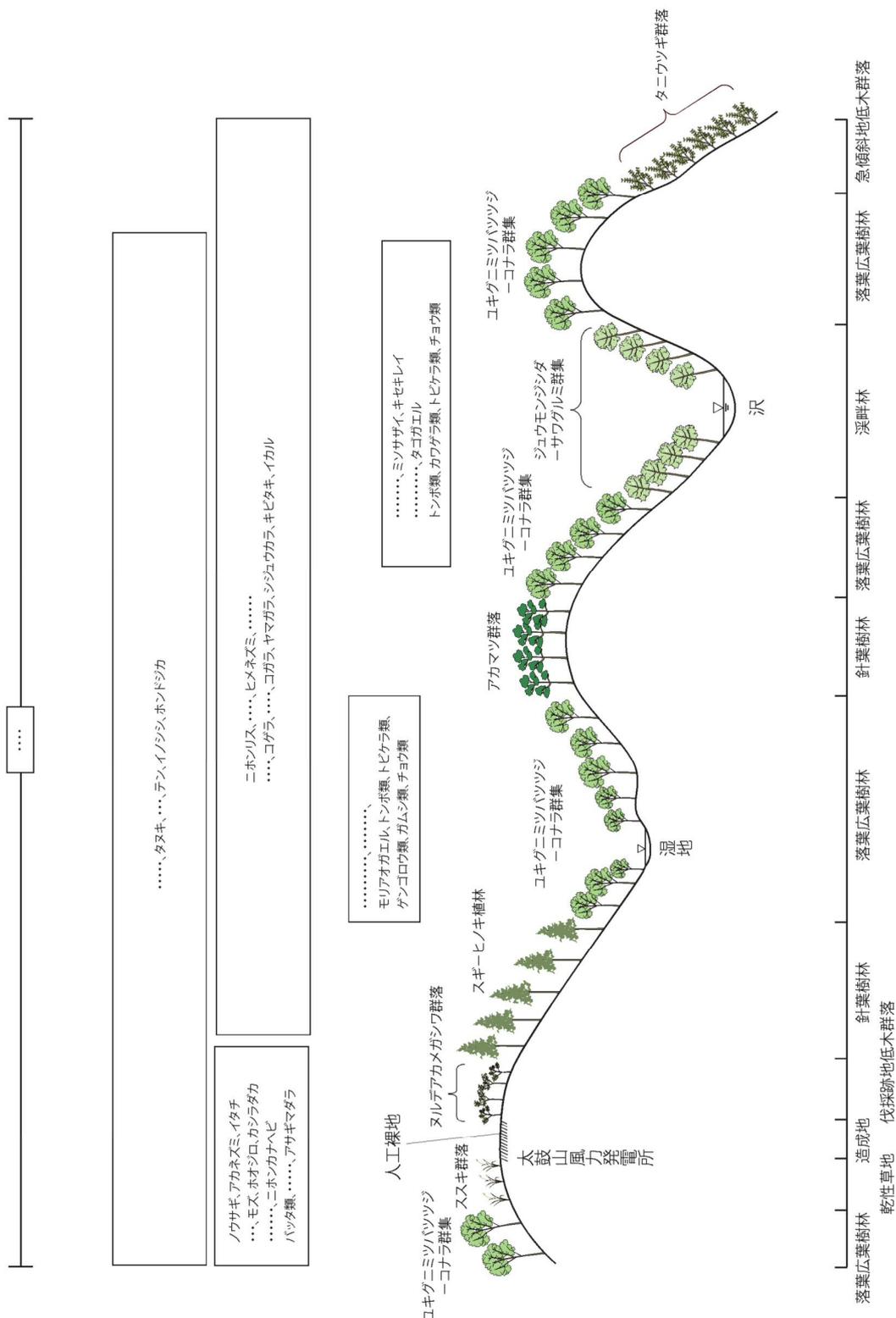


図 2. 2. 5-22 情報整備モデル地区における生態系の模式断面

e. 生態系の食物連鎖

情報整備モデル地区における生態系の食物連鎖を図2. 2. 5-23に示す。

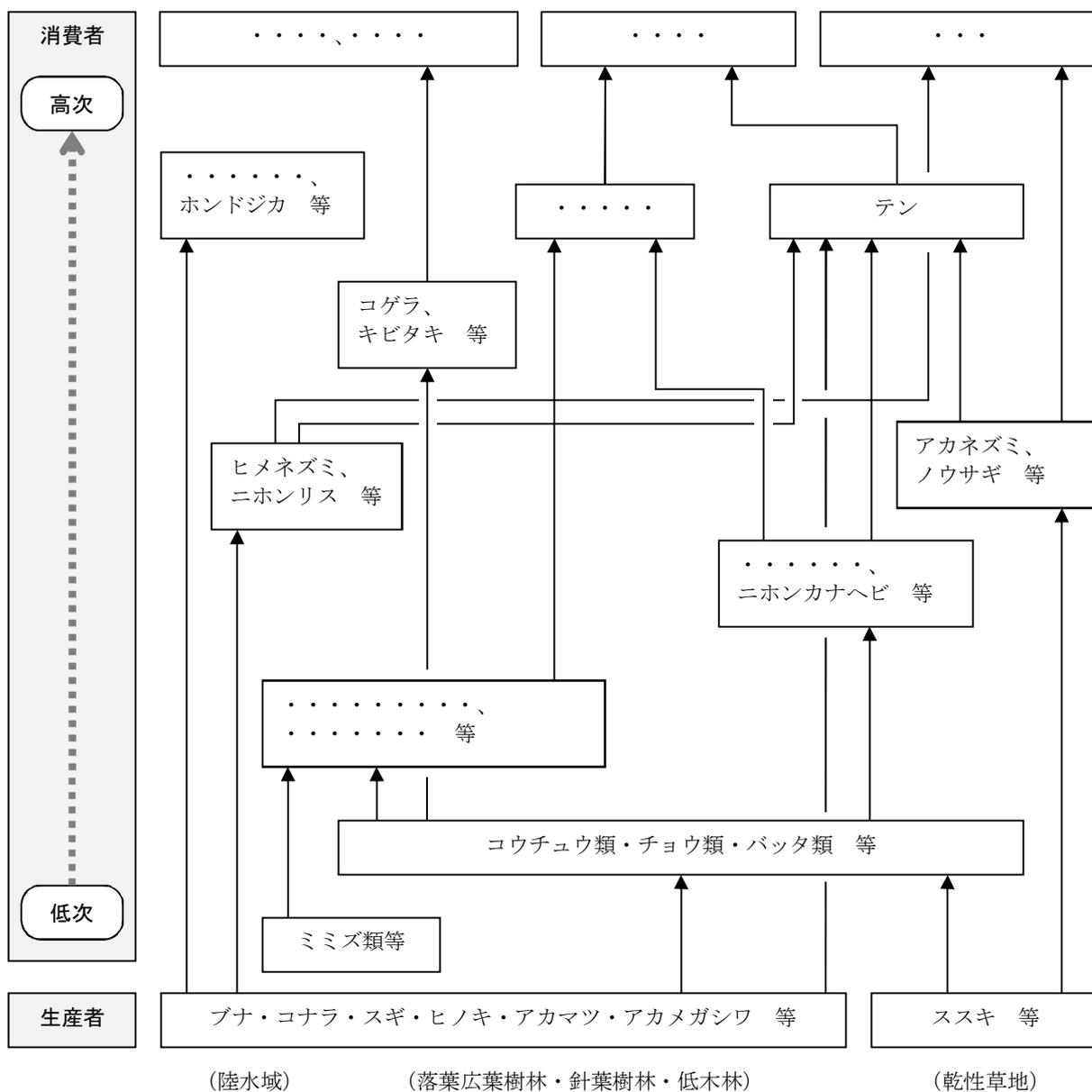


図 2. 2. 5-23 情報整備モデル地区における食物連鎖

2.2.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況

(1) 景観の状況

①景観資源

景観の調査対象範囲（対象事業実施区域及びその9kmの範囲）において、表2.2.6-2に示す資料等をもとに、表2.2.6-1に該当する景観資源の分布状況を把握した。

景観資源の概要を表2.2.6-3に、位置を図2.2.6-1に示す。

なお、対象事業実施区域が位置する京丹後市は、その全域が山陰海岸ジオパークに認定されている。山陰海岸ジオパークは、約2,500万年前にさかのぼる日本海形成に関わる火成岩類や地層、日本海の海面変動や地殻変動によって形成されたリアス海岸や砂丘をはじめとする多彩な海岸地形など、貴重な地形・地質遺産が数多く観察できる。調査対象範囲においても多くの景観資源が含まれていることから、参考として当該エリアのマップ図を図2.2.6-2に示す。

表 2.2.6-1 景観資源の選定根拠

| 資料等の名称 | 発行等 | 選定根拠 | 区分 |
|------------------------|------------------|---|-------------|
| 文化財保護法 | 昭和25年 法律第214号 | 景勝地であって芸術上、観賞上価値が大きいもの | 名勝 |
| | | 歴史的な集落・町並み | 伝統的建造物群保存地区 |
| | | 地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で、国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの | 文化的景観 |
| 自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査 | 環境省が運営するホームページ | 自然環境保全上重要な要素である自然景観 | 自然景観資源 |

表 2.2.6-2 景観資源を把握するために確認した記載場所等

| 資料等 | 記載場所等 |
|--------------------|---------------------------|
| 丹後天橋立大江山国定公園 | 京都府が運営するホームページ |
| 伊根町伊根浦伝統的建造物保存地区 | 伊根町が運営するホームページ |
| 京都府レッドデータブック2015 | 京都府が運営するホームページ |
| 京都府丹後広域振興局 | 京都府が運営するホームページ |
| 伊根浦ゆっくり観光 | 伊根浦ゆっくり観光の会が運営するホームページ |
| 山陰海岸ジオパークまるごと体感MAP | 山陰海岸ジオパーク推進協議会が運営するホームページ |

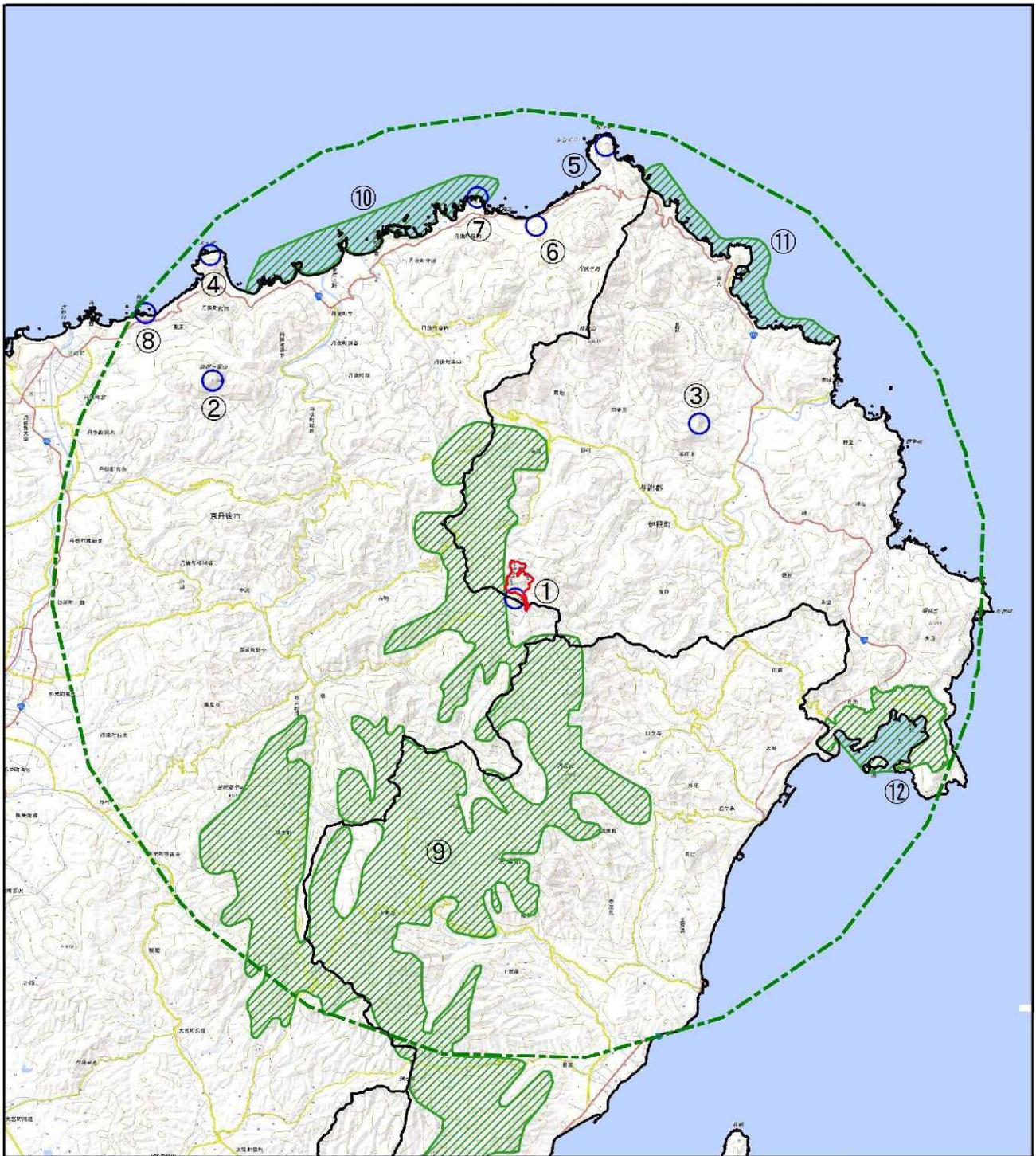
表 2.2.6-3 (1) 景観資源の概要

| | 名称 | 区分 | 選定根拠及び概要 |
|---|-------|--------------------|---|
| ① | 太鼓山 | 自然景観資源 (非火山性孤峰) | <p><選定根拠></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全上重要な要素である自然景観 <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・太鼓山の京丹後市側には、森林公園スイス村（野外レクリエーション施設）があり、高い頻度で利用されている。 ・孤峰であり、地域のランドマークとなっている。 |
| ② | 依遅ヶ尾山 | 自然景観資源 (非火山性孤峰) | <p><選定根拠></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全上重要な要素である自然景観 <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・京丹後市丹後町乗原の南方に位置する標高 540m の独立峰。 ・山頂部から経ヶ岬や丹後松島など日本海の眺望がよく、登山道が整備されている。 |
| ③ | 布引滝 | 自然景観資源 (滝) | <p><選定根拠></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全上重要な要素である自然景観 <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊根町本庄上から西方の標高 240m の地点に見られる丹後半島最大の滝。 |
| ④ | 犬ヶ岬 | 自然景観資源 (海食崖) | <p><選定根拠></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全上重要な要素である自然景観 <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹後半島北西に位置し、日本海に面する岬。 |
| ⑤ | 経ヶ岬 | 自然景観資源 (海食崖) | <p><選定根拠></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全上重要な要素である自然景観 <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹後半島の先端に突き出した近畿地方北端の岬。岬の周囲には、安山岩からなる柱状節理の発達する海食崖が見られる。 ・駐車場から、経ヶ岬を回る遊歩道が整備されている。 |
| ⑥ | 袖志の棚田 | 文化的景観 | <p><選定根拠></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化的景観 <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・扇状地に開けた約 4 百枚の棚田からは日本海を望むことができ、棚田と海、集落が調和した美しい景観は、「日本の棚田百選」に選定されている。 |
| ⑦ | 穴文殊 | 自然景観資源 (海食崖) | <p><選定根拠></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全上重要な要素である自然景観 <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・尾和の海食崖にできた高さ約 10m の海食洞。 ・洞窟付近には丹後三文殊のひとつ清涼山九品寺の本堂及び山門がある。 |
| ⑧ | 屏風岩 | 自然景観資源 (海食崖) | <p><選定根拠></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全上重要な要素である自然景観 <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地層中にマグマが板状に入り込んでできた岩脈で、その後の波の侵食によってまわりの柔らかい岩石が削り取られ残されてできたものである。 ・夕日を背にした姿は自然の造形美を醸し出している。 |

表 2.2.6-3 (2) 景観資源の概要

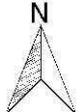
| | 名称 | 区分 | 選定根拠及び概要 |
|---|-----------|---------------------------------------|--|
| ⑨ | 世屋高原 | 自然景観資源 (非火山性高原) | <p><選定根拠></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全上重要な要素である自然景観 <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹後半島のほぼ中央に位置し、標高500m～600mの稜線が連なる高原。近畿地方でも有数のブナ・ミズナラ等の落葉広葉樹林や希少な動植物、溪流、湿原などがある。 |
| ⑩ | 丹後松島 | 自然景観資源 (多島海) | <p><選定根拠></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全上重要な要素である自然景観 <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・奇岩が連なるリアス式の海岸。 ・日本三景である宮城県の松島の景観と似ていることが名前の由来となっている。 |
| ⑪ | 浦入海岸 | 自然景観資源 (断層海岸) | <p><選定根拠></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全上重要な要素である自然景観 <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・断崖絶壁のリアス式海岸が連続する。 |
| ⑫ | 伊根の舟屋群と青島 | 伝統的建造物群 保存地区 (重要伝統的建 造物保存地区) | <p><選定根拠></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な集落・町並み <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代末期から昭和初期に建てられた伊根湾沿いに連続して建つ舟屋及び主屋、蔵、寺社などの伝統的建造物を残す漁村であり、青島と伊根湾およびこれらを囲む魚付林などの周辺の環境と一体となって歴史的風致を今日に良く伝える。 |

出典等：「丹後天橋立大江山国定公園」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成 30 年 11 月）、「伊根町伊根浦伝統的建造物保存地区」（伊根町が運営するホームページ 最終閲覧月：平成 30 年 11 月）、「京都府レッドデータブック 2015（平成 27 年 京都府）」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成 30 年 11 月）、「京都府丹後広域振興局」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成 30 年 11 月）、「伊根浦ゆっくり観光」（伊根浦ゆっくり観光の会が運営するホームページ 最終閲覧月：平成 30 年 11 月）、「山陰海岸ジオパーク」（山陰海岸ジオパーク推進協議会が運営するホームページ最終閲覧月：平成 30 年 11 月）を参考に作成した。



凡例

- | | | |
|----------|--------------|-----------------|
| ○ ①太鼓山 | ▨ ⑨世屋高原 | ▭ 対象事業実施区域 |
| ○ ②依遅ヶ尾山 | ▨ ⑩丹後松島 | ▭ 市町村界 |
| ○ ③布引滝 | ▨ ⑪浦入海岸 | ▭ 景観の基本的な調査対象範囲 |
| ○ ④犬ヶ岬 | ▨ ⑫伊根の舟屋群と青島 | |
| ○ ⑤経ヶ岬 | | |
| ○ ⑥袖志の棚田 | | |
| ○ ⑦穴文殊 | | |
| ○ ⑧屏風岩 | | |



出典等：「丹後天橋立大江山国定公園」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）、「伊根町伊根浦伝統的建造物保存地区」（伊根町が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）、「京都府レッドデータブック2015（平成27年 京都府）」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）等を参考に作成した。

図 2.2.6-1 景観資源位置図



図 2. 2. 6-2 山陰海岸ジオパークエリア図

②眺望点

景観の調査対象範囲において、表2.2.6-5に示す資料等をもとに、表2.2.6-4に該当する眺望点の分布状況を把握した。眺望点の概要を表2.2.6-6に、位置を図2.2.6-3に示す。

表 2.2.6-4 眺望点の選定根拠

| 選定根拠 | |
|------|---|
| 1 | 関係自治体又は観光協会のホームページで紹介されている展望施設 |
| 2 | 関係自治体又は観光協会のホームページで紹介されている施設のうち、対象事業実施区域への眺望が良いと想定される施設 |
| 3 | 地域住民が利用する施設のうち、対象事業実施区域への眺望が良いと想定される施設 |
| 4 | 関係自治体へのヒアリングによって得られた、対象事業実施区域への眺望が良いと想定される施設 |

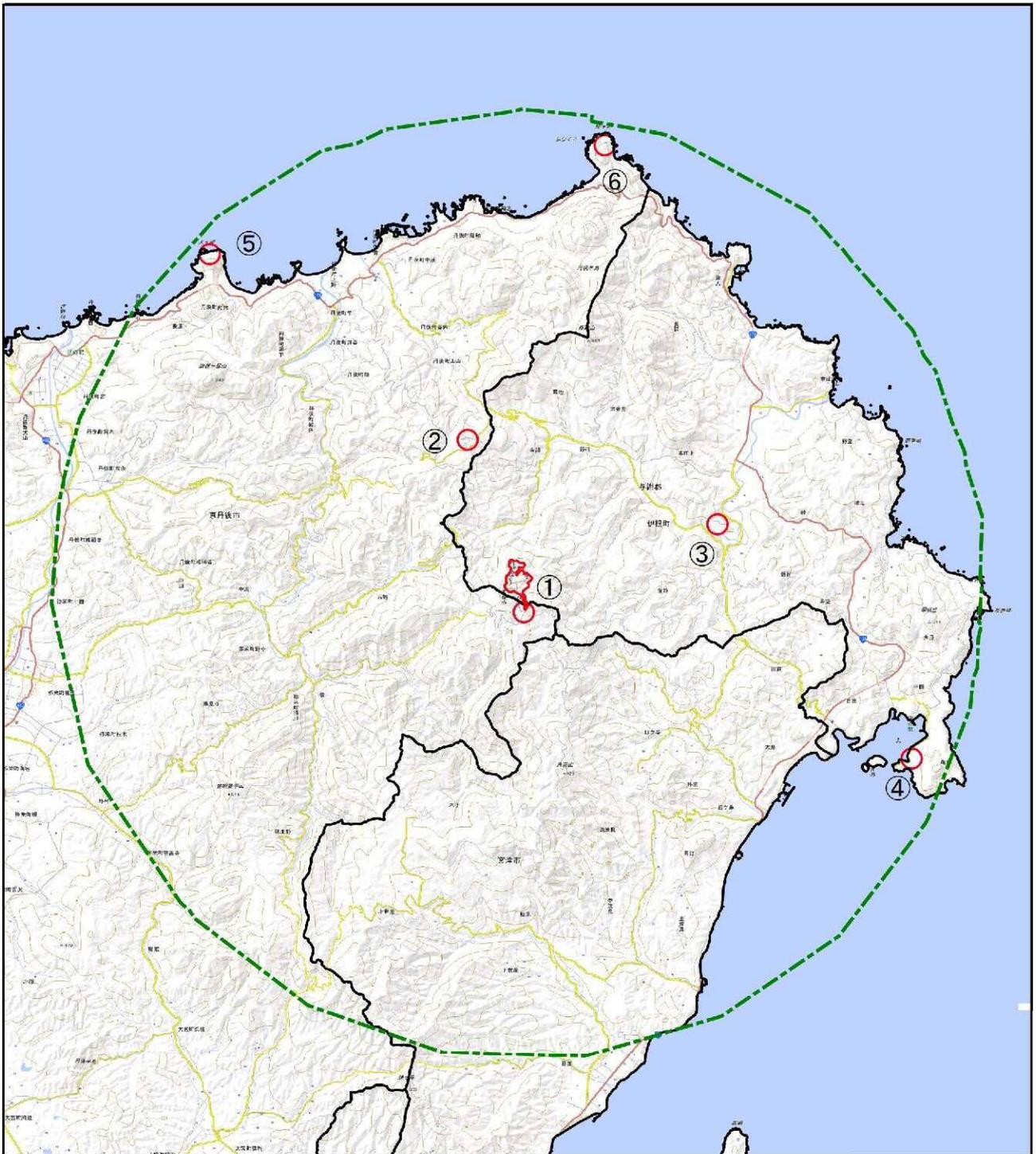
表 2.2.6-5 眺望点を把握するために確認した記載場所等

| 資料等 | 記載場所等 |
|---------------------|---------------------------|
| 森林公園スイス村ホームページ | (株) スイス村管理組合が運営する運営ホームページ |
| 筒川文化センターホームページ | 伊根町教育委員会が運営するホームページ |
| 伊根町観光協会が運営するホームページ | 同左 |
| 京都府丹後広域振興局 | 京都府が運営するホームページ |
| 観るなび | (公社) 日本観光振興協会が運営するホームページ |
| 京丹後ナビ | (一社) 京丹後市観光協会が運営するホームページ |
| 山陰海岸ジオパークまるごと体感 MAP | 山陰海岸ジオパーク推進協議会が運営するホームページ |

表2.2.6-6 眺望点の状況

| | 名称 | 選定根拠及び概要 |
|---|--------------|--|
| ① | スイス村高原浴場 | <p><選定根拠></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係自治体又は観光協会のホームページで紹介されている施設のうち、対象事業実施区域への眺望が良いと想定される施設 <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スイス村園内にある温浴施設。園内のキャンプ客、スキー客などが利用する。 |
| ② | 碓山 (あずまや) | <p><選定根拠></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係自治体又は観光協会のホームページで紹介されている展望施設 <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・碓高原牧場に整備された展望台。日本海側を望む良好な展望地となっている。 |
| ③ | 桜ヶ丘運動公園 | <p><選定根拠></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が利用する施設のうち、対象事業実施区域への眺望が良いと想定される施設 <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動場、研修施設、テニスコート、アスレチック施設。伊根町民は半額の料金で使用することができる。 |
| ④ | 慈眼寺 | <p><選定根拠></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係自治体へのヒアリングによって得られた、対象事業実施区域への眺望が良いと想定される施設 <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「伊根町伊根浦伝統的建造物保存地区」内にあるお寺。 |
| ⑤ | 犬ヶ岬 | <p><選定根拠></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係自治体又は観光協会のホームページで紹介されている施設のうち、対象事業実施区域への眺望が良いと想定される施設 <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊歩道が整備されており、岬付け根の東側地点は、丹後松島のビューポイントである。 |
| ⑥ | 経ヶ岬 | <p><選定根拠></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係自治体又は観光協会のホームページで紹介されている施設のうち、対象事業実施区域への眺望が良いと想定される施設 <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安山岩の柱状節理が美しい、近畿最北端の岬。岬の周囲は、波の浸食作用によって断崖絶壁となっており、駐車場や経ヶ岬展望台、展望台からの絶景が望める。 |

出典等：「森林公園スイス村ホームページ」（株）スイス村管理組合が運営する運営ホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）、「筒川文化センターホームページ」（伊根町教育委員会が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）、「伊根町観光協会が運営するホームページ」、「京都府丹後広域振興局」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）、「観るなび」（公社）日本観光振興協会が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）、「京丹後ナビ」（一社）京丹後市観光協会が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）、「山陰海岸ジオパーク」（山陰海岸ジオパーク推進協議会が運営するホームページ最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

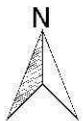


凡例

- ① スイス村高原浴場
- ② 碓山(あずまや)
- ③ 桜ヶ丘運動公園
- ④ 慈眼寺
- ⑤ 犬ヶ岬
- ⑥ 経ヶ岬

- 対象事業実施区域
- 市町村界
- 景観の基本的な調査対象範囲

1 0 1 2 3 4 5 km



出典等：「森林公園スイス村ホームページ」（(株) スイス村管理組合が運営する運営ホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）、「筒川文化センターホームページ」（伊根町教育委員会が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）、「伊根町観光協会が運営するホームページ」、「山陰海岸ジオパーク」（山陰海岸ジオパーク推進協議会が運営するホームページ最終閲覧月：平成30年11月）等を参考に作成した。

図 2.2.6-3 眺望点位置図

(2) 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

人と自然との触れ合いの活動の場の状況の調査対象範囲において、表2.2.6-7に示す関係自治体又は観光協会が運営するホームページで紹介されている施設のうち、表2.2.6-8に示す区分に該当する施設等の分布状況を把握した。

人と自然との触れ合いの活動の場の概要を表2.2.6-9に、位置を図2.2.6-4に示す。

表 2.2.6-7 人と自然との触れ合いの活動の場を把握するために確認した資料等

| 資料等 | 発行等 |
|---------------|-------------------------|
| 京都府観光ガイド | (公社)京都府観光連盟公式サイト |
| 観るなび | (公社)日本観光振興協会が運営するホームページ |
| 伊根町観光協会ホームページ | 同左 |
| 京丹後ナビ | (一社)京丹後市観光協会が運営するホームページ |
| 天橋立観光ガイド | (一社)天橋立観光協会が運営するホームページ |

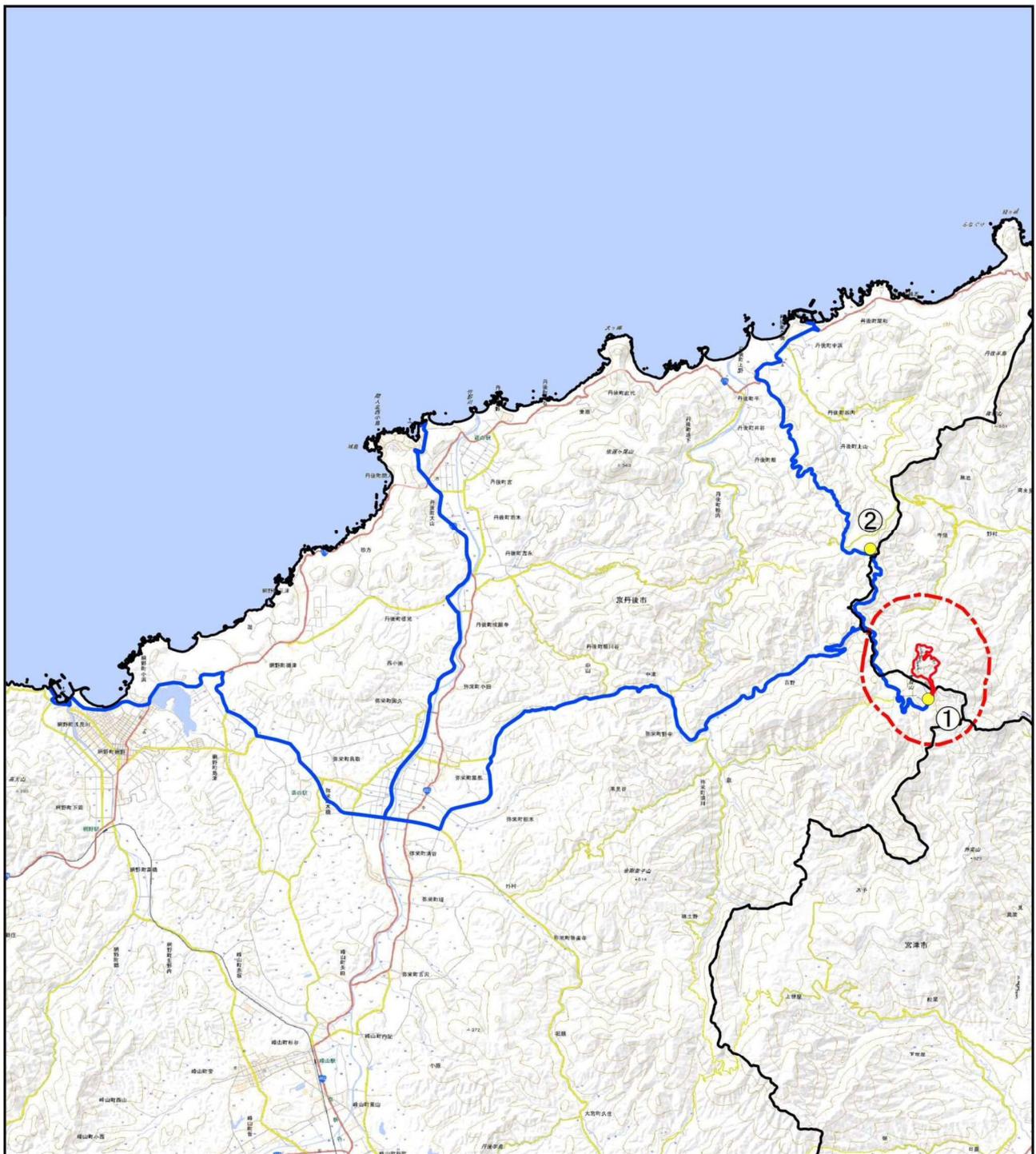
表 2.2.6-8 施設の区分

| | 施設の区分 |
|---|------------|
| 1 | 公園施設 |
| 2 | レクリエーション施設 |
| 3 | 自然歩道、遊歩道 |

表 2.2.6-9 人と自然との触れ合いの活動の場の概要

| No. | 名称 | 区分 | 選定根拠及び概要 |
|-----|--------------|----------------|--|
| ① | 森林公園 スイス村 | レクリエーション 施設 | <p><選定根拠></p> <ul style="list-style-type: none"> ・不特定多数の人が四季を通じて利用している。 <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設（風のがっこう京都、山の家、コテージ、バンガロー、キャンプ場）、ハイキングコース、スキー場、テニスコートがある。 ・5月にはゲレンデを利用した「芝桜まつり」が開催される。 |
| ② | 碓高原牧場 | レクリエーション 施設 | <p><選定根拠></p> <ul style="list-style-type: none"> ・不特定多数の人が利用している。 <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・台地上の地形を利用した牧場 ・遊歩道、展望台、トイレ、キャンプ場等の施設が整備されており、レクリエーションの場となっている。 |

出典等：「京都府観光ガイド」（(公社)京都府観光連盟が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）、「観るなび」（(公社)日本観光振興協会が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）、「伊根町観光協会が運営するホームページ（最終閲覧月：平成30年11月）」、「京丹後ナビ」（(一社)京丹後市観光協会が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）、「天橋立観光ガイド」（(一社)天橋立観光協会が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。



凡例

— 主要な交通ルート

● 人と自然との触れ合いの活動の場

① 森林公園スイス村

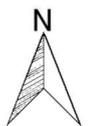
② 礎高原牧場

□ 対象事業実施区域

□ 市町村界

□ 基本的な調査対象範囲

1 0 1 2 3 4 5 km



出典等：「京都府観光ガイド」（(公社)京都府観光連盟が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）、「観るなび」（(公社)日本観光振興協会が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）、「伊根町観光協会が運営するホームページ（最終閲覧月：平成30年11月）」、「京丹後ナビ」（(一社)京丹後市観光協会が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）等を参考に作成した。

図 2.2.6-4 人と自然との触れ合いの活動の場位置図

2.3 社会的・文化的状況

2.3.1 人口及び産業の状況

(1) 人口の状況

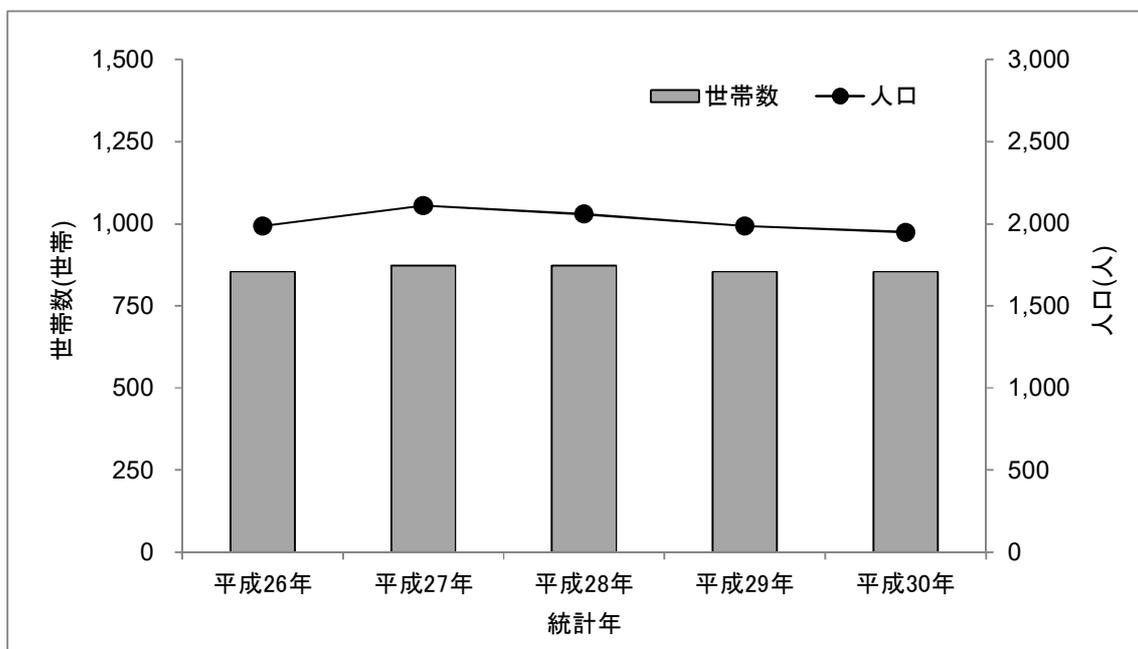
基本的な調査対象範囲における人口及び世帯数を表2.3.1-1に、各市町全体の人口及び世帯数の経年変化の経年変化を図2.3.1-1に示す。

基本的な調査対象範囲には4地区が含まれており、地区の人口比較では京丹後市野間須川が75人、35世帯と最も多かった。また、伊根町、京丹後市及び宮津市における世帯数は平成25年度からほぼ横ばいであるが、人口はやや減少傾向である。

表2.3.1-1 基本的な調査対象範囲における人口及び世帯数

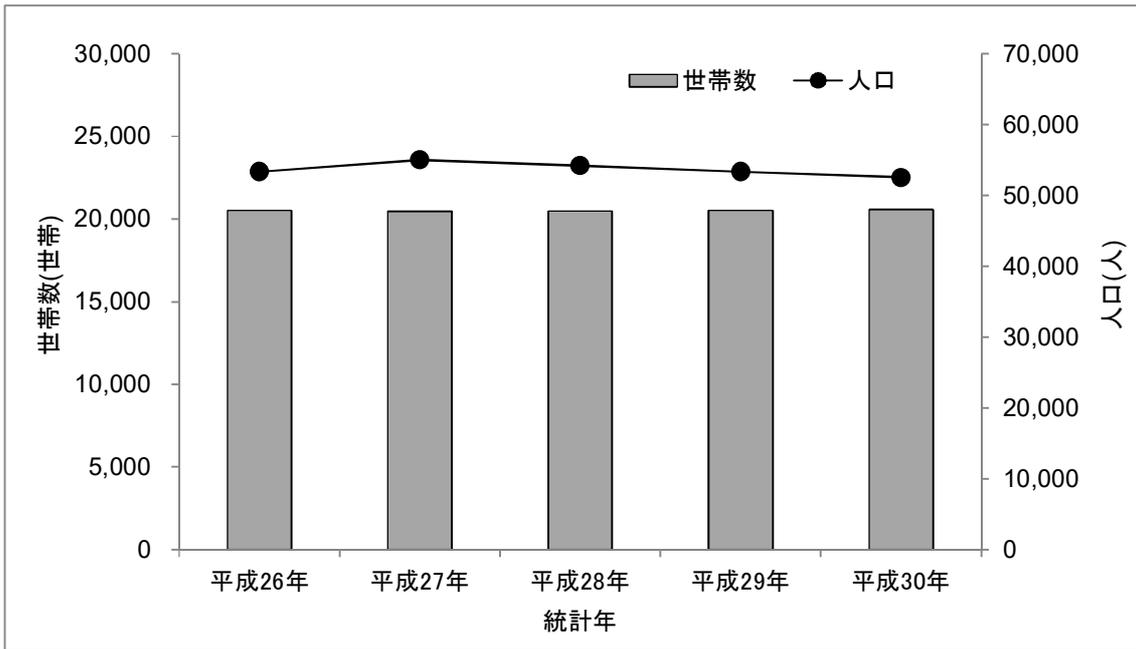
| 市町名 | 字名 | 人口 | 世帯数 |
|------|-------|--------|--------|
| 伊根町 | 筒川吉谷 | — | — |
| | 筒川足谷 | — | — |
| | 全体 | 2,110 | 873 |
| 京丹後市 | 野間須川 | 75 | 35 |
| | 全体 | 55,054 | 20,469 |
| 宮津市 | 日ヶ谷藪田 | 6 | 3 |
| | 全体 | 18,426 | 7,738 |

出典等：「平成27年 国勢調査」（平成27年 総務省が運営するホームページ）を参考に作成した。



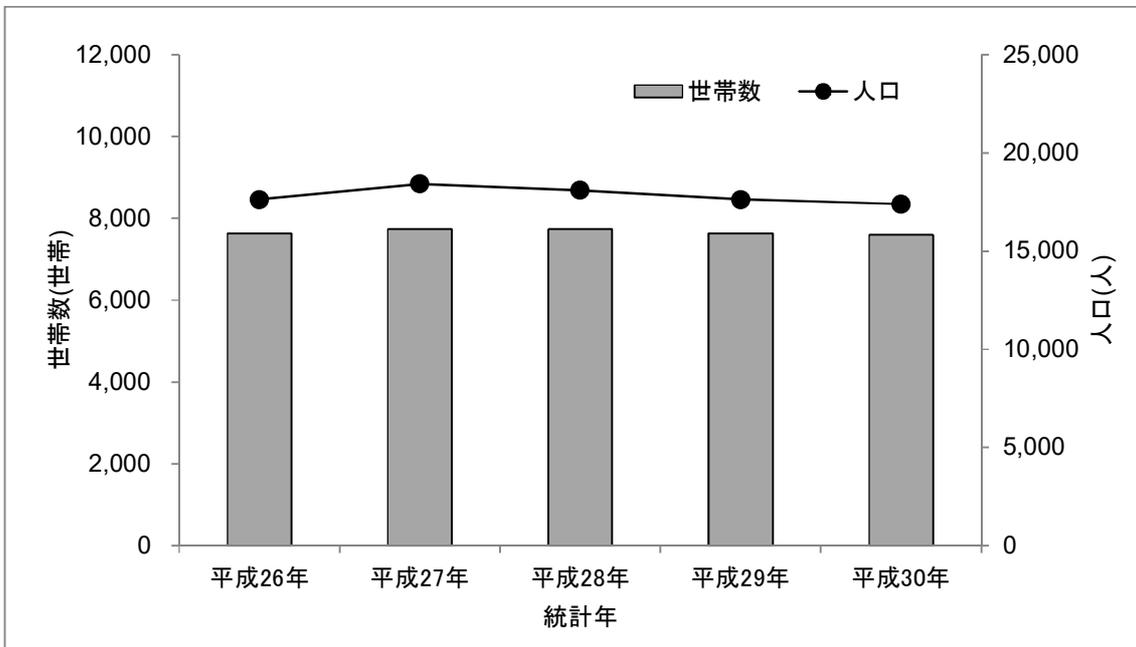
出典等：「京都府推計人口」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

図2.3.1-1 (1) 伊根町の世帯数及び人口の経年変化



出典等：「京都府推計人口」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

図2.3.1-1 (2) 京丹後市の世帯数及び人口の経年変化



出典等：「京都府推計人口」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

図2.3.1-1 (3) 宮津市の世帯数及び人口の経年変化

(2) 産業の状況

平成26年度の伊根町、京丹後市及び宮津市における産業別の生産高を表2.3.1-2に示す。

分類別では、第三次産業の占める割合が最も大きかった。

業種別でみると、伊根町においては建設業の割合が最も大きく28.7%、次いで政府サービス生産者で19.3%、サービス業で14.6%であった。京丹後市においてはサービス業の割合が最も大きく21.2%、次いで不動産業で16.2%、政府サービス生産者で14.4%であった。宮津市においてはサービス業が最も大きく20.3%、次いで不動産業で18.5%、政府サービス生産者で15.6%であった。

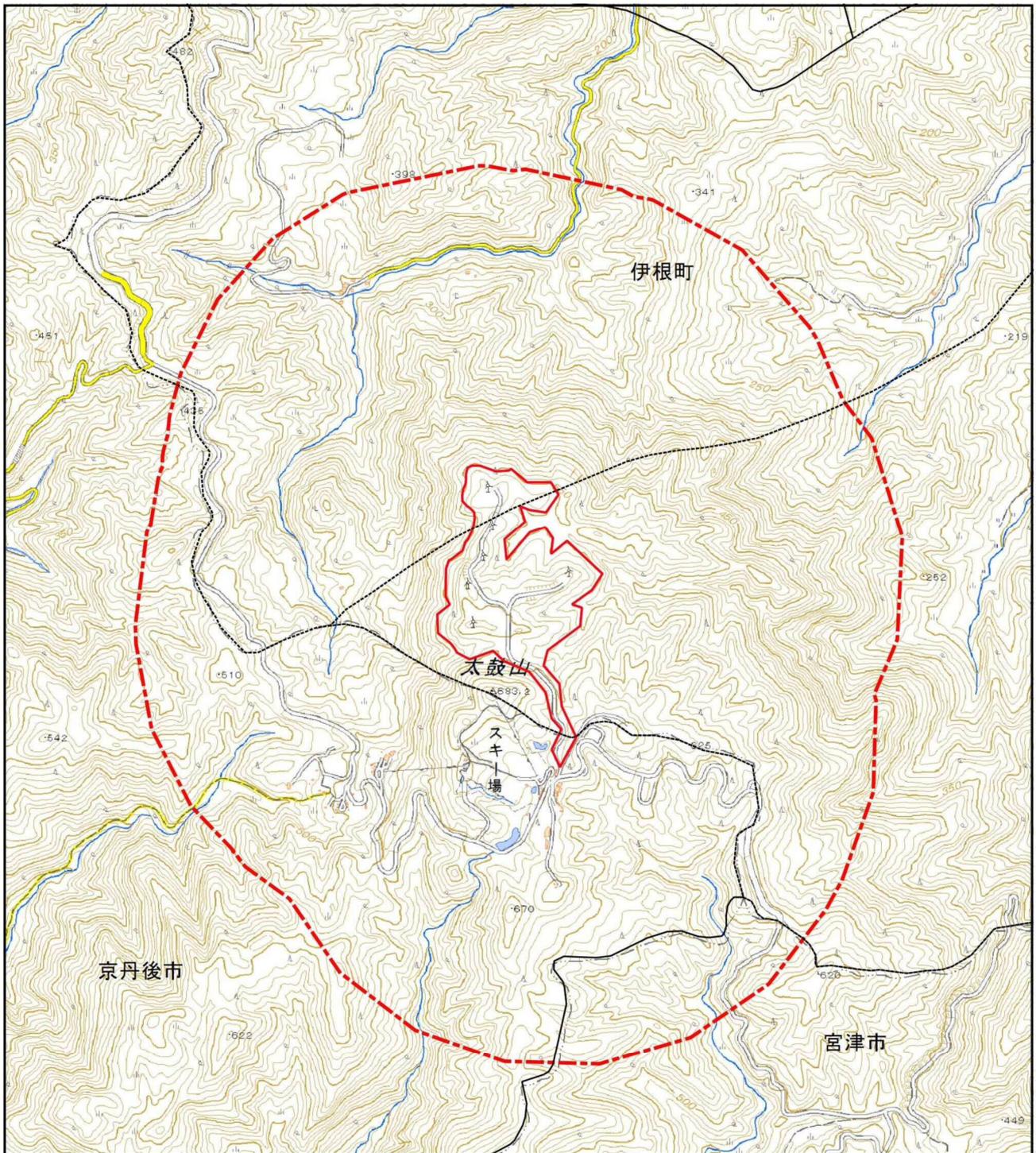
表2.3.1-2 平成26年度の伊根町、京丹後市及び宮津市における産業別の生産高

| 項目 | 市町村 | | 伊根町 | | 京丹後市 | | 宮津市 | |
|--------------|-----|--|-------|-------|---------|-------|--------|-------|
| | | | (百万円) | (%) | (百万円) | (%) | (百万円) | (%) |
| 第一次産業 | | | 755 | 10.3 | 4,014 | 2.3 | 1,070 | 1.5 |
| 農林水産業 | | | 755 | 10.3 | 4,014 | 2.3 | 1,070 | 1.5 |
| 第二次産業 | | | 2,229 | 30.3 | 40,136 | 23.4 | 10,438 | 15.0 |
| 鉱業及び製造業 | | | 120 | 1.6 | 22,998 | 13.4 | 6,099 | 8.8 |
| 建設業 | | | 2,109 | 28.7 | 17,138 | 10.0 | 4,339 | 6.2 |
| 第三次産業 | | | 4,274 | 58.3 | 125,513 | 73.2 | 57,319 | 82.3 |
| 電気・ガス・水道業 | | | 107 | 1.5 | 3,354 | 2.0 | 1,393 | 2.0 |
| 卸売・小売業 | | | 129 | 1.8 | 15,326 | 8.9 | 6,560 | 9.4 |
| 金融・保険業 | | | 145 | 2.0 | 5,792 | 3.4 | 3,881 | 5.6 |
| 不動産業 | | | 836 | 11.4 | 27,834 | 16.2 | 12,844 | 18.5 |
| 運輸業 | | | 163 | 2.2 | 2,958 | 1.7 | 3,627 | 5.2 |
| 情報通信業 | | | 136 | 1.9 | 3,887 | 2.3 | 1,346 | 1.9 |
| サービス業 | | | 1,075 | 14.6 | 36,354 | 21.2 | 14,158 | 20.3 |
| 政府サービス生産者 | | | 1,420 | 19.3 | 24,699 | 14.4 | 10,870 | 15.6 |
| 対家計民間非営利サービス | | | 263 | 3.6 | 5,309 | 3.1 | 2,640 | 3.8 |
| 総生産（控除含まず） | | | 7,259 | 100.0 | 169,663 | 100.0 | 68,827 | 100.0 |
| （控除） 帰属利子等 | | | 50 | | 1,158 | | 470 | |
| 総生産（控除後） | | | 7,340 | | 171,558 | | 69,595 | |

出典等：「平成26年度 市町村経済計算」（京都府が運営するホームページ）を参考に作成した。

2.3.2 行政区画の状況

基本的な調査対象範囲の行政区画を図2.3.2-1に示す。対象事業実施区域は主に伊根町内で、南端部は京丹後市に位置している。



凡例

- 対象事業実施区域
- 字界
- 基本的な調査対象範囲

250 0 250 500 750 1000 m

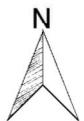


図 2.3.2-1 行政区画図

出典等：「国土数値情報 行政区域」（国土数値情報ダウンロードサービス 最終閲覧月：平成30年11月）のGISデータを参考に作成した。

2.3.3 土地利用の状況

(1) 土地利用の状況

基本的な調査対象範囲における土地利用現況図を図2.3.3-1に示す。

対象事業実施区域内の土地利用区分は主に森林であるが、約3haが既設太鼓山風力発電所の用地であり、一部建物用地が含まれている。また、対象事業実施区域に近接する建物用地とは、森林公園スイス村である。

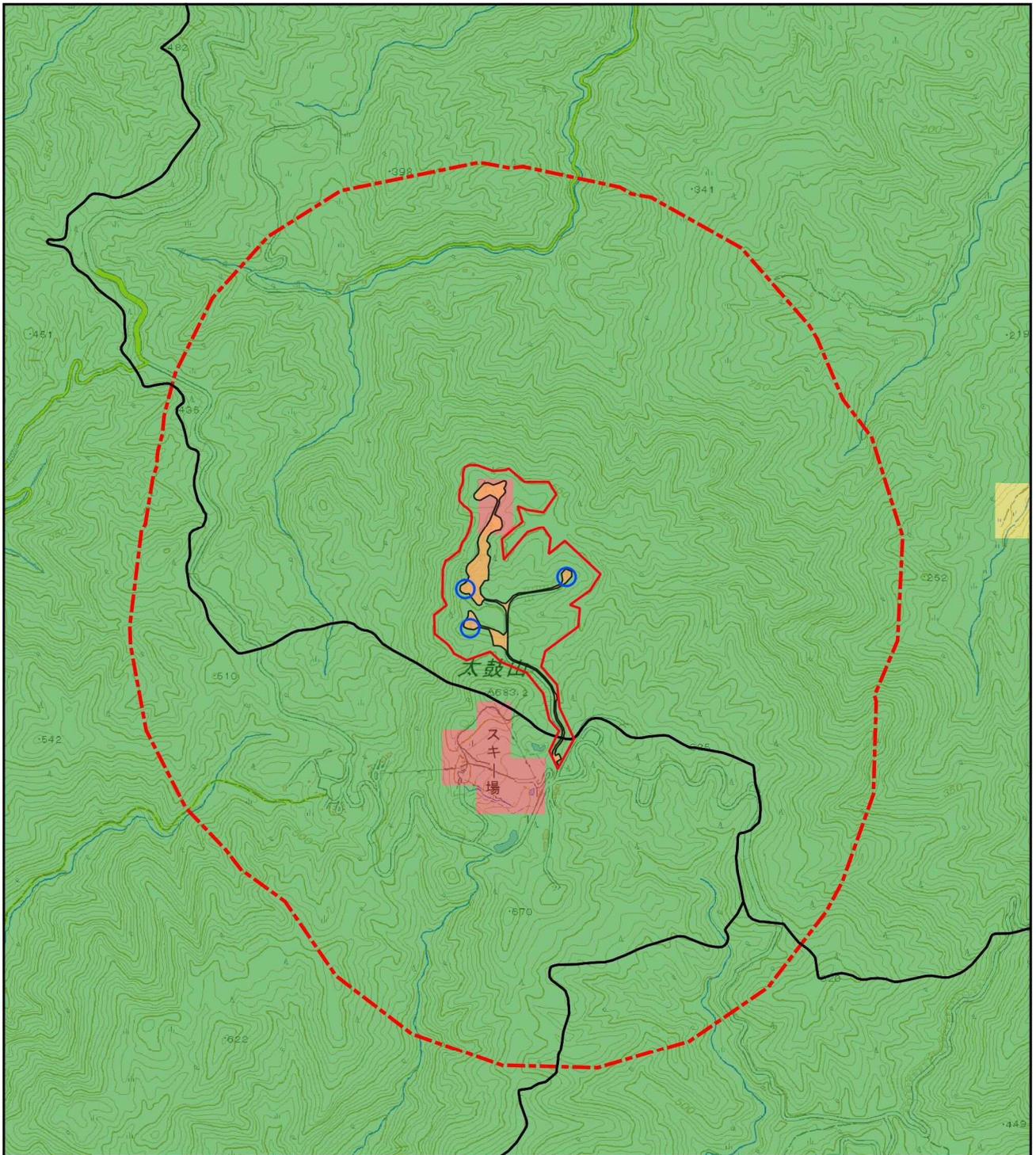
(2) 既存の風力発電施設の状況

対象事業実施区域では、既設太鼓山風力発電所が稼働している。風力発電施設の概要を表2.3.3-1に、位置を図2.3.3-1に示す。

表2.3.3-1 既存の風力発電施設の概要

| 名称 | 太鼓山風力発電所 |
|------|---------------------|
| 事業場所 | 京都府与謝郡伊根町字野村小字太鼓山地内 |
| 運転開始 | 平成13年11月 |
| 設置台数 | 3基 |
| 出力 | 2,250kW (750kW×3基) |
| 運転管理 | 京都府公営企業管理事務所 |

出典等：「太鼓山風力発電所の概要」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。



凡例

- 森林
- 田
- 建物用地
- 既設太鼓山風力発電所用地
- 既設風力発電機

- 対象事業実施区域
- 市町村界
- 基本的な調査対象範囲

250 0 250 500 750 1000 m

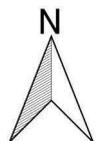


図 2.3.3-1 土地利用現況図

出典等：「国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ」（国土数値情報ダウンロードサービス 最終閲覧月：平成30年11月）のGISデータを参考に作成した。

2.3.4 河川、湖沼及び海域の利用並びに地下水の利用の状況

基本的な調査対象範囲には湖沼、海域が存在しないため、本項では河川及び地下水の利用状況を整理する。

(1) 河川の利用状況

①漁業権

基本的な調査対象範囲においては、対象事業実施区域の南西側へ流下する宇川の支流である3河川が水面漁業権設定区域に含まれている。当該区域の内水面漁業権の概要を表2.3.4-1に、内水面漁業権の設定区域を図2.3.4-1に示す。

なお、対象事業実施区域は主に筒川の流域に位置している。

表2.3.4-1 調査対象範囲における内水面漁業権の概要

| 漁業権者 | 住所 | 漁業権漁種 | 漁業権区域 |
|----------|-----------|------------|---------------------|
| 野間漁業協同組合 | 京丹後市弥栄町野中 | あゆ、うなぎ、ます類 | 京丹後市丹後町小脇から上流の宇川本支流 |

出典等：「京都府内の第5種共同漁業権の概要」（京都府内水面漁業協同組合連合会が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

②水源

基本的な調査対象範囲内では、表流水を水源とする簡易水道事業は行われていなかった。参考として、最寄りの簡易水道である伊根中央簡易水道（対象事業実施区域の北東約6kmに位置）の概要を表2.3.4-2に、位置を図2.3.4-2に示す。なお、平成30年度に伊根中央簡易水道を含む4つの簡易水道と1つの飲料水供給施設が統合され、名称としては伊根町簡易水道となっている。

対象事業実施区域は主に筒川の流域に位置しており、伊根町簡易水道は筒川の河川水を地域住民に供給している。

表2.3.4-2 調査対象範囲における簡易水道事業の概要（河川水等利用）

| 名称 | 給水区域 | 計画給水人口 | 計画日最大給水量 | 水源 | 浄水方法 |
|---------|---|--------|----------|-------|---------------------------|
| 伊根町簡易水道 | 本庄宇治、本庄浜、本庄上、峠、津母、六万部、井室、大原、新井、伊根、本坂、越山、滝根、湯之山、菅野、成蒲入、寺領、野村 | 2,018人 | 1,158t | 表流水湧水 | 凝集沈殿急速ろ過、前処理+緩速ろ過凝集沈殿ろ過消毒 |

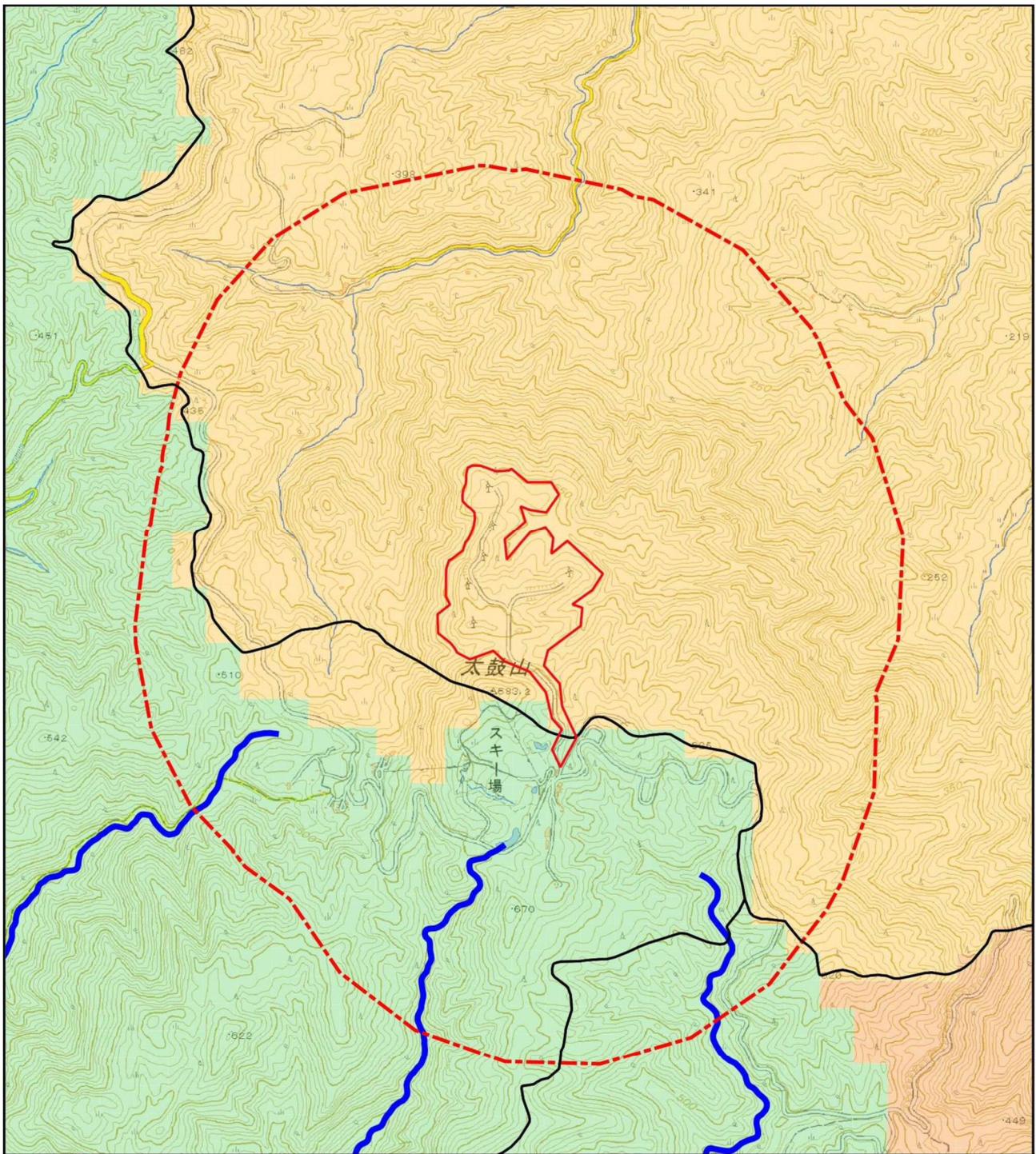
備考：伊根町簡易水道は、4つの簡易水道（伊根中央簡易水道、筒川南簡易水道、蒲入簡易水道、寺領簡易水道）と野村飲料水供給施設が統合された名称である。

出典等：「平成30年度伊根町水道事業水質検査計画」（平成30年3月 伊根町役場地域整備課）及び伊根町役場地域整備課へのヒアリングを参考に作成した。

(2) 地下水の利用状況

基本的な調査対象範囲内では、地下水（湧水）を水源とする簡易水道及び小規模水道事業は行われていなかった。参考として、最寄りの簡易水道である寺領簡易水道（対象事業実施区域の北約2kmに位置）の位置を図2.3.4-2に示す。なお、「(1) 河川の利用状況」に記載のとおり、平成30年度に寺領簡易水道を含む4つの簡易水道と1つの飲料水供給施設が統合され、名称としては伊根町簡易水道となっている。

対象事業実施区域は主に筒川の流域に位置しており、寺領簡易水道は筒川流域内における湧水を地域住民に供給している。



凡例

— 内水面漁業権区域河川
宇川水系本支流

流域

■ 宇川
■ 犀川
■ 筒川

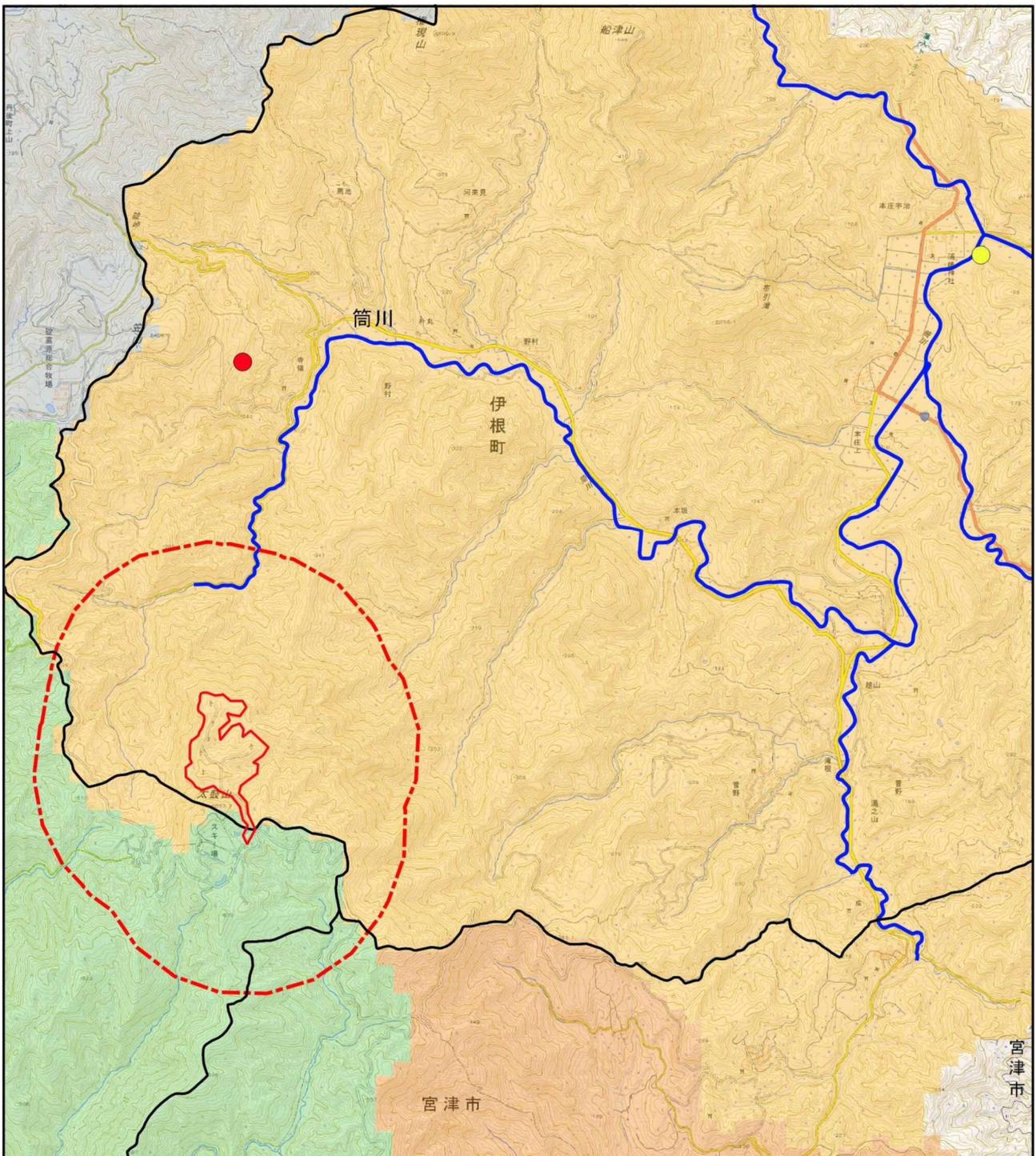
□ 対象事業実施区域
□ 市町村界
□ 基本的な調査対象範囲

250 0 250 500 750 1000 m



図 2.3.4-1 内水面漁業権区域図

出典等：「京都府内の第5種共同漁業権の概要」（京都府内水面漁業協同組合連合会が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）「国土数値情報 河川及び流域メッシュ」（国土数値情報ダウンロードサービス 最終閲覧月：平成30年11月）のGISデータを参考に作成した。



凡例

流域

- 筒川
- 宇川
- 吉野川
- 犀川

簡易水道事業施設

- 伊根中央簡易水道（表流水）
- 寺領簡易水道施設（湧水）

- 対象事業実施区域
- 市町村界
- 基本的な調査対象範囲

0.5 0 0.5 1 1.5 2 km

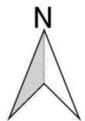


図 2.3.4-2 簡易水道事業施設位置図

出典等：「平成30年度 伊根町水道事業水質検査計画」（平成30年3月 伊根町役場地域整備課）、伊根町役場地域整備課へのヒアリング及び「国土数値情報 河川及び流域メッシュ」（国土交通省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

2.3.5 交通の状況

基本的な調査対象範囲における交通の状況の調査結果を表2.3.5-1に、調査路線及び調査地点位置を図2.3.5-1に示す。

基本的な調査対象範囲において最も交通量が多い路線は一般国道178号であり、昼間12時間交通量（平日）が7,289台、24時間自動車類交通量（平日）が9,549台であった。

表2.3.5-1 交通量調査結果（平日）

| 単位区間 番号 | 道路 種別 | 路線名 | 昼間12時間交通量 | | | 24時間 自動車類交通量 | | | 昼夜率 | 昼ピーク 12時間 比率 | 昼大型車 12時間 混入率 |
|------------|----------|----------|-----------|-----|-------|-----------------|-----|-------|------|--------------------|---------------------|
| | | | 上下合計 | | | 上下合計 | | | | | |
| | | | 小型車 | 大型車 | 合計 | 小型車 | 大型車 | 合計 | | | |
| | | | (台) | (台) | (台) | (台) | (台) | (台) | | | |
| 11460 | 3 | 一般国道178号 | 1,747 | 189 | 1,936 | 2,182 | 257 | 2,439 | 1.26 | 11.7 | 9.8 |
| 11480 | 3 | 一般国道178号 | 6,869 | 420 | 7,289 | 8,765 | 784 | 9,549 | 1.31 | 11.2 | 5.8 |
| 12180 | 3 | 一般国道482号 | 4,260 | 307 | 4,567 | 5,385 | 552 | 5,937 | 1.30 | 10.9 | 6.7 |
| 41500 | 4 | 網野岩滝線 | 4,587 | 171 | 4,758 | 5,754 | 431 | 6,185 | 1.30 | 11.4 | 3.6 |
| 41501 | 4 | 網野岩滝線 | 2,448 | 477 | 2,925 | 3,113 | 602 | 3,715 | 1.27 | 10.7 | 16.3 |
| 41510 | 4 | 網野岩滝線 | 1,614 | 185 | 1,799 | 1,970 | 225 | 2,195 | 1.22 | 14.6 | 10.3 |
| 41680 | 4 | 弥栄本庄線 | 551 | 89 | 640 | 662 | 112 | 774 | 1.21 | 13.6 | 13.9 |
| 42360 | 4 | 浜丹後線 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 62210 | 6 | 碓網野線 | 627 | 28 | 655 | 742 | 51 | 793 | 1.21 | 11.9 | 4.3 |
| 62220 | 6 | 井辺平線 | 364 | 71 | 435 | 447 | 97 | 544 | 1.25 | 13.1 | 16.3 |
| 62300 | 6 | 間人大宮線 | 674 | 71 | 745 | 811 | 90 | 901 | 1.21 | 13.0 | 9.5 |
| 62400 | 6 | 浜詰網野線 | 1,897 | 64 | 1,961 | 2,345 | 145 | 2,490 | 1.27 | 10.2 | 3.3 |
| 62490 | 6 | 間人港線 | 274 | 21 | 295 | 332 | 43 | 375 | 1.27 | 13.1 | 7.0 |

注1：表中の単位区間番号は、図中の番号に対応する。

2：交通量の斜体は推計値を示す。

3：「—」は非観測区間を示す。

4：道路種別は、それぞれ以下の分類を示す。

- 1：高速自動車国道
- 2：都市高速道路
- 3：一般国道
- 4：主要地方道（都道府県道）
- 5：主要地方道（指定市市道）
- 6：一般都道府県道
- 7：指定市の一般市道

出典等：「平成27年度 道路交通センサス調査結果」（京都市が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を使用して作成した。



凡例

- 一般国道
- 主要地方道
- 一般府道
- 道路交通量調査地点

- 対象事業実施区域
- 市町村界
- 主要な交通ルート

1 0 1 2 3 4 5 km

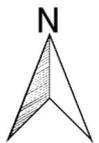


図 2.3.5-1 交通量調査区間及び調査地点位置図

出典等：「平成27年度 道路交通センサス調査結果」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を使用して作成した。

2.3.6 学校、病院その他の環境の保全についての配慮が特に必要な施設の配置の状況及び住宅の配置の概況

「国土数値情報 福祉施設、医療機関及び公共施設」（国土交通省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）及び「認定こども園一覧 [子育て支援情報 未来っ子ひろば]」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を用いて、配慮が特に必要な施設として以下の施設を抽出した。

- 社会福祉施設…児童福祉法第7条に規定する保育所、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律第2条に規定する認定こども園、老人福祉法第5条の3に規定する特別養護老人ホーム
- 医療施設………医療法第1条の5第1項に規定する病院及び同条第2項に規定する診療所のうち患者の収容施設を有するもの
- 教育施設………学校教育法 第1条に規定する幼稚園、学校、図書館法第2条第1項に規定する図書館

基本的な調査対象範囲における配慮が特に必要な施設の抽出結果を表2.3.6-1～表2.3.6-3に、位置を図2.3.6-1～図2.3.6-3に示す。

対象事業実施区域及びその周囲1kmの範囲には、配慮が特に必要な施設は存在しないが、主要な交通ルートの沿線には配慮が特に必要な施設が存在している。

表2.3.6-1 社会福祉施設の調査結果

| No. | 分類 | 名称 | 所在地 |
|-----|-----------|---------------|--------------|
| 1 | 認定こども園 | 丹後こども園 | 京丹後市丹後町間人300 |
| 2 | 特別養護老人ホーム | 特別養護老人ホームふるさと | 野町小浜613-2 |

注：表中のNo. は、図中のNo. に対応する。

出典等：「国土数値情報 福祉施設」（国土数値情報サービス 最終閲覧月：平成30年11月）及び「認定こども園一覧 [子育て支援情報 未来っ子ひろば]」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

表2.3.6-2 医療施設の調査結果

| No. | 分類 | 名称 | 所在地 |
|-----|------|----------|-----------------|
| 1 | 医療施設 | 野間診療所 | 京丹後市弥栄町野中2245-1 |
| 2 | | 宇川診療所 | 京丹後市丹後町久僧417 |
| 3 | | 丹後ふるさと病院 | 京丹後市網野町字小浜673 |

注：表中のNo. は、図中のNo. に対応する。

出典等：「国土数値情報 医療機関」（国土数値情報サービス 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

表2.3.6-3 教育施設の調査結果

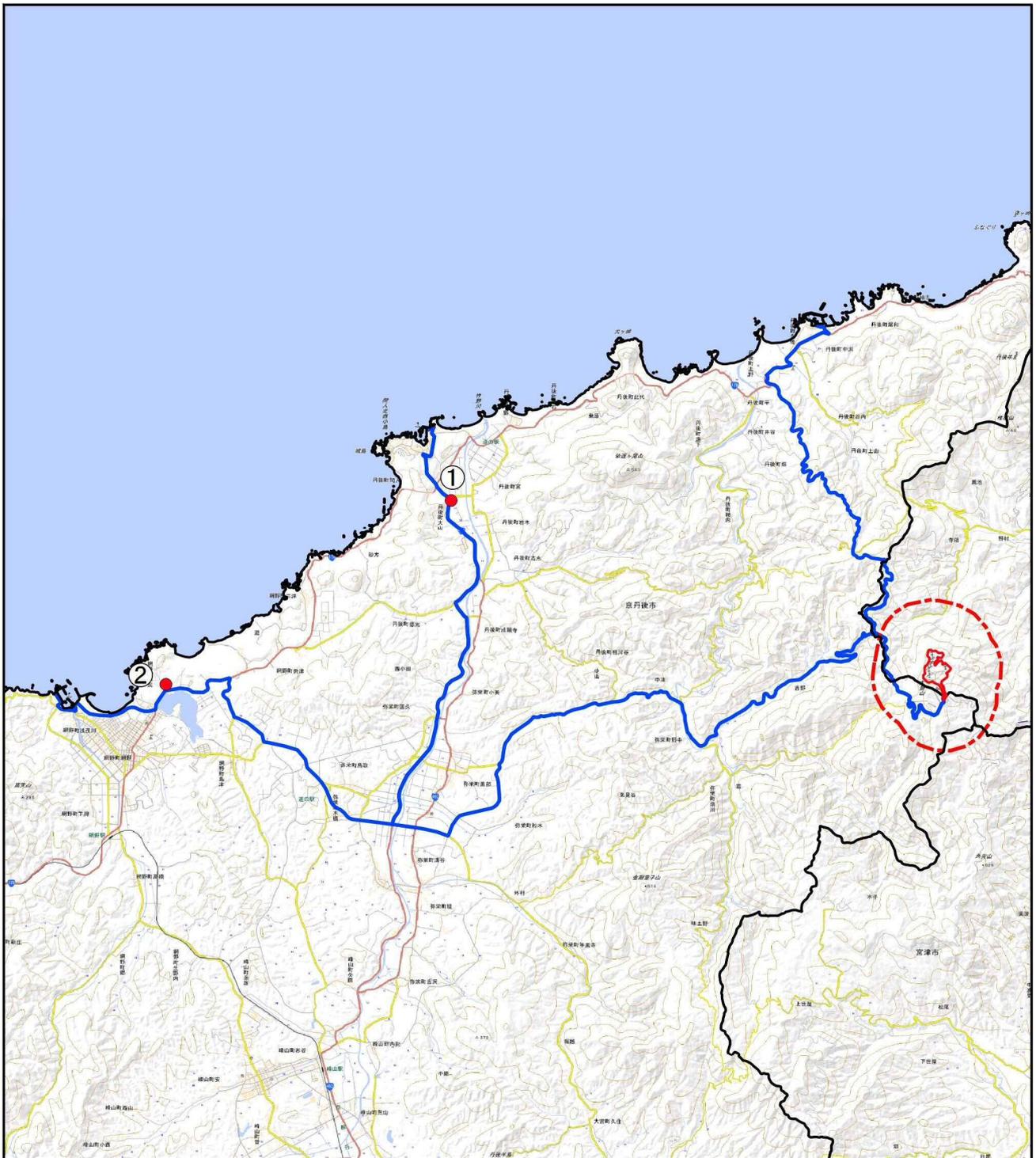
| No. | 分類 | 名称 | 所在地 |
|-----|------|-------------|----------------|
| 1 | 小学校 | 宇川小学校 | 京丹後市丹後町上野120 |
| 2 | | 網野北小学校 | 京丹後市網野町浅茂川1861 |
| 3 | 中学校 | 丹後中学校 | 京丹後市丹後町間人320 |
| 4 | 高等学校 | 網野高等学校 間人分校 | 京丹後市丹後町間人337 |

注：表中のNo. は、図中のNo. に対応する。

出典等：「国土数値情報 公共施設」（国土数値情報サービス 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

「基盤地図情報 建築物」（国土地理院が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）より、基本的な調査対象範囲における建築物の位置を把握し、現地踏査により最寄りの住宅の位置を確認した結果を図2.3.6-4に示す。

対象事業実施区域から最も近い住宅は伊根町で確認され、その距離は約1.8kmであった。



凡例

- 社会福祉施設
- ① 丹後こども園
- ② 特別養護老人ホームふるさと

- 対象事業実施区域
- 市町村界
- 基本的な調査対象範囲
- 主要な交通ルート

1 0 1 2 3 4 5 km

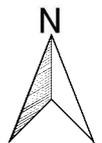
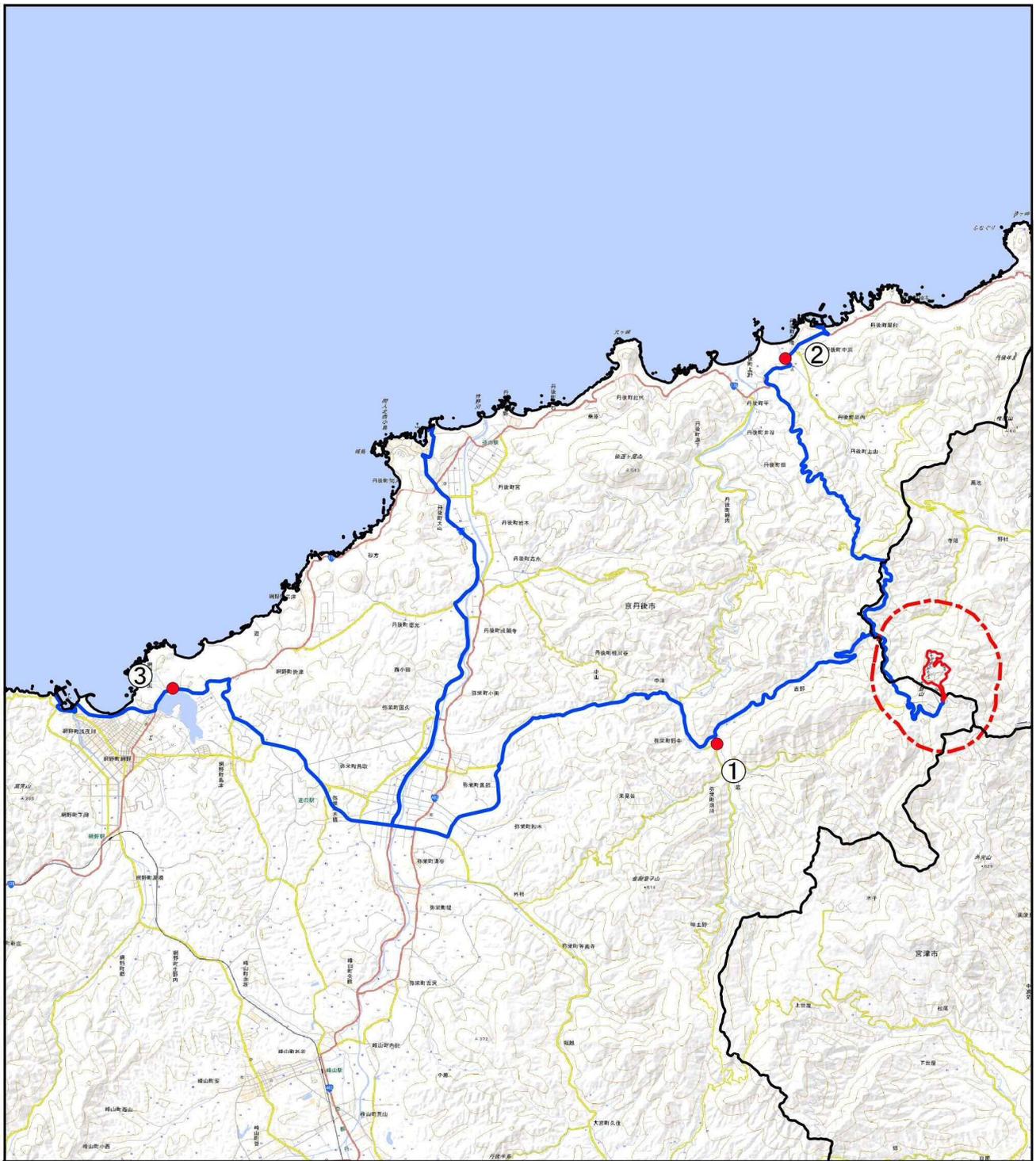


図 2.3.6-1 社会福祉施設位置図

出典等：「国土数値情報 福祉施設」（国土数値情報サービス 最終閲覧月：平成30年11月）及び「認定こども園一覧 [子育て支援情報 未来っ子ひろば]」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。



凡例

● 医療施設

①野間診療所

②宇川診療所

③丹後ふるさと病院

対象事業実施区域

市町村界

基本的な調査対象範囲

主要な交通ルート

1 0 1 2 3 4 5 km

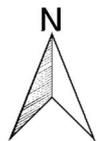
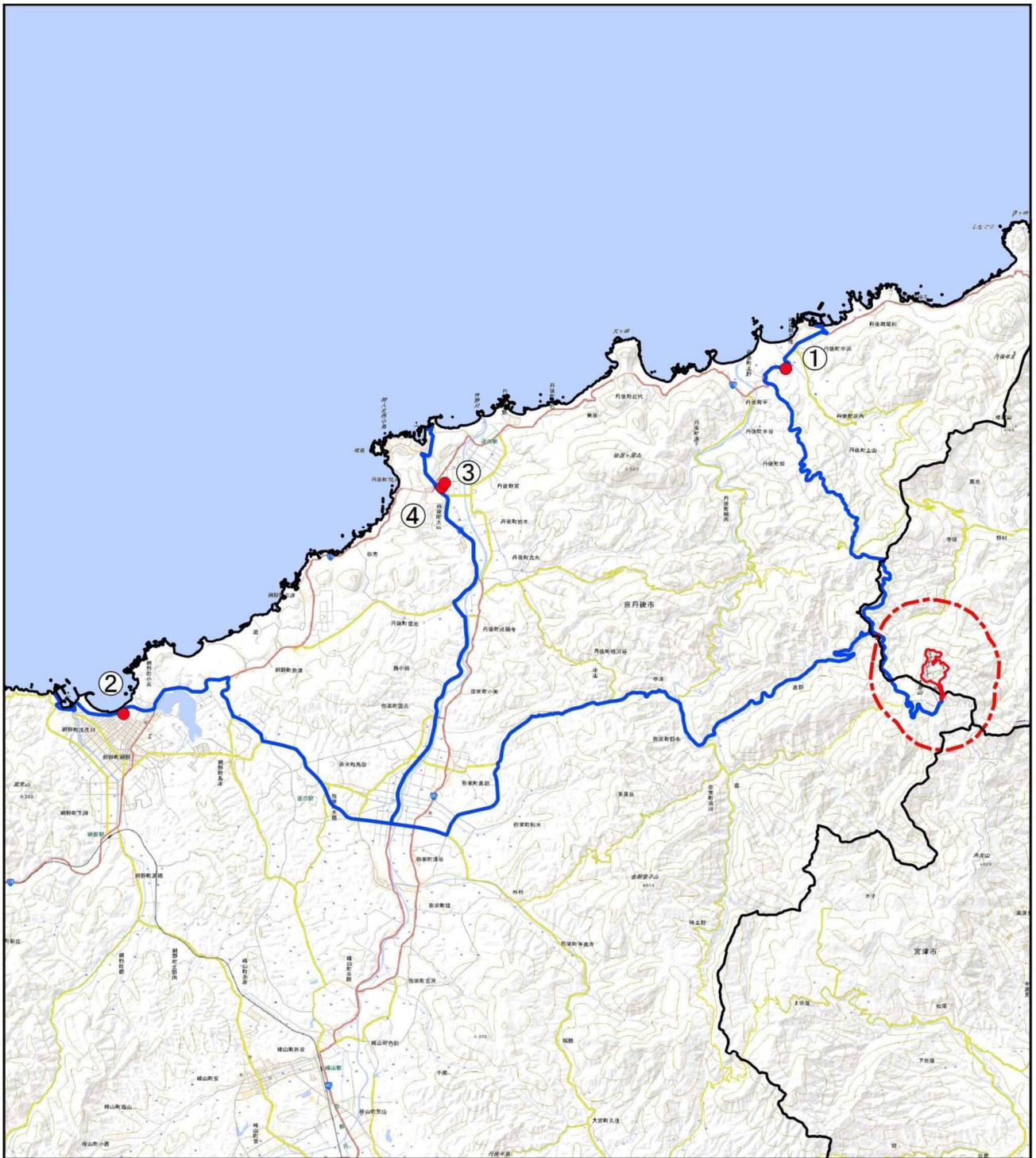


図 2.3.6-2 医療施設位置図

出典等:「国土数値情報 医療機関」(国土数値情報サービス 最終閲覧月:平成30年11月)を参考に作成した。ページ最終閲覧月:平成30年11月)を参考に作成した。



凡例

- 教育施設
- ① 宇川小学校
- ② 網野北小学校
- ③ 丹後中学校
- ④ 網野高等学校 間人分校

- 対象事業実施区域
- 市町村界
- 基本的な調査対象範囲
- 主要な交通ルート

1 0 1 2 3 4 5 km

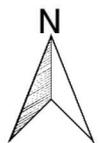
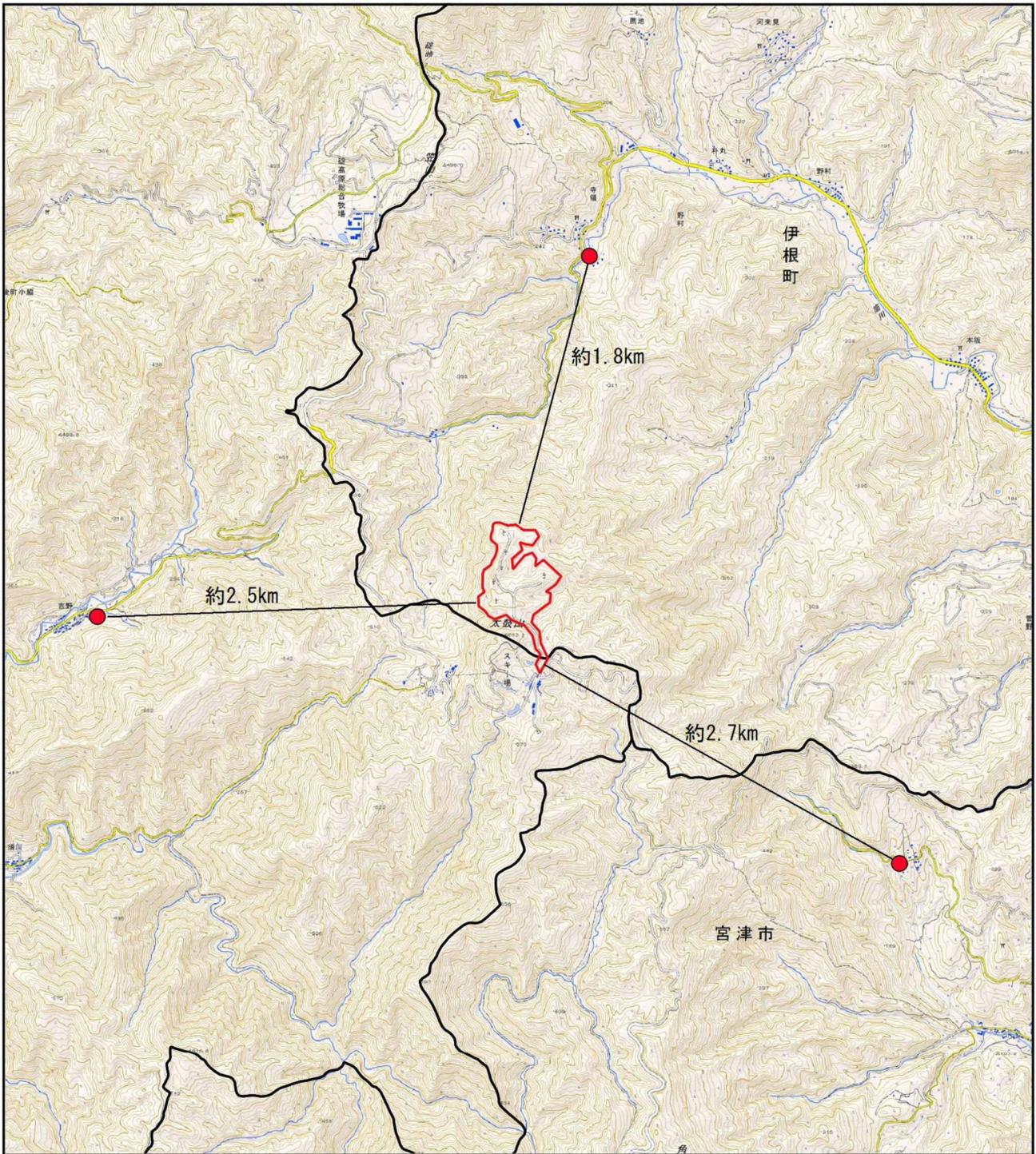


図 2.2.6-3 教育施設位置図

出典等：「国土数値情報 公共施設」（国土数値情報サービス
最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。



凡例

■ 建築物

● 各関係自治体における最寄りの住宅位置

□ 対象事業実施区域

□ 市町村界

□ 基本的な調査対象範囲

0.5 0 0.5 1 1.5 2 km

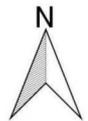


図 2.3.6-4 最寄りの住宅位置図

出典等：「基盤地図情報 建築物」（国土地理院が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）及び現地踏査により作成した。

2.3.7 下水道等の整備の状況

伊根町、京丹後市及び宮津市における水洗化施設別の普及状況を表2.3.7-1に示す。

伊根町では浄化槽及び漁業集落排水が整備されており、平成28年度末の汚水処理人口は1,492人、汚水処理人口普及率は68.2%であった。

京丹後市では、下水道、農業集落排水、浄化槽、漁業集落排水が整備されており、平成28年度末の汚水処理人口は42,518人、汚水処理人口普及率は75.5%であった。

宮津市では、下水道及び浄化槽が整備されており、平成28年度末の汚水処理人口は14,053人、汚水処理人口普及率は75.8%であった。

表2.3.7-1 伊根町、京丹後市及び宮津市における水洗化施設別の普及状況

| 項目 | 単位 | 伊根町 | | 京丹後市 | | 宮津市 | |
|------------------|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | H27年度末 | H28年度末 | H27年度末 | H28年度末 | H27年度末 | H28年度末 |
| 行政人口 | 人 | 2,245 | 2,188 | 57,287 | 56,337 | 18,969 | 18,538 |
| 下水道 | 処理人口 | — | — | 26,979 | 28,163 | 12,431 | 12,415 |
| | 処理面積 | — | — | 1,001 | 1,058 | 417 | 429 |
| | シェア | — | — | 47.1 | 50.0 | 65.5 | 67.0 |
| 農業 ^{注)} | 処理人口 | — | — | 6,887 | 6,773 | — | — |
| | 処理面積 | — | — | 283 | 283 | — | — |
| | シェア | — | — | 12.0 | 12.0 | — | — |
| 浄化槽 | 処理人口 | 265 | 260 | 7,903 | 7,427 | 1,661 | 1,638 |
| | シェア | 11.8 | 11.9 | 13.8 | 13.2 | 8.8 | 8.8 |
| 漁業 ^{注)} | 処理人口 | 1,254 | 1,232 | 166 | 155 | — | — |
| | シェア | 55.86 | 56.31 | 0.29 | 0.28 | — | — |
| 処理人口(計) | 人 | 1,519 | 1,492 | 41,935 | 42,518 | 14,092 | 14,053 |
| 汚水処理人口普及率 | % | 67.7 | 68.2 | 73.2 | 75.5 | 74.3 | 75.8 |

出典等：「京都府の水洗化普及率について」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

注：農業…農業集落排水、漁業…漁業集落排水

2.3.8 都市計画法に基づく地域地区等の決定状況及びその他の土地利用計画

基本的な調査対象範囲は、「都市計画法」（昭和43年法律第100号）に規定する都市計画区域に該当しない。

2.3.9 環境の保全を目的とする法令、条例又は行政手続法第 36 条に規定する行政指導その他の措置により指定された地域その他の対象及び当該対象に係る規制の内容その他の状況

(1) 公害関係法令等

風力発電事業に係る公害関連の環境基準等、規制基準等及び京都府における環境保全計画等について以下に示す。

①環境基準等

環境基本法（平成5年法律第91号）に規定する環境基準を以下に示す。

ア. 大気汚染に係る環境基準

大気汚染に係る環境基準を表2.3.9-1に示す。

表 2.3.9-1 大気汚染に係る環境基準

| 物質 | 環境基準 | |
|---------------------------------|---|---|
| | 環境上の条件 | 測定方法 |
| 二酸化硫黄 (SO ₂) | 1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。 | 溶液導電率法又は紫外線蛍光法 |
| 二酸化窒素 (NO ₂) | 1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。 | ザルツマン試薬を用いる吸光光度法又はオゾンを用いる化学発光法 |
| 一酸化炭素 (CO) | 1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。 | 非分散型赤外分析計を用いる方法 |
| 浮遊粒子状物質 (SPM) | 1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。 | 濾過捕集による重量濃度測定方法又はこの方法によって測定された重量濃度と直線的な関係を有する量が得られる光散乱法、圧電天びん法若しくはベータ線吸収法 |
| 光化学オキシダント (Ox) | 1時間値が0.06ppm以下であること。 | 中性ヨウ化カリウム溶液を用いる吸光光度法若しくは電量法、紫外線吸収法又はエチレンを用いる化学発光法 |
| 微小粒子状物質 (PM _{2.5}) | 1年平均値が15µg/m ³ 以下であり、かつ、1日平均値が35µg/m ³ 以下であること。 | 微小粒子状物質による大気汚染の状況を的確に把握することができると思われる場所において、濾過捕集による質量濃度測定方法又はこの方法によって測定された質量濃度と等価な値が得られると認められる自動測定機による方法 |

備考1：浮遊粒子状物質とは大気中に浮遊する粒子状物質であってその粒径が10µm以下のものをいう。

2：二酸化窒素について、1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内にある地域にあつては、原則としてこのゾーン内において現状程度の水準を維持し、又はこれを大きく上回ることとならないよう努めるものとする。

3：光化学オキシダントとは、オゾン、パーオキシアセチルナイトレートその他の光化学反応により生成される酸化性物質（中性ヨウ化カリウム溶液からヨウ素を遊離するものに限り、二酸化窒素を除く。）をいう。

4：微小粒子状物質とは、大気中に浮遊する粒子状物質であつて、粒径が2.5µmの粒子を50%の割合で分離できる分粒装置を用いて、より粒径の大きい粒子を除去した後に採取される粒子をいう。

出典等：「大気汚染に係る環境基準」（環境省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

イ. 騒音に係る環境基準

騒音に係る環境基準を表2.3.9-2に示す。

なお、基本的な調査対象範囲において、騒音に係る環境基準の類型指定はされていない。

表 2.3.9-2 (1) 騒音に係る環境基準（道路に面する地域以外の地域）

| 地域の 類型 | 基準値 | | 類型にあて はめる地域 | 類型指定 の有無 |
|-----------|-----------------------|--------------------------|---|-------------|
| | 昼間 (午前6時から午後10時まで) | 夜間 (午後10時から翌日の午前6時まで) | | |
| AA | 50dB 以下 | 40dB 以下 | 環境基本法第16条 第2項の規定によ り県知事が類型ご とに指定する地域 | × |
| A 及び B | 55dB 以下 | 45dB 以下 | | × |
| C | 60dB 以下 | 50dB 以下 | | × |

注：上記の表中、「○」：類型指定がされている 「×」：類型指定がされていない

出典等：「騒音に係る環境基準について」（環境省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

表 2.3.9-2 (2) 騒音に係る環境基準（道路に面する地域）

| 地域の区分 | 基準値 | | 類型指定の有無 |
|--|---------|---------|---------|
| | 昼間 | 夜間 | |
| a 地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域 | 60dB 以下 | 55dB 以下 | × |
| b 地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域及びc 地域のうち車線を有する道路に面する地域 | 65dB 以下 | 60dB 以下 | × |

注：上記の表中、「○」：類型指定がされている 「×」：類型指定がされていない

備考：車線とは、1縦列の自動車安全かつ円滑に走行するために必要な一定の幅員を有する帯状の車道部分をいう。

出典等：「騒音に係る環境基準について」（環境省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

表 2.3.9-2 (3) 騒音に係る環境基準（幹線交通を担う道路に近接する空間）

| 基準値 | | 類型指定の有無 |
|---------|---------|---------|
| 昼間 | 夜間 | |
| 70dB 以下 | 65dB 以下 | × |

備考：個別の住居等において騒音の影響を受けやすい面の窓を主として閉めた生活が営まれていると認められるときは、屋外へ透過する騒音に係る基準（昼間にあつては45dB以下、夜間にあつては40dB以下）によることができる。

注1：上記の表中、「○」：類型指定がされている 「×」：類型指定がされていない

2：「幹線交通を担う道路」とは、道路法第3条の規定による高速自動車国道、一般国道、県道及び市町村道（市町村道にあつては4車線以上の区間に限る。）をいう。

3：「幹線交通を担う道路に近接する空間」とは、次の車線数の区分に応じ道路端から距離によりその範囲を特定する。

(1) 2車線以下の車線を有する幹線交通を担う道路 15メートル

(2) 2車線を越える車線を有する幹線交通を担う道路 20メートル

出典等：「騒音に係る環境基準について」（環境省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

ウ. 水質に係る環境基準

水質に係る環境基準を表2.3.9-3に示す。

なお、基本的な調査対象範囲において、水質に係る環境基準の類型指定はされていない。

表 2.3.9-3 (1) 人の健康の保護に係る環境基準（公共用水域）

| 項目 | 区分 | 公共用水域 | 地下水 |
|-----------------|----|---------------|---------------|
| カドミウム | | 0.003mg/L 以下 | 0.003mg/L 以下 |
| 全シアン | | 検出されないこと。 | 検出されないこと。 |
| 鉛 | | 0.01mg/L 以下 | 0.01mg/L 以下 |
| 六価クロム | | 0.05mg/L 以下 | 0.05mg/L 以下 |
| 砒素 | | 0.01mg/L 以下 | 0.01mg/L 以下 |
| 総水銀 | | 0.0005mg/L 以下 | 0.0005mg/L 以下 |
| アルキル水銀 | | 検出されないこと。 | 検出されないこと。 |
| PCB | | 検出されないこと。 | 検出されないこと。 |
| ジクロロメタン | | 0.02mg/L 以下 | 0.02mg/L 以下 |
| 四塩化炭素 | | 0.002mg/L 以下 | 0.002mg/L 以下 |
| クロロエチレン | | — | 0.002mg/L 以下 |
| 1,2-ジクロロエタン | | 0.004mg/L 以下 | 0.004mg/L 以下 |
| 1,1-ジクロロエチレン | | 0.1mg/L 以下 | 0.1mg/L 以下 |
| 1,2-ジクロロエチレン | | — | 0.04mg/L 以下 |
| シス-1,2-ジクロロエチレン | | 0.04mg/L 以下 | — |
| 1,1,1-トリクロロエタン | | 1mg/L 以下 | 1mg/L 以下 |
| 1,1,2-トリクロロエタン | | 0.006mg/L 以下 | 0.006mg/L 以下 |
| トリクロロエチレン | | 0.01mg/L 以下 | 0.01mg/L 以下 |
| テトラクロロエチレン | | 0.01mg/L 以下 | 0.01mg/L 以下 |
| 1,3-ジクロロプロペン | | 0.002mg/L 以下 | 0.002mg/L 以下 |
| チウラム | | 0.006mg/L 以下 | 0.006mg/L 以下 |
| シマジン | | 0.003mg/L 以下 | 0.003mg/L 以下 |
| チオベンカルブ | | 0.02mg/L 以下 | 0.02mg/L 以下 |
| ベンゼン | | 0.01mg/L 以下 | 0.01mg/L 以下 |
| セレン | | 0.01mg/L 以下 | 0.01mg/L 以下 |
| 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 | | 10mg/L 以下 | 10mg/L 以下 |
| ふっ素 | | 0.8mg/L 以下 | 0.8mg/L 以下 |
| ほう素 | | 1mg/L 以下 | 1mg/L 以下 |
| 1,4-ジオキサン | | 0.05mg/L 以下 | 0.05mg/L 以下 |

備考1：基準値は、年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。

2：「検出されないこと」とは、「水質汚濁に係る環境基準について「別表1 人の健康の保護に関する環境基準」（環境省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）に記載されている、測定方法の項に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。

3：海域については、ふっ素及びほう素の基準値は適用しない。

4：硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の濃度は、「JIS K0102」43.2.1、43.2.3、43.2.5又は43.2.6により測定された硝酸イオンの濃度に換算係数0.2259を乗じたものと「JIS K0102」43.1により測定された亜硝酸イオンの濃度に換算係数0.3045を乗じたものの和とする。

出典等：「水質汚濁に係る環境基準について「別表1 人の健康の保護に関する環境基準」（環境省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

表 2.3.9-3 (2) 生活環境の保全に係る環境基準（河川（湖沼を除く。））

ア.

| 項目 類型 | 利用目的の適応性 | 基準値 | | | | |
|----------|---------------------------------------|------------------|------------------|------------------|---------------|----------------------|
| | | 水素イオン濃度 (pH) | 生物化学的酸素要求量 (BOD) | 浮遊物質質量 (SS) | 溶存酸素量 (DO) | 大腸菌群数 |
| AA | 水道 1 級 自然環境保全及び A 以下の欄に掲げるもの | 6.5 以上 8.5 以下 | 1mg/L 以下 | 25mg/L 以下 | 7.5mg/L 以上 | 50MPN/100mL 以下 |
| A | 水道 2 級 水産 1 級 水浴及び B 以下の欄に掲げるもの | 6.5 以上 8.5 以下 | 2mg/L 以下 | 25mg/L 以下 | 7.5mg/L 以上 | 1,000MPN/100mL 以下 |
| B | 水道 3 級 水産 2 級及び C 以下の欄に掲げるもの | 6.5 以上 8.5 以下 | 3mg/L 以下 | 25mg/L 以下 | 5mg/L 以上 | 5,000MPN/100mL 以下 |
| C | 水産 3 級 工業用水 1 級及び D 以下の欄に掲げるもの | 6.5 以上 8.5 以下 | 5mg/L 以下 | 50mg/L 以下 | 5mg/L 以上 | — |
| D | 工業用水 2 級 農業用水及び E の欄に掲げるもの | 6.0 以上 8.5 以下 | 8mg/L 以下 | 100mg/L 以下 | 2mg/L 以上 | — |
| E | 工業用水 3 級 環境保全 | 6.0 以上 8.5 以下 | 10mg/L 以下 | ごみ等の浮遊が認められないこと。 | 2mg/L 以上 | — |

備考 1：基準値は、日間平均値とする（湖沼、海域もこれに準ずる。）。

2：農業用利水点については、水素イオン濃度 6.0 以上 7.5 以下、溶存酸素量 5mg/L 以上とする（湖沼もこれに準ずる。）。

注 1：自然環境保全：自然探勝等の環境保全

2：水道 1 級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの

水道 2 級：沈殿ろ過等により通常の浄水操作を行うもの

水道 3 級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの

3：水産 1 級：ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産 2 級及び水産 3 級の水産生物用

水産 2 級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産 3 級の水産生物用

水産 3 級：コイ、フナ等、β-中腐水性水域の水産生物用

4：工業用水 1 級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの

工業用水 2 級：薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの

工業用水 3 級：特殊の浄水操作を行うもの

5：環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

出典等：「水質汚濁に係る環境基準について「別表 2 生活環境の保全に関する環境基準」（環境省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成 30 年 11 月）を参考に作成した。

表 2.3.9-3 (3) 生活環境の保全に係る環境基準

イ.

| 項目 類型 | 水生生物の生息状況の 適応性 | 基準値 | | |
|----------|---|-------------|---------------|------------------------------|
| | | 全亜鉛 | ノニルフェノール | 直鎖アルキルベン ゼンスルホン酸及 びその塩 |
| 生物 A | イワナ、サケマス等比較的 低温域を好む水生生物及び これらの餌生物が生息する 水域 | 0.03mg/L 以下 | 0.001mg/L 以下 | 0.03mg/L 以下 |
| 生物特 A | 生物 A の水域のうち、生物 A の欄に掲げる水生生物の産 卵場（繁殖場）又は幼稚仔 の生育場として特に保全が 必要な水域 | 0.03mg/L 以下 | 0.0006mg/L 以下 | 0.02mg/L 以下 |
| 生物 B | コイ、フナ等比較的高温域 を好む水生生物及びこれら の餌生物が生息する水域 | 0.03mg/L 以下 | 0.002mg/L 以下 | 0.05mg/L 以下 |
| 生物特 B | 生物 A 又は生物 B の水域の うち、生物 B の欄に掲げる 水生生物の産卵場（繁殖場） 又は幼稚仔の生育場として 特に保全が必要な水域 | 0.03mg/L 以下 | 0.002mg/L 以下 | 0.04mg/L 以下 |

備考：基準値は、年間平均値とする。（湖沼、海域もこれに準ずる。）

出典等：「水質汚濁に係る環境基準について「別表 2 生活環境の保全に関する環境基準」（環境省が運営するホームペ
ージ 最終閲覧月：平成 30 年 11 月）を参考に作成した。

エ. 土壌

土壌に係る環境基準等を表 2.3.9-4 に示す。

表 2.3.9-4 土壌に係る環境基準

| 項目 | 環境上の条件 |
|-----------------|--|
| カドミウム | 検液 1L につき 0.01mg 以下であり、かつ、農用地においては、米 1kg につき 0.4mg 以下であること。 |
| 全シアン | 検液中に検出されないこと。 |
| 有機磷 (りん) | 検液中に検出されないこと。 |
| 鉛 | 検液 1L につき 0.01mg 以下であること。 |
| 六価クロム | 検液 1L につき 0.05mg 以下であること。 |
| 砒素 | 検液 1L につき 0.01mg 以下であり、かつ、農用地 (田に限る。) においては、土壌 1kg につき 15mg 未満であること。 |
| 総水銀 | 検液 1L につき 0.0005mg 以下であること。 |
| アルキル水銀 | 検液中に検出されないこと。 |
| PCB | 検液中に検出されないこと。 |
| 銅 | 農用地 (田に限る。) において、土壌 1kg につき 125mg 未満であること。 |
| ジクロロメタン | 検液 1L につき 0.02mg 以下であること。 |
| 四塩化炭素 | 検液 1L につき 0.002mg 以下であること。 |
| クロロエチレン | 検液 1L につき 0.002mg 以下であること。 |
| 1,2-ジクロロエタン | 検液 1L につき 0.004mg 以下であること。 |
| 1,1-ジクロロエチレン | 検液 1L につき 0.1mg 以下であること。 |
| シス-1,2-ジクロロエチレン | 検液 1L につき 0.04mg 以下であること。 |
| 1,1,1-トリクロロエタン | 検液 1L につき 1mg 以下であること。 |
| 1,1,2-トリクロロエタン | 検液 1L につき 0.006mg 以下であること。 |
| トリクロロエチレン | 検液 1L につき 0.03mg 以下であること。 |
| テトラクロロエチレン | 検液 1L につき 0.01mg 以下であること。 |
| 1,3-ジクロロプロペン | 検液 1L につき 0.002mg 以下であること。 |
| チウラム | 検液 1L につき 0.006mg 以下であること。 |
| シマジン | 検液 1L につき 0.003mg 以下であること。 |
| チオベンカルブ | 検液 1L につき 0.02mg 以下であること。 |
| ベンゼン | 検液 1L につき 0.01mg 以下であること。 |
| セレン | 検液 1L につき 0.01mg 以下であること。 |
| ふっ素 | 検液 1L につき 0.8mg 以下であること。 |
| ほう素 | 検液 1L につき 1mg 以下であること。 |
| 1,4-ジオキサン | 検液 1L につき 0.05mg 以下であること。 |

備考 1: カドミウム、鉛、六価クロム、砒 (ひ) 素、総水銀、セレン、ふっ素及びほう素に係る環境上の条件のうち検液中濃度に係る値にあっては、汚染土壌が地下水面から離れており、かつ、原状において当該地下水のこれらの物質の濃度がそれぞれ地下水 1L につき 0.01mg、0.01mg、0.05mg、0.01mg、0.0005mg、0.01mg、0.8mg 及び 1mg を超えていない場合には、それぞれ検液 1L につき 0.03mg、0.03mg、0.15mg、0.03mg、0.0015mg、0.03mg、2.4mg 及び 3mg とする。

2: 「検出されないこと」とは、「土壌汚染に係る環境基準について「別表」(環境省が運営するホームページ 最終閲覧月:平成 30 年 11 月)に記載されている、測定方法の項に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。

3: 有機磷 (りん) とは、パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン及び EPN をいう。

出典等: 「土壌汚染に係る環境基準について」(環境省が運営するホームページ 最終閲覧月:平成 30 年 11 月)を参考に作成した。

オ. ダイオキシン類

ダイオキシン類に係る環境基準を表 2.3.9-5 に示す。

表 2.3.9-5 ダイオキシン類に係る環境基準

| 媒体 | 基準値 | 測定方法 |
|---|-----------------------------|--|
| 大気 | 0.6pg-TEQ/m ³ 以下 | ポリウレタンフォームを装着した採取筒をろ紙後段に取り付けたエアサンプラーにより採取した試料を高分解能ガスクロマトグラフ質量分析計により測定する方法 |
| 水質（水底の底質を除く。） | 1pg-TEQ/l 以下 | 日本工業規格 K0312 に定める方法 |
| 水底の底質 | 150pg-TEQ/g 以下 | 水底の底質中に含まれるダイオキシン類をソックスレー抽出し、高分解能ガスクロマトグラフ質量分析計により測定する方法 |
| 土壌 | 1,000pg-TEQ/g 以下 | 土壌中に含まれるダイオキシン類をソックスレー抽出し、高分解能ガスクロマトグラフ質量分析計により測定する方法（ポリ塩化ジベンゾフラン等（ポリ塩化ジベンゾフラン及びポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンをいう。以下同じ。）及びコプラナーポリ塩化ビフェニルをそれぞれ測定するものであって、かつ、当該ポリ塩化ジベンゾフラン等を2種類以上のキャピラリーカラムを併用して測定するものに限る。） |
| 備考 | | |
| <p>1 基準値は、2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値とする。</p> <p>2 大気及び水質（水底の底質を除く。）の基準値は、年間平均値とする。</p> <p>3 土壌中に含まれるダイオキシン類をソックスレー抽出又は高圧流体抽出し、高分解能ガスクロマトグラフ質量分析計、ガスクロマトグラフ四重極形質量分析計又はガスクロマトグラフ三次元四重極形質量分析計により測定する方法（この表の土壌の欄に掲げる測定方法を除く。以下「簡易測定方法」という。）により測定した値（以下「簡易測定値」という。）に2を乗じた値を上限、簡易測定値に0.5を乗じた値を下限とし、その範囲内の値をこの表の土壌の欄に掲げる測定方法により測定した値とみなす。</p> <p>4 土壌にあっては、環境基準が達成されている場合であって、土壌中のダイオキシン類の量が250pg-TEQ/g 以上の場合 簡易測定方法により測定した場合にあっては、簡易測定値に2を乗じた値が250pg-TEQ/g 以上の場合）には、必要な調査を実施することとする。</p> | | |

出典等：「ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁（水底の底質の汚染を含む。）及び土壌の汚染に係る環境基準」（環境省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

②規制基準等

ア. 大気汚染

大気汚染防止法（昭和43年法律第97号）では、工場・事業場に設置されているばい煙・粉じん発生施設等に対し、排出基準または構造等に関する基準を定め、大気汚染の防止を図っている。風力発電所については規制対象に含まれない。

イ. 騒音

騒音規制法（昭和43年法律第98号）に基づく規制基準等を表2.3.9-6～表2.3.9-8に示す。なお、基本的な調査対象範囲は、同法に基づく騒音について規制する地域（以下「指定地域」という。）には該当しない。

京都府環境を守り育てる条例（平成7年京都府条例第33号）では、工場又は事業場に設置される施設のうち、騒音を発生させる施設で規則に定めるものを「特定施設」とし、特定施設を設置しようとする者に届出を義務づけている。本事業は、事業計画によっては特定施設を設置する可能性があることから、届出を行い、適正に事業を実施する。

また、「風力発電施設から発生する騒音に関する指針」（平成29年 環境省）では、風車騒音に関する指針値が示されている。本資料によると、風車騒音に関する指針値は、全国一律の値ではなく、地域の状況に応じたものとし、残留騒音に5dBを加えた値とされている（残留騒音が30dBを下回るような著しく静穏な環境である場合を除く）。

表 2.3.9-6 工場・事業場騒音の規制基準

| 時間区分 区域区分 | 昼間 (8:00～18:00) | 朝 (6:00～8:00) 夕 (18:00～22:00) | 夜間 (22:00～6:00) |
|--------------|--------------------|----------------------------------|--------------------|
| 第1種区域 | 45dB | 40dB | 40dB |
| 第2種区域 | 50dB | 45dB | 40dB |
| 第3種区域 | 65dB | 55dB | 50dB |
| 第4種区域 | 70dB | 60dB | 55dB |

注：第2種区域、第3種区域又は第4種区域の区域内に所在する学校教育法第1条に規定する学校、児童福祉法第7条第1項に規定する保育所、医療法第1条の5第1項に規定する病院及び同条第2項に規定する診療所のうち患者を入院させるための施設を有するもの、図書館法（昭和25年法律第118号）第2条第1項に規定する図書館、老人福祉法第5条の3に規定する特別養護老人ホーム及び就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律第2条第7項に規定する幼保連携型認定こども園の敷地の周囲50メートルの区域内における規制基準は、規制基準の欄に掲げる値から5デシベルを減じた値とする（第2種区域にあつては夜間を除く）。

出典等：「工場騒音の規制について」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

表 2.3.9-7 自動車騒音の要請限度

| 区域の区分 | | 昼間 (午前 6 時から午後 10 時まで) | 夜間 (午後 10 時から 翌日の午前 6 時まで) |
|-------|--|---------------------------|----------------------------------|
| 1 | a 区域及び b 区域のうち 1 車線を有する道路に面する地区 | 65dB | 55dB |
| 2 | a 区域のうち 2 車線以上の車線を有する道路に面する区域 | 70dB | 65dB |
| 3 | b 区域のうち 2 車線を有する道路に面する区域及び c 地区のうち車線を有する道路に面する区域 | 75dB | 70dB |

注：上表に掲げる区域のうち幹線交通を担う道路に近接する区域（2 車線以下の車線を有する道路の場合は道路の敷地の境界線から 15m、2 車線を超える車線を有する道路の場合は道路の敷地の境界線から 20m までの範囲をいう。）に係る限度は上表に係らず、昼間においては 75dB、夜間においては 70dB とする。

出典等：「自動車騒音の規制について」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成 30 年 11 月）を参考に作成した。

表 2.3.9-8 特定建設作業に係る騒音の規制基準

| 規制区域等 特定建設 作業の種類 | 騒音の 大きさ | 作業ができない時間 (夜間) | | 1 日における作業時 間 | | 同一場所における 作業時間 | | 日曜日 休日に おける 作業 |
|----------------------------------|------------|-------------------------|-------------------------|----------------------|----------------------|---------------------|----------------------------|-------------------------|
| | | 第 1 号 区域 | 第 2 号 区域 | 第 1 号 区域 | 第 2 号 区域 | 第 1 号 区域 | 第 2 号 区域 | |
| 1 くい打機器等を使用する作業 | 85dB | 午後 7 時 ～翌日午 前 7 時 | 午後 10 時～翌日 午前 6 時 | 10 時間 を越えな いこと | 14 時間 を越えな いこと | 連続して 6 日を越え ないこと | 禁止 | |
| 2 びょう打ち機を使用する作業 | | | | | | | | |
| 3 さく岩機を使用する作業 | | | | | | | | |
| 4 空気圧縮機を使用する作業 | | | | | | | | |
| 5 コンクリートプラント又はアスファルトプラントを設けて行う作業 | | | | | | | | |
| 6 バックホウ、トラクターショベル、ブルドーザーを使用する作業 | | | | | | | | |
| 適用 除 外 | | A B C D E | | A B | | A B | A B C D E F | |

備考 1：騒音の大きさは、特定建設作業の場所の敷地の境界線での値。

2：表中 A～F は次の場合をいう。

- A 災害その他非常の事態のため緊急に行う必要がある場合
- B 人の生命又は身体に対する危険の防止のため行う必要がある場合
- C 鉄道又は軌道の正常な運行確保のため緊急に行う必要がある場合
- D 道路法第 34 条（道路の占用許可）、第 35 条（協議）による場合
- E 道路交通法第 77 条第 3 項（道路の使用許可）、第 80 条第 1 項（協議）による場合
- F 電気事業法施行規則第 1 条第 2 項第 1 号の変電所の変更の工事で特定建設作業に従事する者の生命又は身体に対する安全の確保のため電気工作物の機能を停止して日曜日、休日に行う必要がある場合

出典等：「建設作業騒音の規制について」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成 30 年 11 月）及び「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」（環境省ホームページ 最終閲覧月：平成 30 年 11 月）を参考に作成した。

ウ. 振動

振動規制法（昭和51年法律第64号）に規定する規制基準等を表2.3.9-9～表2.3.9-11に示す。また、基本的な調査対象範囲は、同法に基づく振動について規制する地域（以下「指定地域」という。）には該当しない。

表 2.3.9-9 工場・事業場振動の規制基準

| 時間区分 区域区分 | 昼間（8:00～19:00） | 夜間（19:00～8:00） |
|--------------|----------------|----------------|
| 第1種区域 | 60dB | 55dB |
| 第2種区域 | 65dB | 60dB |

注1：学校教育法第1条に規定する学校、児童福祉法第7条第1項に規定する保育所、医療法第1条の5第1項に規定する病院及び同条第2項に規定する診療所のうち患者を入院させるための施設を有するもの、図書館法（昭和25年法律第118号）第2条第1項に規定する図書館、老人福祉法第5条の3に規定する特別養護老人ホーム及び就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律第2条第7項に規定する幼保連携型認定こども園の敷地の周囲50メートルの区域内における規制基準は、規制基準の欄に定める値から5デシベルを減じた値とする（第1種区域の夜間を除く）。

出典等：「工場振動の規制について」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

表 2.3.9-10 道路交通振動の要請限度

| 時間の区分 区域の区分 | 昼間 （午前8時から午後7時まで） | 夜間 （午後7時から午前8時まで） |
|----------------|----------------------|----------------------|
| 第1種区域 | 65dB | 60dB |
| 第2種区域 | 70dB | 65dB |

出典等：「道路交通振動の規制について」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

表 2.3.9-11 特定建設作業に係る振動の規制基準

| 規制区域等 特定建設 作業の種類 | 騒音の 大きさ | 作業ができない時間 (夜間) | | 1日における作業時間 | | 同一場所 における 作業時間 | 日曜日 休日に おける 作業 |
|---|---|-----------------------|----------------------|---------------------|---------------------|----------------------------|-------------------------|
| | | 第1号 区域 | 第2号 区域 | 第1号 区域 | 第2号 区域 | | |
| 1 くい打機等を使用 する作業 | 特定建設作 業の場所の 敷地の境界 線におい て、75dBを 超える大き さのもの でないこと。 | 午後7時 ～翌日午 前7時 | 午後10 時～翌日 午前6時 | 10時間を 越えない こと | 14時間を 越えない こと | 連続して6 日を越え ないこと | 禁止 |
| 2 びょう打ち機を使用 する作業 | | | | | | | |
| 3 さく岩機を 使用する作業 | | | | | | | |
| 4 空気圧縮機を 使用する作業 | | | | | | | |
| 5 コンクリートポンプ又はアス ファルトポンプを設けて行 う作業 | | | | | | | |
| 6 バックホウ、トラクター ショベル、ブルドーザーを 使用する作業 | | | | | | | |
| 適用 除 外 | | A B C D E | | A B | A B | A B C D E F | |

備考1：振動の大きさは、特定建設作業の場所の敷地の境界線における許容限度をいう。

2：表中のA～Fは次の場合をいう。

- A 災害その他非常の事態のため緊急に行う必要がある場合
- B 人の生命又は身体に対する危険の防止のため行う必要がある場合
- C 鉄道又は軌道の正常な運橋確保のため緊急に行う必要がある場合
- D 道路法第34条（道路の占用許可）、第35条（協議）による場合
- E 道路交通法第77条第3項（道路の使用許可）、第80条（協議）による場合
- F 電気事業法施行規則第1条第2項第1号の変電所の変更の工事で特定建設作業に従事する者の生命又は身体に対する安全の確保のため電気工作物の機能を停止して日曜日、休日に行う必要がある場合

出典等：「建設作業振動の規制について」（京都府が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）及び「振動規制法施行規則第11条、別表第1」（環境省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

エ. 悪臭

悪臭防止法（昭和46年法律第91号）では規制地域内における工場や事業場を対象に、規制基準の遵守を定めている。対象事業実施区域が主に位置する伊根町は、規制地域を指定していない。ただし、対象事業実施区域の南端が一部位置する京丹後市は、旧大宮町の区域を規制地域として指定している。また、基本的な調査対象範囲に含まれる宮津市は、全域を規制地域として指定している。

京都府環境を守り育てる条例においては、悪臭に係る特定施設を定め、特定施設を設置している工場や事業場に対して届出を義務づけている。

オ. 水質汚濁

水質汚濁防止法（昭和45年法律第138号）では、工場及び事業所からの排水について排水基準を規定している。風力発電事業に関しては、当該法の適用を受ける施設はない。

なお、水質汚濁防止法に基づく排水基準に関する条例（昭和50年京都府条例第33号）では、水質汚濁防止法の対象施設に対して、同法の排水基準にかえて適用すべき排水基準を定めている。

カ. 土壌汚染

基本的な調査対象範囲においては、土壌汚染対策法に基づく指定区域及び調査対象とされた土地はない。

なお、事業の実施にあたっては、3,000m²以上の掘削を伴う土地の形質の変更を行う場合は、本法に則り手続きを行う必要がある。

キ. 地盤沈下

工業用水法（昭和31年法律第146号）及び建築物用地下水の採取の規制に関する法律（昭和37年法律第100号）に規定する規制区域については、基本的な調査対象範囲では指定されていない。

③その他の環境保全計画等

ア. 新京都府環境基本計画

京都府では、「京都府環境を守り育てる条例」に基づき、環境の保全及び創造に関する総合的かつ長期的な施策の大綱を定めるものであり、個別の条例、計画及びアクションプラン並びに府民と協働して取り組む具体的施策・事業などの指針となる新京都府環境基本計画を平成22年10月に策定した。主な概要を以下に示す。

(基本方針)

持続可能な社会の実現をめざして、京都の知恵と文化を活かし、自然と共生する美しい都市（まち）と美しい地域（むら）を創ることを基本方針とする。

(施策の展開方向)

- 持続可能な社会の礎となる地球温暖化対策の推進
- 自然に親しみ自然とともに生きる地域づくりの推進
- 限りある資源を大切にす循環型社会づくりの推進
- 府民生活の安心安全を守る環境管理の推進

(目標年度)

21世紀半ば（2050年頃）の京都府が目指す環境像や社会像を展望しながら、概ね2020年を目途として取り組んでいく施策の目標と施策展開の方向を明らかにする。

(京都府が目指す社会像・環境像)

- 温室効果ガスの排出量が80%削減された「低炭素社会」の実現
- 低炭素社会に適応した新しいライフスタイルとまちづくりの進展
- 自然と文化と調和し共生する地域社会の実現
- 安心・安全で環境への負荷が少ない循環型社会の実現
- 京都の技術や文化、人材を活かした低炭素型産業の進展

イ. 京丹後市環境基本計画

京丹後市では、本市の環境に関する状況や市民・事業者等の環境に対する意見等を把握したうえで、環境の保全と環境資源を利用した地域活性化を目指す将来の目標を定め、その実現のための施策を効果的に推進することを目的に「京丹後市環境基本計画」を策定した。主な概要を以下に示す。

(計画期間)

本計画の計画期間は、基本施策に関しては2018年度（平成30年度）までの10年間、重点プロジェクトの期間としては、2013年度（平成25年度）までの5年間とする。ただし、自然環境の再生や創造など長期的な視点が必要な事項もあるため、長期展望として20年後（平成40年度）を展望できるような目標と施策の方向を定めることとする。

(基本施策)

1. 豊かな自然を守り共生していくまち
豊かな自然環境の継承・水辺環境の保全・里地里山の再生
2. 環境に負荷を与えない暮らしをするまち
河川、湖沼、海の安全・快適な生活環境の保全・環境美化活動の推進・不法投棄対策の強化
3. 限りある資源を有効に活用するまち
ごみの発生抑制・ゴミの再資源化
4. 豊かな財産を環境に生かすまち
地域バイオマスの活用・環境と農林水産業の連携・環境と既存産業の融合
5. 低炭素社会に挑戦するまち
温室効果ガスの排出抑制・新エネルギーの普及啓発・省エネルギー、省資源の推進
6. 楽しく学びこどもに環境を育むまち
学校における環境教育の強化・地域における環境学習の強化

(重点プロジェクト)

1. 環境ビジネスモデル推進プロジェクト
2. 「山」「里」「海」水のリレープロジェクト
3. 京丹後リ・スタイル (Re-Style) プロジェクト
4. 地域環境学習推進プロジェクト

(2) 自然関係法令等

自然関係法令等による地域指定状況を表2.3.9-12に示す。また、基本的な調査対象範囲内に該当するものについては、その内容を次頁以降に示す。

表 2.3.9-12 (1) 自然関係法令等による地域指定状況

| 関係法令等 | 地域その他の対象 | 該当の有無 | | |
|------------------------|-----------------------------------|---|----------------|---|
| | | 対象事業 実施区域 | 基本的な 調査対象範囲 | |
| 自然 保護 | 自然公園法 | 自然公園（国立・国定公園） | ○ | ○ |
| | | 府立自然公園（府条例） | × | × |
| | 自然環境保全法 | 原生自然環境保全区域 | × | × |
| | | 自然環境保全地域 | × | × |
| | 都市緑地法 | 緑化保全地域 | × | × |
| | | 特別緑地保全地区 | × | × |
| | | 緑地協定 | × | × |
| | 近畿圏の保全区域の整備に関する法律 | 近郊緑地保全区域 | × | × |
| | | 近郊緑地特別保全地区 | × | × |
| | 生産緑地法 | 生産緑地地区 | × | × |
| | 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律 | 鳥獣保護区 | ○ | ○ |
| | 特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約 | 登録簿に掲げられる湿地の区域（登録湿地、特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地） | × | × |
| | 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 | 生息地等保護区 | × | × |
| | 京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例 | 生息地等保全地区 | × | × |
| | 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律 | 防除を行う区域（特定外来生物） | × | × |
| | 京都府環境を守り育てる条例 | 府自然環境保全地域 | × | × |
| 特別地区 | | × | × | |
| 野生動植物保護地区 | | × | × | |
| 普通地区 | | × | × | |
| 世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約 | 世界自然遺産 | × | × | |
| 文化財保護 | 世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約 | 世界文化遺産 | × | × |
| | 文化財保護法 | 国指定史跡・名勝・天然記念物 | × | × |
| | 京都府文化財保護条例 | 府指定史跡・名勝・天然記念物 | × | × |
| | 伊根町文化財保護条例、京丹後市文化財保護条例、宮津市文化財保護条例 | 市町村指定史跡・名勝・天然記念物 | × | × |
| 景観 | 景観法 | 景観計画区域、景観地区、準景観地区 | × | × |
| | 古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法 | 歴史的風土保存区域 | × | × |
| | 都市計画法 | 風致地区 | × | × |

注：上記の表中、「○」：該当する 「×」：該当しない 「-」：未指定

表 2.3.9-12 (2) 自然関係法令等による地域指定状況

| 関係法令等 | 地域その他の対象 | 該当の有無 | | |
|-------|-----------------------|---|------------|---|
| | | 対象事業実施区域 | 基本的な調査対象範囲 | |
| 国土防災 | 森林法 | 保安林（国有保安林、民有保安林） | × | ○ |
| | 河川法 | 河川区域、河川保全区域 | × | × |
| | 海岸法 | 海岸保全区域 | × | × |
| | 砂防法 | 砂防指定地 | × | ○ |
| | 急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律 | 急傾斜崩落危険区域 | × | × |
| | 地すべり等防止法 | 地すべり防止区域 | × | × |
| 土地利用 | 都市計画法 | 都市計画区域、準都市計画区域、区域区分（市街化区域、市街化調整区域）、用途地域 | × | × |
| | 農業振興地域の整備に関する法律 | 農業振興地域、農用地区域 | × | ○ |
| | 水産資源保護法 | 保護水面 | × | × |
| | 港湾法 | 港湾区域 | × | × |

注：上記の表中、「○」：該当する 「×」：該当しない 「-」：未指定

①自然公園法

自然公園の位置を図2.3.9-1に示す。

基本的な調査対象範囲は、「自然公園法」（昭和32年法律第161号）に規定する丹後天橋立大江山国定公園に指定されている。対象事業実施区域の大部分は自然公園に指定されていないが、南端の一部が国定公園の第2種及び第3種特別地域に指定されている。

②鳥獣保護区

鳥獣保護区の位置を図2.3.9-2に示す。

基本的な調査対象範囲は、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」（平成14年法律第88号）に規定する弥栄町スイス村鳥獣保護区に指定されている。対象事業実施区域の大部分は鳥獣保護区に指定されていないが、南端の一部が鳥獣保護区に指定されている。

③保安林

保安林の位置を図2.3.9-3に示す。

基本的な調査対象範囲には、「森林法」（昭和26年法律第249号）に規定する保安林（なだれ防止保安林）が位置する。なお、対象事業実施区域には保安林は存在していない。

④砂防指定地

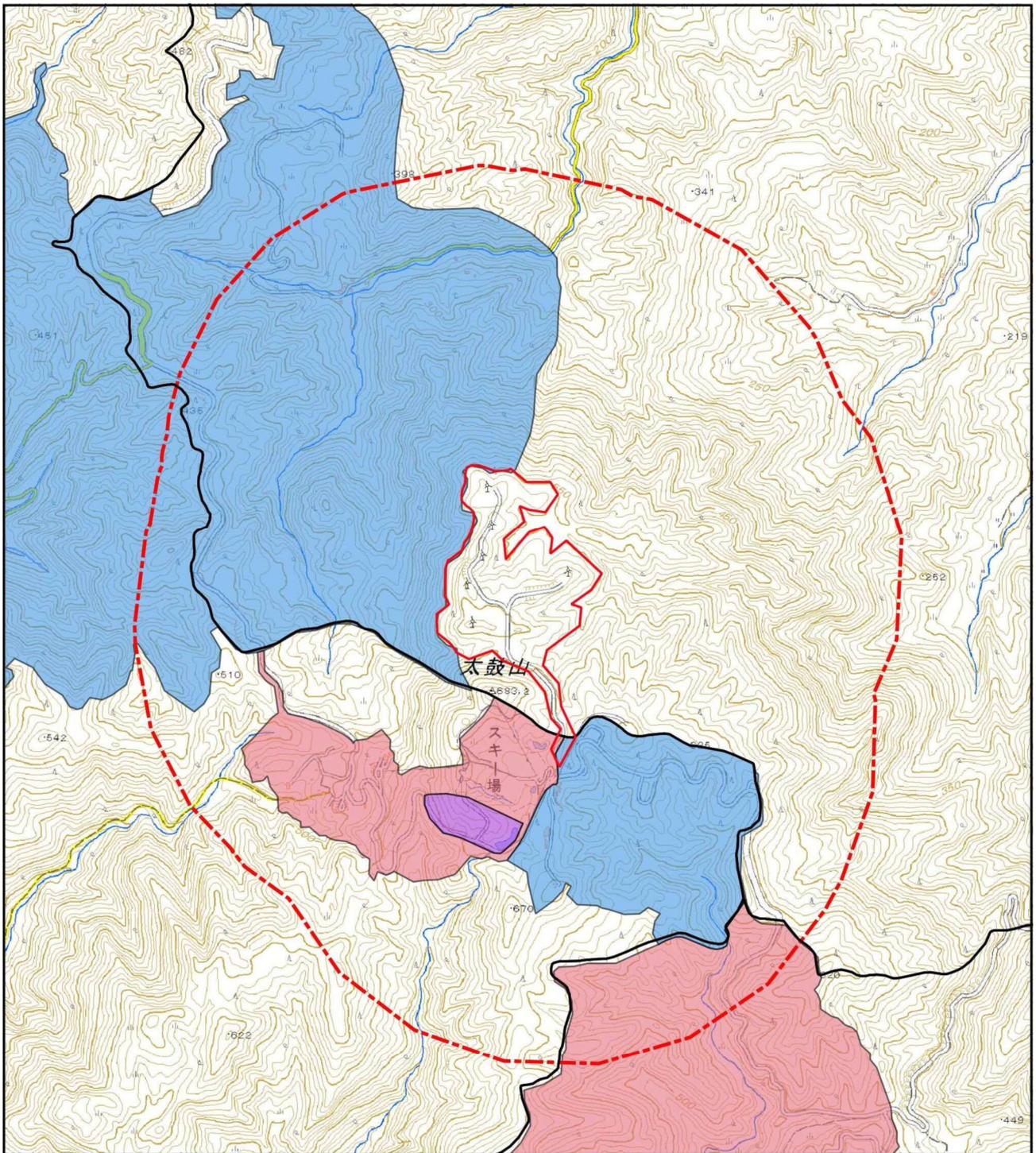
砂防指定地の位置を図2.3.9-4に示す。

基本的な調査対象範囲は、「砂防法」(明治30年法律第29号)に規定する砂防指定地に該当する。なお、対象事業実施区域は砂防指定地に指定されていない。

⑤農業振興地域の整備に関する法律に基づく指定地域

農業振興地域及び農用地区域の位置を図2.3.9-5に示す。

基本的な調査対象範囲は、「農業振興地域の整備に関する法律」(昭和44年法律第58号)に規定する農業振興地域及び農用地区域に該当する。なお、対象事業実施区域は、農業振興地域及び農用地区域に該当していない。



凡例

自然公園

- 第1種特別地域
- 第2種特別地域
- 第3種特別地域

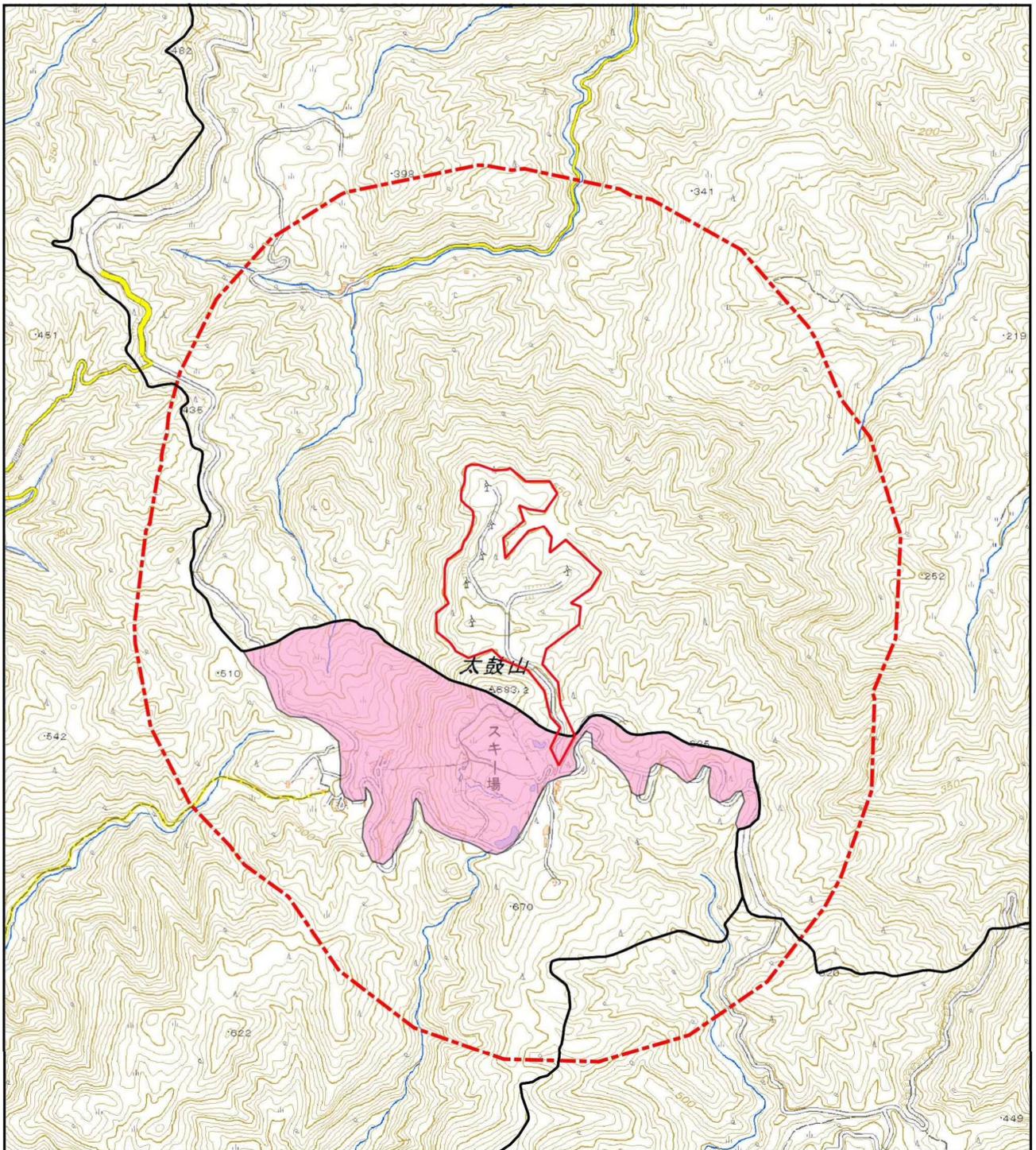
- 対象事業実施区域
- 市町村界
- 基本的な調査対象範囲

250 0 250 500 750 1000 m



図 2.3.9-1 自然公園

出典等：「自然環境情報GIS 国立公園区域等」（環境省生物多様性センターが運営）のGISデータ及び「丹後天橋立大江山国立公園 公園区域及び公園計画図」（京都府環境部自然環境保全課）（最終閲覧月：平成30年11月）を参考にして作成した。



凡例

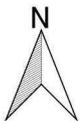
鳥獣保護区

対象事業実施区域

市町村界

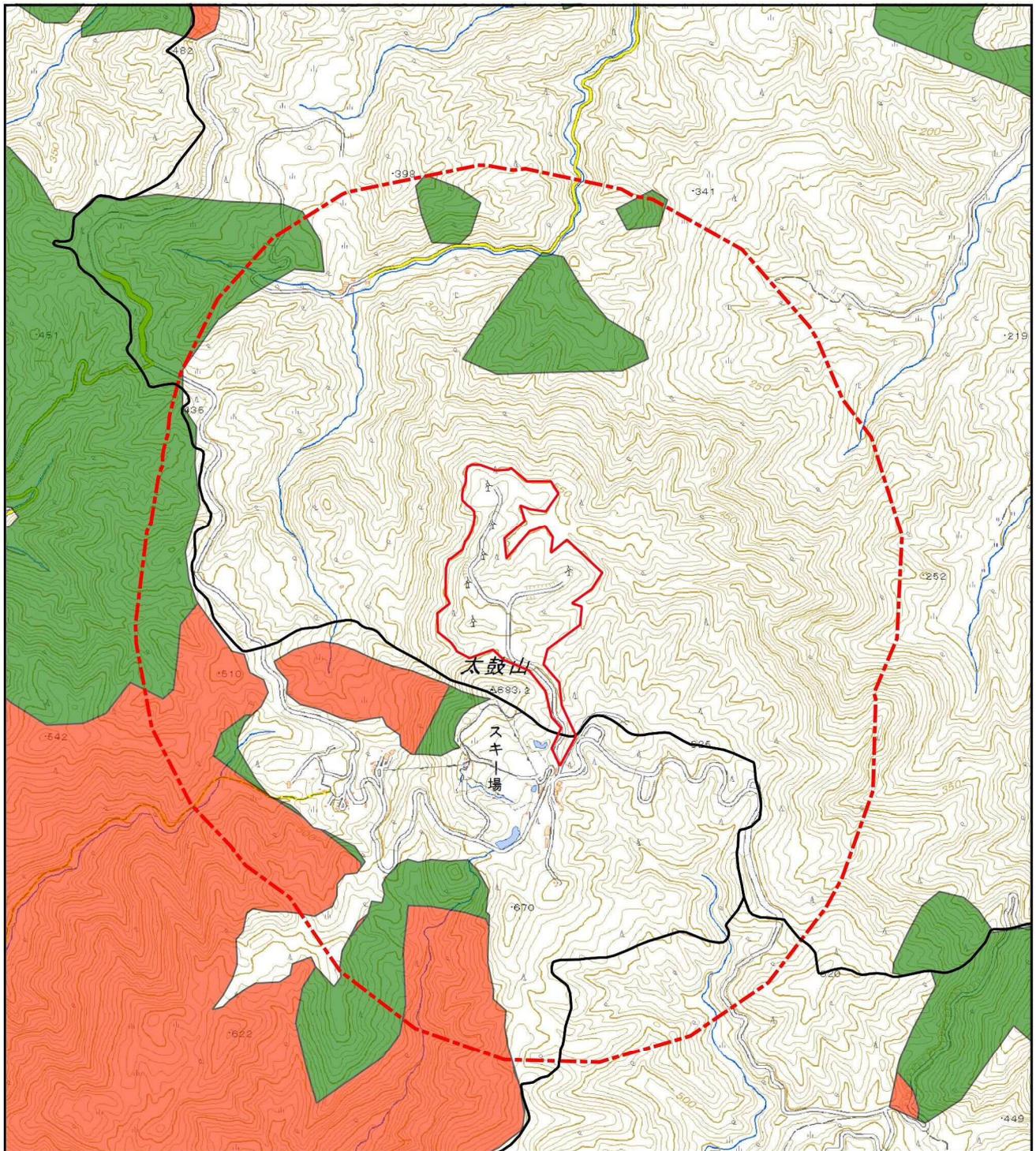
基本的な調査対象範囲

250 0 250 500 750 1000 m



出典等：「国土数値情報 鳥獣保護区」(国土数値情報ダウンロードサービス 最終閲覧月：平成30年11月)のGISデータ及び「京都府・市町村共同統合型地理情報システム(GIS)」(京都府自治体情報化推進協議会が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月)を参考にして作成した。

図 2.3.9-2 鳥獣保護区



凡例

保安林

- 国有保安林
- 民有保安林

対象事業実施区域

市町村界

基本的な調査対象範囲

250 0 250 500 750 1000 m

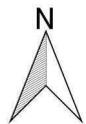
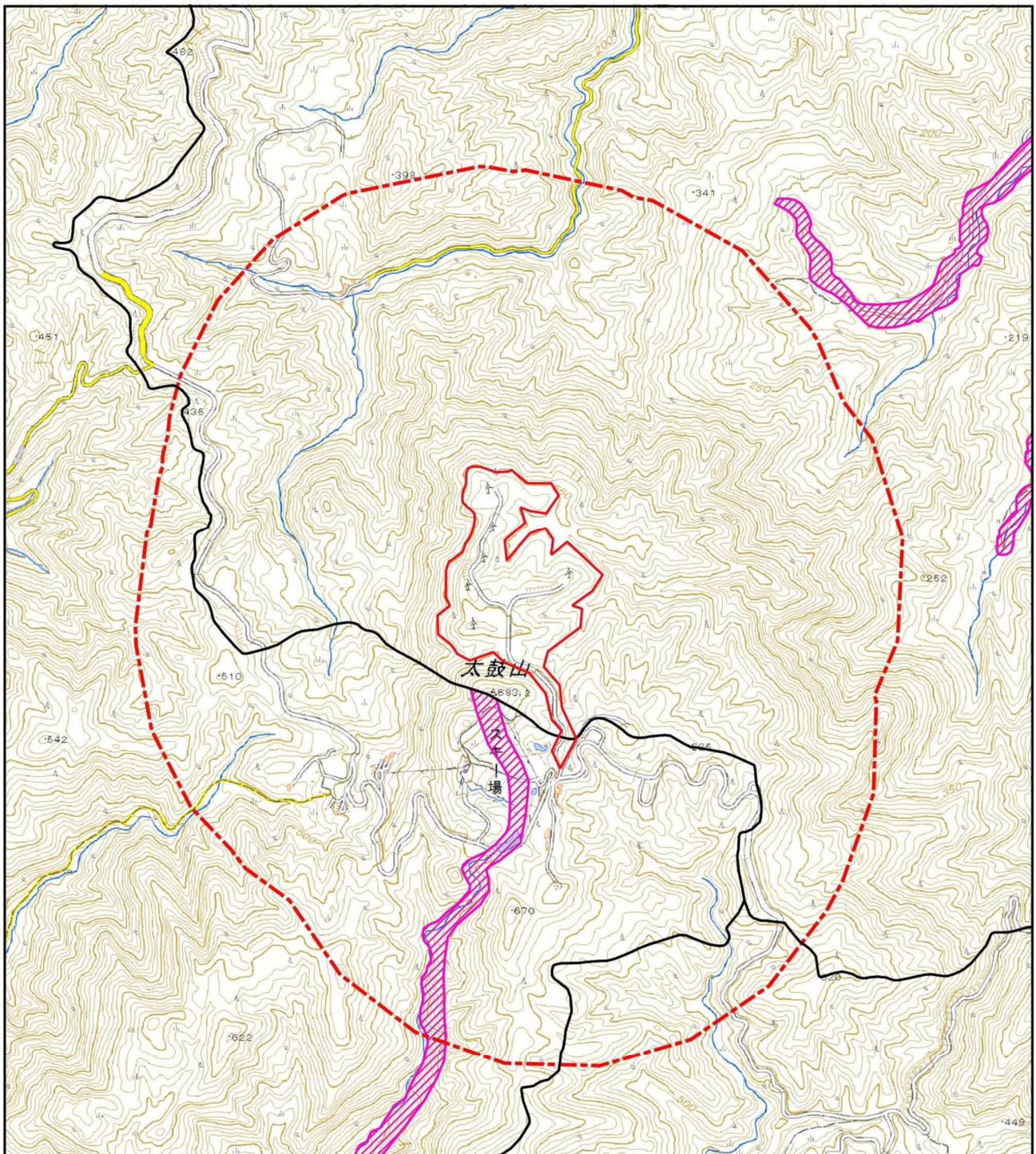


図 2.3.9-3 保安林

出典等：「国土数値情報 森林地域」（国土数値情報ダウンロードサービス 最終閲覧月：平成30年11月）のGISデータを参考にして作成した。



凡例

 砂防指定地

 対象事業実施区域

 市町村界

 基本的な調査対象範囲1km

250 0 250 500 750 1000 m

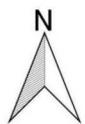
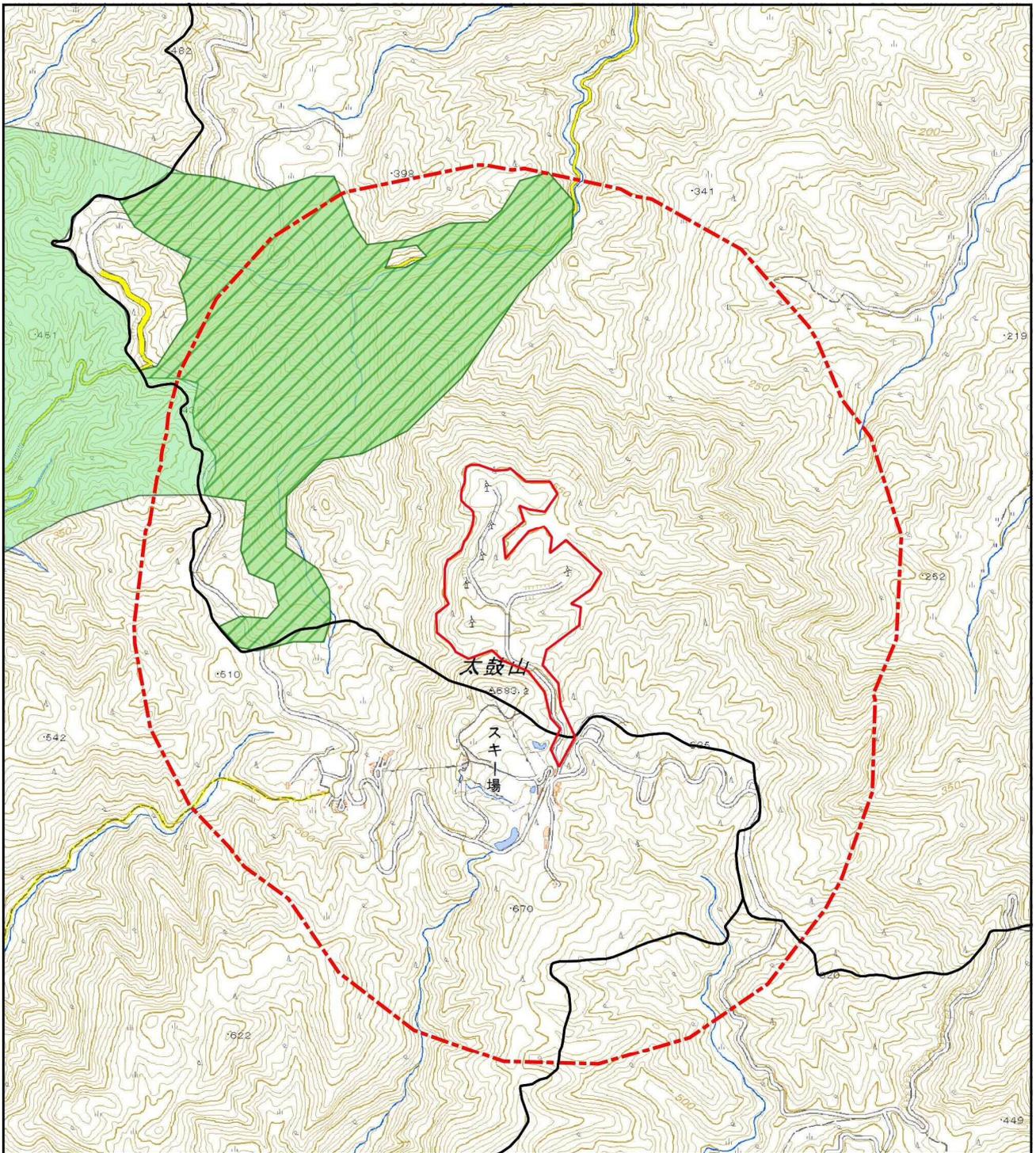


図 2.3.9-4 砂防指定地

出典等：「管内図」（丹後広域振興局建設部 丹後土木事務所
最終閲覧月：平成30年11月）を参考にして作成した。



凡例

- 農業振興地域
- 農用地区域

- 対象事業実施区域
- 市町村界
- 基本的な調査対象範囲

250 0 250 500 750 1000 m

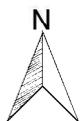


図 2.3.9-5 農業振興地域等の指定状況

出典等：「国土数値情報 農業地域」（国土数値情報ダウンロードサービス 最終閲覧月：平成30年11月）のGISデータを参考にして作成した。

2.3.10 文化財及び埋蔵文化財包蔵地の状況

(1) 埋蔵文化財包蔵地

「京都府・市町村共同統合型地理情報システム（GIS）」（京都府自治体情報化推進協議会が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考にして、埋蔵文化財包蔵地の抽出を行った。

基本的な調査対象範囲には埋蔵文化財包蔵地はなかった。なお、参考として、最寄りの埋蔵文化財包蔵地の抽出結果を表2.3.10-1に、位置を図2.3.10-1に示す。

表2.3.10-1 埋蔵文化財の概要

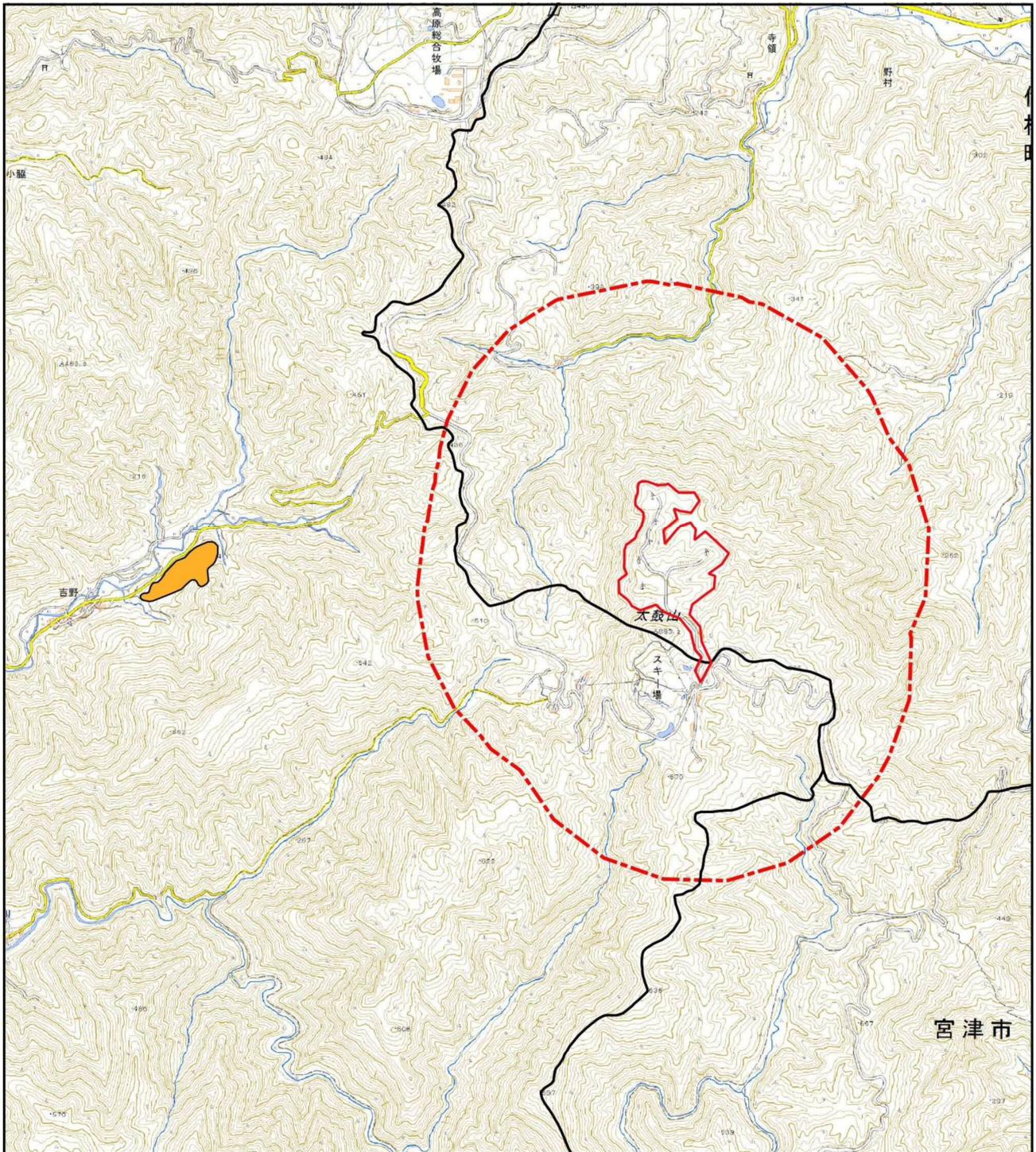
| 番号 | 名称 | 所在地 | 時代 | 種別 |
|----|------|--------------|----|----|
| 1 | 吉野城跡 | 京丹後市弥栄町須川城ヶ原 | 中世 | 山城 |

出典等：「京都府・市町村共同統合型地理情報システム（GIS）」（京都府自治体情報化推進協議会が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考に作成した。

(2) 指定文化財

「京都府・市町村共同統合型地理情報システム（GIS）」（京都府自治体情報化推進協議会が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）を参考にして、指定文化財等の抽出を行った。

基本的な調査対象範囲には、史跡・名勝・天然記念物・指定文化財はなかった。



凡例

 埋蔵文化財包蔵地

 対象事業実施区域

 市町村界

 基本的な調査対象範囲

0.5 0 0.5 1 km

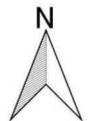


図 2.3.10-1 埋蔵文化財包蔵地分布図

出典等：「京都府・市町村共同統合型地理情報システム (GIS)」
 (京都府自治体情報化推進協議会が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月)を参考に作成した。

2.3.11 その他の事項

(1) 廃棄物の状況

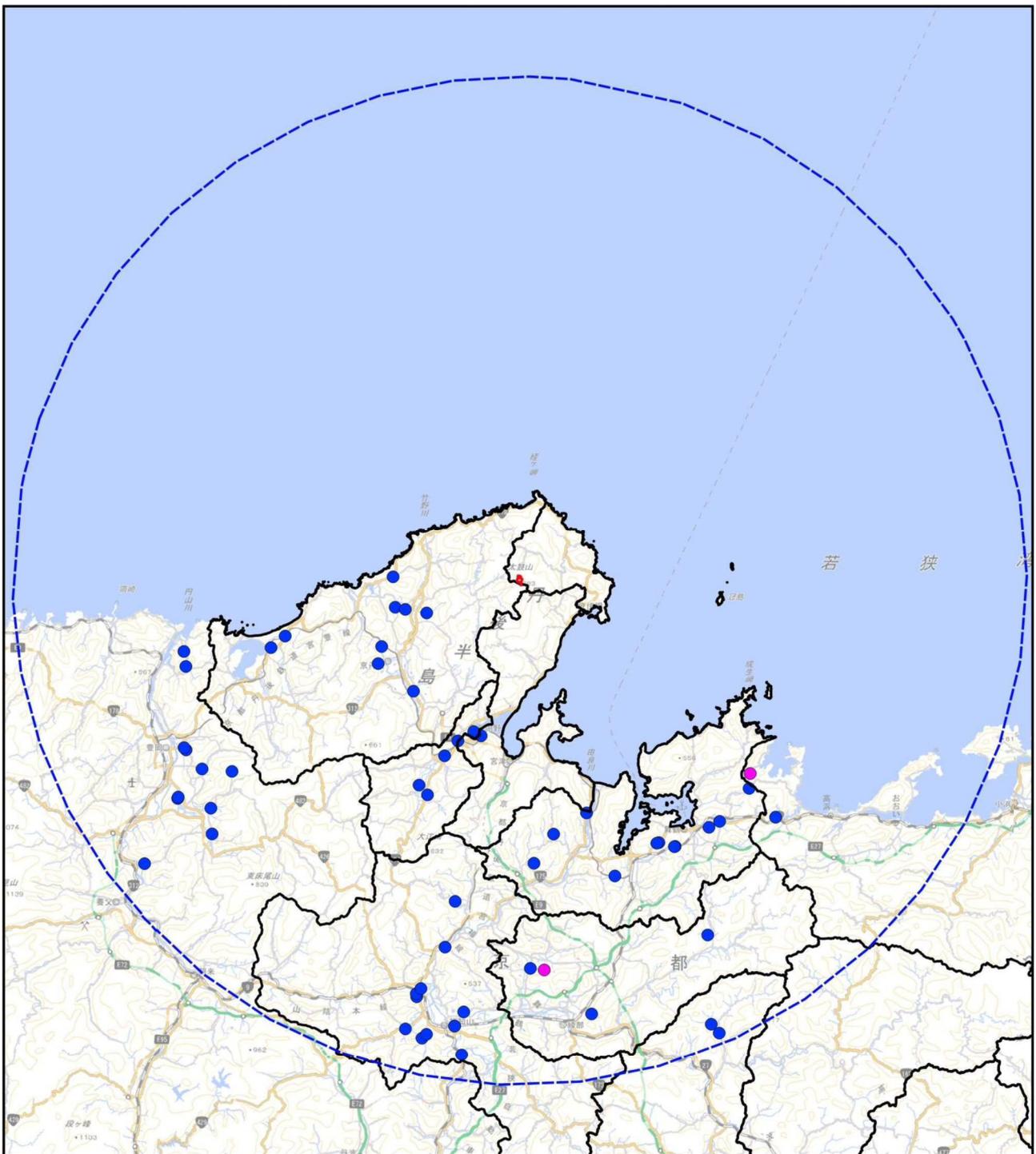
「国土数値情報 廃棄物処理施設」(国土交通省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月)から、対象事業実施区域及びその周囲50kmの範囲における産業廃棄物処理施設を抽出した。中間処理施設及び最終処分場の施設数を表2.3.11-1に、位置を図2.3.11-1に示す。

対象事業実施区域及びその周囲50kmの範囲において、産業廃棄物の中間処理施設は56件、最終処分場施設は2件であった。

表2.3.11-1 対象事業実施区域周辺における産業廃棄物処理施設数

| 府県 | 産業廃棄物処理施設 (件) | |
|-----|---------------|-------|
| | 中間処理施設 | 最終処分場 |
| 京都府 | 44 | 1 |
| 兵庫県 | 11 | 0 |
| 福井県 | 1 | 1 |
| 合計 | 56 | 2 |

出典等：「国土数値情報 廃棄物処理施設」(国土交通省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月)を参考に作成した。



凡例

- 中間処理施設
- 最終処分場

- 対象事業実施区域
- 市町村界
- 基本的な調査対象範囲

5 0 5 10 15 20 25 30 km

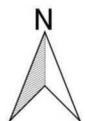


図 2. 3. 11-1 廃棄物処理施設

出典等：「国土数値情報 廃棄物処理施設」（国土交通省が運営するホームページ 最終閲覧月：平成30年11月）のGISデータを参考にして作成した。

(2) 第5次伊根町総合計画

伊根町では、これまで第4次計画まで策定しまちづくりを進めてきたが、第5次計画では、第4次計画の「夢物語」から「厳しい現実を見据えた手の届く夢」へと大きく方向変換した考え方を踏襲しつつ、伊根町がおかれている新たな課題を加味、構成し、平成22年度以降の計画を策定した。主な概要を以下に示す。

(伊根町が目指す目標像)

『人』を中心に捉え、住民一人ひとりがいきいきと暮らしていけることをす目標像とする。

- ①自然に包まれた生活環境の維持
- ②潤いある豊かな暮らしの創出
- ③安心な暮らしの確保
- ④伊根町の未来を育む
- ⑤人の繋がりを大切にした地域の維持
- ⑥郷土の歴史や文化の磨きあげ

(施策の柱)

「ひとが生き生き」の実現に向けて、住民と行政が一丸となって推し進める施策として6本の柱を設定した。

- 生き生き・学び育む「ひと」の未来
- 生き生き・気づき磨く地域の財産
- 生き生き・暮らしの応援
- 生き生き・生活環境の充実
- 生き生き・未来の創造
- 生き生き・頑張る行政

(3) 伊根町景観計画

伊根町は、平成23年4月1日より景観行政団体へ移行し、景観法に基づき伊根町景観計画を平成26年に策定した。本計画は、景観法（平成16年法律第100号）第8条に基づく計画として、第5次伊根町総合計画の基本計画に掲げる「景観保全の取組み」を推進させるための景観施策に係る伊根町全体計画である。

本計画では、伊根町内全域を伊根町景観計画区域に指定しており、農林漁業と自然との調和を図りながら、観光にも配慮したまちづくりを進めていくことを基本方針としている。

以下に、伊根町景観計画区域での良好な景観の形成のための行為の制限を示す。

○届出対象となる行為

伊根町景観計画区域においては、景観に与える影響が大きいと考えられる次の行為を行う場合に届出を必要とする。

- ・建築物

高さが 15m 以上、又は建築面積が 500 m²以上の建築物で新築、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替え又は色彩の変更。

- ・工作物

高さが 15m 以上の工作物で新築、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替え又は色彩の変更。

- ・その他

都市計画法第 4 条第 12 項に規定する開発行為であって、3,000 m²以上の区画形質の変更。

○景観形成基準

伊根町景観計画区域においては、次のことを基準として設ける。

- ・建築物の建築等及び工作物の建設等の基準について

- ①形態及び意匠

周辺の景観との調和に配慮し、統一感のあるものとする。

- ②色彩

周辺の景観との調和に配慮し、低彩度の落ち着いた色彩を基調とする。

- ③素材

周辺の景観との調和に配慮し、金属やガラス等の光沢ある素材を外部壁面等に使用する場合は、周辺の景観を阻害したり、浮き出した印象を与えたりしないようにすること。

- ・その他の基準について

- ①土地の形質の変更については、壁面や法面に植栽を施し、町並みや自然など周辺の環境と調和するものとする。

(4) 京都府景観条例

良好な景観の形成についての基本理念を定め、景観法に基づく施策とともに、地域の個性と特色を生かした良好な景観の形成に関する施策を総合的に推進することにより、潤いのある豊かな生活環境の創造及び個性的で活力ある地域社会の実現を図り、もって府民生活の向上並びに地域経済及び地域社会の健全な発展に寄与するため、平成19年3月に「京都府景観条例」を制定している。

景観形成に関する協定において、(ア) 建築物の形態又は色彩その他の意匠（以下「形態意匠」という。）に関する基準、(イ) 建築物の敷地、位置、規模、構造、用途又は建築設備に関する基準、(ウ) 工作物の位置、規模、構造、用途又は形態意匠に関する基準、(エ) 樹林地、草地等の保全又は緑化に関する事項、(オ) 屋外広告物の表示又は屋外広告物を掲出する物件の設置に関する基準、(カ) 農用地（農業振興地域の整備に関する法律（昭和44年法律第58号）第3条第1号に規定する農用地をいう。）の保全又は利用に関する事項、(キ) その他良好な景観の形成に関する事項、が良好な景観の形成のための必要な事項として挙げられ、認定を受けようとする土地所有者等は、規則で定めるところにより、申請書を知事に提出しなければならない。

(5) 天橋立周辺地域景観まちづくり計画

京都府では、天橋立周辺地域の自然、歴史及び文化などの地域特性を踏まえた良好な景観形成の方向性を確立し、景観法を活用したその実現方策とともに、観光振興や地域活性化にもつながる景観を活かしたまちづくり方策について、地元団体を中心とした検討会及び住民・事業者の皆様の御意見を伺いながら「天橋立周辺景観まちづくり計画」を平成20年5月に策定した。主な概要を以下に示す。

(基本方針)

- 天橋立のシンボル景観の保全
- 地域に根ざした景観資源の活用による地域力の向上
- 住民、事業者、行政の協働による景観まちづくり

(景観形成の目標と基準のガイドライン)

建築物の新築、増築、改築、移転、外観の変更又は色彩の変更についてゾーン別、行為の種類別に届出対象となる行為を定めている。また、工作物及び開発行為等に係る景観形成の基準を示し、一定規模以上の行為を行う場合は景観法に基づく届出が必要である。

(6) 宮津・天橋立景観計画

「宮津・天橋立景観計画」は、平成20年5月に京都府が策定し、同年11月から、宮津市域分について当市が運用をしている。

主な概要を以下に示す。

(景観形成にあたっての基本方針)

- ①天橋立の象徴的景観を守るための眺望景観の保全
- ②地域に根ざした景観資源の保全と、それを活かした良好な地域景観形成

(景観形成方針及び基準)

各ゾーン（①自然景観保全ゾーン、②俯瞰景観重点ゾーン、③幹線道路沿岸ゾーン、④眺望景観沿道ゾーン、⑤市街地ゾーン、⑥溝尻集落重点景観形成ゾーン）ごとに定められている。

第3章 計画段階環境配慮書の概要

3.1 計画段階環境配慮書における検討

本事業では、京都府環境影響評価条例に基づき平成30年8月1日に配慮書を提出し、同年11月8日に知事意見が送付された。

本事業は、京都府の募集要項に定められた対象区域内で事業を計画することが条件となっており、第一種事業が実施されるべき区域の位置を複数案設定できないことから、単一案のみの設定とした。また、事業の規模（発電所の出力）、工作物の構造（風力発電機の外形、構造）及び工作物の配置については現在検討中であることから、最も環境影響が大きくなる風力発電機の構造、基数及び配置条件下について、計画段階配慮事項の検討を行った。

「土地又は工作物の存在及び供用」における計画段階配慮事項として、騒音及び超低周波音、動物、植物及び景観を選定し、調査、予測及び評価を行った。なお、「工事の実施」については、既設の造成面を可能な限り利用すること、工事用資材等の搬出入に係る車両の通行量が少ないこと（ミキサ一車：150台/日程度×基数、風力発電機の輸送：2台/10日程度×基数）等により影響は小さいと考えられることから、全ての環境要素を計画段階配慮事項として選定していない。

3.2 調査、予測及び評価の結果

3.2.1 騒音及び超低周波音

事業実施想定区域及びその周囲2kmの範囲には、環境保全対象施設は存在していないことから、騒音及び超低周波音がこれらの施設に重大な影響を及ぼす可能性はほとんど無いと評価した。

また、事業実施想定区域の北約1.8kmには最寄りの住宅が存在することから、住宅位置における風力発電機に起因する騒音レベルの簡易予測を行った。なお、予測に当たっては、安全側の予測となるよう風力発電機の基数を6基、ハブ高さを78mとし※、風力発電機のA特性パワーレベルにおいても計画中のメーカーからの提供データのうち最も大きい値（105.7 dB）を用いた。予測の結果、風力発電機に起因する予測騒音レベルは29 dBと極めて小さい値となった。計画基数（最大4基）は予測での基数（6基）より減少することから、風力発電機に起因する騒音及び超低周波音が最寄りの住宅に及ぼす影響はほとんどないものと評価した。

ただし、今後、計画熟度を高める中で影響が及ぶおそれがある場合は、方法書以降の段階において検討を行うこととする。

※ハブ高さ（風車ブレード中心までの高さ）が低いほど、音の発生源から予測位置における距離が短くなり、風力発電機に起因する予測騒音レベルは大きくなる。よって配慮書では、安全側として、現在計画されている風力発電機で最も低いものである78 mを使用して予測を行った。

3.2.2 動物

予測の結果、主な生息環境が事業実施想定区域に存在しない重要な動物（哺乳類1種、鳥類18種、爬虫類3種、両生類7種、魚類9種、昆虫類28種、底生動物3種）については、地形改変及び施設の存在、施設の稼働により重大な影響を受ける可能性は小さい。ただし、主な生息環境が事業実施想定区域に存在しないと予測した重要な動物についても、造成工事に伴う土砂流出等により影響を受ける可能性がある。

主な生息環境が事業実施想定区域に存在する重要な動物（哺乳類2種、鳥類24種、爬虫類4種、昆虫類6種）については、生息状況によっては、地形改変及び施設の存在、施設の稼働により影響を受ける可能性がある。また、専門家等へのヒアリングにより、一部の鳥類、昆虫類及びその捕食者については、風力発電機のライトアップにより影響を受ける可能性が示唆された。

ただし、今後、事業計画を検討するにあたっては、動物への影響を可能な限り回避、又は低減するため、以下の点に留意することとする。

- ・ 情報整備モデル事業の結果を整理することにより、重要な動物の生息状況を把握し、必要に応じて保全措置を実施する。
- ・ 本事業にあたっては、主に造成済みの土地を利用する計画とする。
- ・ 事業計画の検討にあたっては、必要に応じて専門家等へヒアリングを行う。

3.2.3 植物

予測の結果、主な生育環境が事業実施想定区域に存在しない重要な植物（61種）及び重要な群落等については、地形改変及び施設の存在により重大な影響を受ける可能性は小さい。

また、主な生息環境が事業実施想定区域に存在する重要な植物（45種）については、生息状況によっては、地形改変及び施設の存在により影響を受ける可能性がある。

ただし、今後、事業計画を検討するにあたっては、植物への影響を可能な限り回避、又は低減するため、以下の点に留意することとする。

- ・ 情報整備モデル事業の結果を整理することにより、重要な植物の生育状況を把握し、必要に応じて保全措置を実施する。
- ・ 本事業にあたっては、主に造成済みの土地を利用する計画とする。
- ・ 事業計画の検討にあたっては、必要に応じて専門家等へヒアリングを行う。

3.2.4 景観

(1) 主要な景観資源及び主要な眺望点の改変の程度

予測の結果、主要な景観資源の分布状況及び主要な眺望点は事業実施想定区域に含まれないため、施設が存在及び施設の稼働に伴う影響を受ける可能性はないものと評価した。

(2) 主要な眺望点からの風力発電機の視認性

予測の結果、すべての主要な眺望点において、風力発電機の視認性が高く、事業の実施による影響を受ける可能性がある。

(3) 主要な眺望景観の変化の程度

事業実施想定区域に隣接する「スイス村高原浴場」、「碓山（あずまや）」及び「桜ヶ丘運動公園」については、垂直見込角が 3.0° 以上となり、「眼いっぱいが大きくなり、圧迫感を受けるようになる」、又は「比較的細部までよく見えるようになり、気になる」程度であると予測する。ただし、眺望点は現在も既設太鼓山風力発電所が視認できる状況にあり、太鼓山風力発電所が見どころとして地域に親しまれていることから、本事業が眺望景観に及ぼす影響は小さいと考えられる。

慈眼寺については、垂直見込角が 1.0° であり、景観的にはほとんど気にならない程度であることから、本事業が眺望景観に及ぼす影響は小さいと評価した。

なお、本事業は伊根町景観条例に規定する届出対象の行為に該当することから、届出を行い、適正に事業を実施する。

3.3 総合評価

計画段階配慮事項に係る調査、予測及び評価の結果を表3.3-1に示す。

本事業では、第一種事業の位置等に係る複数案は設定していないが、表3.3-1に示す環境配慮を実施することで、重大な環境影響の回避、又は低減が可能であると評価した。

表3.3-1 計画段階配慮事項に係る調査、予測及び評価の結果

| 環境要素 | 懸念される環境影響 | 環境配慮の概要 | 評価結果 |
|-----------|---|--|--|
| 騒音及び超低周波音 | <ul style="list-style-type: none"> 施設の稼働に伴う騒音及び超低周波音が環境保全対象施設及び住宅に及ぼす影響はほとんど無い。 | <ul style="list-style-type: none"> 今後、計画熟度を高める中で影響がおよぶおそれがある場合は、方法書以降の段階において検討を行う。 | 左記の環境配慮を検討することで、重大な環境影響は事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されていると評価する。 |
| 動物 | <ul style="list-style-type: none"> 生息環境の変化の可能性のある重要な動物（哺乳類2種、鳥類24種、爬虫類4種、昆虫類6種）が生息することから、生息状況によっては、地形改変及び施設の存在、施設の稼働により影響を受ける可能性がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 情報整備モデル事業の結果を整理することにより、重要な動物の生息状況を把握し、必要に応じて保全措置を実施する。 本事業にあたっては、主に造成済みの土地を利用する計画とする。 事業計画の検討にあたっては、必要に応じて専門家等へヒアリングを行う。 | |
| 植物 | <ul style="list-style-type: none"> 事業実施想定区域及びその周囲に、生育環境の変化の可能性のある重要な植物（45種）が生育することから、生育状況によっては、地形改変及び施設の存在により影響を受ける可能性がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 情報整備モデル事業の結果を整理することにより、重要な植物の生育状況を把握し、必要に応じて保全措置を実施する。 本事業にあたっては、主に造成済みの土地を利用する計画とする。 事業計画の検討にあたっては、必要に応じて専門家等へヒアリングを行う。 | |
| 景観 | <ul style="list-style-type: none"> 調査地域における全ての主要な眺望点において、事業の実施による影響を受ける可能性がある。ただし、眺望点は現在も既設太鼓山風力発電所が確認できる状況にあること、風力発電機が地域の見どころとして親しまれていることから、本事業が眺望景観に及ぼす影響は小さい。 | <ul style="list-style-type: none"> 本事業は伊根町景観条例に規定する届出対象の行為に該当することから、届出を行い、適正に事業を実施する。 | |

第4章 計画段階環境配慮書についての意見及び事業者の見解

4.1 配慮書についての住民等の意見の概要及び事業者の見解

4.1.1 公告

(1) 公告日

平成30年8月17日（金）

(2) 公告方法

京都府公報 第3007号（平成30年8月17日）公告

(3) 周知方法

事業者が運営するホームページ、京都府が運営するホームページ、伊根町広報（広報伊根お知らせ版 第208号、第209号）、京丹後市広報（広報京丹後お知らせ版 No. 329）、宮津市広報（広報誌みやづお知らせ版）への掲載により周知を実施した。

4.1.2 縦覧

縦覧場所、期間及び時間は表4.1.2-1に示すとおりである。

表4.1.2-1 縦覧場所、期間及び時間

| 縦覧場所 | 縦覧場所の所在地 | 縦覧期間 | 縦覧時間 |
|----------------------|--------------------|--------------------------------|--------------------------|
| 京都府環境部環境管理課 | 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町 | 平成30年8月17日（金）から平成30年9月18日（火）まで | 午前9時から正午まで及び午後1時から午後5時まで |
| 京都府丹後保健所環境衛生室 | 京丹後市峰山町丹波855 | | |
| 宮津市役所本館1階情報公開コーナー | 宮津市字柳縄手345の1 | | |
| 京丹後市役所本庁舎（峰山庁舎）1階ホール | 京丹後市峰山町杉谷889 | | 午前8時30分から午後5時15分まで |
| 京丹後市丹後庁舎1階ホール | 京丹後市丹後町間人1780 | | |
| 京丹後市弥栄庁舎1階 | 京丹後市弥栄町溝谷3464 | | |
| 伊根町役場 | 与謝郡伊根町字日出651 | | 午前9時から正午まで及び午後1時から午後5時まで |
| 伊根町老人福祉センター | 与謝郡伊根町字泊1 | | |
| 伊根町立本庄地区公民館 | 与謝郡伊根町字本庄浜113の1 | | |
| 伊根町筒川文化センター | 与謝郡伊根町字本坂279 | | |

4.1.3 意見書

(1) 意見書の提出期間

平成30年8月17日（金）から平成30年10月2日（火）まで

(2) 意見書の提出方法

「京都府環境部環境管理課」宛へ書面の郵送、持参又は京都府のホームページから電子申請による提出。

(3) 意見書の提出状況

意見書の提出はなかった。

4.2 配慮書についての知事の意見及び事業者の見解

条例第7条の6第3項の規定により、配慮書についての知事意見が平成30年11月8日に事業者に送付された。

以下に、知事意見とそれに対する事業者の見解を示す。

(1) 全般的事項

| 知事の意見 | 事業者の見解 |
|---|---|
| 風力発電施設の配置、構造及び基数等（以下「配置等」という。）の決定に当たっては、風力発電施設の設置及び供用による環境影響を把握し、その回避又は低減に努めること。 | 風力発電施設の配置、構造及び基数等の決定に当たっては、影響が及ぶ可能性のある環境要素について調査及び予測を行い、風力発電施設の設置及び供用による環境影響を把握し、必要に応じて環境保全措置を検討するなど、その影響の回避又は低減に努めます。 |
| 本事業に係る環境影響評価を適切に実施できるよう、可能な限り方法書手続までに事業全体の規模に加えて、風力発電施設の配置等を決定すること。方法書手続までに配置等が決定しない場合は、当該手続時点において検討されている中で最も環境影響が大きくなると想定される配置等を設定する等、適切に環境影響評価を行うこと。 なお、これらの決定に係る経緯については、方法書において詳細に記載すること。 | 風力発電機の配置を決めるには、風況観測及び風況解析に基づく詳細な検討が必要のため、時間を要します。そのため方法書段階では、風力発電機の具体的な配置等を示すことはできません。準備書段階においては、可能な限り事業計画の熟度を高め、環境影響評価項目に係る調査、予測及び評価を行います。また、準備書段階で事業計画が決定しない場合は、検討している中で最も環境影響が大きくなると想定される条件下での予測及び評価を行います。 |
| 方法書以降の手続においては、以下の個別事項に留意し、各環境要素に対する影響について検討の上で環境影響評価の項目を選定し、科学的知見に基づく十分かつ適切な調査、予測及び評価（以下「調査等」という。）を行った上で、必要な環境保全措置を検討すること。 | 方法書以降の手続においては、各環境要素に対する影響について検討の上、環境影響評価項目を選定致します。各環境影響評価項目について、科学的知見に基づく十分かつ適切な調査、予測及び評価を行い、必要に応じて環境保全措置を検討致します。 |
| 方法書以降の環境影響評価の結果については、住民に分かりやすく示すとともに、手続においては住民への周知に努めること。 | 方法書以降の環境影響評価の結果については、平易な表現や図表を用いるなど、住民に分かりやすく示すとともに、住民への周知に努めます。 |

(2) 個別事項

①騒音・振動

| 知事の意見 | 事業者の見解 |
|--|---|
| <p>工事中のミキサー車等の工事用車両の道路走行による騒音・振動について、一定の台数が走行するため（ミキサー車の場合は風力発電施設1基あたり150台/日程度×基数）、走行ルート沿道に住居等の保全すべき対象がある場合は、当該住居等に対する影響に係る調査等を適切に行い、必要に応じて適切な環境保全措置を検討すること。</p> | <p>風力発電機の建設に当たっては、ミキサー車等の工事用車両が走行することから（ミキサー車の場合は風力発電施設1基あたり150台/日程度×基数）、走行ルート沿道における住居等を対象に、騒音に係る調査等を適切に行い、必要に応じて適切な環境保全措置を検討致します。なお、振動については、本事業より規模が大きい他事業においても影響が極めて小さいことが分かっていること、弊社の同規模、又はそれ以上の風力発電所建設工事においても振動に係る苦情は出ていないことから、工事用資材等の搬出入による影響は極めて小さいため、環境影響評価項目として選定しておりません。</p> |
| <p>事業実施想定区域近傍にはレクリエーション施設である京丹後市丹後半島森林公園（以下「スイス村」という。）が存在するため、当該施設の利用者及び従業員等に対する工事の実施及び施設の供用による騒音・振動の影響について、適切に調査等を行い、必要に応じて適切な環境保全措置を検討すること。</p> | <p>事業実施想定区域の周辺に存在する京丹後市丹後半島森林公園（以下「スイス村」という。）については、関係者からのヒアリングを行うなど、当該施設の利用者及び従業員等の状況を把握した上で、人と自然との触れ合いの活動の場に係る騒音等の適切な調査等を行い、必要に応じて環境保全措置を検討致します。</p> |
| <p>施設の供用による騒音・超低周波音については、既存風力発電施設による騒音・超低周波音の現状を踏まえて調査等を行い、必要に応じて適切な環境保全措置を検討すること。</p> | <p>施設の供用による騒音・超低周波音については、既存風力発電施設による騒音の現状を踏まえて調査、予測及び評価を行い、必要に応じて環境保全措置を検討致します。</p> |

②風力発電施設の影

| 知事の意見 | 事業者の見解 |
|--|---|
| <p>事業実施想定区域及びその周辺の地域の地形は複雑であり、谷間等では風力発電施設の影が長くなる可能性があるため、本地域の地形に合わせた調査等を行い、必要に応じて適切な環境保全措置を検討すること。</p> | <p>事業実施想定区域から最寄りの住居までは約1.8km離れていますが、谷間等では風車の影が長くなり、住居等に影響が及ぶ可能性があることから、本地域の地形に合わせた調査、予測及び評価を行い、必要に応じて環境保全措置を検討致します。</p> |

③動物・植物・生態系

| 知事の意見 | 事業者の見解 |
|---|--|
| <p>丹後半島に位置する本事業実施想定区域は、海から飛来する鳥の渡り経路となっている可能性や、海鳥や猛禽類が周辺に高密度で生息している可能性があることから、専門家等からの助言を踏まえ、本事業の実施によるバードストライクや渡りへの影響について適切に調査等を行い、必要に応じて適切な環境保全措置を検討すること。</p> | <p>鳥類への影響については専門家等からの助言を踏まえ、本事業の実施によるバードストライクや渡りへの影響について情報整備モデル事業の結果を用いて適切に予測及び評価を行い、必要に応じて適切な環境保全措置を検討致します。</p> |
| <p>事業実施想定区域の周辺には、丹後天橋立大江山国定公園の第1種特別地域が存在する等、希少な野生動植物の生育・生息地となっている場所があることから、本事業の実施による影響について、専門家等からの助言を踏まえ、適切に調査等を行い、必要に応じて環境保全措置を検討すること。</p> | <p>本事業の実施による希少な野生動植物への影響については、専門家等からの助言を踏まえ、情報整備モデル事業の結果を用いて適切に予測及び評価を行い、必要に応じて環境保全措置を検討致します。</p> |

④景観

| 知事の意見 | 事業者の見解 |
|--|---|
| <p>事業実施想定区域及びその周辺に位置する山陰海岸ジオパークや天橋立と伊根町を結ぶ船の航路について、海上を含めた眺望点及び景観資源を適切に把握すること。</p> | <p>山陰海岸ジオパークや日本海沿岸の多様な海岸地形についての海上を含めた眺望点及び景観資源を適切に把握致します。</p> |
| <p>風力発電施設の配置等の決定に当たっては、把握した眺望点及び景観資源について、フォトモンタージュの作成等により、客観的な予測及び評価を行い、重要な眺望景観への影響を回避又は低減するとともに、ランドマークとしての地域景観との調和も検討すること。</p> <p>なお、調査等の実施や風力発電施設の配置等の決定に当たっては、必要に応じて、眺望点や景観資源に係る関係機関の意見を聴くこと。</p> | <p>風力発電施設の配置等の決定に当たっては、把握した眺望点及び景観資源について、フォトモンタージュの作成により、予測及び評価を行い、重要な眺望景観への影響を回避、又は低減するよう努めます。また、予測及び評価に当たっては、地域景観との調和も検討し、必要に応じて環境保全措置を検討致します。</p> <p>調査等の実施や風力発電施設の配置等の決定に当たっては、必要に応じて、景観資源や眺望点に係る関係機関の意見を聴くことと致します。</p> |

⑤人と自然との触れ合いの活動の場

| 知事の意見 | 事業者の見解 |
|---|--|
| <p>事業実施想定区域の近傍にはスイス村が存在することから、人と自然との触れ合いの活動の場に対する工事の実施及び施設の供用による影響について、適切に調査等を行い、必要に応じて環境保全措置を検討すること。</p> | <p>事業実施想定区域の近傍にはスイス村が存在することから、関係者からのヒアリングを行うなどにより当該施設の利用状況及びアクセスルート等を把握した上で、人と自然との触れ合いの活動の場に係る適切な調査等を行い、必要に応じて環境保全措置を検討致します。</p> |

第5章 環境影響評価項目の選定

環境影響評価項目の選定は、「環境影響評価等についての技術的事項に関する指針」(平成11年 京都府告示第276号) (以下「技術指針」という。)に基づき行った。

5.1 環境影響要因の抽出

本事業に係る工事の実施 (以下「工事中」という。)、土地又は工作物の存在及び供用 (以下「供用時」という。) において想定される事業活動の内容を検討し、抽出した結果を表5.1-1に示す。

表5.1-1 環境影響要因の抽出

| 環境影響要因 | | 対象事業の内容 |
|-------------|-----------------|--|
| 工 事 中 | 工事中資材等の搬出入 | 工作物等の設置工事に必要な資材の搬出入、工事関係者の通勤を行う。また、既存の造成地を有効利用する計画であるが、一部土地の改変が考えられることから、残土、伐採樹木、廃材の搬出を行う可能性がある。 |
| | 建設機械の稼働 | 工作物等の設置工事を行う。既設工作物の撤去又は廃棄は行わない。また、既存の造成地を有効利用する計画であるが、一部土地の改変が考えられることから、樹木の伐採等、掘削、地盤改良、盛土等による敷地、搬入道路の造成、整地を行うために建設機械が稼働する可能性がある。 |
| | 造成等の工事による一時的な影響 | 既存の造成地を有効利用する計画であるが、一部土地の改変が考えられることから、樹木の伐採等、掘削、地盤改良、盛土等による敷地、搬入道路の造成、整地を行う可能性がある。 |
| 供 用 時 | 地形改変及び施設が存在 | 既存の造成地を有効利用するが、場合によっては一部地形の改変が考えられる。 |
| | 施設の稼働 | 風力発電所の運転を行う。 |

5.2 環境影響評価項目の選定

環境影響評価項目の選定は、事業特性及び地域特性についての情報を勘案するとともに、「5.3 専門家等へのヒアリング」に記載する専門家等へのヒアリング結果を踏まえ、本事業に伴う影響要因が当該影響要因により影響を受けるおそれがある環境要素に及ぼす影響の重大性について、最新の知見に基づき、客観的かつ科学的に検討することにより行うこととした。環境影響評価項目の選定結果を表5.2-1に示す。

環境影響評価の対象として選定した環境要素は、騒音及び超低周波音、水の濁り、風車の影、動物、植物、景観、人と自然との触れ合いの活動の場、廃棄物等の8項目である。また、環境影響評価項目として選定しない場合は、理由として主務省令第21条第4項に示される『第1号』～『第3号』の文字を付記した。

なお、環境影響評価を行う過程において項目の選定に係る新たな事情（調査の実施、事業内容の具体化等により新たな項目についての環境影響評価が必要となった場合、科学的知見の集積により環境影響の重大性が判明した物質を排出するおそれがある場合等）が生じたときは、必要に応じ選定項目の見直しを行うものとする。

表 5.2-1 (1) 環境影響評価項目の選定・非選定理由

| 環境要素の区分 | | 影響要因の区分 | | | 環境影響評価項目の選定・非選定理由 | |
|--|------|------------|---------|-----------------|-------------------|--|
| | | 工事中 | | 供用時 | | |
| | | 工事用資材等の搬出入 | 建設機械の稼働 | 造成等の施工による一時的な影響 | 地形改変及び施設の存在 | 施設の稼働 |
| 環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素 | 大気環境 | | | | | <p>【工事中】</p> <p>コンクリートの打設に伴い150台/日程度のミキサー車が往来するが、打設作業は風力発電機1基あたり1日で行われる。また、風力発電機の輸送に係る特殊車両が風力発電機1基あたり10日程度走行するが、特殊車両の走行は夜間に2台程度であることから、工事用資材等の搬出入に係る窒素酸化物及び粉じん等の影響は極めて小さい。また、工事に当たっては既設の造成面を可能な限り有効利用することから、建設機械の稼働に伴う窒素酸化物及び粉じん等の影響も極めて小さい。さらに、本事業より規模が大きい他事業において窒素酸化物及び粉じん等による影響は極めて小さいことが分かっており、弊社の同規模、又はそれ以上の風力発電所建設工事においても窒素酸化物及び粉じん等に係る苦情は出ていないことから、工事の実施に伴う窒素酸化物及び粉じん等の影響は極めて小さいため、環境影響評価項目として選定しない。『第1号』</p> <p>なお、工事用資材等の搬出入に係る環境保全措置として、工事用車両の通行に当たっては、適正な走行速度の遵守、急発進及び急加速の禁止を徹底する。また、幅員が狭く、沿道に住居等が存在する地域については、関係自治体等と協議の上、必要に応じて、地域に対する事前周知、低速走行等を行う。</p> <p>【供用時】</p> <p>施設の稼働により窒素酸化物及び粉じん等は生じないことから、環境影響評価項目として選定しない。『第1号』</p> |
| | 大気質 | 窒素酸化物 | | | | |
| | | 粉じん等 | | | | |

注1：「○」は、環境影響評価項目として選定した項目を示す。

2：選定しない項目は、主務省令第21条第4項第1号～3号に示されるいずれの理由に該当するかを「環境影響評価項目の選定・非選定理由」の欄に記載した。

『第1号』：参考項目に関する環境影響がないか又は環境影響の程度が極めて小さいことが明らかである場合

『第2号』：対象事業実施区域又はその周囲に参考項目に関する環境影響を受ける地域その他の対象が相当期間存在しないことが明らかである場合

『第3号』：特定対象事業特性及び特定対象地域特性の観点からの類似性が認められる類似の事例により影響の程度が明らかである場合

表 5.2-1 (2) 環境影響評価項目の選定・非選定理由

| 環境要素の区分 | | 影響要因の区分 | | | 選定・非選定理由 | |
|--|-----------|------------|---------|-----------------|-------------|---|
| | | 工事中 | 供用時 | | | |
| | | 工事用資材等の搬出入 | 建設機械の稼働 | 造成等の施工による一時的な影響 | 地形変化及び施設の存在 | 施設の稼働 |
| 環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素 大気環境 | 騒音及び超低周波音 | ○ | | | | 【工事中】 工事に当たっては既設の造成面を可能な限り有効利用することから、建設機械の稼働に伴う騒音の影響は極めて小さいため、環境影響評価項目として選定しない。『第1号』ただし、主要な交通ルートの近傍に住宅等が存在し、工事用資材等の搬出入による騒音の影響が及ぶ可能性がある。本事業より規模が大きい他事業において、工事用資材等の搬出入による騒音の影響は極めて小さいとは言えないことが判明していることから、住宅等への影響を評価するため、環境影響評価項目として選定する。 【供用時】 風力発電機の稼働により、対象事業実施区域近傍の住宅等に風車騒音による影響が及ぶ可能性があることから、環境影響評価項目として選定する。 |
| | 超低周波音 | | | | | 「風力発電施設から発生する騒音に関する指針」（平成29年 環水大大第1705261号）において、「風力発電施設から発生する20Hz以下の超低周波音については、人間の知覚閾値を下回ること、他の騒音源と比べても低周波数領域の卓越は見られず、健康影響との明らかな関連を示す知見は確認されなかった」と記載されており、施設の稼働による超低周波音の影響は極めて小さい。ただし、知事意見を踏まえ、対象事業実施区域周辺における超低周波音の現況を把握するため、環境影響評価項目として選定する。 |

注1：「○」は、環境影響評価項目として選定した項目を示す。

2：選定しない項目は、主務省令第21条第4項第1号～3号に示されるいずれの理由に該当するかを「環境影響評価項目の選定・非選定理由」の欄に記載した。

『第1号』：参考項目に関する環境影響がないか又は環境影響の程度が極めて小さいことが明らかである場合

『第2号』：対象事業実施区域又はその周囲に参考項目に関する環境影響を受ける地域その他の対象が相当期間存在しないことが明らかである場合

『第3号』：特定対象事業特性及び特定対象地域特性の観点からの類似性が認められる類似の事例により影響の程度が明らかな場合

表 5.2-1 (3) 環境影響評価項目の選定・非選定理由

| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | 工事中 | | 供用時 | | 環境影響評価項目の選定・非選定理由 |
|--|---------|----|----|------------|---------|-----------------|-------------|--|
| | 大気環境 | 振動 | 振動 | 工事用資材等の搬出入 | 建設機械の稼働 | 造成等の施工による一時的な影響 | 地形変化及び施設の存在 | |
| 評価されるべき環境要素 環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び | 大気環境 | 振動 | 振動 | | | | | <p>【工事中】 コンクリートの打設に伴い 150 台/日程度のミキサー車が往来するが、打設作業は風力発電機 1 基あたり 1 日で行われる。また、風力発電機の輸送に係る特殊車両が風力発電機 1 基あたり 10 日程度走行するが、特殊車両の走行は夜間に 2 台程度であることから、工事用資材等の搬出入に係る振動の影響は極めて小さい。また、工事に当たっては既設の造成面を可能な限り有効利用することから、建設機械の稼働に伴う振動の影響も極めて小さい。さらに、本事業より規模が大きい他事業においても振動による影響は極めて小さいことが分かっており、弊社の同規模、又はそれ以上の風力発電所建設工事においても振動に係る苦情は出ていないことから、工事の実施に伴う振動の影響は極めて小さいため、環境影響評価項目として選定しない。『第 1 号』 なお、工事用資材等の搬出入に係る環境保全措置として、工事用車両の通行に当たっては、適正な走行速度の遵守、急発進及び急加速の禁止を徹底する。また、幅員が狭く、沿道に住居等が存在する地域については、関係自治体等と協議の上、必要に応じて、地域に対する事前周知、低速走行等を行う。</p> <p>【供用時】 手引によると、風力発電所の供用時の振動については、特段問題となるような振動レベルでは無いことから、環境影響評価項目として選定しない。『第 1 号』</p> |

注1:「○」は、環境影響評価項目として選定した項目を示す。

2: 選定しない項目は、主務省令第21条第4項第1号～3号に示されるいずれの理由に該当するかを「環境影響評価項目の選定・非選定理由」の欄に記載した。

『第1号』: 参考項目に関する環境影響がないか又は環境影響の程度が極めて小さいことが明らかである場合

『第2号』: 対象事業実施区域又はその周囲に参考項目に関する環境影響を受ける地域その他の対象が相当期間存在しないことが明らかである場合

『第3号』: 特定対象事業特性及び特定対象地域特性の観点からの類似性が認められる類似の事例により影響の程度が明らかである場合

表 5.2-1 (4) 環境影響評価項目の選定・非選定理由

| 環境要素の区分 | | 影響要因の区分 | | 工事中 | | | 供用時 | | 環境影響評価項目の選定・非選定理由 |
|--|---------|---------------|-----------|------------|---------|-----------------|-------------|-------|---|
| | | 悪臭 | 悪臭 | 工事用資材等の搬出入 | 建設機械の稼働 | 造成等の施工による一時的な影響 | 地形変化及び施設の稼働 | 施設の稼働 | |
| 素 環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素 | 大気環境 | 悪臭 | 悪臭 | | | | | | 工事の実施及び施設の稼働により悪臭は生じないことから、環境影響評価項目として選定しない。『第1号』 |
| | 水環境 | 水質 | 水の濁り | | | ○ | | | 造成に伴い一時的に裸地が発生し、降雨時に濁水が発生する可能性があることから、環境影響評価項目として選定する。 |
| | | 水底の底質 | 有害物質 | | | | | | 【工事中】 工事に当たっては既設の造成面を可能な限り利用することから、水環境に及ぼす影響は極めて小さいため、環境影響評価項目として選定しない。『第1号』 |
| | | 地下水の水質及び水位 | 地下水の水質 | | | | | | 【供用時】 施設の稼働により、水環境に重大な影響を及ぼすような要因は生じないことから、環境影響評価項目として選定しない。『第1号』 |
| | 地質・土壌環境 | 地形及び地質 | 重要な地形及び地質 | | | | | | 対象事業実施区域及びその周囲に重要な地形及び地質が存在しないことから、環境影響評価項目として選定しない。『第2号』 |
| | | 地盤 | 地盤沈下 | | | | | | 地盤沈下を引き起こす要因である地下水の取水は行わない。また、工事に当たっては既設の造成面を可能な限り利用し、大規模な盛土等は発生しないことから、地盤沈下が生じる可能性は極めて小さいため、環境影響評価項目として選定しない。『第1号』 |
| | | 土壌 | 土壌汚染 | | | | | | 土壌汚染を生じるような物質は取り扱わないことから、環境影響評価項目として選定しない。『第1号』 |
| | その他の環境 | その他の環境に係る環境要素 | 風車の影 | | | | ○ | ○ | 対象事業実施区域から最寄りの住宅までは約 1.8km 離れているが、谷間等では風車の影が長くなり、住宅等に影響が及ぶ可能性が考えられることから、環境影響評価項目として選定する。 |

注1:「○」は、環境影響評価項目として選定した項目を示す。

2: 選定しない項目は、主務省令第21条第4項第1号～3号に示されるいずれの理由に該当するかを「環境影響評価項目の選定・非選定理由」の欄に記載した。

『第1号』: 参考項目に関する環境影響がないか又は環境影響の程度が極めて小さいことが明らかである場合

『第2号』: 対象事業実施区域又はその周囲に参考項目に関する環境影響を受ける地域その他の対象が相当期間存在しないことが明らかである場合

『第3号』: 特定対象事業特性及び特定対象地域特性の観点からの類似性が認められる類似の事例により影響の程度が明らかである場合

表 5.2-1 (5) 環境影響評価項目の選定・非選定理由

| 影響要因の区分 | | 工事中 | | | 供用時 | | 環境影響評価項目の選定・非選定理由 |
|----------------------|-----|------------|---------|-----------------|-------------|-------|--|
| | | 工事用資材等の搬出入 | 建設機械の稼働 | 造成等の施工による一時的な影響 | 地形改変及び施設の使用 | 施設の稼働 | |
| 環境要素の区分 | | | | | | | |
| 動物 重要な種及び注目すべき生息地 | 哺乳類 | | | ○ | ○ | | 工事に当たっては既設の造成面を有効利用し、土地の改変は極力避ける計画であり、専門家等へのヒアリングにおいても、哺乳類に及ぼす影響は小さいとのご意見を頂いている。ただし、方法書段階では土地の改変位置及び改変量が定まっていないことから、環境影響評価項目として選定する。 |
| | 鳥類 | | | ○ | ○ | ○ | <p>【工事中】</p> <p>工事に当たっては既設の造成面を有効利用し、土地の改変は極力避ける計画であり、専門家等へのヒアリングにおいても、鳥類に及ぼす影響は小さいとのご意見を頂いている。ただし、方法書段階では土地の改変位置及び改変量が定まっていないことから、環境影響評価項目として選定する。</p> <p>【供用時】</p> <p>「5.3 専門家等へのヒアリング」に示すとおり、既設の太鼓山風力発電所ではバードストライクは確認されていない。ただし、本事業では風力発電機の高さが最大で既設の2倍程度に増加することから、バードストライクによる影響を評価するため、環境影響評価項目として選定する。</p> |
| | 爬虫類 | | | ○ | ○ | | 工事に当たっては既設の造成面を有効利用し、土地の改変は極力避ける計画であり、専門家等へのヒアリングにおいても、爬虫類に及ぼす影響は小さいとのご意見を頂いている。ただし、方法書段階では土地の改変位置及び改変量が定まっていないことから、環境影響評価項目として選定する。 |
| | 両生類 | | | ○ | ○ | | 工事に当たっては既設の造成面を有効利用し、土地の改変は極力避ける計画であり、専門家等へのヒアリングにおいても、両生類に及ぼす影響は小さいとのご意見を頂いている。ただし、方法書段階では土地の改変位置及び改変量が定まっていないことから、環境影響評価項目として選定する。 |

注1：「○」は、環境影響評価項目として選定した項目を示す。

2：選定しない項目は、主務省令第21条第4項第1号～3号に示されるいずれの理由に該当するかを「環境影響評価項目の選定・非選定理由」の欄に記載した。

『第1号』：参考項目に関する環境影響がないか又は環境影響の程度が極めて小さいことが明らかである場合

『第2号』：対象事業実施区域又はその周囲に参考項目に関する環境影響を受ける地域その他の対象が相当期間存在しないことが明らかである場合

『第3号』：特定対象事業特性及び特定対象地域特性の観点からの類似性が認められる類似の事例により影響の程度が明らかでない場合

表5.2-1 (6) 環境影響評価項目の選定・非選定理由

| 影響要因の区分 | | 工事中 | | 供用時 | | 環境影響評価項目の選定・非選定理由 | | |
|-----------------|--------|---------------------------|---------|-----------------|-------------|-------------------|---|--|
| | | 工事用資材等の搬出入 | 建設機械の稼働 | 造成等の施工による一時的な影響 | 地形変化及び施設の存在 | | 施設の稼働 | |
| 環境要素の区分 | | | | | | | | |
| 予測及び評価されるべき環境要素 | 動物 | 重要な種及び注目すべき生息地 | 昆虫類 | | ○ | ○ | 工事に当たっては既設の造成面を有効利用し、土地の改変は極力避ける計画であり、専門家等へのヒアリングにおいても、昆虫類に及ぼす影響は小さいとのご意見を頂いている。ただし、方法書段階では土地の改変位置及び改変量が定まっていないことから、環境影響評価項目として選定する。 | |
| | | | 魚類 | | ○ | | | 造成に伴い降雨時に濁水が発生し、周辺の河川に生息する魚類に影響が及ぶ可能性があることから、環境影響評価項目として選定する。 |
| | | | 底生動物 | | | | | 造成に伴い降雨時に濁水が発生し、周辺の河川に流入する可能性があるが、水の濁りは一時的であり、底生動物への影響は極めて小さいため、環境影響評価項目として選定しない。『第1号』ただし、今後、事業内容の具体化等により底生動物に影響が及ぶおそれが高いと判明した場合は、環境影響評価項目として選定する。 |
| | 植物 | 重要な種及び重要な群落(海域に生育するものを除く) | | | ○ | ○ | 工事に当たっては既設の造成面を有効利用し、土地の改変は極力避ける計画であり、植物に及ぼす影響は極めて小さい。ただし、方法書段階では土地の改変位置及び改変量が定まっていないことから、環境影響評価項目として選定する。 | |
| | 生態系 | 地域を特徴づける生態系 | | | | | 対象事業実施区域の一部には、重要な自然環境のまとまりのある自然公園及び鳥獣保護区が存在するが、本事業に当たっては、当該区域への風力発電機の建設は行わないこととし、可能な限り当該地域の改変を避ける計画である。また、工事に当たっては既設の造成面を可能な限り利用し、生息場所の改変を最小限に留めることから、生態系に及ぼす影響は極めて小さいため、環境影響評価項目として選定しない。『第1号』 | |
| 境要素 | 景観 | 主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観 | | | | ○ | 対象事業実施区域の周囲に主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観が存在し、施設の存在による影響が考えられることから、環境影響評価項目として選定する。 | |
| | 人の活動の場 | 主要な人と自然との触れ合いの活動の場 | ○ | ○ | | ○ | 対象事業実施区域及び主要な交通ルート付近に主要な人と自然との触れ合いの活動の場が存在し、これらの施設に対して工事の実施による影響が及ぶ可能性がある。また、対象事業実施区域の近傍には主要な人と自然との触れ合いの活動の場である森林公園スイス村が存在し、施設の稼働による影響が考えられることから、環境影響評価項目として選定する。 | |

注1:「○」は、環境影響評価項目として選定した項目を示す。

2: 選定しない項目は、主務省令第21条第4項第1号～3号に示されるいずれの理由に該当するかを「環境影響評価項目の選定・非選定理由」の欄に記載した。

『第1号』: 参考項目に関する環境影響がないか又は環境影響の程度が極めて小さいことが明らかである場合

『第2号』: 対象事業実施区域又はその周囲に参考項目に関する環境影響を受ける地域その他の対象が相当期間存在しないことが明らかである場合

『第3号』: 特定対象事業特性及び特定対象地域特性の観点からの類似性が認められる類似の事例により影響の程度が明らかである場合

表 5.2-1 (7) 環境影響評価項目の選定・非選定理由

| 影響要因の区分 | | 工事中 | | | 供用時 | | 環境影響評価項目の選定・非選定理由 |
|--------------------|--------------------|------------|---------|-----------------|-------------|-------|--|
| | | 工事用資材等の搬出入 | 建設機械の稼働 | 造成等の施工による一時的な影響 | 地形変化及び施設の存在 | 施設の稼働 | |
| 環境要素の区分 | | | | | | | |
| 評価されるべき環境要素 | 環境への負荷の量の程度により予測及び | 産業廃棄物 | | ○ | | | 工事に当たっては既設の造成面を有効利用し、土地の改変は極力避ける計画であるが、場合によっては、伐採や土地造成等の工事が発生し、産業廃棄物及び残土が発生する可能性があることから、環境影響評価項目として選定する。 |
| | | 残土 | | ○ | | | |
| | | 温室効果ガス等 | | | | | コンクリートの打設に伴い150台/日程度のミキサー車が往来するが、打設作業は風力発電機1基あたり1日で行われる。また、風力発電機の輸送に係る特殊車両が風力発電機1基あたり10日程度走行するが、特殊車両の走行は夜間に行われ、1日2台程度の通行であることから、温室効果ガス等に及ぼす影響は極めて小さいため、環境影響評価項目として選定しない。『第1号』また、工事に当たっては既設の造成面を可能な限り利用することから、建設機械の稼働が温室効果ガス等に及ぼす影響は極めて小さいため、環境影響評価項目として選定しない。『第1号』 |
| 調査、予測及び評価されるべき環境要素 | 歴史的・文化的環境の保全を旨として | 歴史的・文化的景観 | | | | | 対象事業実施区域及びその周囲には歴史的・文化的景観、文化財及び埋蔵文化財包蔵地が存在しないことから、環境影響評価項目として選定しない。『第2号』 |
| | | 文化財 | | | | | |
| | | 埋蔵文化財包蔵地 | | | | | |

注1:「○」は、環境影響評価項目として選定した項目を示す。

2: 選定しない項目は、主務省令第21条第4項第1号～3号に示されるいずれの理由に該当するかを「環境影響評価項目の選定・非選定理由」の欄に記載した。

『第1号』: 参考項目に関する環境影響がないか又は環境影響の程度が極めて小さいことが明らかである場合

『第2号』: 対象事業実施区域又はその周囲に参考項目に関する環境影響を受ける地域その他の対象が相当期間存在しないことが明らかである場合

『第3号』: 特定対象事業特性及び特定対象地域特性の観点からの類似性が認められる類似の事例により影響の程度が明らかである場合

5.3 専門家等へのヒアリング

5.3.1 既設風力発電所におけるバードストライクの発生状況について

京都府公営企業管理事務所では、既設の太鼓山風力発電所において、定期点検や巡視点検等の際に風力発電機周辺における鳥類の死骸の有無を確認している。

バードストライクの発生状況に関するヒアリング結果の概要を示す。太鼓山風力発電所においては、平成13年11月以降、鳥類の死骸は確認されていない。

表5.3.1-1 バードストライクに関するヒアリング結果の概要

| 対象 | 実施日 | ヒアリング結果の概要 |
|------------------|------------|---|
| 京都府公営企業 管理事務所 | 平成30年9月27日 | <p>既設の太鼓山風力発電所におけるバードストライクの状況について、京都府公営企画管理事務所に確認した結果は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none">・発電所立入時及び風力発電機等の設備点検時に発電所構内での鳥類の死骸が有れば記録することになっている。・運転開始した平成13年11月以降、鳥類の死骸を確認した記録はない。・立入事由と頻度は以下のとおりである。<ol style="list-style-type: none">1. 月1回の点検時（職員）2. 年2回の定期点検時。1回あたり7日程度（各風車及び連系変電設備）（受託者）3. 毎日の施設巡視点検時（受託者）・その他、故障時又は計画的な修繕や見学者対応等で随時、発電所に立ち入っているが、その際も鳥類の死骸は確認されていない。 |

5.3.2 環境影響評価項目の選定方針について

動植物に関する環境影響評価項目の選定に当たって、情報整備モデル事業においてヒアリングを実施した専門家等に、改めてヒアリングを実施した。ヒアリングは対象事業実施区域及びその周辺の動植物の分布等に精通した学識経験者や自然保護団体を対象とし、当該地域における重要な種の生息又は生育情報、本事業が動植物に及ぼす影響、風力発電事業を実施する際の留意点及びそれらを踏まえた環境影響評価項目の選定方針について指導・助言を頂いた。

ヒアリング時における環境影響評価項目の選定方針を表5.3.2-1に、専門家等からの意見の概要を表5.3.2-2に示す。なお、野生生物保護の観点から、重要な種の種名は秘匿とした。

表 5.3.2-1 専門家等へのヒアリング時における環境影響評価項目の選定方針

| 影響要因の区分 | | 工事中 | | | 供用時 | | 計画段階配慮事項の選定・非選定理由 | |
|--|------|----------------|---------|-----------------|-------------|---|---|---|
| | | 工事用資材等の搬出入 | 建設機械の稼働 | 造成等の施工による一時的な影響 | 地形変化及び施設の存在 | 施設の稼働 | | |
| 環境要素の区分 | | | | | | | | |
| 生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素 | 動物 | 重要な種及び注目すべき生息地 | 哺乳類 | | | | | 【工事中、供用時】 対象事業実施区域及びその周囲では重要な哺乳類が確認されているが、工事にあたっては既設の造成面を可能な限り利用し、生息場所の改変を最小限に留めることから、環境影響評価項目として選定しない。 また、既設の太鼓山風力発電所ではバットストライクは発生していないことから、施設の稼働がコウモリ類に及ぼす影響は小さいと考え、環境影響評価項目として選定しない。 |
| | | | 鳥類 | | | | | 【工事中、供用時】 対象事業実施区域及びその周囲では重要な鳥類が確認されているが、工事にあたっては既設の造成面を可能な限り利用し、生息場所の改変を最小限に留めることから、環境影響評価項目として選定しない。 また、既設の太鼓山風力発電所ではバードストライクは発生していないことから、施設の稼働が鳥類に及ぼす影響は小さいと考え、環境影響評価項目として選定しない。 |
| | | | 爬虫類 | | | | | 【工事中、供用時】 対象事業実施区域及びその周囲では重要な爬虫類が確認されているが、工事にあたっては既設の造成面を可能な限り利用し、生息場所の改変を最小限に留めることから、環境影響評価項目として選定しない。 |
| | | | 両生類 | | | | | 【工事中、供用時】 対象事業実施区域及びその周囲では重要な両生類が確認されているが、工事にあたっては既設の造成面を可能な限り利用し、生息場所の改変を最小限に留める。また、施工時には、これらの種の生息環境（湧水のある湿地）への土砂の流出を避ける計画であることから、本事業が重要な両生類に及ぼす影響は小さいと考え、環境影響評価項目として選定しない。 |
| | | | 昆虫類 | | | | | 【工事中、供用時】 対象事業実施区域及びその周囲では重要な爬虫類が確認されているが、工事にあたっては既設の造成面を可能な限り利用し、生息場所の改変を最小限に留めることから、環境影響評価項目として選定しない。 |
| | | | 魚類 | | | | | 【工事中、供用時】 対象事業実施区域及びその周囲には河川は存在しないことから、環境影響評価項目として選定しない。 |
| | 底生動物 | | | | | 【工事中、供用時】 対象事業実施区域及びその周囲には河川は存在しないことから、環境影響評価項目として選定しない。 | | |
| | 植物 | 重要な種及び重要な群落 | | | ○ | ○ | 【工事中、供用時】 対象事業実施区域及びその周囲では重要な植物が確認されており、造成等の施工による一時的な生育地の改変及び地形変化による影響が及ぶ可能性があることから、環境影響評価項目として選定する。 | |
| | 生態系 | 地域を特徴づける生態系 | | | | | 【工事中、供用時】 対象事業実施区域の一部には自然公園及び鳥獣保護区が存在するが、本事業にあたっては可能な限り当該地域の改変を避ける予定であることから、生態系に及ぼす影響は小さいと考え、環境影響評価項目として選定しない。 | |

表5.3.2-2 (1) 専門家等からの意見の概要（環境影響評価項目の選定について）

| 所属 | 実施日 | 意見の概要 | |
|-------------------------------|------------|---------|---|
| 大学名誉教授 （鳥類、爬虫類・両生類、昆虫類、植物） | 平成30年9月26日 | 鳥類 | <ul style="list-style-type: none"> ・既設風車が位置する平坦地を基本に事業を実施するのであれば、特に問題は無いと考える。 ・項目選定の方針は了解した。 |
| | | 爬虫類・両生類 | <ul style="list-style-type: none"> ・本事業は、既存の造成地を利用する事業という認識であるため、環境への負荷は小さいと考える。 ・工事に当たっては、谷部や水源となる湧水地への土砂流入を防止し、現状の沢や水たまりを維持するよう、十分に配慮すること。以上のような留意事項について、工事施工業者に周知徹底を行うことが重要である。 ・項目選定の方針は了解した。 |
| | | 昆虫類 | <ul style="list-style-type: none"> ・昆虫類については、特に留意すべき重要な種は生息していないと考える。 ・項目選定の方針は了解した。 |
| | | 植物 | <ul style="list-style-type: none"> ・当該地区では林道の造成等があり、モデル事業時から環境が変化している。外来種の侵入により重要な植物が減少している可能性もあるため、地元の方と相談しながら調査を行うのが良い。 ・事業を実施する際は、建設機械と一緒に外来種を持ち込まないように留意すべきである。また、緑化にも外来性の植物を使用せず、在来種を用いるべきである。 ・項目選定の方針は了解した。 |

表5.3.2-2 (2) 専門家等からの意見の概要（環境影響評価項目の選定について）

| 所属 | 実施日 | 意見の概要 | |
|-------------------|------------|---------|--|
| 自然保護団体 (鳥類) | 平成30年9月27日 | 鳥類 | <ul style="list-style-type: none"> ・重要な鳥類の繁殖の可能性も整理しておく方が良い。冬鳥についても、春先に確認されると繁殖している可能性が高いため、情報整備モデル事業と全国鳥類繁殖分布調査等の結果を丁寧に整理していただきたい。 ・（前項のバードストライクに関するヒアリング結果に対して）バードストライクの可能性が小さいことは了解した。本事業における風車点検の際もバードストライクを点検項目に入れることで、その後の風力発電事業にも有益な情報を提供できる。 ・アセスメントは非常にメリハリがあって良いと考える。 ・項目選定の方針は了解した。 |
| | | その他の意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・配慮書や方法書の段階で情報整備モデル事業の調査結果を用いることは、アセスメントにおいて大変良いことだと思う。 ・情報整備モデル事業での調査は、既設風車が設置されている場所の事後調査を兼ねていることも重要な点である。 |
| 自然保護団体 (動植物全般) | 平成30年9月28日 | 鳥類 | <ul style="list-style-type: none"> ・風車のライトアップは・・・・・・を誘引する。ライトアップを行わないのであれば、鳥類への影響は無いと考える。 ・項目選定の方針は了解した。 |
| | | 爬虫類・両生類 | <ul style="list-style-type: none"> ・シマヘビは確認されていないが、生息する可能性は高い。・・・・や・・・・は確認するのが難しい。 ・項目選定の方針は了解した。 |
| | | 植物 | <ul style="list-style-type: none"> ・法面保護における種子散布の際は、外来種の使用を避ける必要がある。 ・項目選定の方針は了解した。 |

表5.3.2-2 (3) 専門家等からの意見の概要（環境影響評価項目の選定について）

| 所属 | 実施日 | 意見の概要 | |
|-----------------|------------|--------|---|
| 自然保護団体 (昆虫類) | 平成30年9月28日 | 昆虫類 | <ul style="list-style-type: none"> ・スキー場の周辺には・・・・・・が多く生息しており、事業区域内にも見られる。重要種ではあるが、スキー場の周辺に多く生息していることから問題は無い。 ・既存の造成地を有効に利用するのであれば、影響は小さいと考える。 ・項目選定の方針は了解した。 |
| | | その他の意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・電磁波が動植物に影響を及ぼすことは無い。 |
| 自然保護団体 (植物) | 平成30年9月28日 | 植物 | <ul style="list-style-type: none"> ・植物については、造成をしない限りは風力発電事業による影響はない。 ・植物調査を実施する旨は了解した。現地調査では、重要種だけでなく外来種にも留意していただきたい。 |
| 自然保護団体 (鳥類) | 平成30年10月9日 | 鳥類 | <ul style="list-style-type: none"> ・・・・・・・は、夏季（6、7月頃）に確認された場合は繁殖している可能性が高い。10月～翌年5月頃に確認された個体は、渡り途中の個体であると考えられる。 ・・・・・・・は山地の伐採跡地や裸地が繁殖地となるため、事業実施想定区域やスキー場周辺の裸地で繁殖している可能性がある。 ・・・・・・・は5月頃に多く当該区域を通過するが、繁殖の可能性は低いため事業の影響は小さいと考えられる。 ・・・・・・・は太鼓山のような山地環境であれば、主に尾根を境に満遍なく生息している。既設風車が稼働している場所で確認されていることから、本事業により既設風車の近くに新しく風車を建設しても影響は小さいと考える。営巣地が近くにある場合は、繁殖の有無や工事による影響を調査する必要があるが、営巣地が無いのであれば本種への影響は小さいと考える。 ・鳥類死骸はスカベンジャーによりすぐに持ち去られるため、実際は衝突している可能性が高い。ただし、・・・・・・は風車を視認していると考えられることから、風車への衝突事例は少ない。また、その他の猛禽類は飛翔例が少ないことから影響は小さいと考える。 ・標高は少し高いがシギ・チドリ類の渡りも考えられ、衝突している可能性はある。ただし、事業実施想定区域内で既設風車が稼働している状況であることから、本事業による鳥類への影響は小さいと考える。 ・項目選定の方針は了解した。 |

5.3.3 スイス村の利用状況等について

スイス村は、対象事業実施区域に近接するレクリエーション施設である。スイス村のホームページでは既設の太鼓山風力発電所が紹介されており、スイス村の施設の一つである「風のがっこう京都」においては、太鼓山風力発電所に隣接するというロケーションを活かし、再生可能エネルギーに関する研修を実施している。スイス村には、宿泊施設やスキー場といった様々な施設があり、利用状況等も施設により異なることから、スイス村の施設管理者にヒアリングを実施した。

ヒアリング結果の概要を表5.3.3-1に示す。

表5.3.3-1 (1) 施設管理者へのヒアリング結果の概要

| 実施日 | 実施場所 | ヒアリング結果の概要 |
|-------------|---------|---|
| 平成30年11月19日 | スイス村管理棟 | <p>○本事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> 既設太鼓山風力発電所や対象事業に係るアセスメントの現状は了解している。 <p>○既設太鼓山発電所について</p> <ul style="list-style-type: none"> 風車音は屋内では気にならないが、外では普通に聞こえる状況である。風切り音の他、古い機種だからだと思いが機械音（キーキーという音）も聞こえており、風が強い日は特によく聞こえる。建設当初は、機械音は気にならなかった。 風車が害獣よけになっておらず、シカやイノシシには迷惑している。 スイス村に來られて、風車が見たいと言われるお客さんはいる。その場合、要望があれば門扉を開けて風車の見学を行っている。 本事業により、既設より大きな風車が建設されることになるが、特に懸念点はない。 <p>○スイス村の従業員の状況、利用状況等について</p> <ul style="list-style-type: none"> 従業員については、スキー場のオープン時期（12月から翌年3月頃）は100人くらいが働いている。その他の月では、月にだいたい10～15人である。従業員は基本的には通いである。 従業員の宿泊については、「山の家」、「風のがっこう 京都」への宿泊客がいれば、従業員も合わせて泊まっている。そのほかにもバンガロー等にお客さんがいれば、21時くらいまでは働いている。台風の時などは、緊急時の対応のために宿泊することもある。 高原浴場は常時オープンしているわけではない。主には5月の連休やお盆等、キャンプ場のお客さんが多い時にオープンしている。その他団体の利用がある際もオープンしている。レストランは10-14時で営業している。冬季は営業していない。 「風のがっこう 京都」は、年間で1000人弱が利用している。ただし、宿泊された方から風車音に関する苦情は聞いていない。なお、当該宿泊施設からは、風車は良く見える状況である。 その他の施設に宿泊された方、野外の施設を利用されている方からも、風車音に関する苦情はない。 |

表5.3.3-1 (2) 施設管理者へのヒアリング結果の概要

| 実施日 | 実施場所 | ヒアリング結果の概要 |
|-------------|---------|--|
| 平成30年11月19日 | スイス村管理棟 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期的なイベントについては、5月の連休明けから5月末まではゲレンデに芝桜を植栽し（3ha、10万株）、スイス村芝桜公園として公開している。その期間は、土日を問わずお客さんは多い。多い時で3000人くらい来場する。 ・上記のイベントの際は、ゲレンデの周辺を駐車スペースとしており、満車になる。四国や九州から観光バスも来る。 ・工事車両の通行による影響については、誘導員も配置されると思うので問題は無い。イベント以外では、ゴールデンウィーク、お盆、10月の連休にお客さんが集中する傾向にある。 ・お客さんは、主に丹後縦貫林道を通って日本海側から来られる方、旧弥栄町方面から来られる方がいる。丹後縦貫林道の宮津市側は通行止めのため、管理組合が通行を禁止している。 ・「風のがっこう 京都」では、自然体験などを盛り込んだツアーを組んでおり、参加者を募集している。太鼓山風力発電所に関しては、ツアーの中に風車見学を織り込むこともある。 ・今より大きな風車が建設されれば見学者も増えると考えており、機種等についての専門的な質問も出てくると思う。少なくとも、要望のある人に対しては、風車の下まで見学はさせていただきたい。風車が出来上がってからでいいので、風車の大きさや出力等の概要を教えてほしい。 <p>○その他の事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スイス村の周辺は自然公園に指定されており、新しい建物を建てられないのを懸念している。また、鳥獣保護区なので猟友会も入れず、シカやイノシシなどの害獣駆除も行えない状況である。 |

第6章 環境影響評価の調査、予測及び評価の手法

環境影響評価の調査、予測及び評価の手法は、技術指針に基づき、事業特性及び地域特性を勘案して選定した。

環境影響評価項目のうち、水の濁り、動物及び植物については情報整備モデル事業において調査が実施されていることから、基本的に当該調査結果の整理を行うこととする。本図書では、情報整備モデル事業における調査結果の妥当性を示すため、上記の項目については、当該事業における調査手法を記載した。

なお、環境影響評価を行う過程において手法の選定に係る新たな事情が生じたときは、必要に応じ選定された手法の見直しを行うものとする。

6.1 騒音及び超低周波音

騒音及び超低周波音に係る調査、予測及び評価の手法及び選定理由を表6.1-1に、調査地点を図6.1-1及び図6.1-2に示す。

表 6.1-1 (1) 騒音及び超低周波音に係る調査、予測及び評価の手法

| 項目 | | 影響要因 の区分 | 調査、予測及び評価の手法 | 選定理由 |
|-------------|-----------|-------------|--|------------------------------|
| 環境要素 の区分 | | | | |
| 大気環境 | 騒音及び超低周波音 | 工事用資材等の搬出入 | 1. 調査すべき情報 (1) 自動車騒音の状況 (2) 交通量の状況 (3) 沿道の状況 (4) 道路構造の状況 | 現状の自動車騒音の状況を把握するため。 |
| | | | 2. 調査の基本的な手法 (1) 自動車騒音の状況 日本工業規格 Z8731「環境騒音の表示・測定方法」により行う。 (2) 交通量の状況 マニュアルカウンタを用いた目視観測を行う。 (3) 沿道の状況 調査地点の沿道における、学校・病院等の環境保全対象施設や住居の配置状況の整理及び解析を行う。 (4) 道路構造の状況 道路の幅員、舗装面等の状況等について現地調査を行い、結果の整理及び解析を行う。 | 事業特性及び地域特性を踏まえた、一般的な手法とした。 |
| | | | 3. 調査地域 方法書段階におけるミキサー車の主要な走行ルート沿線とする。 | 自動車騒音に係る環境影響を受けるおそれがある地域とした。 |
| | | | 4. 調査地点 図6.1-1に示す2地点とする。 | 主要な交通ルート沿線の集落付近とした。 |

表 6.1-1 (2) 騒音及び超低周波音に係る調査、予測及び評価の手法

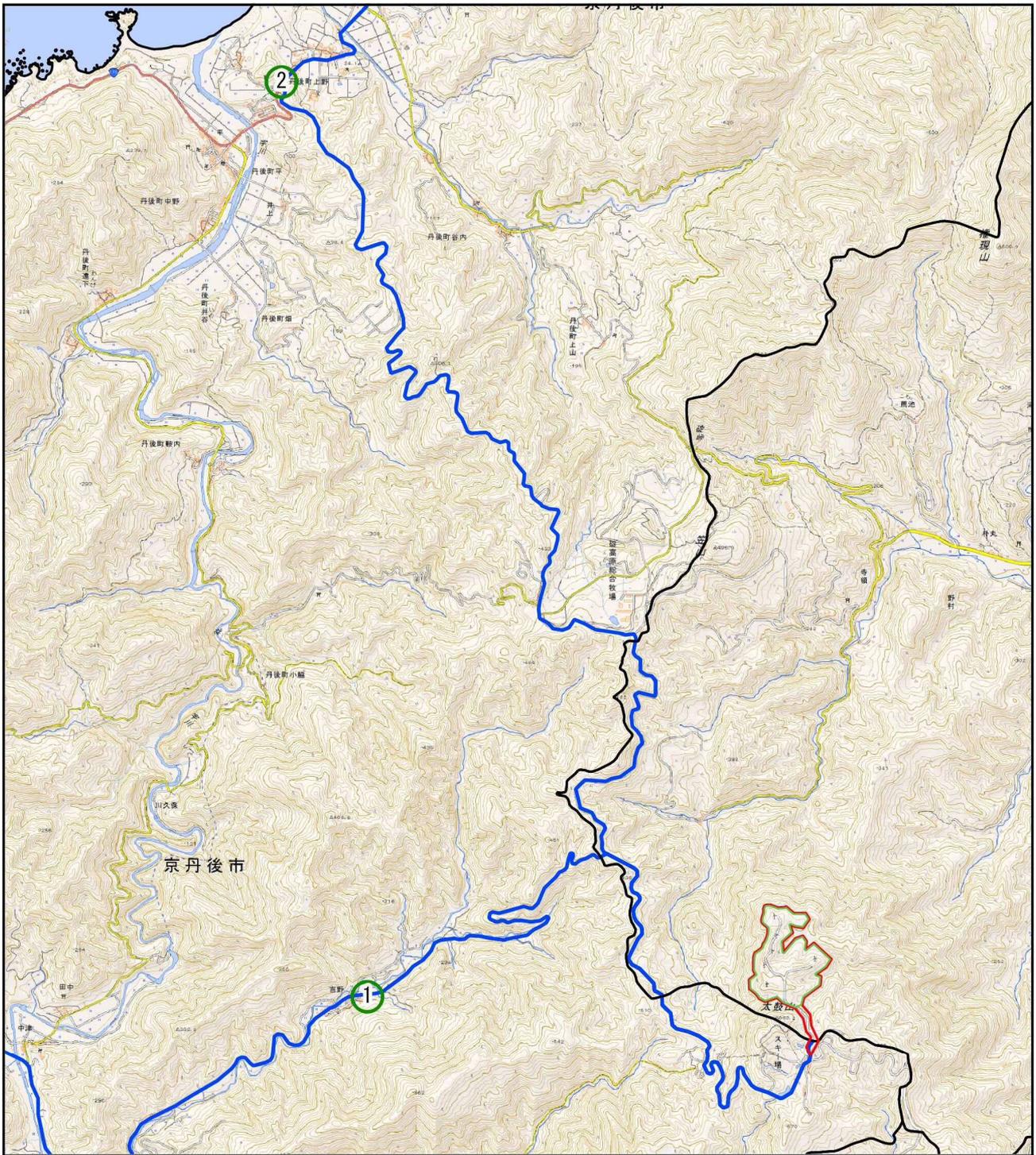
| 項目 | | | 調査、予測及び評価の手法 | 選定理由 |
|-------------|-------------|------------|--|--|
| 環境要素 の区分 | 影響要因 の区分 | | | |
| 大気環境 | 騒音及び超低周波音 | 工事用資材等の搬出入 | 5. 調査期間等 自動車騒音の状況を代表する平日及び土曜日に1回実施する。測定時間は昼間（6時～22時）及び夜間（22時～6時）とし、各1回連続測定を行う。 | 現状の自動車騒音の状況を的確に把握できる期間とした。 |
| | | | 6. 予測の基本的な手法 日本音響学会が発表している自動車騒音の予測計算モデル（ASJ RTN-Model 2013）により、等価騒音レベル（ L_{Aeq} ）の予測を行う。 | 一般的に広く自動車騒音の予測で用いられている手法とした。 |
| | | | 7. 予測地域 調査地域と同様とする。 | 自動車騒音に係る環境影響を受けるおそれがある地域とした。 |
| | | | 8. 予測地点 調査地点と同様とする。 | 自動車騒音に係る環境影響を的確に予測できる地点とした。 |
| | | | 9. 予測対象時期等 ミキサー車の交通量が最大となる時期とする。 | 自動車騒音に係る環境影響を的確に予測できる時期とした。 |
| | | | 10. 評価の手法 (1) 環境影響の回避又は低減に係る評価 対象事業の実施に伴う自動車騒音に係る環境影響が、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減されているか、必要に応じて環境保全についての配慮が適正になされているか検討する。 | 「環境影響評価等についての技術的事項に関する指針」（平成11年 京都府告示第276号）に示される手法とした。 |

表 6.1-1 (3) 騒音及び超低周波音に係る調査、予測及び評価の手法

| 項目 | | 調査、予測及び評価の手法 | 選定理由 | |
|---------|-----------|--------------|--|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 大気環境 | 騒音及び超低周波音 | 施設の稼働 | 1. 調査すべき情報 (1) 残留騒音の状況 (2) 風況 (3) 地表面の状況 | 現状の残留騒音の状況を把握するため。 |
| | | | 2. 調査の基本的な手法 (1) 残留騒音の状況 「風力発電施設から発生する騒音等測定マニュアル」(平成29年 環境省)に準じた測定を行う。 (2) 風況 「風力発電施設から発生する騒音等測定マニュアル」(平成29年 環境省)に基づき、気象観測用マストにおいて風況の観測を行う。 (3) 地表面の状況 舗装面等の状況等について現地調査を行い、結果の整理及び解析を行う。 | 事業特性及び地域特性を踏まえて、「風力発電施設から発生する騒音等測定マニュアル」(平成29年 環境省)に記載されている一般的な手法とした。 |
| | | | 3. 調査地域 音の伝搬特性を考慮し、騒音に係る環境影響を受けるおそれがある地域とする。 | 風車騒音に係る環境影響を受けるおそれがある地域とした。 |
| | | | 4. 調査地点 図6.1-2に示す1地点とする。 | 対象事業実施区域周囲における、住居等の配慮が必要な施設の近傍とした。 |
| | | | 5. 調査期間等 年間の代表的な風況における残留騒音が把握できる時期とし、残留騒音の状況を代表する有効風速範囲における3日間以上とする。 | 現状の風車騒音の状況を的確に把握できる期間とした。 |
| | | | 6. 予測の基本的な手法 音の伝搬理論に基づく距離減衰式(IS00963-2)により予測地点における施設の稼働に伴う風車騒音レベルを算出し、残留騒音との合成値を算出する。 | 一般的に広く風車騒音の予測で用いられている手法とした。 |
| | | | 7. 予測地域 調査地域と同様とする。 | 風車騒音に係る環境影響を受けるおそれがある地域とした。 |
| | | | 8. 予測地点 調査地点と同様とする。 | 風車騒音に係る環境影響を的確に予測できる地点とした。 |
| | | | 9. 予測対象時期等 風力発電所の運転が定常状態となり、風車騒音に係る環境影響が最大となる時期とする。 | 風車騒音に係る環境影響を的確に予測できる時期とした。 |
| | | | 10. 評価の手法 (1) 環境影響の回避又は低減に係る評価 対象事業の実施に伴う風車騒音に係る環境影響が、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減されているか、必要に応じて環境保全についての配慮が適正になされているか検討する。 (2) 国又は府等による環境の保全及び創造に関する施策との整合性の検討による評価 「風力発電施設から発生する騒音に関する指針」(平成29年 環境省)に示されている指針値等との整合が図られているか検討する。 | 「環境影響評価等についての技術的事項に関する指針」(平成11年 京都府告示第276号)に示される手法とした。 |

表 6.1-1 (4) 騒音及び超低周波音に係る調査、予測及び評価の手法

| 項目 | | | 調査、予測及び評価の手法 | 選定理由 |
|---------|-----------|-------|---|--|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 大気環境 | 騒音及び超低周波音 | 施設の稼働 | 1. 調査すべき情報 (1) 超低周波音の状況 (2) 風況 (3) 地表面の状況 | 現状の超低周波音の状況を把握するため。 |
| | | | 2. 調査の基本的な手法 (1) 超低周波音の状況 「低周波音の測定方法に関するマニュアル」(平成12年 環境庁大気保全局)に準拠し、G特性音圧レベル及び1/3オクターブバンド別の音圧レベルの測定を行い、調査結果の整理及び解析を行う。 (2) 風況 参考として、「風力発電施設から発生する騒音等測定マニュアル」(平成29年 環境省)に基づき、気象観測用マストにおいて風況の観測を行う。 (3) 地表面の状況 舗装面等の状況等について現地調査を行い、結果の整理及び解析を行う。 | 事業特性及び地域特性を踏まえた、一般的な手法とした。 |
| | | | 3. 調査地域 音の伝搬特性を考慮し、超低周波音に係る環境影響を受けるおそれがある地域とする。 | 超低周波音に係る環境影響を受けるおそれがある地域とした。 |
| | | | 4. 調査地点 図6.1-2に示す1地点とする。 | 対象事業実施区域周囲における、住居等の配慮が必要な施設の近傍とした。 |
| | | | 5. 調査期間等 超低周波音の状況を代表する平日に1日とし、24時間の連続測定を行う。 | 現状の超低周波音の状況を的確に把握できる期間とした。 |
| | | | 6. 予測の基本的な手法 音の伝搬理論に基づく距離減衰式 (ISO0963-2) により、予測地点における施設の稼働に伴うG特性音圧レベル及び1/3オクターブバンド別の音圧レベルの予測を行う。 | 一般的に広く風車騒音の予測で用いられている手法とした。 |
| | | | 7. 予測地域 調査地域と同様とする。 | 風車騒音に係る環境影響を受けるおそれがある地域とした。 |
| | | | 8. 予測地点 調査地点と同様とする。 | 風車騒音に係る環境影響を的確に予測できる地点とした。 |
| | | | 9. 予測対象時期等 風力発電所の運転が定常状態となり、超低周波音に係る環境影響が最大となる時期とする。 | 風車騒音に係る環境影響を的確に予測できる時期とした。 |
| | | | 10. 評価の手法 (1) 環境影響の回避又は低減に係る評価 対象事業の実施に伴う超低周波音に係る環境影響が、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減されているか、必要に応じて環境保全についての配慮が適正になされているか検討する。 なお、超低周波音については、指針値等がないことから、ISO 7196に示される超低周波音を感じる最小音圧レベル等との比較を行い、環境影響が回避又は低減されているか評価する。 | 「環境影響評価等についての技術的事項に関する指針」(平成11年 京都府告示第276号)に示される手法とした。 |



凡例

- 数字 自動車騒音調査地点
(主要な交通ルート沿いの住宅周辺)
- 主要な交通ルート

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 市町村界

0.5 0 0.5 1 1.5 2 km

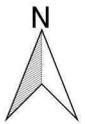
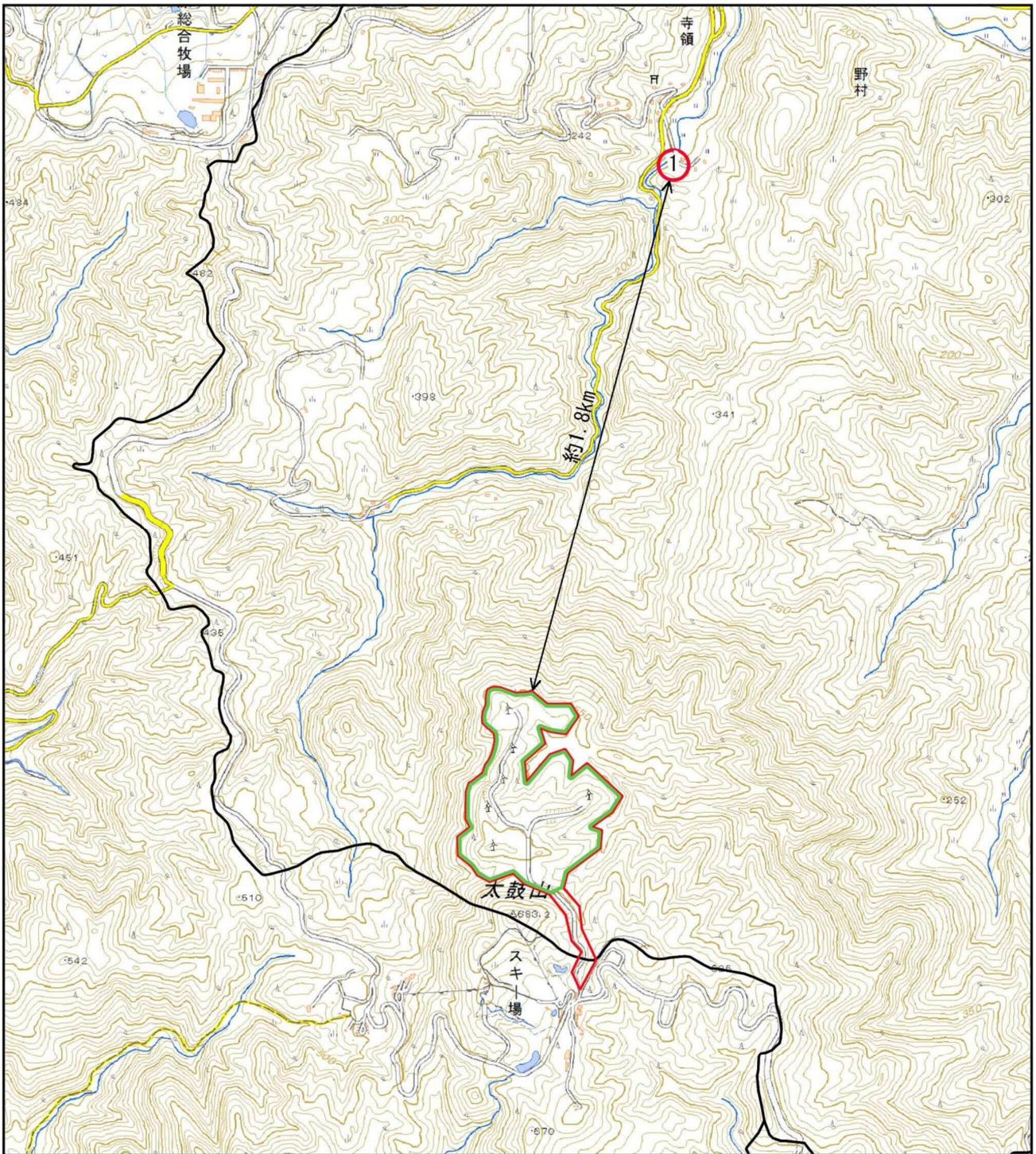


図 6.1-1 自動車騒音調査地点



凡例

○ 残留騒音・超低周波音調査地点
(最寄りの住宅周辺)

□ 対象事業実施区域

□ 風力発電機設置範囲

□ 市町村界

0.25 0 0.25 0.5 0.75 1 km

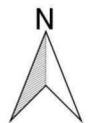


図 6.1-2 残留騒音・超低周波音調査地点

6.2 水の濁り

水の濁りに係る調査、予測及び評価の手法及び選定理由を表6.2-1に、調査地点を図6.2-1に示す。

表 6.2-1 (1) 水の濁りに係る調査、予測及び評価の手法

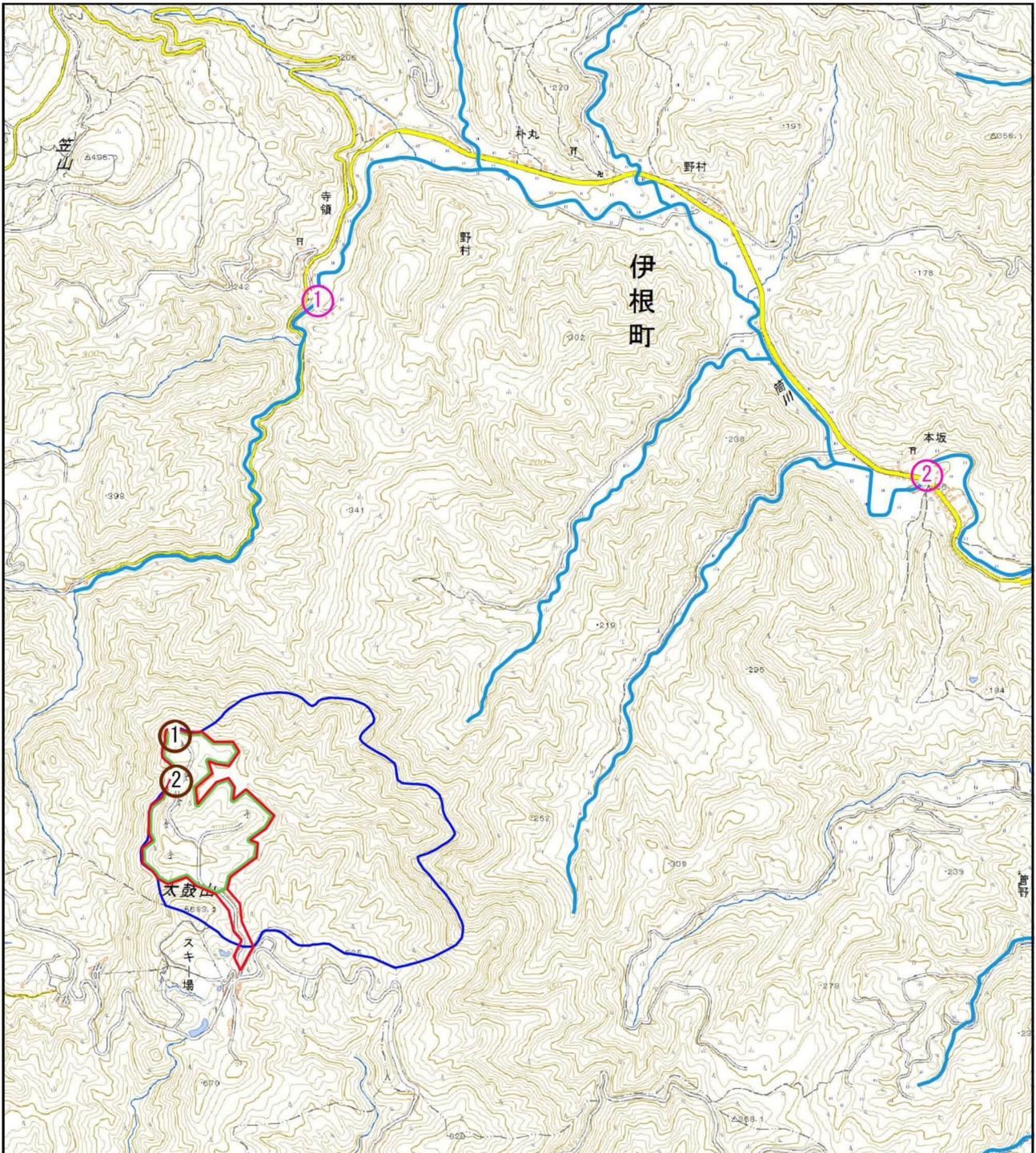
| 項目 | | | 影響要因 の区分 | 調査、予測及び評価の手法 | 選定理由 |
|-------------|----|------|-----------------|--|--------------------------------|
| 環境要素 の区分 | | | | | |
| 水環境 | 水質 | 水の濁り | 造成等の施工による一時的な影響 | 1. 調査すべき情報 (1) 水の濁りの状況 (2) 流量の状況 (3) 土壌の状況 | 現況の水の濁りの状況を把握するため。 |
| | | | | 2. 調査の基本的な手法 (1) 水の濁りの状況 情報整備モデル事業において現地調査がなされていることから、当該情報の整理を行う。 (2) 流量の状況 情報整備モデル事業において現地調査がなされていることから、当該情報の整理を行う。 (3) 土壌の状況 対象事業実施区域内で採取した土壌を用いて、土壌の沈降試験（JIS M 0201）を行い、調査結果の整理及び解析を行う。 | 水の濁りに係る情報を的確に把握できる手法とした。 |
| | | | | 3. 調査地域 対象事業実施区域の下流域に位置する河川とする。 | 水の濁りに係る環境影響を受けるおそれがある地域とした。 |
| | | | | 4. 調査地点 調査地点を図6.2-1に示す。 | 水の濁りに係る環境影響を受けるおそれがある河川を対象とした。 |
| | | | | 5. 調査期間等 (1) 水の濁り及び流量の状況 情報整備モデル事業における調査期間は、四季に各1回とした。また、平水時との比較を行うため、出水時に1回の採水を行った。調査期間等の詳細は表6.2-2に示すとおりである。 (2) 土壌の状況 任意の時期に1回行う。 | 水の濁りに係る情報を的確に把握できる期間とした。 |

表 6.2-1 (2) 水の濁りに係る調査、予測及び評価の手法

| 項目 | | | 影響要因 の区分 | 調査、予測及び評価の手法 | 選定理由 |
|-------------|----|------|-----------------|---|--|
| 環境要素 の区分 | | | | | |
| 水環境 | 水質 | 水の濁り | 造成等の施工による一時的な影響 | 6. 予測の基本的な手法 既存の造成地を有効利用することにより、基本的に新たな改変エリアは小さいため、事業特性を考慮した定性的な予測を行う。ただし、大規模な改変を伴う場合、「面的整備事業環境影響評価技術マニュアル」（平成11年 面整備事業環境影響評価研究会）に基づき、水面負荷より仮設沈砂地等の排水口における浮遊物質量を定量的に予測する。 次に「森林作業道からの濁水流出を防ぐために一隣地の濁水流出防止効果」（平成25年 岐阜県森林研究所）により、仮設沈砂地等からの排水が土壌表面を流下する距離を定性的に予測し、仮設沈砂地等からの排水が河川へ流入するかを推定する。仮設沈砂地等からの排水が河川に流入すると推定された場合は、対象河川について完全混合モデルによる予測を実施する。 | 事業特性及び地域特性を踏まえた、一般的な手法とした。 |
| | | | | 7. 予測地域 調査地域と同様とする。 | 水の濁りに係る環境影響を受けるおそれがある地域とした。 |
| | | | | 8. 予測地点 対象事業実施区域内に設置する仮設沈砂地の排水口とする。沈砂地からの排水が河川へ流入すると推定され、完全混合モデルによる予測を行う場合は、SSの調査地点とする。 | 水の濁りに係る環境影響を的確に予測できる地点とした。 |
| | | | | 9. 予測対象時期等 造成等の施工による水の濁りに係る環境影響が最大になる時期とする。 | 水の濁りに係る環境影響を的確に予測できる時期とした。 |
| | | | | 10. 評価の手法 (1) 環境影響の回避又は低減に係る評価 対象事業の実施に伴う水の濁りに係る環境影響が、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減されているか、必要に応じて環境保全についての配慮が適正になされているか検討する。 | 「環境影響評価等についての技術的事項に関する指針」（平成11年 京都府告示第276号）に示される手法とした。 |

表 6.2-2 情報整備モデル事業における水の濁りの調査時期等の詳細

| 時期 | 調査実施日 | 天候 | 調査内容 | 調査実施時期の設定理由 |
|-------------|------------|----|---------------------|--|
| 春季 | 平成27年5月26日 | 晴 | 試料採取 (SS)、河川流量・水温測定 | 各季の水質の変化を把握するため、春季に実施した。 |
| 夏季 (出水時) | 平成27年7月17日 | 雨 | 試料採取 (SS)、河川流量・水温測定 | 台風が通過し、調査日の7時から降雨があったため、実施した。 |
| 秋季 | 平成27年9月15日 | 曇 | 試料採取 (SS)、河川流量・水温測定 | 各季の水質の変化を把握するため、秋季に実施した。 また、試料 (土壌) を採取しやすい時期 (積雪がなく、植生が比較的安定した時期) に実施した。 |
| 冬季 | 平成27年12月2日 | 曇 | 試料採取 (SS)、河川流量・水温測定 | 各季の水質の変化を把握するため、冬季に実施した。 |



凡例

- 情報整備モデル事業における水質調査地点:2地点
- 土壌調査地点:2地点
- 河川

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 情報整備モデル地区

250 0 250 500 750 1000 m



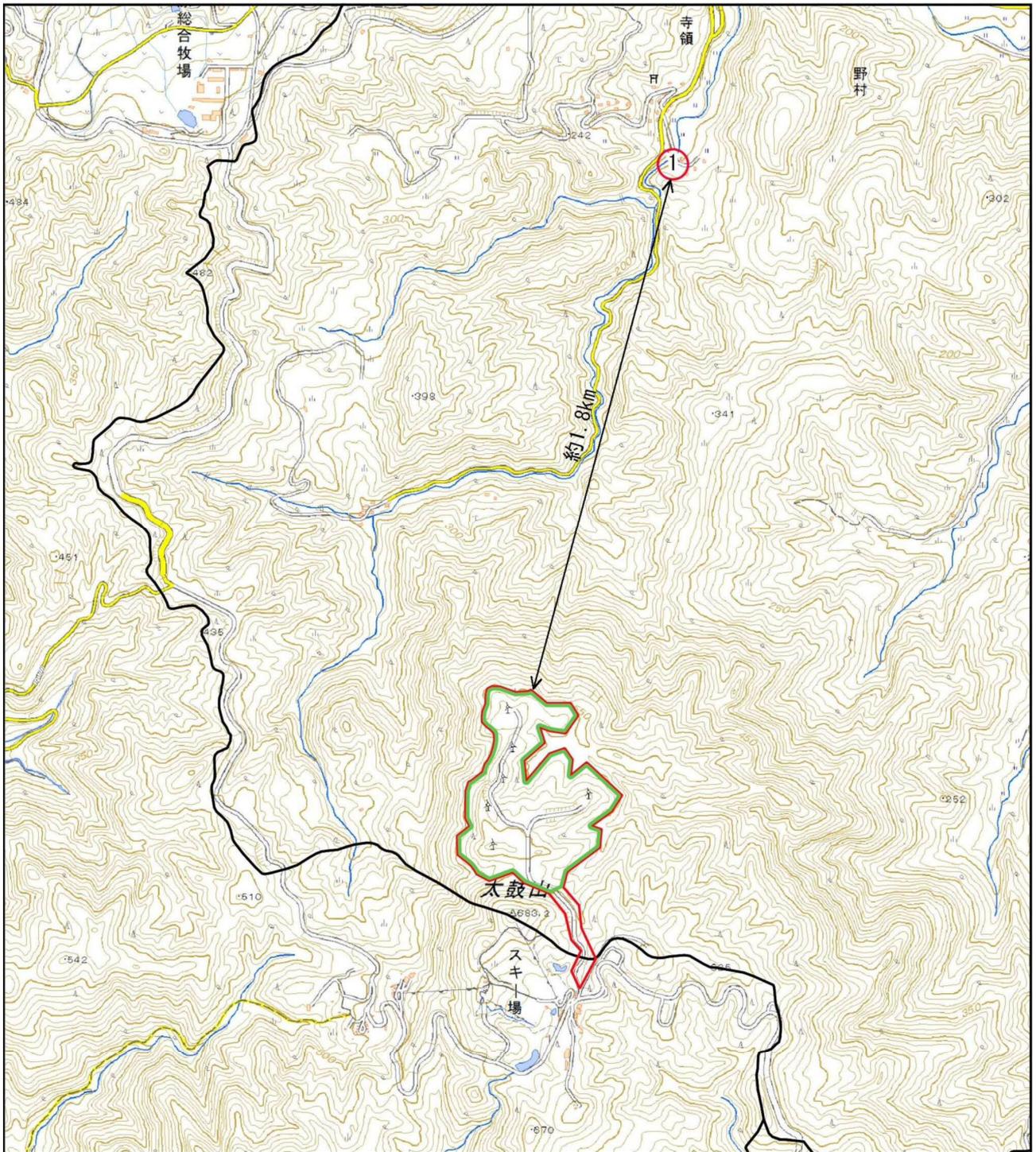
図 6.2-1 水の濁り調査地点

6.3 風車の影

風車の影に係る調査、予測及び評価の手法及び選定理由を表6.3-1に、調査地点を図6.3-1に示す。

表 6.3-1 風車の影に係る調査、予測及び評価の手法

| 項目 | | 影響要因 の区分 | 調査、予測及び評価の手法 | 選定理由 |
|---------------|------|--|--|--|
| 環境要素 の区分 | 風車の影 | | | |
| その他の環境に係る環境要素 | 風車の影 | 地形 変更 及び 施設の 稼働 及び 施設の 存在 | 1. 調査すべき情報 (1) 土地利用の状況 (2) 地形の状況 | 「発電所に係る環境影響評価の手引」(平成29年 経済産業省)等に記載されている一般的な手法とした。 |
| | | | 2. 調査の基本的な手法 文献その他の資料の収集及び整理とする。 | 「発電所に係る環境影響評価の手引」(平成29年 経済産業省)等に記載されている一般的な手法とした。 |
| | | | 3. 調査地域 対象事業実施区域及びその周囲とする。 | 風車の影に係る環境影響を受けるおそれがある地域とした。 |
| | | | 4. 調査地点 図6.3-1に示す1地点とする。 | 対象事業実施区域周囲における、住居等の配慮が必要な施設の近傍とした。 |
| | | | 5. 調査期間等 年間のうち、調査地域への風車の影の影響が生じるおそれがある時期とする。 | 現状の状況を把握できる時期とした。 |
| | | | 6. 予測の基本的な手法 等時間の日影線を描いた日影図の作成を行い、年間及び四季を代表する冬至、春分・秋分及び夏至における日影時間を予測する。なお、ブレード部分については球体と想定して予測を行う。 | 「発電所に係る環境影響評価の手引」(平成29年 経済産業省)等に記載されている一般的な手法とした。 |
| | | | 7. 予測地域 調査地域と同様とする。 | 風車の影に係る環境影響を受けるおそれがある地域とした。 |
| | | | 8. 予測地点 調査地点と同様とする。 | 風車の影に係る環境影響を的確に予測できる地点とした。 |
| | | | 9. 予測対象時期 風力発電所の運転が定常状態となる時期とし、冬至、春分・秋分及び夏至の4季とする。 | 風車の影による環境影響が最大となる時期とした。 |
| | | | 10. 評価の手法 (1) 環境影響の回避又は低減に係る評価 対象事業の実施に伴う風車の影に係る環境影響が、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減されているか、必要に応じて環境保全についての配慮が適正になされているか検討する。 なお、国内には風車の影に係る指針値等が無いことから、「風力発電施設に係る環境影響評価の基本的な考え方に関する検討報告書(資料編)」(平成23年 環境省総合環境政策局)を参考に、「年間30時間かつ1日30分を超えないこと」*を目標値とし、環境影響が回避又は低減されているか評価する。 ※:「風力発電と環境汚染の管理」(平成14年 ノルトライン・ヴェストファーレン州環境庁)等による指針値 | 「環境影響評価等についての技術的事項に関する指針」(平成11年 京都府告示第276号)に示される手法とした。 |



凡例

○ 風車の影調査地点
(最寄りの住宅周辺)

□ 対象事業実施区域

□ 風力発電機設置範囲

□ 市町村界

0.25 0 0.25 0.5 0.75 1 km

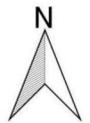


図 6.3-1 風車の影調査地点

6.4 動物

動物に係る調査、予測及び評価の手法及び選定理由を表6.4-1に、調査地点を図6.4-1～図6.4-16に示す。

表 6.4-1 (1) 動物に係る調査、予測及び評価の手法

| 項目 | | 調査、予測及び評価の手法 | 選定理由 | |
|---------|------------------------------|---|--|--|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 動物 | 重要な種及び注目すべき生息地（海域に生息するものを除く） | 施設の稼働 地形変化及び施設の存在 造成等の施工による一時的な影響 | 1. 調査すべき情報 (1) 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類に関する動物相の状況 (2) 重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況 | 動物の生息状況、重要な種及び注目すべき生息地の状況を把握するため。 |
| | | | 2. 調査の基本的な手法 (1) 動物相の状況 情報整備モデル事業において現地調査がなされていることから、当該情報の整理を行う。 情報整備モデル事業における調査手法を以下に示す。なお、各項目の調査の詳細は表6.4-2に示すとおりである。 a. 哺乳類（コウモリ類を除く）：目撃・フィールドサイン法、無人撮影法、トラップ法（シャーマントラップ、ピットフォールトラップ） b. コウモリ類：バットディテクターによる確認 c. 鳥類（一般鳥類）：ラインセンサス法、定点センサス法、任意調査 d. 鳥類（希少猛禽類）：定点法 e. 爬虫類・両生類：直接観察法 f. 魚類：捕獲調査 g. 昆虫類：任意採集（スウィーピング法、ビーティング法、直接観察）、トラップ法（ベイトトラップ、ライトトラップ） (2) 重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況 「(1) 動物相の状況」の現地調査結果及び文献調査等により、重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況を整理する。 | 「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（平成23年 環境省）、「平成28年度版河川水辺の国勢調査基本調査マニュアル[河川版・ダム湖版]」（平成28年 国土交通省）、「猛禽類保護の進め方（改訂版）」（平成24年 環境省）等に記載されている一般的な手法とした。 |
| | | | 3. 調査地域 対象事業実施区域及びその周囲とする。 | 工事の実施及び施設の稼働による影響が及ぶおそれのある地域とした。 |
| | | | 4. 調査地点 情報整備モデル事業における基本的な踏査ルート及び調査地点を図6.4-1から図6.4-16に示す。 希少猛禽類の調査地点は、森林性希少猛禽類が営巣地として利用する斜面林の観察に適した地点に設定した。調査地点の状況は表6.4-5のとおりである。 | 情報整備モデル地区内の風車立地を考慮し、尾根地形を中心とするとともに、さまざまな環境類型区分が含まれるような踏査ルート及び地点とした。また、調査地点について専門家等にヒアリングを行い、必要に応じて調査地点を追加した。 |

表 6.4-1 (2) 動物に係る調査、予測及び評価の手法

| 項目 | | 調査、予測及び評価の手法 | 選定理由 |
|---------|------------------------------|---|--|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | |
| 動物 | 重要な種及び注目すべき生息地（海域に生息するものを除く） | <p>5. 調査期間等</p> <p>情報整備モデル事業における調査期間等を以下に示す。なお、各項目の調査期間等の詳細は表6.4-3及び表6.4-4に示すとおりである。</p> <p>a. 哺乳類（コウモリ類を除く）</p> <ul style="list-style-type: none"> 目撃・フィールドサイン法、無人撮影法、トラップ法（シャーマントラップ、ピットフォールトラップ）：4回（春季、夏季、秋季、冬季） <p>b. コウモリ類</p> <ul style="list-style-type: none"> バットディテクターによる確認：3回（春季、夏季、秋季） <p>c. 鳥類（一般鳥類）</p> <ul style="list-style-type: none"> ラインセンサス法、定点センサス法、任意調査：5回（春季、繁殖期、夏季、秋季、冬季） <p>d. 鳥類（希少猛禽類）</p> <ul style="list-style-type: none"> 定点法：7回（繁殖期を基本とした） <p>e. 爬虫類・両生類</p> <ul style="list-style-type: none"> 直接観察法：3回（春季、夏季、秋季） <p>f. 魚類</p> <ul style="list-style-type: none"> 捕獲調査：3回（春季、夏季、秋季） <p>g. 昆虫類</p> <ul style="list-style-type: none"> 任意採集（スウィーピング法、ビーティング法、直接観察）、トラップ法（ベイトトラップ、ライトトラップ）：3回（春季、夏季、秋季） | <p>地域特性及び各分類群の特性を踏まえ、「河川水辺の国勢調査マニュアル」等に記載されている一般的な調査期間等とした。また、調査期間等について専門家等にヒアリングを行い、必要に応じて調査期間等を追加した。</p> |
| | | <p>6. 予測の基本的な手法</p> <p>(1) 造成等の施工による一時的な影響、地形改変及び施設の存在</p> <p>重要な種及び注目すべき生息地について、情報整備モデル事業における調査結果を整理し、事業による分布又は生息環境の改変の程度を把握した上で、事例の引用又は改変エリア図と分布図との重ね合わせ図に基づく解析によって予測を行う。</p> <p>(2) 施設の稼働</p> <p>希少猛禽類の風力発電機への衝突について、「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（平成23年 環境省）等に基づき、衝突確率及び年間衝突数を推定し、影響を予測する。</p> | <p>影響の程度や種類に応じて、環境影響の量的又は質的な変化の程度を予測するための手法とした。</p> |

表 6.4-1 (3) 動物に係る調査、予測及び評価の手法

| 項目 | | 調査、予測及び評価の手法 | 選定理由 |
|---------|------------------------------|---|--|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | |
| 動物 | 重要な種及び注目すべき生息地（海域に生息するものを除く） | 施設の稼働 地形改変及び施設の存在 造成等の施工による一時的な影響 | 7. 予測地域 調査地域と同様とする。 |
| | | | 8. 予測対象時期等 (1) 造成等の施工による一時的な影響 造成等の施工による動物の生息環境への影響が最大となる時期とする。 (2) 地形改変及び施設の存在、施設の稼働 風力発電所の運転が定常状態となる時期とする。 |
| | | | 9. 評価の手法 対象事業の実施に伴う重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響が、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減されているか、必要に応じて環境保全についての配慮が適正になされているか検討する。 |
| | | | 工事の実施及び施設の稼働による影響が及ぶおそれのある地域とした。 動物に係る環境影響を的確に予測できる時期とした。 「環境影響評価等についての技術的事項に関する指針」（平成11年 京都府告示第276号）に示される手法とした。 |

表 6.4-2 (1) 動物に係る調査内容の詳細

| 調査項目 | 調査手法 | 調査内容の詳細 |
|-----------|------------------------------|--|
| 哺乳類 | 目撃・フィールドサイン法 | 踏査によりフィールドサイン（足跡、糞等の生息痕跡）を確認し、確認地点等を 1/10,000 の地形図に記録した。また、重要な種は GPS により位置データを取得・記録した。 |
| | 無人撮影法 | 主に中型哺乳類のデータを補完するために実施した。赤外線センサーカメラを、哺乳類が頻繁に往来する「けもの道」のほか、トラップを設置した地点周囲や任意の地点に 1 晩設置した。 |
| | トラップ法（シャーマントラップ、ピットフォールトラップ） | 主に小型哺乳類の捕獲を目的に生け捕り式のシャーマントラップ、ピットフォールトラップを用いて捕獲調査を実施した。落花生、サラミを付け餌とし、1 地点あたり 20 個、1 季あたり 2 晩設置した。捕獲した個体は種の判定根拠となる外部形態を計測・記録した。なお、捕獲調査に際しては、京都府丹後広域振興局農林商工部森づくり推進室と協議調整し、鳥獣捕獲許可を取得した。 |
| | バットディテクターによる確認 | 薄暮時～夜間にバットディテクターを用いて、コウモリ類の出現状況を確認し、確認地点等を 1/10,000 の地形図に記録した。 |
| 鳥類（一般鳥類） | ラインセンサス法 | 一定の観察幅に出現する種類、個体数等を直接観察、鳴き声等により確認、記録した。観察幅は、森林片側 25m、草原片側 50m とし、調査者歩行速度は 1.5～2.0km/h で実施した。確認種の種名、個体数、確認環境、繁殖行動等を記録し、重要種が確認された場合は、確認地点を 1/10,000～1/25,000 程度の地形図に記録した。 |
| | 定点センサス法 | 見通しのきく場所に定点を設定し、出現する種類、個体数等を直接観察により記録した。調査時間は定点ごとに 30 分とし、日の出～午前中に実施した。確認種の種名、個体数、確認環境、繁殖行動等を記録し、重要種が確認された場合は、確認地点を 1/10,000～1/25,000 程度の地形図に記録した。 |
| | 任意調査 | 任意の観察により実施し、出現する種類、個体数等を直接観察、鳴き声等により確認、記録した。夜間調査を実施し、フクロウ等の夜行性鳥類を確認した。また、重要種が確認された場合は、確認地点を 1/10,000～1/25,000 程度の地家図に記録した。 |
| 鳥類（希少猛禽類） | 定点法 | 調査地域を広く見渡せる地点に定点を設定し、各地点（1 人/地点）から同時観測を実施した。双眼鏡（8～10 倍）、望遠鏡（20～60 倍）を使用し、3 日連続/回、9 時～16 時を基本に調査を実施した。確認種の飛翔軌跡、種名、年齢、性別、個体の特徴、行動（特に繁殖行動に留意）、飛翔高度を記録し、飛翔軌跡等について 1/25,000 の地形図に整理した。 |

表 6. 4-2 (2) 動物に係る調査内容の詳細

| 調査項目 | 調査手法 | 調査内容の詳細 |
|------|---------|--|
| 爬虫類 | 直接観察法 | 直接観察（個体、脱皮殻等）及び採集により実施した。調査は、1 季あたり 2 日/回以上とし、確認地点等を 1/10, 000 の地形図に記録した。また、重要な種は GPS により位置データを取得・記録した。 |
| 両生類 | 直接観察法 | 直接観察（個体、鳴き声等）及び採集により実施した。調査は、1 季あたり 2 日/回以上とし、確認地点等を 1/10, 000 の地形図に記録した。また、重要な種は GPS により位置データを取得・記録した。 |
| 魚類 | 捕獲調査 | 捕獲時間は 2 時間/地点程度とし、投網、タモ網、セルびん等により捕獲を行った。捕獲個体は、種名、体長（種別の最大及び最小個体）を計測後、放流した。確認地点等は 1/25, 000 の地形図に記録した。また、調査地点以外にも適宜に目視観察や採集を実施した。 |
| 昆虫類 | 任意採集 | スウィーピング法、ビーティング法、直接観察等により実施した。確認地点等は 1/10, 000 の地形図に記録し、重要な種は GPS により位置データを取得・記録した。 |
| | ベイトトラップ | 誘引物を入れたプラスチックコップを地面に設置し、地表徘徊性の昆虫を捕獲した。トラップの設置数は各地点 20 個とした。 |
| | ライトトラップ | ブラックライト等を利用した捕虫箱法により捕獲 |

表 6.4-3 (1) 動物に係る調査期間等の詳細

| 調査項目 | 時期 | 調査実施日 | 天候 | 調査内容 | 調査時期の設定根拠 |
|------|----|------------------|----|---|---|
| 哺乳類 | 春季 | 平成 27 年 5 月 27 日 | 晴 | フィールドサイン (ルート①)、 トラップ調査 (設置) | 専門家等へのヒアリングを踏まえ、ネズミ類の捕獲効率の良い時期であるため、設定した。 |
| | | 28 日 | 曇 | フィールドサイン (ルート②)、 無人撮影 (設置)、バットディテクター | |
| | | 29 日 | 晴 | フィールドサイン (ルート②)、 トラップ調査 (回収)、 無人撮影 (カメラ回収) | |
| | 夏季 | 平成 27 年 7 月 15 日 | 晴 | フィールドサイン (ルート①、②)、 無人撮影 (設置)、トラップ調査 (設置)、 バットディテクター | 多くの哺乳類の活動期であり、確認効率の良い時期であるため、設定した。 |
| | | 16 日 | 曇 | フィールドサイン (ルート②)、 無人撮影 (回収) | |
| | | 17 日 | 雨 | トラップ調査 (回収) | |
| | 秋季 | 平成 27 年 9 月 14 日 | 晴 | フィールドサイン (ルート①)、 無人撮影 (設置)、トラップ調査 (設置)、 バットディテクター | 多くの哺乳類の活動期であり、確認効率の良い時期であるため、設定した。 |
| | | 15 日 | 晴 | フィールドサイン (ルート①、②) | |
| | | 16 日 | 曇 | フィールドサイン (ルート①、②)、 無人撮影 (回収)、トラップ調査 (回収) | |
| | | 17 日 | 晴 | フィールドサイン (ルート②) | |
| | 冬季 | 平成 27 年 12 月 2 日 | 曇 | フィールドサイン (ルート①)、 無人撮影 (設置)、トラップ調査 (設置) | 降雪によるトラップ調査への影響が少ない時期に設定した。 |

表 6.4-3 (2) 動物に係る調査実施日の詳細

| 調査項目 | 時期 | 調査実施日 | 天候 | 調査内容 | 調査時期の設定根拠 |
|--------------|-----|------------------|----|--|--|
| 鳥類 (一般鳥類) | 春季 | 平成 27 年 5 月 8 日 | 晴 | 任意調査 (夜間調査を含む) | 春の渡りの時期であり、多くの鳥類を確認することができるため、設定した。 また、春の渡りにおける小鳥類等の通過状況を確認するため、設定した。 |
| | | 9 日 | 晴 | 任意調査 (夜間調査を含む) | |
| | | 10 日 | 曇 | ラインセンサス (ルート①、②)、 定点センサス (地点①、地点②) | |
| | 繁殖期 | 平成 27 年 6 月 4 日 | 晴 | 任意調査 (夜間調査を含む) | 多くの小鳥類の繁殖期であり、繁殖行動を確認するため、設定した。 |
| | | 5 日 | 曇 | ラインセンサス (ルート①)、 任意調査 (夜間調査を含む)、 定点センサス (地点①、②) | |
| | | 7 日 | 曇 | ラインセンサス (ルート②) | |
| | 夏季 | 平成 27 年 7 月 1 日 | 晴 | 任意調査 (夜間調査を含む) | 夏鳥の確認しやすい時期に設定した。 |
| | | 2 日 | 晴 | ラインセンサス (ルート①)、 定点センサス (地点①、②) | |
| | | 3 日 | 曇 | ラインセンサス (ルート②)、 任意調査 (夜間調査を含む) | |
| | 秋季 | 平成 27 年 9 月 14 日 | 晴 | 定点センサス (地点①、②)、 任意調査 (夜間調査を含む) | 秋の渡りの時期であり、多くの鳥類を確認することができるため、設定した。 また、秋の渡りにおける小鳥類等の通過状況を確認するため、設定した。 |
| | | 15 日 | 曇 | ラインセンサス (ルート①) | |
| | | 16 日 | 曇 | ラインセンサス (ルート②) | |
| | 冬季 | 平成 27 年 12 月 3 日 | 曇 | ラインセンサス (ルート①、②)、 定点センサス (地点①、②)、 任意調査 | 専門家等へのヒアリングを踏まえ、冬鳥の確認しやすい時期に設定した。 |

表 6.4-3 (3) 動物に係る調査実施日の詳細

| 調査項目 | 時期 | 調査実施日 | 天候 | 調査内容 | 調査時期の設定根拠 |
|---------------|------|------------------|-----|---------------|---|
| 鳥類 (希少猛禽類) | 繁殖期 | 平成 27 年 5 月 7 日 | 晴 | 定点法 | 多くの希少猛禽類の抱卵、巣内育雛期であり、餌運搬の状況から営巣地を特定しやすいため、設定した。 |
| | | 8 日 | 晴 | | |
| | | 9 日 | 曇 | | |
| | | 6 月 4 日 | 晴 | | |
| | | 5 日 | 曇 | | |
| | | 6 日 | 曇 | | |
| | | 7 月 1 日 | 雨 | | |
| | | 2 日 | 晴 | | |
| | | 3 日 | 曇 | | |
| | | 8 月 24 日 | 晴 | | |
| | | 25 日 | 曇 | | |
| | | 26 日 | 晴 | | |
| | | 9 月 14 日 | 晴 | | |
| | | 15 日 | 曇 | | |
| | | 16 日 | 曇 | | |
| | | 平成 28 年 2 月 14 日 | 曇後雨 | | |
| | | 15 日 | 雪 | | |
| 16 日 | 曇時々晴 | | | | |
| 3 月 5 日 | 晴 | | | | |
| 6 日 | 曇 | | | | |
| 7 日 | 曇後晴 | | | | |
| 爬虫類・両生類 | 春季 | 平成 27 年 5 月 27 日 | 晴 | 直接観察 (ルート①) | サンショウウオ類やカエル類の幼生を確認できる時期であるため、設定した。 |
| | | 28 日 | 曇 | 直接観察 (ルート②) | |
| | | 29 日 | 晴 | 直接観察 (ルート②) | |
| | 夏季 | 平成 27 年 7 月 15 日 | 晴 | 直接観察 (ルート①、②) | 気温が上がり、爬虫類、両生類共に活発な時期であるため、設定した。 |
| | | 16 日 | 曇 | 直接観察 (ルート②) | |
| | | 17 日 | 雨 | 直接観察 (ルート①) | |
| | 秋季 | 平成 27 年 9 月 14 日 | 晴 | 直接観察 (ルート①) | 気温が下がり、爬虫類、両生類の活動量が減退する前に実施した。 |
| | | 15 日 | 晴 | 直接観察 (ルート①、②) | |
| | | 16 日 | 曇 | 直接観察 (ルート①、②) | |
| | | 17 日 | 晴 | 直接観察 (ルート②) | |

表 6.4-3 (4) 動物に係る調査実施日の詳細

| 調査項目 | 時期 | 調査実施日 | 天候 | 調査内容 | 調査時期の設定根拠 |
|------|----|------------------|----|---------------------------------------|--|
| 魚類 | 春季 | 平成 27 年 5 月 27 日 | 晴 | 捕獲調査 (地点③、④) | 春季に遡上・産卵する種を確認できる時期であるため、設定した。 |
| | | 28 日 | 曇 | 捕獲調査 (地点①、②)、任意採集 | |
| | 夏季 | 平成 27 年 7 月 15 日 | 晴 | 捕獲調査 (地点③、④) | 水温が上がり、多くの魚類の活動期であり、捕獲効率が良いため、設定した。 |
| | | 16 日 | 曇 | 捕獲調査 (地点①、②)、任意採集 | |
| | 秋季 | 平成 27 年 9 月 15 日 | 晴 | 捕獲調査 (地点③、④) | 秋季に遡上・産卵する種を確認できる時期であるため、設定した。 |
| | | 16 日 | 曇 | 捕獲調査 (地点①、②)、任意採集 | |
| 昆虫類 | 春季 | 平成 27 年 5 月 27 日 | 晴 | 任意採集 (ルート①)、ライトトラップ (設置)、ベイトトラップ (設置) | 春季に発生するチョウ類などを確認することができる時期であるため、設定した。 |
| | | 28 日 | 曇 | 任意採集 (ルート①)、ライトトラップ (回収)、ベイトトラップ (回収) | |
| | | 29 日 | 晴 | 任意採集 (ルート②) | |
| | 夏季 | 平成 27 年 7 月 15 日 | 晴 | 任意採集 (ルート②)、ライトトラップ (設置)、ベイトトラップ (設置) | 気温が上がり、多くの昆虫類が活発となり、確認効率が上がる時期であるため、設定した。 |
| | | 16 日 | 曇 | 任意採集 (ルート①)、ライトトラップ (回収)、ベイトトラップ (回収) | |
| | | 17 日 | 雨 | 任意採集 (ルート①) | |
| | 秋季 | 平成 27 年 9 月 15 日 | 晴 | 任意採集 (ルート①) | 秋季に発生するトンボ類、バッタ類などを確認することができる時期であるため、設定した。 |
| | | 16 日 | 曇 | 任意採集 (ルート②)、ライトトラップ (設置)、ベイトトラップ (設置) | |
| | | 17 日 | 晴 | 任意採集 (ルート①)、ライトトラップ (回収)、ベイトトラップ (回収) | |

表 6.4-4 希少猛禽類の調査実施日

| 時期 | 調査実施日 | 天候 | 調査地点 | | | | | | | | | | | 計 | |
|-----|------------------|------|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑪ | | |
| 繁殖期 | 平成 27 年 5 月 7 日 | 晴 | | | ○ | | | | | ○ | | | | | 2 |
| | 8 日 | 晴 | | | ○ | ○ | | | | | | | | | 2 |
| | 9 日 | 曇 | ○ | | | | | | ○ | | | | | | 2 |
| | 6 月 4 日 | 晴 | | ○ | | | | ○ | | | | | | | 2 |
| | 5 日 | 曇 | ○ | | | | | ○ | | | | | | | 2 |
| | 6 日 | 曇 | | | ○ | | | ○ | | | | | | | 2 |
| | 7 月 1 日 | 雨 | ○ | | | | | ○ | | | | | | | 2 |
| | 2 日 | 晴 | | | | | | ○ | | | | ○ | | | 2 |
| | 3 日 | 曇 | | ○ | | | | ○ | | | | | | | 2 |
| | 8 月 24 日 | 晴 | | | | | | ○ | | | | | ○ | | 2 |
| | 25 日 | 曇 | ○ | | | | | ○ | | | | | | | 2 |
| | 26 日 | 晴 | | ○ | | | | ○ | | | | | | | 2 |
| | 9 月 14 日 | 晴 | | | | | | | | | | ○ | | ○ | 2 |
| | 15 日 | 曇 | | | | | | | ○ | | ○ | | | | 2 |
| | 16 日 | 曇 | | | | | | | ○ | | ○ | | | | 2 |
| | 平成 28 年 2 月 14 日 | 曇後雨 | | | | | | ○ | ○ | | | | | | 2 |
| | 15 日 | 雪 | | | | | | ○ | ○ | | | | | | 2 |
| | 16 日 | 曇時々晴 | | | | | | ○ | ○ | | | | | | 2 |
| | 3 月 5 日 | 晴 | | | | | | | ○ | | ○ | | | | 2 |
| | 6 日 | 曇 | | | | | | | | | ○ | | | ○ | 2 |
| 7 日 | 曇後晴 | | | | | | | ○ | | ○ | | | | 2 | |

表 6.4-5 (1) 希少猛禽類の調査地点の状況

| 実施項目 | 調査地点 | 調査地点の状況 |
|------------------------|------|---|
| 繁殖期生息 確認調査 (定点法) | 地点① | <p><設定理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報整備モデル地区外南側斜面における出現状況を確認するために設定した。 <p><調査地点の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報整備モデル地区外南側の道路上 ・植林皆伐跡地であり、情報整備モデル地区外南側斜面の見通しが良い。  |
| | 地点② | <p><設定理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報整備モデル地区内東側斜面における出現状況を確認するために設定した。 <p><調査地点の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林整備用の作業路上 ・周辺は、落葉広葉樹林及び伐採跡地低木林  |
| | 地点③ | <p><設定理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報整備モデル地区外東側斜面における出現状況を確認するために設定した。 <p><調査地点の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・桜ヶ丘運動公園四阿付近 ・高台となっているため、情報整備モデル地区への視界は開けている。  |

表 6.4-5 (2) 希少猛禽類の調査地点の状況

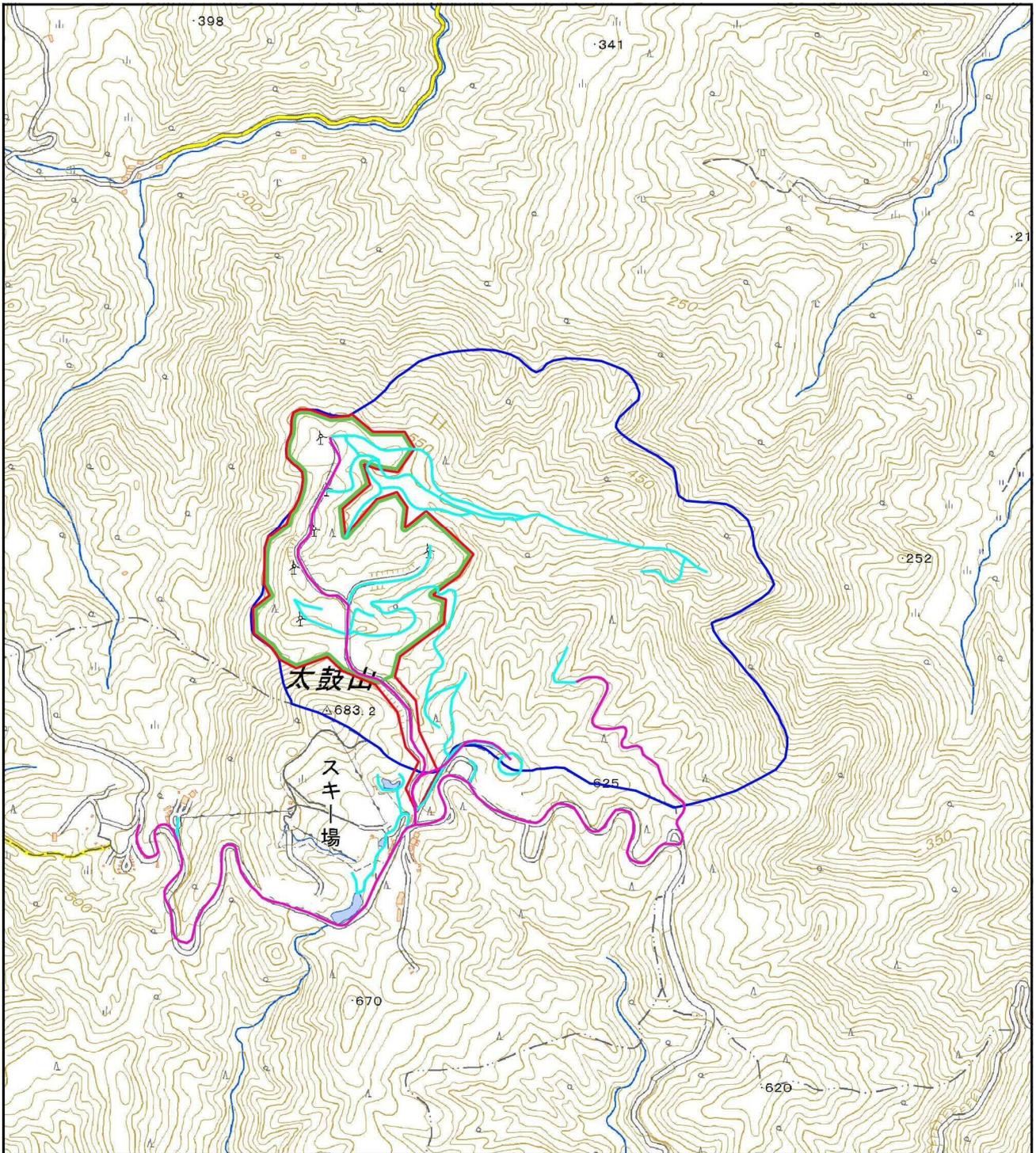
| 実施項目 | 調査地点 | 調査地点の状況 |
|------------------------|------|--|
| 繁殖期生息 確認調査 (定点法) | 地点④ | <p><設定理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報整備モデル地区外北東斜面及び谷合（吉谷）における出現状況を確認するために設定した。 <p><調査地点の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉谷と筒川の合流部の橋上  |
| | 地点⑤ | <p><設定理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報整備モデル地区外北東斜面及び谷合（吉谷）における出現状況を確認するために設定した。 <p><調査地点の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・野村地区集落の東側の道路上 ・手前が水田地帯となっており、吉谷出口付近に設定した地点④よりも、谷奥までの見通しがきく。  |
| | 地点⑥ | <p><設定理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報整備モデル地区外北側斜面における出現状況を確認するために設定した。 <p><調査地点の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・寺領地区集落付近 ・既設風力発電機の一部が見え、情報整備モデル地区上空の状況も確認可能  |

表 6.4-5 (3) 希少猛禽類の調査地点の状況

| 実施項目 | 調査地点 | 調査地点の状況 |
|------------------------|------|--|
| 繁殖期生息 確認調査 (定点法) | 地点⑦ | <p><設定理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報整備モデル地区外北西～西側斜面における出現状況を確認するために設定した。 <p><調査地点の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・碓高原牧場からスイス村へ続く道路上 ・既設風力発電機の一部が見え、情報整備モデル地区上空の状況も確認可能  |
| | 地点⑧ | <p><設定理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報整備モデル地区外北西斜面における出現状況を確認するために設定した。 <p><調査地点の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・寺領地区から碓高原牧場に続く林道上 ・既設風力発電機の一部が見え、情報整備モデル地区上空の状況も確認可能  |
| | 地点⑨ | <p><設定理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査の過程で確認された・・・の繁殖状況を確認するために設定した。 <p><調査地点の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・須川地区内の道路上  |

表 6.4-5 (4) 希少猛禽類の調査地点の状況

| 実施項目 | 調査地点 | 調査地点の状況 |
|-----------------|------|---|
| | 地点⑩ | <p><設定理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 調査の過程で確認された・・・・・・の繁殖状況を確認するために設定した。 <p><調査地点の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> 須川地区内の道路上  |
| 繁殖期生息確認調査 (定点法) | 地点⑪ | <p><設定理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 情報整備モデル地区外北西～西側斜面における出現状況を確認するために設定した。 <p><調査地点の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> 碓高原牧場からスイス村へ続く道路上 既設風力発電機の一部が見え、情報整備モデル地区上空の状況も確認可能  |



凡例

— 昼間調査ルート

— 昼間調査及び夜間調査ルート(コウモリ類含む)

□ 対象事業実施区域

□ 風力発電機設置範囲

□ 情報整備モデル地区

250 0 250 500 750 m

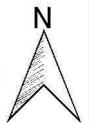
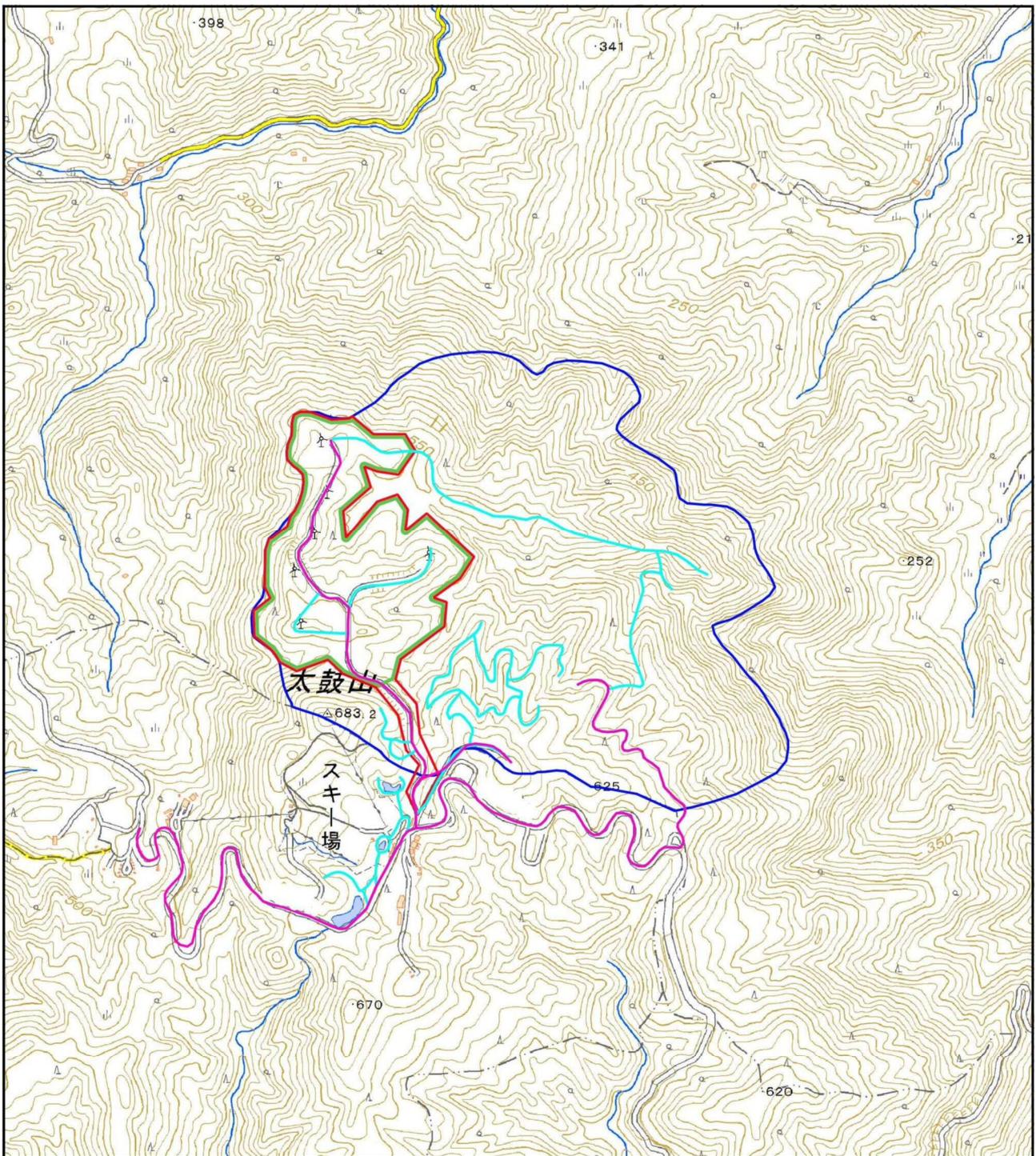


図 6.4-1 哺乳類調査ルート【春季】



凡例

— 昼間調査ルート

— 昼間調査及び夜間調査ルート(コウモリ類含む)

□ 対象事業実施区域

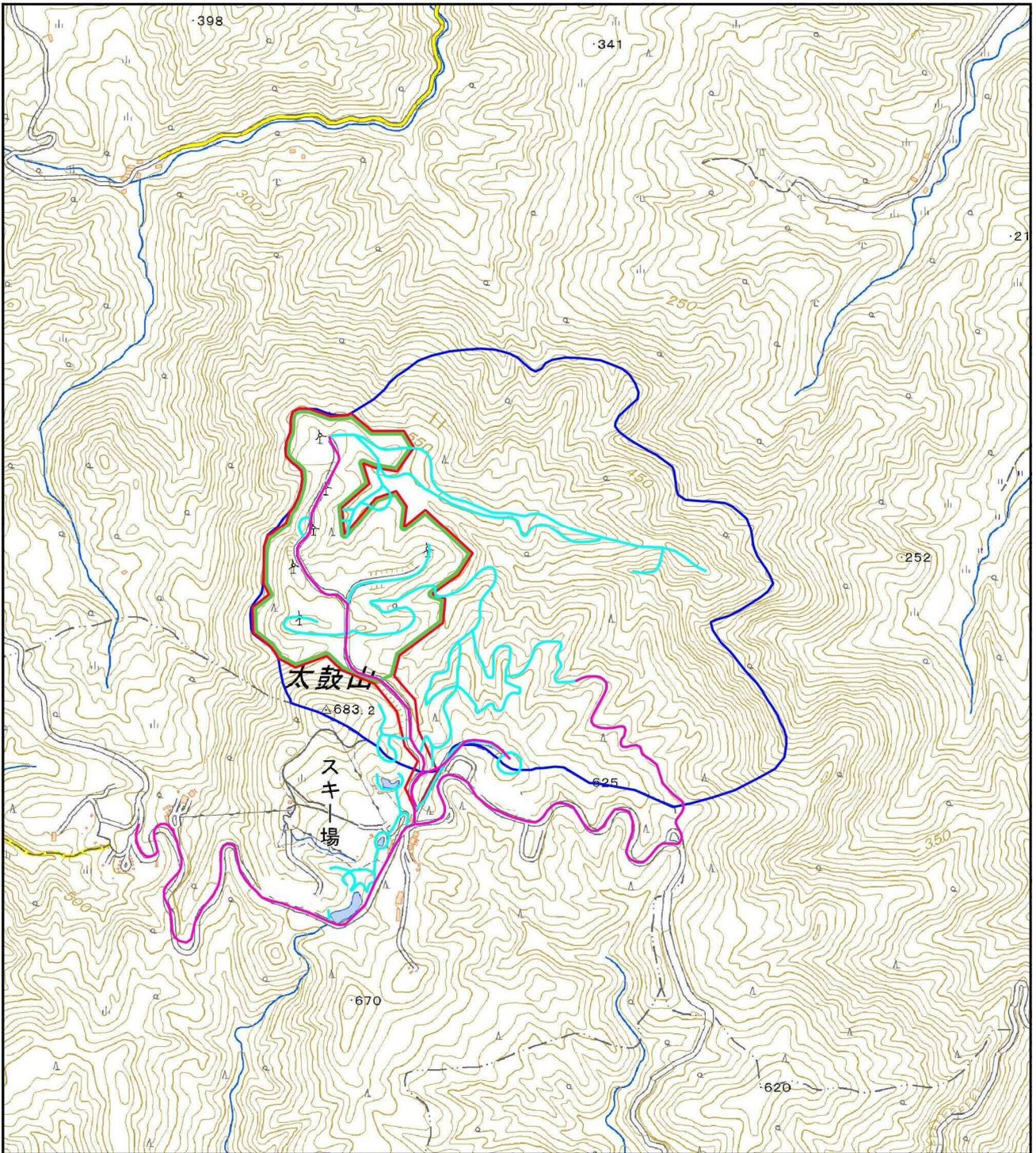
□ 風力発電機設置範囲

□ 情報整備モデル地区

250 0 250 500 750 m



図 6.4-2 哺乳類調査ルート【夏季】



凡例

— 昼間調査ルート

— 昼間調査及び夜間調査ルート(コウモリ類含む)

□ 対象事業実施区域

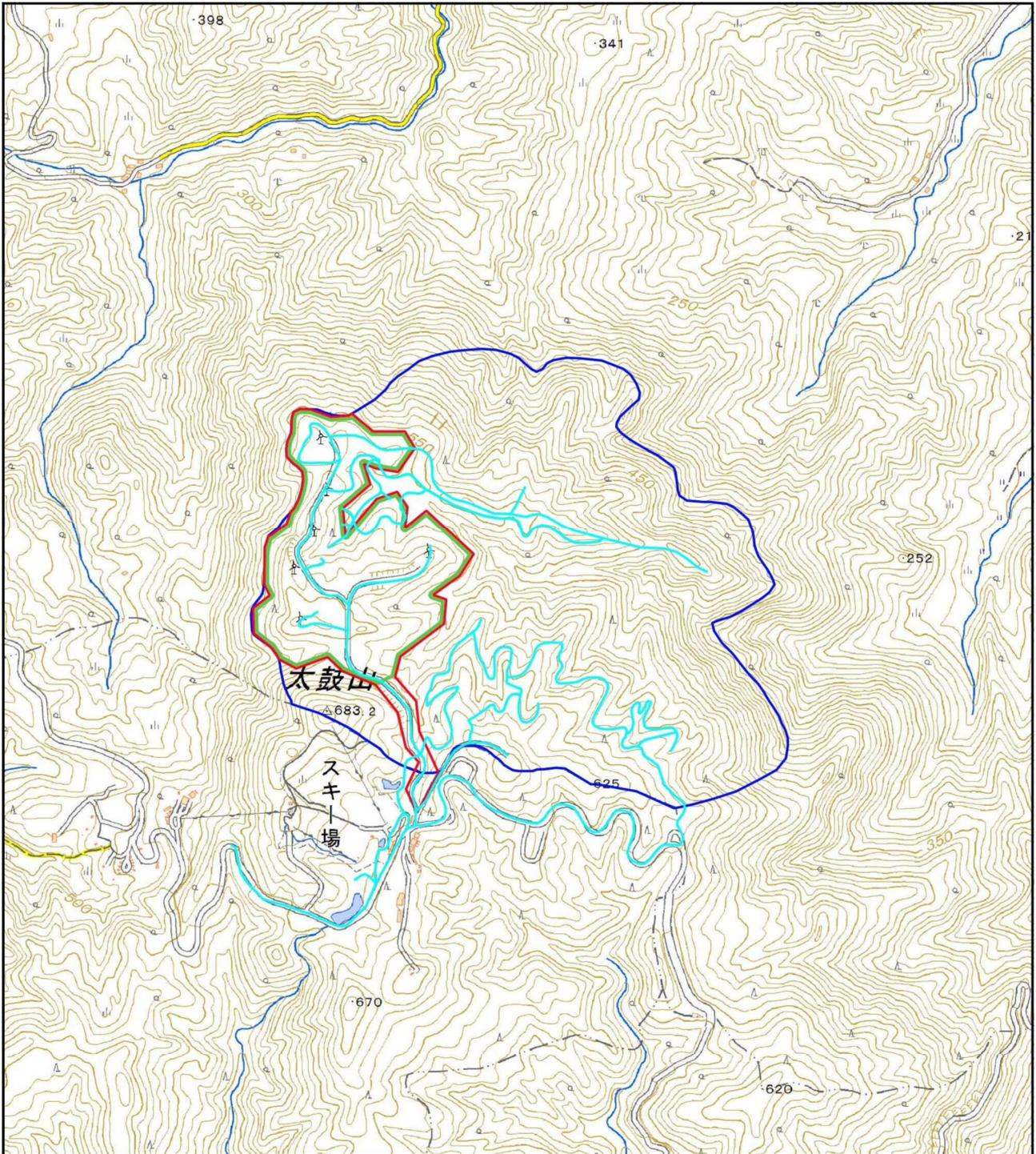
□ 風力発電機設置範囲

□ 情報整備モデル地区

250 0 250 500 750 m



図 6.4-3 哺乳類調査ルート【秋季】



凡例

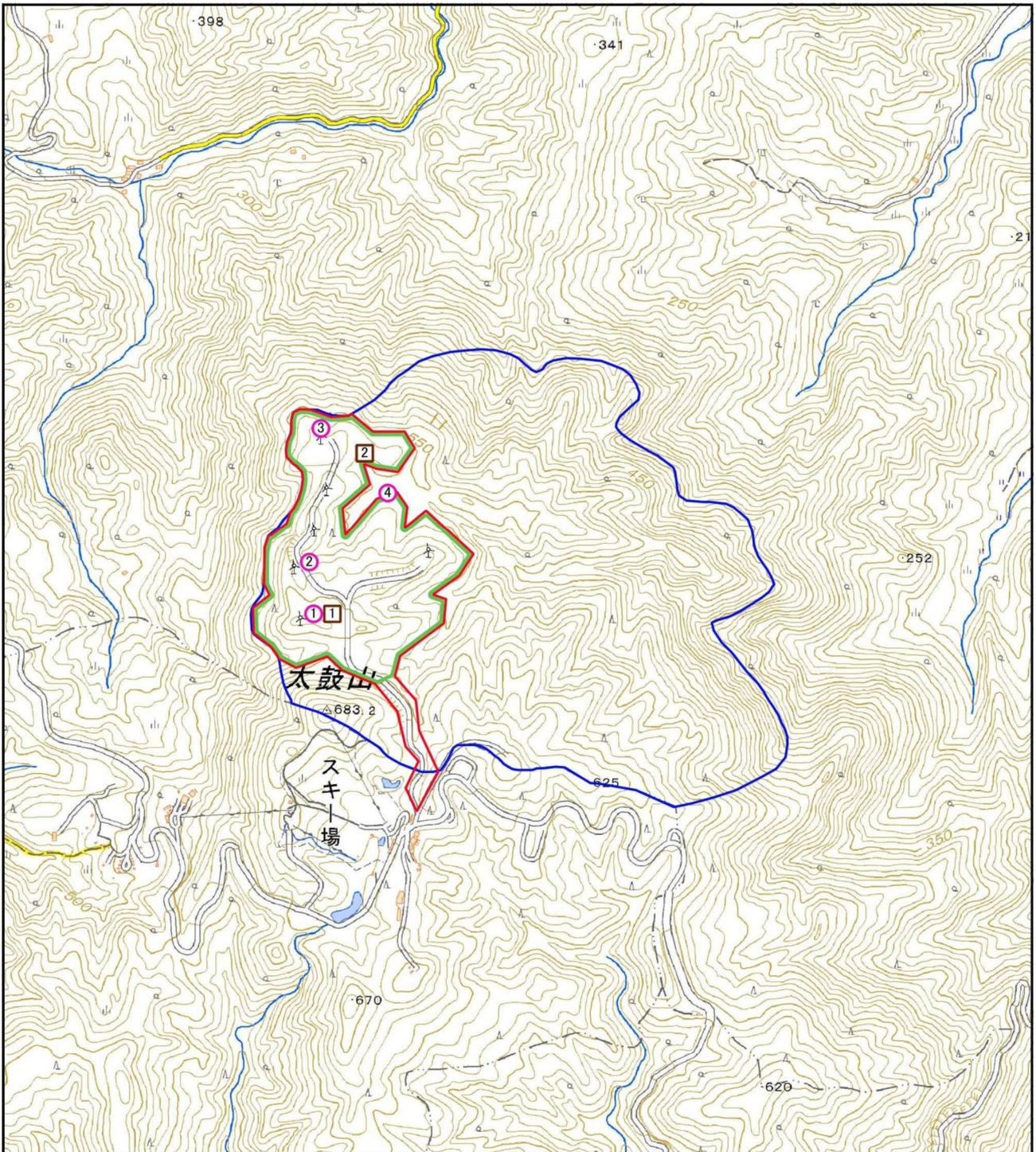
調査ルート

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 情報整備モデル地区

250 0 250 500 750 m



図 6.4-4 哺乳類調査ルート【冬季】



凡例

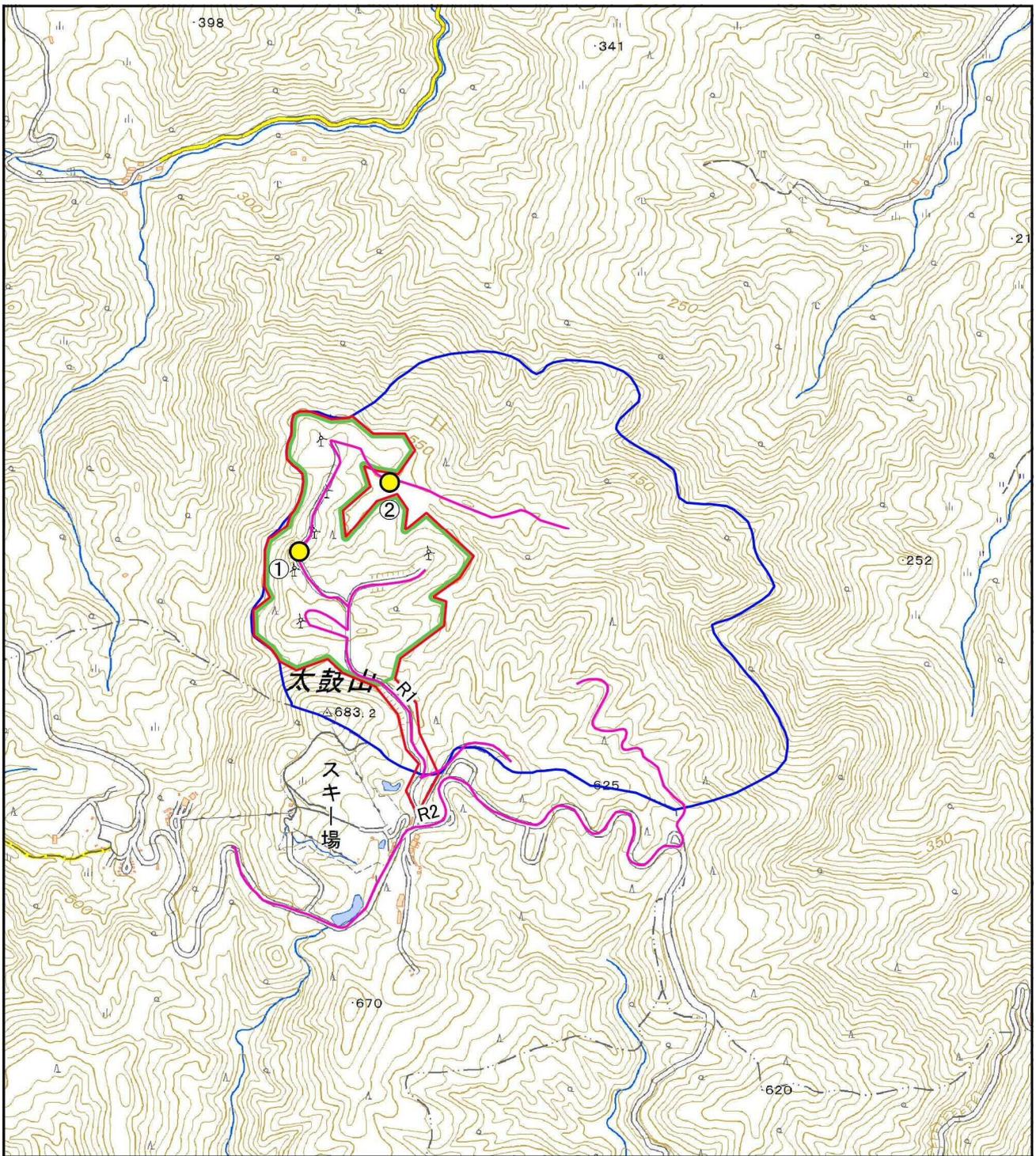
- 数字 トラップ:4地点
- 数字 無人撮影:2地点

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 情報整備モデル地区

250 0 250 500 750 m



図 6.4-5 哺乳類トラップ調査地点



凡例

- 鳥類定点センサス地点
- センサスルート

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 情報整備モデル地区

250 0 250 500 750 m

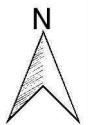
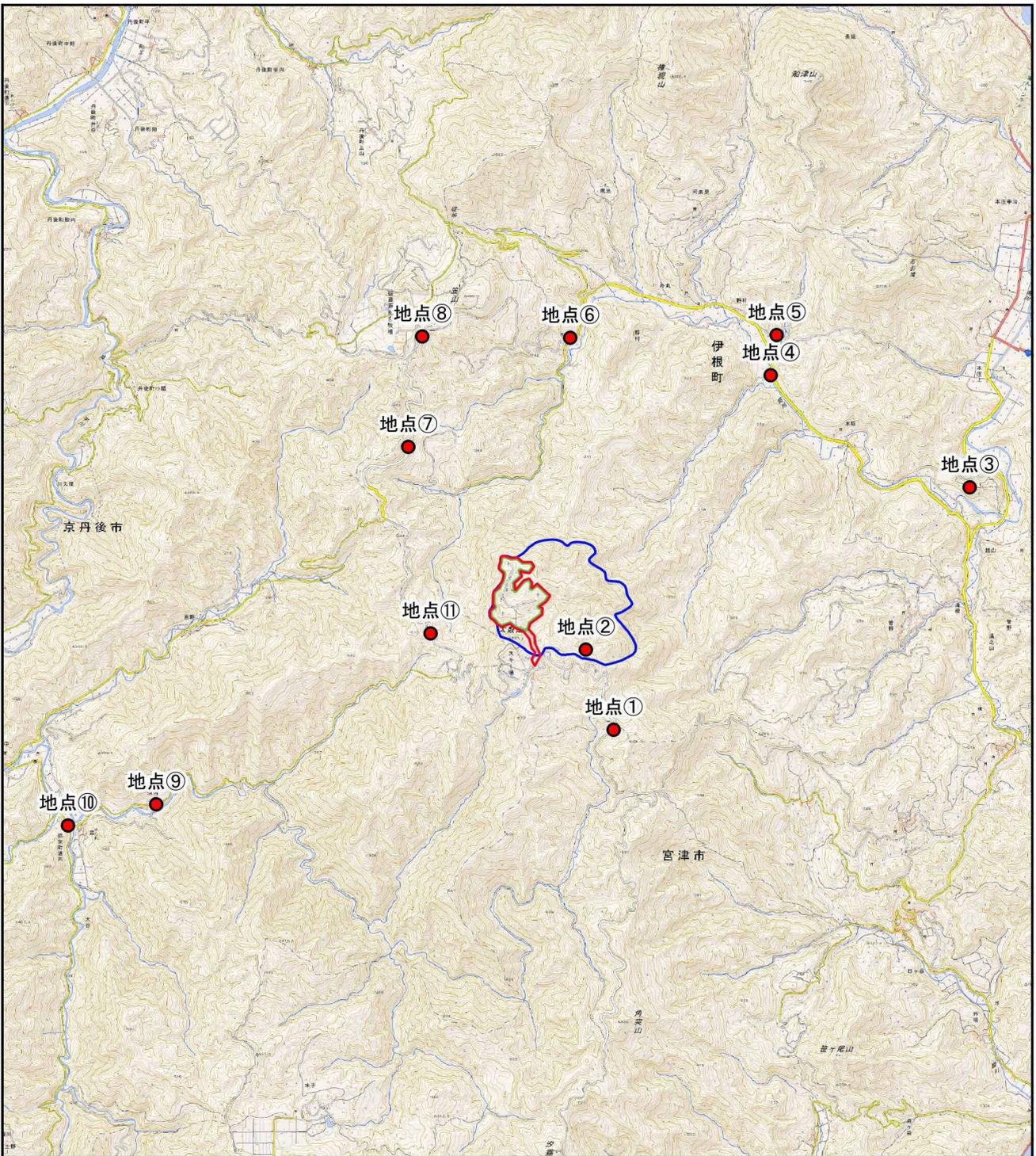


図 6.4-6 鳥類センサス調査地点



凡例

● 調査定点

□ 対象事業実施区域

□ 風力発電機設置範囲

□ 情報整備モデル地区

1000 0 1000 2000 m

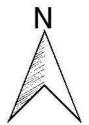
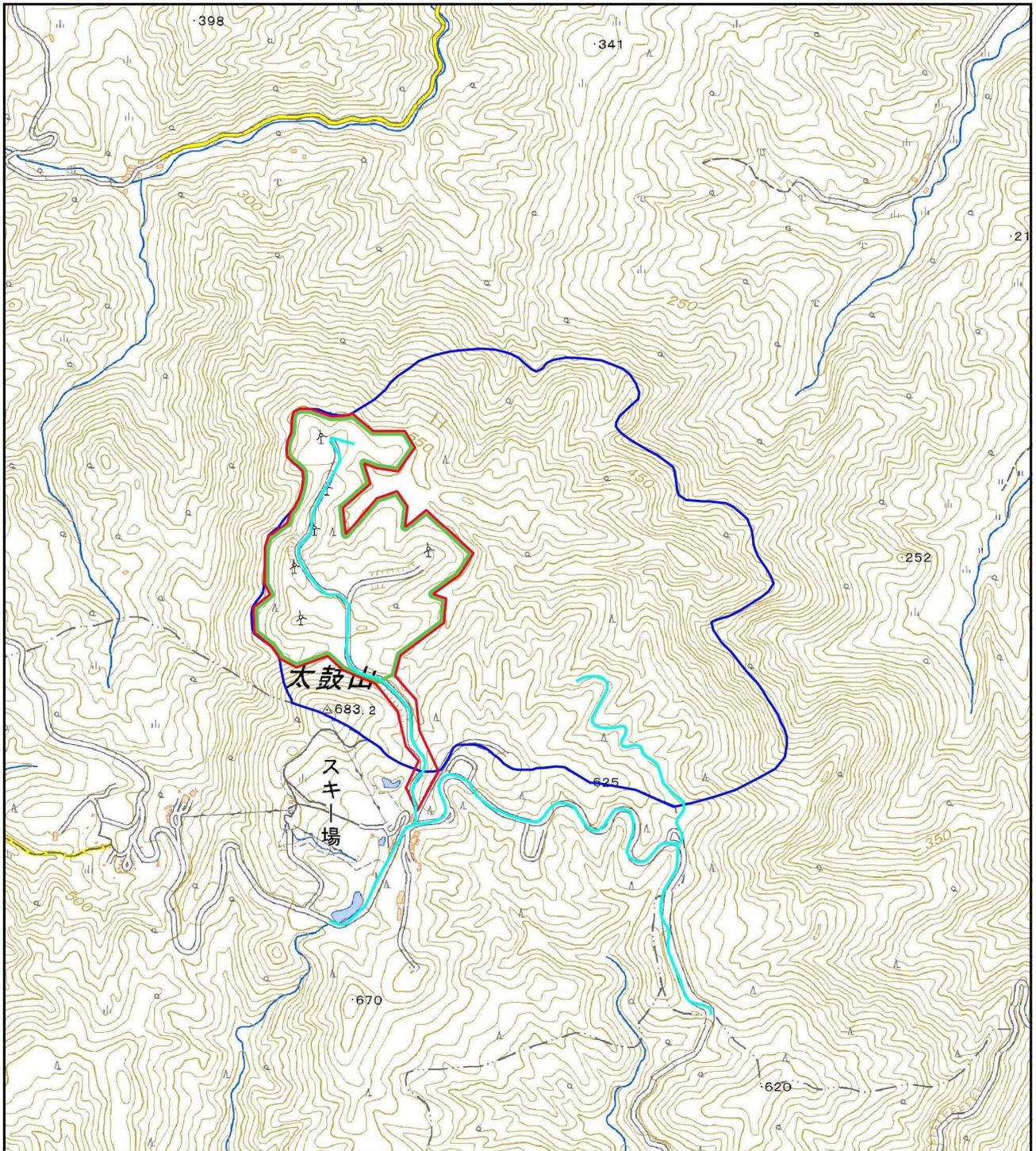


図 6.4-7 希少猛禽類調査定点



凡例

— 任意調査ルート

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 情報整備モデル地区

250 0 250 500 750 m

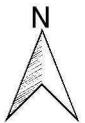
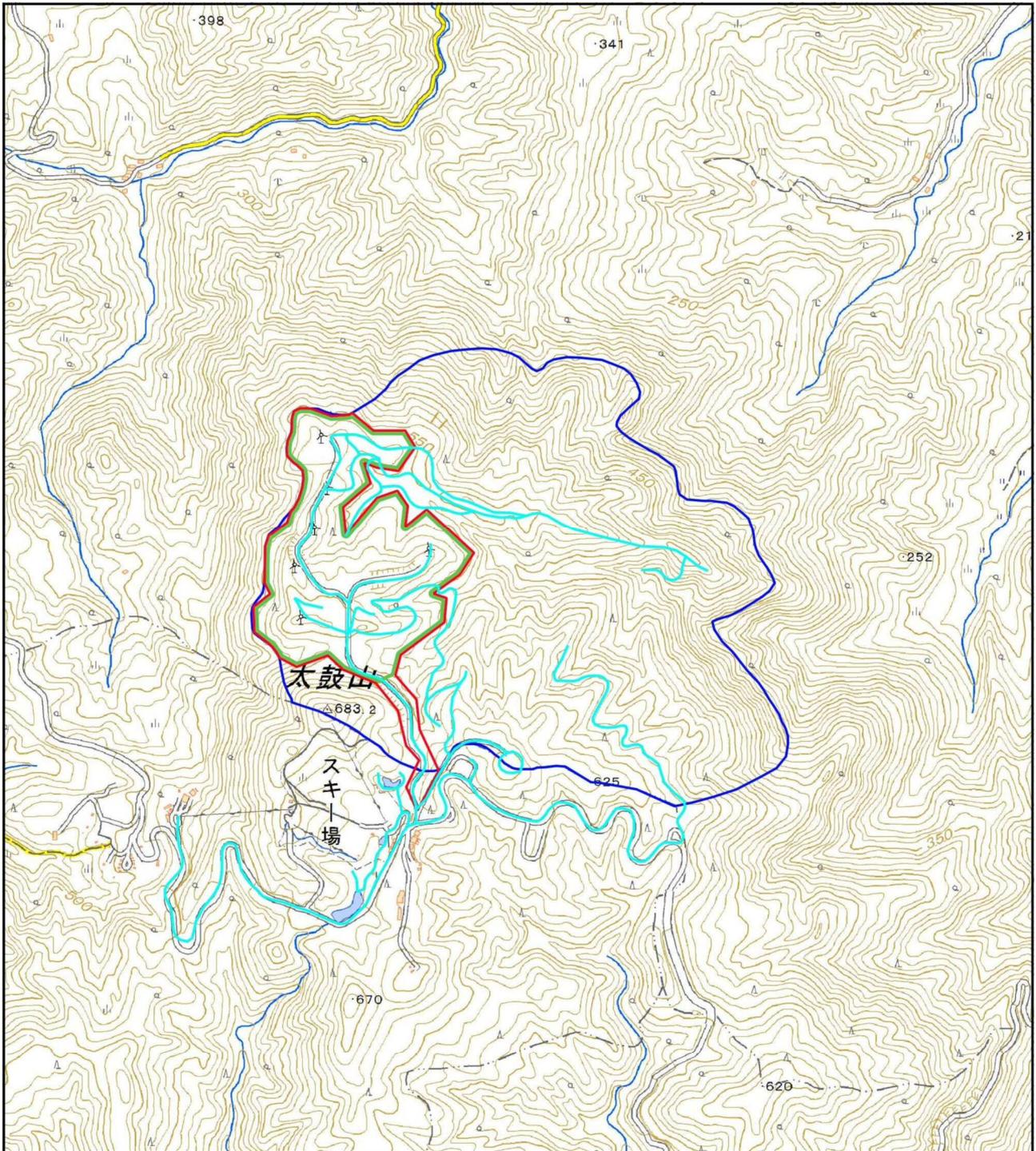


図 6.4-8 鳥類任意調査ルート



凡例

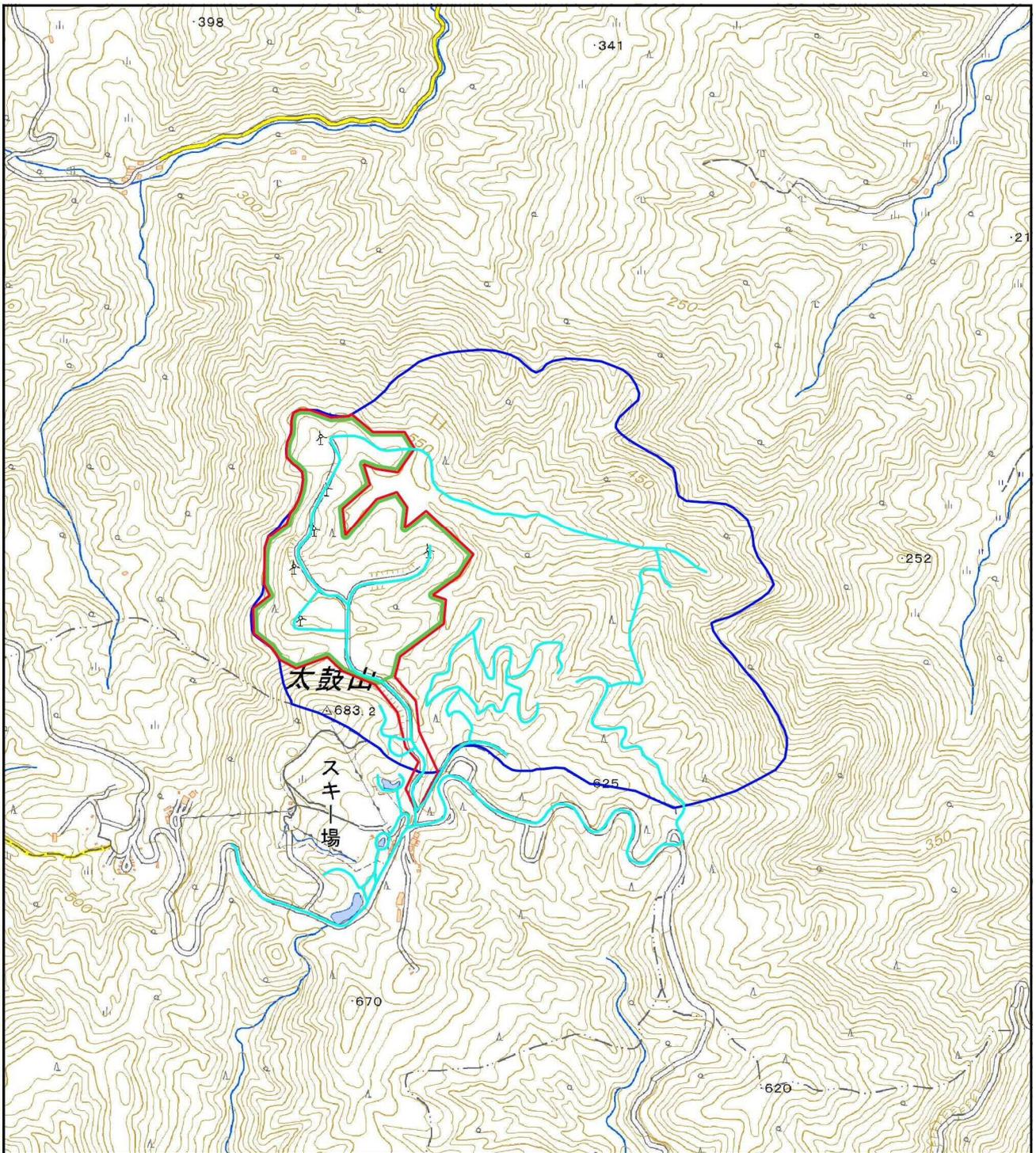
— 調査ルート

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 情報整備モデル地区

250 0 250 500 750 m



図 6.4-9 爬虫類・両生類調査ルート【春季】



凡例

— 調査ルート

□ 対象事業実施区域

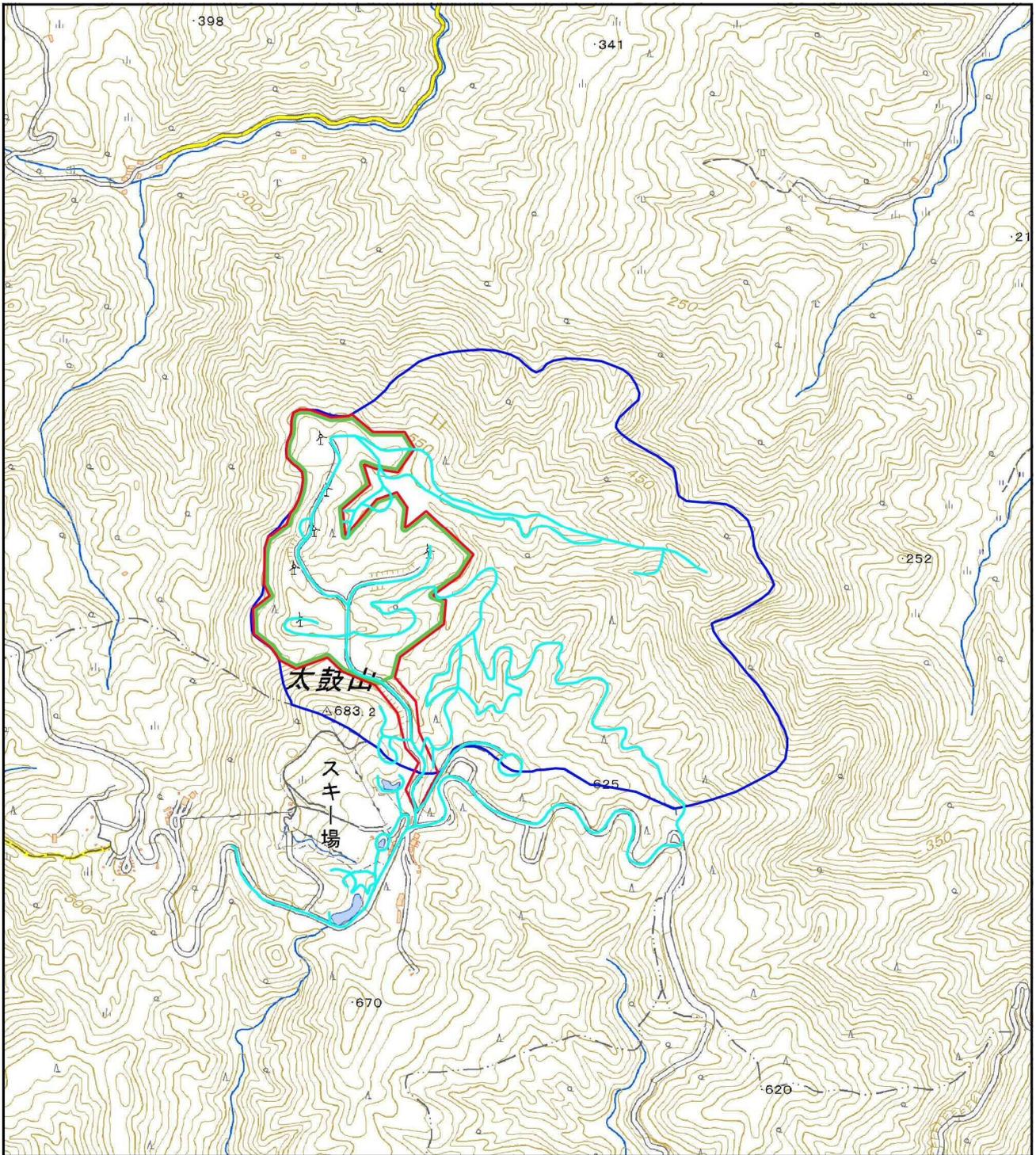
□ 風力発電機設置範囲

□ 情報整備モデル地区

250 0 250 500 750 m



図 6.4-10 爬虫類・両生類調査ルート【夏季】



凡例

— 調査ルート

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 情報整備モデル地区

250 0 250 500 750 m

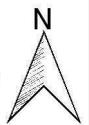
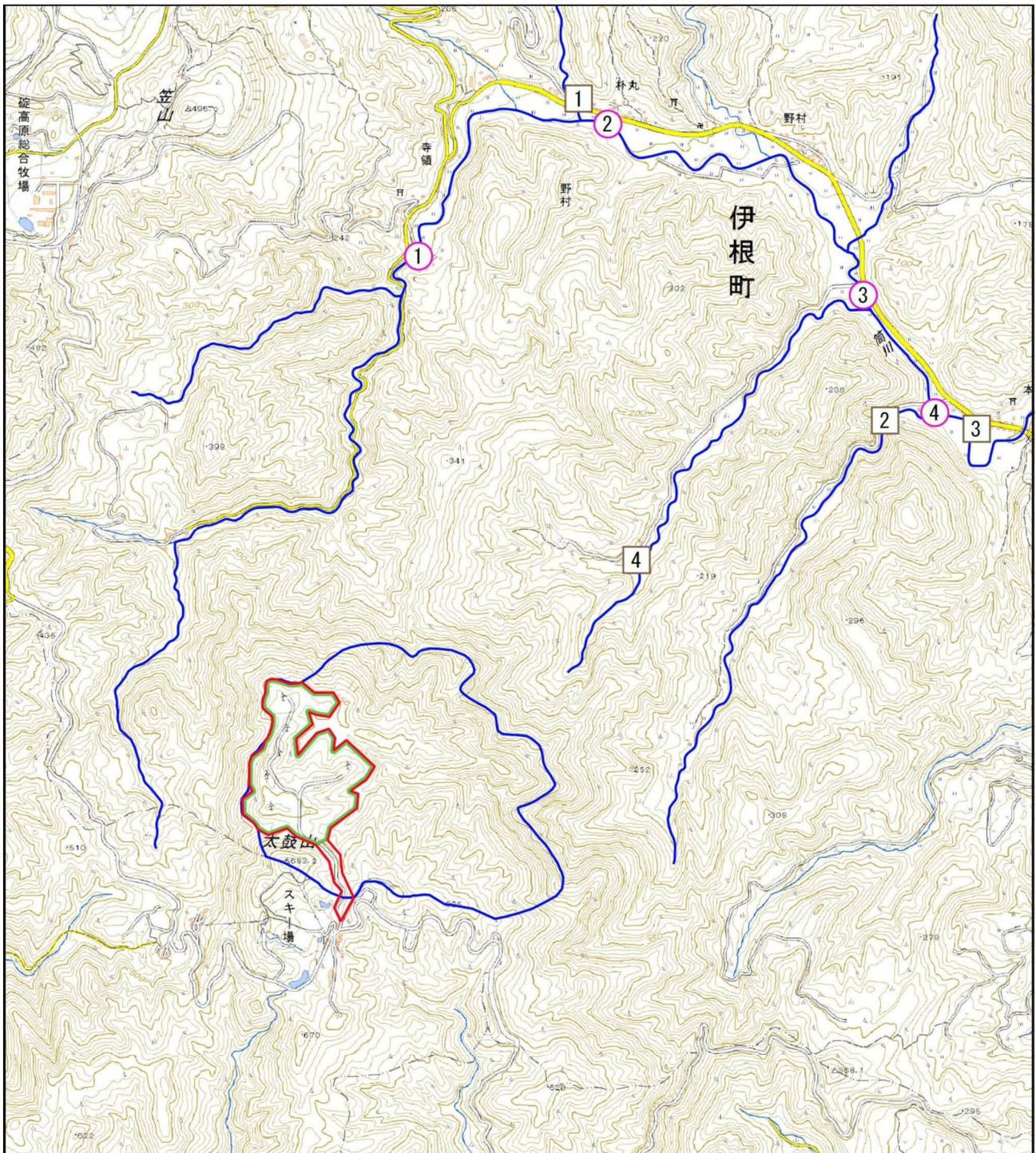


図 6.4-11 爬虫類・両生類調査ルート【秋季】



凡例

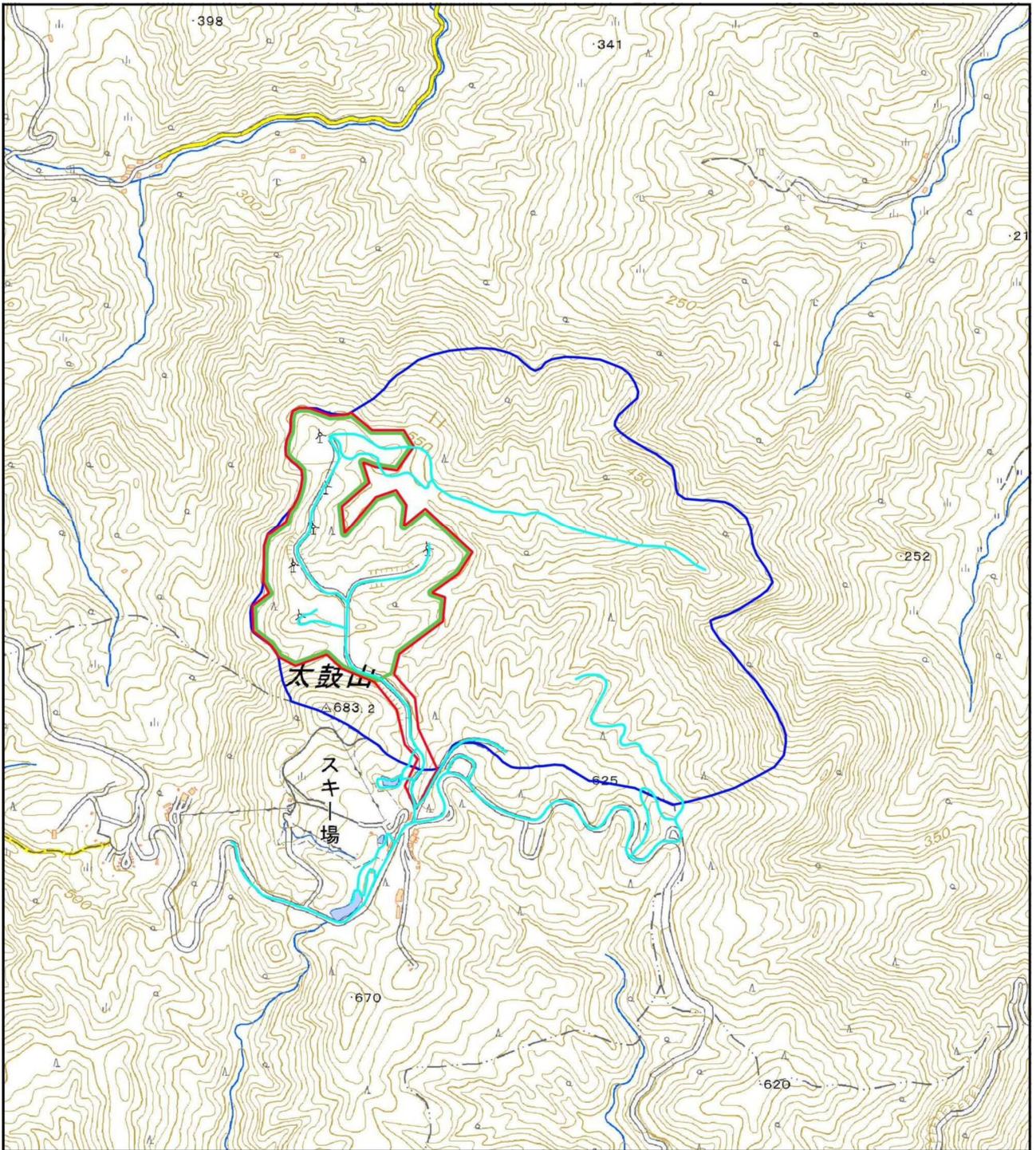
- 数字 捕獲調査地点
- 数字 任意採集地点
- 調査対象河川等

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 情報整備モデル地区

250 0 250 500 750 1000 m



図 6.4-12 魚類調査地点位置図



凡例

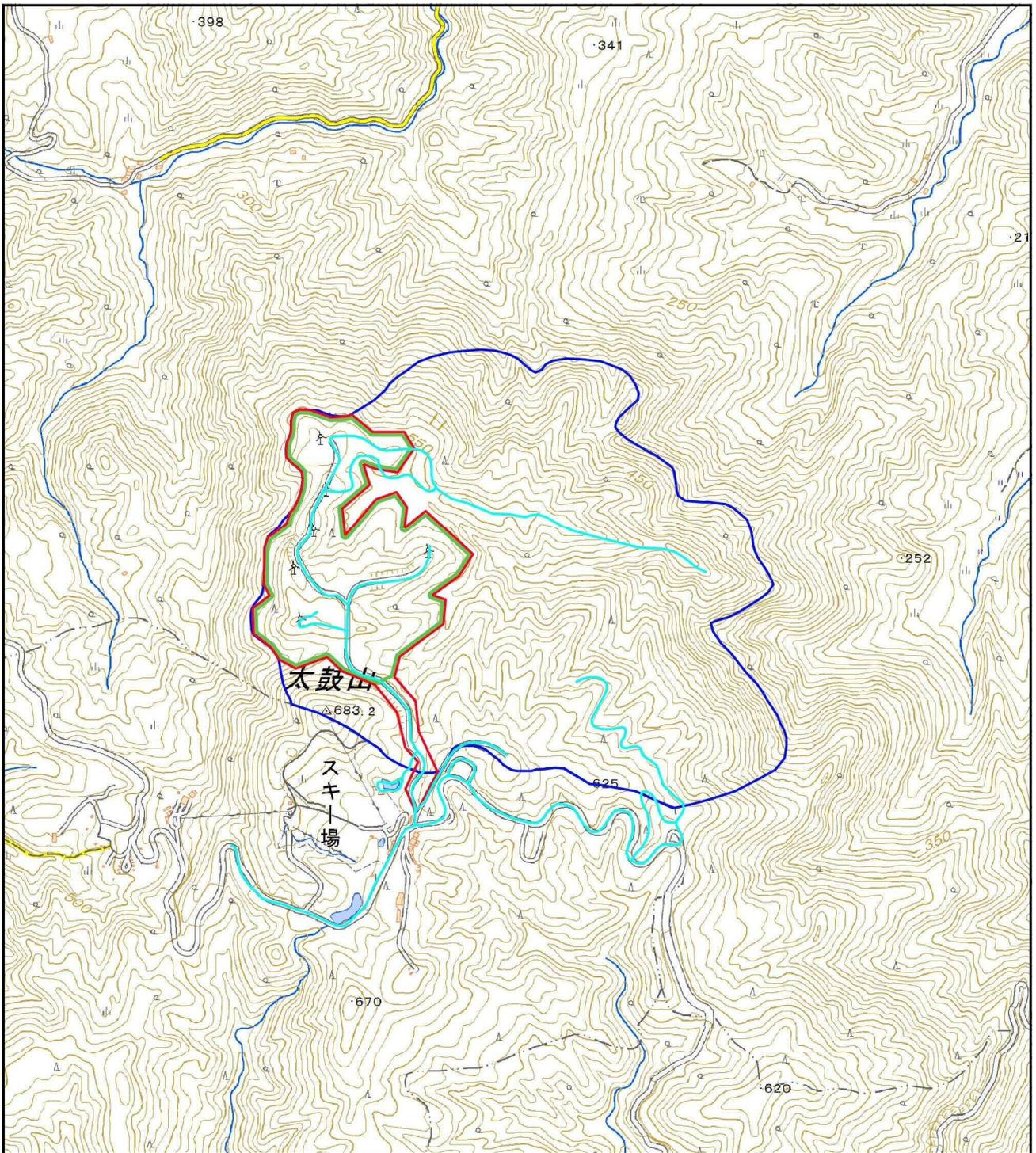
調査ルート

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 情報整備モデル地区

250 0 250 500 750 m



図 6.4-13 昆虫類調査ルート図【春季】



凡例

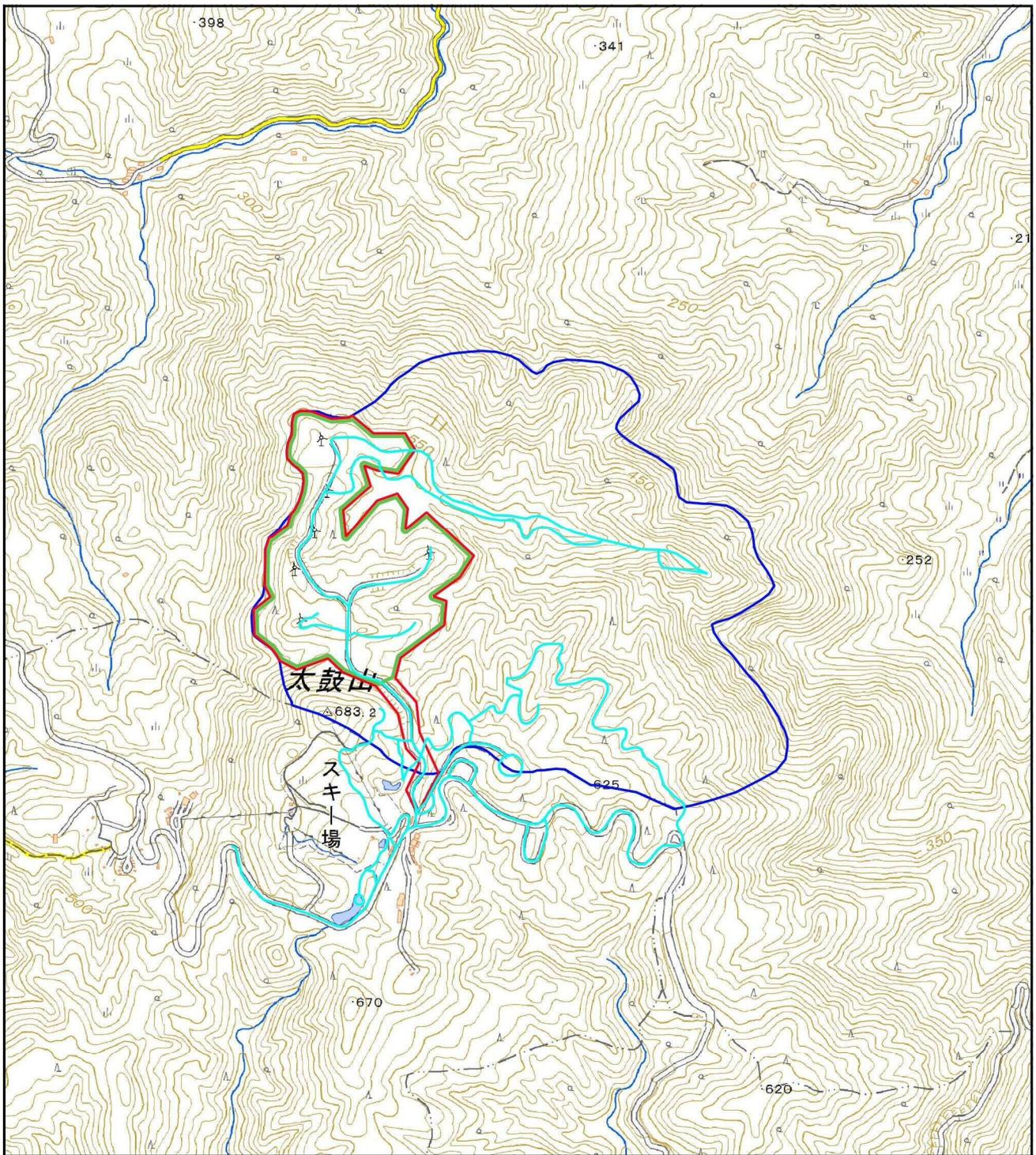
調査ルート

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 情報整備モデル地区

250 0 250 500 750 m



図 6.4-14 昆虫類調査ルート図【夏季】



凡例

調査ルート

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 情報整備モデル地区

250 0 250 500 750 m

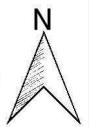
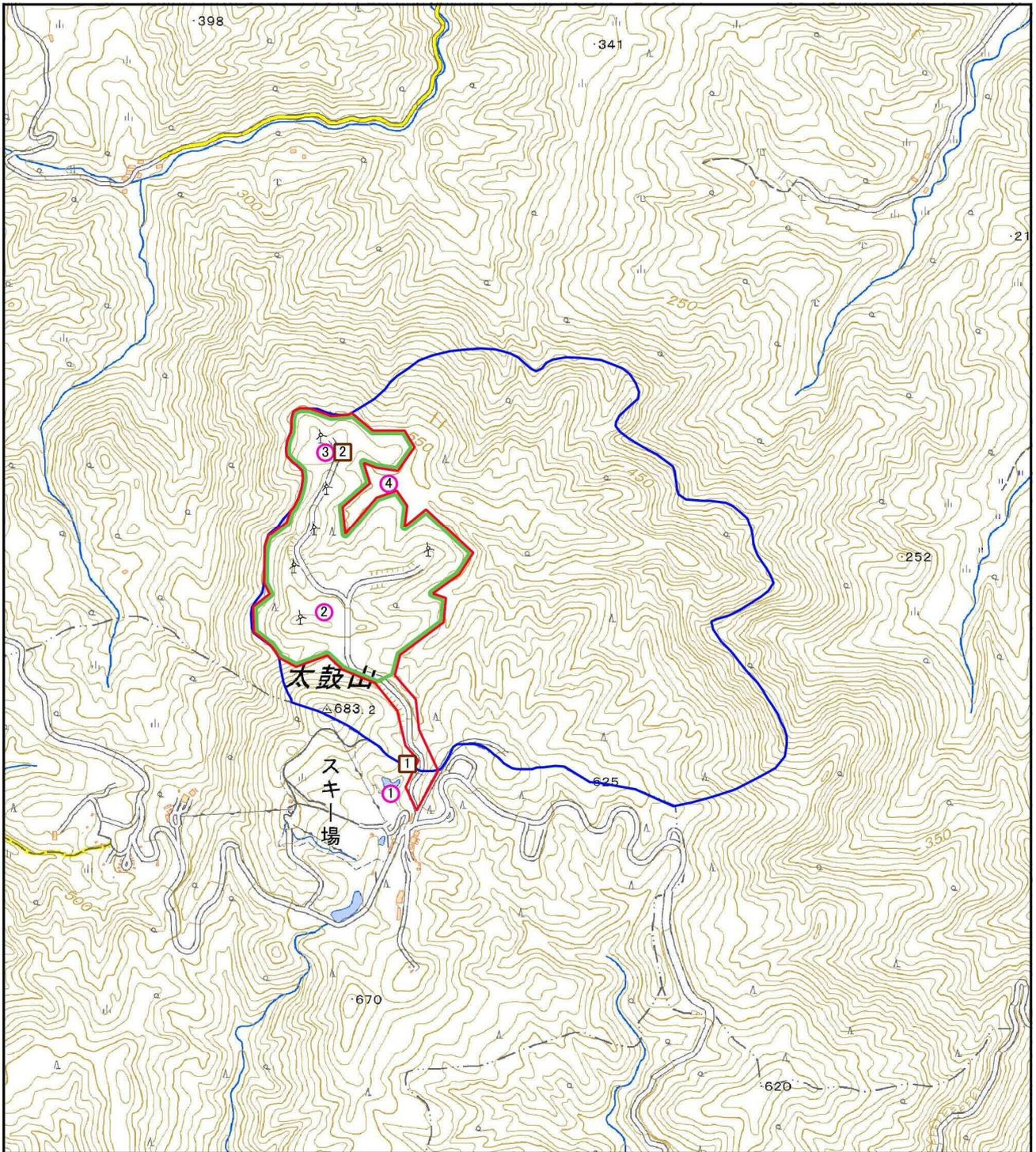


図 6.4-15 昆虫類調査ルート図【秋季】



凡例

- 数字 バイトトラップ:4地点
- 数字 ライトトラップ:2地点

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 情報整備モデル地区

250 0 250 500 750 m



図 6.4-16 昆虫類トラップ調査地点

6.5 植物

植物に係る調査、予測及び評価の手法及び選定理由を表6.5-1に、調査地点を図6.5-1から図6.5-5に示す。

表 6.5-1 (1) 植物に係る調査、予測及び評価の手法

| 項目 | | 影響要因 の区分 | 調査、予測及び評価の手法 | 選定理由 |
|-------------|---------------------------|--------------------------------|--|--|
| 環境要素 の区分 | | | | |
| 植物 | 重要な種及び重要な群落（海域に生育するものを除く） | 造成等の施工による一時的な影響 地形変化及び施設の影響 | 1. 調査すべき情報 (1) 種子植物その他主な植物に関する植物相及び植生の状況 (2) 重要な種及び重要な群落の分布、生育状況及び生育環境の状況 | 現状の植物の生育環境の現状を把握するため。 |
| | | | 2. 調査の基本的な手法 (1) 植物相及び植生の状況 情報整備モデル事業において現地調査がなされていることから、当該情報の整理を行う。 情報整備モデル事業における調査手法を以下に示す。なお、各項目の調査の詳細は表6.5-2に示すとおりである。 a. 植物相 踏査による目視確認 b. 植生 ブラウンプランケの植物社会学的植生調査法 (2) 重要な種及び重要な群落の分布、生育状況及び生育環境の状況 「(1) 植物相及び植生の状況」の現地調査結果から、重要な種及び重要な群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況を整理する。 | 「道路環境影響評価の技術手法」（平成24年 独立行政法人土木研究所）等に記載されている一般的な手法とする。 |
| | | | 3. 調査地域 対象事業実施区域及びその周囲とする。 | 工事の実施及び施設の稼働による影響が及ぶおそれのある地域とした。 |
| | | | 4. 調査地点 情報整備モデル事業における基本的な踏査ルート及び調査地点を図6.5-1から図6.5-5に示す。 | 情報整備モデル地区内の風車立地を考慮し、尾根地形を中心とするとともに、さまざまな環境類型区分が含まれるような踏査ルート及び地点とした。また、調査地点について専門家等にヒアリングを行い、必要に応じて調査地点を追加した。 |
| | | | 5. 調査期間等 情報整備モデル事業における調査期間等を以下に示す。なお、各項目の調査期間等の詳細は表6.5-3に示すとおりである。 a. 植物相 4回（早春季、春季、夏季、秋季）とする。 b. 植生 初夏～初秋に1回とする。 | 「河川水辺の国勢調査マニュアル」等に記載されている一般的な調査期間等とした。また、調査期間等について専門家等にヒアリングを行い、必要に応じて調査期間等を追加した。 |

表 6.5-1 (2) 植物に係る調査、予測及び評価の手法

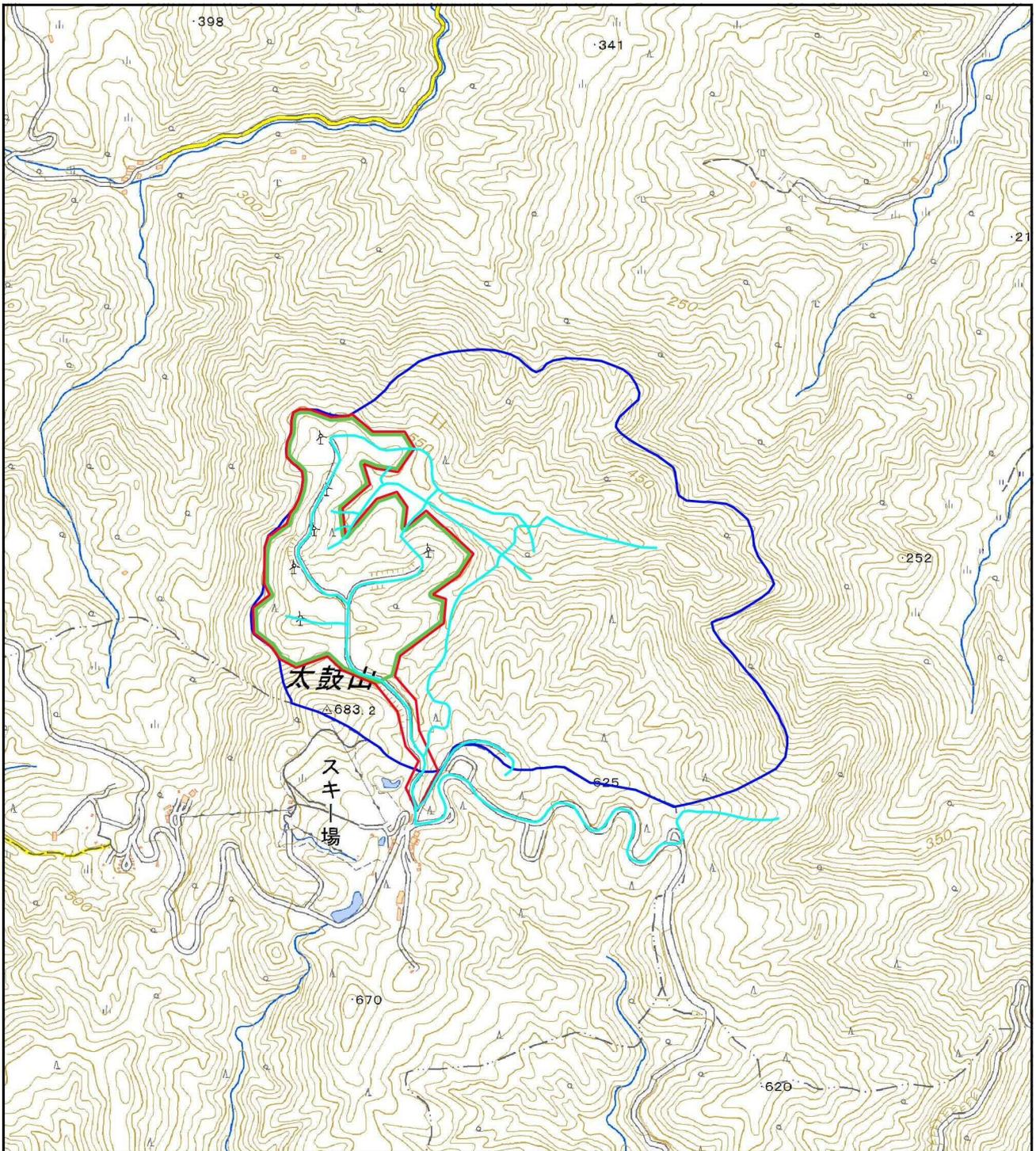
| 項目 | | 影響要因 の区分 | 調査、予測及び評価の手法 | 選定理由 |
|-------------|---------------------------|--------------------------------|--|--|
| 環境要素 の区分 | | | | |
| 植物 | 重要な種及び重要な群落（海域に生育するものを除く） | 造成等の施工による一時的な影響 地形改変及び施設の存在 | 6. 予測の基本的な手法 重要な種及び重要な群落について、情報整備モデル事業における調査結果を整理し、事業による分布又は生育環境の改変の程度を把握した上で、改変エリア図と分布図との重ね合わせ図に基づく解析によって予測する。 | 影響の程度や種類に応じて、環境影響の量的又は質的な変化の程度を予測するための手法とした。 |
| | | | 7. 予測地域 調査地域と同様とする。 | 植物に係る環境影響を受けるおそれがある地域とした。 |
| | | | 8. 予測対象時期等 (1) 造成等の施工による一時的な影響 造成等の施工による一時的な影響が最大となる時期とする。 (2) 地形改変及び施設の存在 風力発電所の運転が定常状態となり、植物の生育状況が安定する時期とする。 | 植物に係る環境影響を的確に予測できる時期とした。 |
| | | | 9. 評価の手法 対象事業の実施に伴う重要な種及び重要な群落に係る環境影響が、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減されているか、必要に応じて環境保全についての配慮が適正になされているか検討する。 | 「環境影響評価等についての技術的事項に関する指針」（平成11年 京都府告示第276号）に示される手法とした。 |

表 6.5-2 植物に係る調査内容の詳細

| 調査項目 | 調査手法 | 調査内容の詳細 |
|------|-----------------------|---|
| 植物相 | 踏査による目視確認 | 重要種は確認位置及び個体数、生育環境を記録し、GPSにより生育地の位置情報を取得した。また、確認地点等は1/10,000の地形図に記録した。 |
| 植生 | ブラウーンブランケの植物社会学的植生調査法 | ブラウーンブランケの植物社会学的植生調査法により実施した。モデル地区内における代表的な植生を選定して、調査区を設定し、調査区毎に階層構造、出現種数、被度、群度等を記録したほか、断面模式図を作成した。 |

表 6.5-3 植物に係る調査期間等の詳細

| 調査項目 | 時期 | 調査実施日 | 天候 | 調査内容 | 調査時期の設定根拠 |
|------|-----|------------------|----|------|--|
| 植物 | 早春季 | 平成 27 年 4 月 23 日 | 晴 | 任意踏査 | 春植物を確認することができる時期であるため、設定した。 |
| | | 24 日 | 晴 | 任意踏査 | |
| | 春季 | 平成 27 年 5 月 27 日 | 晴 | 任意踏査 | ラン科などの一部の植物が開花し、同定しやすい時期であるため、設定した。 |
| | | 28 日 | 曇 | 任意踏査 | |
| | | 29 日 | 晴 | 任意踏査 | |
| | 夏季 | 平成 27 年 7 月 15 日 | 晴 | 任意踏査 | イネ科、カヤツリグサ科の植物の開花・結実期であり、同定しやすい時期であるため、設定した。 |
| | | 16 日 | 曇 | 任意踏査 | |
| | | 17 日 | 雨 | 任意踏査 | |
| | 秋季 | 平成 27 年 9 月 14 日 | 晴 | 任意踏査 | |
| | | 15 日 | 晴 | 任意踏査 | |
| | | 16 日 | 曇 | 任意踏査 | |
| | | 17 日 | 晴 | 任意踏査 | |



凡例

調査ルート

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 情報整備モデル地区

250 0 250 500 750 m

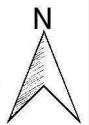
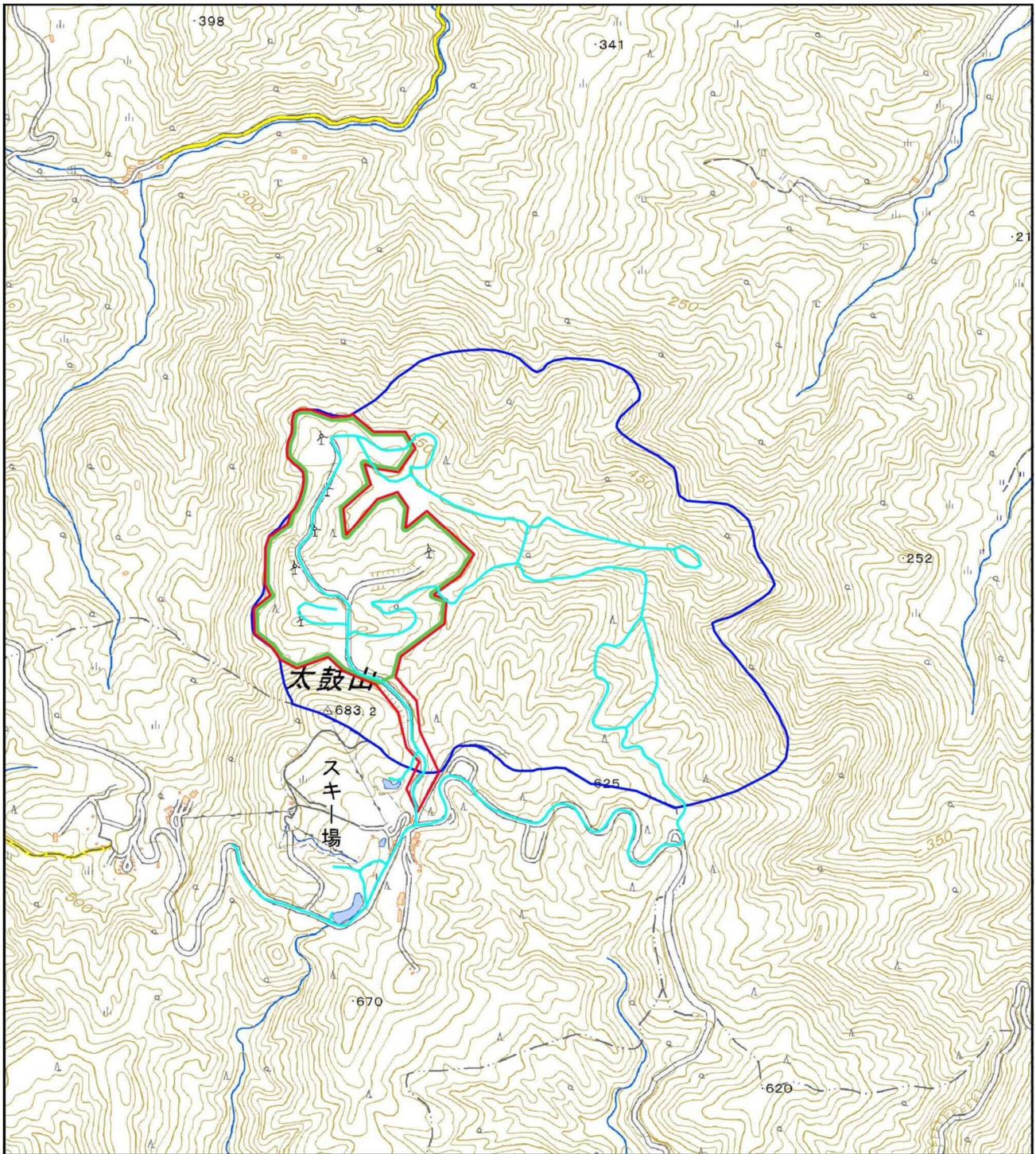


図 6.5-1 植物調査ルート図【早春季】



凡例

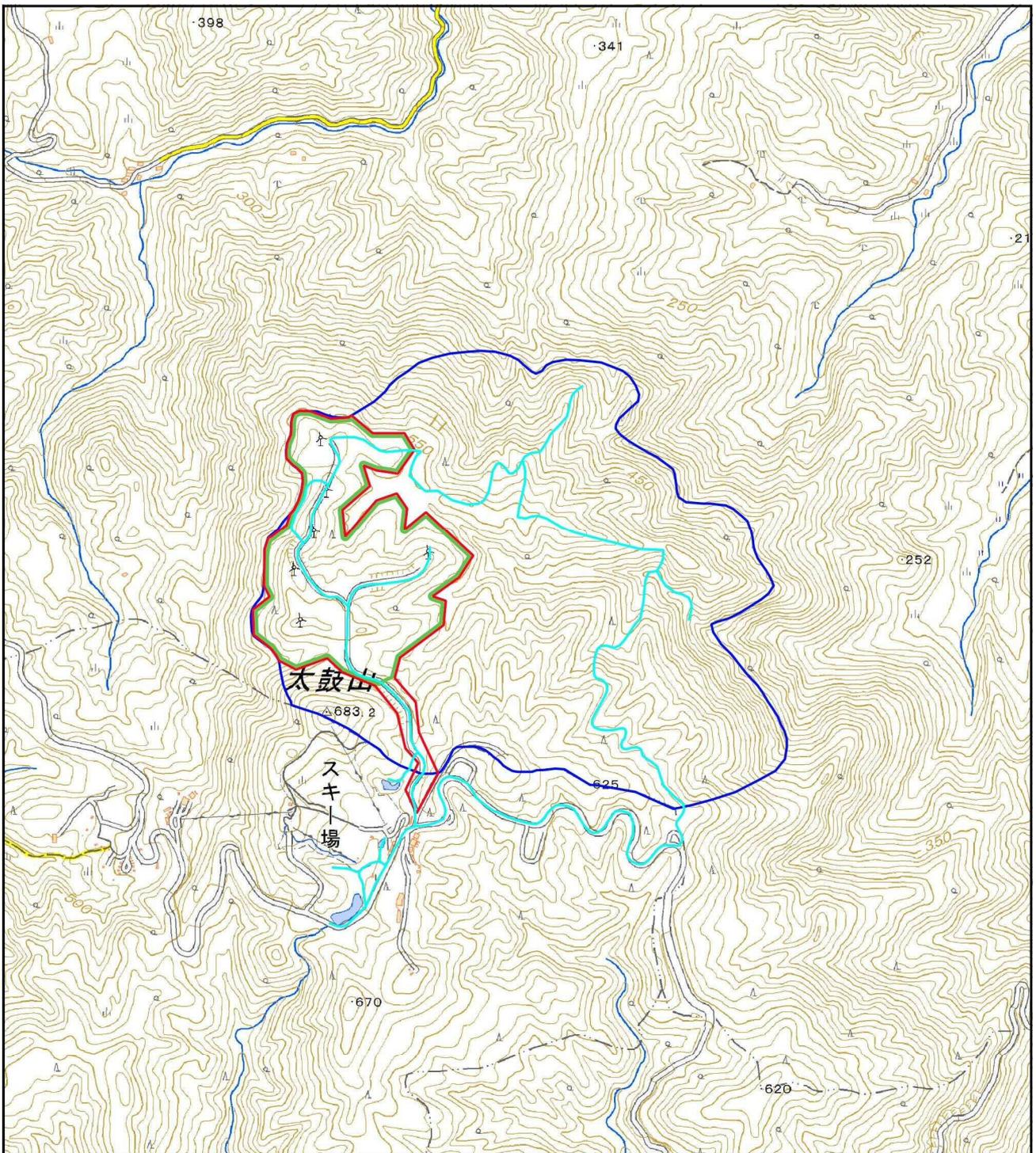
調査ルート

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 情報整備モデル地区

250 0 250 500 750 m



図 6.5-2 植物調査ルート図【春季】



凡例

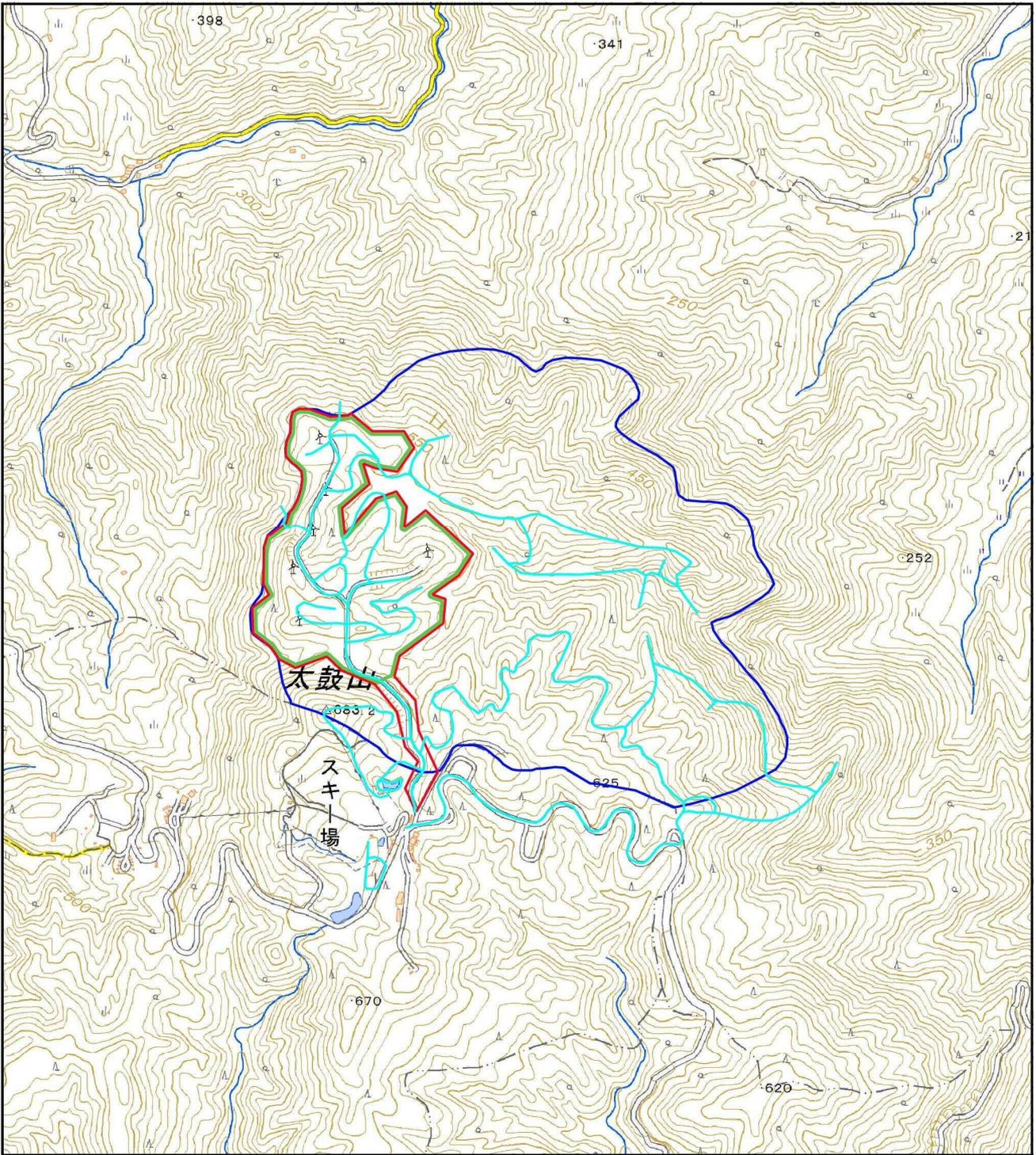
— 調査ルート

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 情報整備モデル地区

250 0 250 500 750 m



図 6.5-3 植物調査ルート図【夏季】



凡例

— 調査ルート

□ 対象事業実施区域

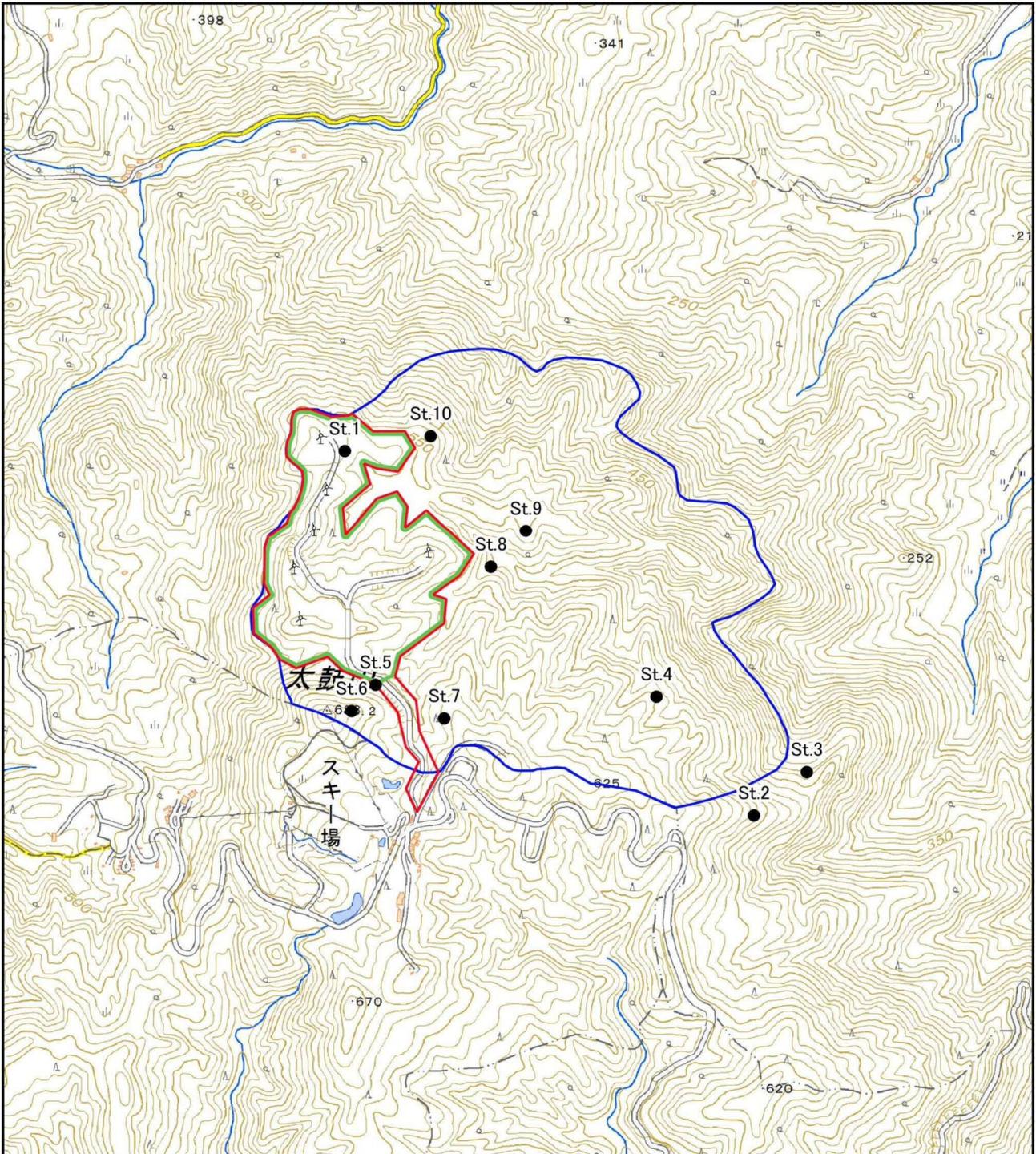
□ 風力発電機設置範囲

□ 情報整備モデル地区

250 0 250 500 750 m



図 6.5-4 植物調査ルート図【秋季】



凡例

● コドラート調査地点

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 情報整備モデル地区

250 0 250 500 750 m



図 6.5-5 コドラート調査地点図

6.6 景観

景観に係る調査、予測及び評価の手法及び選定理由を表6.6-1に、調査地点を図6.6-1に示す。

表 6.6-1 (1) 景観に係る調査、予測及び評価の手法

| 項目 | | 影響要因 の区分 | 調査、予測及び評価の手法 | 選定理由 |
|-------------|------------------------|-------------|---|--|
| 環境要素 の区分 | | | | |
| 景観 | 主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観 | 地形改変及び施設の存在 | 1. 調査すべき情報 (1) 景観資源の状況 (2) 主要な眺望点の状況 (3) 主要な眺望景観の状況 | 現状の景観の状況を把握するため。 |
| | | | 2. 調査の基本的な手法 (1) 景観資源の状況 文献その他の資料の収集及び整理を行う。また、必要に応じて関係機関への聴取を行う。 (2) 主要な眺望点の状況 文献その他の資料の収集及び整理を行う。また、必要に応じて関係機関への聴取を行う。 (3) 主要な眺望景観の状況 現地にて写真撮影を行い、撮影地点の状況を記録する。 | 「発電所に係る環境影響評価の手引」(平成29年 経済産業省)等に記載されている一般的な手法とした。 |
| | | | 3. 調査地域 対象事業実施区域及びその周囲とし、風力発電機の垂直見込み角が1度以上となる範囲とする(図6.6-1参照)。 | 「景観対策ガイドライン(案)」(1981年 UHV送電特別委員会 環境部会立地分科会)において「景観的にほとんど気にならない」とされる視野角1°を上回る可能性の範囲とした。 |
| | | | 4. 調査地点 主要な眺望景観の状況については、可視領域に基づく机上検討及び現地踏査を行い、本事業における風力発電機の視認性が高いと想定される地点として、第2章に示す主要な眺望点6地点と伊根航路上の1地点とした。調査地点の設定根拠を表6.6-2に、調査地点位置を図6.6-1に示す。 | 調査地域において、風力発電機が視認できる可能性があり、眺望景観に変化が生じると想定される地点とした。 |
| | | | 5. 調査期間等 【文献その他の資料調査】 入手可能な最新の資料とする。 【現地調査】 着葉期及び落葉期にそれぞれ1回実施する。 | 現状の状況を把握できる時期とした。 |
| | | | 6. 予測の基本的な手法 (1) 景観資源の状況 景観資源の分布位置と対象事業実施区域を重ね合わせることにより、景観資源に係る影響を予測する。 (2) 主要な眺望景観の状況 フォトモンタージュ法による視覚的な表現手法により、眺望景観に係る影響を予測する。 | 「発電所に係る環境影響評価の手引」(平成29年 経済産業省)等に記載されている一般的な手法とした。 |

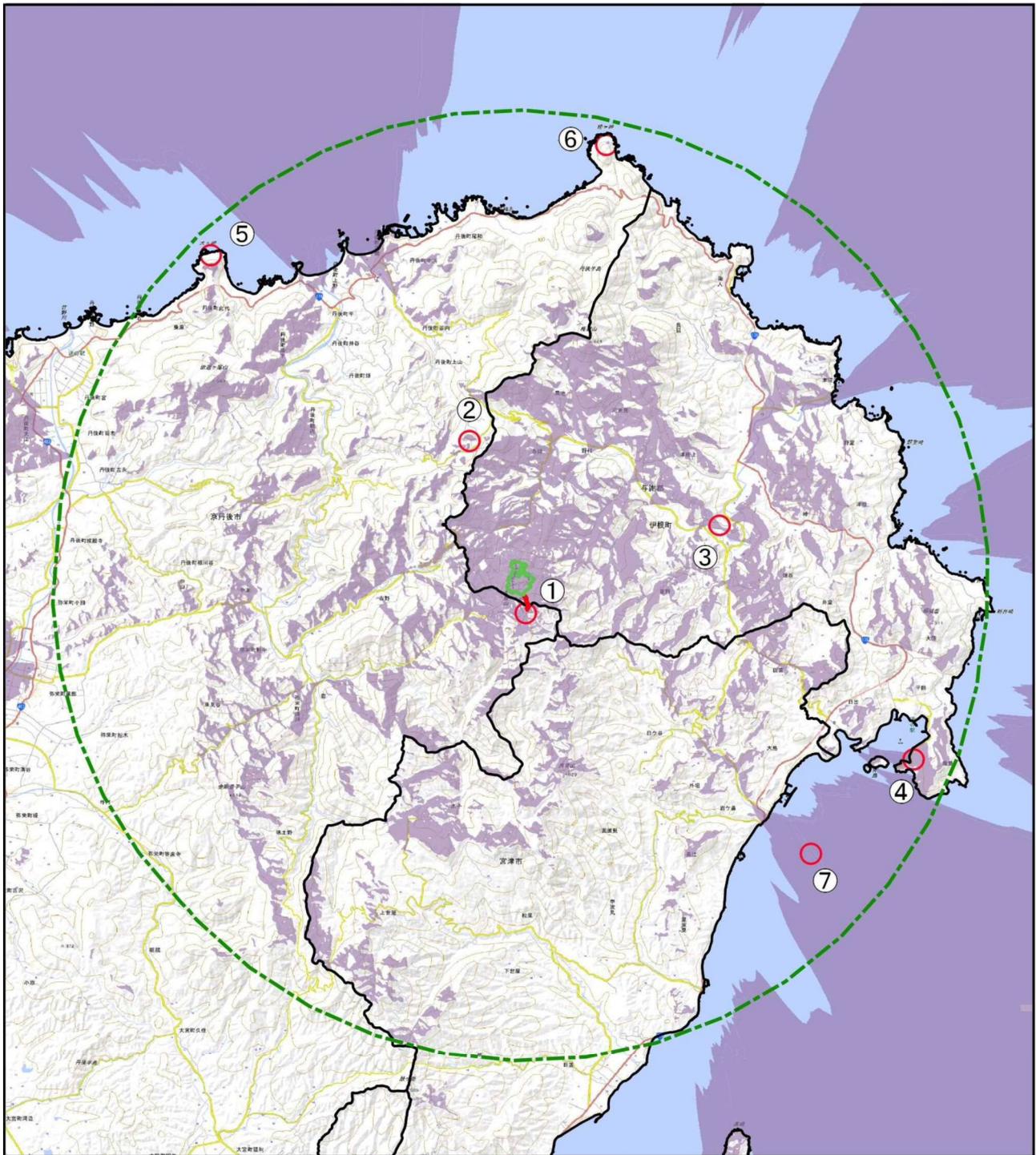
表 6.6-1 (2) 景観に係る調査、予測及び評価の手法

| 項目 | | 影響要因 の区分 | 調査、予測及び評価の手法 | 選定理由 |
|-------------|------------------------|-------------|---|--|
| 環境要素 の区分 | | | | |
| 景観 | 主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観 | 地形改変及び施設の存在 | 7. 予測地域 調査地域と同様とする。 | 景観に係る環境影響を受けるおそれがある地域とした。 |
| | | | 8. 予測地点 調査地点と同様とする。 | 景観に係る環境影響を的確に把握できる地点とした。 |
| | | | 9. 予測対象時期等 風力発電所の運転が定常状態となる時期とする。 | 景観に係る環境影響を的確に予測できる時期とした。 |
| | | | 10. 評価の手法 (1) 環境影響の回避又は低減に係る評価 対象事業の実施に伴う景観に係る環境影響が、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減されているか、必要に応じて環境保全についての配慮が適正になされているか検討する。 (2) 国又は府等による環境の保全及び創造に関する施策との整合性の検討による評価 「伊根町景観計画」(平成26年 伊根町)に規定する景観形成基準との整合が図られているか検討する。 | 「環境影響評価等についての技術的事項に関する指針」(平成11年 京都府告示第276号)に示される手法とした。 |

表6.6-2 景観調査地点の設定根拠

| No. | 名称 | 選定根拠及び概要 |
|-----|-----------|--|
| 1 | スイス村高原浴場 | スイス村園内にある温浴施設であり、園内のキャンプ客やスキー客等が利用している。不特定多数の人々が訪れる場所であり、本事業により風力発電機の視認が可能であると予測されることから、主要な眺望点として設定した。 |
| 2 | 碓山 (あずまや) | 碓高原牧場に整備された展望台であり、日本海側を望む良好な展望地となっている。不特定多数の人々が訪れる場所であり、本事業により風力発電機の視認が可能であると予測されることから、主要な眺望点として設定した。 |
| 3 | 桜ヶ丘運動公園 | 運動場、研修施設、テニスコート、アスレチック施設が存在し、伊根町民は半額の料金で利用することができる。地域住民が利用する施設であり、本事業により風力発電機の視認が可能であると予測されることから、主要な眺望点として設定した。 |
| 4 | 慈眼寺 | 「伊根町伊根浦伝統的建造物保存地区」内にあるお寺である。参拝者が訪れる場所であり、対象事業実施区域への眺望が良いと予測されることから、主要な眺望点として設定した。 |
| 5 | 犬ヶ岬 | 遊歩道が整備されており、岬の東側からは丹後松島を望むことができる。不特定多数の人々が訪れる場所であり、本事業による眺望景観への影響が懸念されることから、主要な眺望点として設定した。 |
| 6 | 経ヶ岬 | 近畿最北端の岬である。駐車場や経ヶ岬展望台があり、主に日本海を望むことができる絶景スポットである。不特定多数の人々が訪れる場所であり、本事業による眺望景観への影響が懸念されることから、主要な眺望点として設定した。 |
| 7 | 伊根航路 | 伊根の舟屋周辺と天橋立を結ぶ航路であり、海上から伊根の舟屋と天橋立の両方を見ることができる。特定の施設ではないが、不特定多数の人々が利用しており、本事業による眺望景観への影響が懸念されることから、主要な眺望点として設定した。 |

備考：表中の番号は、図中番号に対応する。



凡例

○ 景観調査地点

- ① スイス村高原浴場
- ② 碓山(あずまや)
- ③ 桜ヶ丘運動公園
- ④ 慈眼寺
- ⑤ 犬ヶ岬
- ⑥ 経ヶ岬
- ⑦ 伊根航路

□ 対象事業実施区域

□ 風力発電機設置範囲

□ 市町村界

□ 景観の調査地域

□ 可視領域

1 0 1 2 3 4 5 6 km

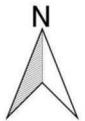


図 6.6-1 景観調査地点

6.7 人と自然との触れ合いの活動の場

人と自然との触れ合いの活動の場に係る調査、予測及び評価の手法及び選定理由を表6.7-1に、調査地点を図6.7-1及び図6.7-2に示す。

表 6.7-1 (1) 人と自然との触れ合いの活動の場に係る調査、予測及び評価の手法

| 項目 | | 影響要因 の区分 | 調査、予測及び評価の手法 | 選定理由 |
|-----------------|--------------------|-----------------------|--|--|
| 環境要素 の区分 | | | | |
| 人と自然との触れ合いの活動の場 | 主要な人と自然との触れ合いの活動の場 | 建設機械の稼働 工事用資材等の搬出入 | 1. 調査すべき情報 (1) 人と自然との触れ合いの活動の場 (2) 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布、利用状況及び利用環境の状況 | 現状の人と自然との触れ合いの活動の場の状況を把握するため。 |
| | | | 2. 調査の基本的な手法 (1) 人と自然との触れ合いの活動の場 文献その他の資料の収集及び整理 (2) 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布、利用状況及び利用環境の状況 a. 利用の状況 アクセスルート及び利用目的等についてアンケート調査を実施する。 b. 利用環境の状況 文献その他の資料、関係者へのヒアリング等により情報収集し、整理する。 | 事業特性及び地域特性を踏まえた、一般的な手法とした。 |
| | | | 3. 調査地域 工事用資材等の搬出入に係る車両が通行する可能性のある道路の沿線上とする。 | 人と自然との触れ合いの活動の場に係る環境影響を受けるおそれがある地域とした。 |
| | | | 4. 調査地点 【文献その他の資料調査】 工事用資材等の搬出入に係る車両が通行する可能性のある道路の沿線上とする。 【現地調査】 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布、利用状況及び利用環境の状況の調査地点は、図6.7-1に示す2地点とする。また、調査地点の設定根拠を表6.7-2に示す。 | 対象事業実施区域及びその周囲と、工事用資材等の搬出入に係る車両が通行する可能性のある道路の沿線上とした。 |
| | | | 5. 調査期間等 【文献その他の資料調査】 入手可能な最新の資料とする。 【現地調査】 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の特性、アクセスルート等を勘案して、適切な季節とする。 | 現状の人と自然との触れ合いの活動の場の状況を把握できる時期とした。 |

表 6.7-1 (2) 人と自然との触れ合いの活動の場に係る調査、予測及び評価の手法

| 項目 | | 調査、予測及び評価の手法 | 選定理由 | |
|-----------------|--------------------|-----------------------|--|--|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 人と自然との触れ合いの活動の場 | 主要な人と自然との触れ合いの活動の場 | 建設機械の稼働 工事用資材等の搬出入 | 6. 予測の基本的な手法 (1) 利用状況及び利用環境の状況 工事用資材等の搬出入に伴う主要な人と自然との触れ合いの活動の場へのアクセスルートにおける交通量の変化を予測し、利用特性への影響を予測する。 | 事業特性及び地域特性を踏まえた、一般的な手法とした。 |
| | | | 7. 予測地域 調査地域と同様とする。 | 人と自然との触れ合いの活動の場に係る環境影響を受けるおそれがある地域とした。 |
| | | | 8. 予測地点 調査地点と同様とする。 | 人と自然との触れ合いの活動の場に係る環境影響を的確に把握できる地点とした。 |
| | | | 9. 予測対象時期等 工事用資材等の搬出入に係る車両の交通量が最大となる時期とする。 | 人と自然との触れ合いの活動の場に係る環境影響を的確に予測できる時期とした。 |
| | | | 10. 評価の手法 (1) 環境影響の回避又は低減に係る評価 対象事業の実施に伴う人と自然との触れ合いの活動の場に係る環境影響が、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減されているか、必要に応じて環境保全についての配慮が適正になされているか検討する。 | 「環境影響評価等についての技術的事項に関する指針」(平成11年 京都府告示第276号)に示される手法とした。 |

表 6.7-1 (3) 人と自然との触れ合いの活動の場に係る調査、予測及び評価の手法

| 項目 | | 調査、予測及び評価の手法 | 選定理由 | |
|-----------------|--------------------|--------------|--|--|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 人と自然との触れ合いの活動の場 | 主要な人と自然との触れ合いの活動の場 | 施設の稼働 | 1. 調査すべき情報 (1) 人と自然との触れ合いの活動の場 (2) 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布及び利用環境の状況 (3) 音環境の状況 (4) 風況 (5) 地表面の状況 | 現状の人と自然との触れ合いの活動の場の状況を把握するため。 また、現状の音環境の状況を把握するため。 |
| | | | 2. 調査の基本的な手法 (1) 人と自然との触れ合いの活動の場 文献その他の資料の収集及び整理 (2) 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布及び利用環境の状況 文献その他の資料、関係者へのヒアリング等により情報収集し、整理する。 (3) 音環境の状況 「6.1 騒音」と同様の手法とする。 (4) 風況 「6.1 騒音」と同様の手法とする。 (5) 地表面の状況 「6.1 騒音」と同様の手法とする。 | 事業特性及び地域特性を踏まえた、一般的な手法とした。 風車騒音の状況については、「風力発電施設から発生する騒音等測定マニュアル」(平成29年 環境省)に記載されている一般的な手法とした。 |
| | | | 3. 調査地域 対象事業実施区域及びその周囲とする。 | 人と自然との触れ合いの活動の場における風車騒音の影響を受けるおそれがある地域とした。 |
| | | | 4. 調査地点 【文献その他の資料調査】 対象事業実施区域及びその周囲とする。 【現地調査】 音環境の調査地点は、図6.7-2に示す2地点とする。 | 対象事業実施区域周囲における人と自然との触れ合いの活動の場のうち、宿泊施設等の配慮が必要な施設の近傍とした。 |
| | | | 5. 調査期間等 【文献その他の資料調査】 入手可能な最新の資料とする。 【現地調査】 音環境の状況の調査時期は、「6.1 騒音」と同様とする。 | 現状の人と自然との触れ合いの活動の場の状況を把握できる時期とした。 また、現状の音環境の状況を的確に把握できる期間とした。 |

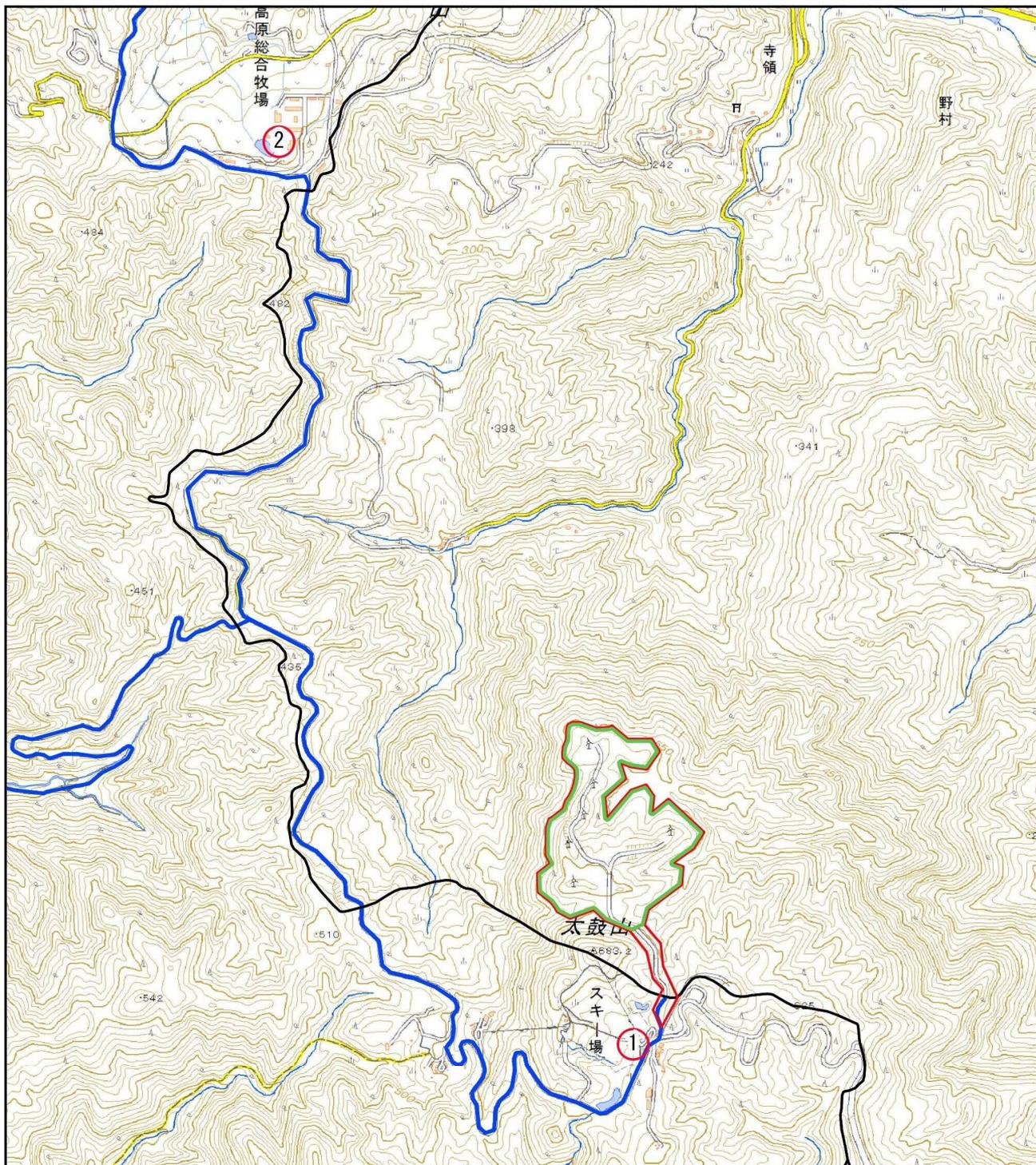
表 6.7-1 (4) 人と自然との触れ合いの活動の場に係る調査、予測及び評価の手法

| 項目 | | 調査、予測及び評価の手法 | 選定理由 | |
|-----------------|--------------------|--------------|--|--|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 人と自然との触れ合いの活動の場 | 主要な人と自然との触れ合いの活動の場 | 施設の稼働 | 6. 予測の基本的な手法 「6.1 騒音」と同様の手法とする。 | 一般的に広く風車騒音の予測で用いられている手法とした。 |
| | | | 7. 予測地域 調査地域と同様とする。 | 人と自然との触れ合いの活動の場における風車騒音の影響を受けるおそれがある地域とした。 |
| | | | 8. 予測地点 調査地点と同様とする。 | 人と自然との触れ合いの活動の場における風車騒音の影響を受けるおそれがある地点とした。 |
| | | | 9. 予測対象時期等 風力発電所の運転が定常状態となり、風車騒音に係る環境影響が最大となる時期とする。 | 風車騒音に係る環境影響を的確に予測できる時期とした。 |
| | | | 10. 評価の手法 (1) 環境影響の回避又は低減に係る評価 対象事業の実施に伴う人と自然との触れ合いの活動の場に係る環境影響が、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減されているか、必要に応じて環境保全についての配慮が適正になされているか検討する。 | 「環境影響評価等についての技術的事項に関する指針」(平成11年 京都府告示第276号)に示される手法とした。 |

表6.7-2 人と自然との触れ合いの活動の場の設定根拠

| No. | 名称 | 選定根拠及び概要 |
|-----|----------|--|
| 1 | 森林公園スイス村 | 宿泊施設(風のがっこう京都、山の家、コテージ、バンガロー、キャンプ場)、ハイキングコース、スキー場、テニスコートがあるレクリエーション施設である。対象事業実施区域に近接しており、本事業の実施による影響が及ぶ可能性があることから、主要な人と自然との触れ合いの活動の場として選定した。 |
| 2 | 碓高原牧場 | 台地上の地形を利用した牧場であり、遊歩道、展望台、トイレ、キャンプ場等の施設が整備されている。工事車両の主要な交通ルート沿線にあり、本事業の実施による影響が及ぶ可能性があることから、主要な人と自然との触れ合いの活動の場として選定した。 |

備考：表中の番号は、図中番号に対応する。



凡例

①② 人と自然との触れ合いの活動の場調査地点

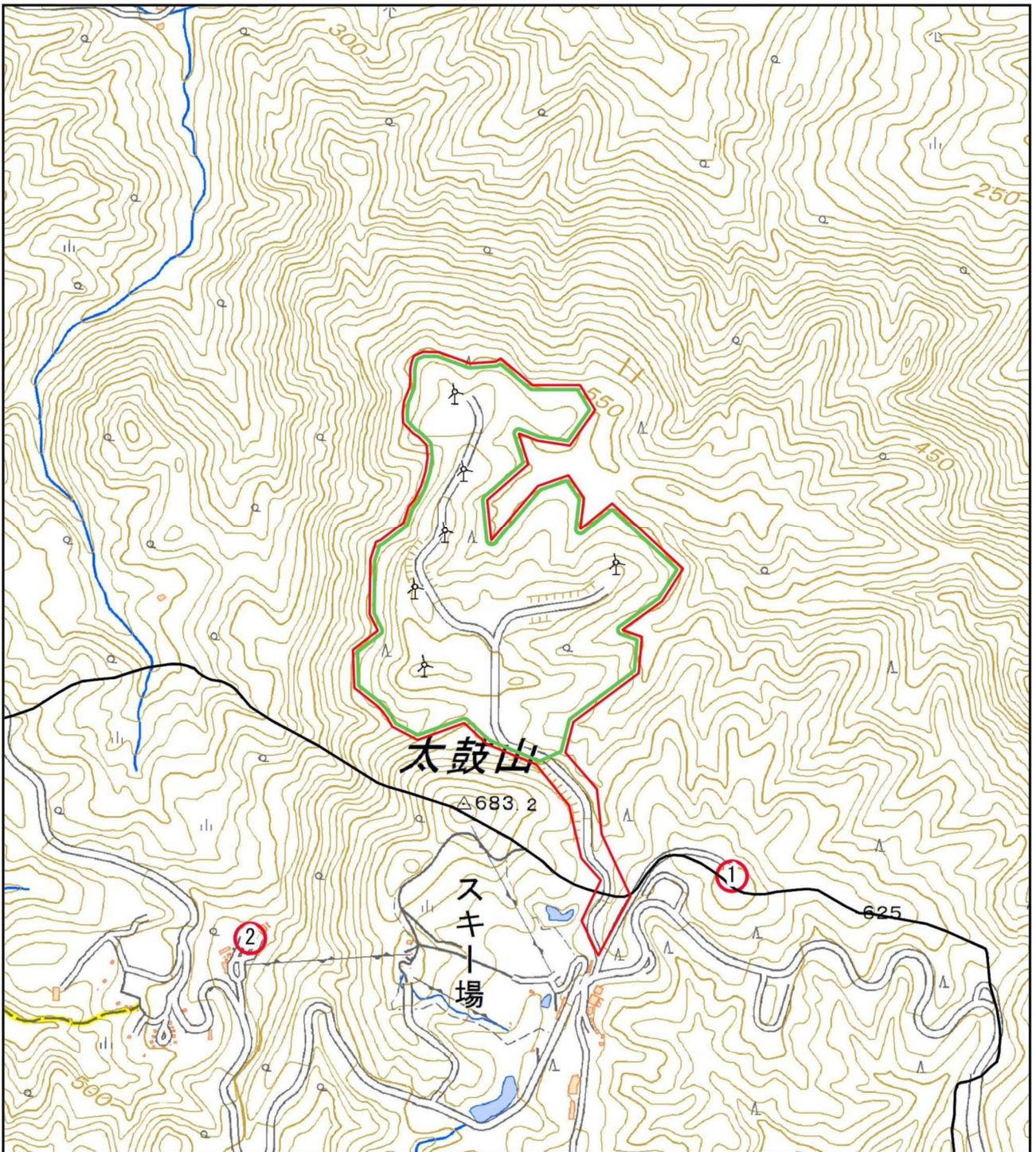
- ① 森林公園スイス村
- ② 碓高原牧場

- 対象事業実施区域
- 風力発電機設置範囲
- 主要な交通ルート
- 市町村界

250 0 250 500 750 1000 m



図6.7-1 人と自然との触れ合いの活動の場の分布、利用状況及び利用環境の状況の調査地点



凡例

- ① 数字 残留騒音調査地点
 ① 風のがっこう京都
 ② 山の家

- 対象事業実施区域
 □ 風力発電機設置範囲
 □ 市町村界

100 0 100 200 300 400 500 m

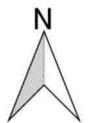


図 6.7-2 人と自然との触れ合いの活動の場
 に係る音環境調査地点

6.8 廃棄物等

産業廃棄物に係る予測及び評価の手法及び選定理由を表6.8-1、残土に係る予測及び評価の手法を表6.8-2に示す。

表 6.8-1 産業廃棄物に係る予測及び評価の手法

| 項目 | | 影響要因 の区分 | 予測及び評価の手法 | 選定理由 |
|-------------|-------|-----------------|--|--|
| 環境要素 の区分 | | | | |
| 廃棄物等 | 産業廃棄物 | 造成等の施工による一時的な影響 | 1. 予測の基本的な手法 環境保全のために講じようとする対策を踏まえ、産業廃棄物の種類ごとの排出量を把握し、予測する。 | 一般的に広く用いられる手法とした。 |
| | | | 2. 予測対象地域 対象事業実施区域とする。 | 造成等の施工による一時的な影響が発生すると想定される範囲を選定した。 |
| | | | 3. 予測対象時期等 産業廃棄物の発生する工事期間とする。 | 環境の影響を的確に予測できる時期とした。 |
| | | | 4. 評価の手法 産業廃棄物に係る環境影響が、実行可能な範囲内で回避又は低減されているかを検討し、環境保全についての配慮が適正になされているかを検討する。 | 「環境影響評価等についての技術的事項に関する指針」（平成11年 京都府告示第276号）に示される手法とした。 |

表 6.8-2 残土に係る予測及び評価の手法

| 項目 | | 影響要因 の区分 | 予測及び評価の手法 | 選定理由 |
|-------------|----|-----------------|---|--|
| 環境要素 の区分 | | | | |
| 廃棄物等 | 残土 | 造成等の施工による一時的な影響 | 1. 予測の基本的な手法 環境保全のために講じようとする対策を踏まえ、残土の排出量を把握し、予測する。 | 一般的に広く用いられる手法とした。 |
| | | | 2. 予測対象地域 対象事業実施区域とする。 | 造成等の施工による一時的な影響が発生すると想定される範囲を選定した。 |
| | | | 3. 予測対象時期等 残土の発生する工事期間とする。 | 環境の影響を的確に予測できる時期とした。 |
| | | | 4. 評価の手法 残土に係る環境影響が、実行可能な範囲内で回避又は低減されているかを検討し、環境保全についての配慮が適正になされているかを検討する。 | 「環境影響評価等についての技術的事項に関する指針」（平成11年 京都府告示第276号）に示される手法とした。 |

第7章 その他規則で定める事項

7.1 対象事業を実施するために必要な許認可等

対象事業を実施するために必要な許認可等を表7.1-1に示す。

表7.1-1 対象事業を実施するために必要な許認可等

| 申請・届け出の名称 | 許認可等を行う者 | 関係法令 | 備考 |
|-----------------------------|----------|---------------------------------|---|
| 景観計画区域内における行為の届出 | 伊根町 | 伊根町景観条例施行規則 | |
| 京都府林地開発行為の手続 | 京都府 | 森林法 | 1ha以上の開発を行う場合 |
| 京都府豊かな緑を守る条例に基づく森林開発協議 | 京都府 | 京都府豊かな緑を守る条例 | 1,000㎡（土石の採掘・土砂の搬入以外の開発行為は、3,000㎡）を超える開発を行う場合 |
| 第一種・第二種特別地域における工作物の改築に対する許可 | 京都府 | 自然公園法 | |
| 一定の規模以上の土地の形質の変更の届出 | 京都府 | 土壤汚染対策法 | 3,000㎡以上の土地の形質変更を行う場合 |
| 京都府環境を守り育てる条例に基づく特定施設設置届出 | 京都府 | 京都府環境を守り育てる条例 | 条例で定める特定施設を設置する場合 |
| 建設行為の届出 | 京都府 | 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律 | |
| 工事計画届 | 経済産業省 | 電気事業法 | |
| 消防用設備等設置届出 | 宮津与謝消防署 | 消防法 | |
| 事業計画認定の手続 | 経済産業省 | 電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法 | |

7.2 方法書に関する業務の委託先の名称、代表者の氏名及び主たる事業所の所在地

事業者の名称 株式会社東洋設計
 代表者の氏名 代表取締役 延命 正太郎
 主たる事務所の所在地 石川県金沢市諸江町中丁212番地1

資料編

抽出された動植物

哺乳類

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | |
|-----|--------|----------|------|------|-----|------|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料1 | 資料13 |
| 1 | モグラ | ヒミズ | | | | ○ |
| 2 | | コウベモグラ | ○ | | | ○ |
| 3 | ヒナコウモリ | ユビナガコウモリ | | | | ○ |
| 4 | ウサギ | ノウサギ | | ○ | ○ | ○ |
| 5 | リス | ニホンリス | | | ○ | ○ |
| 6 | | シマリス | | ○ | | |
| 7 | ネズミ | スミスネズミ | | | | ○ |
| 8 | | アカネズミ | | | | ○ |
| 9 | | カヤネズミ | ○ | | | ○ |
| 10 | | ネズミ類 | ○ | | | |
| 11 | ヌートリア | ヌートリア | ○ | | | |
| 12 | クマ | ツキノワグマ | | ○ | ○ | ○ |
| 13 | イヌ | タヌキ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 14 | | キツネ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 15 | イタチ | テン | | ○ | ○ | ○ |
| 16 | | イタチ | | ○ | ○ | ○ |
| 17 | | アナグマ | | | ○ | ○ |
| 18 | | イタチsp. | ○ | | | |
| 19 | ネコ | ネコ | | | ○ | |
| 20 | イノシシ | イノシシ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 21 | シカ | ホンドジカ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 計 | 12科 | 21種 | 9 | 9 | 11 | 16 |

注1：上記の抽出区分及び資料は以下のとおりである。

区分A：筒川及び一寸法師山周辺

資料12：「筒川河川企画調査業務委託業務報告書」（平成10年 京都府宮津土木事務所）

資料14：「一寸法師山・市民風車設置に関する環境影響調査報告書」（平成21年 自然エネルギー市民の会）

区分B：事旧弥栄町及び基本的な調査対象範囲を含む二次メッシュ

資料1：「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 哺乳類」（平成14年 環境省）

資料13：「ふるさと弥栄の自然 弥栄町自然環境調査報告書」（平成7年 京都府弥栄町）

注2：科、種名の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省 水情報国土データ管理センターが運営するホームページ）に準拠した。

鳥類 (1)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | | |
|-----|-------|----------|-----------|------|------|------|------|---|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料10 | 資料11 | 資料13 | |
| 1 | キジ | ウズラ | | ○ | | | | |
| 2 | | ヤマドリ | | ○ | | | ○ | |
| 3 | | キジ | ○ | ○ | | | ○ | |
| 4 | | コジュケイ | ○ | ○ | | | | |
| 5 | カモメ | オシドリ | ○ | | | | ○ | |
| 6 | | ヒドリガモ | | ○ | | | | |
| 7 | | マガモ | ○ | ○ | | | ○ | |
| 8 | | カルガモ | ○ | ○ | | | ○ | |
| 9 | | オナガガモ | | ○ | | | | |
| 10 | | コガモ | | ○ | | | ○ | |
| 11 | | ホシハジロ | | ○ | | | | |
| 12 | | キンクロハジロ | | ○ | | | | |
| 13 | | スズガモ | | ○ | | | | |
| 14 | | ホオジロガモ | | ○ | | | | |
| 15 | | ウミハジロ | | ○ | | | | |
| 16 | | カイツブリ | カイツブリ | | ○ | | | ○ |
| 17 | | | カンムリカイツブリ | | ○ | | | |
| 18 | | | ハジロカイツブリ | | ○ | | | |
| 19 | | ハト | キジバト | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 20 | アオバト | | | ○ | | | ○ | |
| 21 | ドバト | | | | | | ○ | |
| 22 | ウ | ヒメウ | ○ | | | | | |
| 23 | | カワウ | | ○ | | | | |
| 24 | | ウミウ | ○ | | | | | |
| 25 | サギ | ゴイサギ | ○ | ○ | | | ○ | |
| 26 | | アマサギ | | ○ | | | ○ | |
| 27 | | アオサギ | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| 28 | | ダイサギ | | | | | ○ | |
| 29 | | コサギ | ○ | ○ | | | ○ | |
| 30 | クイナ | ヒクイナ | | ○ | | | | |
| 31 | | オオバン | | ○ | | | | |
| 32 | カッコウ | ジュウイチ | | ○ | | | ○ | |
| 33 | | ホトトギス | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| 34 | | ツツドリ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 35 | | カッコウ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 36 | ヨタカ | ヨタカ | | ○ | | | ○ | |
| 37 | アマツバメ | ハリオアマツバメ | | ○ | | | | |
| 38 | | アマツバメ | | ○ | | | | |
| 39 | チドリ | タゲリ | | | | | ○ | |
| 40 | シギ | タシギ | ○ | | | | ○ | |
| 41 | | イソシギ | ○ | ○ | | | | |
| 42 | カモメ | ユリカモメ | | ○ | | | | |
| 43 | | ウミネコ | ○ | ○ | | | | |
| 44 | | カモメ | | ○ | | | | |
| 45 | | セグロカモメ | ○ | ○ | | | | |
| 46 | | オオセグロカモメ | ○ | | | | | |
| 47 | ミサゴ | ミサゴ | ○ | ○ | | | | |
| 48 | タカ | ハチクマ | | ○ | | | | |
| 49 | | トビ | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| 50 | | ハイタカ | | ○ | | | ○ | |
| 51 | | オオタカ | | ○ | | | | |
| 52 | | サシバ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 53 | | ノスリ | ○ | | | | ○ | |
| 54 | | クマタカ | | ○ | | ○ | ○ | |
| 55 | | タカ科の一種 | | ○ | | | | |

鳥類 (2)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | |
|-----|---------|----------|------|------|------|------|------|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料10 | 資料11 | 資料13 |
| 56 | フクロウ | コノハズク | | ○ | | | ○ |
| 57 | | フクロウ | | ○ | ○ | | |
| 58 | | アオバズク | | ○ | | | |
| 59 | カワセミ | アカショウビン | | ○ | ○ | | |
| 60 | | カワセミ | ○ | ○ | | | ○ |
| 61 | | ヤマセミ | | ○ | | | ○ |
| 62 | ブッポウソウ | ブッポウソウ | | | | | ○ |
| 63 | キツツキ | コゲラ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 64 | | アカゲラ | | ○ | ○ | | ○ |
| 65 | | アオゲラ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 66 | ハヤブサ | ハヤブサ | | ○ | | | ○ |
| 67 | サンショウクイ | サンショウクイ | | ○ | ○ | | ○ |
| 68 | カササギヒタキ | サンコウチョウ | | ○ | ○ | | ○ |
| 69 | モズ | モズ | ○ | ○ | | | ○ |
| 70 | | アカモズ | | | | | ○ |
| 71 | カラス | カケス | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 72 | | ハシボソガラス | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 73 | | ハシブトガラス | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 74 | | カラス科の一種 | | ○ | | | |
| 75 | シジュウカラ | コガラ | | ○ | ○ | | ○ |
| 76 | | ヤマガラ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 77 | | ヒガラ | | ○ | | | ○ |
| 78 | | シジュウカラ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 79 | ヒバリ | ヒバリ | | ○ | | | ○ |
| 80 | ツバメ | ツバメ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 81 | | コシアカツバメ | ○ | | | | ○ |
| 82 | | イワツバメ | ○ | ○ | | | ○ |
| 83 | ヒヨドリ | ヒヨドリ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 84 | ウグイス | ウグイス | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 85 | | ヤブサメ | | ○ | ○ | | ○ |
| 86 | エナガ | エナガ | ○ | ○ | | | ○ |
| 87 | ムシクイ | メボソムシクイ | | ○ | | | |
| 88 | | エゾムシクイ | | ○ | | | |
| 89 | | センダイムシクイ | | | ○ | | ○ |
| 90 | メジロ | メジロ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 91 | ヨシキリ | オオヨシキリ | | | | | ○ |
| 92 | セッカ | セッカ | ○ | | | | ○ |
| 93 | ゴジュウカラ | ゴジュウカラ | | ○ | | | ○ |
| 94 | ミソサザイ | ミソサザイ | ○ | ○ | | | ○ |
| 95 | ムクドリ | ムクドリ | ○ | ○ | | | |
| 96 | | コムクドリ | ○ | | | | |
| 97 | カワガラス | カワガラス | | ○ | | | ○ |
| 98 | ヒタキ | マミジロ | | ○ | ○ | | |
| 99 | | トラツグミ | | ○ | | | ○ |
| 100 | | クロツグミ | | ○ | ○ | | ○ |
| 101 | | シロハラ | | ○ | ○ | | ○ |
| 102 | | アカハラ | | ○ | | | |
| 103 | | ツグミ | ○ | ○ | | | ○ |
| 104 | | コマドリ | | ○ | | | |
| 105 | | コルリ | | ○ | | | ○ |
| 106 | | ルリビタキ | ○ | ○ | | | ○ |
| 107 | | ジョウビタキ | ○ | ○ | | | ○ |
| 108 | ノビタキ | | | | | ○ | |
| 109 | イソヒヨドリ | ○ | ○ | | | ○ | |
| 110 | | エゾビタキ | | | | | ○ |

鳥類 (3)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | |
|-----|---------|---------|------|------|------|------|------|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料10 | 資料11 | 資料13 |
| 111 | ヒタキ | コサメビタキ | | ○ | | | ○ |
| 112 | | キビタキ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 113 | | オオルリ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 114 | スズメ | スズメ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 115 | セキレイ | キセキレイ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 116 | | ハクセキレイ | ○ | ○ | | | |
| 117 | | セグロセキレイ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 118 | | ビンズイ | | ○ | | | |
| 119 | | タヒバリ | | | | | ○ |
| 120 | アトリ | アトリ | | ○ | | | ○ |
| 121 | | カワラヒワ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 122 | | マヒワ | | ○ | | | ○ |
| 123 | | ウソ | | ○ | | | ○ |
| 124 | | シメ | | ○ | | | |
| 125 | | イカル | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 126 | | ホオジロ | ホオジロ | ○ | ○ | ○ | |
| 127 | カシラダカ | | ○ | ○ | | | ○ |
| 128 | ミヤマホオジロ | | | ○ | | | ○ |
| 129 | アオジ | | ○ | ○ | | | ○ |
| 130 | クロジ | | | ○ | | | |
| 131 | オオジュリン | | ○ | | | | |
| 計 | 44科 | 131種 | 56 | 112 | 36 | 1 | 87 |

注1：上記の抽出区分及び資料は以下のとおりである。

区分A：筒川及び一寸法師山周辺

資料12：「筒川河川企画調査業務委託業務報告書」（平成10年 京都府宮津土木事務所）

資料14：「一寸法師山・市民風車設置に関する環境影響調査報告書」（平成21年 自然エネルギー市民の会）

区分B：事旧弥栄町及び基本的な調査対象範囲を含む二次メッシュ

資料10：「第6回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査 鳥類繁殖分布調査報告書」（平成16年 環境省）

資料11：「環境アセスメントデータベース センシティビティマップ」（環境省）

(<https://www2.env.go.jp/eiadb/ebidbs/>)

資料13：「ふるさと弥栄の自然 弥栄町自然環境調査報告書」（平成7年 京都府弥栄町）

注2：科、種名の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省 水情報国土データ管理センターが運営するホームページ）に準拠した。

爬虫類

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | |
|-----|-------|---------|------|------|-----|------|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料2 | 資料13 |
| 1 | イシガメ | ニホンイシガメ | ○ | | | |
| 2 | | クサガメ | | | | ○ |
| 3 | トカゲ | ニホントカゲ | ○ | | ○ | ○ |
| 4 | カナヘビ | ニホンカナヘビ | | ○ | ○ | ○ |
| 5 | ナミヘビ | シマヘビ | ○ | | | ○ |
| 6 | | アオダイショウ | ○ | | | ○ |
| 7 | | ジムグリ | | ○ | | |
| 8 | | ヤマカガシ | | ○ | | ○ |
| 9 | クサリヘビ | ニホンマムシ | ○ | ○ | | ○ |
| 計 | 5科 | 9種 | 5 | 4 | 2 | 7 |

注1：上記の抽出区分及び資料は以下のとおりである。

区分A：筒川及び一寸法師山周辺

資料12：「筒川河川企画調査業務委託業務報告書」（平成10年 京都府宮津土木事務所）

資料14：「一寸法師山・市民風車設置に関する環境影響調査報告書」（平成21年 自然エネルギー市民の会）

区分B：事旧弥栄町及び基本的な調査対象範囲を含む二次メッシュ

資料2：「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 両生類・爬虫類」（平成13年 環境省が運営するホームページ）

資料13：「ふるさと弥栄の自然 弥栄町自然環境調査報告書」（平成7年 京都府弥栄町）

注2：科、種名の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省が運営するホームページ）に準拠した。

両生類

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | |
|-----|---------|-------------|------|------|-----|------|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料2 | 資料13 |
| 1 | サンショウウオ | アベサンショウウオ | | | | ○ |
| 2 | | ヒダサンショウウオ | | ○ | ○ | ○ |
| 3 | | ハコネサンショウウオ | | | | ○ |
| 5 | イモリ | イモリ | | | ○ | |
| 6 | | アカハライモリ | | | | ○ |
| 8 | ヒキガエル | アズマヒキガエル | | | | ○ |
| 9 | アマガエル | ニホンアマガエル | ○ | | | ○ |
| 10 | アカガエル | タゴガエル | | | | ○ |
| 11 | | ニホンアカガエル | ○ | ○ | | ○ |
| 12 | | ヤマアカガエル | | | ○ | ○ |
| 13 | | トノサマガエル | ○ | | ○ | ○ |
| 16 | | ウシガエル | ○ | | | ○ |
| 17 | | ツチガエル | | | | ○ |
| 19 | アオガエル | シュレーゲルアオガエル | | | | ○ |
| 20 | | モリアオガエル | | | | ○ |
| 21 | | カジカガエル | ○ | ○ | | ○ |
| 計 | 6科 | 16種 | 5 | 3 | 4 | 15 |

注1：上記の抽出区分及び資料は以下のとおりである。

区分A：筒川及び一寸法師山周辺

資料12：「筒川河川企画調査業務委託業務報告書」（平成10年 京都府宮津土木事務所）

資料14：「一寸法師山・市民風車設置に関する環境影響調査報告書」（平成21年 自然エネルギー市民の会）

区分B：事旧弥栄町及び基本的な調査対象範囲を含む二次メッシュ

資料2：「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 両生類・爬虫類」（平成13年 環境省）

資料13：「ふるさと弥栄の自然 弥栄町自然環境調査報告書」（平成7年 京都府弥栄町）

注2：科、種名の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省）に準拠した。

昆虫類 (1)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | | | | | |
|-----|---------|------------|----------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|---|
| | | | 資料 12 | 資料 14 | 資料 3 | 資料 4 | 資料 5 | 資料 6 | 資料 7 | 資料 13 | |
| 1 | トゲトビムシ | トゲトビムシ科の一種 | | | | | | | | | ○ |
| 2 | アヤトビムシ | アヤトビムシ科の一種 | | | | | | | | | ○ |
| 3 | - | トビムシ目の一種 | | | | | | | | | ○ |
| 4 | イシノミ | イシノミ科の一種 | | | | | | | | | ○ |
| 5 | アオイトトンボ | ホソミオツネトンボ | | | ○ | | | | | | ○ |
| 6 | | オオアオイトトンボ | | | | | | | | | ○ |
| 7 | イトトンボ | ホソミイトトンボ | | | | | | | | | ○ |
| 8 | | キイトトンボ | ○ | | | | | | | | ○ |
| 9 | | アジアイトトンボ | | | | | | | | | ○ |
| 10 | | アオモンイトトンボ | | | | | | | | | ○ |
| 11 | | クロイトトンボ | | | | | | | | | ○ |
| 12 | | セスジイトトンボ | | | | | | | | | ○ |
| 13 | | オオイトトンボ | | | | | | | | | ○ |
| 14 | モノサシトンボ | モノサシトンボ | ○ | | | | | | | | |
| 15 | カワトンボ | ハグロトンボ | ○ | | | | | | | | ○ |
| 16 | | ミヤマカワトンボ | | | | | | | | | ○ |
| 17 | | ニホンカワトンボ | | | ○ | | | | | | |
| 18 | | アサヒナカワトンボ | | | ○ | | | | | | ○ |
| 19 | ムカシトンボ | ムカシトンボ | | | | | | | | | ○ |
| 20 | ヤンマ | オオルリボシヤンマ | | | | | | | | | ○ |
| 21 | | マルタンヤンマ | | | | | | | | | ○ |
| 22 | | クロスジギンヤンマ | | | ○ | | | | | | ○ |
| 23 | | カトリヤンマ | | | | | | | | | ○ |
| 24 | | サラサヤンマ | | | ○ | | | | | | |
| 25 | サナエトンボ | ミヤマサナエ | | | | | | | | | ○ |
| 26 | | ヤマサナエ | | | | | | | | | ○ |
| 27 | | キイロサナエ | | | | | | | | | ○ |
| 28 | | クロサナエ | | | ○ | | | | | | ○ |
| 29 | | ヒラサナエ | | | ○ | | | | | | |
| 30 | | ダビドサナエ | | | ○ | | | | | | ○ |
| 31 | | ヒメクロサナエ | | | ○ | | | | | | |
| 32 | | コオニヤンマ | ○ | | | | | | | | ○ |
| 33 | | ヒメサナエ | | | | | | | | | ○ |
| 34 | | オジロサナエ | | | | | | | | | ○ |
| 35 | ムカシヤンマ | ムカシヤンマ | | | ○ | | | | | | |
| 36 | オニヤンマ | オニヤンマ | | | | | | | | | ○ |
| 37 | エゾトンボ | コヤマトンボ | | | | | | | | | ○ |
| 38 | | タカネトンボ | | | | | | | | | ○ |
| 39 | トンボ | ショウジョウトンボ | ○ | | | | | | | | ○ |
| 40 | | ヨツボシトンボ | | | | | | | | | ○ |
| 41 | | ハラビロトンボ | ○ | | | | | | | | ○ |
| 42 | | ハッチョウトンボ | ○ | | | | | | | | ○ |
| 43 | | シオカラトンボ | ○ | | ○ | | | | | | ○ |
| 44 | | シオヤトンボ | | | ○ | | | | | | ○ |
| 45 | | オオシオカラトンボ | ○ | | | | | | | | ○ |
| 46 | | ウスバキトンボ | ○ | | | | | | | | ○ |
| 47 | | コシアキトンボ | | | | | | | | | ○ |
| 48 | | コノシメトンボ | | | | | | | | | ○ |
| 49 | | ナツアカネ | ○ | | | | | | | | ○ |
| 50 | | マユタテアカネ | | | | | | | | | ○ |
| 51 | | アキアカネ | | | | | | | | | ○ |
| 52 | | ノシメトンボ | | | | | | | | | ○ |
| 53 | | ヒメアカネ | | | | | | | | | ○ |
| 54 | | ミヤマアカネ | | | | | | | | | ○ |
| 55 | | リスアカネ | | | | | | | | | ○ |
| 56 | | ネキトンボ | | | | | | | | | ○ |

昆虫類 (2)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | | | | | |
|-----|-----------|--------------------|----------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|---|
| | | | 資料 12 | 資料 14 | 資料 3 | 資料 4 | 資料 5 | 資料 6 | 資料 7 | 資料 13 | |
| 57 | チャバネゴキブリ | モリチャバネゴキブリ | | | | | | | | ○ | |
| 58 | カマキリ | ハラヒロカマキリ | | | | | | | | ○ | |
| 59 | | コカマキリ | | | | | | | | ○ | |
| 60 | | チョウセンカマキリ | | ○ | | | | | | ○ | |
| 61 | | オオカマキリ | | | | | | | | ○ | |
| 62 | クギヌキハサミムシ | コブハサミムシ | | | | | | | | ○ | |
| 63 | カワゲラ | Neoperla属の一種 | | | | | | | | ○ | |
| 64 | | オオクラカケカワゲラ | | | | | | | | ○ | |
| 65 | コロギス | ハネナシコロギス | | | | | | | | ○ | |
| 66 | カマドウマ | マダラカマドウマ | | | | | | | | ○ | |
| 67 | | カマドウマ科の一種 | | | | | | | | ○ | |
| 68 | ツユムシ | セスジツユムシ | | | | | | | | ○ | |
| 69 | | エゾツユムシ | | | | | | | | ○ | |
| 70 | | ツユムシ | | | | | | | | ○ | |
| 71 | | アシグロツユムシ | | | | | | | | ○ | |
| 72 | | ヘリグロツユムシ | | | | | | | | ○ | |
| 73 | | ホソクビツユムシ | | | | | | | | ○ | |
| 74 | | キリギリス | オナガササキリ | | | | | | | | ○ |
| 75 | | | ササキリ | | | | | | | | ○ |
| 76 | ヒメギス | | | | | | | | | ○ | |
| 77 | クビキリギス | | | | | | | | | ○ | |
| 78 | ヒガシキリギリス | | | | | | | | | ○ | |
| 79 | ハヤシノウマオイ | | | | | | | | | ○ | |
| 80 | ササキリモドキ | | | | | | | | | ○ | |
| 81 | クサキリ | | | | | | | | | ○ | |
| 82 | ヤブキリ | | | | | | | | | ○ | |
| 83 | ケラ | | ケラ | | | | | | | | ○ |
| 84 | マツムシ | カンタン | | | | | | | | ○ | |
| 85 | コオロギ | ミツカドコオロギ | | ○ | | | | | | | |
| 86 | | Loxoblemmus属の一種 | | | | | | | | ○ | |
| 87 | | クマコオロギ | | | | | | | | ○ | |
| 88 | | クマスズムシ | | | | | | | | ○ | |
| 89 | | エンマコオロギ | | | | | | | | ○ | |
| 90 | | ツヅレサセコオロギ | | ○ | | | | | | | |
| 91 | | Velarifictorus属の一種 | | | | | | | | ○ | |
| 92 | カネタタキ | カネタタキ | | | | | | | | ○ | |
| 93 | ヒバリモドキ | マダラスズ | | | | | | | | ○ | |
| 94 | | クサヒバリ | | ○ | | | | | | | |
| 95 | バッタ | ショウリョウバッタ | | | | | | | | ○ | |
| 96 | | トノサマバッタ | | | | | | | | ○ | |
| 97 | | ナキイナゴ | | | | | | | | ○ | |
| 98 | | ヒロバネヒナバッタ | | | | | | | | ○ | |
| 99 | | ツماغロバッタ | | | | | | | | ○ | |
| 100 | | イボバッタ | | | | | | | | ○ | |
| 101 | イナゴ | コバネイナゴ | | | | | | | | ○ | |
| 102 | | オマガリフキバッタ | | | | | | | | ○ | |
| 103 | | フキバッタ亜科の一種 | | | | | | | | ○ | |
| 104 | オンブバッタ | オンブバッタ | | | | | | | | ○ | |
| 105 | ヒシバッタ | トゲヒシバッタ | | | | | | | | ○ | |
| 106 | | ハネナガヒシバッタ | | | | | | | | ○ | |
| 107 | | コバネヒシバッタ | | | | | | | | ○ | |
| 108 | | ヒシバッタ科の一種 | | | | | | | | ○ | |
| 109 | ナナフシ | トゲナナフシ | | | | | | | | ○ | |
| 110 | コガシラウンカ | ナワコガシラウンカ | | | | | | | | ○ | |
| 111 | | スジコガシラウンカ | | | | | | | | ○ | |
| 112 | ハネナガウンカ | アカハネナガウンカ | | | | | | | | ○ | |

昆虫類 (3)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | | | | | |
|-----|--------------|----------------|-------------------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|---|
| | | | 資料 12 | 資料 14 | 資料 3 | 資料 4 | 資料 5 | 資料 6 | 資料 7 | 資料 13 | |
| 113 | テングスケバ | ツماغロスケバ | | | | | | | | ○ | |
| 114 | アオバハゴロモ | アオバハゴロモ | | | | | | | | ○ | |
| 115 | ハゴロモ | ベッコウハゴロモ | | | | | | | | ○ | |
| 116 | セミ | クマゼミ | | ○ | | | | | | | |
| 117 | | アブラゼミ | | | | | | | ○ | ○ | |
| 118 | | ミンミンゼミ | | ○ | | | | | | ○ | |
| 119 | | チッチゼミ | | | | | | | | ○ | |
| 120 | | エゾゼミ | | ○ | | | | | | ○ | |
| 121 | | ツクツクボウシ | | | ○ | | | | | ○ | |
| 122 | | ニイニイゼミ | | | | | | | | ○ | |
| 123 | | ヒグラシ | | ○ | | | | | | ○ | |
| 124 | | | ハルゼミ | | | | | | | ○ | |
| 125 | ツノゼミ | トビイロツノゼミ | | | | | | | ○ | | |
| 126 | アワフキムシ | モンキアワフキ | | | | | | | | ○ | |
| 127 | | マエキアワフキ | | | | | | | | ○ | |
| 128 | | ヒメモンキアワフキ | | | | | | | | ○ | |
| 129 | | コガシラアワフキムシ | コガシラアワフキ | | | | | | | ○ | |
| 130 | ヨコバイ | ツماغロオオヨコバイ | ○ | | | | | | | ○ | |
| 131 | | オオヨコバイ | | | | | | | | ○ | |
| 132 | | マエジロオオヨコバイ | | | | | | | | ○ | |
| 133 | | ヒトツメヨコバイ | | | | | | | | ○ | |
| 134 | | サシガメ | オオトビサシガメ | | | | | | | | ○ |
| 135 | モモブトトビイロサシガメ | | | | | | | | | ○ | |
| 136 | ヒメトビサシガメ | | | | | | | | | ○ | |
| 137 | ヤニサシガメ | | | | | | | | | ○ | |
| 138 | カスミカメムシ | ブチヒゲクロカスミカメ | | | | | | | | ○ | |
| 139 | | ヒメセダカカスミカメ | | | | | | | | ○ | |
| 140 | | モンキクロカスミカメ | | | | | | | | ○ | |
| 141 | | カスミカメムシ科の一種 | | | | | | | | ○ | |
| 142 | オオホシカメムシ | ヒメホシカメムシ | | | | | | | | ○ | |
| 143 | ホシカメムシ | フタモンホシカメムシ | | | | | | | | ○ | |
| 144 | ホソヘリカメムシ | ホソヘリカメムシ | | | | | | | | ○ | |
| 145 | ヘリカメムシ | ホオズキカメムシ | | | | | | | | ○ | |
| 146 | | ホソハリカメムシ | | | | | | | | ○ | |
| 147 | | ハリカメムシ | | | | | | | | ○ | |
| 148 | | ハラビロヘリカメムシ | | | | | | | | ○ | |
| 149 | | ホシハラビロヘリカメムシ | | | | | | | | ○ | |
| 150 | | オオツマキヘリカメムシ | | | | | | | | ○ | |
| 151 | | オオヘリカメムシ | | | | | | | | ○ | |
| 152 | | ヒメヘリカメムシ | スカシヒメヘリカメムシ | | | | | | | | ○ |
| 153 | | | Stictopleurus属の一種 | | | | | | | | ○ |
| 154 | ナガカメムシ | オオメナガカメムシ | | | | | | | | ○ | |
| 155 | | キベリヒョウタンナガカメムシ | | | | | | | | ○ | |
| 156 | | チャイロナガカメムシ | | | | | | | | ○ | |
| 157 | | モンシロナガカメムシ | | | | | | | | ○ | |
| 158 | | コバネヒョウタンナガカメムシ | | | | | | | | ○ | |
| 159 | | ツノカメムシ | ベニモンツノカメムシ | | | | | | | | ○ |
| 160 | エサキモンキツノカメムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 161 | カメムシ | シロヘリカメムシ | ○ | | | | | | | | |
| 162 | | ナガメ | | | | | | | | ○ | |
| 163 | | ムラサキシラホシカメムシ | | | | | | | | ○ | |
| 164 | | マルシラホシカメムシ | | | | | | | | ○ | |
| 165 | | Eysarcoris属の一種 | | | | | | | | ○ | |
| 166 | | エビイロカメムシ | | | | | | | | ○ | |
| 167 | | クサギカメムシ | | | | | | | | ○ | |
| 168 | | スコットカメムシ | | | | | | | | ○ | |

昆虫類 (4)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | | | | | |
|-----|-----------|--------------|----------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|---|
| | | | 資料 12 | 資料 14 | 資料 3 | 資料 4 | 資料 5 | 資料 6 | 資料 7 | 資料 13 | |
| 169 | カメムシ | ツマジロカメムシ | | | | | | | | | ○ |
| 170 | | クチブトカメムシ | | | | | | | | | ○ |
| 171 | | チャバネアオカメムシ | | | | | | | | | ○ |
| 172 | マルカメムシ | マルカメムシ | | | | | | | | | ○ |
| 173 | キンカメムシ | チャイロカメムシ | | | | | | | | | ○ |
| 174 | | アカスジキンカメムシ | | ○ | | | | | | | |
| 175 | アメンボ | アメンボ | | | | | | | | | ○ |
| 176 | イトアメンボ | イトアメンボ | | | | | | | | | ○ |
| 177 | コオイムシ | オオコオイムシ | | | | | | | | | ○ |
| 178 | タイコウチ | タイコウチ | | | | | | | | | ○ |
| 179 | ナベブタムシ | ナベブタムシ | | | | | | | | | ○ |
| 180 | マツモムシ | マツモムシ | | | | | | | | | ○ |
| 181 | ヘビトンボ | ヘビトンボ | | | | | | | | | ○ |
| 182 | クサカゲロウ | クサカゲロウ科の一種 | | | | | | | | | ○ |
| 183 | ツノトンボ | オオツノトンボ | | | | | | | | | ○ |
| 184 | ウスバカゲロウ | クロコウスバカゲロウ | | | | | | | | | ○ |
| 185 | シリアゲムシ | キシタトゲシリアゲ | | | | | | | | | ○ |
| 186 | | ヤマトシリアゲ | | ○ | | | | | | | ○ |
| 187 | | ブライヤシリアゲ | | | | | | | | | ○ |
| 188 | シマトビケラ | シマトビケラ科の一種 | | | | | | | | | ○ |
| 189 | ナガレトビケラ | ナガレトビケラ科の一種 | | | | | | | | | ○ |
| 190 | ニンギョウトビケラ | Goera属の一種 | | | | | | | | | ○ |
| 191 | ヒゲナガトビケラ | アオヒゲナガトビケラ | | | | | | | | | ○ |
| 192 | フトヒゲトビケラ | ヨツメトビケラ | | | | | | | | | ○ |
| 193 | ホソガ | ホソガ科の一種 | | | | | | | | | ○ |
| 194 | ヒロズコガ | アトモンヒロズコガ | | | | | | | | | ○ |
| 195 | ツツミノガ | ツツミノガ科の一種 | | | | | | | | | ○ |
| 196 | キバガ | サクラキバガ | | | | | | | | | ○ |
| 197 | | セグロフサキバガ | | | | | | | | | ○ |
| 198 | ヒゲナガキバガ | カクバネヒゲナガキバガ | | | | | | | | | ○ |
| 199 | マルハキバガ | ホソオビキマルハキバガ | | | | | | | | | ○ |
| 200 | ナガヒゲガ | ナガヒゲガ科の一種 | | | | | | | | | ○ |
| 201 | スガ | マルギンバナスガ | | | | | | | | | ○ |
| 202 | ボクトウガ | ゴマフボクトウ | | | | | | | | | ○ |
| 203 | ハマキガ | アトキハマキ | | | | | | | | | ○ |
| 204 | | アシプトヒメハマキ | | | | | | | | | ○ |
| 205 | | ハマキガ科の一種 | | | | | | | | | ○ |
| 206 | イラガ | テングイラガ | | | | | | | | | ○ |
| 207 | | イラガ | | | | | | | | | ○ |
| 208 | | ナシイラガ | | | | | | | | | ○ |
| 209 | | クロスジイラガ | | | | | | | | | ○ |
| 210 | | アカイラガ | | | | | | | | | ○ |
| 211 | マダラガ | ホタルガ | | | | | | | | | ○ |
| 212 | セセリチョウ | アオバセセリ本土亜種 | | | | | ○ | | | | ○ |
| 213 | | ダイミョウセセリ | | | | | ○ | | | | ○ |
| 214 | | ホソバセセリ | | | | | | | | | ○ |
| 215 | | ヒメキマダラセセリ | | | | | | | | | ○ |
| 216 | | イチモンジセセリ | | | | | ○ | | | | ○ |
| 217 | | チャバネセセリ | | | | | | | | | ○ |
| 218 | | オオチャバネセセリ | | | | | | ○ | | | ○ |
| 219 | | キマダラセセリ | | | | | | | | | ○ |
| 220 | | コチャバネセセリ | | | | | | | | | ○ |
| 221 | | マダラチョウ | アサギマダラ | | | | | ○ | | | ○ |
| 222 | テングチョウ | テングチョウ日本本土亜種 | | | | | | | | ○ | |
| 223 | シジミチョウ | ミズイロオナガシジミ | | | | | ○ | | | ○ | |
| 224 | | ムラサキシジミ | | | | | | | | ○ | |

昆虫類 (5)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | | | | |
|-----|---------------|----------------------|----------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|
| | | | 資料 12 | 資料 14 | 資料 3 | 資料 4 | 資料 5 | 資料 6 | 資料 7 | 資料 13 |
| 225 | シジミチョウ | ルリシジミ | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| 226 | | ウラギンシジミ | | | | | | | | ○ |
| 227 | | ツバメシジミ | | | | ○ | | | | ○ |
| 228 | | エゾミドリシジミ | | | | | | | | ○ |
| 229 | | オオミドリシジミ | | | | ○ | | | | |
| 230 | | ウラクロシジミ | | | | ○ | | | | |
| 231 | | アカシジミ | | | | ○ | | | | |
| 232 | | ウラナミシジミ | | | | | | | | ○ |
| 233 | | ベニシジミ | | ○ | | | ○ | | | ○ |
| 234 | | トラフシジミ | | | | | ○ | | | ○ |
| 235 | | ゴイシシジミ | | | | | | | | ○ |
| 236 | | ヤマトシジミ本土亜種 | | | | | | | | ○ |
| 237 | | タテハチョウ | サカハチチョウ | | | | | | | |
| 238 | ミドリヒョウモン | | | | | | | | | ○ |
| 239 | ツマグロヒョウモン | | | | | | | | | ○ |
| 240 | ウラギンスジヒョウモン | | | | | | | | | ○ |
| 241 | オオウラギンスジヒョウモン | | | | | | | | | ○ |
| 242 | イシガケチョウ | | | ○ | | | | | | |
| 243 | ウラギンヒョウモン | | | | | | ○ | | | ○ |
| 244 | ゴマダラチョウ本土亜種 | | | | | | | | | ○ |
| 245 | ルリタテハ本土亜種 | | | | | | ○ | | | ○ |
| 246 | イチモンジチョウ | | | | | | | | | ○ |
| 247 | アサマイチモンジ | | | | | | ○ | | | ○ |
| 248 | コムスジ | | | | | | ○ | | | ○ |
| 249 | キタテハ | | | | | | ○ | | | ○ |
| 250 | オオムラサキ | | | | | | | | | ○ |
| 251 | ヒメアカタテハ | | | | | | | | | ○ |
| 252 | アカタテハ | | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 253 | アゲハチョウ | ジャコウアゲハ本土亜種 | | | | | | | | ○ |
| 254 | | アオスジアゲハ | | | | | | | | ○ |
| 255 | | カラスアゲハ本土亜種 | | | | | ○ | | | ○ |
| 256 | | モンキアゲハ | | ○ | | | ○ | | | ○ |
| 257 | | ミヤマカラスアゲハ | | | | | ○ | | | ○ |
| 258 | | キアゲハ | | | ○ | | ○ | | | ○ |
| 259 | | オナガアゲハ | | | | | ○ | | | |
| 260 | | クロアゲハ本土亜種 | | | | | | | | ○ |
| 261 | | アゲハ | | | | | | | | ○ |
| 262 | | ウスバシロチョウ | | | | | ○ | | | ○ |
| 263 | シロチョウ | ツマキチョウ本土亜種 | | ○ | | | | | | ○ |
| 264 | | モンキチョウ | | ○ | ○ | | ○ | | | ○ |
| 265 | | キタキチョウ | | ○ | | | ○ | | | ○ |
| 266 | | スジグロシロチョウ | | ○ | | | ○ | | | ○ |
| 267 | | ヤマトスジグロシロチョウ本州中・南部亜種 | | | | | | | | ○ |
| 268 | | モンシロチョウ | | ○ | ○ | | ○ | | | ○ |
| 269 | ジャノメチョウ | クロヒカゲ本土亜種 | | | | | | | | ○ |
| 270 | | ヒカゲチョウ | | | | | ○ | | | ○ |
| 271 | | ジャノメチョウ | | | | | | | | ○ |
| 272 | | コジャノメ | | | | | ○ | | | ○ |
| 273 | | ヒメジャノメ | | | | | | | | ○ |
| 274 | | サトキマダラヒカゲ | | | | | | | | ○ |
| 275 | | ヤマキマダラヒカゲ本土亜種 | | | | | | | | ○ |
| 276 | | ヒメウラナミジャノメ | | | | | ○ | | | ○ |
| 277 | | ヒメキマダラヒカゲ | | | | | ○ | | | ○ |
| 278 | トリバガ | トリバガ科の一種 | | | | | | | ○ | |
| 279 | ツトガ | アカウスグロノメイガ | | | | | | | ○ | |
| 280 | | ハナダカノメイガ | | | | | | | ○ | |

昆虫類 (6)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | | | | | |
|-----|---------|--------------|----------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|---|
| | | | 資料 12 | 資料 14 | 資料 3 | 資料 4 | 資料 5 | 資料 6 | 資料 7 | 資料 13 | |
| 281 | | テンスジツトガ | | | | | | | | | ○ |
| 282 | | ハカジモドキノメイガ | | | | | | | | | ○ |
| 283 | | シロアヤヒメノメイガ | | | | | | | | | ○ |
| 284 | | モンキクロノメイガ | | | | | | | | | ○ |
| 285 | | マエキノメイガ | | | | | | | | | ○ |
| 286 | | サツマキノメイガ | | | | | | | | | ○ |
| 287 | | ホシオビホソノメイガ | | | | | | | | | ○ |
| 288 | | ワモンノメイガ | | | | | | | | | ○ |
| 289 | | フキノメイガ | | | | | | | | | ○ |
| 290 | | マエアカスカシノメイガ | | | | | | | | | ○ |
| 291 | | クビシロノメイガ | | | | | | | | | ○ |
| 292 | | コヨツメノメイガ | | | | | | | | | ○ |
| 293 | | ナカキノメイガ | | | | | | | | | ○ |
| 294 | | モンシロルリノメイガ | | | | | | | | | ○ |
| 295 | メイガ | マツノシンマダラメイガ | | | | | | | | | ○ |
| 296 | | ウスベニトガリメイガ | | | | | | | | | ○ |
| 297 | | アカシマメイガ | | | | | | | | | ○ |
| 298 | | アカマダラメイガ | | | | | | | | | ○ |
| 299 | | マエジロホソマダラメイガ | | | | | | | | | ○ |
| 300 | | メイガ科の一種 | | | | | | | | | ○ |
| 301 | マドガ | ウスマダラマドガ | | | | | | | | | ○ |
| 302 | カギバガ | マエキカギバ | | | | | | | | | ○ |
| 303 | | ヒトツメカギバ | | | | | | | | | ○ |
| 304 | | ギンモンカギバ | | | | | | | | | ○ |
| 305 | | アカウラカギバ | | | | | | | | | ○ |
| 306 | | オオバトガリバ | | | | | | | | | ○ |
| 307 | | ウコンカギバ | | | | | | | | | ○ |
| 308 | アゲハモドキガ | キンモンガ | | | | | | | | | ○ |
| 309 | シャクガ | クロクモエダシャク | | | | | | | | | ○ |
| 310 | | ハイイロオオエダシャク | | | | | | | | | ○ |
| 311 | | コスジシロエダシャク | | | | | | | | | ○ |
| 312 | | ギンスジエダシャク | | | | | | | | | ○ |
| 313 | | ウスオエダシャク | | | | | | | | | ○ |
| 314 | | コウスアオシャク | | | | | | | | | ○ |
| 315 | | アカアシアオシャク | | | | | | | | | ○ |
| 316 | | マツオオエダシャク | | | | | | | | | ○ |
| 317 | | オオハガタナミシャク | | | | | | | | | ○ |
| 318 | | ウスジロエダシャク | | | | | | | | | ○ |
| 319 | | ツマキリエダシャク | | | | | | | | | ○ |
| 320 | | キマダラオオナミシャク | | | | | | | | | ○ |
| 321 | | クロテントビヒメシャク | | | | | | | | | ○ |
| 322 | | キオビベニヒメシャク | | | | | | | | | ○ |
| 323 | | ミジンキヒメシャク | | | | | | | | | ○ |
| 324 | | ウスキヒメアオシャク | | | | | | | | | ○ |
| 325 | シャクガ | マエキトビエダシャク | | | | | | | | | ○ |
| 326 | | エグリヅマエダシャク | | | | | | | | | ○ |
| 327 | | ウスキツバメエダシャク | | | | | | | | | ○ |
| 328 | | コガタツバメエダシャク | | | | | | | | | ○ |
| 329 | | ツマキリウスキエダシャク | | | | | | | | | ○ |
| 330 | | ソトシロオビナミシャク | | | | | | | | | ○ |
| 331 | | ウスアオアヤシャク | | | | | | | | | ○ |
| 332 | | ナカキエダシャク | | | | | | | | | ○ |
| 333 | | マエキオエダシャク | | | | | | | | | ○ |
| 334 | | フタヤマエダシャク | | | | | | | | | ○ |
| 335 | | ハラゲチビエダシャク | | | | | | | | | ○ |
| 336 | | モントビヒメシャク | | | | | | | | | ○ |

昆虫類 (7)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | | | | | |
|-----|--------|--------------|----------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|---|
| | | | 資料 12 | 資料 14 | 資料 3 | 資料 4 | 資料 5 | 資料 6 | 資料 7 | 資料 13 | |
| 337 | | ベニスジヒメシヤク | | | | | | | | | ○ |
| 338 | | シラフシロオビナミシヤク | | | | | | | | | ○ |
| 339 | | ホソバナミシヤク | | | | | | | | | ○ |
| 340 | イカリモンガ | イカリモンガ | | | | | | | | | ○ |
| 341 | オビガ | オビガ | | | | | | | | | ○ |
| 342 | カレハガ | マツカレハ | | | | | | | | | ○ |
| 343 | | リンゴカレハ | | | | | | | | | ○ |
| 344 | ヤママユガ | オオミズアオ | | | | | | | | | ○ |
| 345 | | オナガミズアオ | | | | | | | | | ○ |
| 346 | | ヤママユ | | | | | | | | | ○ |
| 347 | スズメガ | ハネナガブドウスズメ | | | | | | ○ | | | ○ |
| 348 | | フトオビホソバスズメ | | | | | | ○ | | | |
| 349 | | ホソバスズメ | | | | | | ○ | | | |
| 350 | | クルマスズメ | | | | | | ○ | | | ○ |
| 351 | | ウンモンズズメ | | | | | | | | | ○ |
| 352 | | トビイロスズメ | | | | | | | | | ○ |
| 353 | | ベニスズメ | | | | | | ○ | | | |
| 354 | | サザナミスズメ | | | | | | ○ | | | ○ |
| 355 | | ホシホウジャク | | | | | | ○ | | | |
| 356 | | クロホウジャク | | | | | | ○ | | | ○ |
| 357 | | モモズズメ | | | | | | ○ | | | ○ |
| 358 | | クチバスズメ | | | | | | | | | ○ |
| 359 | | エゾシモフリスズメ | | | | | | | | | ○ |
| 360 | | ビロードズズメ | | | | | | ○ | | | ○ |
| 361 | | ミスジビロードズズメ | | | | | | ○ | | | |
| 362 | | コスズメ | | | | | | ○ | | | ○ |
| 363 | | キイロスズメ | | | | | | | | | ○ |
| 364 | シャチホコガ | バイバラシロシャチホコ | | | | | | | | | ○ |
| 365 | | コトビモンシャチホコ | | | | | | | | | ○ |
| 366 | | アオセダカシャチホコ | | | | | | | | | ○ |
| 367 | | アカシャチホコ | | | | | | | | | ○ |
| 368 | ヒトリガ | スジベニコケガ | | | | | | | | | ○ |
| 369 | | アカスジシロコケガ | | | | | | | | | ○ |
| 370 | | キマエホソバ | | | | | | | | | ○ |
| 371 | | ツマキホソバ | | | | | | | | | ○ |
| 372 | | クロテンハイイロコケガ | | | | | | | | | ○ |
| 373 | | スジモンヒトリ | | | | | | | | | ○ |
| 374 | | アカハラゴマダラヒトリ | | | | | | | | | ○ |
| 375 | カノコガ | カノコガ | | | | | | | | | ○ |
| 376 | ドクガ | リンゴドクガ | | | | | | | | | ○ |
| 377 | | ニワトコドクガ | | | | | | | | | ○ |
| 378 | ヤガ | フタテンヒメヨトウ | | | | | | | | | ○ |
| 379 | | リンゴケンモン | | | | | | | | | ○ |
| 380 | | ナシケンモン | | | | | | | | | ○ |
| 381 | | フジロアツバ | | | | | | | | | ○ |
| 382 | | シラナミクロアツバ | | | | | | | | | ○ |
| 383 | | ショウブヨトウ | | | | | | | | | ○ |
| 384 | | ツマジロカラスヨトウ | | | | | | | | | ○ |
| 385 | | クロテンカバアツバ | | | | | | | | | ○ |
| 386 | | シロテンウスグロヨトウ | | | | | | | | | ○ |
| 387 | | ヒメウスグロヨトウ | | | | | | | | | ○ |
| 388 | | コウンモンクチバ | | | | | | | | | ○ |
| 389 | | シラクモアツバ | | | | | | | | | ○ |
| 390 | | イチモジキノコヨトウ | | | | | | | | | ○ |
| 391 | | シロシタバ | | | | | | | | | ○ |
| 392 | | キシタバ | | | | | | | | | ○ |

昆虫類 (8)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | | | | |
|-----|-----------|-----------------|----------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|
| | | | 資料 12 | 資料 14 | 資料 3 | 資料 4 | 資料 5 | 資料 6 | 資料 7 | 資料 13 |
| 393 | ヤガ | マエモンコヤガ | | | | | | | | ○ |
| 394 | | シマフコヤガ | | | | | | | | ○ |
| 395 | | ニレキリガ | | | | | | | | ○ |
| 396 | | オオバコヤガ | | | | | | | | ○ |
| 397 | | ムラサキアツバ | | | | | | | | ○ |
| 398 | | ギンスジキンウワバ | | | | | | | | ○ |
| 399 | | アカガネヨトウ | | | | | | | | ○ |
| 400 | | オオシラナミアツバ | | | | | | | | ○ |
| 401 | | ヒメネジロコヤガ | | | | | | | | ○ |
| 402 | | ツマオビアツバ | | | | | | | | ○ |
| 403 | | マダラキヨトウ | | | | | | | | ○ |
| 404 | | フタオビコヤガ | | | | | | | | ○ |
| 405 | | ウスキコヤガ | | | | | | | | ○ |
| 406 | | アトキスジクルマコヤガ | | | | | | | | ○ |
| 407 | | ホシコヤガ | | | | | | | | ○ |
| 408 | | ツマジロツマキリアツバ | | | | | | | | ○ |
| 409 | | シロマダラコヤガ | | | | | | | | ○ |
| 410 | | フタスジヨトウ | | | | | | | | ○ |
| 411 | | シロシタヨトウ | | | | | | | | ○ |
| 412 | | クロスジヒメアツバ | | | | | | | | ○ |
| 413 | | イネヨトウ | | | | | | | | ○ |
| 414 | テンオビヨトウ | | | | | | | | ○ | |
| 415 | カバスジヤガ | | | | | | | | ○ | |
| 416 | ウスベニコヤガ | | | | | | | | ○ | |
| 417 | ハグルマトモエ | | | | | | | | ○ | |
| 418 | キイロアツバ | | | | | | | | ○ | |
| 419 | キシタミドリヤガ | | | | | | | | ○ | |
| 420 | コブガ | アカマエアオリンガ | | | | | | | ○ | |
| 421 | ガガンボ | ミカドガガンボ | | | | | | | ○ | |
| 422 | | ベッコウガガンボ | | | | | | | ○ | |
| 423 | | キリウジガガンボ | ○ | | | | | | ○ | |
| 424 | | クロキリウジガガンボ | | | | | | | ○ | |
| 425 | ヌカカ | ヌカカ科の一種 | | | | | | | ○ | |
| 426 | ユスリカ | ユスリカ科の一種 | | | | | | | ○ | |
| 427 | カバエ | スズキカバエ | | | | | | | ○ | |
| 428 | ケバエ | メスアカケバエ | | | | | | | ○ | |
| 429 | | ハグロケバエ | ○ | | | | | | | |
| 430 | クロバネキノコバエ | クロバネキノコバエ科の一種 | | | | | | | ○ | |
| 431 | ミズアブ | ユウカアブ | | | | | | | ○ | |
| 432 | アブ | アカウシアブ | | | | | | | ○ | |
| 433 | | ヤマトアブ | | | | | | | ○ | |
| 434 | | シロフアブ | | | | | | | ○ | |
| 435 | | ムシヒキアブ | アオメアブ | | | | | | ○ | |
| 436 | | オオイシアブ | | | | | | ○ | | |
| 437 | | ナミマガリケムシヒキ | | | | | | ○ | | |
| 438 | | シオヤアブ | | | | | | ○ | | |
| 439 | ツリアブ | ビロウドツリアブ | | | | | | | ○ | |
| 440 | | ニトベハラボソツリアブ | | | | | | | ○ | |
| 441 | | スズキハラボソツリアブ | | | | | | | ○ | |
| 442 | アシナガバエ | アシナガキンバエ | ○ | | | | | | | |
| 443 | オドリバエ | Rhamphomyia属の一種 | ○ | | | | | | | |
| 444 | ハナアブ | ナガヒラタアブ | | | | | | | ○ | |
| 445 | | ツマキオオヒラタアブ | | | | | | | ○ | |
| 446 | | ホソヒラタアブ | | | | | | | ○ | |
| 447 | | シマハナアブ | | | | | | | ○ | |
| 448 | | ナミハナアブ | | ○ | | | | | ○ | |

昆虫類 (9)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | | | | |
|-----|--------------|---------------|-----------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|
| | | | 資料 12 | 資料 14 | 資料 3 | 資料 4 | 資料 5 | 資料 6 | 資料 7 | 資料 13 |
| 449 | ハナアブ | ナミホシヒラタアブ | ○ | | | | | | | |
| 450 | | ホシツヤヒラタアブ | ○ | | | | | | | ○ |
| 451 | | キンアリノスアブ | | | | | | | | ○ |
| 452 | | オオハナアブ | | | | | | | | ○ |
| 453 | | ベッコウハナアブ | | | | | | | | ○ |
| 454 | | ハナアブ科の一種 | | ○ | | | | | | ○ |
| 455 | ノミバエ | ノミバエ科の一種 | | | | | | | ○ | |
| 456 | メバエ | マダラメバエ | | | | | | | ○ | |
| 457 | ショウジョウバエ | スジカブトショウジョウバエ | | | | | | | ○ | |
| 458 | | ショウジョウバエ科の一種 | | | | | | | ○ | |
| 459 | ベッコウバエ | ベッコウバエ | | | | | | | ○ | |
| 460 | トゲハネバエ | トゲハネバエ科の一種 | | | | | | | ○ | |
| 461 | ヒロクチバエ | マツダマダラバエ | | | | | | | ○ | |
| 462 | デガシラバエ | デガシラバエ科の一種 | | | | | | | ○ | |
| 463 | ヤチバエ | ヒゲナガヤチバエ | | | | | | | ○ | |
| 464 | ツヤホソバエ | ヒトテンツヤホソバエ | | | | | | | ○ | |
| 465 | ミバエ | ハルササハマダラミバエ | | | | | | | ○ | |
| 466 | クロバエ | ケブカクロバエ | | | | | | | ○ | |
| 467 | | ツماغロキンバエ | | | | | | | ○ | |
| 468 | イエバエ | イエバエ | | ○ | | | | | | |
| 469 | クモバエ | ヘラズネクモバエ | | | | | | | ○ | |
| 470 | | ケブカクモバエ | | | | | | | ○ | |
| 471 | フンバエ | ヒメフンバエ | | | | | | | ○ | |
| 472 | | フンバエ科の一種 | | | | | | | ○ | |
| 473 | ヤドリバエ | コガネオオハリバエ | | | | | | | ○ | |
| 474 | | ヨコジマオオハリバエ | | | | | | | ○ | |
| 475 | | セスジハリバエ | | | | | | | ○ | |
| 476 | ホソクビゴミムシ | オオホソクビゴミムシ | | | | | | | ○ | |
| 477 | | ミイデラゴミムシ | | | | | | | ○ | |
| 478 | オサムシ | オグラヒラタゴミムシ | | | | | | | ○ | |
| 479 | | ホシボシゴミムシ | | | | | | | ○ | |
| 480 | | オオホシボシゴミムシ | | | | | | | ○ | |
| 481 | | ゴミムシ | | | | | | | ○ | |
| 482 | | マイマイカブリ | | ○ | | | | | ○ | |
| 483 | | マヤサンオサムシ | | | | | | | ○ | |
| 484 | | アキタクロナガオサムシ | | | | | | | ○ | |
| 485 | | クロナガオサムシ | | | | | | | ○ | |
| 486 | | ヤコンオサムシ | | | | | | | ○ | |
| 487 | | オオアトボシアオゴミムシ | | | | | | | ○ | |
| 488 | | アトボシアオゴミムシ | | | | | | | ○ | |
| 489 | | オオアオモリヒラタゴミムシ | | | | | | | ○ | |
| 490 | | イクビモリヒラタゴミムシ | | | | | | | ○ | |
| 491 | | オサムシ | ルリヒラタゴミムシ | | | | | | | ○ |
| 492 | オオスナハラゴミムシ | | | | | | | | ○ | |
| 493 | カワチゴミムシ | | | | | | | | ○ | |
| 494 | ニッポンヨツボシゴミムシ | | | | | | | | ○ | |
| 495 | セアカヒラタゴミムシ | | | | | | | | ○ | |
| 496 | ホソアトキリゴミムシ | | | | | | | | ○ | |
| 497 | スジアオゴミムシ | | | | | | | | ○ | |
| 498 | ニセケゴモクムシ | | | | | | | | ○ | |
| 499 | ケゴモクムシ | | | | | | | | ○ | |
| 500 | マルクビゴミムシ | | | | | | | | ○ | |
| 501 | カワチマルクビゴミムシ | | | | | | | | ○ | |
| 502 | フタホシスジバネゴミムシ | | | | | | | | ○ | |
| 503 | オオヒラタゴミムシ | | | | | | | | ○ | |
| 504 | ホソヒラタゴミムシ | | | | | | | | ○ | |

昆虫類 (10)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | | | | |
|-----|----------|----------------|----------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|
| | | | 資料 12 | 資料 14 | 資料 3 | 資料 4 | 資料 5 | 資料 6 | 資料 7 | 資料 13 |
| 505 | オサムシ | マルガタツヤヒラタゴミムシ | | | | | | | | ○ |
| 506 | | クロツヤヒラタゴミムシ | | | | | | | | ○ |
| 507 | | オオクロツヤヒラタゴミムシ | | | | | | | | ○ |
| 508 | ハンミョウ | ニワハンミョウ | | | | | | | | ○ |
| 509 | | ハンミョウ | | | | | | | | ○ |
| 510 | ゲンゴロウ | クロズマメゲンゴロウ | | | | | | | | ○ |
| 511 | | マメゲンゴロウ | | | | | | | | ○ |
| 512 | | チャイロマメゲンゴロウ | | | | | | | | ○ |
| 513 | | クロゲンゴロウ | | | | | | | | ○ |
| 514 | | ゲンゴロウ | | | | | | | | ○ |
| 515 | | シマゲンゴロウ | | | | | | | | ○ |
| 516 | | コシマゲンゴロウ | | | | | | | | ○ |
| 517 | | マダラシマゲンゴロウ | | | | | | | | ○ |
| 518 | | ケシゲンゴロウ | | | | | | | | ○ |
| 519 | | クロマメゲンゴロウ | | | | | | | | ○ |
| 520 | | ヒメゲンゴロウ | | | | | | | | ○ |
| 521 | ミズスマシ | ミズスマシ | | | | | | | | ○ |
| 522 | | オナガミズスマシ | | | | | | | | ○ |
| 523 | コツブゲンゴロウ | コツブゲンゴロウ | | | | | | | | ○ |
| 524 | ガムシ | ゴマフガムシ | | | | | | | | ○ |
| 525 | | ガムシ | | | | | | | | ○ |
| 526 | | ヒメガムシ | | | | | | | | ○ |
| 527 | シデムシ | オオヒラタシデムシ | | | | | | | | ○ |
| 528 | | クロシデムシ | | | | | | | | ○ |
| 529 | | ヨツボシモンシデムシ | | | | | | | | ○ |
| 530 | ハネカクシ | ムネビロハネカクシ | | | | | | | | ○ |
| 531 | | ルイスセスジハネカクシ | | | | | | | | ○ |
| 532 | | ズグロアカチビハネカクシ | | | | | | | | ○ |
| 533 | | ハスオビオオキバハネカクシ | | | | | | | | ○ |
| 534 | | アオバアリガタハネカクシ | ○ | | | | | | | ○ |
| 535 | | ヘリアカバコガシラハネカクシ | | | | | | | | ○ |
| 536 | | アカバハネカクシ | | | | | | | | ○ |
| 537 | | ナミエンマアリヅカムシ | | | | | | | | ○ |
| 538 | センチコガネ | センチコガネ | | | | | | | | ○ |
| 539 | クワガタムシ | スジクワガタ | | | | | | | | ○ |
| 540 | | コクワガタ | | ○ | | | | | | ○ |
| 541 | | アカアシクワガタ | | | | | | | | ○ |
| 542 | | ミヤマクワガタ | | | | | | | | ○ |
| 543 | | ノコギリクワガタ | ○ | | | | | | | ○ |
| 544 | コガネムシ | ツヤコガネ | | | | | | | | ○ |
| 545 | | ヒメコガネ | | | | | | | | ○ |
| 546 | | スジコガネ | | | | | | | | ○ |
| 547 | | オオフタホシマグソコガネ | | | | | | | | ○ |
| 548 | | セマダラコガネ | | | | | | | | ○ |
| 549 | | ヒメアシナガコガネ | | | | | | | | ○ |
| 550 | | コアオハナムグリ | | | | | | | | ○ |
| 551 | | クロコガネ | | | | | | | | ○ |
| 552 | | ビロウドコガネ | | | | | | | | ○ |
| 553 | | ヒメビロウドコガネ | | | | | | | | ○ |
| 554 | | オオビロウドコガネ | | | | | | | | ○ |
| 555 | | オオコフキコガネ | | | | | | | | ○ |
| 556 | | コフキコガネ | | | | | | | | ○ |
| 557 | | ツヤスジコガネ | | | | | | | | ○ |
| 558 | | コガネムシ | | | | | | | | ○ |
| 559 | | ヒラタハナムグリ | | | | | | | | ○ |
| 560 | | カドマルエンマコガネ | | | | | | | | ○ |

昆虫類 (11)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | | | | | |
|-----|----------|----------------|----------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|---|
| | | | 資料 12 | 資料 14 | 資料 3 | 資料 4 | 資料 5 | 資料 6 | 資料 7 | 資料 13 | |
| 561 | コガネムシ | マメダルマコガネ | | | | | | | | | ○ |
| 562 | | シロスジコガネ | | | | | | | | | ○ |
| 563 | | マメコガネ | | | | | | | | | ○ |
| 564 | ナガハナノミ | エダヒゲナガハナノミ | | | | | | | | | ○ |
| 565 | タママシ | クロナガタママシ | | | | | | | | | ○ |
| 566 | | タママシ | | | | | | | | | ○ |
| 567 | | シロオビナカボソタママシ | | | | | | | | | ○ |
| 568 | | クズノチビタママシ | | | | | | | | | ○ |
| 569 | コメツキムシ | シロオビチビサビキコリ | | | | | | | | | ○ |
| 570 | | サビキコリ | | | | | | | | | ○ |
| 571 | | ドウガネヒラタコメツキ | | | | | | | | | ○ |
| 572 | | コナガコメツキ | | | | | | | | | ○ |
| 573 | | チャイロコメツキ | | | | | | | | | ○ |
| 574 | | クロツヤクシコメツキ | | | | | | | | | ○ |
| 575 | | クシコメツキ | | | | | | | | | ○ |
| 576 | | オオナガコメツキ | | | | | | | | | ○ |
| 577 | | クチプトコメツキ | | | | | | | | | ○ |
| 578 | | オオツヤハダコメツキ | | | | | | | | | ○ |
| 579 | ヒゲプトコメツキ | ナガヒゲプトコメツキ | | | | | | | | | ○ |
| 580 | ジョウカイボン | ミヤマクビボソジョウカイ | | | | | | | | | ○ |
| 581 | | ウスイロクビボソジョウカイ | | | | | | | | | ○ |
| 582 | | クビボソジョウカイ | | | | | | | | | ○ |
| 583 | | ウスチャジョウカイ | | | | | | | | | ○ |
| 584 | | セスジジョウカイ | | | | | | | | | ○ |
| 585 | | ジョウカイボン | | | | | | | | | ○ |
| 586 | | セボシジョウカイ | | | | | | | | | ○ |
| 587 | | アオジョウカイ | | | | | | | | | ○ |
| 588 | ホタル | オバボタル | | | | | | | | | ○ |
| 589 | | ゲンジボタル | ○ | | | | | | | | ○ |
| 590 | | ヘイケボタル | ○ | | | | | | | | ○ |
| 591 | ベニボタル | カタスジアミメボタル | | | | | | | | | ○ |
| 592 | テントウムシ | シロトホシテントウ | | | | | | | | | ○ |
| 593 | | ナナホシテントウ | | | | | | | | | ○ |
| 594 | | トホシテントウ | | | | | | | | | ○ |
| 595 | | ナミテントウ | | | | | | | | | ○ |
| 596 | | オオニジュウヤホシテントウ | | | | | | | | | ○ |
| 597 | | ウスキホシテントウ | | | | | | | | | ○ |
| 598 | | ヒメカメノコテントウ | | | | | | | | | ○ |
| 599 | | ベニヘリテントウ | | | | | | | | | ○ |
| 600 | | コクロヒメテントウ | | | | | | | | | ○ |
| 601 | | ジュウロクホシテントウ | | | | | | | | | ○ |
| 602 | | シロホシテントウ | | | | | | | | | ○ |
| 603 | オオキノコムシ | ミヤマオビオオキノコムシ | | | | | | | | | ○ |
| 604 | ケシキスイ | ウスモンアカヒラタケシキスイ | | | | | | | | | ○ |
| 605 | | ヨツボシケシキスイ | | | | | | | | | ○ |
| 606 | | チャイロチビケシキスイ | | | | | | | | | ○ |
| 607 | | キベリチビケシキスイ | ○ | | | | | | | | |
| 608 | ツチハンミョウ | ヒメツチハンミョウ | | | | | | | | | ○ |
| 609 | カミキリモドキ | ハネアカカミキリモドキ | | | | | | | | | ○ |
| 610 | | キイロカミキリモドキ | | | | | | | | | ○ |
| 611 | | モモプトカミキリモドキ | | | | | | | | | ○ |
| 612 | アカハネムシ | ムナビロアカハネムシ | | | | | | | | | ○ |
| 613 | | アカハネムシ | | | | | | | | | ○ |
| 614 | ゴミムシダマシ | アカガネハムシダマシ | | | | | | | | | ○ |
| 615 | | アオハムシダマシ | | | | | | | | | ○ |
| 616 | | ナガハムシダマシ | | | | | | | | | ○ |

昆虫類 (12)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | | | | | |
|-----|------------|----------------|-------------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|---|
| | | | 資料 12 | 資料 14 | 資料 3 | 資料 4 | 資料 5 | 資料 6 | 資料 7 | 資料 13 | |
| 617 | ゴミムシダマシ | キマワリ | | | | | | | | ○ | |
| 618 | | シワナガキマワリ | | | | | | | | ○ | |
| 619 | | エグリゴミムシダマシ | | | | | | | | ○ | |
| 620 | カミキリムシ | ヒゲナガモモフトカミキリ | | | | | | | | ○ | |
| 621 | | チビハナカミキリ | | | | | | | | ○ | |
| 622 | | ゴマダラカミキリ | | | | | | | | ○ | |
| 623 | | フタオビアラゲカミキリ | | | | | | | | ○ | |
| 624 | | シロスジカミキリ | | | | | | | | ○ | |
| 625 | | ツシمامナクボカミキリ | | | | | | | | ○ | |
| 626 | | トゲヒゲトラカミキリ | | ○ | | | | | | | |
| 627 | | ヒナルリハナカミキリ | | | | | | | | ○ | |
| 628 | | ベーツヒラタカミキリ | | | | | | | | ○ | |
| 629 | | ヤツメカミキリ | | | | | | | | ○ | |
| 630 | | シラホシカミキリ | | | | | | | | ○ | |
| 631 | | スネケブカヒロコバナカミキリ | | | | | | | | ○ | |
| 632 | | カタシロゴマフカミキリ | | | | | | | | ○ | |
| 633 | | ナガゴマフカミキリ | | | | | | | | ○ | |
| 634 | | マツノマダラカミキリ | | | | | | | | ○ | |
| 635 | | ヘリグロリンゴカミキリ | | | | | | | | ○ | |
| 636 | | ホソツツリンゴカミキリ | | | | | | | | ○ | |
| 637 | | ニセシラホシカミキリ | | | | | | | | ○ | |
| 638 | | ノコギリカミキリ | | | | | | | | ○ | |
| 639 | | ヘリグロベニカミキリ | | | | | | | | ○ | |
| 640 | | ベニカミキリ | | | | | | | | ○ | |
| 641 | | クロカミキリ | | | | | | | | ○ | |
| 642 | | ハムシ | アカガネサルハムシ | | | | | | | | ○ |
| 643 | | | キクビアオハムシ | | | | | | | | ○ |
| 644 | | | ハンノキハムシ | | | | | | | | ○ |
| 645 | | | アカイロマルノミハムシ | | | | | | | | ○ |
| 646 | | | ウリハムシモドキ | | | | | | | | ○ |
| 647 | | | ウリハムシ | | | | | | | | ○ |
| 648 | | | クロウリハムシ | | | | | | | | ○ |
| 649 | | | アオバネサルハムシ | | | | | | | | ○ |
| 650 | | | ムネアカサルハムシ | | | | | | | | ○ |
| 651 | | | アズキマメゾウムシ | | | | | | | | ○ |
| 652 | | | チャイロカメノコハムシ | | | | | | | | ○ |
| 653 | セスジカメノコハムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 654 | ムシクソハムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 655 | ヨモギハムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 656 | ヤナギハムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 657 | バラルリツツハムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 658 | クロボシツツハムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 659 | クロバハラグリハムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 660 | キバラヒメハムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 661 | クワハムシ | | | ○ | | | | | | ○ | |
| 662 | イタドリハムシ | | | ○ | | | | | | ○ | |
| 663 | ヤツボシハムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 664 | フジハムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 665 | ルリクビボソハムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 666 | ヤマイモハムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 667 | キイロクビナガハムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 668 | アカクビナガハムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 669 | ホタルハムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 670 | ヒメウスイロハムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 671 | キイロクワハムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 672 | コマルノミハムシ | | | | | | | | ○ | | |

昆虫類 (13)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | | | | | |
|-----|---------------|--------------|------------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|---|
| | | | 資料 12 | 資料 14 | 資料 3 | 資料 4 | 資料 5 | 資料 6 | 資料 7 | 資料 13 | |
| 673 | ハムシ | ヨツボシハムシ | | | | | | | | ○ | |
| 674 | | ダイコンサルハムシ | | | | | | | | ○ | |
| 675 | | キヌツヤミズクサハムシ | | | | | | | | ○ | |
| 676 | | アカタデハムシ | | | | | | | | ○ | |
| 677 | | カタクリハムシ | | | | | | | | ○ | |
| 678 | | アカバナタマノミハムシ | | | | | | | | ○ | |
| 679 | | アラハダトビハムシ | | | | | | | | ○ | |
| 680 | | ワモンナガハムシ | | | | | | | | ○ | |
| 681 | ヒゲナガゾウムシ | セマルヒゲナガゾウムシ | | | | | | | | ○ | |
| 682 | | ナガフトヒゲナガゾウムシ | | | | | | | | ○ | |
| 683 | オトシブミ | ウスモンオトシブミ | | | | | | | | ○ | |
| 684 | | ヒメクロオトシブミ | | | | | | | | ○ | |
| 685 | | オトシブミ | | | | | | | | ○ | |
| 686 | | ウスアカオトシブミ | | | | | | | | ○ | |
| 687 | | クロケシツブチョッキリ | | | | | | | | ○ | |
| 688 | | マルムネチョッキリ | | | | | | | | ○ | |
| 689 | | ナルルリオトシブミ | | | | | | | | ○ | |
| 690 | | カシルリオトシブミ | | | | | | | | ○ | |
| 691 | | ヒメケブカチョッキリ | | | | | | | | ○ | |
| 692 | | ゾウムシ | クロナガハナゾウムシ | | | | | | | | ○ |
| 693 | | | ヒメシロコブゾウムシ | | | | | | | | ○ |
| 694 | シロコブゾウムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 695 | コフキゾウムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 696 | マツアナアキゾウムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 697 | アカコブコブゾウムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 698 | コカシワクチブトゾウムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 699 | ハスジカツオゾウムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 700 | カツオゾウムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 701 | キスジアシナガゾウムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 702 | トゲハラヒラセクモゾウムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 703 | カシワクチブトゾウムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 704 | オジロアシナガゾウムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 705 | コクロアナアキゾウムシ | | | | | | | | | ○ | |
| 706 | アラハダクチカクシゾウムシ | | | | | | | | ○ | | |
| 707 | オサゾウムシ | オオゾウムシ | | | | | | | | ○ | |
| 708 | キクイムシ | キクイムシ科の一種 | | | | | | | | ○ | |
| 709 | ハバチ | メスグロシダハバチ | ○ | | | | | | | | |
| 710 | クキバチ | バラクキバチ | | | | | | | | ○ | |
| 711 | コマユバチ | コマユバチ科の一種 | | | | | | | | ○ | |
| 712 | ヒメバチ | ヒメバチ科の一種 | ○ | | | | | | | | |
| 713 | アリ | ヤマトアシナガアリ | | | | | | | | ○ | |
| 714 | | オオハリアリ | | | | | | | | ○ | |
| 715 | | クロオオアリ | | | | | | | | ○ | |
| 716 | | ムネアカオオアリ | | | | | | | | ○ | |
| 717 | | キイロシリアゲアリ | | | | | | | | ○ | |
| 718 | | トゲズネハリアリ | | | | | | | | ○ | |
| 719 | | クロヤマアリ | | ○ | | | | | | ○ | |
| 720 | | アカヤマアリ | | | ○ | | | | | | |
| 721 | | クロクサアリ | | | | | | | | ○ | |
| 722 | | トビイロケアリ | | ○ | | | | | | ○ | |
| 723 | | ヒメアリ | | | | | | | | ○ | |
| 724 | | キイロヒメアリ | | | | | | | | ○ | |
| 725 | | アメイロアリ | | | | | | | | ○ | |
| 726 | | アズマオオズアリ | | | | | | | | ○ | |
| 727 | | トゲアリ | | | | | | | | ○ | |
| 728 | | アミメアリ | | | | | | | | ○ | |

昆虫類 (14)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | | | | | |
|-----|-------|----------------|----------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|---|
| | | | 資料 12 | 資料 14 | 資料 3 | 資料 4 | 資料 5 | 資料 6 | 資料 7 | 資料 13 | |
| 729 | アリ | ウロコアリ | | | | | | | | | ○ |
| 730 | | トビイロシワアリ | | | | | | | | | ○ |
| 731 | ドロバチ | ミカドトックリバチ | | | | | | | | | ○ |
| 732 | | スズバチ | | | | | | | | | ○ |
| 733 | スズメバチ | フタモンアシナガバチ本土亜種 | | | | | | | | | ○ |
| 734 | | セグロアシナガバチ本土亜種 | | | | | | | | | ○ |
| 735 | | キボシアシナガバチ | | | | | | | | | ○ |
| 736 | | キアシナガバチ本土亜種 | | | | | | | | | ○ |
| 737 | | コガタスズメバチ | | | | | | | | | ○ |
| 738 | | ヒメスズメバチ | | | | | | | | | ○ |
| 739 | | キイロスズメバチ | | ○ | | | | | | | ○ |
| 740 | | Vespa属の一種 | | | | | | | | | ○ |
| 741 | | クロスズメバチ | | | | | | | | | ○ |
| 742 | クモバチ | オオモンクロクモバチ | | | | | | | | | ○ |
| 743 | | ベッコウクモバチ | | | | | | | | | ○ |
| 744 | | トゲアシオオクモバチ | ○ | | | | | | | | |
| 745 | ツチバチ | ヒメハラナガツチバチ本土亜種 | | | | | | | | | ○ |
| 746 | | オオハラナガツチバチ | | | | | | | | | ○ |
| 747 | | キンケハラナガツチバチ | | | | | | | | | ○ |
| 748 | ミツバチ | ケブカコシブトハナバチ | | | | | | | | | ○ |
| 749 | | ニホンミツバチ | ○ | | | | | | | | ○ |
| 750 | | セイヨウミツバチ | | | | | | | | | ○ |
| 751 | | トラマルハナバチ本土亜種 | | | | | | | | | ○ |
| 752 | | クロマルハナバチ | | | | | | | | | ○ |
| 753 | | Bombus属の一種 | | | | | | | | | ○ |
| 754 | | ニッポンヒゲナガハナバチ | | | | | | | | | ○ |
| 755 | | シロスジヒゲナガハナバチ | ○ | | | | | | | | |
| 756 | | キムネクマバチ | ○ | | | | | | | | ○ |
| 757 | コハナバチ | アカガネコハナバチ | | | | | | | | | ○ |
| 計 | 192科 | 757種 | 47 | 21 | 12 | 33 | 12 | 0 | 3 | 722 | |

注1：上記の抽出区分及び資料は以下のとおりである。

区分A：筒川及び一寸法師山周辺

資料12：「筒川河川企画調査業務委託業務報告書」（平成10年 京都府宮津土木事務所）

資料14：「一寸法師山・市民風車設置に関する環境影響調査報告書」（平成21年 自然エネルギー市民の会）

区分B：事旧弥栄町及び基本的な調査対象範囲を含む二次メッシュ

資料3：「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 昆虫（トンボ）類」（平成14年 環境省）

資料4：「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 昆虫（チョウ）類」（平成14年 環境省）

資料5：「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 昆虫（ガ）類」（平成14年 環境省）

資料6：「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 昆虫（甲虫）類」（平成14年 環境省）

資料7：「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 昆虫（セミ・水生半翅）類」（平成14年 環境省）

資料13：「ふるさと弥栄の自然 弥栄町自然環境調査報告書」（平成7年 京都府弥栄町）

注2：科、種名の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省）に準拠した。

魚類

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | |
|-----|--------|-------------|--------|------|-----|------|---|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料2 | 資料13 | |
| 1 | ヤツメウナギ | スナヤツメ | | | | ○ | |
| 2 | ウナギ | ニホンウナギ | ○ | | | ○ | |
| 3 | コイ | コイ | ○ | | | ○ | |
| 4 | | ゲンゴロウブナ | ○ | | | | |
| 5 | | ギンブナ | ○ | | | ○ | |
| 6 | | オイカワ | | | | ○ | |
| 7 | | カワムツ | | | | ○ | |
| 8 | | タカハヤ | ○ | | | ○ | |
| 9 | | ウグイ | ○ | | | ○ | |
| 10 | | タモロコ | ○ | | | | |
| 11 | | ドジョウ | ドジョウ | ○ | | | ○ |
| 12 | | | シマドジョウ | | | | ○ |
| 13 | ギギ | ギギ | | | | ○ | |
| 14 | ナマズ | ナマズ | | | | ○ | |
| 15 | アカザ | アカザ | | | | ○ | |
| 16 | アユ | アユ | ○ | ○ | | ○ | |
| 17 | サケ | サケ | ○ | | | | |
| 18 | | ヤマメ | | ○ | | ○ | |
| 19 | | サツキマス | ○ | | | | |
| 20 | | アマゴ | ○ | | | ○ | |
| 21 | | メダカ | メダカ | | | | ○ |
| 22 | カジカ | カマキリ (アユカケ) | ○ | | | | |
| 23 | | カジカ | | | | ○ | |
| 24 | ボラ | ボラ | ○ | | | | |
| 25 | ドンコ | ドンコ | | | | ○ | |
| 26 | ハゼ | ミミズハゼ | ○ | | | | |
| 27 | | スミウキゴリ | ○ | | | | |
| 28 | | シマウキゴリ | ○ | | | | |
| 29 | | ウキゴリ | ○ | | | | |
| 30 | | マハゼ | ○ | | | | |
| 31 | | ヒメハゼ | ○ | | | | |
| 32 | | ゴクラクハゼ | ○ | | | | |
| 33 | | シマヨシノボリ | ○ | | | | |
| 34 | | ヨシノボリ | | | | ○ | |
| 35 | | ヌマチチブ | ○ | | | | |
| 36 | | チチブ | ○ | | | | |
| 37 | フグ | クサフグ | ○ | | | | |
| 計 | 15科 | 37種 | 25 | 2 | 0 | 20 | |

注1：上記の抽出区分及び資料は以下のとおりである。

区分A：筒川及び一寸法師山周辺

資料13：「筒川河川企画調査業務委託業務報告書」（平成10年 京都府宮津土木事務所）

資料15：「一寸法師山・市民風車設置に関する環境影響調査報告書」（平成21年 自然エネルギー市民の会）

区分B：事旧弥栄町及び基本的な調査対象範囲を含む二次メッシュ

資料 8：「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 淡水魚類」（平成14年 環境省）

資料14：「ふるさと弥栄の自然 弥栄町自然環境調査報告書」（平成7年 京都府弥栄町）

注2：科、種名の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省）に準拠した。

底生動物 (1)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | |
|-----|-------------|-----------------------------|------|------|-----|------|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料9 | 資料13 |
| 1 | サンカクアタマウズムシ | ナミウズムシ | | | | ○ |
| 2 | アマオブネガイ | イシマキガイ | ○ | | | |
| 3 | カワニナ | カワニナ | ○ | | | ○ |
| 4 | モノアラガイ | ヒメモノアラガイ | ○ | | | |
| 5 | サカマキガイ | サカマキガイ | | | | ○ |
| 6 | シジミ | マシジミ | ○ | | | |
| 7 | ゴカイ | ゴカイ | ○ | | | |
| 8 | ミズミミズ | エラミミズ | ○ | | | |
| 9 | | ユリミミズ属の一種 | | | | ○ |
| 10 | | ミズミミズ属の一種 | | | | ○ |
| 11 | | イトミミズ属の一種 | | | | ○ |
| 12 | イシビル | シマイシビル | ○ | | | |
| 13 | | ナマイシビル | | | | ○ |
| 14 | ミジンコ | ミジンコ属の一種 | | ○ | | |
| 15 | ヨコエビ | ヨコエビ亜目の一種 | ○ | | | |
| 16 | ハマトビムシ | ハマトビムシ科の一種 | ○ | | | |
| 17 | ミズムシ | ミズムシ | ○ | | | ○ |
| 18 | コツブムシ | <i>Gnorymosphaeroma</i> sp. | ○ | | | |
| 19 | ヌマエビ | ミズレスマエビ | ○ | | | |
| 20 | | ヌマエビ | ○ | | | |
| 21 | テナガエビ | テナガエビ | ○ | | | |
| 22 | | ヒラテナガエビ | ○ | | | |
| 23 | | スジエビ | ○ | | | |
| 24 | アメリカザリガニ | アメリカザリガニ | ○ | | | |
| 25 | サワガニ | サワガニ | | | | ○ |
| 26 | ベンケイガニ | クロベンケイガニ | ○ | | | |
| 27 | モクズガニ | モクズガニ | ○ | | | |
| 28 | ヒメフタオカゲロウ | ヒメフタオカゲロウ属の一種 | | | | ○ |
| 29 | コカゲロウ | フタバコカゲロウ属の一種 | | | | ○ |
| 30 | | コカゲロウ属の一種 | | | | ○ |
| 31 | ヒラタカゲロウ | キブネタニガワカゲロウ | | | | ○ |
| 32 | | クロタニガワカゲロウ | | | | ○ |
| 33 | | シロタニガワカゲロウ | ○ | | | ○ |
| 34 | | ナミヒラタカゲロウ | ○ | | | ○ |
| 35 | | エルモンヒラタカゲロウ | ○ | | | ○ |
| 36 | | キハダヒラタカゲロウ属の一種 | | | | ○ |
| 37 | | ヒメヒラタカゲロウ属の一種 | | | | ○ |
| 38 | チラカゲロウ | チラカゲロウ | ○ | | | ○ |
| 39 | モンカゲロウ | フタスジモンカゲロウ | | | | ○ |
| 40 | | トウヨウモンカゲロウ | ○ | | | |
| 41 | | モンカゲロウ | | | | ○ |
| 42 | カワカゲロウ | キイロカワカゲロウ | | | | ○ |
| 43 | マダラカゲロウ | オオクママダラカゲロウ | ○ | | | ○ |
| 44 | | オオマダラカゲロウ | ○ | | | ○ |
| 45 | | ヨシノマダラカゲロウ | ○ | | | |
| 46 | | シリナガマダラカゲロウ | ○ | | | ○ |
| 47 | | エラブタマダラカゲロウ | | | | ○ |
| 48 | | アカマダラカゲロウ | | | | ○ |
| 49 | | トウヨウマダラカゲロウ属の一種 | ○ | | | |
| 50 | | マダラカゲロウ属の一種 | ○ | | | |
| 51 | カワトンボ | ハグロトンボ | ○ | | | |
| 52 | | ミヤマカワトンボ | | | | ○ |
| 53 | | アオハダトンボ属の一種 | ○ | | | |
| 54 | | ニホンカワトンボ | ○ | | | |
| 55 | | アサヒナカワトンボ | | | | ○ |

底生動物 (2)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | |
|-----|-----------|-----------------------|-------------|------|-----|------|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料9 | 資料13 |
| 56 | ヤンマ | コシボソヤンマ | ○ | | | |
| 57 | サナエトンボ | ミヤマサナエ | | | | ○ |
| 58 | | ヤマサナエ | ○ | | | |
| 59 | | キイロサナエ | ○ | | | |
| 60 | | クロサナエ | | | | ○ |
| 61 | | ダビドサナエ | | | | ○ |
| 62 | | オナガサナエ | | | | ○ |
| 63 | | コオニヤンマ | ○ | | | ○ |
| 64 | | ヒメサナエ | | | | ○ |
| 65 | | オジロサナエ | | | | ○ |
| 66 | | サナエトンボ科の一種 | | | | ○ |
| 67 | オニヤンマ | オニヤンマ | | | | ○ |
| 68 | エゾトンボ | コヤマトンボ | ○ | | | ○ |
| 69 | トンボ | アキアカネ | ○ | | | |
| 70 | オナシカワゲラ | フサオナシカワゲラ属の一種 | ○ | | | |
| 71 | | オナシカワゲラの一種 | | | | ○ |
| 72 | ヒロムネカワゲラ | ヒロムネカワゲラ科の一種 | | | | ○ |
| 73 | ミドリカワゲラ | ミドリカワゲラ科の一種 | | | | ○ |
| 74 | カワゲラ | キベリオスエダカワゲラ | | | | ○ |
| 75 | | カミムラカワゲラ | | | | ○ |
| 76 | | カミムラカワゲラ属の一種 | | | | ○ |
| 77 | | フタツメカワゲラ属の一種① | ○ | | | |
| 78 | | フタツメカワゲラ属の一種② | ○ | | | |
| 79 | | フタツメカワゲラ属の一種③ | ○ | | | |
| 80 | | クラカケカワゲラ属の一種 | | | | ○ |
| 81 | | ヤマトカワゲラ属の一種 | | | | ○ |
| 82 | | オオヤマカワゲラ属の一種 | | | | ○ |
| 83 | | アミメカワゲラ | アミメカワゲラの属一種 | | | |
| 84 | アメンボ | アメンボ | ○ | | | |
| 85 | ナベブタムシ | ナベブタムシ | | | | ○ |
| 86 | ヘビトンボ | ヘビトンボ | ○ | | | ○ |
| 87 | シマトビケラ | コガタシマトビケラ | | | | ○ |
| 88 | | ウルマーシマトビケラ | ○ | | | ○ |
| 89 | | ナカハラシマトビケラ | | | | ○ |
| 90 | | シマトビケラ属の一種 | | | | ○ |
| 91 | | ヒゲナガカワトビケラ | ヒゲナガカワトビケラ | | | |
| 92 | | チャバネヒゲナガカワトビケラ | ○ | | | ○ |
| 93 | ヤマトビケラ | コヤマトビケラ属の一種 | | | | ○ |
| 94 | | ヤマトビケラ属の一種 | | | | ○ |
| 95 | ナガレトビケラ | ヒロアタマナガレトビケラ | | | | ○ |
| 96 | | ムナグロナガレトビケラ | | | | ○ |
| 97 | | トランスクィラナガレトビケラ | | | | ○ |
| 98 | | ナガレトビケラ属の一種 | ○ | | | ○ |
| 99 | ニンギョウトビケラ | ニンギョウトビケラ | | | | ○ |
| 100 | | ニンギョウトビケラ属の一種 | | | | ○ |
| 101 | カクツツトビケラ | カクツツトビケラ属の一種 | | | | ○ |
| 102 | ヒゲナガトビケラ | アオヒゲナガトビケラ属の一種 | | | | ○ |
| 103 | エグリトビケラ | ホタルトビケラ属の一種 | ○ | | | |
| 104 | キタガミトビケラ | キタガミトビケラ | | | | ○ |
| 105 | ケトビケラ | グマガトビケラ | | | | ○ |
| 106 | ガガンボ | <i>Antocha</i> sp. | ○ | | | |
| 107 | | <i>Dicranota</i> sp. | ○ | | | |
| 108 | | <i>Prionocera</i> sp. | ○ | | | |
| 109 | | <i>Tipula</i> sp. | ○ | | | |
| 110 | | ウスバガガンボ属の一種 | | | | ○ |

底生動物 (3)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | |
|-----|---------|----------------|------|------|-----|------|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料9 | 資料13 |
| 111 | ガガンボ | ヒメガガンボ属の一種 | | | | ○ |
| 112 | | ガガンボ属の一種 | | | | ○ |
| 113 | ユスリカ | ユスリカ属の一種 | ○ | | | ○ |
| 114 | | エリユスリカ属の一種 | | | | ○ |
| 115 | | ハモンユスリカ属の一種 | ○ | | | ○ |
| 116 | ナガレアブ | ハマダラナガレアブ | | | | ○ |
| 117 | | ナガレアブ科の一種 | ○ | | | |
| 118 | オドリバエ | オドリバエ属の一種 | | | | ○ |
| 119 | ゲンゴロウ | ヒメゲンゴロウ属の一種 | ○ | | | |
| 120 | ガムシ | ゴマフガムシ | ○ | | | |
| 121 | | シジミガムシ | | | | ○ |
| 122 | | ガムシ属の一種 | | | | ○ |
| 123 | ヒメドロムシ | ツヤドロムシ属の一種 | | | | ○ |
| 124 | | ヒメドロムシ科の一種 | | | | ○ |
| 125 | ヒラタドロムシ | チビヒゲナガハナノミ属の一種 | | | | ○ |
| 126 | | マルヒラタドロムシ属の一種 | | | | ○ |
| 127 | | ヒラタドロムシ | | | | ○ |
| 128 | | ヒラタドロムシ属の一種 | ○ | | | |
| 計 | 60科 | 128種 | 59 | 1 | 0 | 85 |

注1：上記の抽出区分及び資料は以下のとおりである。

区分A：筒川及び一寸法師山周辺

資料12：「筒川河川企画調査業務委託業務報告書」（平成10年 京都府宮津土木事務所）

資料14：「一寸法師山・市民風車設置に関する環境影響調査報告書」（平成21年 自然エネルギー市民の会）

区分B：事旧弥栄町及び基本的な調査対象範囲を含む二次メッシュ

資料9：「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査報告書 陸産淡水産貝類」（平成14年 環境省）

資料13：「ふるさと弥栄の自然 弥栄町自然環境調査報告書」（平成7年 京都府弥栄町）

注2：科、種名の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省）に準拠した。

植物 (1)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | |
|-----|----------|--------------------|------|------|------|------|------|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料13 | 資料15 | 資料16 |
| 1 | ヒカゲノカズラ | ヒカゲノカズラ | | | ○ | | ○ |
| 2 | | トウゲシバ | | | ○ | | ○ |
| 3 | イワヒバ | クラマゴケ | | | ○ | | |
| 4 | トクサ | スギナ | ○ | | ○ | | ○ |
| 5 | ハナヤスリ | オオハナワラビ | | | ○ | | |
| 6 | | フユノハナワラビ | | | ○ | | |
| 7 | ゼンマイ | ヤマドリゼンマイ | | | | | ○ |
| 8 | | ゼンマイ | | ○ | ○ | | ○ |
| 9 | キジノオシダ | オオキジノオ | | | ○ | | |
| 10 | | キジノオシダ | | | ○ | | ○ |
| 11 | | ヤマソテツ | | | ○ | | ○ |
| 12 | ウラジロ | コシダ | | | ○ | | |
| 13 | | ウラジロ | | ○ | ○ | | |
| 14 | フサシダ | カニクサ | | | ○ | | |
| 15 | コケシノブ | ハイホラゴケ | | | | | ○ |
| 16 | コバノイシカグマ | イヌシダ | | | ○ | | |
| 17 | | フモトシダ | | | ○ | | |
| 18 | | ワラビ | | ○ | ○ | | ○ |
| 19 | ホングウシダ | ホラシノブ | | | ○ | | |
| 20 | ミズワラビ | クジャクシダ | | | ○ | | ○ |
| 21 | | イワガネゼンマイ | | | ○ | | ○ |
| 22 | | イワガネソウ | | | ○ | | |
| 23 | | タチシノブ | | | ○ | | |
| 24 | イノモトソウ | オオバノイノモトソウ | | | ○ | | |
| 25 | | イノモトソウ | | | ○ | | |
| 26 | チャゼンシダ | トラノオシダ | | | ○ | | |
| 27 | | チャゼンシダ | | | ○ | | |
| 28 | シシガシラ | シシガシラ | | | ○ | | |
| 29 | オシダ | ホソバカナワラビ | | | ○ | | |
| 30 | | コバノカナワラビ | | | ○ | | |
| 31 | | リョウメンシダ | | | ○ | | ○ |
| 32 | | ヤブソテツ | | | ○ | | |
| 33 | | オシダ | | | | | ○ |
| 34 | | ベニシダ | | | ○ | | ○ |
| 35 | | トウゴクシダ | | | ○ | | |
| 36 | | オオベニシダ | | | ○ | | |
| 37 | | クマワラビ | | | ○ | | |
| 38 | | ミヤマベニシダ | | | | | ○ |
| 39 | | ミヤマイタチシダ | | | ○ | | ○ |
| 40 | | オクマワラビ | | | ○ | | |
| 41 | | オオイタチシダ (キンキイタチシダ) | | | ○ | | |
| 42 | | ヤマイタチシダ | | | ○ | | |
| 43 | | ナライシダ | | | ○ | | |
| 44 | | イノデ | | | ○ | | |
| 45 | | サカゲイノデ | | ○ | ○ | | ○ |
| 46 | | イノデモドキ | | | ○ | | |
| 47 | | ジュウモンジシダ | | | ○ | | ○ |
| 48 | | ヒメシダ | ホシダ | | | ○ | |
| 49 | ゲジゲジシダ | | | | ○ | | |
| 50 | ミゾシダ | | | | ○ | | ○ |
| 51 | ハシゴシダ | | | | ○ | | |
| 52 | ハリガネワラビ | | | | | | ○ |
| 53 | ヤワラシダ | | | | ○ | | |
| 54 | ヒメシダ | | | | ○ | | ○ |
| 55 | ヒメワラビ | | | | ○ | | |
| 56 | ミドリヒメワラビ | | | | ○ | | |

植物 (2)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | |
|-----|-------|---------------|------|------|------|------|------|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料13 | 資料15 | 資料16 |
| 57 | メシダ | サトメシダ | | | ○ | | |
| 58 | | ホソバイヌワラビ | | | ○ | | |
| 59 | | イヌワラビ | | | ○ | | |
| 60 | | ヤマイヌワラビ | | | ○ | | ○ |
| 61 | | ヘビノネゴザ | | | ○ | | |
| 62 | | シケチシダ | | | ○ | | |
| 63 | | ハコネシケチシダ | | | | | ○ |
| 64 | | セイタカシケシダ | | | ○ | | |
| 65 | | シケシダ | | ○ | ○ | | |
| 66 | | ハクモウイノデ | | | | | ○ |
| 67 | | キヨタキシダ | | | | | ○ |
| 68 | | イヌガンソク | | | ○ | | ○ |
| 69 | | クサソテツ | | | ○ | | |
| 70 | | イワデンダ | | | ○ | | |
| 71 | ウラボシ | ミツデウラボシ | | | ○ | | ○ |
| 72 | | ノキシノブ | | | ○ | | ○ |
| 73 | | ミヤマノキシノブ | | | ○ | | |
| 74 | | オシヤグジデンダ | | | | | ○ |
| 75 | マツ | モミ | | | ○ | | |
| 76 | | カラマツ | | | | | ○ |
| 77 | | アイグロマツ | | | | | ○ |
| 78 | | アカマツ | | | ○ | | ○ |
| 79 | | クロマツ | | ○ | ○ | | |
| 80 | スギ | スギ | | ○ | ○ | ○ | |
| 81 | ヒノキ | ヒノキ | | ○ | ○ | ○ | |
| 82 | | ネズ | | | ○ | | |
| 83 | マキ | イヌマキ | | | ○ | | |
| 84 | イヌガヤ | イヌガヤ | | ○ | ○ | | |
| 85 | | ハイイヌガヤ | | ○ | ○ | ○ | |
| 86 | イチイ | カヤ | | | ○ | | |
| 87 | | チャボガヤ | | | ○ | | ○ |
| 88 | クルミ | オニグルミ | | ○ | ○ | ○ | |
| 89 | | サワグルミ | | | ○ | | ○ |
| 90 | ヤナギ | ヤマナラシ (ハコヤナギ) | | | ○ | | |
| 91 | | カワヤナギ | | ○ | ○ | | |
| 92 | | キヌヤナギ | | ○ | | | |
| 93 | | コゴメヤナギ | | ○ | | | |
| 94 | | タチヤナギ | | ○ | | | |
| 95 | | マルバヤナギ | | | | | ○ |
| 96 | カバノキ | ミヤマハンノキ | | ○ | | | |
| 97 | | ヒメヤシャブシ | | ○ | ○ | | ○ |
| 98 | | オオバヤシャブシ | | | ○ | | ○ |
| 99 | | ミズメ | | | ○ | | ○ |
| 100 | | サワシバ | | | ○ | | |
| 101 | | クマシデ | | | ○ | | ○ |
| 102 | | アカシデ | | | ○ | | ○ |
| 103 | | イヌシデ | | ○ | ○ | | ○ |
| 104 | | ツノハシバミ | | | ○ | | ○ |
| 105 | | ブナ | クリ | | ○ | ○ | ○ |
| 106 | スダジイ | | | | ○ | | |
| 107 | ブナ | | | | ○ | | ○ |
| 108 | イヌブナ | | | | | | ○ |
| 109 | アカガシ | | | | ○ | | |
| 110 | ナラガシワ | | | | | | ○ |
| 111 | ミズナラ | | | | ○ | ○ | ○ |

植物 (3)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | |
|-----|---------|-------------|------|------|------|------|------|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料13 | 資料15 | 資料16 |
| 112 | ブナ | シラカシ | | | ○ | | |
| 113 | | ウラジロガシ | | | ○ | | |
| 114 | | コナラ | | | ○ | | ○ |
| 115 | ニレ | アベマキ | | | ○ | | |
| 116 | | ムクノキ | | | ○ | | |
| 117 | | エノキ | ○ | | ○ | | |
| 118 | | ケヤキ | ○ | | ○ | | ○ |
| 119 | クワ | ヒメコウゾ (コウゾ) | | ○ | ○ | | ○ |
| 120 | | カジノキ | | | | | ○ |
| 121 | | クワクサ | | | ○ | | |
| 122 | | イタビカズラ | | | ○ | | ○ |
| 123 | | カナムグラ | | | ○ | | |
| 124 | | ヤマグワ | ○ | | ○ | | |
| 125 | | クワ | | | ○ | | |
| 126 | イラクサ | カタバヤブマオ | ○ | | | | |
| 127 | | カラムシ | ○ | | | | ○ |
| 128 | | ヤブマオ | | | ○ | | |
| 129 | | アオカラムシ | | | ○ | | |
| 130 | | メヤブマオ | | | ○ | | |
| 131 | | コアカソ | | | ○ | | |
| 132 | | アカソ | ○ | | ○ | | ○ |
| 133 | | ウワバミソウ | | | ○ | | ○ |
| 134 | | ムカゴイラクサ | | | ○ | | ○ |
| 135 | | ミヤマイラクサ | | | ○ | | |
| 136 | | ミヤマミズ | | | ○ | | |
| 137 | | ミズ | | | ○ | | |
| 138 | | アオミズ | | | ○ | | |
| 139 | | イラクサ | | | ○ | | |
| 140 | ビャクダン | ツクバネ | | ○ | ○ | | |
| 141 | ヤドリギ | ヤドリギ | | | ○ | | |
| 142 | タデ | ミズヒキ | | ○ | ○ | | ○ |
| 143 | | クリンユキフデ | | | ○ | | |
| 144 | | ナガバノウナギツカミ | | | | | ○ |
| 145 | | ヤナギタデ | | | ○ | | |
| 146 | | シロバナサクラタデ | | | ○ | | |
| 147 | | オオイヌタデ | | | ○ | | |
| 148 | | イヌタデ | ○ | | ○ | | ○ |
| 149 | | サデクサ | | | ○ | | |
| 150 | | タニソバ | | | ○ | | |
| 151 | | ヤノネグサ | | | ○ | | |
| 152 | | イシミカワ | | | ○ | | |
| 153 | | ハナタデ | | | ○ | | |
| 154 | | ボントクタデ | | | ○ | | |
| 155 | | ママコノシリヌグイ | | | | | ○ |
| 156 | | アキノウナギツカミ | | | ○ | | ○ |
| 157 | ミゾソバ | ○ | | ○ | | ○ | |
| 158 | ネバリタデ | | | ○ | | | |
| 159 | ハルタデ | | | ○ | | | |
| 160 | イタドリ | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| 161 | オオイタドリ | | | | | ○ | |
| 162 | スイバ | | | ○ | | | |
| 163 | ヒメスイバ | | | ○ | | | |
| 164 | ナガバギシギシ | | | ○ | | | |
| 165 | ギシギシ | ○ | | ○ | | | |
| 166 | ノダイオウ | | | ○ | | | |
| 167 | エゾノギシギシ | | | ○ | | | |

植物 (4)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | |
|-----|-------|----------------|---------|------|------|------|------|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料13 | 資料15 | 資料16 |
| 168 | ザクロソウ | クルマバザクロソウ | | | ○ | | |
| 169 | スベリヒユ | スベリヒユ | | | ○ | | |
| 170 | ナデシコ | ノミノツヅリ | | | ○ | | |
| 171 | | オランダミミナグサ | ○ | | ○ | | ○ |
| 172 | | ミミナグサ | | | ○ | | |
| 173 | | カワラナデシコ (ナデシコ) | | | | | ○ |
| 174 | | ガンビ | | | ○ | | |
| 175 | | ツメクサ | | | ○ | | |
| 176 | | フシグロ | | | ○ | | |
| 177 | | マンテマ | | | ○ | | |
| 178 | | ノミノフスマ | | | ○ | | |
| 179 | | ウシハコベ | ○ | | ○ | | |
| 180 | | サワハコベ | | | ○ | | ○ |
| 181 | | コハコベ (ハコベ : | ○ | | ○ | | |
| 182 | | ミドリハコベ | | | ○ | | |
| 183 | | ミヤマハコベ | | | ○ | | ○ |
| 184 | アカザ | シロザ | | | ○ | | |
| 185 | | アカザ | | | ○ | | |
| 186 | | ケアリタソウ | | | ○ | | |
| 187 | ヒユ | ヒカゲイノコズチ | | | ○ | | |
| 188 | | ヒナタイノコズチ | | | ○ | | ○ |
| 189 | | イヌビユ | | | ○ | | |
| 190 | モクレン | ホオノキ | | ○ | ○ | | ○ |
| 191 | | タムシバ | | | ○ | | ○ |
| 192 | マツブサ | サネカズラ (ビナンカズラ) | | | ○ | | |
| 193 | | マツブサ | | | ○ | | ○ |
| 194 | シキミ | シキミ | | | ○ | | |
| 195 | クスノキ | カゴノキ | | | ○ | | |
| 196 | | ヤブニッケイ | | | ○ | | |
| 197 | | チャノキ | | | ○ | | |
| 198 | | ヤマコウバシ | | | ○ | | |
| 199 | | ダンコウバイ | | | ○ | | ○ |
| 200 | | クロモジ | | | ○ | | ○ |
| 201 | | オオバクロモジ | | | ○ | | |
| 202 | | タブノキ | | | ○ | | |
| 203 | | シロダモ | | | ○ | | ○ |
| 204 | キンボウゲ | フクジュソウ | | | ○ | | ○ |
| 205 | | ニリンソウ | | | ○ | | |
| 206 | | ミスミソウ | | | ○ | | |
| 207 | | イチリンソウ | | | ○ | | ○ |
| 208 | | ヒメウズ | ○ | | | | |
| 209 | | オオバショウマ | | | | | ○ |
| 210 | | イヌショウマ | | | ○ | | ○ |
| 211 | | サラシナショウマ | | | ○ | | |
| 212 | | ボタンヅル | | | ○ | | ○ |
| 213 | | ハンショウヅル | | | ○ | | ○ |
| 214 | | クサボタン | | | ○ | | ○ |
| 215 | | センニンソウ | | | ○ | | |
| 216 | | トリガタハンショウヅル | | | | | ○ |
| 217 | | セリバオウレン | | | ○ | | |
| 218 | | バイカオウレン | | | | | ○ |
| 219 | | サンインシロカネソウ | | | ○ | | ○ |
| 220 | | ウマノアシガタ | ○ | | ○ | | ○ |
| 221 | | キツネノボタン | | | ○ | | |
| 222 | | アキカラマツ | | | ○ | | ○ |
| 223 | | メギ | ルイヨウボタン | | | | |

植物 (5)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | |
|-----|----------|------------|------|------|------|------|------|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料13 | 資料15 | 資料16 |
| 224 | メギ | トキワイカリソウ | | | ○ | | ○ |
| 225 | | ナンテン | ○ | | ○ | | |
| 226 | アケビ | アケビ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 227 | | ミツバアケビ | | | ○ | | ○ |
| 228 | | ムベ | | | ○ | | |
| 229 | ツヅラフジ | アオツヅラフジ | | | ○ | | ○ |
| 230 | | ツヅラフジ | | | ○ | | |
| 231 | ドクダミ | ドクダミ | | | ○ | | ○ |
| 232 | | ハンゲショウ | | | ○ | | |
| 233 | センリョウ | ヒトリシズカ | | | ○ | | |
| 234 | | フタリシズカ | | | ○ | | ○ |
| 235 | ウマノスズクサ | ウマノスズクサ | | | ○ | | |
| 236 | | カンアオイ | | | | | ○ |
| 237 | | アツミカンアオイ | | | ○ | | |
| 238 | マタタビ | サルナシ | | | ○ | | ○ |
| 239 | | マタタビ | | ○ | ○ | | ○ |
| 240 | ツバキ | ヤブツバキ | ○ | | ○ | | ○ |
| 241 | | サカキ | | | ○ | | |
| 242 | | ヒサカキ | | ○ | ○ | | ○ |
| 243 | オトギリソウ | オトギリソウ | ○ | | ○ | | ○ |
| 244 | | ヒメオトギリ | | | ○ | | |
| 245 | | コケオトギリ | | | ○ | | |
| 246 | | サワオトギリ | | | ○ | | ○ |
| 247 | | ミズオトギリ | | | ○ | | |
| 248 | モウセンゴケ | モウセンゴケ | | | | | ○ |
| 249 | ケシ | クサノオウ | | | ○ | | |
| 250 | | キケマン | | | ○ | | |
| 251 | | ムラサキケマン | ○ | | ○ | | |
| 252 | | ヤマエンゴサク | | | ○ | | ○ |
| 253 | | ミヤマキケマン | | | ○ | | ○ |
| 254 | | タケニグサ | | | ○ | | |
| 255 | | アブラナ | ハタザオ | ○ | | | |
| 256 | セイヨウアブラナ | | ○ | | | | |
| 257 | セイヨウカラシナ | | | | ○ | | |
| 258 | ナズナ | | ○ | | ○ | | |
| 259 | タネツケバナ | | ○ | | ○ | | ○ |
| 260 | ミズタガラシ | | ○ | | ○ | | |
| 261 | ワサビ | | | | ○ | | ○ |
| 262 | ダイコン | | ○ | | | | |
| 263 | イヌガラシ | | | | ○ | | |
| 264 | スカシタゴボウ | | | | ○ | | |
| 265 | マンサク | マルバマンサク | | | ○ | | ○ |
| 266 | ベンケイソウ | アポイミセバヤ | | | ○ | | |
| 267 | | ミツバベンケイソウ | | | ○ | | |
| 268 | | コモチマンネングサ | | | ○ | | |
| 269 | | メノマンネングサ | | | ○ | | |
| 270 | | オノマンネングサ | | | ○ | | |
| 271 | | ツルマンネングサ | | | ○ | | |
| 272 | | メキシコマンネングサ | ○ | | ○ | | |
| 273 | ユキノシタ | チダケサシ | | | ○ | | |
| 274 | | アカショウマ | | | ○ | | ○ |
| 275 | | クサアジサイ | | | ○ | | ○ |
| 276 | | ホクリクネコノメ | | | | | ○ |
| 277 | | ネコノメソウ | ○ | | | | |
| 278 | | ヤマネコノメソウ | | | ○ | | |
| 279 | | チシマネコノメ | | | ○ | | |

植物 (6)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | | |
|-----|-------------------|----------------|----------|------|------|------|------|---|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料13 | 資料15 | 資料16 | |
| 280 | ユキノシタ | ウツギ | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| 281 | | マルバウツギ | | | ○ | | | |
| 282 | | ヤマアジサイ | | ○ | | | | |
| 283 | | エゾアジサイ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 284 | | ノリウツギ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 285 | | ツルアジサイ (ゴトウヅル) | | | ○ | | ○ | |
| 286 | | チャルメルソウ | | | ○ | | ○ | |
| 287 | | コチャルメルソウ | | | ○ | | ○ | |
| 288 | | ウメバチソウ | | | | | ○ | |
| 289 | | バイカウツギ | | | ○ | | ○ | |
| 290 | | ジンジソウ | | | ○ | | | |
| 291 | | ダイモンジソウ | | | ○ | | | |
| 292 | | ハルユキノシタ | | | ○ | | | |
| 293 | | ユキノシタ | | | ○ | | | |
| 294 | | イワガラミ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 295 | | バラ | キンミズヒキ | ○ | | ○ | | ○ |
| 296 | | | ヒメキンミズヒキ | | | ○ | | ○ |
| 297 | | | ヤマブキショウマ | | | ○ | | ○ |
| 298 | | | ヘビイチゴ | ○ | | ○ | | |
| 299 | | | ダイコンソウ | | | ○ | | |
| 300 | ヤマブキ | | | | ○ | | ○ | |
| 301 | オオウラジロノキ | | | | | | ○ | |
| 302 | カナメモチ | | | | ○ | | | |
| 303 | キジムシロ | | | | ○ | | ○ | |
| 304 | ミツバツチグリ | | | | ○ | | ○ | |
| 305 | オヘビイチゴ | | | | ○ | | | |
| 306 | ワタゲカマツカ | | | | | | ○ | |
| 307 | カマツカ | | | | ○ | | ○ | |
| 308 | チョウジザクラ | | | | ○ | | | |
| 309 | イヌザクラ | | | | ○ | | | |
| 310 | ウワミズザクラ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| 311 | キンキマメザクラ | | | ○ | ○ | | ○ | |
| 312 | ヤマザクラ | | | ○ | ○ | | ○ | |
| 313 | エドヒガン | | | | ○ | | | |
| 314 | カスミザクラ | | | | ○ | | | |
| 315 | ヤマナシ | | | | ○ | | | |
| 316 | ノイバラ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| 317 | ミヤコイバラ | | | | ○ | | ○ | |
| 318 | テリハノイバラ | | | | ○ | | | |
| 319 | フユイチゴ | | | | ○ | | | |
| 320 | クマイチゴ | | | ○ | ○ | | ○ | |
| 321 | ミヤマフユイチゴ | | | | ○ | | | |
| 322 | クサイチゴ | | ○ | | ○ | | | |
| 323 | ミヤマニガイチゴ | | | ○ | | | | |
| 324 | ナガバモミジイチゴ | | | ○ | ○ | | | |
| 325 | モミジイチゴ | | | ○ | | | ○ | |
| 326 | ナワシロイチゴ | | | | ○ | | ○ | |
| 327 | コバノフユイチゴ | | | | | ○ | | |
| 328 | ウラジロイチゴ (エビガライチゴ) | | | ○ | | ○ | | |
| 329 | アズキナシ | | | ○ | | ○ | | |
| 330 | ナナカマド | | ○ | ○ | | ○ | | |
| 331 | ナンキンナナカマド | | | | | ○ | | |
| 332 | ウラジロノキ | | | ○ | | ○ | | |
| 333 | マメ | クサネム | | | ○ | | | |
| 334 | | ネムノキ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 335 | | イタチハギ | | | ○ | | | |

植物 (7)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | | |
|-----|---------|-------------------|----------|------|------|------|------|---|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料13 | 資料15 | 資料16 | |
| 336 | マメ | ヤブマメ | | | ○ | | | |
| 337 | | ホドイモ | | | ○ | | ○ | |
| 338 | | ゲンゲ | ○ | | ○ | | | |
| 339 | | ユクノキ | | | | | ○ | |
| 340 | | ヌスビトハギ | | | ○ | | ○ | |
| 341 | | ノササゲ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 342 | | コマツナギ | | | ○ | | | |
| 343 | | ヤハズソウ | ○ | | ○ | | | |
| 344 | | ヤマハギ | | | ○ | | ○ | |
| 345 | | メドハギ | | | ○ | | ○ | |
| 346 | | ネコハギ | | | ○ | | | |
| 347 | | ミヤコグサ | | | ○ | | | |
| 348 | | イヌエンジュ | | | | | ○ | |
| 349 | | ハネミイヌエンジュ | ○ | | ○ | | | |
| 350 | | コメツブウマゴヤシ | | | ○ | | | |
| 351 | | ナツフジ | | | ○ | | | |
| 352 | | クズ | ○ | | ○ | | ○ | |
| 353 | | トキリマメ | | | ○ | | | |
| 354 | | コメツブツメクサ | | | ○ | | | |
| 355 | | ムラサキツメクサ (アカツメクサ) | ○ | | ○ | | | |
| 356 | | シロツメクサ | | | ○ | | | |
| 357 | | スズメノエンドウ | ○ | | ○ | | | |
| 358 | | カラスノエンドウ | ○ | | ○ | | | |
| 359 | | カスマグサ | | | ○ | | | |
| 360 | | ヤブツルアズキ | | | ○ | | | |
| 361 | | ヤマフジ | | | ○ | | | |
| 362 | | フジ | ○ | | ○ | | ○ | |
| 363 | | カタバミ | ハナカタバミ | ○ | | | | |
| 364 | | | カタバミ | ○ | | ○ | | |
| 365 | | | ウスアカカタバミ | | | ○ | | |
| 366 | | | ミヤマカタバミ | | | ○ | | ○ |
| 367 | | フクロウソウ | アメリカフウロ | ○ | | | | |
| 368 | トカチフウロ | | | | ○ | | | |
| 369 | ゲンノショウコ | | ○ | | ○ | | ○ | |
| 370 | ミツバフウロ | | | | ○ | | | |
| 371 | トウダイグサ | エノキグサ | | | ○ | | ○ | |
| 372 | | コニシキソウ | | | ○ | | | |
| 373 | | アカメガシワ | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| 374 | | ヤマアイ | | ○ | | | | |
| 375 | | ヒメミカンソウ | | | ○ | | | |
| 376 | | シラキ | | ○ | ○ | | | |
| 377 | ユズリハ | エゾユズリハ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 378 | ミカン | ツルミヤマシキミ | | ○ | | | ○ | |
| 379 | | ミヤマシキミ | | ○ | ○ | | | |
| 380 | | ツルシキミ | | | ○ | | | |
| 381 | | カラスザンショウ | | ○ | ○ | | | |
| 382 | | サンショウ | | ○ | ○ | | | |
| 383 | | ヤマアサクラゲンショウ | | | | | ○ | |
| 384 | | イヌザンショウ | | ○ | | | ○ | |
| 385 | | ニガキ | ニガキ | | | ○ | | ○ |
| 386 | ウルシ | ウルシ | | ○ | | | | |
| 387 | | ツタウルシ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 388 | | ヌルデ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 389 | | ハゼノキ | | ○ | | | | |
| 390 | | ヤマハゼ | | | ○ | | ○ | |
| 391 | | ヤマウルシ | ○ | ○ | ○ | | ○ | |

植物 (8)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | |
|-----|---------|-------------------------|------|------|------|------|------|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料13 | 資料15 | 資料16 |
| 392 | カエデ | アサノハカエデ | | ○ | | | |
| 393 | | チドリノキ | | | ○ | | ○ |
| 394 | | ウリカエデ | | | ○ | | ○ |
| 395 | | ヒトツバカエデ | | | | | ○ |
| 396 | | ハウチワカエデ | | ○ | ○ | | ○ |
| 397 | | コミネカエデ | | | ○ | | |
| 398 | | イタヤカエデ (アサヒカエデ、エンコウカエデ) | | | ○ | | ○ |
| 399 | | ウラゲエンコウカエデ | | | | | ○ |
| 400 | | アカイタヤ | | | | | ○ |
| 401 | | メグスリノキ | | | ○ | | |
| 402 | | テツカエデ | | | | | ○ |
| 403 | | イロハモミジ | | ○ | | | ○ |
| 404 | | オオモミジ | | ○ | ○ | | ○ |
| 405 | | ヤマモミジ | | ○ | ○ | | ○ |
| 406 | | ウリハダカエデ | | ○ | ○ | | ○ |
| 407 | | コハウチワカエデ | | | ○ | | ○ |
| 408 | | トチノキ | トチノキ | | | ○ | |
| 409 | ケトチノキ | | | | | | ○ |
| 410 | アワブキ | アワブキ | | ○ | ○ | | ○ |
| 411 | | ミヤマハハソ | | | ○ | | ○ |
| 412 | ツリフネソウ | キツリフネ | | | ○ | | |
| 413 | | ツリフネソウ | | | ○ | | ○ |
| 414 | | ハガクレツリフネソウ | | ○ | | | |
| 415 | モチノキ | イヌツゲ | | ○ | ○ | | |
| 416 | | ハイイヌツゲ | | ○ | ○ | | ○ |
| 417 | | フウリンウメモドキ | | | | | ○ |
| 418 | | モチノキ | | | ○ | | |
| 419 | | ヒメモチ | | ○ | ○ | | ○ |
| 420 | | アオハダ | | | ○ | | ○ |
| 421 | | ソヨゴ | | | ○ | | ○ |
| 422 | | アカミノイヌツゲ | | | | | ○ |
| 423 | ニシキギ | ツルウメモドキ | | ○ | ○ | | ○ |
| 424 | | コマユミ (オオコマユミ) | | | ○ | | ○ |
| 425 | | ツルマサキ | | | ○ | | |
| 426 | | マサキ | | | | | ○ |
| 427 | | ムラサキマユミ | | | ○ | | ○ |
| 428 | | ツリバナ | | | ○ | | ○ |
| 429 | | マユミ | ○ | | ○ | | ○ |
| 430 | ミツバウツギ | ゴンズイ | | | ○ | | |
| 431 | クロウメモドキ | ホナガクマヤナギ | | | | | ○ |
| 432 | | クマヤナギ | | | ○ | | |
| 433 | | イソノキ | | | ○ | | |
| 434 | | ケンボナシ | | | ○ | | ○ |
| 435 | | クロウメモドキ | | | ○ | | ○ |
| 436 | ブドウ | ノブドウ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 437 | | キレバノブドウ | | | ○ | | |
| 438 | | ヤブガラシ | | | ○ | | |
| 439 | | ツタ | | | ○ | | |
| 440 | | ヤマブドウ | ○ | | ○ | | |
| 441 | | エビヅル | | | ○ | | ○ |
| 442 | | サンカクヅル | | | ○ | | |
| 443 | | オトコブドウ (アマヅル) | | ○ | | | |
| 444 | シナノキ | シナノキ | | | ○ | | ○ |
| 445 | アオイ | ゼニバアオイ | | | ○ | | |
| 446 | ジンチョウゲ | コショウノキ | | | | | ○ |
| 447 | | カラスシキミ | | | ○ | | |

植物 (9)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | | |
|-----|------------|-----------|---------|------|------|------|------|---|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料13 | 資料15 | 資料16 | |
| 448 | ジンチョウゲ | ミツマタ | | | ○ | | | |
| 449 | グミ | ツルグミ | | | ○ | | | |
| 450 | | ナツグミ | | | | | ○ | |
| 451 | | トウグミ | | | ○ | | | |
| 452 | | ナワシログミ | | | ○ | | | |
| 453 | | スマレ | エイザンスミレ | | | ○ | | |
| 454 | タチツボスマレ | | ○ | | ○ | | ○ | |
| 455 | オオタチツボスマレ | | | ○ | | | ○ | |
| 456 | ヒトツバエゾスマレ | | | ○ | | | | |
| 457 | スマレ | | | | ○ | | | |
| 458 | ニオイタチツボスマレ | | | | ○ | | | |
| 459 | ヒゴスマレ | | | | ○ | | ○ | |
| 460 | スマレサイシン | | | | ○ | | ○ | |
| 461 | ツボスマレ | | ○ | | ○ | | ○ | |
| 462 | シハイスミレ | | | | ○ | | ○ | |
| 463 | キブシ | キブシ | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| 464 | ウリ | アマチャヅル | | | ○ | | | |
| 465 | | スズメウリ | | | ○ | | | |
| 466 | | カラスウリ | | | ○ | | | |
| 467 | ミソハギ | ミソハギ | | | ○ | | ○ | |
| 468 | アカバナ | アレチマツヨイグサ | ○ | | | | | |
| 469 | | ミズタマソウ | | | ○ | | | |
| 470 | | アカバナ | | | ○ | | ○ | |
| 471 | | チョウジタデ | | | ○ | | | |
| 472 | | メマツヨイグサ | | | ○ | | | |
| 473 | アリノトウグサ | アリノトウグサ | | | ○ | | ○ | |
| 474 | ウリノキ | ウリノキ | | | ○ | | ○ | |
| 475 | ミズキ | アオキ | | | ○ | | | |
| 476 | | ヒメアオキ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 477 | | ヤマボウシ | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| 478 | | ミズキ | | | ○ | | ○ | |
| 479 | | クマノミズキ | | | ○ | | ○ | |
| 480 | | ハナイカダ | | | ○ | | ○ | |
| 481 | | ウコギ | コシアブラ | | ○ | ○ | | ○ |
| 482 | | | ヤマウコギ | | | ○ | | |
| 483 | ウド | | | | ○ | | ○ | |
| 484 | タラノキ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| 485 | タカノツメ | | | | ○ | | ○ | |
| 486 | ヤツデ | | | | ○ | | | |
| 487 | キツタ | | | | ○ | | | |
| 488 | ハリギリ | | | | ○ | | ○ | |
| 489 | トチバニンジン | | | | ○ | | ○ | |
| 490 | セリ | ノダケ | | | ○ | | ○ | |
| 491 | | シラネセンキュウ | | | ○ | | | |
| 492 | | シシウド | | | ○ | | ○ | |
| 493 | | シャク | | | ○ | | | |
| 494 | | ツボクサ | | | ○ | | | |
| 495 | | セントウソウ | | | ○ | | | |
| 496 | | ドクゼリ | | | ○ | | ○ | |
| 497 | | ミツバ | | | ○ | | | |
| 498 | | ノラニンジン | | | ○ | | | |
| 499 | | ノチドメ | | | ○ | | | |
| 500 | | オオチドメ | | | ○ | | ○ | |
| 501 | | チドメグサ | | | ○ | | | |
| 502 | | セリ | | | ○ | | | |
| 503 | | ヤブニンジン | | | ○ | | | |

植物 (10)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | | |
|-----|---------|------------|-------|------|------|------|------|---|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料13 | 資料15 | 資料16 | |
| 504 | セリ | ウマノミツバ | ○ | | ○ | | ○ | |
| 505 | | ヌマゼリ | | | | | ○ | |
| 506 | | ヒカゲミツバ | | | ○ | | | |
| 507 | | ヤブジラミ | ○ | | ○ | | | |
| 508 | | オヤブジラミ | | | ○ | | | |
| 509 | イワウメ | オオイワカガミ | | | ○ | | ○ | |
| 510 | リョウブ | リョウブ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 511 | イチヤクソウ | ウメガサソウ | | | ○ | | | |
| 512 | | アキノギンリョウソウ | | | ○ | | | |
| 513 | | ギンリョウソウ | | | ○ | | ○ | |
| 514 | | イチヤクソウ | | | ○ | | | |
| 515 | ツツジ | イワナシ | | | ○ | | | |
| 516 | | ツリガネツツジ | | | | | ○ | |
| 517 | | ネジキ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 518 | | ウスギヨウラク | | | ○ | | | |
| 519 | | アセビ | | | ○ | | ○ | |
| 520 | | ホンシヤクナゲ | | | | | ○ | |
| 521 | | レンゲツツジ | | | ○ | | ○ | |
| 522 | | モチツツジ | | | ○ | | | |
| 523 | | ユキグニミツバツツジ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 524 | | ヤマツツジ | | | ○ | | ○ | |
| 525 | | コバノミツバツツジ | | | ○ | | ○ | |
| 526 | | ホツツジ | | | ○ | | ○ | |
| 527 | | シヤシヤンボ | | | ○ | | | |
| 528 | | コウスノキ | | | | | ○ | |
| 529 | | ウスノキ | | | | | ○ | |
| 530 | | アクシバ | | | ○ | | ○ | |
| 531 | | ナツハゼ | | | ○ | | ○ | |
| 532 | | スノキ | | | ○ | | | |
| 533 | | ヤブコウジ | マンリョウ | | | ○ | | |
| 534 | | | ヤブコウジ | | ○ | ○ | | ○ |
| 535 | ツルコウジ | | | ○ | | | | |
| 536 | サクラソウ | オカトラノオ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 537 | | ヌマトラノオ | | | ○ | | ○ | |
| 538 | | コナスビ | | | ○ | | ○ | |
| 539 | カキノキ | カキノキ | | | ○ | | | |
| 540 | エゴノキ | エゴノキ | | | ○ | | ○ | |
| 541 | | ハクウンボク | | | ○ | | ○ | |
| 542 | ハイノキ | サワフタギ | | ○ | ○ | | | |
| 543 | | タンナサワフタギ | | 2 | ○ | | ○ | |
| 544 | | クロミノニシゴリ | | | ○ | | | |
| 545 | モクセイ | アオダモ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 546 | | マルバアオダモ | | | ○ | | | |
| 547 | | シオジ | | | ○ | | | |
| 548 | | ネズミモチ | | | ○ | | | |
| 549 | | イボタノキ | | | ○ | | | |
| 550 | | ミヤマイボタ | | | ○ | | | |
| 551 | リンドウ | リンドウ | | | ○ | | ○ | |
| 552 | | ハルリンドウ | | | ○ | | | |
| 553 | | フデリンドウ | | | ○ | | | |
| 554 | | アケボノソウ | | | ○ | | ○ | |
| 555 | | センブリ | | | ○ | | ○ | |
| 556 | | ツルリンドウ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 557 | ミツガシワ | ミツガシワ | | | ○ | | | |
| 558 | キョウチクトウ | テイカカズラ | | | ○ | | | |
| 559 | | ツルニチニチソウ | | | ○ | | | |

植物 (11)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | |
|-----|------------|--------------|-------|------|------|------|------|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料13 | 資料15 | 資料16 |
| 560 | ガガイモ | イケマ | | | ○ | | ○ |
| 561 | | スズサイコ | | | ○ | | |
| 562 | | コバノカモメヅル | | | | | ○ |
| 563 | | シロバナカモメヅル | | | | | ○ |
| 564 | | ガガイモ | | | ○ | | ○ |
| 565 | アカネ | クルマバソウ | | | ○ | | |
| 566 | | キクムグラ | | | ○ | | |
| 567 | | キヌタソウ | | | ○ | | |
| 568 | | ヤマムグラ | | | ○ | | |
| 569 | | ヤエムグラ | ○ | | ○ | | |
| 570 | | ヨツバムグラ | | | ○ | | |
| 571 | | オククルマムグラ | | | ○ | | ○ |
| 572 | | ホソバナヨツバムグラ | | | | | ○ |
| 573 | | クルマムグラ | | | ○ | | ○ |
| 574 | | ハシカグサ | | | ○ | | |
| 575 | | ツルアリドオシ | | | ○ | | ○ |
| 576 | | ヤイトバナ | | ○ | | | ○ |
| 577 | | ヘクソカズラ | ○ | | ○ | | |
| 578 | | アカネ | ○ | | ○ | | |
| 579 | | ヒルガオ | コヒルガオ | | | ○ | |
| 580 | ヒルガオ | | | | ○ | | |
| 581 | ヒロハヒルガオ | | | | ○ | | |
| 582 | アメリカネナシカズラ | | | | ○ | | |
| 583 | ムラサキ | ハナイバナ | ○ | | ○ | | |
| 584 | | ムラサキ | | | ○ | | |
| 585 | | ヤマハリソウ | | | ○ | | ○ |
| 586 | | ミズタバコ | | | ○ | | ○ |
| 587 | | キュウリグサ (タバコ) | ○ | | ○ | | |
| 588 | クマツツラ | ムラサキシキブ | | ○ | ○ | | ○ |
| 589 | | ヤブムラサキ | | ○ | ○ | | ○ |
| 590 | | クサギ | | | ○ | | ○ |
| 591 | | ヤナギハナガサ | | | ○ | | |
| 592 | シソ | キランソウ | ○ | | ○ | | ○ |
| 593 | | ニシキゴロモ | | | ○ | | ○ |
| 594 | | ジャコウソウ | | ○ | ○ | | ○ |
| 595 | | クルマバナ | | | ○ | | ○ |
| 596 | | トウバナ | | | ○ | | |
| 597 | | イヌトウバナ | | | ○ | | ○ |
| 598 | | ナギナタコウジュ | | | ○ | | |
| 599 | | カキドオシ | ○ | | ○ | | ○ |
| 600 | | ホトケノザ | ○ | | ○ | | |
| 601 | | テンニンソウ | | | ○ | | |
| 602 | | シロネ | | | ○ | | |
| 603 | | ヒメシロネ | | | ○ | | ○ |
| 604 | | コシロネ | | | ○ | | |
| 605 | | ハッカ | | | ○ | | |
| 606 | | ヒメジソ | | | ○ | | |
| 607 | | イヌコウジュ | | | ○ | | |
| 608 | | ウツボグサ | | | ○ | | ○ |
| 609 | | ヤマハッカ | | | ○ | | |
| 610 | アキチョウジ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 611 | クロバナヒキオコシ | | | ○ | | ○ | |
| 612 | アキギリ | | | ○ | | ○ | |
| 613 | タジマタムラソウ | | | ○ | | ○ | |
| 614 | デワノタツナミソウ | | | ○ | | | |
| 615 | タツナミソウ | | | | | ○ | |

植物 (12)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | |
|-----|--------|-------------------|------|------|------|------|------|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料13 | 資料15 | 資料16 |
| 616 | シソ | ツルニガクサ | | | ○ | | |
| 617 | ナス | クコ | | | ○ | | |
| 618 | | ヒヨドリジョウゴ | | | ○ | | |
| 619 | | ハダカホオズキ | | | ○ | | |
| 620 | | ゴマノハグサ | アゼナ | | | ○ | |
| 621 | | サギゴケ | | | | ○ | |
| 622 | | ヤマサギゴケ | | | ○ | | |
| 623 | | トキワハゼ | | | ○ | | |
| 624 | | ママコナ | | | ○ | | |
| 625 | | ミゾホオズキ | | | ○ | ○ | |
| 626 | | シオガマギク | | | | ○ | |
| 627 | | タチイヌノフグリ | ○ | | ○ | | |
| 628 | | オオイヌノフグリ | ○ | | ○ | | |
| 629 | キツネノマゴ | キツネノマゴ | | | ○ | | |
| 630 | | ハグロソウ | | | ○ | | |
| 631 | ハマウツボ | ナンバンギセル | | | ○ | | |
| 632 | ハエドクソウ | ハエドクソウ | | | ○ | ○ | |
| 633 | オオバコ | オオバコ | | | ○ | ○ | |
| 634 | | ヘラオオバコ | | | ○ | | |
| 635 | スイカズラ | コツクバネウツギ | | | | ○ | |
| 636 | | ツクバネウツギ | | ○ | ○ | | ○ |
| 637 | | ヤマウグイスカグラ | | | ○ | | |
| 638 | | ウグイスカグラ | | | ○ | | |
| 639 | | スイカズラ | | ○ | ○ | | ○ |
| 640 | | ニワトコ | | | ○ | | ○ |
| 641 | | ガマズミ | | | ○ | | ○ |
| 642 | | コバノガマズミ | | | ○ | | ○ |
| 643 | | オオカメノキ | | | ○ | | ○ |
| 644 | | ムシカリ | | | ○ | | |
| 645 | | ケナシヤブデマリ | | | ○ | | |
| 646 | | ヤブデマリ | | | | | ○ |
| 647 | | ゴマギ | | | ○ | | |
| 648 | | ミヤマシグレ | | | | | ○ |
| 649 | | ミヤマガマズミ | | | ○ | | ○ |
| 650 | | タニウツギ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 651 | オミナエシ | オミナエシ | | | ○ | | |
| 652 | | オトコエシ | | | ○ | | ○ |
| 653 | | ツルカノコソウ (ヤマカノコソウ) | | | ○ | | ○ |
| 654 | | ノヂシャ | | | ○ | | |
| 655 | キキョウ | ソバナ | | | ○ | | ○ |
| 656 | | ツリガネニンジン | | | ○ | | ○ |
| 657 | | ホタルブクロ | | | ○ | | ○ |
| 658 | | ヤマホタルブクロ | | | ○ | | |
| 659 | | ツルニンジン | | | ○ | | ○ |
| 660 | | バアソブ | | | ○ | | ○ |
| 661 | | ミゾカクシ | | | ○ | | |
| 662 | | タニギキョウ | | | ○ | | ○ |
| 663 | | キキョウ | | | ○ | | |
| 664 | | ヒナギキョウ | | | ○ | | |
| 665 | キク | モミジハグマ | | | ○ | | ○ |
| 666 | | オクモミジハグマ | | | | | ○ |
| 667 | | キッコウハグマ | | | ○ | | |
| 668 | | ブタクサ | | | ○ | | |
| 669 | | オオブタクサ | | | ○ | | |
| 670 | | カワラハハコ | | | | | ○ |
| 671 | | | ヨモギ | ○ | ○ | ○ | |

植物 (13)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | |
|-----|------------|------------|------|------|------|------|------|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料13 | 資料15 | 資料16 |
| 672 | キク | オトコヨモギ | | | | | ○ |
| 673 | | イヌヨモギ | | | ○ | | |
| 674 | | オオヨモギ | | | | | ○ |
| 675 | | イナカギク | | | ○ | | |
| 676 | | ヤマシロギク | | ○ | | | |
| 677 | | ノコンギク | | | ○ | | ○ |
| 678 | | ゴマナ | | | | | ○ |
| 679 | | シラヤマギク | | | ○ | | |
| 680 | | ホウキギク | | | ○ | | |
| 681 | | アメリカセンダングサ | | ○ | ○ | | ○ |
| 682 | | モミジガサ | | | ○ | | ○ |
| 683 | | オオカニコウモリ | | | ○ | | |
| 684 | | コヤブタバコ | | | ○ | | |
| 685 | | サジガクビソウ | | | ○ | | |
| 686 | | トキンソウ | | | ○ | | |
| 687 | | フランスギク | | | ○ | | |
| 688 | | ノアザミ | | | ○ | | |
| 689 | | オハラメアザミ | | | | | ○ |
| 690 | | ヨシノアザミ | | ○ | ○ | | |
| 691 | | オオアレチノギク | | | ○ | | |
| 692 | | オオキンケイギク | | | ○ | | |
| 693 | | ベニバナボロギク | | | ○ | | |
| 694 | | リュウノウギク | | | ○ | | |
| 695 | | タカサブロウ | | | ○ | | |
| 696 | | ダンドボロギク | | | ○ | | |
| 697 | | ヒメムカシヨモギ | | | ○ | | |
| 698 | | ヒヨドリバナ | | ○ | ○ | | ○ |
| 699 | | ヨツバヒヨドリ | | | ○ | | |
| 700 | | サワヒヨドリ | | | ○ | | ○ |
| 701 | | ハキダメギク | | | ○ | | |
| 702 | | ハハコグサ | | | ○ | | ○ |
| 703 | | チチコグサ | | | ○ | | ○ |
| 704 | | キクイモ | | | ○ | | |
| 705 | | ブタナ | | | ○ | | |
| 706 | | オオヂシバリ | | | ○ | | |
| 707 | | ニガナ | | | ○ | | ○ |
| 708 | | ハナニガナ | | | | | ○ |
| 709 | | イワニガナ | | | ○ | | |
| 710 | | ヨメナ | | | ○ | | ○ |
| 711 | | アキノノゲシ | | ○ | ○ | | |
| 712 | | ヤマニガナ | | | ○ | | |
| 713 | | ムラサキニガナ | | | ○ | | |
| 714 | | コオニタバコ | | | ○ | | |
| 715 | | ヤブタバコ | | | ○ | | |
| 716 | | センボンヤリ | | | ○ | | |
| 717 | | オオモミジガサ | | | | | ○ |
| 718 | | ミヤマヨメナ | | | ○ | | |
| 719 | クルマバハグマ | | ○ | | | | |
| 720 | コウヤボウキ | | | ○ | | ○ | |
| 721 | フキ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 722 | コウゾリナ | | | ○ | | | |
| 723 | サワオグルマ | | | | | ○ | |
| 724 | ノボロギク | | | ○ | | | |
| 725 | コメナモミ | | | ○ | | | |
| 726 | セイタカアワダチソウ | | ○ | ○ | | | |
| 727 | オオアワダチソウ | | | ○ | | | |

植物 (14)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | |
|-----|-----------|-----------|--------|------|------|------|------|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料13 | 資料15 | 資料16 |
| 728 | キク | アキノキリンソウ | | | ○ | | ○ |
| 729 | | オニノゲシ | | | ○ | | |
| 730 | | ノゲシ | ○ | | ○ | | |
| 731 | | ヒメジョオン | | | ○ | | ○ |
| 732 | | ハバヤマボクチ | | | ○ | | |
| 733 | | キクバヤマボクチ | | | ○ | | |
| 734 | | ヤマボクチ | | ○ | | | ○ |
| 735 | | オヤマボクチ | | ○ | | | |
| 736 | | シロバナタンポポ | | | ○ | | |
| 737 | | カンサイタンポポ | | | ○ | | |
| 738 | | セイヨウタンポポ | ○ | | ○ | | |
| 739 | | オオオナモミ | | | ○ | | |
| 740 | | ヤクシソウ | | ○ | ○ | | |
| 741 | | オニタビラコ | | | ○ | | |
| 742 | | オモダカ | ヘラオモダカ | | | ○ | |
| 743 | アギナシ | | | | ○ | | |
| 744 | トチカガミ | ヤナギスブタ | | | ○ | | |
| 745 | ヒルムシロ | ヒルムシロ | | | ○ | | |
| 746 | | フトヒルムシロ | | | | | ○ |
| 747 | | ヤナギモ | | | ○ | | |
| 748 | ユリ | ノギラン | | | ○ | | |
| 749 | | ノビル | | | ○ | | |
| 750 | | アサツキ | | | ○ | | |
| 751 | | ハラン | | | ○ | | |
| 752 | | シライトソウ | | | ○ | | ○ |
| 753 | | スズラン | | | ○ | | |
| 754 | | ホウチャクソウ | | | ○ | | ○ |
| 755 | | チゴユリ | | ○ | ○ | | ○ |
| 756 | | カタクリ | | | ○ | | |
| 757 | | ショウジョウ | | | ○ | | |
| 758 | | ショウジョウバカマ | | | | | ○ |
| 759 | | ヤブカンゾウ | | | | | ○ |
| 760 | | ノカンゾウ | | | ○ | | |
| 761 | | オオバギボウシ | | | ○ | | |
| 762 | | トウギボウシ | | | | | ○ |
| 763 | | コバギボウシ | | | ○ | | |
| 764 | | ウバユリ | | | ○ | | ○ |
| 765 | | ササユリ | | | ○ | | ○ |
| 766 | | コオニユリ | | | | | ○ |
| 767 | | ヤブラン | | | ○ | | |
| 768 | | ジャノヒゲ | | | ○ | | |
| 769 | | ツクバネソウ | | | ○ | | ○ |
| 770 | | ナルコユリ | | | ○ | | |
| 771 | | ミヤマナルコユリ | | | ○ | | ○ |
| 772 | | オオナルコユリ | | ○ | ○ | | ○ |
| 773 | | アマドコロ | | | ○ | | |
| 774 | | オモト | | | ○ | | |
| 775 | | ツルボ | | | ○ | | ○ |
| 776 | | ユキザサ | | | ○ | | |
| 777 | | サルトリイバラ | | ○ | ○ | | ○ |
| 778 | | タチシオデ | | | ○ | | |
| 779 | | シオデ | | ○ | ○ | | ○ |
| 780 | | ヤマジノホトトギス | | | ○ | | ○ |
| 781 | ホトトギス | | ○ | | | | |
| 782 | タマガワホトトギス | | | | | ○ | |
| 783 | ヤマホトトギス | | ○ | | | | |

植物 (15)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | |
|-----|-------|-------------|------|------|------|------|------|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料13 | 資料15 | 資料16 |
| 784 | ユリ | エンレイソウ | | | ○ | | ○ |
| 785 | | シュロソウ | | | ○ | | ○ |
| 786 | ヒガンバナ | ヒガンバナ | | | ○ | | |
| 787 | | スイセン | ○ | | ○ | | |
| 788 | ヤマノイモ | タチドコロ | | | ○ | | |
| 789 | | ヤマノイモ | | ○ | ○ | | ○ |
| 790 | | カエデドコロ | | | ○ | | ○ |
| 791 | | キクバドコロ | | | ○ | | |
| 792 | | ヒメドコロ | | | ○ | | |
| 793 | | オニドコロ | | | ○ | | ○ |
| 794 | ミズアオイ | コナギ | | | ○ | | |
| 795 | アヤメ | シャガ | ○ | | ○ | | ○ |
| 796 | | カキツバタ | | | | | ○ |
| 797 | | ニワゼキショウ | | | ○ | | |
| 798 | | ヒメヒオウギズイセン | | | ○ | | |
| 799 | イグサ | イ | | | ○ | | |
| 800 | | コウガイゼキショウ | | | ○ | | |
| 801 | | アオコウガイゼキショウ | | | ○ | | |
| 802 | | ホソイ | | | ○ | | |
| 803 | | クサイ | | | ○ | | |
| 804 | | イグサ | | | | | ○ |
| 805 | | ハリコウガイゼキショウ | | | | | ○ |
| 806 | | スズメノヤリ | ○ | | ○ | | |
| 807 | | ヌカボシソウ | | | ○ | | |
| 808 | ツユクサ | ツユクサ | | | ○ | | ○ |
| 809 | | イボクサ | | | ○ | | |
| 810 | イネ | アオカモジグサ | | | ○ | | |
| 811 | | カモジグサ | | | ○ | | |
| 812 | | ヤマヌカボ | | | ○ | | |
| 813 | | ヌカボ | | | ○ | | |
| 814 | | スズメノテッポウ | | | ○ | | |
| 815 | | メリケンカルカヤ | | | ○ | | |
| 816 | | ハルガヤ | | | ○ | | |
| 817 | | コブナグサ | | | ○ | | |
| 818 | | トダシバ | | | ○ | | |
| 819 | | ヤマカモジグサ | | | ○ | | |
| 820 | | コバンソウ | | | ○ | | |
| 821 | | ヒメコバンソウ | | | ○ | | |
| 822 | | イヌムギ | | | ○ | | |
| 823 | | キツネガヤ | | | ○ | | |
| 824 | | ノガリヤス | | | ○ | | |
| 825 | | ヤマアワ | | | ○ | | |
| 826 | | ジュズダマ | | | ○ | | |
| 827 | | ギョウギシバ | | | ○ | | |
| 828 | | カモガヤ | | | ○ | | |
| 829 | | メヒシバ | | | ○ | | |
| 830 | | アキメヒシバ | | | ○ | | |
| 831 | | アブラスキ | | | ○ | | |
| 832 | | イヌビエ | | | ○ | | ○ |
| 833 | | ケイヌビエ | | | ○ | | |
| 834 | | オヒシバ | | | ○ | | |
| 835 | | シナダレスズメガヤ | | | ○ | | |
| 836 | | カゼクサ | | | ○ | | |
| 837 | | ニワホコリ | ○ | | | | |
| 838 | | オニウシノケグサ | | | ○ | | |
| 839 | | トボシガラ | | | ○ | | |

植物 (16)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | | |
|-----|----|-----------------------|------------|--------|------|------|------|---|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料13 | 資料15 | 資料16 | |
| 840 | イネ | ヒロハノウシノケグサ | | | ○ | | | |
| 841 | | ドジョウツナギ | | | ○ | | | |
| 842 | | チガヤ | | | ○ | | ○ | |
| 843 | | チゴザサ | | | ○ | | | |
| 844 | | サヤヌカグサ | | | ○ | | | |
| 845 | | ネズミムギ | | | ○ | | | |
| 846 | | コメガヤ | | | ○ | | | |
| 847 | | ササガヤ | | | ○ | | | |
| 848 | | アシボソ | | | ○ | | | |
| 849 | | オギ | | ○ | ○ | | | |
| 850 | | ススキ | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 851 | | ネズミガヤ | | | ○ | | | |
| 852 | | チヂミザサ (クチヂミザサ、コチヂミザサ) | | | ○ | | ○ | |
| 853 | | ヌカキビ | | | ○ | | | |
| 854 | | シマスズメノヒエ | | | ○ | | | |
| 855 | | スズメノヒエ | | | ○ | | | |
| 856 | | チカラシバ | | | ○ | | | |
| 857 | | クサヨシ | | | ○ | | | |
| 858 | | オオアワガエリ | | | ○ | | | |
| 859 | | ヨシ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 860 | | ツルヨシ | | ○ | ○ | | | |
| 861 | | セイタカヨシ | | | ○ | | | |
| 862 | | マダケ | | | ○ | | | |
| 863 | | モウソウチク | | | ○ | | | |
| 864 | | ネザサ | | | ○ | | | |
| 865 | | ケネザサ | | ○ | | | | |
| 866 | | メダケ | | | ○ | | | |
| 867 | | ミゾイチゴツナギ | | | ○ | | | |
| 868 | | スズメノカタビラ | | | ○ | | | |
| 869 | | オオイチゴツナギ | | | ○ | | | |
| 870 | | ナガハグサ | | | ○ | | | |
| 871 | | ヒエガエリ | | | ○ | | | |
| 872 | | ヌメリグサ | | | ○ | | | |
| 873 | | チシマザサ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 874 | | ミヤコザサ | | | ○ | | | |
| 875 | | チマキザサ | | | ○ | | ○ | |
| 876 | | アキノエノコログサ | | | ○ | | | |
| 877 | | コツブキンエノコロ | | | | | ○ | |
| 878 | | キンエノコロ | | | ○ | | ○ | |
| 879 | | オオエノコロ | | | ○ | | | |
| 880 | | エノコログサ | | ○ | | | | |
| 881 | | ムラサキエノコロ | | | ○ | | | |
| 882 | | ネズミノオ | | | ○ | | | |
| 883 | | カニツリグサ | | | ○ | | | |
| 884 | | マコモ | | | ○ | | | |
| 885 | | シバ | | | ○ | | | |
| 886 | | ヤシ | シュロ | | | ○ | | |
| 887 | | サトイモ | ショウブ | | | ○ | | ○ |
| 888 | | | セキショウ | | | ○ | | |
| 889 | | | ヒロハテンナンショウ | | | | | ○ |
| 890 | | | マムシグサ | | | | | ○ |
| 891 | | | ムロウテンナンショウ | | | ○ | | |
| 892 | | | カラスビシャク | | | ○ | | |
| 893 | | | ウキクサ | アオウキクサ | | | ○ | |
| 894 | | ウキクサ | | | | ○ | | |
| 895 | | ミクリ | ミクリ | | | ○ | | |

植物 (17)

| No. | 科名 | 種名 | 区分A | | 区分B | | | |
|-----|--------|-----------|------|------|------|------|------|-----|
| | | | 資料12 | 資料14 | 資料13 | 資料15 | 資料16 | |
| 896 | ガマ | ガマ | | | ○ | | ○ | |
| 897 | カヤツリグサ | マツバスゲ | | | | | ○ | |
| 898 | | アオスゲ | | | ○ | | | |
| 899 | | ヒメカンスゲ | | | ○ | | | |
| 900 | | カサスゲ | | | ○ | | | |
| 901 | | シラスゲ | | | ○ | | | |
| 902 | | オクノカンスゲ | | | | | ○ | |
| 903 | | カワラスゲ | | | ○ | | | |
| 904 | | アオバスゲ | | | ○ | | | |
| 905 | | ジュズスゲ | | | ○ | | ○ | |
| 906 | | ヒゴクサ | | | ○ | | | |
| 907 | | テキリスゲ | | | ○ | | ○ | |
| 908 | | ヒカゲスゲ | | | ○ | | | |
| 909 | | ナキリスゲ | | | ○ | | | |
| 910 | | ゴウソ | | | ○ | | | |
| 911 | | ホソバカンスゲ | | | ○ | | | |
| 912 | | ミヤマカンスゲ | | | ○ | | | |
| 913 | | アキカサスゲ | | | ○ | | | |
| 914 | | オタルスゲ | | | ○ | | | |
| 915 | | タガネソウ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 916 | | ヤワラスゲ | | | ○ | | | |
| 917 | | ヒメクグ | | | ○ | | ○ | |
| 918 | | タマガヤツリ | | | ○ | | | |
| 919 | | ヒナガヤツリ | | | ○ | | | |
| 920 | | コアゼガヤツリ | | | ○ | | | |
| 921 | | コゴメガヤツリ | | | ○ | | | |
| 922 | | カヤツリグサ | | | ○ | | ○ | |
| 923 | | オニガヤツリ | | | ○ | | | |
| 924 | | カワラスガナ | | | ○ | | ○ | |
| 925 | | マツバイ | | | ○ | | | |
| 926 | | ヒデリコ | | | ○ | | | |
| 927 | | ミカヅキグサ | | | | | ○ | |
| 928 | | コマツカサススキ | | | ○ | | | |
| 929 | ホタルイ | | | ○ | | | | |
| 930 | カンガレイ | | | ○ | | | | |
| 931 | サンカクイ | | | ○ | | ○ | | |
| 932 | アブラガヤ | | | ○ | | ○ | | |
| 933 | ショウガ | ミョウガ | | | ○ | | ○ | |
| 934 | ラン | エビネ | | | ○ | | | |
| 935 | | ナツエビネ | | ○ | | | ○ | |
| 936 | | キンラン | | | ○ | | | |
| 937 | | サイハイラン | | | ○ | | ○ | |
| 938 | | シュンラン | | | ○ | | | |
| 939 | | カキラン | | | | | ○ | |
| 940 | | アケボノシュスラン | | | ○ | | ○ | |
| 941 | | ミヤマウズラ | | | ○ | | | |
| 942 | | ミズトンボ | | | | | ○ | |
| 943 | | ジガバチソウ | | | | | ○ | |
| 944 | | クモキリソウ | | | | | ○ | |
| 945 | | コ克蘭 | | | ○ | | | |
| 946 | | コケイラン | | | ○ | | ○ | |
| 947 | | ミズチドリ | | | | | ○ | |
| 948 | | オオバノトンボソウ | | | ○ | | | |
| 949 | | トキソウ | | | | | ○ | |
| 950 | | ネジバナ | | | ○ | | ○ | |
| 計 | | 151科 | 950種 | 100 | 121 | 817 | 0 | 403 |

注1：上記の抽出区分及び資料は以下のとおりである。

区分A：筒川及び一寸法師山周辺

資料12：「筒川河川企画調査業務委託業務報告書」（平成10年 京都府宮津土木事務所）

資料14：「一寸法師山・市民風車設置に関する環境影響調査報告書」（平成21年 自然エネルギー市民の会）

区分B：事田弥栄町及び基本的な調査対象範囲を含む二次メッシュ

資料13：「ふるさと弥栄の自然 弥栄町自然環境調査報告書」（平成7年 京都府弥栄町）

資料15：「絶滅危惧種分布情報公開種一覧（408分類群）」 環境省生物多様性センター（運営）ホームページ（最終閲覧月：平成27年8月）

資料16：「上世屋 緑へのいざない 世屋高原自然環境保全事業・植物調査報告書」（平成7年 京都府）

注2：科、種名の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省）に準拠した。